
豊島区介護保険アンケート調査報告書

令和２年（２０２０年）３月



目次

目次	i
第1章 調査概要	1
1. 調査目的	1
2. 調査の種類と対象	1
3. 調査方法と回収状況	1
4. 調査項目	2
5. その他結果に関わる資料	3
6. 報告書の見方	3
第2章 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査	5
1. ご本人について	7
2. 仕事について	20
3. 毎日の生活について	26
4. 健康について	47
5. 地域とのつながりについて	57
6. 介護予防・介護について	84
7. 各種リスクの状況について	105
8. 経年比較	119
第3章 要介護認定者調査	123
1. ご本人について	124
2. 介護について	130
3. 生活支援について	147
4. 医療について	152
5. 地域とのつながりについて	156
6. 主に介護をしている方について	160
7. 経年比較	176
第4章 ケアマネジャー調査	179
1. 事業所の概要について	180
2. ご本人について	182
3. サービス基盤について	187
4. 各種連絡・調整について	201
5. 業務の課題について	214
6. 質の確保について	221
7. 災害時の対応について	229
8. 今後の意向について	233
第5章 介護サービス事業所調査	237
1. 事業所の概要について	238
2. 人材の確保・定着・育成について	247
3. 処遇改善の状況について	291
4. 各種連携の状況について	293
5. サービスの質の向上について	297
6. 災害時の対応について	299
7. 経年比較	306

第6章 分析・考察	309
1. 個別調査における分析・考察	310
2. 在宅生活の継続の検討に係る横断的な分析・考察	339

参考資料

- 資料1 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査票
- 資料2 要介護認定者調査票
- 資料3 ケアマネジャー調査票
- 資料4 介護サービス事業所調査票

第 1 章

調査概要

第1章 調査概要

1. 調査目的

本調査は、豊島区における高齢者やそのご家族の方々が地域の中で安心して暮らし続けていくことができるよう、令和3年度からの3か年を期間として策定する「高齢者福祉計画・第8期介護保険事業計画」の基礎資料として、高齢者や要介護認定者の生活の実態やニーズ、介護従事者の実態を把握するために実施したものです。

2. 調査の種類と対象

調査の種類及び各調査の対象は以下の通りです。

図表 1-1 調査の種類及び各調査の対象

調査名	調査対象	送付数
介護予防・日常生活圏域ニーズ調査	令和元年11月時点で豊島区に在住している65歳以上高齢者の方で、要介護1～5の認定を受けていない方（要支援1・2の認定を受けている方は含む）	4,500件 （無作為抽出）
要介護認定者調査	令和元年11月時点で豊島区に在住している65歳以上高齢者の方で要介護1～5の認定を受けている方及びその介護者	1,500件 （無作為抽出）
ケアマネジャー調査	豊島区内に住所があり、令和元年11月時点で居宅介護支援事業所に勤務するケアマネジャー	235件（悉皆）
介護サービス事業所調査	令和元年11月に豊島区内に所在するサービス提供事業所	346件（悉皆）

3. 調査方法と回収状況

調査方法は郵送によるアンケート調査です。各調査の調査期間及び回収状況は以下の通りです。

図表 1-2 調査期間及び回収状況

調査名	調査期間	送付数	有効回収数	有効回収率
介護予防・日常生活圏域ニーズ調査	令和元年11月25日～ 令和元年12月16日	4,500件	2,914件	64.8%
要介護認定者調査	令和元年11月18日～ 令和元年12月9日	1,500件	759件	50.6%
ケアマネジャー調査	令和元年11月18日～ 令和元年12月9日	235件	171件	72.8%
介護サービス事業所調査	令和元年11月18日～ 令和元年12月9日	346件	233件	67.3%

4. 調査項目

各調査の調査項目は以下の通りです。

図表 1-3 調査項目

調査名	調査項目
介護予防・日常生活圏域 ニーズ調査	1. ご本人について 2. 仕事について 3. 毎日の生活について 4. 健康について 5. 地域とのつながりについて 6. 介護予防・介護について
要介護認定者調査	1. ご本人について 2. 介護について 3. 生活支援について 4. 医療について 5. 地域とのつながりについて 6. 主に介護をしている方について
ケアマネジャー調査	1. ご本人について 2. サービス基盤について 3. 各種連携・調整について 4. 業務の課題について 5. 質の確保について 6. 災害時の対応について 7. 今後の意向について
介護サービス事業所調査	1. 事業所の概要について 2. 人材の確保・定着・育成について 3. 処遇改善の状況について 4. 各種連携の状況について 5. サービスの質の向上について 6. 災害時の対応等について

5. その他結果に関わる資料

今回実施した4調査の結果に関わる資料として、以下の資料を使用しています。

図表 1-4 その他結果に関わる資料

調査名	実施年月日	調査対象	対象者数
日常生活圏域 ニーズ調査	平成28年11月	豊島区内在住の65歳以上の方で、要介護3～5の認定を受けていない方	4,500人 (無作為抽出)
要介護認定者調査	平成28年11月	豊島区内在住の65歳以上の方で、要介護3～5の認定を受けている方	1,500人 (無作為抽出)
在宅介護実態調査	令和元年2月～ 11月	豊島区内在住の65歳以上の方で、要支援・要介護の認定の更新・区分変更申請をされる方と、そのご家族	456人 (協力を承諾した方)

6. 報告書の見方

- 集計は、％表示での小数点以下第2位を四捨五入しています。したがって、数値の合計が100％にならない場合があります。
- 回答の比率(％)は、その質問の回答者数(n値)を基数として算出しています。したがって、複数回答の設問はすべての比率を合計すると100％を超える場合があります。
- 本文や図表中の選択肢表記は、語句を短縮・簡略化している場合があります。
- クロス集計表においては、「無回答」を含め選択肢が5つ以上の場合、「その他」「無回答」を除く選択肢における上位3位を塗りつぶしています。
- クロス集計の表側となる設問においては、「無回答」を除いた選択肢を掲載しているため、回答者数の合計が全体と一致しない場合があります。
- 本報告書では、居住地域を日常生活圏域で4地区に分類して集計しています。

図表 1-5 日常生活圏域の定義

日常生活圏域	住所
東部地区	巣鴨3～5丁目、西巣鴨1～4丁目、北大塚1・2丁目、駒込1～7丁目、巣鴨1・2丁目、南大塚1～3丁目
北部地区	北大塚3丁目、上池袋1～4丁目、東池袋1～5丁目、池袋1・2丁目、池袋4丁目、池袋本町1～4丁目
南部地区	南池袋1～4丁目、雑司が谷1～3丁目、高田1～3丁目、目白1・2丁目、西池袋1～5丁目、池袋3丁目、目白3～5丁目
西部地区	長崎1丁目、千早1～4丁目、要町1～3丁目、高松1～3丁目、千川1・2丁目、南長崎1～6丁目、長崎2～6丁目

第2章

介護予防・日常生活圏域 ニーズ調査

第2章 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査

<調査結果の概要>

(1) 介護予防の現状

①介護・介助が必要になった原因

- 「骨折・転倒」が18.2%、次いで「高齢による衰弱」17.4%となんらかのフレイル状態を起因とするものが35.6%を占める（図表 2-19）。

②主観的健康感

- 「まあよい」が64.3%と最多であり、幸福度別でみると“0～3点”では「あまりよくない」が最も高いが、それ以外は「まあよい」が最も高かった。（図表 2-66、図表 2-67）。

③社会的参加

- 外出状況について、「週5回以上」が48.8%いる一方、「週1回」7.4%、「ほとんど外出しない」3.6%と約1割は週1回以下の外出状況である。（図表 2-34）
- いずれかの会・グループに参加している者の割合は65.9%である。（図表 2-101）
- 収入のある仕事については、「参加していない」が40.0%であるが、「週4回以上」10.3%、「週2～3回」7.0%と、定期的な仕事をしている者が約2割いる。（図表 2-116）。
- 住民主体の通いの場（グループ活動）への参加の意思は、「参加してもよい」が51.8%と最多である一方、担い手（グループ活動への企画・運営お世話役）としての参加の意思は、「参加したくない」が47.6%と最多、次いで「参加してもよい」38.9%であった。（図表 2-118、図表 2-120）。

④運動

- 日ごろの運動について「毎日している」が2割以上。一方で、「ほとんどしていない」も2割以上である（図表 2-126）。なお、通いたいサロン（またはデイサービス）の内容について聞くと、「運動不足や筋力低下の解消」が49.1%と最多という結果になった（図表 2-134）。

⑤栄養・口腔

- 「半年前に比べ固いものが食べにくくなったか」「お茶や汁物などでむせることがあるか」「口の渇きが気になるか」において、口腔機能の低下（オーラルフレイル）を自覚する者が、各設問4分の1いる。（図表 2-44、図表 2-45、図表 2-46）
- 他者と食事をとにもする機会は、「毎日ある」が50.7%である一方、「月に何度かある」「年に何度かある」「ほとんどない」を合わせ33.8%である。（図表 2-51）。

⑥認知症

- 自分または家族の認知症の有無について、「いいえ」が87.5%、「はい」が10.3%であった。認知症に関する相談窓口の認知度については、「いいえ」が69.9%であった。(図表 2-81、図表 2-82)。

⑦日常生活における介護予防等の取組

- 健康や介護予防、認知症予防のための普段の活動内容について聞くと、「口の中を清潔にしている(歯みがき、うがいなど)」が66.7%と最多。次いで「定期的に健康診断を受けたり、かかりつけの医師(主治医)に診てもらっている」が59.4%と続く(図表 2-130)。

⑧フレイルについての認知度

- フレイルの認知度について「どのような状態か知っている」7.9%(平成30年度)→17.5%(令和元年度)、「言葉は聞いたことがあるが内容は知らない」9.5%(平成30年度)→16.4%(令和元年度)である(図表 2-136)。

(2) 各種リスクの状況

- ロコモリスク:「該当」が44.9%(図表 2-146)。
- 運動器機能低下リスク:「該当」が12.2%(図表 2-148)。
- 口腔機能低下リスク:「該当」が20.9%(図表 2-150)。
- 閉じこもりリスク:「該当」が11.0%(図表 2-152)。
- 転倒リスク:「該当」が29.2%(図表 2-154)。
- 低栄養リスク:「該当」が1.7%(図表 2-156)。
- うつリスク:「該当」が37.9%(図表 2-158)。
- 要介護未認定者における、「ロコモリスク」「運動器機能低下リスク」「口腔機能低下リスク」「閉じこもりリスク」「転倒リスク」「低栄養リスク」「うつリスク」の有無を、項目間の重複を除いた上で分析したところ、72.0%が、何らかのリスクがあるという結果となった。要介護認定を受けていない高齢者においても、心身機能が低下しており、予防の取り組みが必要な方が相当数いることがうかがえる。
- 個別のリスクを見ていくと、「運動器機能低下リスク」「低栄養リスク」「うつリスク」においては、男女で加齢に伴うリスクの保有割合の伸び方が大きく異なる。

(3) 在宅生活へのニーズ

- 介護を受けたい場所を聞くと「自宅」が35.8%と最多であり(図表2-138)、在宅生活の継続に必要な支援・サービスとして、「配食(食事の提供)」が37.1%と最多。次いで「掃除・洗濯」が33.9%と続く(図表 2-140)。
- 人生の最期を迎える場所としても、「自宅」が41.2%と最多だった(図表 2-142)。

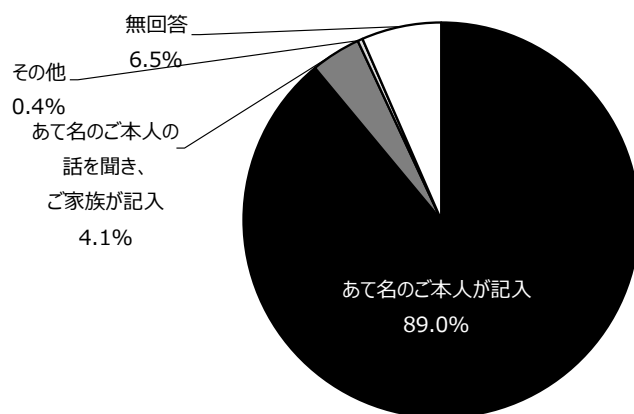
1. ご本人について

(1) 回答者

問1. この調査票にご回答いただいている方は、どなたですか。(ひとつだけ○)

「あて名のご本人が記入」が89.0%と最多。

図表 2-1 回答者 (n=2, 914)

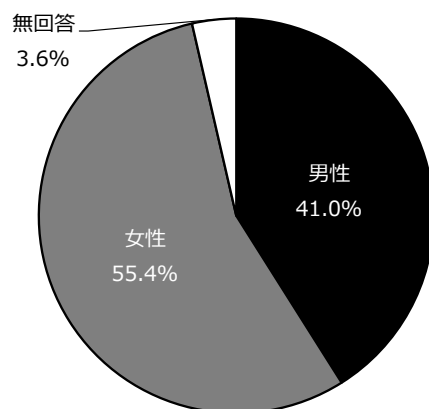


(2) 性別

問2. あなたの性別をお答えください。(ひとつだけ○)

「男性」が41.0%、「女性」が55.4%。

図表 2-2 性別 (n=2, 914)

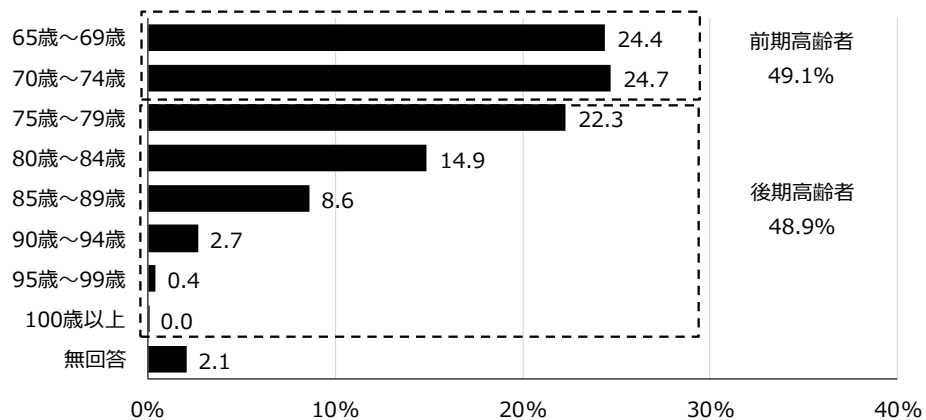


(3) 年齢

問3. あなたの令和元年1月15日現在の年齢をお答えください。(ひとつだけ○)

「70歳～74歳」が24.7%と最多。次いで「65歳～69歳」(24.4%)、「75歳～79歳」が(22.3%)の順。『前期高齢者』が49.1%、『後期高齢者』が48.9%。

図表 2-3 年齢 (n=2,914)

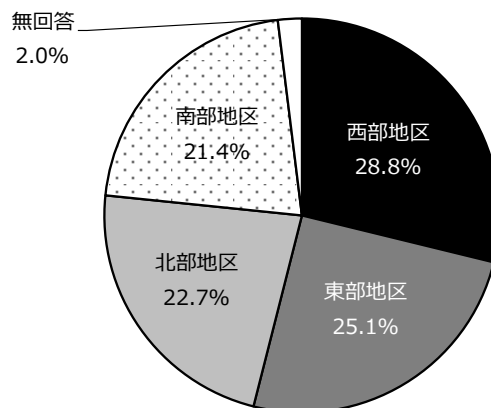


(4) 居住地

問4. あなたがお住まいの地域をお答えください。(ひとつだけ○)

「西部地区」が28.8%と最多。次いで「東部地区」(25.1%)、「北部地区」(22.7%)の順。

図表 2-4 居住地 (n=2,914)

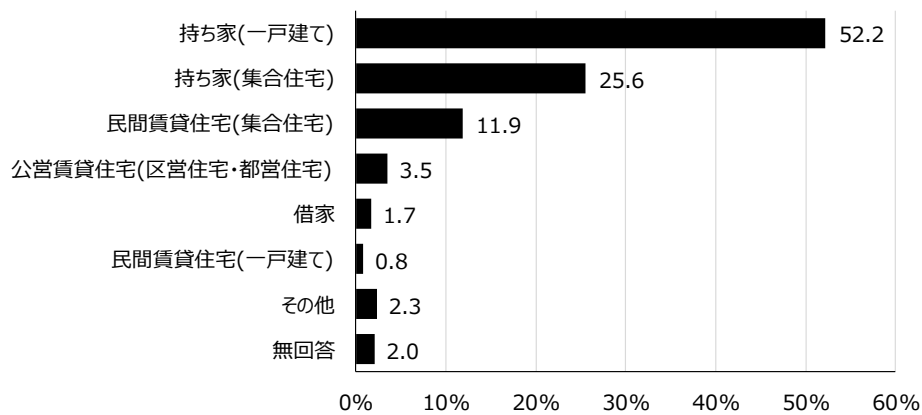


(5) 住宅の形態

問5. あなた現在の住まいは、一戸建てまたは集合住宅のどちらですか。(ひとつだけ○)

「持ち家(一戸建て)」が52.2%と最多。次いで「持ち家(集合住宅)」(25.6%)、「民間賃貸住宅(集合住宅)」(11.9%)の順。

図表 2-5 住宅の形態 (n=2,914)



図表 2-6 居住地、家族構成別の住宅の形態

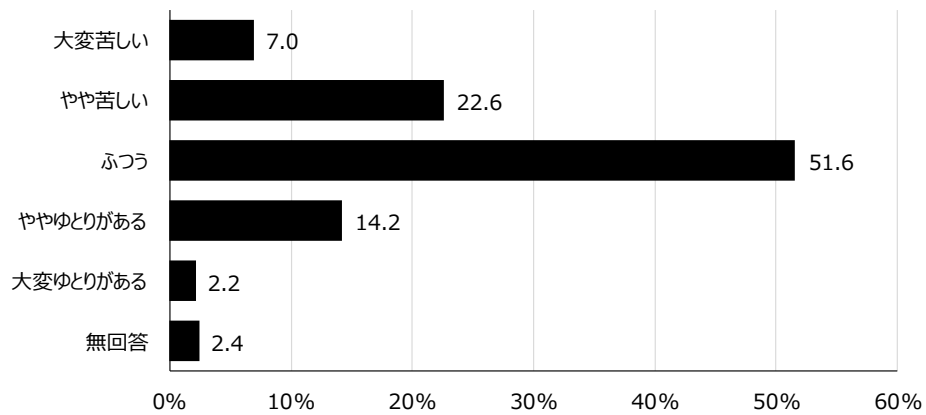
	回答者数	持ち家(一戸建て)	持ち家(集合住宅)	公営賃貸住宅(区営住宅・都営住宅)	民間賃貸住宅(一戸建て)	民間賃貸住宅(集合住宅)	借家	その他	無回答	
全体	2,914	52.2	25.6	3.5	0.8	11.9	1.7	2.3	2.0	(%)
居住地										
東部地区	732	43.3	33.5	5.9	1.0	12.0	1.9	2.2	0.3	
北部地区	661	46.1	30.3	3.8	0.9	14.4	1.4	2.6	0.6	
南部地区	624	55.1	30.1	1.4	0.8	9.3	1.3	1.6	0.3	
西部地区	840	66.0	13.0	2.9	0.6	12.6	2.0	2.7	0.2	
家族構成										
一人暮らし	800	31.4	28.8	6.8	0.5	26.0	2.6	3.3	0.8	
夫婦二人暮らし(配偶者65歳以上)	970	57.7	28.4	3.7	0.6	7.0	1.1	1.2	0.2	
夫婦二人暮らし(配偶者64歳以下)	103	44.7	39.8	0.0	0.0	9.7	3.9	1.9	0.0	
息子・娘との2世帯	432	70.1	20.8	0.7	0.9	5.6	1.2	0.7	0.0	
その他	541	64.9	19.4	1.7	1.7	6.5	1.1	4.4	0.4	

(6) 経済状況

問6. あなたの現在の暮らし状況を経済的にみてどう感じていますか。(ひとつだけ○)

「ふつう」が51.6%と最多。次いで「やや苦しい」(22.6%)、「ややゆとりがある」(14.2%)の順。

図表 2-7 経済状況 (n=2,914)



図表 2-8 居住地、家族構成別の経済状況

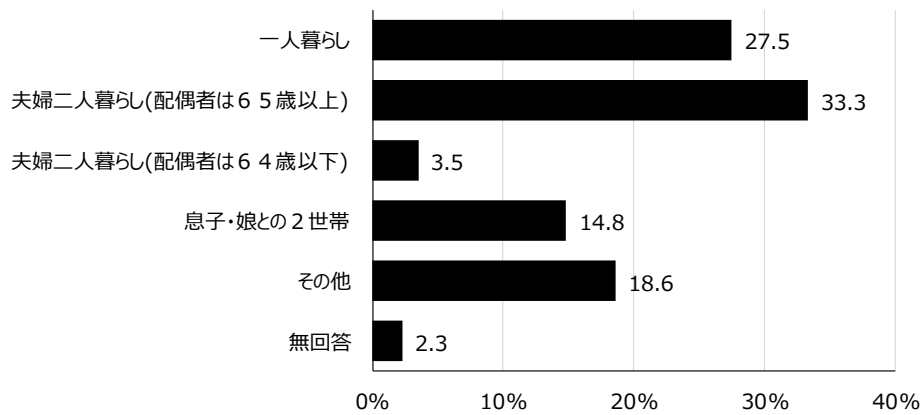
		回答者数	大変苦しい	やや苦しい	ふつう	ややゆとりがある	大変ゆとりがある	無回答	
全体		2,914	7.0	22.6	51.6	14.2	2.2	2.4	(%)
居住地	東部地区	732	8.6	22.4	50.7	15.4	2.0	0.8	
	北部地区	661	6.4	26.6	51.7	12.7	1.8	0.8	
	南部地区	624	5.4	17.0	55.1	17.9	3.2	1.3	
	西部地区	840	7.5	24.9	52.7	12.6	1.9	0.4	
家族構成	一人暮らし	800	10.3	28.0	47.1	11.6	2.4	0.6	
	夫婦二人暮らし(配偶者65歳以上)	970	5.1	20.7	53.2	18.2	2.4	0.4	
	夫婦二人暮らし(配偶者64歳以下)	103	5.8	21.4	60.2	9.7	2.9	0.0	
	息子・娘との2世帯	432	6.0	19.0	58.6	14.6	0.9	0.9	
	その他	541	6.8	23.3	52.7	13.1	2.6	1.5	

(7) 家族構成

問7. あなたの現在の家族構成をお教えてください。(ひとつだけ○)

「夫婦二人暮らし(配偶者は65歳以上)」が33.3%と最多。次いで「一人暮らし」(27.5%)、「息子・娘との2世帯」(14.8%)の順。

図表 2-9 家族構成 (n=2,914)



性・年齢別でみると、“男性・65歳～69歳”及び、“女性・75歳以上”において、「一人暮らし」が最も高くなっています。

居住地別でみると、“北部地区”では、「一人暮らし」が最も高くなっています。上記以外では、「夫婦二人暮らし(配偶者は65歳以上)」が最も高くなっています。

図表 2-10 性・年齢、居住地別の家族構成

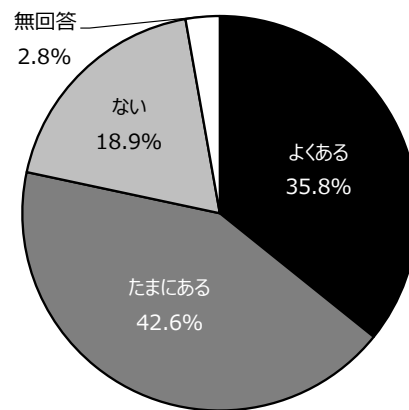
		回 答 者 数	一 人 暮 ら し	夫 婦 二 人 暮 ら し (配 偶 者 は 6 5 歳 以 上)	夫 婦 二 人 暮 ら し (配 偶 者 は 6 4 歳 以 下)	息 子 ・ 娘 と の 2 世 帯	そ の 他	無 回 答	
全体		2,914	27.5	33.3	3.5	14.8	18.6	2.3	(%)
男 性	男性計	1,196	24.4	39.3	6.4	12.9	16.3	0.8	
	65歳～69歳	343	28.0	24.8	16.0	11.4	19.2	0.6	
	70歳～74歳	323	29.1	39.9	2.8	10.8	16.4	0.9	
	75歳～79歳	248	18.5	46.0	2.4	12.5	20.2	0.4	
	80歳～84歳	155	20.0	56.1	3.2	13.5	6.5	0.6	
	85歳～89歳	94	16.0	43.6	1.1	23.4	13.8	2.1	
	90歳以上	29	31.0	41.4	0.0	20.7	6.9	0.0	
女 性	女性計	1,613	30.5	29.6	1.7	16.7	21.0	0.6	
	65歳～69歳	361	21.6	34.9	3.9	14.4	24.4	0.8	
	70歳～74歳	382	25.1	32.7	1.8	17.8	21.5	1.0	
	75歳～79歳	392	32.4	31.9	0.5	15.3	19.9	0.0	
	80歳～84歳	268	36.9	26.5	0.7	14.6	20.5	0.7	
	85歳～89歳	148	43.2	18.9	1.4	19.6	16.2	0.7	
	90歳以上	60	43.3	3.3	0.0	35.0	18.3	0.0	
居 住 地	東部地区	732	23.8	38.5	3.7	12.3	21.0	0.7	
	北部地区	661	31.0	30.9	3.2	16.5	18.2	0.3	
	南部地区	624	29.5	32.2	3.7	14.4	19.7	0.5	
	西部地区	840	27.7	33.5	3.8	17.0	17.0	1.0	

(8) 日中一人になることの有無

問7-1. 問7で「一人暮らし」「夫婦二人暮らし（配偶者は65歳以上）」「夫婦二人暮らし（配偶者は64歳以下）」「息子・娘との2世帯」に○をつけた方にうかがいます。
あなたは、日中、一人になることがありますか。（ひとつだけ○）

「たまにある」が42.6%と最多。次いで「よくある」(35.8%)、「ない」(18.9%)。

図表 2-11 日中一人になることの有無 (n=2, 046)



図表 2-12 居住地、家族構成別の日中一人になることの有無

		回答者数	よくある	たまにある	ない	無回答
全体		2,046	35.8	42.6	18.9	2.8
居住地	東部地区	553	35.4	41.4	21.0	2.2
	北部地区	454	39.4	40.1	17.2	3.3
	南部地区	437	35.7	44.6	16.9	2.7
	西部地区	599	33.6	44.1	19.7	2.7
家族構成	夫婦二人暮らし(配偶者65歳以上)	970	33.6	47.6	16.2	2.6
	夫婦二人暮らし(配偶者64歳以下)	103	31.1	49.5	17.5	1.9
	息子・娘との2世帯	432	40.5	34.0	20.1	5.3
	その他	541	36.8	39.0	22.9	1.3

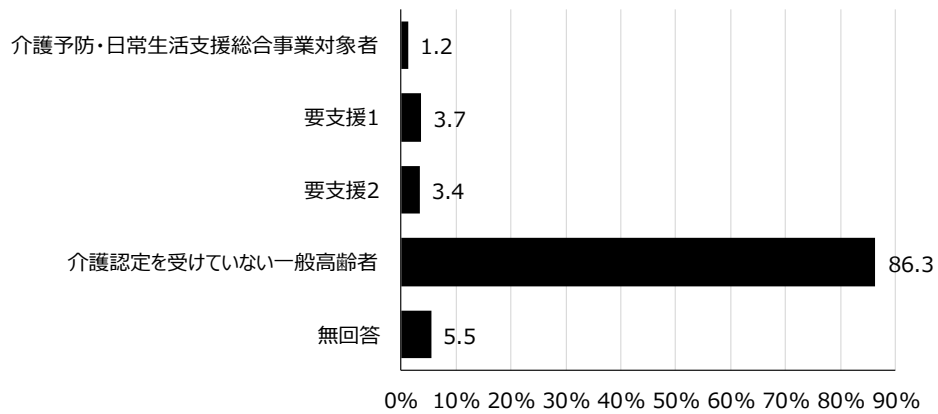
(%)

(9) 要介護度

問8. あなたの状態（令和元年11月15日現在）をお教えてください。（ひとつだけ○）

「介護認定を受けていない一般高齢者」が86.3%と最多。

図表 2-13 要介護度 (n=2,914)



図表 2-14 性・年齢別の要介護度

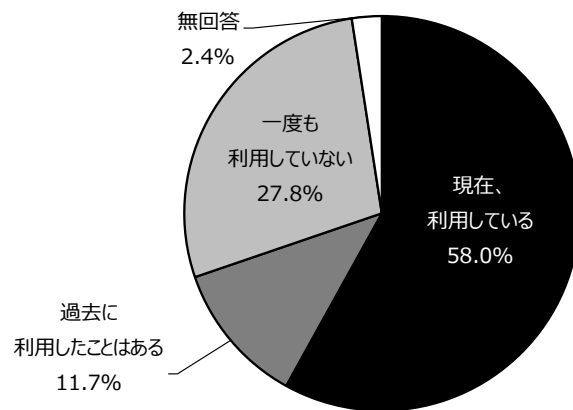
		回答者数	介護予防・日常生活支援総合事業対象者	要支援1	要支援2	介護認定を受けていない一般高齢者	無回答
全体		2,914	1.2	3.7	3.4	86.3	5.5 (%)
男性	男性計	1,196	1.7	2.7	2.8	90.2	2.6
	65歳～69歳	343	1.5	0.0	1.7	94.8	2.0
	70歳～74歳	323	2.2	1.2	1.2	92.9	2.5
	75歳～79歳	248	0.4	2.4	2.0	92.7	2.4
	80歳～84歳	155	1.9	2.6	3.2	89.7	2.6
	85歳～89歳	94	3.2	11.7	10.6	69.1	5.3
	90歳以上	29	3.4	24.1	13.8	58.6	0.0
女性	女性計	1,613	0.9	4.6	3.9	85.9	4.6
	65歳～69歳	361	1.1	0.3	0.0	95.0	3.6
	70歳～74歳	382	1.0	2.4	1.0	92.7	2.9
	75歳～79歳	392	0.8	3.1	2.3	88.0	5.9
	80歳～84歳	268	0.4	6.7	7.1	78.0	7.8
	85歳～89歳	148	0.7	15.5	11.5	69.6	2.7
	90歳以上	60	3.3	18.3	23.3	50.0	5.0

(10) 介護保険サービスの利用状況

問8-1. 問8で「要支援1」「要支援2」に○をつけた方にうかがいます。あなたは、現在介護保険のサービスを利用していますか。(ひとつだけ○)

「現在、利用している」が58.0%と最多。次いで「一度も利用していない」(27.8%)、「過去に利用したことはある」(11.7%)の順。

図表 2-15 介護保険サービスの利用状況 (n=205)



図表 2-16 居住地、家族構成、要介護度別の介護保険サービスの利用状況

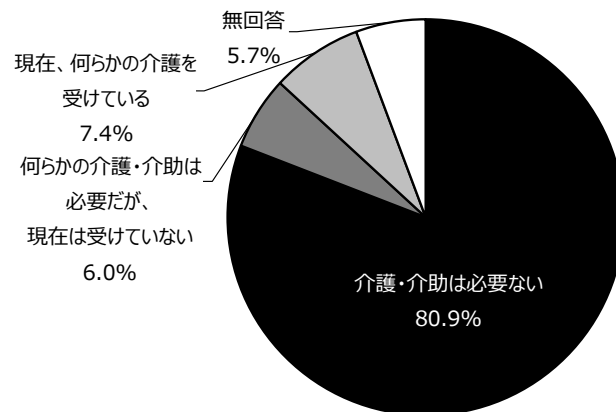
		回答者数	現在、利用している	過去に利用したことがある	一度も利用していない	無回答
全体		205	58.0	11.7	27.8	2.4 (%)
居住地	東部地区	51	58.8	9.8	25.5	5.9
	北部地区	39	53.8	15.4	30.8	0.0
	南部地区	50	72.0	8.0	20.0	0.0
	西部地区	65	49.2	13.8	33.8	3.1
家族構成	一人暮らし	101	59.4	8.9	27.7	4.0
	夫婦二人暮らし(配偶者65歳以上)	53	49.1	18.9	30.2	1.9
	夫婦二人暮らし(配偶者64歳以下)	0	0.0	0.0	0.0	0.0
	息子・娘との2世帯	26	80.8	7.7	11.5	0.0
	その他	24	45.8	12.5	41.7	0.0
要介護度	要支援1	107	50.5	10.3	37.4	1.9
	要支援2	98	66.3	13.3	17.3	3.1

(11) 介護・介助の必要性

問9. あなたは、普段の生活でどなたかの介護・介助が必要ですか。(ひとつだけ○)

「介護・介助は必要ない」が80.9%と最多。

図表 2-17 介護・介助の必要性 (n=2,914)



要介護度別でみると、“一般高齢者”“総合事業対象者”では、「介護・介助は必要ない」が最も高くなっています。“要支援1”“要支援2”では、「現在、何らかの介護を受けている」が最も高くなっています。

図表 2-18 要介護度別の介護・介助の必要性

	回答者数	介護・介助は必要ない	だが、現在の介護・介助は必要	現在、何らかの介護を受けている	無回答
全体	2,914	80.9	6.0	7.4	5.7
要介護度					
一般高齢者	2,514	86.8	4.4	3.5	5.3
総合事業対象者	36	58.3	11.1	27.8	2.8
要支援1	107	27.1	23.4	45.8	3.7
要支援2	98	12.2	23.5	57.1	7.1

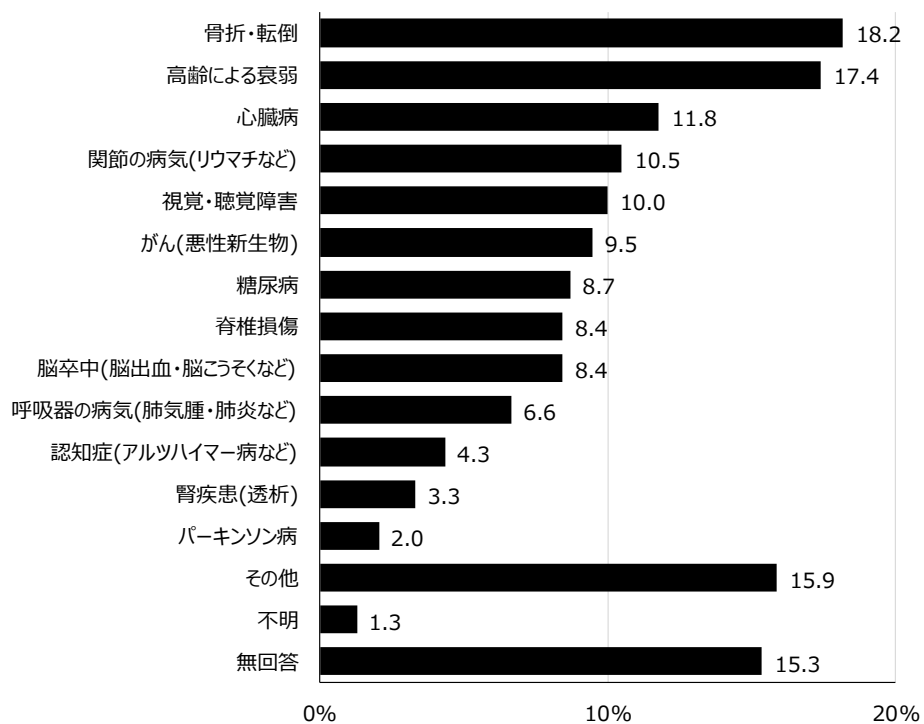
(%)

(12) 介護・介助が必要になった原因

問9-1. 問9で「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」「現在、何らかの介護を受けている」に○をつけた方にうかがいます。あなたは、介護・介助が必要になった主な原因は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

「骨折・転倒」が18.2%と最多。次いで「高齢による衰弱」(17.4%)、「心臓病」が(11.8%)の順。

図表 2-19 介護・介助が必要になった原因 (n=391)



要介護度別でみると、“一般高齢者”では、「高齢による衰弱」が最も高くなっています。
“総合事業対象者”では、「脳卒中(脳出血・脳こうそくなど)」が最も高くなっています。
“要支援1” “要支援2” では、「骨折・転倒」が最も高くなっており、なんらかのフレイル状態を起因とするものが多くなっています。

図表 2-20 性・年齢、要介護度別の介護・介助が必要になった原因

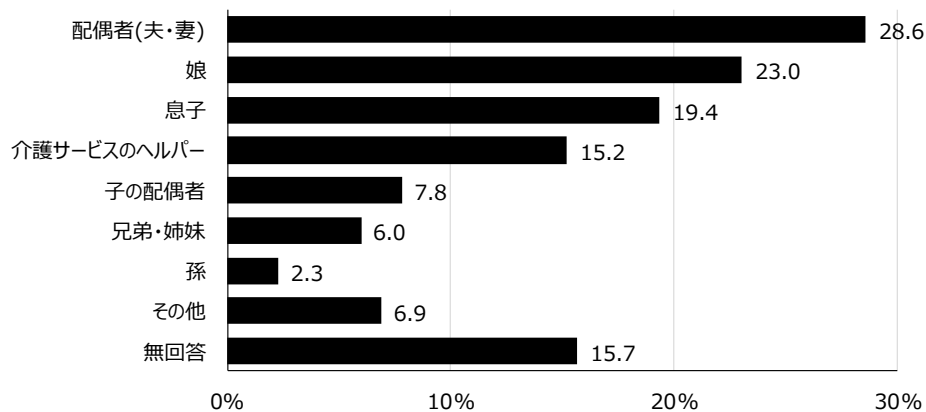
		回答者数	脳卒中 (脳出血・脳こうそくなど)	心臓病	がん(悪性新生物)	呼吸器の病気 (肺炎腫・肺炎など)	関節の病気 (リウマチなど)	認知症 (アルツハイマー病など)	パーキンソン病	糖尿病	腎疾患(透析)	視覚・聴覚障害	骨折・転倒	脊椎損傷	高齢による衰弱	その他	不明	無回答	
全体		391	8.4	11.8	9.5	6.6	10.5	4.3	2.0	8.7	3.3	10.0	18.2	8.4	17.4	15.9	1.3	15.3	(%)
男性	男性計	138	12.3	15.9	10.9	9.4	10.1	2.9	2.2	10.1	5.1	9.4	13.0	9.4	18.1	13.0	0.7	12.3	
	65歳～69歳	11	9.1	18.2	27.3	9.1	9.1	0.0	0.0	27.3	0.0	9.1	9.1	0.0	0.0	18.2	0.0	0.0	
	70歳～74歳	23	13.0	13.0	13.0	4.3	13.0	0.0	0.0	21.7	17.4	8.7	8.7	8.7	4.3	4.3	4.3	13.0	
	75歳～79歳	30	13.3	13.3	16.7	10.0	6.7	3.3	3.3	10.0	3.3	0.0	20.0	16.7	13.3	23.3	0.0	6.7	
	80歳～84歳	25	16.0	28.0	0.0	16.0	12.0	0.0	4.0	12.0	4.0	16.0	12.0	12.0	24.0	4.0	0.0	8.0	
	85歳～89歳	33	9.1	12.1	9.1	12.1	9.1	6.1	3.0	0.0	3.0	12.1	15.2	6.1	21.2	12.1	0.0	24.2	
	90歳以上	14	14.3	14.3	0.0	0.0	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0	14.3	7.1	7.1	50.0	21.4	0.0	7.1	
女性	女性計	233	4.7	9.4	8.2	5.2	11.2	4.7	1.7	7.7	2.6	10.3	21.5	7.3	16.7	18.5	1.7	16.7	
	65歳～69歳	11	9.1	9.1	18.2	0.0	27.3	9.1	9.1	0.0	18.2	9.1	9.1	0.0	0.0	18.2	0.0	9.1	
	70歳～74歳	23	8.7	0.0	4.3	4.3	17.4	0.0	0.0	4.3	0.0	4.3	21.7	4.3	4.3	21.7	4.3	17.4	
	75歳～79歳	49	0.0	14.3	10.2	14.3	22.4	6.1	0.0	14.3	4.1	10.2	16.3	6.1	8.2	16.3	2.0	18.4	
	80歳～84歳	59	3.4	11.9	8.5	1.7	6.8	1.7	5.1	13.6	3.4	8.5	22.0	10.2	11.9	16.9	1.7	22.0	
	85歳～89歳	57	3.5	10.5	5.3	5.3	5.3	3.5	0.0	1.8	0.0	10.5	22.8	7.0	29.8	24.6	0.0	10.5	
	90歳以上	34	11.8	2.9	8.8	0.0	2.9	11.8	0.0	2.9	0.0	17.6	29.4	8.8	29.4	11.8	2.9	17.6	
要介護度	一般高齢者	199	6.5	9.5	9.5	6.5	10.1	6.0	2.5	8.5	2.0	11.6	14.1	7.0	17.6	15.6	2.0	20.6	
	総合事業対象者	14	35.7	7.1	14.3	0.0	0.0	14.3	0.0	14.3	14.3	21.4	14.3	0.0	28.6	7.1	0.0	0.0	
	要支援1	74	5.4	14.9	10.8	5.4	12.2	1.4	0.0	10.8	5.4	13.5	25.7	10.8	20.3	18.9	1.4	4.1	
	要支援2	79	10.1	16.5	6.3	10.1	11.4	0.0	2.5	6.3	2.5	2.5	22.8	12.7	15.2	16.5	0.0	12.7	

(13) 主な介護・介助者

問9-2. 問9で「現在、何らかの介護を受けている」に○をつけた方にうかがいます。あなたは、主にどなたの介護・介助を受けていますか。(あてはまるものすべてに○)

「配偶者(夫・妻)」が28.6%と最多。次いで「娘」(23.0%)、「息子」(19.4%)の順。

図表 2-21 主な介護・介助者(n=217)



図表 2-22 性・年齢別の主な介護・介助者

		回答者数	配偶者(夫・妻)	息子	娘	子の配偶者	孫	兄弟・姉妹	介護サービスのヘルパー	その他	無回答	
全体		217	28.6	19.4	23.0	7.8	2.3	6.0	15.2	6.9	15.7	(%)
男性	男性計	67	50.7	9.0	10.4	1.5	0.0	7.5	17.9	6.0	11.9	
	65歳～69歳	4	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	70歳～74歳	10	50.0	0.0	10.0	0.0	0.0	0.0	30.0	0.0	20.0	
	75歳～79歳	14	42.9	0.0	0.0	0.0	0.0	7.1	28.6	14.3	14.3	
	80歳～84歳	11	54.5	27.3	0.0	0.0	0.0	18.2	0.0	18.2	0.0	
	85歳～89歳	19	42.1	10.5	26.3	5.3	0.0	0.0	15.8	0.0	21.1	
	90歳以上	7	57.1	14.3	14.3	0.0	0.0	14.3	28.6	0.0	0.0	
女性	女性計	136	16.9	24.3	27.9	11.0	3.7	5.1	14.0	7.4	19.1	
	65歳～69歳	6	33.3	16.7	16.7	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	
	70歳～74歳	13	38.5	0.0	30.8	0.0	0.0	7.7	15.4	7.7	23.1	
	75歳～79歳	27	33.3	22.2	33.3	11.1	7.4	7.4	11.1	3.7	11.1	
	80歳～84歳	27	22.2	18.5	18.5	3.7	3.7	3.7	18.5	7.4	22.2	
	85歳～89歳	34	2.9	29.4	35.3	11.8	2.9	0.0	11.8	5.9	26.5	
	90歳以上	29	0.0	37.9	24.1	24.1	3.4	3.4	17.2	13.8	17.2	

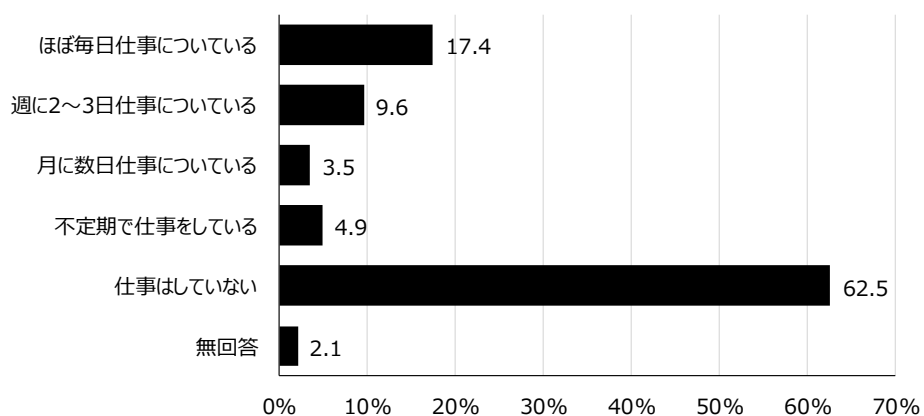
2. 仕事について

(1) 就労状況

問10. あなたは現在、収入を得る仕事をしていますか。(ひとつだけ○)

17.4%が「ほぼ毎日仕事についている」、9.6%が「週に2～3日仕事についている」と回答。27.0%(「ほぼ毎日仕事についている」と「週に2～3日仕事についている」の合計)が『週に2日以上仕事についている』と回答。

図表 2-23 就労状況 (n=2,914)



性・年齢別でみると、“男性・65歳～69歳”では、「ほぼ毎日仕事についている」が最も高くなっています。上記以外では、「仕事はしていない」が最も高くなっています。

図表 2-24 性・年齢、居住地別の就労状況

	回答者数	ほぼ毎日仕事についている	週に2～3日仕事についている	月に数日仕事についている	不規則で仕事を	仕事はしていない	無回答
全体	2,914	17.4	9.6	3.5	4.9	62.5	2.1
男性計	1,196	23.7	11.7	3.6	5.9	54.1	1.0
65歳～69歳	343	40.2	13.1	4.1	7.3	34.4	0.9
70歳～74歳	323	25.4	15.5	3.7	5.0	50.2	0.3
75歳～79歳	248	15.7	11.3	4.8	6.5	60.9	0.8
80歳～84歳	155	12.3	7.1	1.9	5.2	70.3	3.2
85歳～89歳	94	4.3	6.4	1.1	5.3	83.0	0.0
90歳以上	29	3.4	0.0	3.4	0.0	89.7	3.4
女性計	1,613	12.6	8.3	3.5	4.2	68.9	2.5
65歳～69歳	361	22.7	16.3	6.1	6.6	47.6	0.6
70歳～74歳	382	18.1	10.5	5.0	3.9	61.5	1.0
75歳～79歳	392	9.2	6.4	1.5	4.1	77.3	1.5
80歳～84歳	268	3.0	3.7	1.9	2.2	84.3	4.9
85歳～89歳	148	4.1	0.0	2.0	4.1	82.4	7.4
90歳以上	60	5.0	0.0	0.0	1.7	88.3	5.0
居住地 東部地区	732	21.0	9.8	4.4	4.0	59.0	1.8
北部地区	661	15.3	9.7	3.6	3.8	66.0	1.7
南部地区	624	17.9	9.9	2.2	6.1	62.2	1.6
西部地区	840	15.6	9.0	3.7	5.5	63.6	2.6

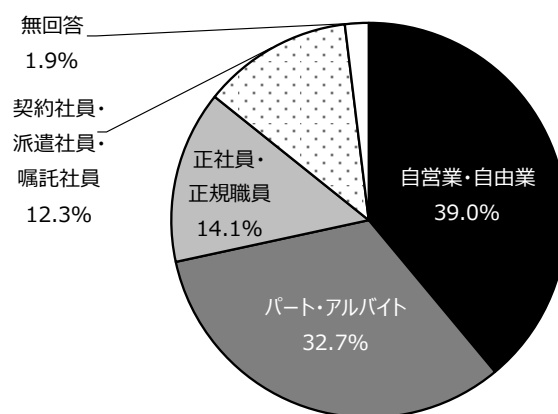
(%)

(2) 就労形態

問10-1. 問10で「ほぼ毎日仕事についている」「週に2～3日仕事についている」「月に数日仕事についている」「不定期で仕事をしている」に○をつけた方にうかがいます。あなたは、どのような働き方をされていますか。(ひとつだけ○)

「自営業・自由業」が39.0%と最多。次いで「パート・アルバイト」(32.7%)、「正社員・正規職員」(14.1%)の順。

図表 2-25 就労形態 (n=1,032)



性・年齢別でみると、“女性・65歳～74歳”では、「パート・アルバイト」が最も高くなっています。上記以外では、「自営業・自由業」が最も高くなっています。

図表 2-26 性・年齢別の就労形態

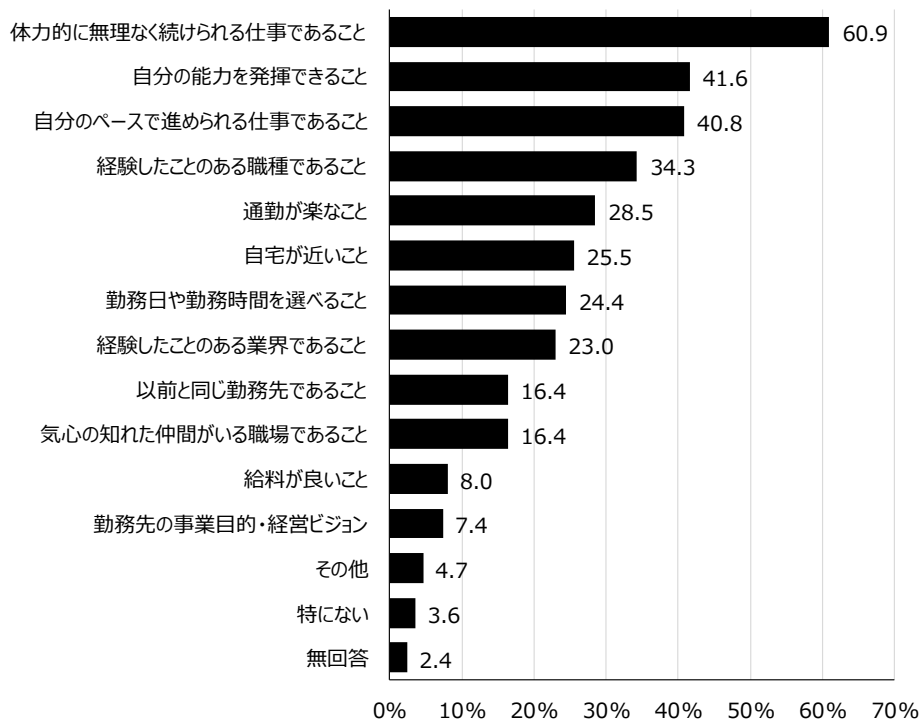
		回 答 者 数	正 社 員 ・ 正 規 職 員	自 営 業 ・ 自 由 業	嘱 託 社 員 ・ 派 遣 社 員 ・	パ ー ト ・ ア ル バ イ ト	無 回 答	
全体		1,032	14.1	39.0	12.3	32.7	1.9	(%)
男 性	男性計	537	17.5	40.6	15.1	24.8	2.0	
	65歳～69歳	222	21.2	32.4	22.1	22.5	1.8	
	70歳～74歳	160	16.3	40.6	12.5	28.1	2.5	
	75歳～79歳	95	12.6	46.3	8.4	30.5	2.1	
	80歳～84歳	41	14.6	61.0	7.3	17.1	0.0	
	85歳～89歳	16	18.8	62.5	0.0	12.5	6.3	
	90歳以上	2	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	
女 性	女性計	462	10.2	36.1	8.9	42.9	1.9	
	65歳～69歳	187	9.1	26.7	15.5	48.1	0.5	
	70歳～74歳	143	10.5	38.5	4.9	43.4	2.8	
	75歳～79歳	83	10.8	42.2	4.8	41.0	1.2	
	80歳～84歳	29	10.3	44.8	3.4	34.5	6.9	
	85歳～89歳	15	20.0	66.7	0.0	6.7	6.7	
	90歳以上	4	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	

(3) 働くうえで重視していること

問10-2. 問10で「ほぼ毎日仕事についている」「週に2～3日仕事についている」「月に数日仕事についている」「不定期で仕事をしている」に○をつけた方にうかがいます。あなたが、働くうえで重視していることは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

「体力的に無理なく続けられる仕事であること」が60.9%と最多。次いで「自分の能力を発揮できること」(41.6%)、「自分のペースで進められる仕事であること」(40.8%)の順。

図表 2-27 働くうえで重視していること (n=1,032)



図表 2-28 性・年齢別の働くうえで重視していること

		回 答 者 数	ら 体 力 的 に 無 理 な く 続 け ら れ る 仕 事 で あ る こ と	自 分 の ベ ー ス で あ る こ と	発 揮 で き る こ と	選 ぶ べ る こ と や 勤 務 時 間 を	あ る 職 種 で あ る こ と	経 験 し た こ と の こ と	い る 職 場 で あ る 仲 間 と	勤 務 先 と 同 じ あ る こ と	あ る 業 界 で あ る こ と	経 験 し た こ と の こ と	経 営 ビ ジ ネ ッ ス の 事 業 目 的 ・	給 料 が 良 い こ と	自 宅 が 近 い こ と	通 勤 が 楽 な こ と	そ の 他	特 に な い	無 回 答
全体		1,032	60.9	40.8	41.6	24.4	34.3	16.4	16.4	23.0	7.4	8.0	25.5	28.5	4.7	3.6	2.4	(%)	
男性	男性計	537	61.6	43.4	44.3	23.1	35.9	14.5	16.9	26.8	7.6	9.5	21.2	27.4	3.7	3.5	3.0		
	65歳～69歳	222	60.8	41.9	48.6	24.8	37.8	14.0	16.2	27.5	9.5	14.4	23.4	36.0	4.1	3.6	0.9		
	70歳～74歳	160	66.9	41.9	45.6	23.8	36.3	16.3	18.8	26.9	7.5	6.9	23.8	27.5	2.5	3.8	1.9		
	75歳～79歳	95	61.1	49.5	36.8	18.9	33.7	14.7	18.9	26.3	4.2	7.4	13.7	14.7	5.3	5.3	7.4		
	80歳～84歳	41	53.7	48.8	39.0	22.0	26.8	17.1	12.2	24.4	7.3	0.0	24.4	14.6	4.9	0.0	7.3		
	85歳～89歳	16	50.0	31.3	31.3	18.8	43.8	0.0	6.3	31.3	6.3	6.3	6.3	18.8	0.0	0.0	6.3		
	90歳以上	2	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
女性	女性計	462	60.6	38.1	38.5	26.2	31.8	18.4	16.0	18.4	6.9	6.3	31.2	29.9	5.4	3.9	1.9		
	65歳～69歳	187	64.2	40.1	41.2	33.7	33.2	25.7	16.0	20.3	8.0	9.6	36.4	38.5	4.3	4.3	0.5		
	70歳～74歳	143	60.1	37.1	44.8	25.9	33.6	14.7	17.5	21.0	6.3	6.3	31.5	29.4	6.3	3.5	2.8		
	75歳～79歳	83	61.4	37.3	27.7	18.1	30.1	13.3	15.7	13.3	7.2	2.4	25.3	21.7	6.0	4.8	1.2		
	80歳～84歳	29	48.3	34.5	31.0	13.8	24.1	17.2	10.3	10.3	6.9	0.0	24.1	13.8	6.9	0.0	3.4		
	85歳～89歳	15	40.0	33.3	33.3	6.7	26.7	0.0	20.0	20.0	0.0	0.0	20.0	13.3	0.0	6.7	13.3		
	90歳以上	4	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0		

3. 毎日の生活について

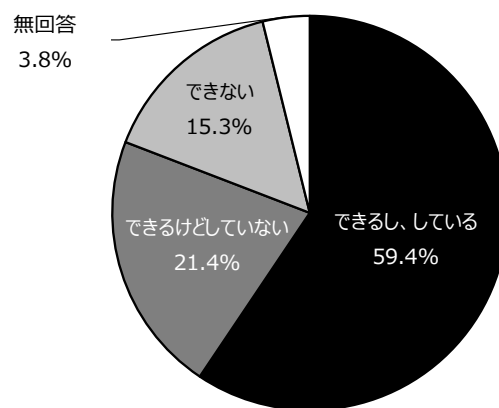
(1) 身体機能

問11. からだを動かすことについて、現在のあなたの状況をお答えください。(指定のない限り、それぞれひとつだけ○)

① 階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか。

15.3%が「できない」と回答。

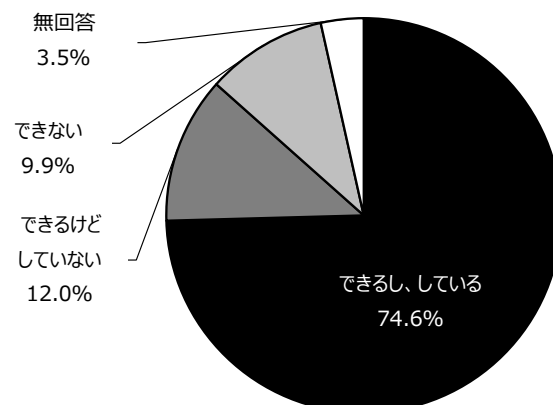
図表 2-29 階段を手すりや壁をつたわずに昇っているか (n=2,914)



② 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか。

9.9%が「できない」と回答。

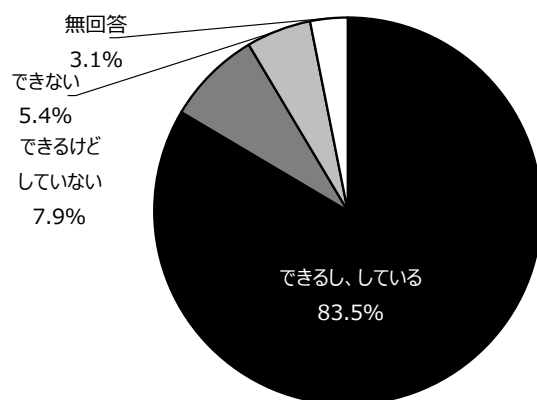
図表 2-30 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっているか (n=2,914)



③ 15分位続けて歩いていますか。

5.4%が「できない」と回答。

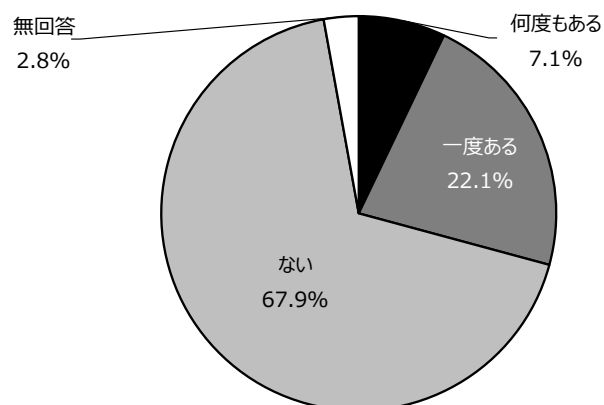
図表 2-31 15分位続けて歩いているか (n=2, 914)



④ 過去1年間に転んだ経験がありますか。

7.1%が「何度もある」、22.1%が「一度ある」と回答。

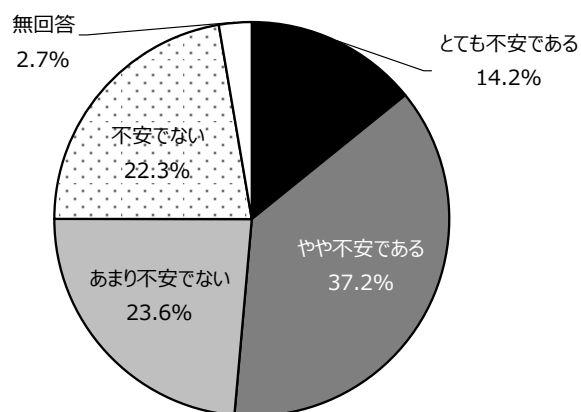
図表 2-32 過去1年間に転んだ経験があるか (n=2, 914)



⑤ 転倒に対する不安は大きいですか。

14.2%が「とても不安である」、37.2%が「やや不安である」と回答。

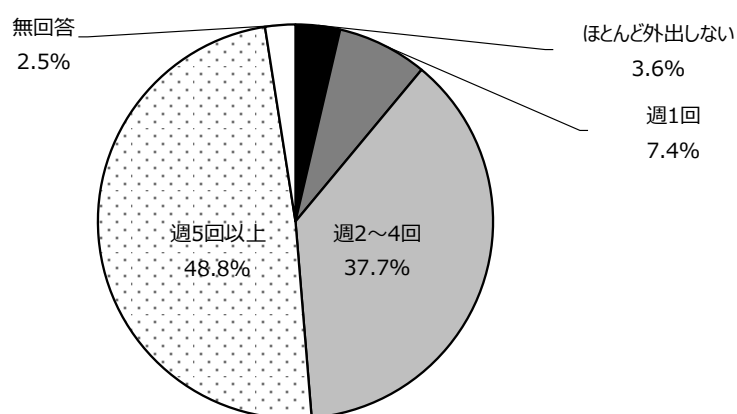
図表 2-33 転倒に対する不安は大きいか (n=2,914)



⑥ 週に1回以上は外出していますか。

3.6%が「ほとんど外出しない」、7.4%が「週1回」と回答。

図表 2-34 外出状況 (n=2,914)



要介護度別でみると、“一般高齢者”“総合事業対象者”で「週5回以上」が最も高くなっています。“要支援1”“要支援2”では、「週2～4回」が最も高くなっています。

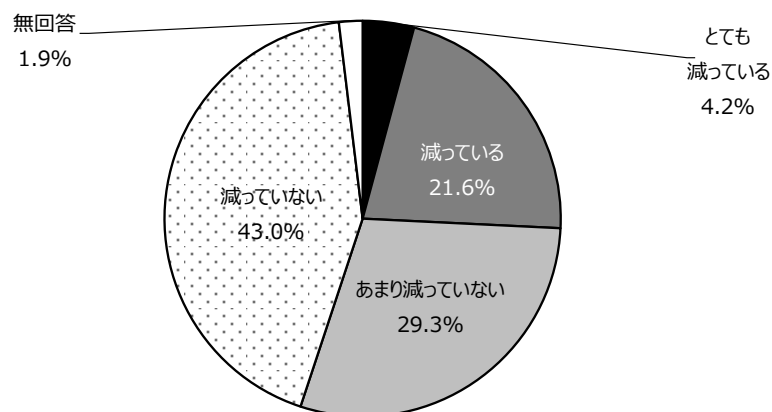
図表 2-35 性・年齢、居住地、家族構成、要介護度別の外出状況

		回 答 者 数	外 出 と し ん な ど い	週 1 回	週 2 ～ 4 回	週 5 回 以 上	無 回 答	
全体		2,914	3.6	7.4	37.7	48.8	2.5	(%)
男 性	男性計	1,196	3.5	7.9	32.5	54.0	2.1	
	65歳～69歳	343	2.6	6.1	25.9	63.8	1.5	
	70歳～74歳	323	3.4	6.8	27.9	60.7	1.2	
	75歳～79歳	248	2.0	9.3	38.3	48.0	2.4	
	80歳～84歳	155	0.6	8.4	43.9	45.2	1.9	
	85歳～89歳	94	8.5	13.8	36.2	37.2	4.3	
	90歳以上	29	27.6	6.9	41.4	20.7	3.4	
女 性	女性計	1,613	3.4	7.2	41.8	45.4	2.2	
	65歳～69歳	361	1.1	3.3	35.7	59.3	0.6	
	70歳～74歳	382	1.6	5.8	36.9	53.7	2.1	
	75歳～79歳	392	2.3	5.9	42.9	45.9	3.1	
	80歳～84歳	268	1.9	9.3	50.7	35.8	2.2	
	85歳～89歳	148	9.5	14.2	52.7	20.3	3.4	
	90歳以上	60	26.7	21.7	38.3	10.0	3.3	
居 住 地	東部地区	732	2.9	7.1	37.4	51.4	1.2	
	北部地区	661	2.9	7.6	38.4	48.1	3.0	
	南部地区	624	3.4	8.5	35.7	49.8	2.6	
	西部地区	840	4.8	7.1	39.2	46.4	2.5	
家 族 構 成	一人暮らし	800	4.8	7.8	38.5	46.3	2.8	
	夫婦二人暮らし(配偶者65歳以上)	970	2.6	8.0	38.4	48.8	2.3	
	夫婦二人暮らし(配偶者64歳以下)	103	1.0	3.9	39.8	54.4	1.0	
	息子・娘との2世帯	432	5.6	7.6	37.5	47.0	2.3	
	その他	541	2.6	6.7	36.0	52.9	1.8	
要 介 護 度	一般高齢者	2,514	2.7	6.2	37.3	51.5	2.2	
	総合事業対象者	36	5.6	5.6	38.9	47.2	2.8	
	要支援1	107	13.1	22.4	42.1	20.6	1.9	
	要支援2	98	16.3	23.5	39.8	16.3	4.1	

⑦ 昨年と比べて外出の回数が減っていますか。

4.2%が「とても減っている」、21.6%が「減っている」と回答。

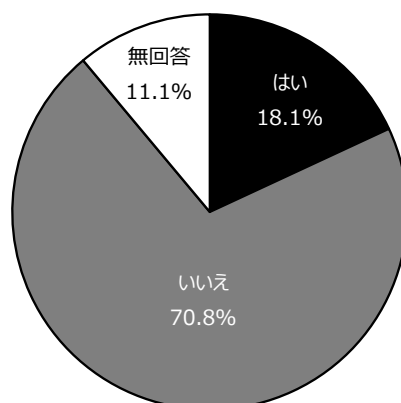
図表 2-36 昨年と比べて外出の回数が減っているか (n=2,914)



⑧ 外出を控えていますか。また、外出を控えている理由はなんですか。(あてはまるものすべてに○)

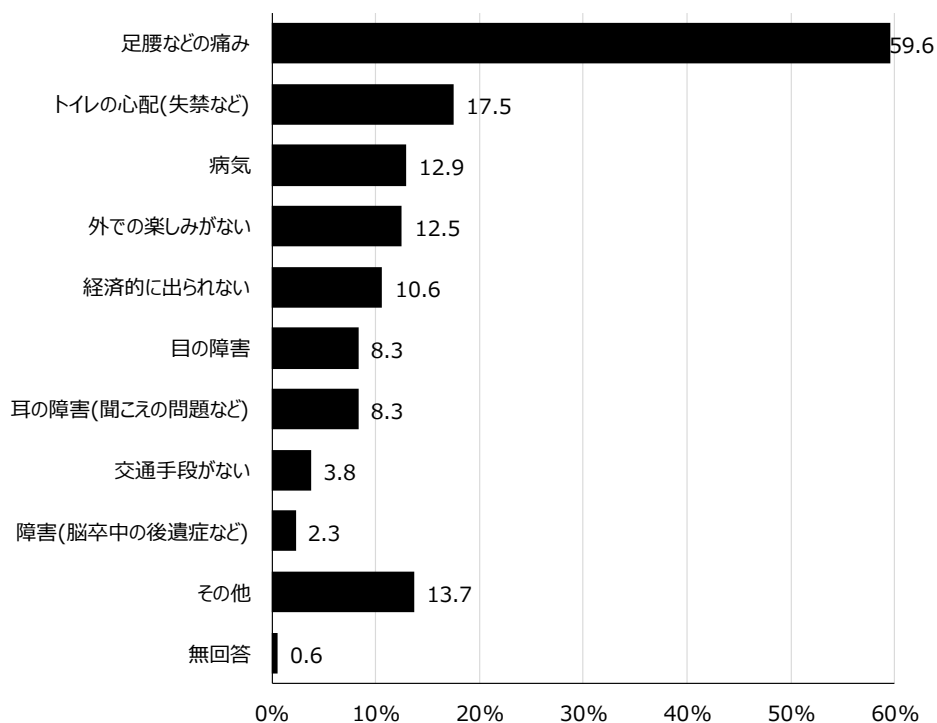
18.1%が「はい」と回答。

図表 2-37 外出を控えているか (n=2,914)



「足腰などの痛み」が59.6%と最多。次いで「トイレの心配(失禁など)」(17.5%)と続く。

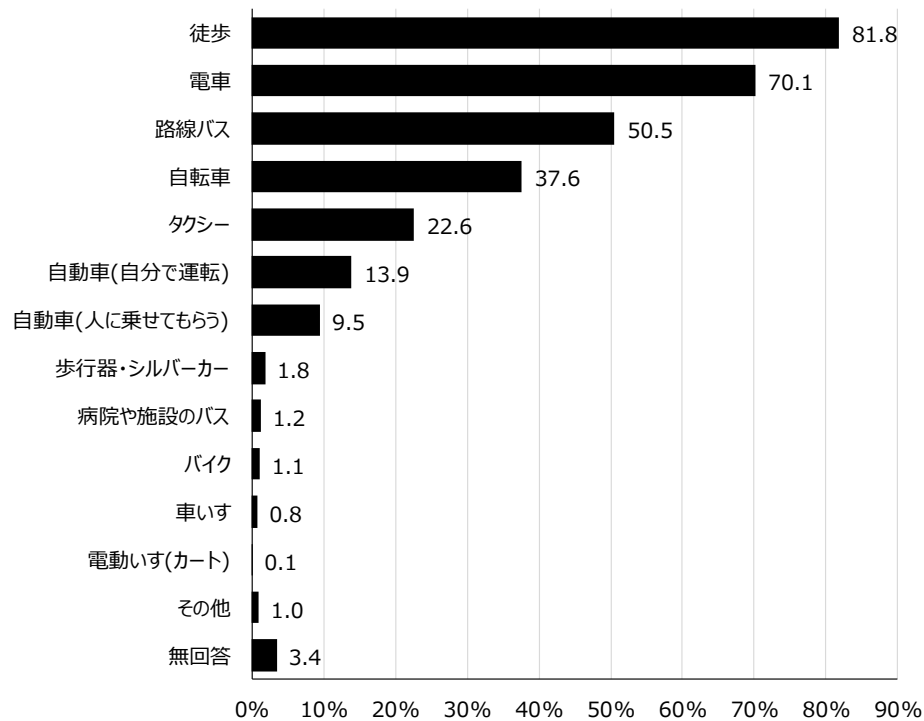
図表 2-38 外出を控えている理由 (n=527)



⑨ 外出する際の交通手段は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

「徒歩」が81.8%と最多。次いで「電車」(70.1%)、「路線バス」(50.5%)の順。

図表 2-39 外出する際の交通手段 (n=2, 914)



図表 2-40 居住地、要介護度別の外出する際の交通手段

		回答者数	徒歩	自転車	バイク	(自動車 自分で運転)	(自動車 人に乗せてもらう)	電車	路線バス	病院 や施設 のバス	車いす	電動いす (カート)	歩行器・ シルバーカー	タクシー	その他	無回答	(%)
全体		2,914	81.8	37.6	1.1	13.9	9.5	70.1	50.5	1.2	0.8	0.1	1.8	22.6	1.0	3.4	
居住地	東部地区	732	85.4	34.0	1.2	13.8	8.6	74.9	53.0	1.4	0.3	0.1	1.2	24.0	1.1	2.7	
	北部地区	661	81.2	35.1	0.9	11.0	10.6	65.5	42.4	0.9	0.5	0.2	1.4	20.1	1.1	4.2	
	南部地区	624	83.3	31.7	0.6	14.7	8.0	71.5	56.1	1.3	1.3	0.0	2.7	28.5	0.8	3.2	
	西部地区	840	78.9	47.5	1.4	16.0	11.1	69.5	50.2	1.3	1.1	0.0	2.0	18.8	0.8	3.1	
要介護度	一般高齢者	2,514	84.6	39.9	1.2	15.3	9.3	73.2	51.7	0.6	0.2	0.0	0.5	20.6	0.8	3.3	
	総合事業対象者	36	66.7	22.2	2.8	8.3	8.3	61.1	44.4	5.6	2.8	0.0	2.8	25.0	2.8	0.0	
	要支援1	107	62.6	13.1	0.9	0.9	15.0	45.8	46.7	10.3	6.5	0.9	18.7	47.7	1.9	1.9	
	要支援2	98	56.1	15.3	0.0	1.0	15.3	36.7	39.8	7.1	9.2	1.0	18.4	52.0	3.1	4.1	

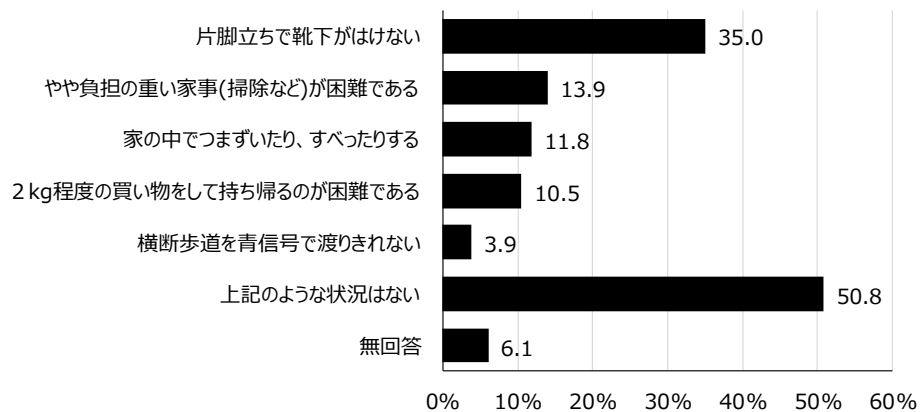
(2) 日常生活において困難なこと

問12. あなたは、次の中であてはまるものはありますか。(あてはまるものすべてに○)

- 片脚立ちで靴下がはけない
- 家の中でつまずいたり、すべったりする
- やや負担の重い家事(掃除など)が困難である
- 2kg程度(1ℓの牛乳パック2個程度)の買い物をして持ち帰るのが困難である
- 横断歩道を青信号で渡りきれない
- 上記のような状況はない

「上記のような状況はない」が50.8%と最多。次いで「片脚立ちで靴下がはけない」(35.0%)、「やや負担の重い家事(掃除など)が困難である」(13.9%)の順。

図表 2-41 日常生活において困難なこと (n=2,914)



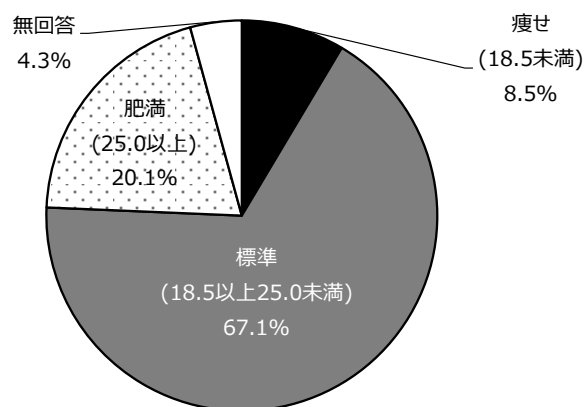
(3) 食事・栄養

問13. 食えることについて、現在のあなたの状況をお答えください。(それぞれ、ひとつだけ○)

① あなたの身長と体重を教えてください。(※BMIを算出し掲載)

20.1%が「肥満(BMI25.0以上)」、8.5%が「痩せ(BMI18.5未満)」状態にある。

図表 2-42 BMI



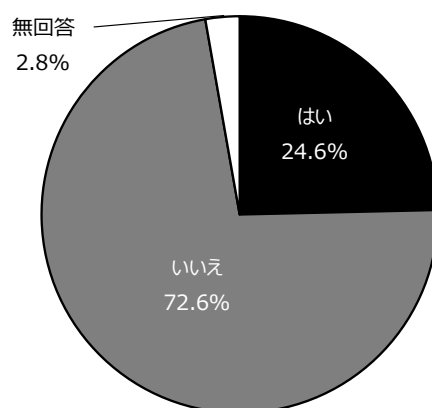
図表 2-43 性・年齢別のBMI

		回答者数	痩せ (BMI18.5未満)	標準 (BMI18.5～24.9)	肥満 (BMI25.0以上)	無回答	
全体		2,914	8.5	67.1	20.1	4.3	(%)
男性	男性計	1,196	3.9	67.8	25.0	3.3	
	65歳～69歳	343	2.3	65.0	30.0	2.6	
	70歳～74歳	323	4.0	70.0	23.5	2.5	
	75歳～79歳	248	3.6	66.9	25.0	4.4	
	80歳～84歳	155	3.2	70.3	23.9	2.6	
	85歳～89歳	94	7.4	67.0	20.2	5.3	
	90歳以上	29	13.8	72.4	6.9	6.9	
女性	女性計	1,613	11.8	67.2	16.6	4.4	
	65歳～69歳	361	12.7	68.1	16.9	2.2	
	70歳～74歳	382	12.8	67.3	16.8	3.1	
	75歳～79歳	392	10.7	67.3	17.9	4.1	
	80歳～84歳	268	10.8	67.2	17.2	4.9	
	85歳～89歳	148	10.8	66.2	13.5	9.5	
	90歳以上	60	13.3	65.0	10.0	11.7	

② 半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか。

24.6%が「はい」と回答。

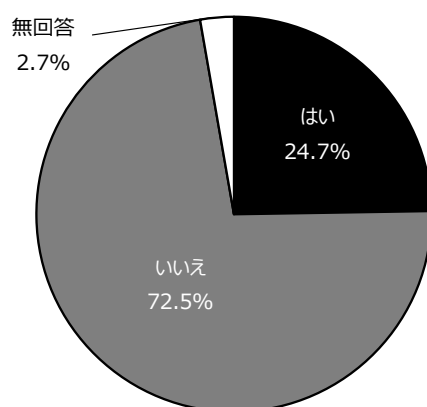
図表 2-44 半年前に比べて固いものが食べにくいか (n=2, 914)



③ お茶や汁物などでむせることがありますか。

24.7%が「はい」と回答。

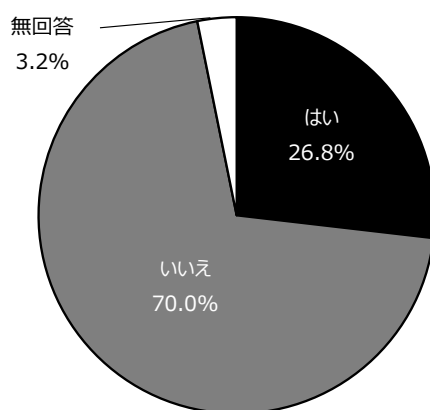
図表 2-45 お茶や汁物などでむせることがあるか (n=2, 914)



④ 口の渇きが気になりますか。

26.8%が「はい」と回答。

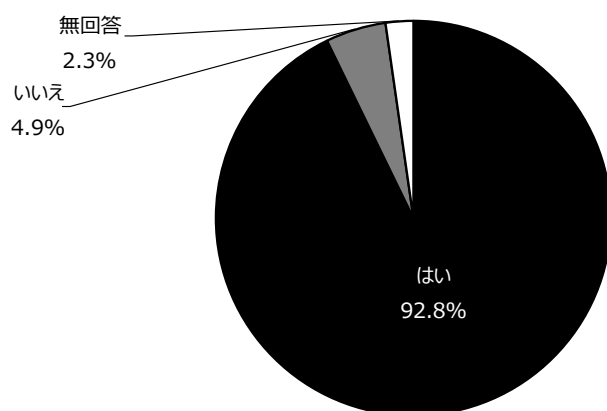
図表 2-46 口の渇きが気になるか (n=2,914)



⑤ 歯磨きを毎日していますか。(人にやってもらう場合も含みます。)

4.9%が「いいえ」と回答。

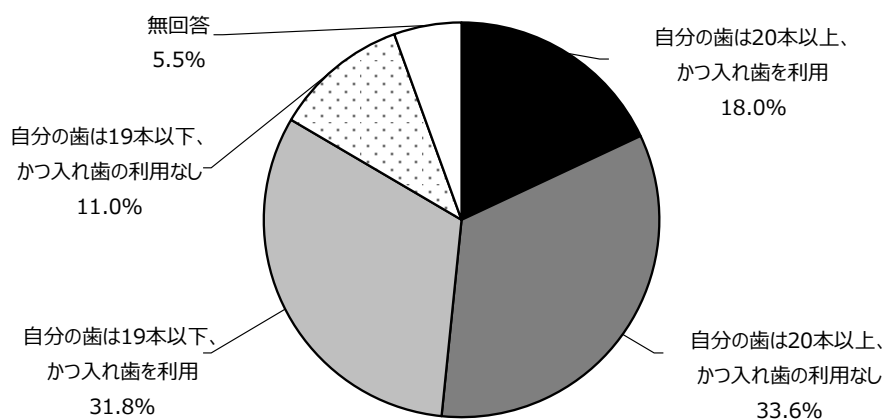
図表 2-47 歯磨きを毎日実施しているか (n=2,914)



- ⑥ 歯の数と入れ歯の利用状況をお教えてください。（成人の歯の総本数は、親知らずを含めて32本です。）

「自分の歯は20本以上、かつ入れ歯の利用なし」が33.6%と最多。次いで「自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用」(31.8%)、「自分の歯は20本以上、かつ入れ歯を利用」(18.0%)の順。

図表 2-48 歯の数と入れ歯の利用状況 (n=2,914)



性・年齢別でみると、“男性・75歳以上”、及び“女性・80歳以上”において、「自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用」が最も高くなっています。

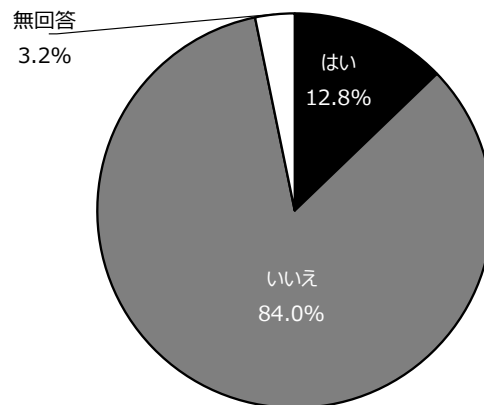
図表 2-49 性・年齢別の歯の数と入れ歯の利用状況

		回答者数	自分の歯は20本以上、かつ入れ歯を利用	自分の歯は20本以上、かつ入れ歯の利用なし	自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用	自分の歯は19本以下、かつ入れ歯の利用なし	無回答
全体		2,914	18.0	33.6	31.8	11.0	5.5 (%)
男性	男性計	1,196	17.6	31.4	33.6	13.2	4.2
	65歳～69歳	343	19.0	39.9	23.3	15.2	2.6
	70歳～74歳	323	15.8	37.5	31.6	13.0	2.2
	75歳～79歳	248	16.9	27.4	35.9	14.5	5.2
	80歳～84歳	155	21.9	21.9	42.6	8.4	5.2
	85歳～89歳	94	16.0	8.5	53.2	11.7	10.6
	90歳以上	29	13.8	20.7	44.8	13.8	6.9
女性	女性計	1,613	18.2	35.6	30.7	9.4	6.0
	65歳～69歳	361	15.0	54.6	18.3	11.1	1.1
	70歳～74歳	382	19.6	41.1	25.4	10.2	3.7
	75歳～79歳	392	21.2	32.9	30.4	8.2	7.4
	80歳～84歳	268	16.0	25.4	42.9	7.8	7.8
	85歳～89歳	148	20.9	14.2	40.5	9.5	14.9
	90歳以上	60	11.7	5.0	61.7	10.0	11.7

⑦ この6か月間で2～3 kg以上の体重減少がありましたか。

12.8%が「はい」と回答。

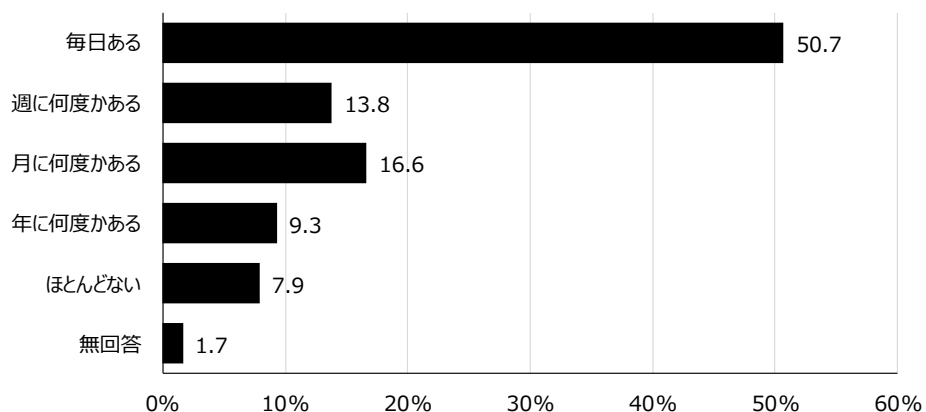
図表 2-50 この6か月間で2～3 kg以上の体重減少があるか (n=2, 914)



⑧ どなたかと食事をともにする機会がありますか。

7.9%が「ほとんどない」、9.3%が「年に何度かある」と回答しており、17.2%が『月1回未満』。

図表 2-51 他者と食事をともにする機会 (n=2, 914)



家族構成別でみると、“一人暮らし”では、36.8%（「年に何度かある」「ほとんどない」の合計）が孤食状態にあると言えます。

図表 2-52 居住地、家族構成、要介護度別の他者と食事をとる機会

		回答者数	毎日ある	週に何度かある	月に何度かある	年に何度かある	ほとんどない	無回答	
全体		2,914	50.7	13.8	16.6	9.3	7.9	1.7	(%)
居住地	東部地区	732	52.0	14.8	16.3	9.2	7.2	0.5	
	北部地区	661	50.1	10.7	17.9	10.0	9.5	1.8	
	南部地区	624	51.9	17.3	14.6	8.2	5.9	2.1	
	西部地区	840	50.1	12.6	17.1	9.6	8.7	1.8	
家族構成	一人暮らし	800	5.1	23.6	32.8	17.5	19.3	1.8	
	夫婦二人暮らし(配偶者65歳以上)	970	69.6	8.4	10.8	6.9	3.1	1.2	
	夫婦二人暮らし(配偶者64歳以下)	103	67.0	13.6	8.7	5.8	3.9	1.0	
	息子・娘との2世帯	432	65.5	10.6	11.8	6.3	3.9	1.9	
	その他	541	70.2	11.8	7.8	4.6	3.9	1.7	
要介護度	一般高齢者	2,514	53.9	13.8	15.3	8.8	6.8	1.5	
	総合事業対象者	36	30.6	13.9	25.0	8.3	22.2	0.0	
	要支援1	107	29.0	12.1	30.8	15.9	11.2	0.9	
	要支援2	98	23.5	16.3	16.3	16.3	23.5	4.1	

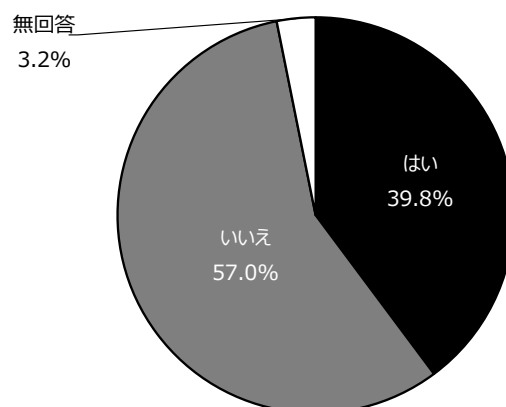
(4) 日常生活

問14. 毎日の生活について、現在のあなたの状況をお答えください。(それぞれ、ひとつだけ○)

① 物忘れが多いと感じますか。

39.8%が「はい」と回答。

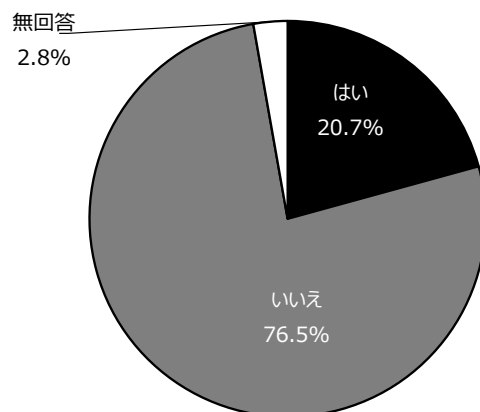
図表 2-53 物忘れが多いと感じるか (n=2,914)



② 今日が何月何日かわからないときがありますか。

20.7%が「はい」と回答。

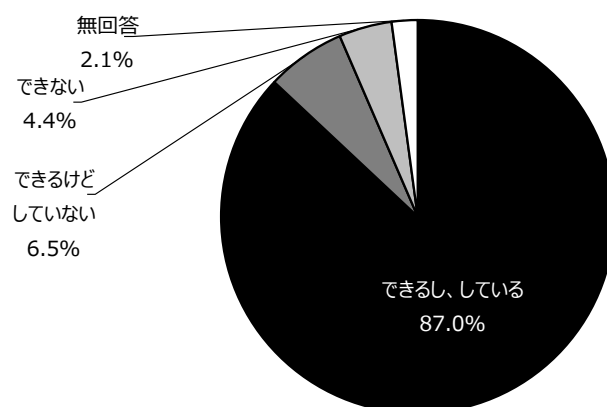
図表 2-54 今日が何月何日かわからないときがあるか (n=2,914)



③ バスや電車を使って一人で外出していますか。(自家用車でも可)

4.4%が「できない」と回答。

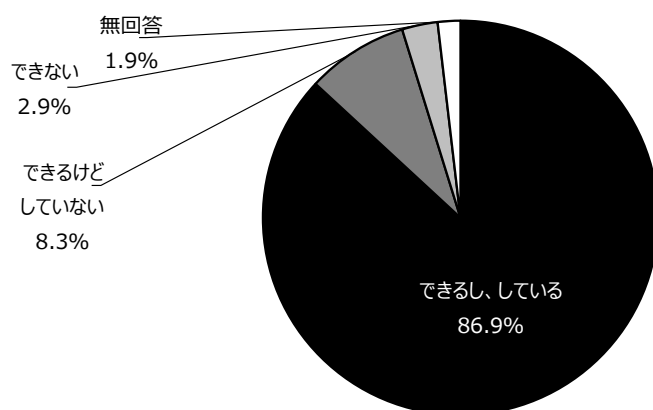
図表 2-55 バスや電車を使って一人で外出しているか (n=2,914)



④ 自分で食品・日用品の買い物をしていますか。

2.9%が「できない」と回答。

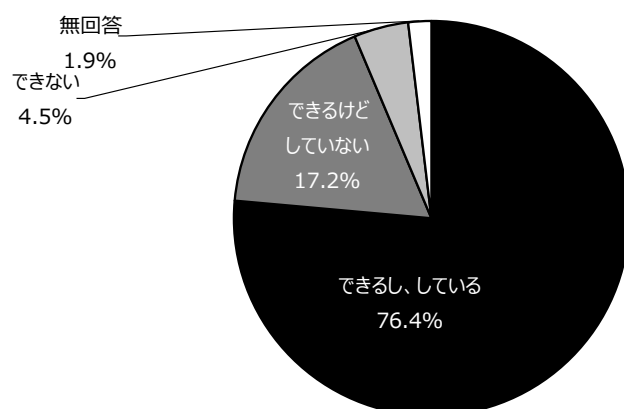
図表 2-56 自分で食品・日用品の買い物をしているか (n=2,914)



⑤ 自分で食事の用意をしていますか。

4.5%が「できない」と回答。

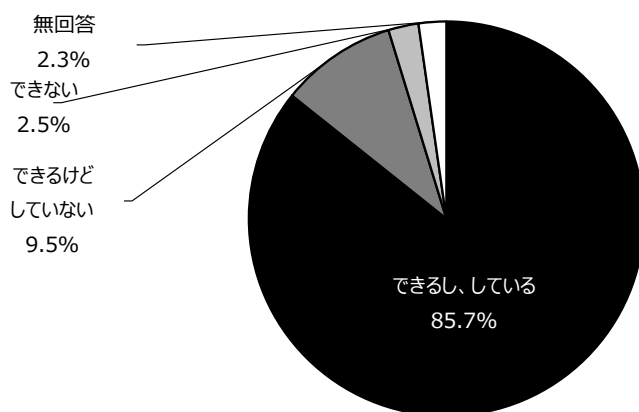
図表 2-57 自分で食事の用意をしているか (n=2,914)



⑥ 自分で請求書の支払いをしていますか。

2.5%が「できない」と回答。

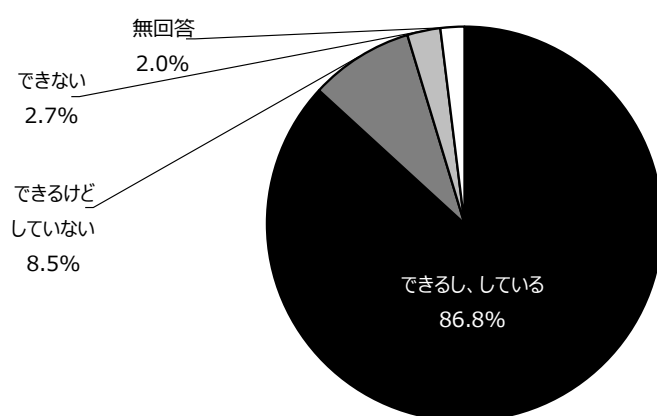
図表 2-58 自分で請求書の支払いをしているか (n=2,914)



⑦ 自分で預貯金の出し入れをしていますか。

2.7%が「できない」と回答。

図表 2-59 自分で預貯金の出し入れをしているか (n= 2,914)

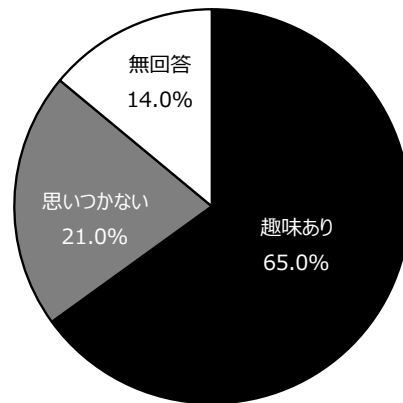


⑧ 趣味はありますか。

21.0%が「思いつかない」と回答。

男性の方が「思いつかない」と回答している割合が高い。

図表 2-60 趣味の有無 (n=2,914)



図表 2-61 性・年齢別の趣味の有無

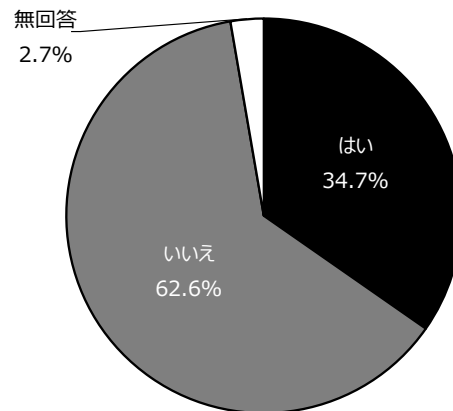
		回答者数	趣味あり	思いつかない	無回答	
全体		2,914	65.0	21.0	14.0	(%)
男性	男性計	1,196	65.3	23.7	11.0	
	65歳～69歳	343	67.3	25.9	6.7	
	70歳～74歳	323	66.9	24.1	9.0	
	75歳～79歳	248	62.1	24.6	13.3	
	80歳～84歳	155	68.4	15.5	16.1	
	85歳～89歳	94	56.4	28.7	14.9	
	90歳以上	29	62.1	17.2	20.7	
女性	女性計	1,613	65.2	19.0	15.8	
	65歳～69歳	361	72.0	21.1	6.9	
	70歳～74歳	382	69.6	18.3	12.0	
	75歳～79歳	392	67.3	14.5	18.1	
	80歳～84歳	268	60.8	17.2	22.0	
	85歳～89歳	148	50.0	23.6	26.4	
	90歳以上	60	40.0	36.7	23.3	

(5) 心の状況

問15. あなたは、この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか。(ひとつだけ○)

34.7%が「はい」と回答。

図表 2-62 気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがあったか
(n=2,914)

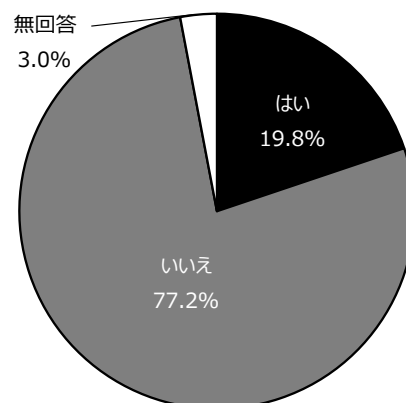


(6) 意欲の状況

問16. あなたは、この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは、心から楽しめない感じがよくありましたか。(ひとつだけ○)

19.8%が「はい」と回答。

図表 2-63 この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは、心から楽しめない感じがよくあったか (n=2,914)

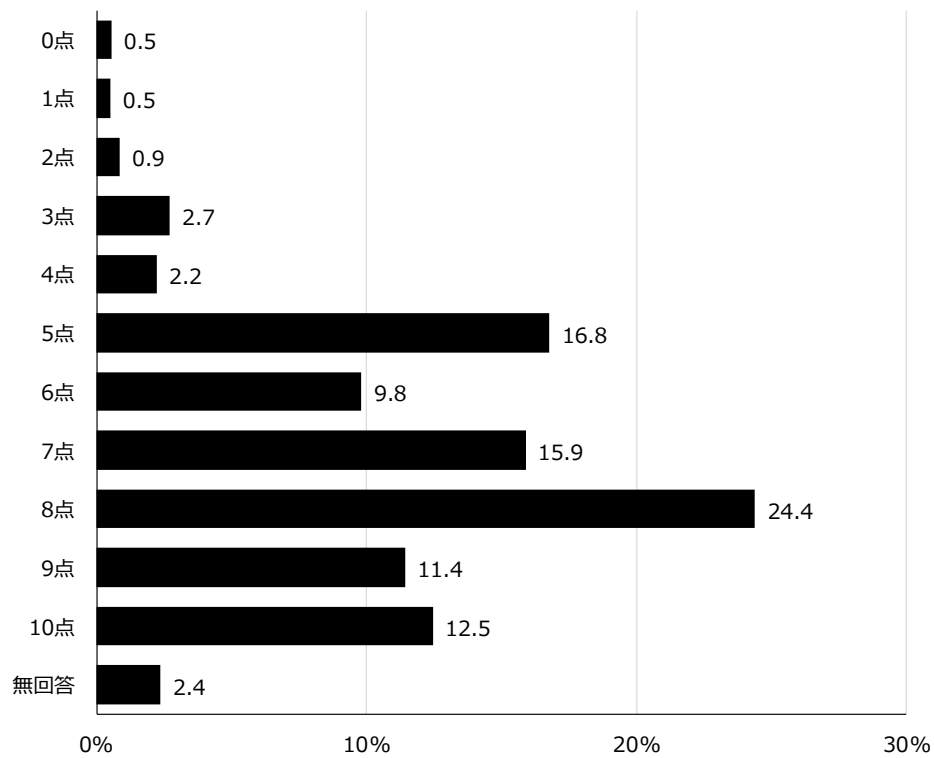


(7) 幸福度

問17. あなたは、現在、どの程度幸せですか。「とても不幸」を0点、「とても幸せ」を10点として、点数にひとつだけ○をつけてください。

「8点」が24.4%と最多。次いで「5点」(16.8%)、「7点」(15.9%)の順。

図表 2-64 幸福度 (n=2,914)



家族構成別でみると、“一人暮らし”では、「5点」が最も高くなっています。“夫婦二人暮らし(配偶者64歳以下)”では、「7点」が最も高くなっています。上記以外では、「8点」が最も高くなっています。

要介護度別でみると、“要支援2”では、「5点」が最も高くなっています。上記以外では、「8点」が最も高くなっています。

主観的健康感別でみると、“とてもよい”では、「10点」が最も高くなっています。“まあよい”では「8点」が最も高くなっています。“あまりよくない”“よくない”では、「5点」が最も高くなっています。

図表 2-65 家族構成、要介護度、主観的健康感別の幸福度

		回 答 者 数	0 点	1 点	2 点	3 点	4 点	5 点	6 点	7 点	8 点	9 点	1 0 点	無 回 答	平 均	
全体		2,914	0.5	0.5	0.9	2.7	2.2	16.8	9.8	15.9	24.4	11.4	12.5	2.4	7.1	(%)
家 族 構 成	一人暮らし	800	1.1	1.0	1.4	5.4	4.4	20.6	10.1	14.4	19.8	9.1	9.4	3.4	6.6	
	夫婦二人暮らし(配偶者65歳以上)	970	0.3	0.3	0.7	1.4	1.0	15.1	10.1	17.0	26.7	12.5	13.0	1.9	7.3	
	夫婦二人暮らし(配偶者64歳以下)	103	0.0	1.0	0.0	1.9	1.0	11.7	6.8	27.2	23.3	17.5	7.8	1.9	7.4	
	息子・娘との2世帯	432	0.2	0.2	0.5	1.6	1.2	16.9	7.2	12.3	26.4	14.6	16.7	2.3	7.5	
	その他	541	0.4	0.2	0.7	2.0	2.6	13.7	11.6	17.7	26.8	9.8	12.6	1.8	7.2	
要 介 護 度	一般高齢者	2,514	0.4	0.4	0.8	2.4	1.9	16.2	9.9	16.5	24.9	12.0	12.7	2.1	7.2	
	総合事業対象者	36	5.6	0.0	0.0	2.8	8.3	16.7	13.9	5.6	22.2	11.1	8.3	5.6	6.4	
	要支援1	107	0.9	0.9	0.9	6.5	4.7	16.8	10.3	14.0	22.4	11.2	7.5	3.7	6.7	
	要支援2	98	3.1	2.0	2.0	6.1	3.1	28.6	7.1	13.3	21.4	5.1	6.1	2.0	6.1	
健 主 康 観 感	とてもよい	337	0.3	0.3	0.0	0.6	0.6	5.9	5.6	8.6	22.3	20.8	33.5	1.5	8.4	
	まあよい	1,873	0.2	0.1	0.4	1.5	1.6	15.7	10.1	18.3	28.2	12.2	10.9	0.7	7.3	
	あまりよくない	452	1.5	1.3	2.4	7.3	5.1	27.0	12.6	16.2	14.8	4.6	5.8	1.3	6.0	
	よくない	85	4.7	7.1	3.5	9.4	3.5	34.1	5.9	7.1	7.1	5.9	8.2	3.5	5.2	

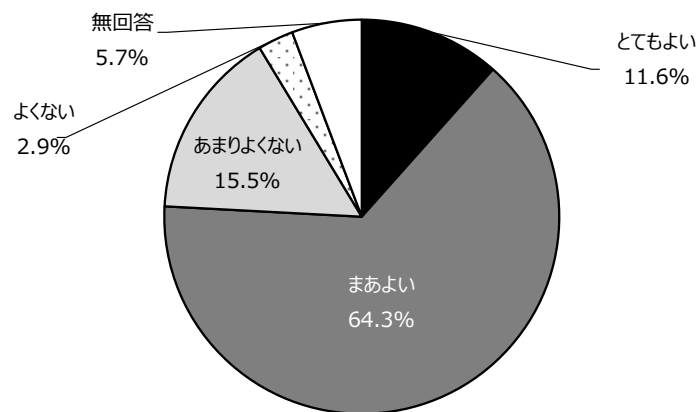
4. 健康について

(1) 主観的健康感

問18. 現在の、あなたの健康状態はいかがですか。(ひとつだけ○)

2.9%が「よくない」、15.5%が「あまりよくない」と回答。

図表 2-66 主観的健康感(n=2,914)



幸福度別でみると、“0～3点”では、「あまりよくない」が最も高くなっています。上記以外では、「まあよい」が最も高くなっています。

図表 2-67 要介護度、幸福度別の主観的健康感

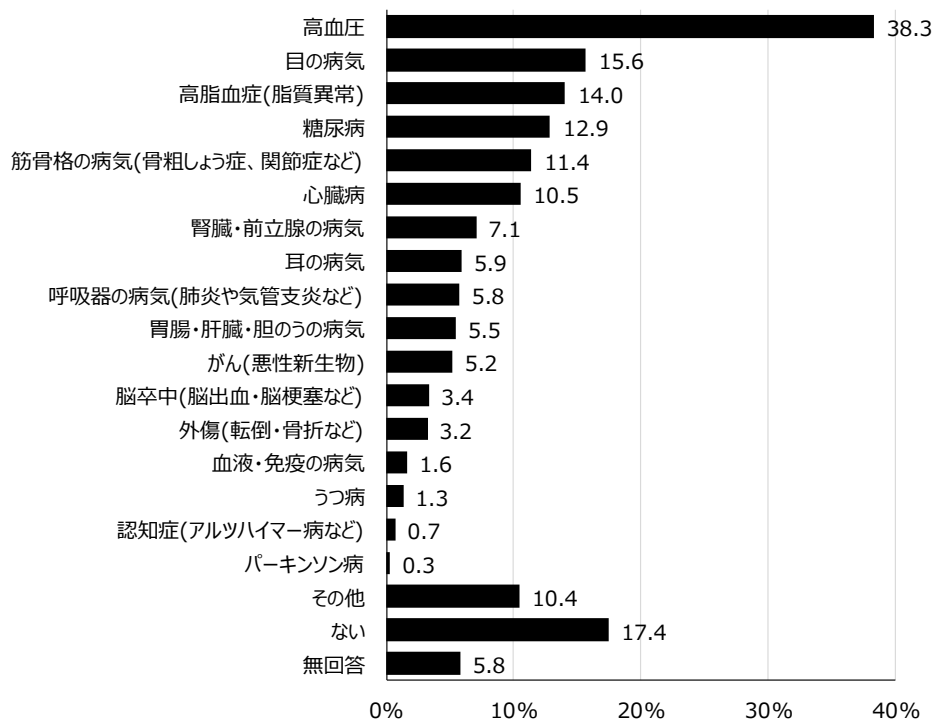
		回答者数	とてもよい	まあよい	あまりよくない	よくない	無回答	
全体		2,914	11.6	64.3	15.5	2.9	5.7	(%)
要介護度	一般高齢者	2,514	12.4	66.0	14.4	2.1	5.2	
	総合事業対象者	36	5.6	69.4	16.7	0.0	8.3	
	要支援1	107	3.7	53.3	25.2	10.3	7.5	
	要支援2	98	2.0	38.8	30.6	16.3	12.2	
幸福度	0～3点	135	3.0	30.4	42.2	15.6	8.9	
	4～6点	840	4.9	61.2	24.0	4.4	5.5	
	7点以上	1,870	15.3	69.8	10.0	1.3	3.6	

(2) 現在治療中、または後遺症のある病気

問19. あなたが、現在治療中、または後遺症のある病気はありますか。(あてはまるものすべてに○)

「高血圧」が38.3%と最多。

図表 2-68 現在治療中、または後遺症のある病気 (n=2,914)



性別でみると、「高血圧」は男女ともに年齢が上がるにつれ割合が高くなっており、男性の方が保有割合が高くなっています。「糖尿病」は男性の保有割合が高く、いずれの年齢においても一定数存在しています。「筋骨格の病気」においては、女性の方が保有割合が高く、75歳以上において保有割合が大きく増加します。

図表 2-69 性・年齢、要介護度別の現在治療中、または後遺症のある病気

		回 答 者 数	ない	高 血 圧	脳 卒 中 （ 脳 出 血 ・ 脳 梗 塞 など ）	心 臓 病	糖 尿 病	高 脂 血 症 （ 脂 質 異 常 ）	呼 吸 器 の 病 気 （ 肺 炎 や 気 管 支 炎 など ）	胃 腸 ・ 肝 臓 ・ 胆 の う の 病 気	腎 臓 ・ 前 立 腺 の 病 気	筋 骨 格 の 病 気 （ 骨 粗 し よ う 症 ・ 関 節 症 など ）	外 傷 （ 転 倒 ・ 骨 折 など ）	が ん （ 悪 性 新 生 物 ）	血 液 ・ 免 疫 の 病 気	う つ 病	認 知 症 （ アル ツ ハ イ マ ー 病 など ）	パ ー キ ン ソ ン 病	目 の 病 気	耳 の 病 気	そ の 他	無 回 答	
全体		2,914	17.4	38.3	3.4	10.5	12.9	14.0	5.8	5.5	7.1	11.4	3.2	5.2	1.6	1.3	0.7	0.3	15.6	5.9	10.4	5.8	(%)
男 性	男性計	1,196	16.8	41.0	5.4	13.8	18.1	10.6	6.9	5.9	14.4	4.0	2.3	6.7	1.5	1.3	0.4	0.3	14.2	5.9	8.6	4.8	
	65歳～69歳	343	23.3	33.8	2.0	8.2	15.2	13.4	7.0	8.5	7.9	3.5	1.7	6.1	1.7	2.3	0.3	0.0	12.5	2.9	10.5	6.4	
	70歳～74歳	323	14.9	43.0	5.9	13.0	20.7	11.1	5.6	2.2	13.6	3.1	1.5	5.9	0.6	0.9	0.0	0.0	11.1	4.3	8.4	4.3	
	75歳～79歳	248	15.3	42.3	9.3	16.5	21.0	9.7	6.9	6.0	13.3	5.6	2.8	8.1	2.0	1.2	0.8	0.4	12.9	6.0	6.9	5.2	
	80歳～84歳	155	14.8	45.8	5.2	16.8	20.0	9.7	7.1	5.8	20.6	2.6	2.6	4.5	1.3	0.6	0.6	0.6	21.3	7.7	7.7	3.9	
	85歳～89歳	94	11.7	45.7	4.3	18.1	11.7	5.3	8.5	7.4	28.7	6.4	3.2	9.6	2.1	1.1	1.1	1.1	19.1	17.0	8.5	3.2	
	90歳以上	29	3.4	51.7	10.3	37.9	10.3	3.4	17.2	6.9	31.0	6.9	10.3	6.9	3.4	0.0	0.0	0.0	27.6	13.8	6.9	0.0	
女 性	女性計	1,613	17.9	36.1	1.9	8.1	9.1	16.8	5.0	5.0	1.6	16.8	3.9	4.2	1.7	1.1	0.8	0.4	17.0	5.8	12.0	6.4	
	65歳～69歳	361	28.3	23.5	0.6	3.9	6.6	16.6	3.6	3.9	1.4	12.7	2.2	3.0	0.8	0.6	0.0	0.6	11.6	3.3	13.6	6.6	
	70歳～74歳	382	21.2	34.6	2.4	5.0	12.3	20.7	5.2	4.5	0.5	13.1	3.9	5.2	1.3	1.6	0.5	0.0	16.2	2.9	13.9	5.5	
	75歳～79歳	392	14.0	39.3	2.0	11.0	9.4	16.1	5.1	6.1	2.6	17.6	3.3	4.1	1.8	1.3	0.5	0.3	18.4	6.6	12.8	7.7	
	80歳～84歳	268	9.7	44.4	1.1	11.2	9.3	14.2	4.9	4.9	1.5	22.0	4.5	3.7	3.4	1.5	0.7	1.1	20.1	7.5	8.2	5.2	
	85歳～89歳	148	12.2	43.2	3.4	14.2	8.1	16.9	8.1	5.4	2.7	24.3	6.1	4.7	1.4	0.7	2.0	0.0	18.9	10.1	10.1	6.8	
	90歳以上	60	10.0	48.3	5.0	5.0	3.3	10.0	1.7	5.0	1.7	18.3	10.0	5.0	3.3	0.0	6.7	0.0	28.3	15.0	6.7	6.7	
要 介 護 度	一般高齢者	2,514	18.8	37.6	2.9	9.6	12.9	14.6	5.5	5.2	6.5	10.4	2.7	5.2	1.6	1.2	0.6	0.2	14.8	5.4	10.2	5.6	
	総合事業対象者	36	11.1	33.3	16.7	8.3	19.4	8.3	0.0	5.6	13.9	16.7	2.8	11.1	0.0	2.8	2.8	0.0	8.3	5.6	8.3	8.3	
	要支援1	107	3.7	42.1	5.6	23.4	12.1	14.0	8.4	5.6	15.0	22.4	11.2	4.7	0.9	1.9	0.9	0.0	29.0	15.9	13.1	4.7	
	要支援2	98	2.0	45.9	8.2	22.4	15.3	12.2	17.3	9.2	10.2	24.5	11.2	6.1	6.1	1.0	1.0	2.0	31.6	11.2	15.3	6.1	

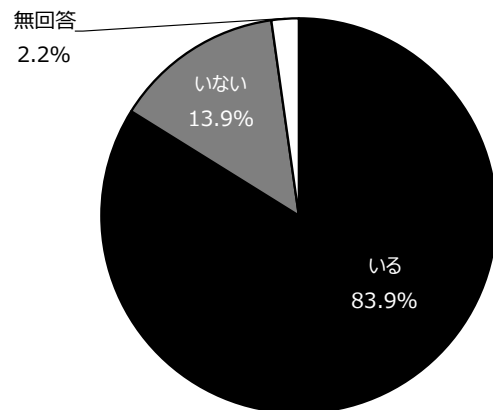
(3) かかりつけ医・かかりつけ歯科医・かかりつけ薬局の有無

問20. あなたは、かかりつけ医や、かかりつけ歯科医はいますか。また、かかりつけ薬局はありますか。(ひとつだけ○)

① かかりつけ医

13.9%が「いない」と回答。

図表 2-70 かかりつけ医の有無 (n=2,914)



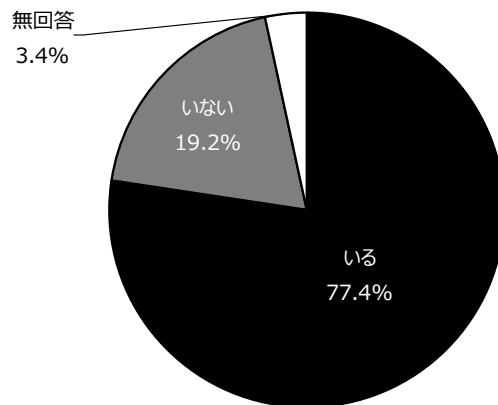
図表 2-71 性・年齢、居住地、要介護度、主観的健康感別の
かかりつけ医の有無

		回 答 者 数	い る	い な い	無 回 答	(%)
全体		2,914	83.9	13.9	2.2	
男 性	男性計	1,196	83.2	14.8	2.0	
	65歳～69歳	343	73.8	24.8	1.5	
	70歳～74歳	323	86.4	12.7	0.9	
	75歳～79歳	248	86.7	10.9	2.4	
	80歳～84歳	155	83.9	11.0	5.2	
	85歳～89歳	94	92.6	5.3	2.1	
	90歳以上	29	96.6	3.4	0.0	
女 性	女性計	1,613	84.6	13.1	2.3	
	65歳～69歳	361	75.1	24.7	0.3	
	70歳～74歳	382	84.0	13.6	2.4	
	75歳～79歳	392	88.3	9.2	2.6	
	80歳～84歳	268	89.9	7.5	2.6	
	85歳～89歳	148	87.8	6.8	5.4	
	90歳以上	60	88.3	8.3	3.3	
居 住 地	東部地区	732	85.2	12.4	2.3	
	北部地区	661	81.8	15.7	2.4	
	南部地区	624	82.9	15.1	2.1	
	西部地区	840	85.2	12.7	2.0	
要 介 護 度	一般高齢者	2,514	83.3	14.6	2.1	
	総合事業対象者	36	83.3	11.1	5.6	
	要支援1	107	90.7	8.4	0.9	
	要支援2	98	91.8	4.1	4.1	
健 主 観 感 的	とてもよい	337	79.5	19.0	1.5	
	まあよい	1,873	85.6	13.7	0.7	
	あまりよくない	452	85.0	13.7	1.3	
	よくない	85	91.8	5.9	2.4	

② かかりつけ歯科医

19.2%が「いない」と回答。

図表 2-72 かかりつけ歯科医の有無 (n=2,914)



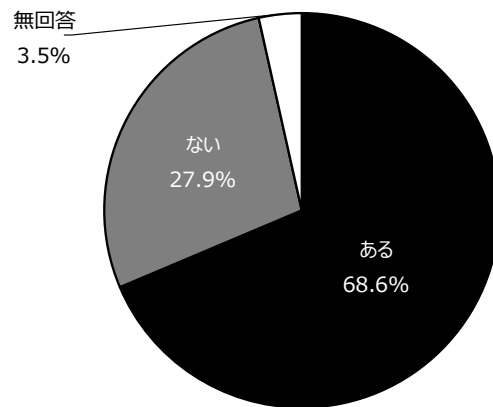
図表 2-73 性・年齢、居住地、要介護度、主観的健康感別の
かかりつけ歯科医の有無

		回 答 者 数	い る	い な い	無 回 答	
全体		2,914	77.4	19.2	3.4	(%)
男 性	男性計	1,196	73.9	22.9	3.2	
	65歳～69歳	343	71.7	26.8	1.5	
	70歳～74歳	323	74.6	23.2	2.2	
	75歳～79歳	248	74.6	22.2	3.2	
	80歳～84歳	155	76.1	16.1	7.7	
	85歳～89歳	94	81.9	13.8	4.3	
	90歳以上	29	51.7	41.4	6.9	
女 性	女性計	1,613	80.2	16.5	3.3	
	65歳～69歳	361	77.8	21.9	0.3	
	70歳～74歳	382	84.3	13.4	2.4	
	75歳～79歳	392	81.6	15.1	3.3	
	80歳～84歳	268	83.2	11.9	4.9	
	85歳～89歳	148	70.9	20.9	8.1	
	90歳以上	60	66.7	23.3	10.0	
居 住 地	東部地区	732	78.3	18.7	3.0	
	北部地区	661	73.4	22.2	4.4	
	南部地区	624	79.5	17.9	2.6	
	西部地区	840	78.6	18.2	3.2	
要 介 護 度	一般高齢者	2,514	78.6	18.4	3.0	
	総合事業対象者	36	69.4	25.0	5.6	
	要支援1	107	75.7	20.6	3.7	
	要支援2	98	65.3	28.6	6.1	
健 主 康 観 感 的	とてもよい	337	81.9	15.4	2.7	
	まあよい	1,873	79.8	18.4	1.8	
	あまりよくない	452	72.1	25.2	2.7	
	よくない	85	69.4	24.7	5.9	

③ かかりつけ薬局

27.9%が「ない」と回答。

図表 2-74 かかりつけ薬局の有無 (n=2, 914)



図表 2-75 性・年齢、居住地、要介護度、主観的健康感別の
かかりつけ薬局の有無

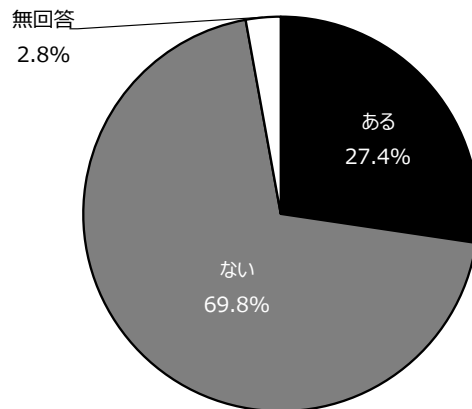
		回 答 者 数	あ る	な い	無 回 答	(%)
全体		2,914	68.6	27.9	3.5	
男 性	男性計	1,196	64.4	32.4	3.2	
	65歳～69歳	343	51.9	45.5	2.6	
	70歳～74歳	323	67.5	31.0	1.5	
	75歳～79歳	248	66.1	29.0	4.8	
	80歳～84歳	155	71.6	21.9	6.5	
	85歳～89歳	94	75.5	22.3	2.1	
	90歳以上	29	89.7	10.3	0.0	
女 性	女性計	1,613	72.3	24.1	3.5	
	65歳～69歳	361	59.3	40.7	0.0	
	70歳～74歳	382	74.1	23.6	2.4	
	75歳～79歳	392	76.3	19.6	4.1	
	80歳～84歳	268	80.2	15.7	4.1	
	85歳～89歳	148	73.6	17.6	8.8	
	90歳以上	60	75.0	11.7	13.3	
居 住 地	東部地区	732	69.8	26.5	3.7	
	北部地区	661	65.8	30.4	3.8	
	南部地区	624	66.8	29.8	3.4	
	西部地区	840	71.7	25.5	2.9	
要 介 護 度	一般高齢者	2,514	67.9	29.1	3.1	
	総合事業対象者	36	66.7	22.2	11.1	
	要支援1	107	79.4	15.9	4.7	
	要支援2	98	83.7	11.2	5.1	
健 主 観 感 的	とてもよい	337	60.2	35.9	3.9	
	まあよい	1,873	69.4	28.7	1.9	
	あまりよくない	452	75.0	23.2	1.8	
	よくない	85	84.7	14.1	1.2	

(4) 治療の途中で通院をやめた経験

問21. あなたは、今までに、自分の判断で治療の途中で通院をやめたことがありますか。
(ひとつだけ○)

27.4%が「ある」と回答。

図表 2-76 自分の判断で治療の途中で通院をやめた経験 (n=2,914)



図表 2-77 主観的健康感別の自分の判断で治療の途中で通院をやめた経験

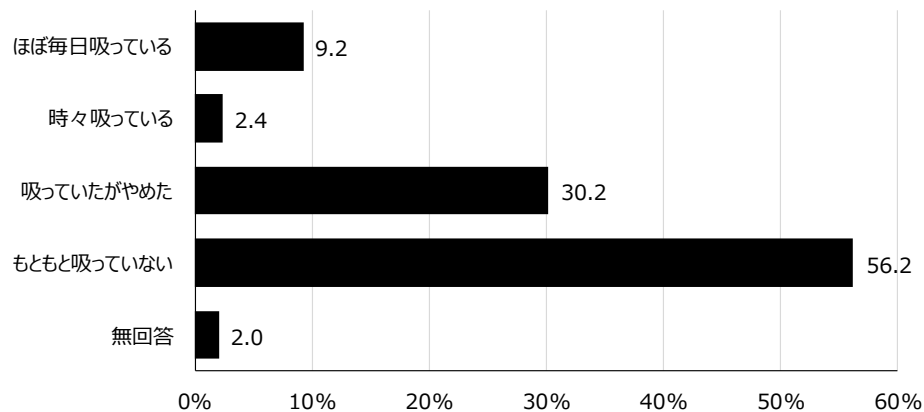
		回答者数	ある	ない	無回答	
全体		2,914	27.4	69.8	2.8	(%)
主観的健康感	とてもよい	337	19.9	78.0	2.1	
	まあよい	1,873	26.7	71.0	2.3	
	あまりよくない	452	35.0	63.3	1.8	
	よくない	85	31.8	63.5	4.7	

(5) 喫煙の状況

問22. あなたは、タバコを吸っていますか。(ひとつだけ○)

「もともと吸っていない」が56.2%と最多。次いで「吸っていたがやめた」(30.2%)、「ほぼ毎日吸っている」(9.2%)の順。

図表 2-78 喫煙状況 (n=2,914)

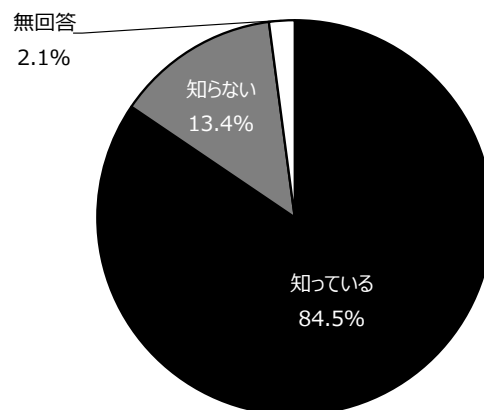


(6) ヒートショックの認知度

問23. ヒートショックとは急激な温度の変化により身体がダメージを受けることをいいます。あなたは、冬場の入浴の際などに、ヒートショックにより意識を失い、時には死亡につながるような重篤な事故が増えることを知っていますか。(ひとつだけ○)

13.4%が「知らない」と回答。

図表 2-79 ヒートショックの認知度 (n=2,914)

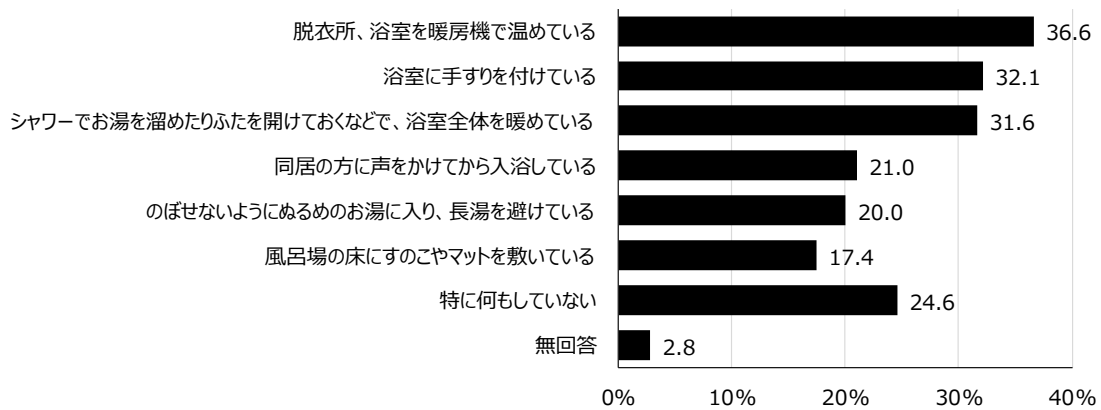


(7) 入浴時の事故を防ぐための対策

問24. あなたは、入浴時の事故を防ぐために何か対策をしていますか。(あてはまるものすべてに○)

「脱衣所、浴室を暖房機で温めている」が36.6%と最多。次いで「浴室に手すりを付けている」(32.1%)、「シャワーでお湯を溜めたりふたを開けておくなどで、浴室全体を暖めている」(31.6%)の順。

図表 2-80 入浴時の事故を防ぐための対策 (n=2,914)

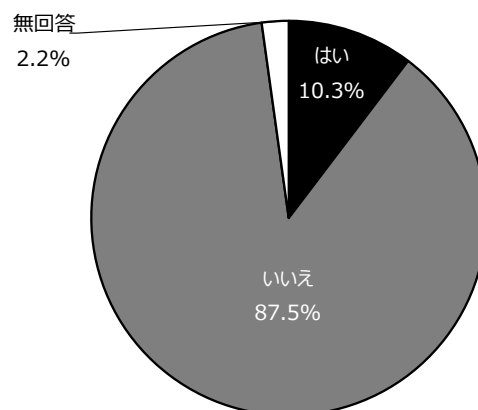


(8) 自分または家族の認知症の有無

問25. あなた自身に認知症の症状がある、または家族に認知症の症状がある人がいますか。(ひとつだけ○)

10.3%が「はい」と回答。

図表 2-81 自分または家族の認知症の有無 (n=2,914)

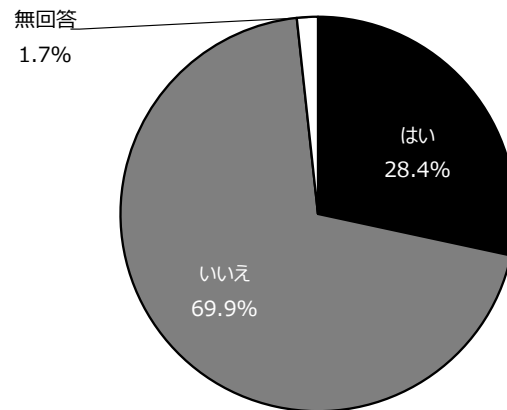


(9) 認知症に関する相談窓口の認知度

問26. あなたは、認知症に関する相談窓口を知っていますか。(ひとつだけ○)

69.9%が「いいえ」と回答。

図表 2-82 認知症に関する相談窓口の認知度 (n=2, 914)



図表 2-83 居住地、要介護度別の認知症に関する相談窓口の認知度

		回答者数	はい	いいえ	無回答	
全体		2,914	28.4	69.9	1.7	(%)
居住地	東部地区	732	27.7	70.6	1.6	
	北部地区	661	26.0	72.3	1.7	
	南部地区	624	29.6	69.1	1.3	
	西部地区	840	29.8	68.6	1.7	
要介護度	一般高齢者	2,514	28.4	70.1	1.5	
	総合事業対象者	36	36.1	63.9	0.0	
	要支援1	107	28.0	69.2	2.8	
	要支援2	98	28.6	68.4	3.1	

5. 地域とのつながりについて

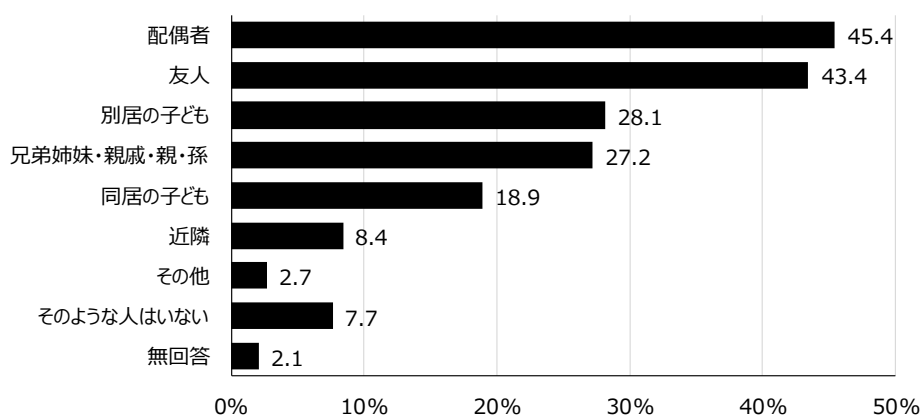
(1) たすけあいの状況

問27. あなたとまわりの人の「たすけあい」についてお伺いします。

- ① あなたの、心配事や愚痴（ぐち）を聞いてくれる人はどなたですか。（あてはまるものすべてに○）

「配偶者」が45.4%と最多。次いで「友人」(43.4%)、「別居の子ども」(28.1%)の順。

図表 2-84 心配事や愚痴を聞いてくれる人(n=2,914)



家族構成別でみると、“一人暮らし”では、他の家族構成に比べ「そのような人はいない」の割合が高くなっています。

要介護度別でみると、“一般高齢者”“総合事業対象者”では、他の要介護度に比べ「配偶者」「友人」の割合が高くなっています。

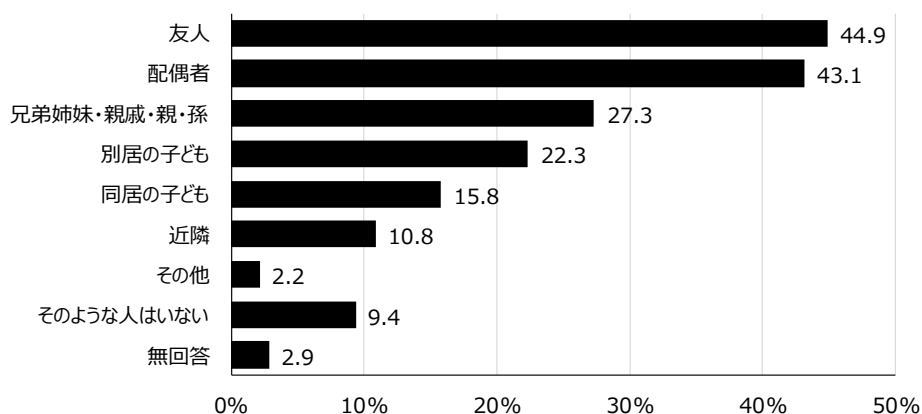
図表 2-85 居住地、家族構成、要介護度別の心配事や愚痴を聞いてくれる人

	回答者数	配偶者	同居の子ども	別居の子ども	親戚・兄弟・姉妹・親・孫	近隣	友人	その他	そのような人はいない	無回答
全体	2,914	45.4	18.9	28.1	27.2	8.4	43.4	2.7	7.7	2.1 (%)
居住地										
東部地区	732	49.3	16.4	27.6	28.0	6.1	41.4	2.5	6.7	2.0
北部地区	661	42.7	20.1	24.7	23.1	7.6	42.8	2.3	9.7	2.3
南部地区	624	45.0	20.4	29.2	26.6	9.9	44.9	4.3	7.2	1.8
西部地区	840	45.7	19.2	30.1	29.8	9.9	43.9	2.1	7.4	1.9
家族構成										
一人暮らし	800	1.6	1.6	28.4	34.1	10.4	50.5	3.6	18.8	2.4
夫婦二人暮らし(配偶者65歳以上)	970	81.1	3.2	34.7	19.6	6.6	37.3	1.8	3.4	1.2
夫婦二人暮らし(配偶者64歳以下)	103	79.6	9.7	14.6	22.3	3.9	44.7	2.9	5.8	1.9
息子・娘との2世帯	432	44.4	61.3	24.8	24.8	8.1	41.7	1.6	2.3	3.2
その他	541	41.6	39.9	20.9	33.5	9.8	44.5	3.9	3.5	2.0
要介護度										
一般高齢者	2,514	48.5	19.2	27.7	26.7	8.4	44.3	2.4	7.5	2.0
総合事業対象者	36	44.4	16.7	16.7	25.0	0.0	41.7	8.3	11.1	2.8
要支援1	107	23.4	13.1	38.3	35.5	7.5	33.6	2.8	7.5	2.8
要支援2	98	20.4	19.4	24.5	26.5	13.3	27.6	7.1	10.2	2.0

- ② 反対に、あなたが、心配事や愚痴（ぐち）を聞いてあげる人はどなたですか。
（あてはまるものすべてに○）

「友人」が44.9%と最多。次いで「配偶者」(43.1%)、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」(27.3%)の順。

図表 2-86 心配事や愚痴を聞いてあげる人(n=2,914)



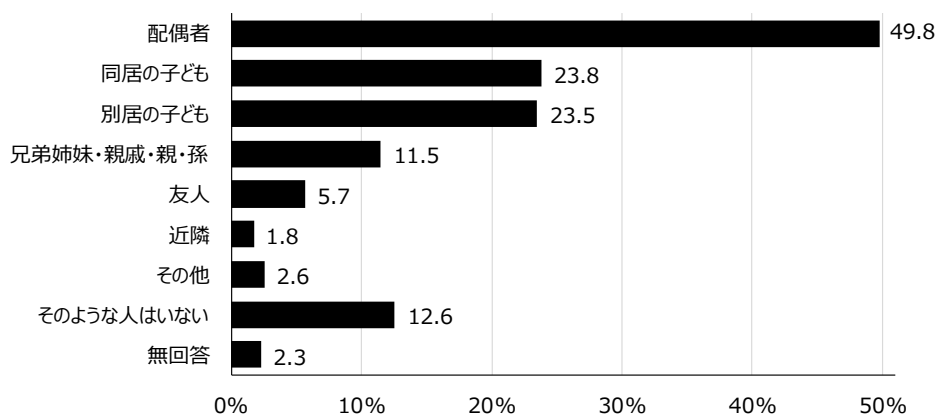
図表 2-87 家族構成、要介護度別の心配事や愚痴を聞いてあげる人

	回答者数	配偶者	同居の子ども	別居の子ども	親兄弟・姉妹・親戚・孫	近隣	友人	その他	いらない	そのような人は	無回答
全体	2,914	43.1	15.8	22.3	27.3	10.8	44.9	2.2	9.4	2.9	(%)
家族構成	一人暮らし	800	1.6	1.3	19.0	30.0	13.6	53.0	3.1	20.1	4.0
	夫婦二人暮らし(配偶者65歳以上)	970	76.0	3.1	28.7	21.0	9.0	38.0	0.8	4.5	2.0
	夫婦二人暮らし(配偶者64歳以下)	103	80.6	10.7	18.4	26.2	8.7	43.7	2.9	3.9	1.9
	息子・娘との2世帯	432	44.0	48.8	20.1	24.5	11.1	42.8	1.9	7.2	3.5
	その他	541	38.8	34.8	18.5	37.3	10.7	47.0	3.0	4.8	2.0
要介護度	一般高齢者	2,514	46.1	16.5	22.6	27.6	11.2	45.3	2.2	9.0	2.4
	総合事業対象者	36	38.9	16.7	13.9	22.2	5.6	47.2	2.8	11.1	0.0
	要支援1	107	23.4	11.2	23.4	30.8	7.5	37.4	0.0	12.1	4.7
	要支援2	98	19.4	11.2	15.3	20.4	7.1	34.7	2.0	16.3	9.2

- ③ あなたが病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人はどなたですか。（あてはまるものすべてに○）

「配偶者」が49.8%と最多。次いで「同居の子ども」(23.8%)、「別居の子ども」が(23.5%)と続く。

図表 2-88 病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人(n=2,914)



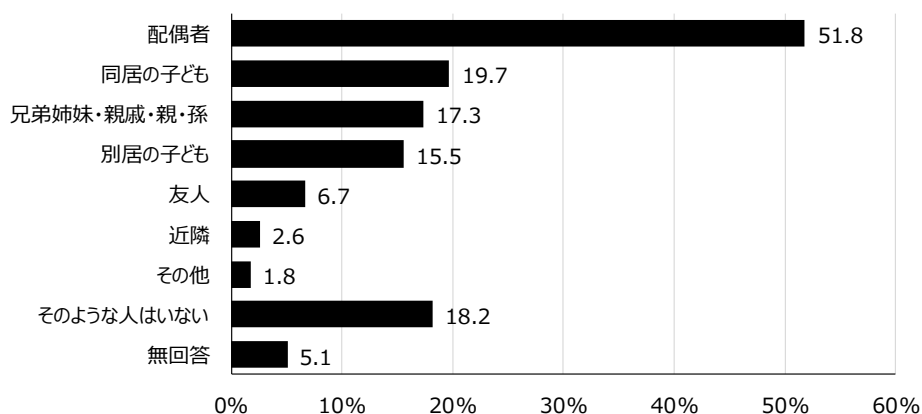
図表 2-89 家族構成、要介護度別の
病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人

		回答者数	配偶者	同居の子ども	別居の子ども	親戚・兄弟・姉妹・親・孫	近隣	友人	その他	いそのような人は	無回答
全体		2,914	49.8	23.8	23.5	11.5	1.8	5.7	2.6	12.6	2.3
家族構成	一人暮らし	800	2.1	1.9	30.1	20.4	3.3	13.0	4.4	35.9	3.4
	夫婦二人暮らし(配偶者65歳以上)	970	88.6	4.3	26.6	5.4	1.0	2.0	1.2	2.5	1.6
	夫婦二人暮らし(配偶者64歳以下)	103	94.2	11.7	10.7	3.9	0.0	1.0	3.9	1.0	1.0
	息子・娘との2世帯	432	47.5	73.8	16.2	6.0	2.1	3.2	1.4	2.5	2.5
	その他	541	45.5	54.0	15.3	15.3	1.1	4.3	2.4	6.7	1.7
要介護度	一般高齢者	2,514	53.2	24.3	22.6	10.8	1.8	5.5	2.2	12.2	2.0
	総合事業対象者	36	38.9	16.7	19.4	19.4	2.8	22.2	2.8	13.9	0.0
	要支援1	107	24.3	21.5	30.8	21.5	0.9	3.7	7.5	20.6	1.9
	要支援2	98	25.5	20.4	27.6	14.3	1.0	3.1	4.1	12.2	6.1

- ④ 反対に、看病や世話をしてあげる人はどなたですか。(あてはまるものすべてに○)

「配偶者」が51.8%と最多。次いで「同居の子ども」(19.7%)、「そのような人はいない」(18.2%)となっています。

図表 2-90 看病や世話をしてあげる人(n=2,914)



図表 2-91 家族構成、要介護度別の看病や世話をしてあげる人

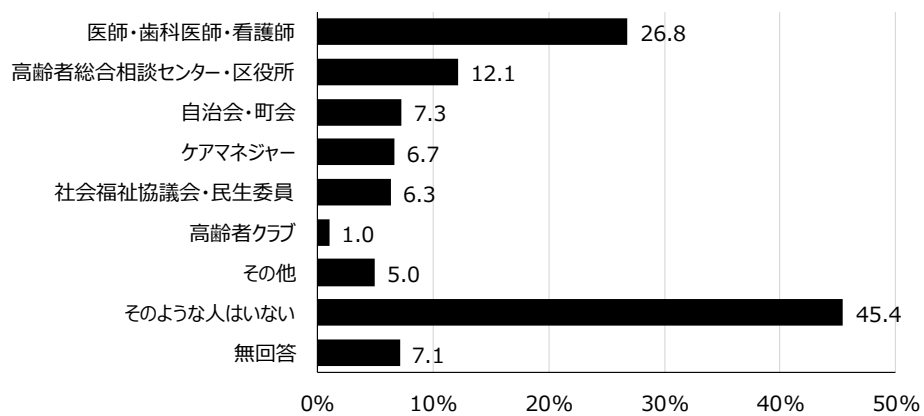
	回答者数	配偶者	同居の子ども	別居の子ども	親戚・兄弟・姉妹・親・孫	近隣	友人	その他	いらない	そのような人は	無回答
全体	2,914	51.8	19.7	15.5	17.3	2.6	6.7	1.8	18.2	5.1	(%)
家族構成											
一人暮らし	800	2.5	1.4	16.3	20.6	4.1	13.3	1.6	44.9	9.1	
夫婦二人暮らし(配偶者65歳以上)	970	91.4	3.5	19.6	12.4	2.2	3.7	0.4	4.0	2.4	
夫婦二人暮らし(配偶者64歳以下)	103	94.2	10.7	12.6	15.5	1.0	2.9	1.0	0.0	3.9	
息子・娘との2世帯	432	51.6	57.2	10.9	12.7	2.8	4.4	1.2	13.2	5.1	
その他	541	47.1	48.6	12.0	25.5	1.7	5.0	4.8	10.5	3.7	
要介護度											
一般高齢者	2,514	55.0	21.1	16.0	18.1	2.7	6.4	1.7	16.5	3.9	
総合事業対象者	36	41.7	16.7	11.1	16.7	5.6	22.2	0.0	27.8	2.8	
要支援1	107	29.9	11.2	14.0	11.2	0.9	5.6	2.8	32.7	12.1	
要支援2	98	26.5	9.2	9.2	5.1	2.0	4.1	4.1	29.6	20.4	

(2) 何かあった時の相談先

問28. あなたの、家族や友人・知人以外で、何かあった時の相談先を教えてください。
(あてはまるものすべてに○)

**「そのような人はいない」が45.4%と最多。次いで「医師・歯科医師・看護師」
(26.8%)、「高齢者総合相談センター・区役所」(12.1%)の順。**

図表 2-92 家族や友人・知人以外の何かあった時の相談先 (n=2,914)



性・年齢別でみると、“男性・90歳以上”及び、“女性・80歳～89歳”では、「医師・歯科医師・看護師」が最も高くなっています。上記以外では、「そのような人はいない」が最も高くなっています。

要介護度別でみると、“要支援1”“要支援2”では、「ケアマネジャー」が最も高くなっています。上記以外では、「そのような人はいない」が最も高くなっています。

介護保険サービスの利用状況別でみると、“現在、利用している”“過去に利用したことはある”では、「ケアマネジャー」が最も高くなっています。上記以外では、「そのような人はいない」が最も高くなっています。

図表 2-93 性・年齢、居住地、要介護度、介護保険サービスの利用別の
家族や友人・知人以外の何かあった時の相談先

		回答者数	自治会・町会	高齢者クラブ	民生委員 福祉協議会・	ケアマネジャー	医師・歯科 看護師・	区役所 高齢者総合 相談センター・	その他	そのような人はいない	無回答
全体		2,914	7.3	1.0	6.3	6.7	26.8	12.1	5.0	45.4	7.1
男性	男性計	1,196	8.3	0.9	5.3	5.1	26.4	10.4	5.4	49.7	5.5
	65歳～69歳	343	7.3	0.0	3.2	3.8	23.9	6.4	6.7	58.3	2.6
	70歳～74歳	323	6.8	0.6	6.5	4.3	21.4	9.6	5.3	54.8	3.7
	75歳～79歳	248	12.1	0.8	6.5	3.2	28.6	12.9	3.6	43.1	8.1
	80歳～84歳	155	8.4	1.9	5.8	7.1	34.8	11.0	6.5	39.4	7.7
	85歳～89歳	94	5.3	2.1	5.3	9.6	28.7	17.0	4.3	39.4	11.7
	90歳以上	29	13.8	6.9	3.4	20.7	41.4	20.7	3.4	31.0	6.9
女性	女性計	1,613	6.6	1.2	7.2	8.0	27.6	13.5	4.7	42.2	7.8
	65歳～69歳	361	6.1	0.3	5.8	3.3	22.4	15.2	4.4	55.4	3.9
	70歳～74歳	382	4.5	0.5	4.2	5.8	26.4	11.3	3.4	47.9	6.8
	75歳～79歳	392	7.9	1.8	7.7	6.1	27.8	13.5	5.4	37.8	8.9
	80歳～84歳	268	9.0	2.2	11.2	11.2	31.7	17.2	6.3	28.4	10.4
	85歳～89歳	148	5.4	1.4	8.1	18.9	35.8	10.8	4.1	34.5	10.8
	90歳以上	60	6.7	1.7	11.7	21.7	25.0	8.3	5.0	36.7	11.7
居住地	東部地区	732	7.2	1.0	5.9	6.1	27.0	12.7	6.0	45.8	6.4
	北部地区	661	6.7	0.6	6.4	5.6	24.1	12.3	4.2	48.7	7.1
	南部地区	624	9.0	1.3	7.2	8.2	30.9	12.3	4.8	41.8	5.9
	西部地区	840	6.5	1.3	6.1	6.9	25.8	11.8	4.9	45.5	7.9
要介護度	一般高齢者	2,514	7.6	0.8	6.0	3.6	26.9	12.0	4.9	47.8	6.4
	総合事業対象者	36	5.6	0.0	5.6	19.4	25.0	16.7	8.3	36.1	11.1
	要支援1	107	3.7	3.7	15.9	40.2	29.0	19.6	5.6	21.5	5.6
	要支援2	98	6.1	3.1	5.1	46.9	30.6	12.2	6.1	20.4	10.2
介護保険サービスの利用	現在、利用している	119	5.0	4.2	10.1	59.7	33.6	19.3	5.9	11.8	8.4
	過去に利用したことはある	24	0.0	0.0	4.2	33.3	25.0	8.3	8.3	29.2	4.2
	一度も利用していない	57	7.0	1.8	12.3	14.0	26.3	14.0	5.3	36.8	8.8

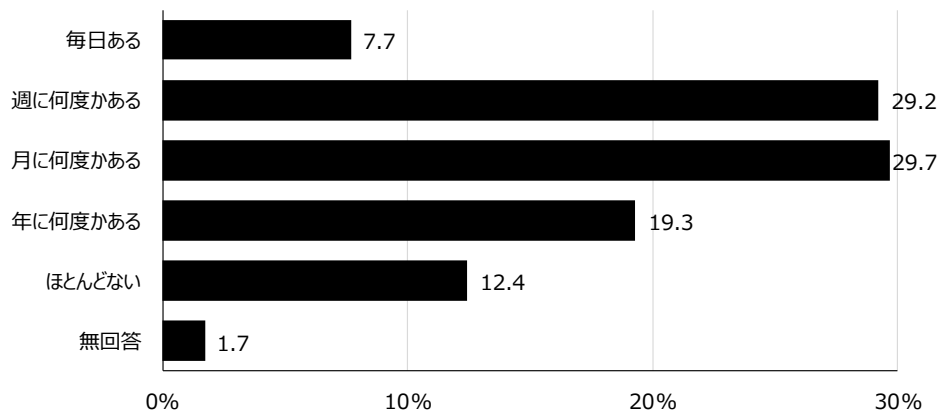
(%)

(3) 友人・知人と会う頻度

問29. あなたが、友人・知人と会う頻度はどれくらいですか。(ひとつだけ○)

「月に何度かある」が29.7%と最多。次いで「週に何度かある」(29.2%)、「年に何度かある」(19.3%)と続く。

図表 2-94 友人・知人と会う頻度 (n=2,914)



図表 2-95 性・年齢、居住地、家族構成、要介護度、幸福度、主観的健康感別の
友人・知人と会う頻度

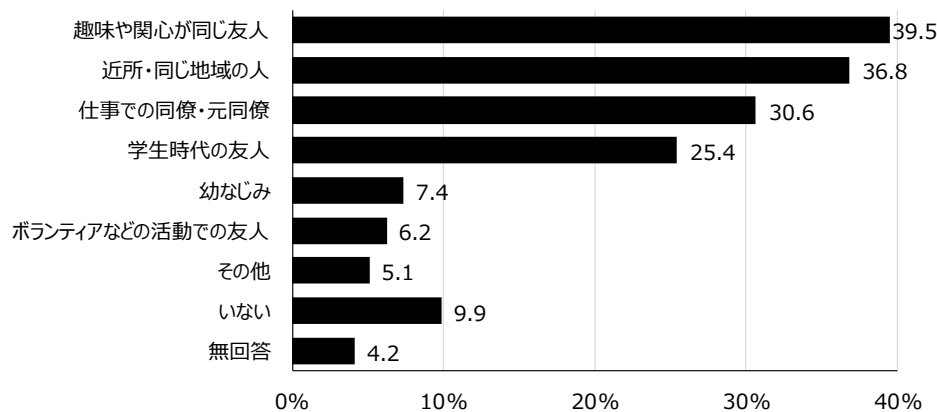
		回 答 者 数	毎 日 あ る	週 に 何 度 か あ る	月 に 何 度 か あ る	年 に 何 度 か あ る	ほ と ん ど な い	無 回 答	
全体		2,914	7.7	29.2	29.7	19.3	12.4	1.7	(%)
男 性	男性計	1,196	7.9	24.1	28.3	23.7	14.6	1.3	
	65歳～69歳	343	10.2	21.0	28.6	25.7	13.4	1.2	
	70歳～74歳	323	5.0	28.5	29.1	22.0	13.6	1.9	
	75歳～79歳	248	9.7	23.4	31.5	21.8	13.3	0.4	
	80歳～84歳	155	7.7	29.0	29.7	21.3	11.6	0.6	
	85歳～89歳	94	6.4	19.1	18.1	31.9	22.3	2.1	
	90歳以上	29	6.9	10.3	20.7	17.2	37.9	6.9	
	女性計	1,613	7.7	33.4	30.1	16.2	10.9	1.7	
女 性	65歳～69歳	361	6.9	29.4	33.0	19.7	9.4	1.7	
	70歳～74歳	382	7.3	36.1	31.7	17.5	6.3	1.0	
	75歳～79歳	392	7.7	37.0	31.9	14.0	8.7	0.8	
	80歳～84歳	268	10.8	34.7	26.9	14.6	10.1	3.0	
	85歳～89歳	148	5.4	31.8	27.7	11.5	20.9	2.7	
	90歳以上	60	6.7	15.0	11.7	20.0	43.3	3.3	
	女性計	1,613	7.7	33.4	30.1	16.2	10.9	1.7	
居 住 地	東部地区	732	8.1	28.6	29.2	20.2	12.2	1.8	
	北部地区	661	9.1	27.5	28.4	18.5	15.3	1.2	
	南部地区	624	7.4	29.2	30.6	19.9	11.4	1.6	
	西部地区	840	6.8	30.8	30.4	18.8	11.4	1.8	
家 族 構 成	一人暮らし	800	7.4	32.3	30.3	15.3	13.3	1.6	
	夫婦二人暮らし(配偶者65歳以上)	970	6.6	29.8	31.3	19.7	11.2	1.3	
	夫婦二人暮らし(配偶者64歳以下)	103	6.8	24.3	32.0	21.4	13.6	1.9	
	息子・娘との2世帯	432	10.0	25.5	27.8	20.6	14.1	2.1	
	その他	541	8.7	27.7	26.6	23.3	12.0	1.7	
要 介 護 度	一般高齢者	2,514	7.8	29.2	30.4	19.5	11.6	1.6	
	総合事業対象者	36	8.3	27.8	27.8	16.7	19.4	0.0	
	要支援1	107	7.5	22.4	28.0	20.6	19.6	1.9	
	要支援2	98	4.1	23.5	21.4	26.5	21.4	3.1	
幸 福 度	0～3点	135	5.2	11.1	25.2	22.2	36.3	0.0	
	4～6点	840	6.4	23.6	28.7	22.7	17.0	1.5	
	7点以上	1,870	8.3	33.0	30.7	17.7	8.6	1.7	
健 主 観 的	とてもよい	337	12.2	35.0	27.3	16.6	7.4	1.5	
	まあよい	1,873	7.5	30.3	31.9	19.8	9.2	1.3	
	あまりよくない	452	4.9	21.9	25.2	20.1	25.4	2.4	
	よくない	85	7.1	22.4	15.3	18.8	35.3	1.2	

(4) よく会う友人・知人との関係

問30. よく会う友人・知人はどんな関係の人ですか。(あてはまるものすべてに○)

「趣味や関心が同じ友人」が39.5%と最多。次いで「近所・同じ地域の人」(36.8%)、「仕事での同僚・元同僚」(30.6%)と続く。

図表 2-96 よく会う友人・知人 (n=2,914)



図表 2-97 性・年齢、要介護度別のよく会う友人・知人

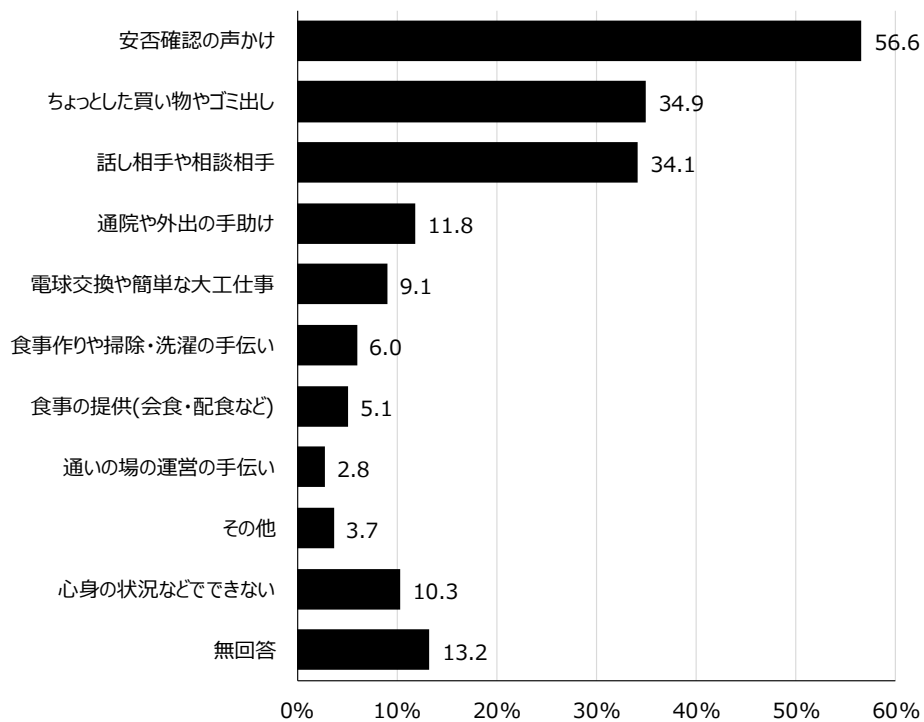
	回答者数	近所・同じ地域の人	幼なじみ	学生時代の友人	元同僚・仕事での同僚	趣味や関心が同じ友人	活動での友人・ボランティアなどの	その他	いない	無回答
全体	2,914	36.8	7.4	25.4	30.6	39.5	6.2	5.1	9.9	4.2 (%)
男性計	1,196	29.6	6.6	26.3	38.3	31.6	5.5	4.3	13.5	3.2
65歳～69歳	343	19.8	7.3	28.6	49.3	27.7	5.2	3.5	13.4	2.3
70歳～74歳	323	30.0	10.2	29.7	40.2	31.6	6.2	4.6	13.6	2.2
75歳～79歳	248	35.1	4.8	23.0	31.9	34.7	7.3	4.4	11.3	5.2
80歳～84歳	155	38.7	3.2	27.7	30.3	37.4	4.5	2.6	12.3	5.2
85歳～89歳	94	34.0	4.3	17.0	22.3	25.5	3.2	8.5	16.0	2.1
90歳以上	29	34.5	0.0	10.3	34.5	41.4	0.0	3.4	27.6	0.0
女性計	1,613	42.2	7.9	24.9	25.2	45.4	6.9	5.7	7.3	4.5
65歳～69歳	361	36.3	8.3	35.5	41.3	43.8	6.6	6.1	4.4	2.2
70歳～74歳	382	39.8	9.7	25.7	30.9	48.2	7.6	6.8	5.0	3.9
75歳～79歳	392	42.9	8.2	26.3	21.7	49.0	7.9	5.4	7.1	5.6
80歳～84歳	268	50.4	7.8	18.3	14.6	45.5	8.6	4.9	7.5	3.4
85歳～89歳	148	51.4	4.7	11.5	8.8	42.6	2.7	4.1	11.5	7.4
90歳以上	60	31.7	1.7	10.0	3.3	23.3	1.7	5.0	28.3	11.7
要介護度	2,514	36.2	7.5	26.5	32.5	40.3	6.5	4.9	9.4	3.8
一般高齢者	36	27.8	13.9	16.7	25.0	27.8	5.6	11.1	19.4	2.8
総合事業対象者	107	40.2	7.5	22.4	20.6	35.5	4.7	3.7	13.1	3.7
要支援1	98	40.8	1.0	14.3	10.2	24.5	3.1	10.2	17.3	8.2
要支援2										

(5) あなたができる手助け

問31. ご近所に手助けを必要とする方がいる場合に、あなたはどんな手助けができますか。(あてはまるものすべてに○)

「安否確認の声かけ」が56.6%と最多。次いで「ちょっとした買い物やゴミ出し」(34.9%)、「話し相手や相談相手」(34.1%)の順。

図表 2-98 ご近所への手助け (n=2,914)



図表 2-99 性・年齢、要介護度別のご近所への手助け

		回答者数	安否確認の声かけ	ゴミ出し	洗濯の手伝い	食事の提供 (会食・配食など)	通院や外出の手助け	簡単な大工仕事	電球交換や話し相手や相談相手	通いの場の運営の手伝い	その他	心身の状況などでできない	無回答
全体		2,914	56.6	34.9	6.0	5.1	11.8	9.1	34.1	2.8	3.7	10.3	13.2
男性	男性計	1,196	53.3	29.2	2.5	2.3	10.7	18.8	25.8	2.8	4.3	11.5	14.9
	65歳～69歳	343	58.3	37.0	5.5	4.1	13.1	25.4	27.4	2.9	5.8	9.3	10.2
	70歳～74歳	323	59.8	32.5	1.2	1.2	13.0	18.6	25.4	3.1	3.7	9.3	12.7
	75歳～79歳	248	52.0	28.2	2.0	2.8	10.5	18.1	29.0	3.2	2.8	10.9	16.9
	80歳～84歳	155	43.2	20.0	1.3	1.9	8.4	15.5	18.7	1.9	1.9	15.5	21.9
	85歳～89歳	94	37.2	8.5	0.0	0.0	2.1	5.3	23.4	2.1	6.4	19.1	22.3
	90歳以上	29	44.8	27.6	0.0	0.0	0.0	13.8	34.5	0.0	10.3	24.1	6.9
女性	女性計	1,613	59.8	39.4	8.6	7.3	12.9	1.9	41.2	2.9	3.2	9.4	11.1
	65歳～69歳	361	76.2	54.6	13.3	7.8	18.6	4.4	46.0	5.3	2.2	4.4	5.0
	70歳～74歳	382	67.3	47.9	10.5	8.4	18.6	2.6	45.8	3.4	3.4	4.7	7.6
	75歳～79歳	392	58.7	35.7	6.1	8.2	10.5	1.0	35.7	1.8	3.3	8.9	13.5
	80歳～84歳	268	50.0	29.9	6.0	5.6	7.8	0.0	44.0	1.5	3.4	10.1	14.2
	85歳～89歳	148	40.5	20.3	6.1	5.4	4.7	0.0	39.2	1.4	1.4	22.3	17.6
	90歳以上	60	15.0	8.3	1.7	3.3	1.7	1.7	11.7	3.3	10.0	38.3	25.0
要介護度	一般高齢者	2,514	59.8	37.0	6.1	5.4	12.7	9.8	35.4	3.0	3.4	8.4	12.7
	総合事業対象者	36	36.1	33.3	2.8	0.0	5.6	11.1	36.1	2.8	11.1	11.1	8.3
	要支援1	107	36.4	11.2	1.9	3.7	4.7	1.9	23.4	0.0	1.9	33.6	15.0
	要支援2	98	30.6	10.2	3.1	3.1	2.0	2.0	24.5	2.0	6.1	31.6	14.3

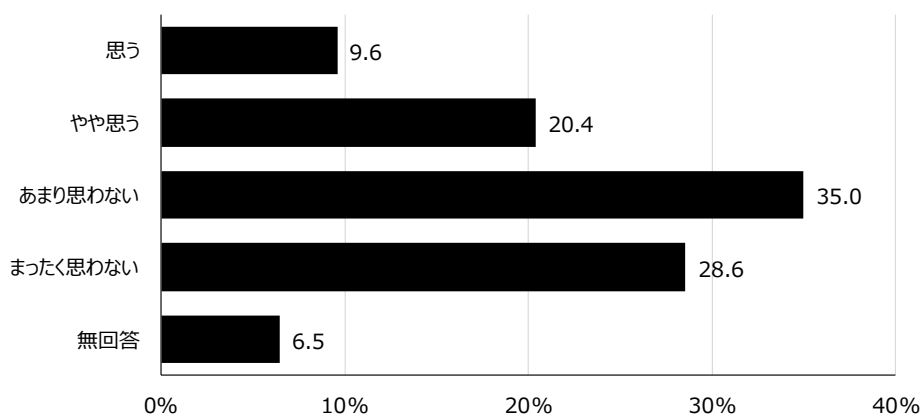
(%)

(6) 地域の人からの何らかの期待の有無

問32. あなたは、お住いの地域の人から何らかの役割を期待されたり、頼りにされたりしていると思いますか。自分なりにできること、会・グループでの役割、隣近所のちょっとしたこと、お手伝いやお願い事などを含みます。(ひとつだけ○)

「あまり思わない」が35.0%と最多。次いで「まったく思わない」(28.6%)、「やや思う」(20.4%)の順。

図表 2-100 役割を期待されたり、頼りにされているか (n=2,914)

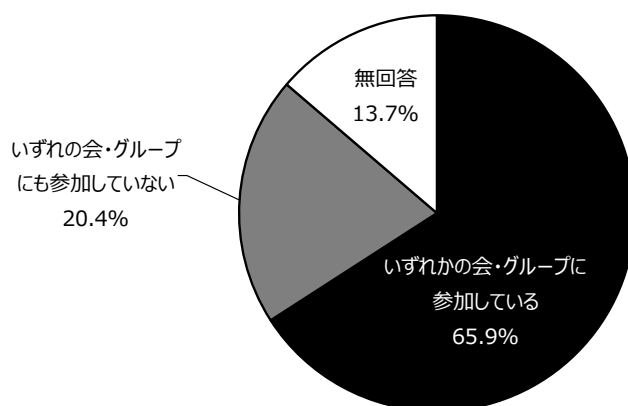


(7) 会・グループへの参加の頻度

問33. あなたは、以下のような会・グループなどにどのくらいの頻度で参加していますか。(それぞれ、ひとつだけ○)

65.9%がいずれかの会・グループに参加している。

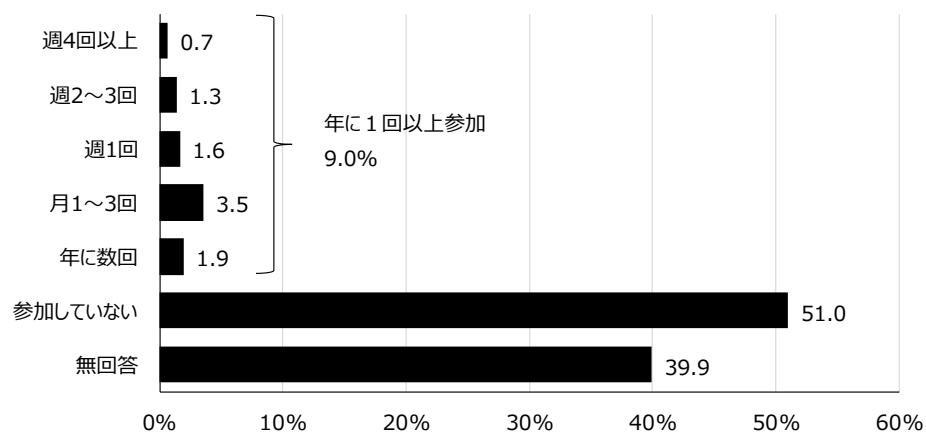
図表 2-101 いずれかの会・グループへの参加頻度 (n=2,914)



① ボランティアのグループ

9.0%が『年に1回以上』参加している。

図表 2-102 ボランティアのグループへの参加頻度 (n=2,914)



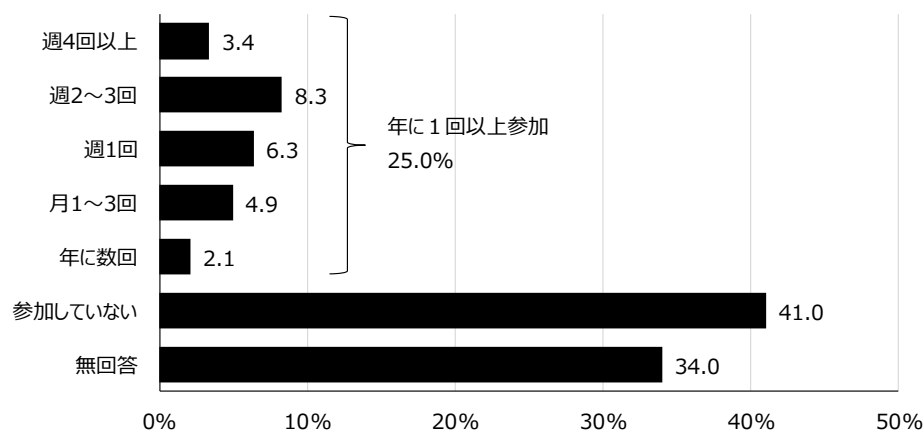
図表 2-103 性・年齢、居住地、要介護度、幸福度、主観的健康感別の
ボランティアのグループへの参加頻度

		回 答 者 数	週 4 回 以 上	週 2 ～ 3 回	週 1 回	月 1 ～ 3 回	年 に 数 回	参 加 し て い な い	無 回 答	
全体		2,914	0.7	1.3	1.6	3.5	1.9	51.0	39.9	(%)
男 性	男性計	1,196	0.6	1.5	1.3	2.7	1.5	57.8	34.6	
	65歳～69歳	343	0.6	0.3	1.5	2.3	2.0	72.3	21.0	
	70歳～74歳	323	0.6	1.5	1.9	3.4	0.9	62.2	29.4	
	75歳～79歳	248	1.2	2.4	1.2	2.4	1.6	50.8	40.3	
	80歳～84歳	155	0.0	1.9	0.6	3.2	1.3	42.6	50.3	
	85歳～89歳	94	0.0	3.2	1.1	1.1	2.1	38.3	54.3	
	90歳以上	29	0.0	0.0	0.0	3.4	0.0	48.3	48.3	
女 性	女性計	1,613	0.7	1.2	1.8	4.2	2.0	46.7	43.3	
	65歳～69歳	361	0.3	2.2	1.9	6.6	3.3	66.5	19.1	
	70歳～74歳	382	1.3	0.5	2.6	3.1	3.1	53.1	36.1	
	75歳～79歳	392	0.5	1.8	1.8	3.6	1.3	43.4	47.7	
	80歳～84歳	268	1.1	0.7	1.9	5.2	0.7	26.5	63.8	
	85歳～89歳	148	0.7	0.0	0.0	2.0	0.7	25.7	70.9	
	90歳以上	60	0.0	1.7	0.0	1.7	1.7	50.0	45.0	
居 住 地	東部地区	732	0.1	1.6	1.4	2.9	1.8	53.6	38.7	
	北部地区	661	0.5	1.1	1.2	3.0	2.0	54.0	38.3	
	南部地区	624	0.6	0.8	3.4	3.8	2.6	51.1	37.7	
	西部地区	840	1.3	1.7	0.8	4.3	1.2	47.3	43.5	
要 介 護 度	一般高齢者	2,514	0.8	1.4	1.7	3.7	2.0	53.2	37.4	
	総合事業対象者	36	0.0	0.0	0.0	5.6	2.8	41.7	50.0	
	要支援1	107	0.0	0.9	0.9	3.7	0.9	40.2	53.3	
	要支援2	98	0.0	1.0	2.0	1.0	0.0	38.8	57.1	
幸 福 度	0～3点	135	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	60.7	39.3	
	4～6点	840	0.4	1.0	1.7	2.0	1.9	53.6	39.5	
	7点以上	1,870	0.9	1.6	1.7	4.6	2.1	49.8	39.4	
健 主 観 感 的	とてもよい	337	0.6	1.8	2.7	5.0	2.7	45.4	41.8	
	まあよい	1,873	0.8	1.6	1.5	3.9	1.9	51.7	38.6	
	あまりよくない	452	0.4	0.2	0.9	1.3	1.5	57.5	38.1	
	よくない	85	0.0	0.0	1.2	1.2	1.2	55.3	41.2	

② スポーツ関係のグループやクラブ

25.0%が『年に1回以上』参加している。

図表 2-104 スポーツ関係のグループやクラブへの参加頻度 (n=2,914)



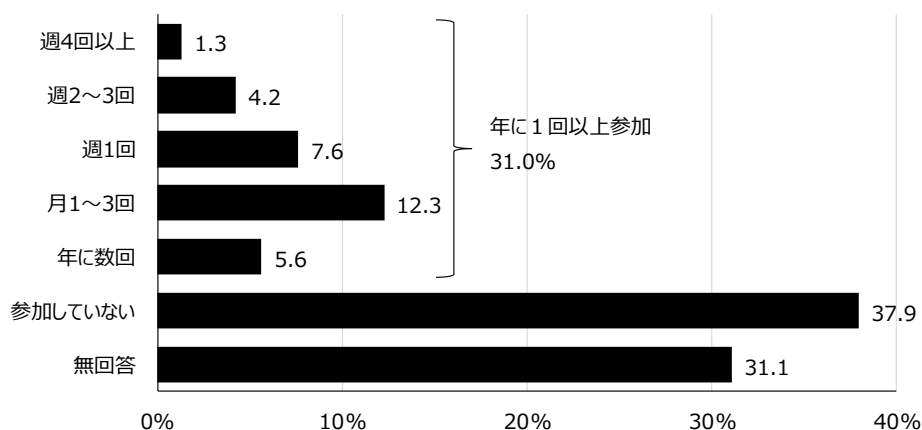
図表 2-105 性・年齢、居住地、要介護度、幸福度、主観的健康感別の
スポーツ関係のグループやクラブへの参加頻度

		回答者数	週4回以上	週2〜3回	週1回	月1〜3回	年に数回	参加していない	無回答	
全体		2,914	3.4	8.3	6.3	4.9	2.1	41.0	34.0	(%)
男性	男性計	1,196	2.8	4.3	4.9	5.9	3.8	48.3	29.8	
	65歳〜69歳	343	1.7	5.0	6.1	5.5	4.4	59.8	17.5	
	70歳〜74歳	323	2.8	4.3	6.2	5.3	3.4	51.1	26.9	
	75歳〜79歳	248	4.4	3.6	3.6	10.1	3.2	43.5	31.5	
	80歳〜84歳	155	3.2	5.8	5.2	4.5	6.5	33.5	41.3	
	85歳〜89歳	94	2.1	1.1	0.0	3.2	2.1	37.2	54.3	
	90歳以上	29	0.0	6.9	3.4	0.0	0.0	44.8	44.8	
女性	女性計	1,613	3.8	11.5	7.6	4.3	0.9	36.0	35.8	
	65歳〜69歳	361	4.2	12.7	10.2	5.3	1.4	49.6	16.6	
	70歳〜74歳	382	5.5	14.9	7.9	4.5	1.0	40.3	25.9	
	75歳〜79歳	392	4.1	11.7	9.2	4.3	0.5	31.4	38.8	
	80歳〜84歳	268	3.0	7.8	5.6	4.5	1.1	22.0	56.0	
	85歳〜89歳	148	1.4	8.1	2.7	3.4	0.0	23.6	60.8	
	90歳以上	60	0.0	5.0	1.7	0.0	0.0	50.0	43.3	
居住地	東部地区	732	3.1	9.3	6.6	4.4	2.7	43.0	30.9	
	北部地区	661	3.2	7.1	7.0	3.5	2.7	43.0	33.6	
	南部地区	624	3.4	9.0	6.9	5.3	1.8	41.3	32.4	
	西部地区	840	3.7	7.9	5.6	6.3	1.3	38.2	37.0	
要介護度	一般高齢者	2,514	3.5	8.6	6.9	5.3	2.4	42.2	31.2	
	総合事業対象者	36	0.0	2.8	5.6	5.6	0.0	36.1	50.0	
	要支援1	107	0.9	8.4	0.9	3.7	0.0	38.3	47.7	
	要支援2	98	1.0	3.1	1.0	1.0	0.0	37.8	56.1	
幸福度	0〜3点	135	0.0	3.0	0.7	2.2	0.0	56.3	37.8	
	4〜6点	840	2.1	5.7	4.8	3.3	1.4	46.4	36.2	
	7点以上	1,870	4.3	10.0	7.5	5.9	2.6	37.8	31.8	
主観的健康感	とてもよい	337	7.7	13.1	9.2	3.6	4.5	29.1	32.9	
	まあよい	1,873	2.9	8.6	7.1	5.7	2.1	41.1	32.4	
	あまりよくない	452	3.1	4.4	3.5	2.9	0.9	51.5	33.6	
	よくない	85	0.0	7.1	1.2	3.5	0.0	50.6	37.6	

③ 趣味関係のグループ

31.0%が『年に1回以上』参加している。

図表 2-106 趣味関係のグループへの参加頻度 (n=2, 914)



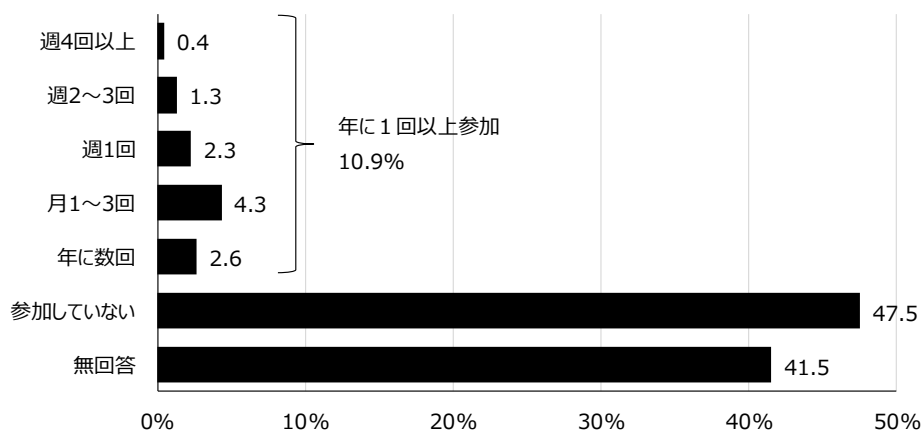
図表 2-107 性・年齢、居住地、要介護度、幸福度、主観的健康感別の趣味関係のグループへの参加頻度

		回答者数	週4回以上	週2〜3回	週1回	月1〜3回	年に数回	参加していない	無回答	
全体		2,914	1.3	4.2	7.6	12.3	5.6	37.9	31.1	(%)
男性	男性計	1,196	0.9	2.4	5.2	9.9	7.7	45.9	27.9	
	65歳〜69歳	343	0.9	1.5	4.7	7.0	9.3	56.9	19.8	
	70歳〜74歳	323	0.6	2.2	6.5	9.9	9.0	47.4	24.5	
	75歳〜79歳	248	2.0	3.6	4.8	12.5	4.0	41.9	31.0	
	80歳〜84歳	155	0.6	4.5	2.6	12.9	8.4	36.1	34.8	
	85歳〜89歳	94	0.0	1.1	6.4	9.6	6.4	30.9	45.7	
	90歳以上	29	0.0	0.0	6.9	10.3	3.4	41.4	37.9	
女性	女性計	1,613	1.7	5.6	9.5	13.8	4.2	32.6	32.5	
	65歳〜69歳	361	1.4	2.5	8.3	16.3	6.4	48.2	16.9	
	70歳〜74歳	382	2.4	5.5	12.0	12.8	5.0	36.6	25.7	
	75歳〜79歳	392	1.3	6.9	10.2	16.8	3.1	26.3	35.5	
	80歳〜84歳	268	1.9	9.3	8.6	11.6	3.4	19.0	46.3	
	85歳〜89歳	148	0.7	4.1	8.8	11.5	2.0	19.6	53.4	
	90歳以上	60	3.3	3.3	3.3	1.7	3.3	46.7	38.3	
居住地	東部地区	732	1.5	3.3	8.2	11.6	6.6	39.2	29.6	
	北部地区	661	1.4	5.4	7.6	10.1	5.3	40.8	29.3	
	南部地区	624	1.3	4.3	9.0	13.1	5.8	36.4	30.1	
	西部地区	840	1.2	3.9	6.4	13.3	5.1	36.5	33.5	
要介護度	一般高齢者	2,514	1.4	4.1	8.0	12.6	5.9	39.2	28.8	
	総合事業対象者	36	0.0	0.0	5.6	8.3	8.3	36.1	41.7	
	要支援1	107	0.9	6.5	5.6	9.3	7.5	29.9	40.2	
	要支援2	98	0.0	4.1	4.1	9.2	0.0	34.7	48.0	
幸福度	0〜3点	135	0.0	0.0	0.0	2.2	3.7	54.1	40.0	
	4〜6点	840	0.8	3.2	5.0	9.2	6.0	43.6	32.3	
	7点以上	1,870	1.7	5.0	9.6	14.6	5.8	34.6	28.8	
主観的健康感	とてもよい	337	0.6	4.2	10.4	14.8	8.0	29.4	32.6	
	まあよい	1,873	1.5	4.6	8.2	13.3	5.5	38.1	28.8	
	あまりよくない	452	1.5	2.7	4.6	8.2	5.3	47.1	30.5	
	よくない	85	1.2	5.9	1.2	3.5	4.7	45.9	37.6	

④ 学習・教養サークル

10.9%が『年に1回以上』参加している。

図表 2-108 学習・教養サークルへの参加頻度 (n=2, 914)



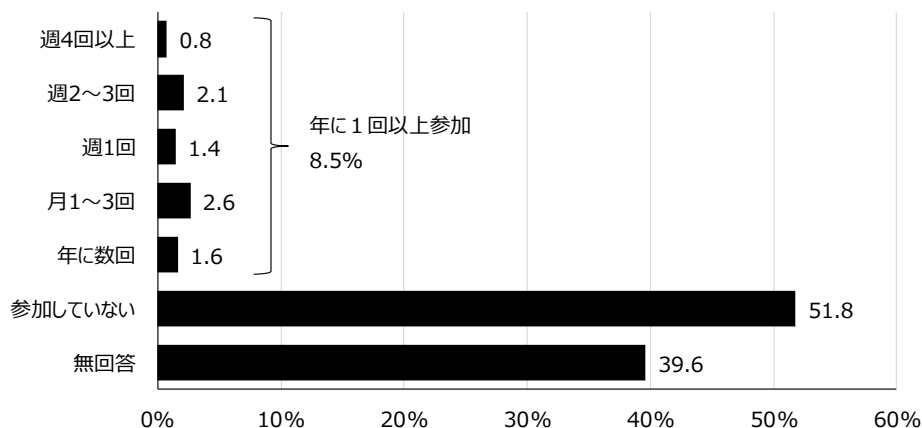
図表 2-109 性・年齢、居住地、要介護度、幸福度、主観的健康感別の学習・教養サークルへの参加頻度

		回答者数	週4回以上	週2～3回	週1回	月1～3回	年に数回	参加していない	無回答	
全体		2,914	0.4	1.3	2.3	4.3	2.6	47.5	41.5	(%)
男性	男性計	1,196	0.2	0.9	0.9	2.8	2.7	55.3	37.2	
	65歳～69歳	343	0.0	1.2	0.9	2.3	2.6	68.8	24.2	
	70歳～74歳	323	0.3	1.2	0.9	4.0	3.4	56.3	33.7	
	75歳～79歳	248	0.4	0.4	0.4	2.0	2.8	52.0	41.9	
	80歳～84歳	155	0.0	1.3	1.9	3.2	2.6	41.9	49.0	
	85歳～89歳	94	0.0	0.0	0.0	3.2	1.1	38.3	57.4	
	90歳以上	29	0.0	0.0	3.4	0.0	0.0	44.8	51.7	
女性	女性計	1,613	0.7	1.5	3.1	5.2	2.5	42.7	44.3	
	65歳～69歳	361	0.3	1.4	3.0	6.9	3.0	62.6	22.7	
	70歳～74歳	382	0.5	1.8	5.2	3.4	4.7	47.4	36.9	
	75歳～79歳	392	1.0	1.8	1.5	7.1	1.8	37.8	49.0	
	80歳～84歳	268	1.1	1.1	2.6	5.2	1.1	24.6	64.2	
	85歳～89歳	148	0.0	1.4	3.4	2.7	0.7	25.0	66.9	
	90歳以上	60	1.7	1.7	1.7	0.0	0.0	50.0	45.0	
居住地	東部地区	732	0.8	1.4	1.5	4.0	2.9	49.7	39.8	
	北部地区	661	0.2	1.1	2.1	4.1	3.0	50.1	39.5	
	南部地区	624	0.3	0.5	2.1	5.1	2.7	48.7	40.5	
	西部地区	840	0.5	2.0	2.9	4.2	1.9	43.9	44.6	
要介護度	一般高齢者	2,514	0.5	1.3	2.3	4.4	2.7	49.7	39.0	
	総合事業対象者	36	0.0	0.0	0.0	5.6	0.0	41.7	52.8	
	要支援1	107	0.9	3.7	3.7	4.7	1.9	35.5	49.5	
	要支援2	98	0.0	0.0	0.0	1.0	2.0	38.8	58.2	
幸福度	0～3点	135	1.5	0.7	0.0	1.5	0.7	57.0	38.5	
	4～6点	840	0.6	1.8	1.0	2.0	1.4	54.0	39.2	
	7点以上	1,870	0.7	2.4	1.7	3.0	1.8	51.1	39.1	
主観的健康感	とてもよい	337	1.2	0.6	3.0	8.3	3.0	41.2	42.7	
	まあよい	1,873	0.5	1.5	2.4	4.5	3.0	47.7	40.4	
	あまりよくない	452	0.0	0.7	1.5	2.4	1.5	55.5	38.3	
	よくない	85	0.0	0.0	1.2	1.2	1.2	55.3	41.2	

⑤ 介護予防のための通いの場（としまる体操グループ・介護予防サロン・区民ひろばなど）

8.5%が『年に1回以上』参加している。

図表 2-110 介護予防のための通いの場への参加頻度 (n=2,914)



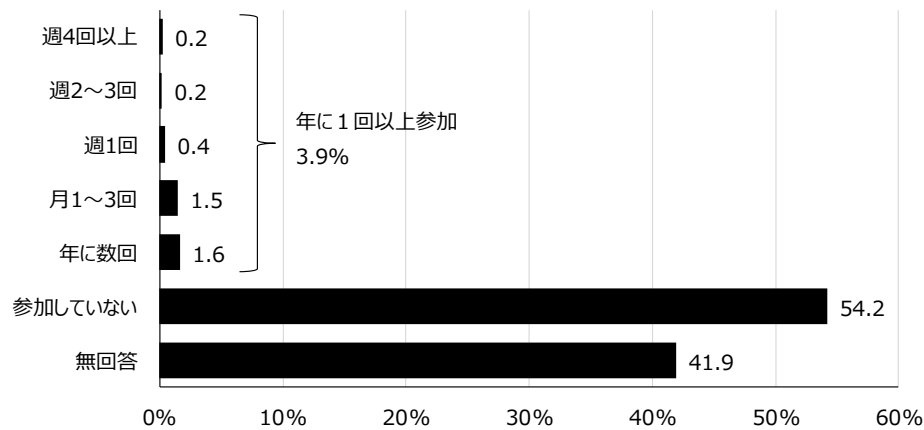
図表 2-111 性・年齢、居住地、要介護度、幸福度、主観的健康感別の
介護予防のための通いの場への参加頻度

		回答者数	週4回以上	週2～3回	週1回	月1～3回	年に数回	参加していない	無回答	
全体		2,914	0.8	2.1	1.4	2.6	1.6	51.8	39.6	(%)
男性	男性計	1,196	0.2	1.2	0.7	1.3	1.3	59.4	36.0	
	65歳～69歳	343	0.0	0.0	0.3	0.3	1.2	74.9	23.3	
	70歳～74歳	323	0.0	0.3	0.9	0.6	1.5	64.4	32.2	
	75歳～79歳	248	0.0	1.6	1.2	2.4	0.8	52.4	41.5	
	80歳～84歳	155	0.0	3.9	0.6	1.9	1.9	42.6	49.0	
	85歳～89歳	94	1.1	1.1	0.0	2.1	0.0	40.4	55.3	
	90歳以上	29	3.4	6.9	0.0	6.9	3.4	41.4	37.9	
女性	女性計	1,613	1.2	2.9	2.0	3.6	2.0	46.8	41.5	
	65歳～69歳	361	0.0	1.1	0.3	1.7	2.5	72.3	22.2	
	70歳～74歳	382	1.3	1.6	0.8	2.9	1.0	53.1	39.3	
	75歳～79歳	392	0.8	2.3	2.3	5.4	3.3	41.6	44.4	
	80歳～84歳	268	3.0	4.9	3.7	3.7	1.5	25.0	58.2	
	85歳～89歳	148	1.4	8.8	4.1	6.1	2.0	21.6	56.1	
	90歳以上	60	3.3	1.7	5.0	1.7	0.0	46.7	41.7	
居住地	東部地区	732	0.8	1.5	1.4	2.6	1.8	54.4	37.6	
	北部地区	661	0.3	2.1	1.5	2.4	1.8	54.5	37.4	
	南部地区	624	1.3	2.9	1.1	2.6	2.1	52.2	37.8	
	西部地区	840	0.7	2.0	1.5	3.1	1.2	48.1	43.3	
要介護度	一般高齢者	2,514	0.5	1.5	1.0	2.5	1.8	54.6	38.1	
	総合事業対象者	36	0.0	2.8	0.0	2.8	2.8	41.7	50.0	
	要支援1	107	2.8	1.9	12.1	5.6	0.9	35.5	41.1	
	要支援2	98	4.1	17.3	2.0	4.1	1.0	35.7	35.7	
幸福度	0～3点	135	1.5	0.7	0.0	1.5	0.7	57.0	38.5	
	4～6点	840	0.6	1.8	1.0	2.0	1.4	54.0	39.2	
	7点以上	1,870	0.7	2.4	1.7	3.0	1.8	51.1	39.1	
主観的健康感	とてもよい	337	0.9	0.0	1.5	2.7	2.1	49.3	43.6	
	まあよい	1,873	0.6	2.5	1.8	2.7	2.0	52.1	38.5	
	あまりよくない	452	1.1	2.0	0.7	2.4	0.9	58.2	34.7	
	よくない	85	1.2	4.7	1.2	3.5	0.0	49.4	40.0	

⑥ 高齢者クラブ

3.9%が『年に1回以上』参加している。

図表 2-112 高齢者クラブへの参加頻度 (n=2,914)



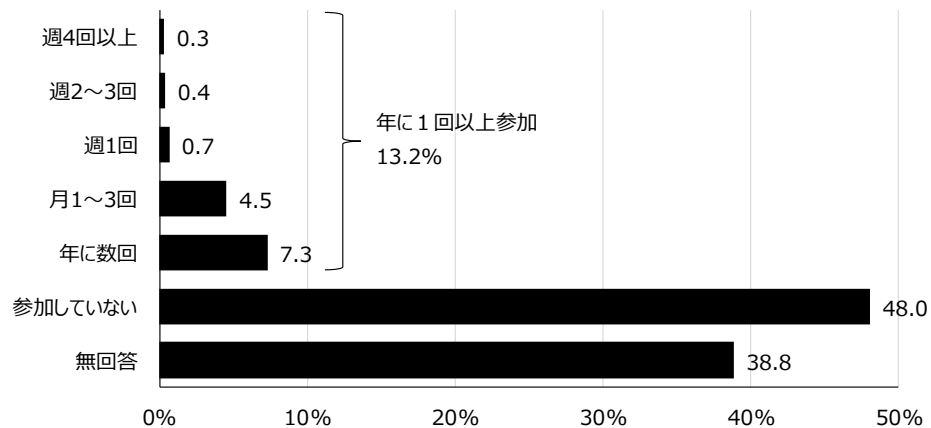
図表 2-113 性・年齢、居住地、要介護度、幸福度、主観的健康感別の
高齢者クラブへの参加頻度

		回答者数	週4回以上	週2～3回	週1回	月1～3回	年に数回	参加していない	無回答	
全体		2,914	0.2	0.2	0.4	1.5	1.6	54.2	41.9	(%)
男性	男性計	1,196	0.3	0.1	0.2	1.2	1.8	59.9	36.5	
	65歳～69歳	343	0.0	0.0	0.0	0.3	0.9	74.9	23.9	
	70歳～74歳	323	0.3	0.0	0.0	1.2	1.2	65.6	31.6	
	75歳～79歳	248	1.2	0.0	0.0	0.8	1.6	54.0	42.3	
	80歳～84歳	155	0.0	0.6	0.6	1.9	3.2	42.6	51.0	
	85歳～89歳	94	0.0	0.0	1.1	3.2	4.3	38.3	53.2	
	90歳以上	29	0.0	0.0	0.0	3.4	3.4	41.4	51.7	
女性	女性計	1,613	0.2	0.2	0.6	1.7	1.6	50.7	44.9	
	65歳～69歳	361	0.0	0.3	0.6	0.8	0.8	74.8	22.7	
	70歳～74歳	382	0.0	0.0	0.8	1.0	1.3	56.0	40.8	
	75歳～79歳	392	0.3	0.5	0.5	1.5	1.3	47.7	48.2	
	80歳～84歳	268	0.0	0.0	0.7	4.1	3.0	29.1	63.1	
	85歳～89歳	148	0.7	0.0	0.7	2.0	2.7	24.3	69.6	
	90歳以上	60	1.7	1.7	0.0	1.7	1.7	51.7	41.7	
居住地	東部地区	732	0.3	0.1	0.0	0.8	1.4	57.0	40.4	
	北部地区	661	0.0	0.2	0.9	1.7	1.7	55.4	40.2	
	南部地区	624	0.5	0.2	0.6	1.6	2.4	55.0	39.7	
	西部地区	840	0.2	0.2	0.2	1.9	1.4	51.1	44.9	
要介護度	一般高齢者	2,514	0.3	0.1	0.4	1.4	1.6	56.5	39.7	
	総合事業対象者	36	0.0	2.8	0.0	0.0	2.8	47.2	47.2	
	要支援1	107	0.0	0.9	0.9	4.7	1.9	42.1	49.5	
	要支援2	98	0.0	1.0	0.0	2.0	1.0	39.8	56.1	
幸福度	0～3点	135	0.7	0.7	0.0	0.0	1.5	58.5	38.5	
	4～6点	840	0.2	0.0	0.4	1.5	1.8	54.8	41.3	
	7点以上	1,870	0.2	0.2	0.4	1.6	1.7	54.2	41.7	
主観的健康感	とてもよい	337	0.0	0.9	0.0	1.5	1.2	51.3	45.1	
	まあよい	1,873	0.3	0.1	0.4	1.7	1.9	54.7	41.0	
	あまりよくない	452	0.2	0.0	0.7	0.7	1.5	59.5	37.4	
	よくない	85	0.0	0.0	0.0	2.4	0.0	56.5	41.2	

⑦ 町会・自治会

13.2%が『年に1回以上』参加している。

図表 2-114 町会・自治会への参加頻度 (n=2,914)



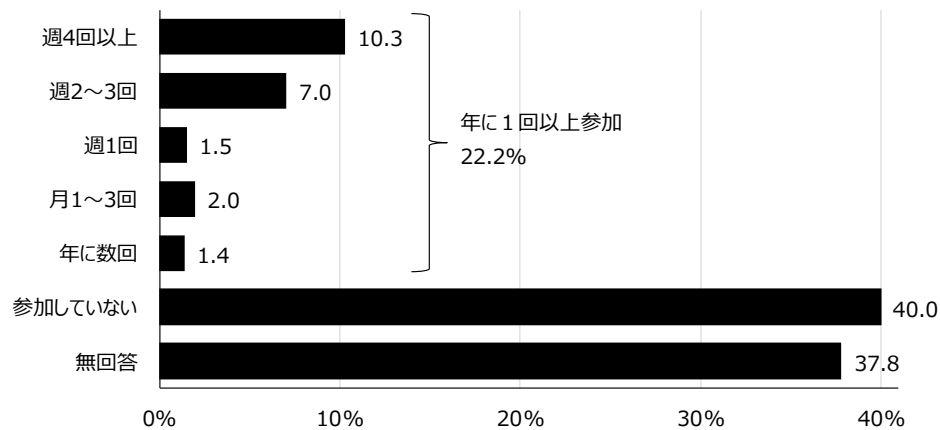
図表 2-115 性・年齢、居住地、要介護度、幸福度、主観的健康感別の町会・自治会への参加頻度

		回答者数	週4回以上	週2〜3回	週1回	月1〜3回	年に数回	参加していない	無回答	
全体		2,914	0.3	0.4	0.7	4.5	7.3	48.0	38.8	(%)
男性	男性計	1,196	0.4	0.4	0.8	5.1	8.6	51.8	32.9	
	65歳〜69歳	343	0.3	0.0	1.2	3.5	9.0	65.6	20.4	
	70歳〜74歳	323	0.9	0.3	0.3	7.1	8.0	55.4	27.9	
	75歳〜79歳	248	0.4	0.8	1.2	5.6	10.1	44.4	37.5	
	80歳〜84歳	155	0.0	1.3	0.6	5.2	7.7	38.7	46.5	
	85歳〜89歳	94	0.0	0.0	0.0	4.3	6.4	36.2	53.2	
	90歳以上	29	0.0	0.0	3.4	0.0	10.3	37.9	48.3	
	女性計	1,613	0.2	0.4	0.5	4.2	6.4	45.9	42.3	
女性	65歳〜69歳	361	0.0	0.6	0.0	4.4	6.9	66.5	21.6	
	70歳〜74歳	382	0.5	0.0	0.5	3.4	6.5	51.3	37.7	
	75歳〜79歳	392	0.3	0.5	0.8	5.4	7.7	42.1	43.4	
	80歳〜84歳	268	0.4	0.7	0.7	5.2	6.3	26.5	60.1	
	85歳〜89歳	148	0.0	0.0	0.7	2.7	3.4	25.0	68.2	
	90歳以上	60	0.0	0.0	0.0	0.0	3.3	50.0	46.7	
	東部地区	732	0.4	0.4	1.0	4.1	8.9	48.6	36.6	
	北部地区	661	0.2	0.0	0.3	4.2	7.9	50.4	37.1	
居住地	南部地区	624	0.2	0.5	1.0	5.6	6.7	49.4	36.7	
	西部地区	840	0.5	0.6	0.4	4.4	6.1	45.5	42.6	
要介護度	一般高齢者	2,514	0.3	0.4	0.7	4.9	7.9	49.6	36.2	
	総合事業対象者	36	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	47.2	52.8	
	要支援1	107	0.9	0.0	0.0	0.9	9.3	39.3	49.5	
	要支援2	98	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0	40.8	57.1	
幸福度	0〜3点	135	0.7	0.0	0.0	0.7	2.2	56.3	40.0	
	4〜6点	840	0.4	0.1	0.2	3.3	6.4	50.4	39.2	
	7点以上	1,870	0.3	0.5	0.9	5.3	8.2	47.1	37.8	
	とてもよい	337	0.6	0.9	1.5	6.2	6.8	43.3	40.7	
主観的健康感	まあよい	1,873	0.3	0.4	0.6	4.9	7.8	48.4	37.6	
	あまりよくない	452	0.0	0.2	0.2	2.4	6.4	54.9	35.8	
	よくない	85	0.0	0.0	0.0	2.4	3.5	54.1	40.0	

⑧ 収入のある仕事

22.2%が『年に1回以上』参加している。

図表 2-116 収入のある仕事への参加頻度 (n=2,914)



図表 2-117 性・年齢、居住地、要介護度、幸福度、主観的健康感別の収入のある仕事への参加頻度

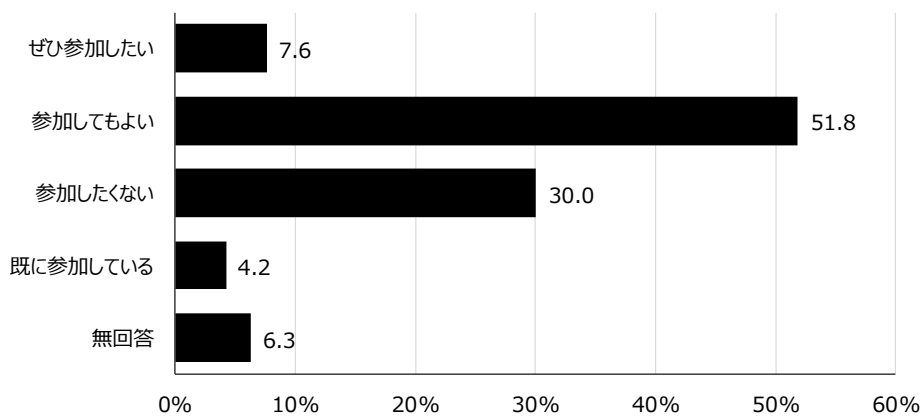
		回答者数	週4回以上	週2～3回	週1回	月1～3回	年に数回	参加していない	無回答	
全体		2,914	10.3	7.0	1.5	2.0	1.4	40.0	37.8	(%)
男性	男性計	1,196	13.7	8.1	1.3	2.3	2.0	41.6	31.0	
	65歳～69歳	343	26.2	10.2	0.9	3.8	2.9	41.1	14.9	
	70歳～74歳	323	15.2	12.1	2.2	1.5	1.5	42.1	25.4	
	75歳～79歳	248	6.5	4.8	2.0	2.8	2.8	43.5	37.5	
	80歳～84歳	155	4.5	4.5	0.0	0.6	1.3	41.3	47.7	
	85歳～89歳	94	1.1	4.3	0.0	1.1	0.0	38.3	55.3	
	90歳以上	29	3.4	0.0	0.0	3.4	0.0	41.4	51.7	
女性	女性計	1,613	7.9	6.4	1.5	1.6	1.0	39.4	42.0	
	65歳～69歳	361	17.7	14.7	3.0	2.5	1.9	44.0	16.1	
	70歳～74歳	382	11.5	8.6	0.8	2.4	1.0	42.1	33.5	
	75歳～79歳	392	4.1	3.6	1.5	1.3	0.8	42.9	45.9	
	80歳～84歳	268	1.1	1.1	1.5	0.4	0.4	28.7	66.8	
	85歳～89歳	148	0.7	0.7	0.0	1.4	0.7	26.4	70.3	
	90歳以上	60	0.0	0.0	1.7	0.0	0.0	51.7	46.7	
居住地	東部地区	732	11.7	6.7	1.4	1.8	1.5	40.8	36.1	
	北部地区	661	8.9	7.3	1.2	2.3	1.4	42.8	36.2	
	南部地区	624	11.5	6.6	1.9	1.8	1.1	40.4	36.7	
	西部地区	840	9.4	7.4	1.5	1.9	1.4	37.9	40.5	
要介護度	一般高齢者	2,514	11.4	7.7	1.6	2.1	1.6	40.8	34.9	
	総合事業対象者	36	8.3	8.3	0.0	0.0	0.0	41.7	41.7	
	要支援1	107	0.9	0.0	0.9	0.9	0.0	43.0	54.2	
	要支援2	98	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0	39.8	59.2	
幸福度	0～3点	135	5.2	5.9	1.5	0.7	2.2	46.7	37.8	
	4～6点	840	9.2	6.2	1.1	1.1	1.7	42.6	38.2	
	7点以上	1,870	11.4	7.8	1.8	2.5	1.2	38.7	36.7	
主観的健康感	とてもよい	337	16.3	9.5	1.5	2.4	0.9	31.5	38.0	
	まあよい	1,873	11.1	7.7	1.7	2.3	1.5	39.4	36.3	
	あまりよくない	452	5.1	4.2	1.5	0.9	1.3	50.0	36.9	
	よくない	85	1.2	0.0	0.0	1.2	1.2	56.5	40.0	

(8) グループ活動への参加の意思

問34. 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味などのグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に、参加者として参加してみたいと思いますか。(ひとつだけ○)

「参加してもよい」が51.8%と最多。次いで「参加したくない」(30.0%)、「ぜひ参加したい」(7.6%)の順。

図表 2-118 グループ活動への参加者としての参加意向 (n=2, 914)



性・年齢別でみると、“男性・85歳以上”、及び“女性・90歳以上”において、「参加したくない」が最も高くなっています。

要介護度別でみると、“要支援2”において、「参加したくない」が最も高くなっています。

運動器機能低下リスクの有無別でみると、“あり”において、「参加したくない」が最も高くなっています。

閉じこもりリスクの有無別でみると、“あり”において、「参加したくない」が最も高くなっています。

図表 2-119 性・年齢、居住地、要介護度、各種リスクの有無別の
グループ活動への参加者としての参加意向

		回答者数	ぜひ参加したい	参加してもよい	参加したくない	既に参加している	無回答
全体		2,914	7.6	51.8	30.0	4.2	6.3
男性	男性計	1,196	5.7	54.1	33.5	2.6	4.1
	65歳～69歳	343	5.5	57.4	32.9	0.9	3.2
	70歳～74歳	323	4.3	55.1	35.6	3.1	1.9
	75歳～79歳	248	6.5	54.0	31.0	2.0	6.5
	80歳～84歳	155	5.8	57.4	29.7	1.9	5.2
	85歳～89歳	94	7.4	37.2	39.4	8.5	7.4
	90歳以上	29	10.3	37.9	44.8	6.9	0.0
女性	女性計	1,613	9.0	50.5	27.5	5.5	7.6
	65歳～69歳	361	10.2	58.2	25.2	3.6	2.8
	70歳～74歳	382	7.9	50.5	32.2	4.2	5.2
	75歳～79歳	392	9.7	52.6	23.0	6.1	8.7
	80歳～84歳	268	9.0	50.7	21.3	7.8	11.2
	85歳～89歳	148	8.1	37.8	33.1	9.5	11.5
	90歳以上	60	6.7	23.3	51.7	0.0	18.3
居住地	東部地区	732	7.4	53.0	30.6	3.3	5.7
	北部地区	661	8.8	50.5	31.0	4.1	5.6
	南部地区	624	7.9	50.8	29.5	4.6	7.2
	西部地区	840	6.9	53.0	29.3	4.8	6.1
要介護度	一般高齢者	2,514	7.4	53.2	29.6	4.3	5.4
	総合事業対象者	36	13.9	50.0	30.6	0.0	5.6
	要支援1	107	12.1	38.3	32.7	4.7	12.1
	要支援2	98	7.1	37.8	38.8	3.1	13.3
リスク コモ	あり	1,307	7.3	48.0	33.7	3.7	7.3
	なし	1,607	7.9	54.9	27.1	4.6	5.5
リスク 運動器	あり	356	7.0	36.8	43.3	3.9	9.0
	なし	2,558	7.7	53.9	28.2	4.3	5.9
リスク 口腔機能	あり	610	9.0	49.5	30.5	2.8	8.2
	なし	2,304	7.2	52.4	29.9	4.6	5.8
リスク 閉じこもり	あり	321	5.6	35.8	45.8	1.9	10.9
	なし	2,593	7.9	53.8	28.1	4.5	5.7
リスク 転倒	あり	851	7.5	49.5	32.3	3.1	7.6
	なし	2,063	7.7	52.8	29.1	4.7	5.8
リスク 栄養	あり	49	12.2	40.8	34.7	2.0	10.2
	なし	2,865	7.5	52.0	29.9	4.3	6.2
リスク うつ	あり	1,103	7.3	48.1	34.4	3.6	6.7
	なし	1,811	7.8	54.1	27.4	4.6	6.1

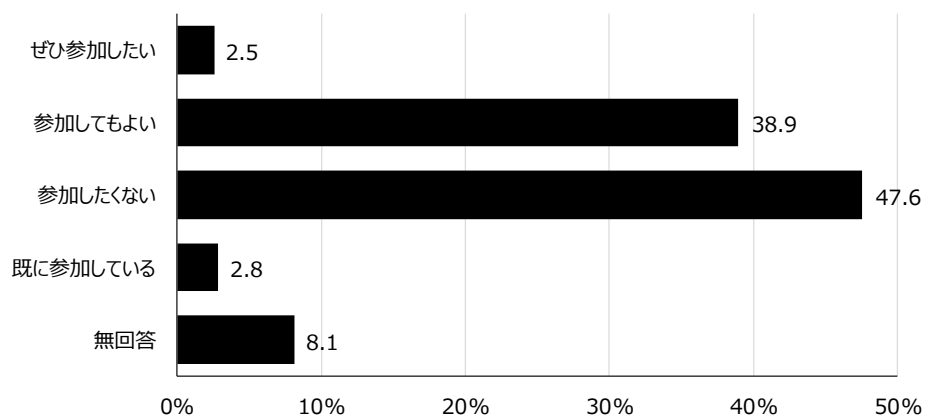
(%)

(9) グループ活動への企画・運営（お世話役）としての参加の意思

問35. 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味などのグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に、企画・運営（お世話役）として参加してみたいと思いますか。（ひとつだけ○）

「参加したくない」が47.6%と最多。次いで「参加してもよい」(38.9%)、「既に参加している」(2.8%)の順。

図表 2-120 グループ活動への企画・運営としての参加意向 (n=2,914)



性・年齢別でみると、“男性・75歳～79歳”では、「参加してもよい」が最も高くなっています。上記以外では、「参加したくない」が最も高くなっています。

要介護度別でみると、“総合事業対象者”では、「参加してもよい」「参加したくない」が最も高くなっています。上記以外では、「参加したくない」が最も高くなっています。

参加者としての参加意向別でみると、“ぜひ参加したい”“参加してもよい”では、「参加してもよい」が最も高くなっています。“参加したくない”では、「参加したくない」が最も高くなっています。“既に参加している”では、「既に参加している」が最も高くなっています。

図表 2-121 性・年齢、居住地、要介護度、参加者としての参加意向別のグループ活動への企画・運営としての参加意向

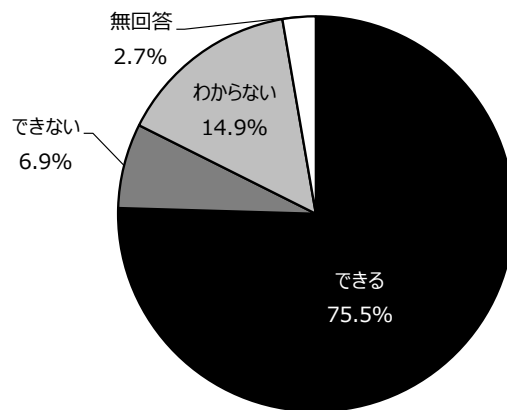
		回答者数	ぜひ参加したい	参加してもよい	参加したくない	既に参加している	無回答	
全体		2,914	2.5	38.9	47.6	2.8	8.1	(%)
男性	男性計	1,196	2.5	41.6	48.7	2.2	5.0	
	65歳～69歳	343	3.8	42.3	49.0	1.5	3.5	
	70歳～74歳	323	1.2	43.0	50.8	2.2	2.8	
	75歳～79歳	248	2.0	47.2	42.7	1.6	6.5	
	80歳～84歳	155	2.6	40.0	47.7	2.6	7.1	
	85歳～89歳	94	2.1	25.5	58.5	5.3	8.5	
	90歳以上	29	6.9	27.6	55.2	3.4	6.9	
女性	女性計	1,613	2.6	37.4	46.7	3.3	9.9	
	65歳～69歳	361	2.8	43.5	47.9	2.2	3.6	
	70歳～74歳	382	2.4	38.2	51.3	2.4	5.8	
	75歳～79歳	392	3.1	40.8	41.1	4.1	11.0	
	80歳～84歳	268	2.2	34.3	41.8	4.9	16.8	
	85歳～89歳	148	2.0	28.4	48.6	4.7	16.2	
居住地	90歳以上	60	3.3	11.7	61.7	1.7	21.7	
	東部地区	732	2.9	41.4	46.6	2.2	7.0	
	北部地区	661	2.9	37.5	49.0	3.3	7.3	
	南部地区	624	2.1	39.3	45.8	3.4	9.5	
要介護度	西部地区	840	2.4	38.3	48.3	2.5	8.5	
	一般高齢者	2,514	2.5	40.3	47.1	2.8	7.2	
	総合事業対象者	36	2.8	41.7	41.7	5.6	8.3	
	要支援1	107	3.7	26.2	55.1	1.9	13.1	
参加者としての参加意向	要支援2	98	2.0	26.5	53.1	2.0	16.3	
	ぜひ参加したい	222	26.1	59.5	8.6	1.4	4.5	
	参加してもよい	1,510	0.7	62.8	32.3	1.4	2.9	
	参加したくない	875	0.2	2.1	96.1	0.2	1.4	
	既に参加している	123	2.4	23.6	21.1	44.7	8.1	

(10) 緊急時における一人での避難の可否

問36. あなたは災害時（台風や地震など）や火災などの緊急時に、一人で避難することができますか。（ひとつだけ○）

14.9%が「わからない」、6.9%が「できない」と回答。21.8%（「わからない」と「できない」の合計）が災害時に一人で避難できない可能性がある。

図表 2-122 緊急時における一人での避難（n=2,914）



要介護度別でみると、“要支援1”では、「できない」「わからない」が最も高くなっています。“要支援2”では、「できない」が最も高くなっています。上記以外では、「できる」が最も高くなっています。

図表 2-123 居住地、家族構成、要介護度、自分・家族の認知症の有無別の緊急時における一人での避難

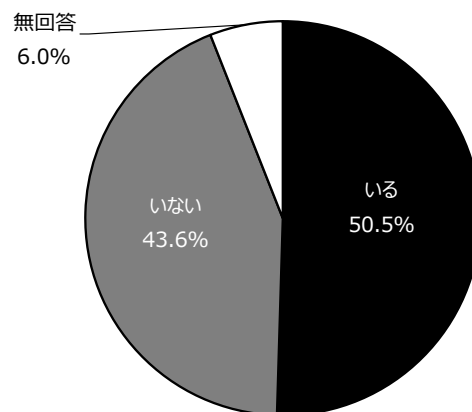
		回答者数	できる	できない	わからない	無回答	
全体		2,914	75.5	6.9	14.9	2.7	(%)
居住地	東部地区	732	76.1	5.7	15.8	2.3	
	北部地区	661	74.3	8.0	15.4	2.3	
	南部地区	624	75.2	8.0	13.0	3.8	
	西部地区	840	76.7	6.2	15.0	2.1	
家族構成	一人暮らし	800	71.0	6.8	19.0	3.3	
	夫婦二人暮らし(配偶者65歳以上)	970	79.0	6.5	12.1	2.5	
	夫婦二人暮らし(配偶者64歳以下)	103	91.3	4.9	2.9	1.0	
	息子・娘との2世帯	432	74.1	9.3	14.1	2.5	
要介護度	その他	541	74.9	6.5	16.5	2.2	
	一般高齢者	2,514	80.2	4.2	13.3	2.2	
	総合事業対象者	36	58.3	22.2	16.7	2.8	
	要支援1	107	29.0	33.6	33.6	3.7	
認知症の有無	要支援2	98	23.5	38.8	31.6	6.1	
	あり	301	69.1	12.3	16.3	2.3	
	なし	2,549	76.9	6.1	14.5	2.5	

(11) 避難に際しての手助けを求められる人の有無

問36-1. 問36で「できない」「わからない」に○をつけた方にうかがいます。避難に際して手助けを求められる人はいますか。(ひとつだけ○)

「いる」が50.5%、「いない」が43.6%。

図表 2-124 避難に際して手助けを求められる人 (n=636)



家族構成別でみると、“一人暮らし”では、「いない」が最も高くなっています。

要介護度別でみると、“総合事業対象者”“要支援2”では、「いない」が最も高くなっています。

図表 2-125 居住地、家族構成、要介護度別の避難に際して手助けを求められる人

		回答者数	いる	いない	無回答	
全体		636	50.5	43.6	6.0	(%)
居住地	東部地区	158	48.1	43.0	8.9	
	北部地区	155	51.6	45.2	3.2	
	南部地区	131	52.7	39.7	7.6	
	西部地区	178	51.1	43.8	5.1	
	その他	124	58.1	34.7	7.3	
家族構成	一人暮らし	206	26.2	68.0	5.8	
	夫婦二人暮らし(配偶者65歳以上)	180	58.9	34.4	6.7	
	夫婦二人暮らし(配偶者64歳以下)	8	87.5	12.5	0.0	
	息子・娘との2世帯	101	74.3	20.8	5.0	
	その他	124	58.1	34.7	7.3	
要介護度	一般高齢者	441	53.1	41.0	5.9	
	総合事業対象者	14	42.9	50.0	7.1	
	要支援1	72	48.6	43.1	8.3	
	要支援2	69	43.5	52.2	4.3	

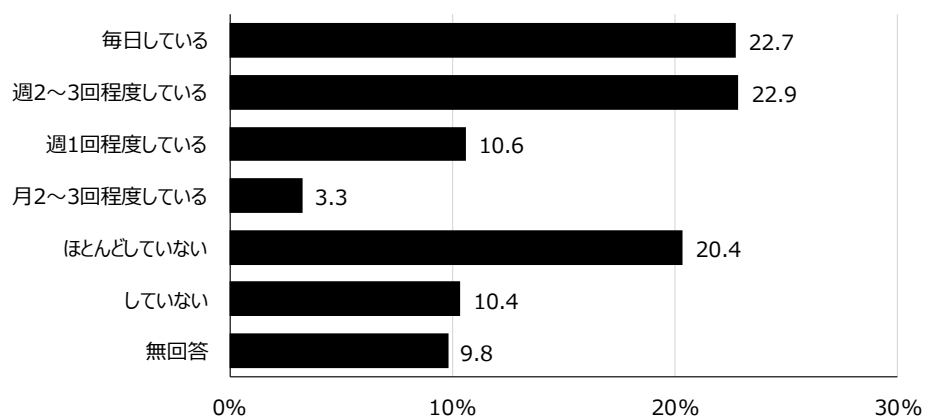
6. 介護予防・介護について

(1) 日ごろの運動の有無

問37. あなたは、日ごろ運動をしていますか。(ひとつだけ○)

「週2～3回程度している」が22.9%と最多。「毎日している」が2割以上。一方で、「ほとんどしていない」も2割以上。

図表 2-126 日ごろの運動状況 (n=2,914)



図表 2-127 性・年齢、要介護度、幸福度、主観的健康感、自分・家族の認知症別の
日ごろの運動状況

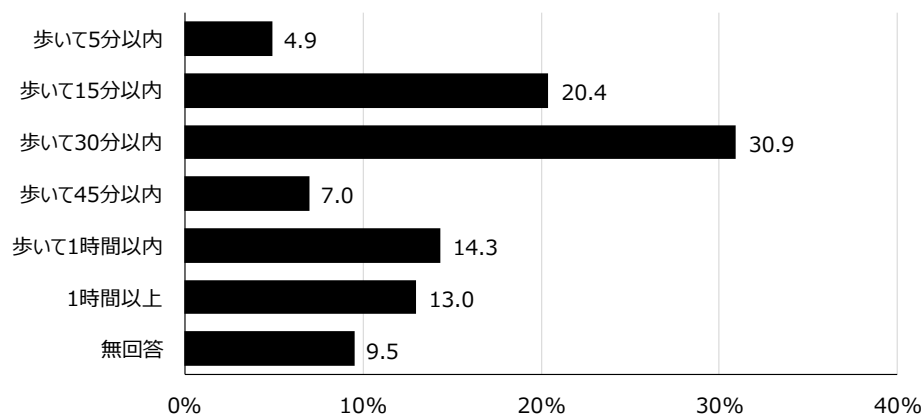
		回 答 者 数	毎 日 し て い る	し 週 て 2 い る 3 回 程 度	し 週 て 1 い る 程 度	程 月 度 2 し て 3 回 る	し ほ と い ん ど い	し て い な い	無 回 答	
全体		2,914	22.7	22.9	10.6	3.3	20.4	10.4	9.8	(%)
男 性	男性計	1,196	24.3	22.4	9.5	3.7	21.0	10.2	8.9	
	65歳～69歳	343	21.6	23.9	10.8	3.5	23.3	11.1	5.8	
	70歳～74歳	323	25.7	21.4	12.4	2.5	21.7	7.7	8.7	
	75歳～79歳	248	25.4	23.4	6.5	4.0	19.8	9.3	11.7	
	80歳～84歳	155	27.7	20.0	9.7	5.2	16.8	12.9	7.7	
	85歳～89歳	94	22.3	25.5	2.1	5.3	18.1	11.7	14.9	
	90歳以上	29	17.2	13.8	13.8	3.4	27.6	13.8	10.3	
女 性	女性計	1,613	21.7	23.5	11.7	3.1	19.7	10.1	10.2	
	65歳～69歳	361	20.8	25.2	11.1	4.2	22.4	9.1	7.2	
	70歳～74歳	382	23.0	28.3	10.5	2.6	20.4	6.8	8.4	
	75歳～79歳	392	24.2	23.5	13.5	2.8	18.4	7.7	9.9	
	80歳～84歳	268	22.0	22.0	11.2	3.4	16.0	11.9	13.4	
	85歳～89歳	148	16.2	16.2	8.8	2.7	23.6	20.3	12.2	
	90歳以上	60	13.3	8.3	20.0	1.7	15.0	20.0	21.7	
要 介 護 度	一般高齢者	2,514	23.4	23.1	10.1	3.4	20.9	9.9	9.3	
	総合事業対象者	36	16.7	19.4	13.9	2.8	8.3	22.2	16.7	
	要支援1	107	16.8	20.6	15.9	0.9	15.9	15.9	14.0	
	要支援2	98	10.2	27.6	19.4	4.1	18.4	11.2	9.2	
幸 福 度	0～3点	135	12.6	16.3	8.1	0.7	28.9	25.2	8.1	
	4～6点	840	18.7	17.7	12.0	3.6	25.4	12.9	9.8	
	7点以上	1,870	25.7	25.8	10.2	3.5	17.5	7.9	9.5	
健 主 康 観 感 的	とてもよい	337	31.8	29.1	8.0	3.0	11.6	7.1	9.5	
	まあよい	1,873	24.0	22.9	11.2	3.6	20.2	8.4	9.8	
	あまりよくない	452	13.7	19.7	10.2	2.4	28.5	17.5	8.0	
	よくない	85	11.8	15.3	5.9	2.4	23.5	28.2	12.9	
認 家 自 知 族 分 症 の ・	あり	301	23.6	19.6	10.3	3.7	21.3	12.6	9.0	
	なし	2,549	22.8	23.3	10.8	3.3	20.4	10.0	9.4	

(2) 歩いて出かける範囲

問38. あなたは、普段、どれくらいの範囲まで歩いて出かけますか。(ひとつだけ○)

「歩いて30分以内」が30.9%と最多。次いで「歩いて15分以内」(20.4%)、「歩いて1時間以内」(14.3%)の順。

図表 2-128 普段の徒歩範囲 (n=2,914)



性・年齢別でみると、“男性・85歳以上”及び、“女性・90歳以上”では、「歩いて15分以内」が最も高くなっています。“上記以外では、「歩いて30分以内」が最も高くなっています。

主観的健康感別でみると、“よくない”では、「歩いて15分以内」が最も高くなっています。上記以外では、「歩いて30分以内」が最も高くなっています。

図表 2-129 性・年齢、居住地、要介護度、幸福度、主観的健康感、
自分・家族の認知症別の普段の徒歩範囲

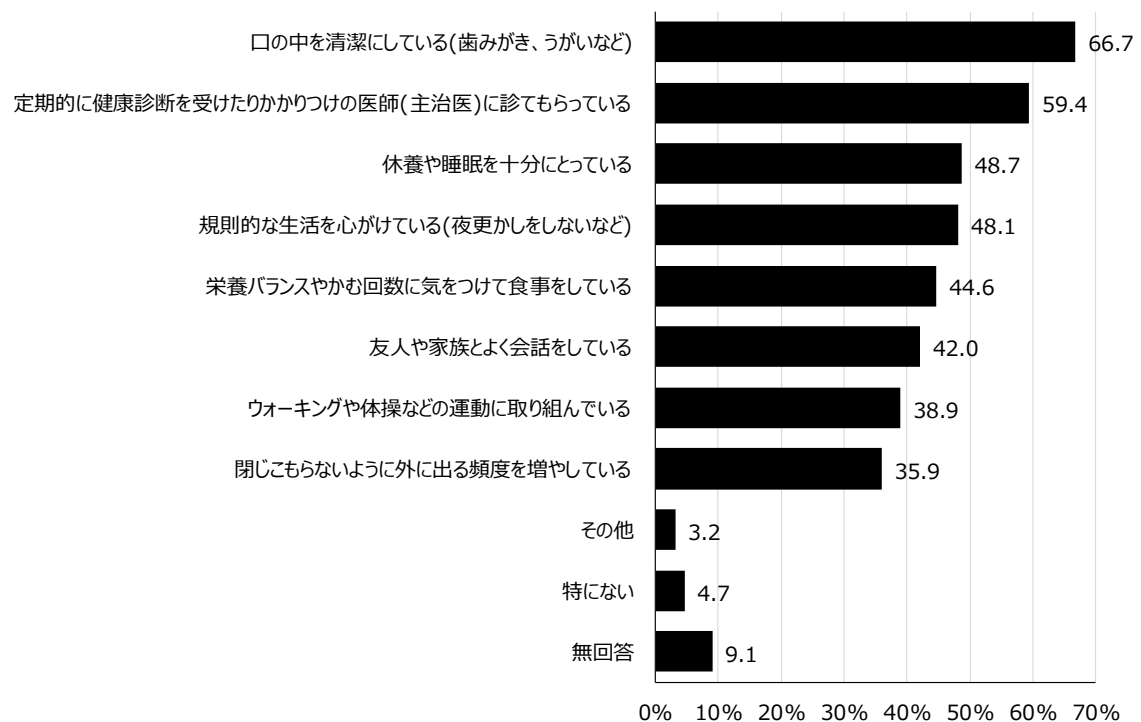
		回 答 者 数	5 歩 分 以 内	1 歩 5 分 以 内	3 歩 0 分 以 内	4 歩 5 分 以 内	1 歩 1 時 間 以 内	1 時 間 以 上	無 回 答	
全体		2,914	4.9	20.4	30.9	7.0	14.3	13.0	9.5	(%)
男 性	男性計	1,196	5.4	20.9	28.0	6.8	14.7	15.5	8.8	
	65歳～69歳	343	3.8	21.9	29.4	6.7	15.2	17.2	5.8	
	70歳～74歳	323	4.6	19.5	28.5	5.9	16.1	17.3	8.0	
	75歳～79歳	248	5.6	20.2	28.6	5.2	13.7	14.9	11.7	
	80歳～84歳	155	5.2	18.7	27.1	8.4	18.1	14.2	8.4	
	85歳～89歳	94	9.6	25.5	23.4	12.8	8.5	7.4	12.8	
	90歳以上	29	17.2	31.0	20.7	3.4	3.4	10.3	13.8	
女 性	女性計	1,613	4.5	19.9	33.3	7.4	14.1	11.2	9.7	
	65歳～69歳	361	3.0	23.0	34.3	6.6	15.0	11.4	6.6	
	70歳～74歳	382	3.4	18.3	35.6	6.3	14.7	13.6	8.1	
	75歳～79歳	392	4.3	17.1	31.1	9.9	15.3	13.0	9.2	
	80歳～84歳	268	3.7	20.5	34.0	7.1	14.2	8.6	11.9	
	85歳～89歳	148	8.1	20.9	35.8	6.1	9.5	8.1	11.5	
	90歳以上	60	16.7	23.3	18.3	6.7	8.3	1.7	25.0	
居 住 地	東部地区	732	4.2	20.8	31.3	7.2	15.3	12.3	8.9	
	北部地区	661	4.8	22.8	28.9	7.4	13.9	14.1	8.0	
	南部地区	624	4.2	19.4	32.1	6.1	14.9	14.3	9.1	
	西部地区	840	6.2	19.5	31.4	7.3	13.3	11.7	10.6	
要 介 護 度	一般高齢者	2,514	4.0	19.7	31.6	7.3	14.6	14.0	8.8	
	総合事業対象者	36	8.3	22.2	16.7	2.8	22.2	8.3	19.4	
	要支援1	107	11.2	36.4	25.2	3.7	9.3	3.7	10.3	
	要支援2	98	22.4	25.5	23.5	5.1	10.2	3.1	10.2	
幸 福 度	0～3点	135	11.9	24.4	31.9	3.7	11.9	7.4	8.9	
	4～6点	840	6.0	23.8	29.4	6.8	12.3	12.3	9.5	
	7点以上	1,870	4.0	18.6	31.6	7.2	15.6	13.9	9.1	
健 主 観 感 的	とてもよい	337	2.1	14.2	30.3	8.6	14.8	20.5	9.5	
	まあよい	1,873	4.3	19.4	31.9	6.6	15.5	13.2	9.2	
	あまりよくない	452	7.7	27.4	29.9	7.1	11.3	8.8	7.7	
	よくない	85	18.8	29.4	22.4	4.7	5.9	5.9	12.9	
認 家 知 族 分 症 の	あり	301	6.6	23.6	30.6	5.0	13.6	11.6	9.0	
	なし	2,549	4.7	20.2	31.2	7.2	14.4	13.2	9.1	

(3) 健康や介護予防、認知症予防のための普段の活動内容

問39. あなたは、健康や介護予防、認知症予防のために、普段から活動していることはありますか。(あてはまるものすべてに○)

「口の中を清潔にしている(歯みがき、うがいなど)」が66.7%と最多。次いで「定期的に健康診断を受けたりかかりつけの医師(主治医)に診てもらっている」(59.4%)、「休養や睡眠を十分にとっている」(48.7%)の順。

図表 2-130 健康や介護予防、認知症予防のために、
普段から活動していること (n=2,914)



性・年齢別でみると、“男性・75歳～79歳”“男性・90歳以上”では、「定期的に健康診断を受けたりかかりつけの医師に診てもらっている」が最も高くなっています。“女性・90歳以上”では、「口の中を清潔にしている」「定期的に健康診断を受けたりかかりつけの医師に診てもらっている」が最も高くなっています。上記以外では、「口の中を清潔にしている」が最も高くなっています。

図表 2-131 性・年齢、要介護度、各種リスクの有無別の健康や介護予防、認知症予防のために、普段から活動していること

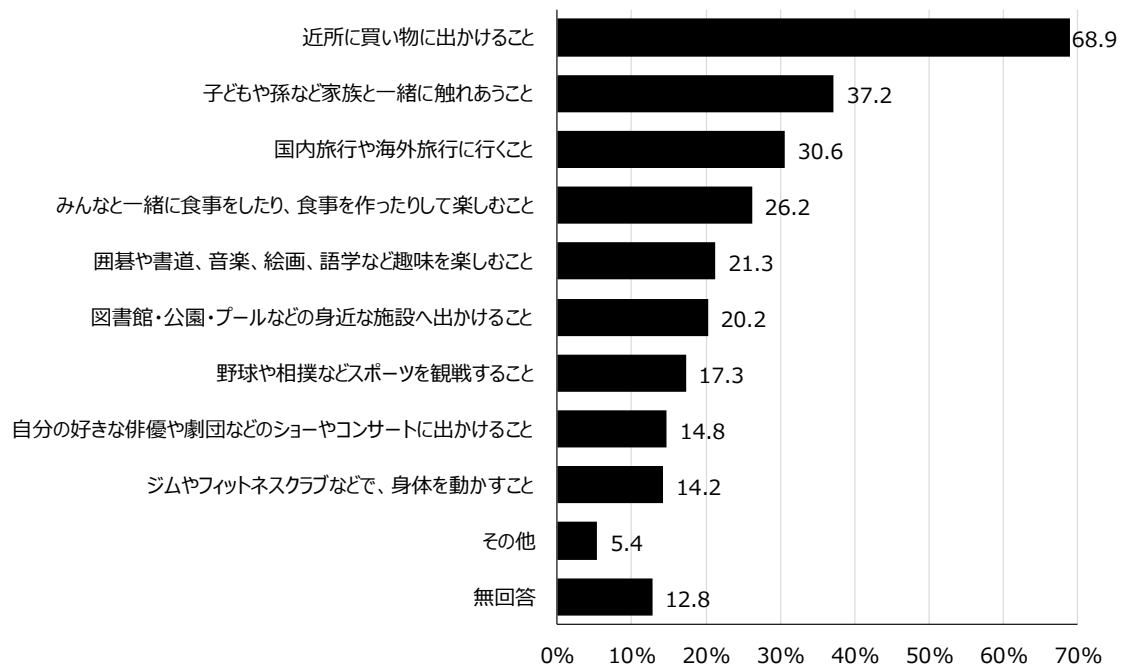
		回答者数	栄養バランスや食事回数に気を付けている	口の中を清潔にしている	規則的な生活を心がけている	運動に取り組んだり体操などの	かかりつけの健康診断を受けたりしている	定期的な睡眠をとっている	休養や睡眠を十分にとっている	友人や家族とよく会話をしている	外に出る頻度を増やしている	閉じこもらないよう	その他	特にな	無回答
全体		2,914	44.6	66.7	48.1	38.9	59.4	48.7	42.0	35.9	3.2	4.7	9.1	(%)	
男性	男性計	1,196	35.8	59.4	45.3	39.0	59.1	49.6	30.5	31.8	2.2	7.4	8.7		
	65歳～69歳	343	33.5	56.9	42.3	41.4	54.2	43.7	28.0	29.2	1.7	10.2	6.1		
	70歳～74歳	323	34.7	61.6	46.7	40.9	59.4	52.9	30.0	35.9	2.2	5.3	7.4		
	75歳～79歳	248	31.9	54.0	44.0	35.5	60.5	42.7	29.0	31.0	2.8	9.3	11.7		
	80歳～84歳	155	42.6	68.4	48.4	43.2	67.7	61.9	39.4	33.5	3.2	5.2	8.4		
	85歳～89歳	94	40.4	62.8	48.9	31.9	58.5	57.4	34.0	30.9	1.1	3.2	13.8		
	90歳以上	29	55.2	55.2	55.2	20.7	58.6	51.7	24.1	20.7	0.0	10.3	13.8		
女性	女性計	1,613	51.7	72.5	50.7	39.5	60.5	48.4	50.9	39.6	4.0	2.7	9.2		
	65歳～69歳	361	50.1	70.9	51.0	45.7	52.1	43.2	46.5	33.2	2.8	4.7	6.1		
	70歳～74歳	382	47.6	76.2	50.5	47.1	62.3	46.6	53.9	46.1	4.2	2.1	7.6		
	75歳～79歳	392	56.6	75.3	51.8	41.3	64.0	49.0	53.8	43.9	4.8	1.8	8.9		
	80歳～84歳	268	51.1	70.1	50.0	32.1	61.6	50.7	53.7	36.6	4.5	1.5	11.9		
	85歳～89歳	148	58.1	72.3	50.7	23.0	68.2	60.8	50.0	39.9	4.1	2.0	10.8		
	90歳以上	60	41.7	53.3	45.0	15.0	53.3	45.0	28.3	23.3	1.7	8.3	21.7		
要介護度	一般高齢者	2,514	45.2	67.0	49.0	40.5	59.7	49.1	43.3	36.9	3.4	4.8	8.7		
	総合事業対象者	36	30.6	52.8	13.9	30.6	47.2	36.1	25.0	30.6	0.0	8.3	16.7		
	要支援1	107	51.4	70.1	47.7	27.1	63.6	51.4	35.5	30.8	3.7	2.8	10.3		
	要支援2	98	42.9	70.4	45.9	23.5	65.3	49.0	29.6	34.7	2.0	6.1	9.2		
リスク	あり	1,307	41.4	64.3	43.8	28.4	59.7	44.5	38.7	32.2	3.1	5.3	9.9		
	なし	1,607	47.2	68.6	51.5	47.5	59.1	52.0	44.7	39.0	3.4	4.3	8.5		
リスク	あり	356	40.7	59.6	40.4	15.7	56.7	45.2	34.0	24.2	3.7	5.9	10.1		
	なし	2,558	45.2	67.7	49.1	42.1	59.7	49.1	43.2	37.6	3.2	4.6	9.0		
リスク	あり	610	41.0	64.3	44.9	32.3	57.7	43.1	32.6	33.4	3.6	6.9	8.5		
	なし	2,304	45.6	67.4	48.9	40.7	59.8	50.1	44.5	36.6	3.1	4.2	9.2		
リスク	あり	321	38.3	57.6	39.9	14.3	51.4	42.1	29.9	12.5	2.2	10.9	10.3		
	なし	2,593	45.4	67.8	49.1	42.0	60.4	49.5	43.5	38.8	3.4	4.0	8.9		
リスク	あり	851	40.0	62.5	41.7	32.1	57.1	44.2	37.7	34.4	2.7	6.3	10.7		
	なし	2,063	46.5	68.4	50.7	41.7	60.3	50.5	43.8	36.5	3.4	4.1	8.4		
リスク	あり	49	40.8	65.3	42.9	16.3	46.9	46.9	22.4	28.6	0.0	8.2	10.2		
	なし	2,865	44.7	66.7	48.2	39.3	59.6	48.7	42.4	36.1	3.3	4.7	9.1		
リスク	あり	1,103	38.9	61.7	41.8	34.5	54.9	41.2	33.1	33.0	3.1	6.7	9.0		
	なし	1,811	48.1	69.7	51.9	41.6	62.1	53.2	47.5	37.7	3.3	3.5	9.2		

(4) 趣味や私的活動・交流としての実施内容

問40. あなたが、趣味や私的活動・交流として実施していることはありますか。(あてはまるものすべてに○)

「近所に買い物に出かけること」が68.9%と最多。次いで「子どもや孫など家族と一緒に触れあうこと」(37.2%)、「国内旅行や海外旅行に行くこと」(30.6%)と続く。

図表 2-132 趣味や私的活動・交流として実施していること (n=2,914)



図表 2-133 性・年齢、要介護度別の趣味や私的活動・交流として実施していること

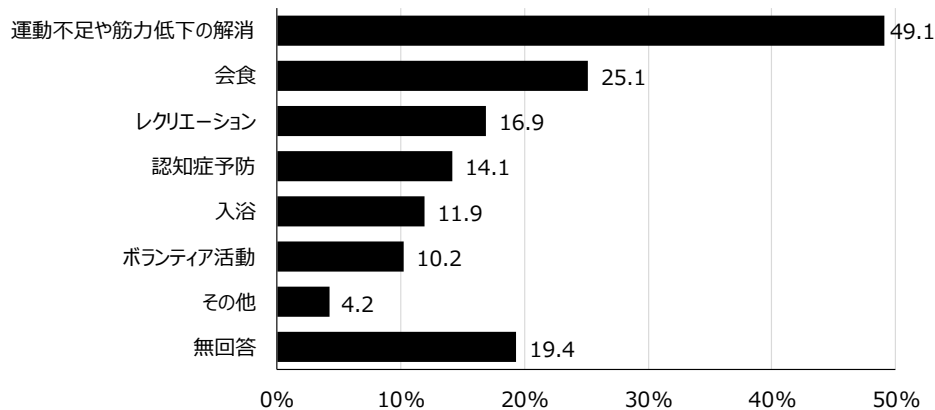
		回答者数	身近な施設・公園・プールなどの身図書館・公園・プールなどの	近所に買い物に出かけること	国内旅行や海外旅行に行くこと	自分の好きな俳優や劇団などのシヨールやコンサートに出かけること	観戦すること	野球や相撲などスポーツを	身体を動かすこと	ジムやフィットネスクラブなどで、趣味を楽しむこと	囲碁や書道、音楽、絵画、語学など	食事を作ったりして楽しむこと	みんなと一緒に食事をする、触れあうこと	子どもや孫など家族と一緒に	その他	無回答
全体		2,914	20.2	68.9	30.6	14.8	17.3	14.2	21.3	26.2	37.2	5.4	12.8	(%)		
男性	男性計	1,196	21.6	62.2	27.4	8.7	22.5	12.0	16.6	18.2	30.3	6.3	14.0			
	65歳～69歳	343	22.7	64.4	34.7	10.5	16.6	14.6	12.2	23.6	28.6	7.0	11.7			
	70歳～74歳	323	22.6	65.3	28.2	11.5	20.4	12.1	19.2	19.2	29.7	4.3	13.6			
	75歳～79歳	248	22.2	56.0	24.6	5.6	27.8	11.7	14.5	12.9	26.2	5.6	16.5			
	80歳～84歳	155	21.9	66.5	27.7	7.7	33.5	12.3	21.3	21.9	41.3	7.1	12.3			
	85歳～89歳	94	12.8	56.4	7.4	3.2	21.3	4.3	22.3	5.3	27.7	7.4	20.2			
	90歳以上	29	17.2	48.3	20.7	6.9	13.8	10.3	17.2	13.8	44.8	13.8	13.8			
女性	女性計	1,613	19.2	75.1	33.2	19.3	13.7	16.2	24.6	32.4	42.2	4.5	11.3			
	65歳～69歳	361	22.4	75.9	45.2	23.5	10.8	24.9	26.6	36.6	45.2	3.9	8.9			
	70歳～74歳	382	22.0	80.1	39.3	19.6	10.5	19.9	25.9	35.9	44.5	3.7	8.6			
	75歳～79歳	392	21.2	75.8	31.6	21.9	17.1	14.8	26.3	32.9	44.9	3.8	11.5			
	80歳～84歳	268	13.4	76.1	25.7	17.5	16.8	9.3	20.9	28.7	36.2	5.2	11.9			
	85歳～89歳	148	16.2	69.6	18.9	12.2	16.9	8.1	25.7	29.7	38.5	7.4	13.5			
	90歳以上	60	3.3	45.0	1.7	1.7	8.3	0.0	8.3	6.7	30.0	6.7	33.3			
要介護度	一般高齢者	2,514	21.3	70.4	33.1	15.4	17.3	15.0	22.2	27.8	38.3	5.1	11.7			
	総合事業対象者	36	16.7	50.0	16.7	5.6	19.4	5.6	11.1	19.4	25.0	8.3	25.0			
	要支援1	107	17.8	62.6	12.1	9.3	14.0	6.5	19.6	11.2	31.8	6.5	17.8			
	要支援2	98	6.1	55.1	6.1	9.2	15.3	8.2	11.2	16.3	22.4	9.2	21.4			

(5) 通いたいサロン（またはデイサービス）の内容

問41. あなたは、週に1回程度通うとしたら、どのような内容のサロン（またはデイサービス）がよいですか。（あてはまるものすべてに○）

「運動不足や筋力低下の解消」が49.1%と最多。次いで「会食」(25.1%)、「レクリエーション」(16.9%)と続く。

図表 2-134 サロン内容への希望 (n=2,914)



図表 2-135 性・年齢、要介護度別のサロン内容への希望

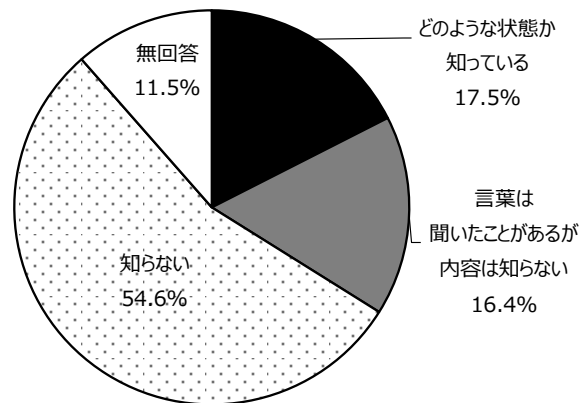
		回答者数	会食	入浴	レクリエーション	運動不足や筋力低下の解消	認知症予防	ボランティア活動	その他	無回答	
全体		2,914	25.1	11.9	16.9	49.1	14.1	10.2	4.2	19.4	(%)
男性	男性計	1,196	20.7	15.6	17.9	47.4	10.1	8.9	5.9	19.3	
	65歳～69歳	343	19.0	14.9	18.1	54.2	8.2	12.0	6.7	14.6	
	70歳～74歳	323	19.2	15.8	19.5	43.3	10.8	11.8	4.6	21.1	
	75歳～79歳	248	18.1	13.3	18.1	48.0	8.1	7.7	7.3	22.6	
	80歳～84歳	155	33.5	17.4	16.8	43.9	14.2	5.2	6.5	16.8	
	85歳～89歳	94	16.0	19.1	14.9	38.3	10.6	1.1	4.3	25.5	
	90歳以上	29	27.6	20.7	13.8	55.2	20.7	0.0	0.0	20.7	
女性	女性計	1,613	28.9	9.4	16.5	50.7	17.2	11.2	3.2	18.8	
	65歳～69歳	361	21.9	9.1	16.3	62.0	17.7	20.2	3.9	11.1	
	70歳～74歳	382	33.2	5.8	17.8	49.5	17.5	12.0	2.6	16.2	
	75歳～79歳	392	29.3	10.7	17.1	51.0	16.1	9.4	3.6	19.9	
	80歳～84歳	268	30.6	11.2	16.4	46.3	15.7	6.7	1.1	25.7	
	85歳～89歳	148	33.1	11.5	16.2	38.5	23.0	4.7	2.7	23.6	
	90歳以上	60	21.7	13.3	6.7	38.3	11.7	0.0	10.0	31.7	
要介護度	一般高齢者	2,514	25.3	11.6	17.5	49.6	14.0	11.0	4.5	18.4	
	総合事業対象者	36	27.8	16.7	5.6	44.4	11.1	8.3	2.8	25.0	
	要支援1	107	31.8	16.8	21.5	51.4	16.8	2.8	2.8	21.5	
	要支援2	98	21.4	17.3	12.2	49.0	17.3	4.1	4.1	20.4	

(6) フレイルについての認知度

問42. あなたは、フレイルという状態についてご存知ですか。(ひとつだけ○)

「知らない」が54.6%と最多。次いで「どのような状態か知っている」(17.5%)、「言葉は聞いたことがあるが内容は知らない」(16.4%)の順。

図表 2-136 フレイルの認知度 (n=2, 914)



図表 2-137 性・年齢、幸福度別のフレイルの認知度

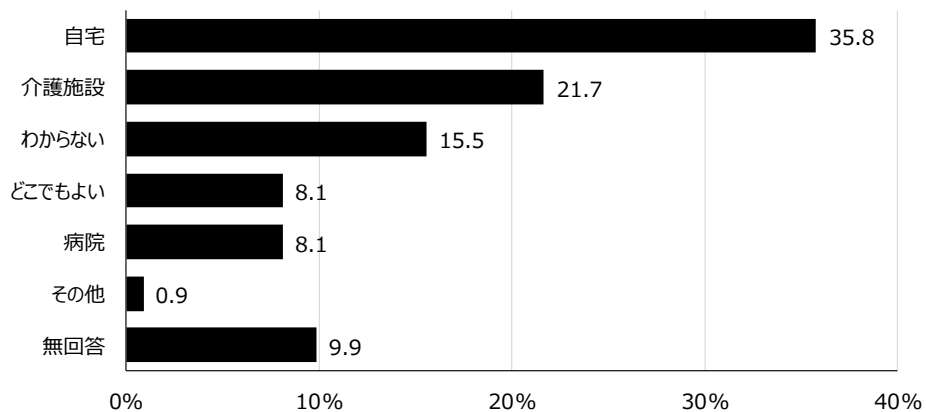
		回答者数	知 っ て よ う な 状 態 か	あ る 言 葉 が 内 容 は 知 こ ら な い	知 ら な い	無 回 答	
全体		2,914	17.5	16.4	54.6	11.5	(%)
男 性	男性計	1,196	11.9	14.0	63.8	10.3	
	65歳～69歳	343	12.2	9.9	70.6	7.3	
	70歳～74歳	323	15.2	13.6	61.9	9.3	
	75歳～79歳	248	8.9	14.5	63.3	13.3	
	80歳～84歳	155	8.4	18.1	62.6	11.0	
	85歳～89歳	94	11.7	23.4	51.1	13.8	
	90歳以上	29	17.2	13.8	51.7	17.2	
女 性	女性計	1,613	21.8	18.2	48.0	12.0	
	65歳～69歳	361	29.6	16.3	45.4	8.6	
	70歳～74歳	382	24.3	20.2	46.3	9.2	
	75歳～79歳	392	19.9	20.2	47.7	12.2	
	80歳～84歳	268	17.2	19.8	48.1	14.9	
	85歳～89歳	148	16.2	14.9	52.7	16.2	
	90歳以上	60	6.7	6.7	63.3	23.3	
幸 福 度	0～3点	135	10.4	8.1	71.9	9.6	
	4～6点	840	14.0	15.2	59.8	11.0	
	7点以上	1,870	19.8	17.4	51.4	11.4	

(7) 介護を受けたい場所

問43. あなたは、介護が必要になった時、また今よりも重くなった時、どこで介護を受けたいですか。(ひとつだけ○)

「自宅」が35.8%と最多。次いで「介護施設」(21.7%)、「わからない」(15.5%)の順。

図表 2-138 介護を受けたい場所 (n=2,914)



図表 2-139 居住地、家族構成、要介護度別の介護を受けたい場所

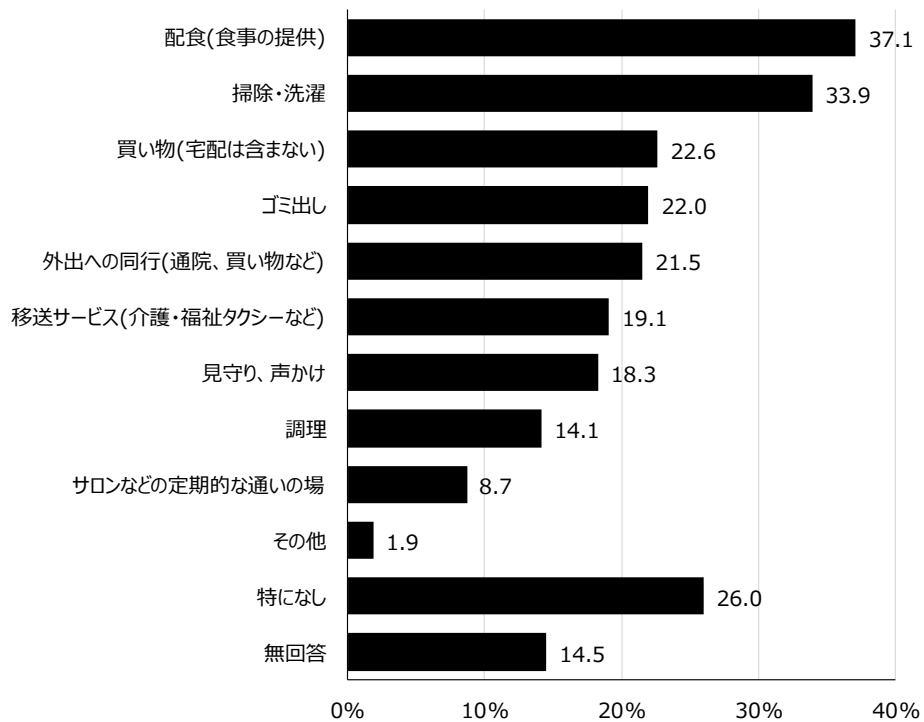
		回答者数	自宅	介護施設	病院	どこでもよい	その他	わからない	無回答	
全体		2,914	35.8	21.7	8.1	8.1	0.9	15.5	9.9	(%)
居住地	東部地区	732	37.3	20.5	9.7	7.1	1.0	14.9	9.6	
	北部地区	661	33.4	22.7	7.6	9.7	1.1	16.6	8.9	
	南部地区	624	38.1	22.0	8.2	8.0	0.6	13.6	9.5	
	西部地区	840	34.5	21.2	7.4	8.2	0.8	17.4	10.5	
家族構成	一人暮らし	800	28.1	24.5	9.9	9.4	0.9	16.4	10.9	
	夫婦二人暮らし(配偶者65歳以上)	970	38.0	19.9	8.0	8.2	0.9	14.8	10.0	
	夫婦二人暮らし(配偶者64歳以下)	103	33.0	22.3	8.7	12.6	0.0	15.5	7.8	
	息子・娘との2世帯	432	40.3	19.2	7.2	6.9	0.2	16.2	10.0	
	その他	541	39.6	21.8	7.0	6.8	1.3	16.1	7.4	
要介護度	一般高齢者	2,514	36.5	20.9	7.5	8.8	0.9	16.1	9.3	
	総合事業対象者	36	33.3	19.4	16.7	0.0	0.0	11.1	19.4	
	要支援1	107	37.4	24.3	9.3	2.8	0.9	12.1	13.1	
	要支援2	98	27.6	26.5	21.4	2.0	2.0	11.2	9.2	

(8) 在宅生活の継続に必要な支援・サービス

問44. あなたが、在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービスは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

「配食(食事の提供)」が37.1%と最多。次いで「掃除・洗濯」が33.9%と続く。一方で、「特になし」が26.0%。

図表 2-140 在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス (n=2,914)



家族構成別でみると、“その他”では、「掃除・洗濯」が最も高くなっています。上記以外では、「配食(食事の提供)」が最も高くなっています。

要介護度別でみると、“要支援1”“要支援2”では、「掃除・洗濯」が最も高くなっています。上記以外では、「配食(食事の提供)」が最も高くなっています。

ロコモリスクの有無別でみると、“あり”では「掃除・洗濯」が最も高く、“なし”では「配食(食事の提供)」が最も高くなっています。

運動器機能低下リスクの有無別でみると、“あり”では「掃除・洗濯」が最も高く、“なし”では「配食(食事の提供)」が最も高くなっています。

図表 2-141 家族構成、要介護度、各種リスクの有無別の
在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス

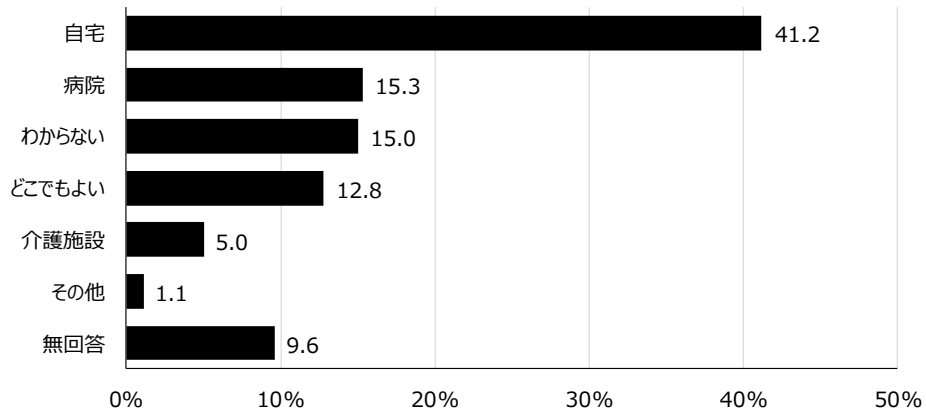
		回答者数	配食（食事の提供）	調理	掃除・洗濯	買い物（宅配は含まない）	ゴミ出し	外出への同行物など（通院、買い物など）	福祉サービス（介護・移送サービスなど）	見守り、声かけ	定期的な通いの場	サロンの場	その他	特になし	無回答	
全体		2,914	37.1	14.1	33.9	22.6	22.0	21.5	19.1	18.3	8.7	1.9	26.0	14.5	(%)	
家族構成	一人暮らし	800	35.5	11.5	34.3	22.1	22.4	19.8	15.6	20.9	7.0	1.3	25.9	14.9		
	夫婦二人暮らし(配偶者65歳以上)	970	40.1	16.3	34.6	22.3	22.7	21.8	18.9	18.6	8.2	2.4	23.2	15.3		
	夫婦二人暮らし(配偶者64歳以下)	103	33.0	12.6	28.2	21.4	18.4	16.5	18.4	12.6	8.7	4.9	30.1	15.5		
	息子・娘との2世帯	432	35.6	13.0	29.9	22.7	18.8	25.2	22.5	16.9	10.9	1.4	29.9	13.7		
	その他	541	36.2	16.1	36.4	24.2	23.3	22.4	22.2	17.2	10.7	2.2	27.4	12.0		
要介護度	一般高齢者	2,514	36.8	14.2	33.5	22.0	21.8	21.1	18.3	18.3	8.9	1.9	27.8	13.8		
	総合事業対象者	36	33.3	11.1	25.0	22.2	19.4	25.0	19.4	16.7	8.3	0.0	16.7	33.3		
	要支援1	107	43.9	16.8	45.8	29.9	28.0	33.6	34.6	25.2	10.3	2.8	8.4	14.0		
	要支援2	98	33.7	16.3	44.9	33.7	25.5	31.6	27.6	22.4	5.1	5.1	9.2	15.3		
ロコモリスク	あり	1,307	37.3	14.0	37.5	23.7	23.5	23.0	21.6	18.3	7.3	1.9	20.1	16.0		
	なし	1,607	36.8	14.3	31.0	21.7	20.7	20.3	17.1	18.2	9.8	1.9	30.7	13.3		
リスク低下運動器	あり	356	34.6	10.7	40.7	25.0	24.4	29.5	24.4	18.0	6.5	3.1	14.6	13.5		
	なし	2,558	37.4	14.6	33.0	22.3	21.6	20.4	18.3	18.3	9.0	1.8	27.6	14.7		
リスク低下口腔	あり	610	40.0	14.6	35.9	23.8	23.4	25.1	21.6	19.0	8.0	2.3	19.7	13.4		
	なし	2,304	36.3	14.0	33.4	22.3	21.6	20.6	18.4	18.1	8.9	1.8	27.6	14.8		
リスク認知	あり	321	36.8	11.5	33.6	25.5	25.2	27.1	23.7	14.3	4.7	1.6	19.6	15.0		
	なし	2,593	37.1	14.5	33.9	22.3	21.6	20.8	18.5	18.7	9.2	2.0	26.8	14.5		
リスク転倒	あり	851	38.1	13.4	35.4	21.5	21.9	22.6	19.7	19.7	8.6	2.1	21.0	15.6		
	なし	2,063	36.6	14.4	33.3	23.1	22.0	21.1	18.8	17.6	8.8	1.8	28.0	14.1		
リスク栄養	あり	49	49.0	20.4	30.6	26.5	18.4	32.7	18.4	22.4	8.2	0.0	16.3	16.3		
	なし	2,865	36.9	14.0	34.0	22.5	22.0	21.3	19.1	18.2	8.7	2.0	26.1	14.5		
リスクうつ	あり	1,103	36.6	14.7	36.1	22.5	22.3	22.0	20.9	20.3	8.2	2.4	22.5	14.7		
	なし	1,811	37.3	13.8	32.6	22.7	21.8	21.2	18.0	17.0	9.1	1.6	28.1	14.4		

(9) 人生の最期を迎える場所

問45. あなたは、人生の最期を迎える場所としてどこを希望しますか。(ひとつだけ○)

「自宅」が41.2%と最多。

図表 2-142 人生の最期を迎える場所への希望 (n=2,914)



図表 2-143 家族構成、要介護度別の人生の最期を迎える場所への希望

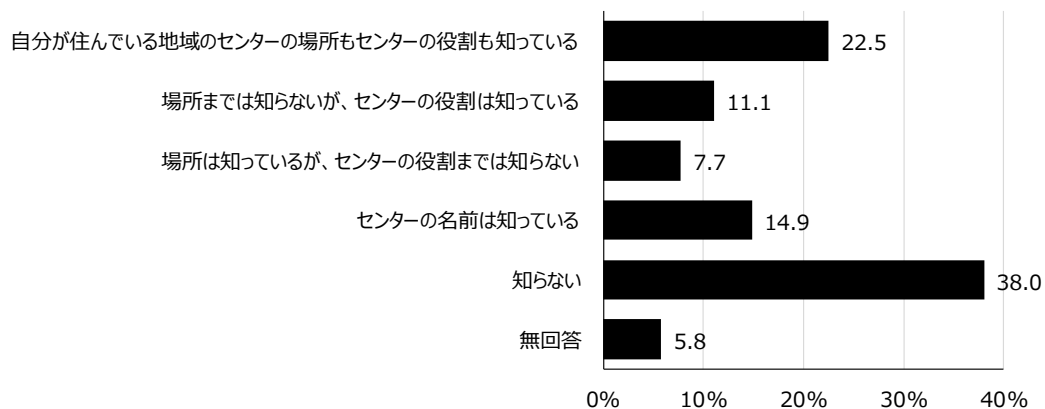
		回答者数	自宅	介護施設	病院	どこでもよい	その他	わからない	無回答	
全体		2,914	41.2	5.0	15.3	12.8	1.1	15.0	9.6	(%)
家族構成	一人暮らし	800	30.4	8.3	18.0	15.0	1.8	16.9	9.8	
	夫婦二人暮らし(配偶者65歳以上)	970	45.4	3.7	14.6	11.5	0.9	13.6	10.2	
	夫婦二人暮らし(配偶者64歳以下)	103	46.6	1.0	13.6	14.6	0.0	16.5	7.8	
	息子・娘との2世帯	432	47.7	4.4	14.1	10.2	0.5	13.4	9.7	
	その他	541	43.8	3.3	14.2	13.5	1.3	16.3	7.6	
要介護度	一般高齢者	2,514	41.2	4.6	15.1	13.5	1.2	15.2	9.2	
	総合事業対象者	36	52.8	0.0	11.1	8.3	0.0	8.3	19.4	
	要支援1	107	39.3	11.2	20.6	6.5	0.9	11.2	10.3	
	要支援2	98	43.9	9.2	17.3	8.2	1.0	13.3	7.1	

(10) 高齢者総合相談センターの認知度

問46. 豊島区では高齢者の心身の健康と生活の安定のための相談窓口として、区内に高齢者総合相談センター（地域包括支援センター）を設置しています。あなたは、高齢者総合相談センターを知っていますか。（ひとつだけ○）

「知らない」が38.0%と最多。次いで「自分が住んでいる地域のセンターの場所もセンターの役割も知っている」(22.5%)、「センターの名前は知っている」(14.9%)の順。

図表 2-144 高齢者総合相談センターの認知度 (n=2,914)



要介護度別でみると、“要支援1”“要支援2”では、「自分が住んでいる地域のセンターの場所もセンターの役割も知っている」が最も高くなっています。上記以外では、「知らない」が最も高くなっています。

図表 2-145 居住地、要介護度別の高齢者総合相談センターの認知度

		回答者数	自分が住んでいる地域のセンターの場所もセンターの役割も知っている	場所までは知らないが、センターの役割は知っている	場所は知っているが、センターの役割までは知らない	センターの名前は知っている	知らない	無回答
全体		2,914	22.5	11.1	7.7	14.9	38.0	5.8
居住地	東部地区	732	23.6	10.2	7.8	13.8	39.2	5.3
	北部地区	661	16.5	12.6	5.9	14.2	45.1	5.7
	南部地区	624	23.6	12.2	7.7	16.2	34.8	5.6
	西部地区	840	26.0	9.2	8.7	15.4	34.6	6.2
要介護度	一般高齢者	2,514	21.0	11.4	7.0	15.4	40.0	5.2
	総合事業対象者	36	19.4	13.9	8.3	5.6	38.9	13.9
	要支援1	107	46.7	6.5	14.0	12.1	16.8	3.7
	要支援2	98	36.7	6.1	14.3	8.2	20.4	14.3

★ 最後に、介護予防や介護保険に関するご意見やご要望がございましたら、ご自由にお書きください。

731人の方から意見・要望等が寄せられました。内容を集約したうえで下表の10の観点到整理すると、「介護予防」や「生きがいづくり」、「生活支援」に関する意見が比較的多くみられました。

観点	主な回答内容
介護予防	- フレイルを重点的に進めようとしているが、遠い場所でやるのではなくすぐ近くで通える場所（ひろば等）で区民に広めて欲しい。建物をリフォームするのではなく、ある物を活用してほしい。 - 気軽に体操クラブが近くにあったらいいと思う。 - 介護予防には団欒のひとつが大切である。 - 近くで軽い運動の出来る施設があれば良いと思います。 - 歩いて通えるところに介護予防のとしまる体操をしている所がないので是非歩いて通える所で始めてほしい。 - 自宅で座ってできる筋力アップ運動を知りたい。また、効果判定の方法を知りたい。 - ウォーキングした人にポイントをプレゼントすると、参加する人が増加すると思う。 - 介護予防につながる近隣の公園、遊歩道、マーケット等が拡充されるとよい。 - 介護予防としてプールや体育館を活用することが、考えられるが、もっと参加しやすい環境作りが必要だと思う。施設の拡充、インストラクターの増加、参加への誘導（宣伝）等。 「広報としま」等で健康プラザのような施設のPRをしてみてはどうか。介護予防には最適だと思う。 - 今後区内においても高齢者人口が増加しているので、予防対策と共に、より一層の介護対策をお願いする。 - これからが心配な年齢になっていきますが、認知症にならないような予防があれば、是非参加したいので、実施して欲しい。体操以外での研修会を出来れば地域ごとに実施してほしい。実施している場合は告知方法を考えてほしい。 - 健康・運動指導士による、かんたん貯筋運動等を週二回位あったら良いと思う。 - 元気高齢者が介護予防のために利用出来るトレーニング用公共施設（自由に利用出来る）はないか。要支援になる前の段階で食生活や、運動等のアドバイスを指導してもらえればありがたい。 - 高齢になってから健康寿命を伸ばそうとしても無理があるので、若いときから健康に留意した生活習慣が身につくよう、行政も支援すべきと思う。 - スポーツセンター施設を増加してほしい。

観点	主な回答内容
	• 予防の為の講習や色々な催しがあっても、経済的な余裕が確保されていて始めて参加可能になると思う。年金額が少なければ当然、仕事をしなければならず、それによって時間的に難しくなってしまうため、不参加になる。マイナススパイラルにならないよう、日・時や場所がたくさん選択出来たりすると参加者も増えるのではないかな。 • 介護予防は区内で行なわれていると思いますが参加しやすい形でやって欲しい。 • フレイルの基準が良く判らないので、更に定量的な判断基準が明確になると良いと思う。 • 近くに体力維持の教室があったら有料でも参加したい。遠い、体力がついて行けないのは続かないと思う。 • スポーツジムに行っている者に、一部料金負担してほしい。 • 介護予防に近所の方と茶話会等に予約なしで行けて、自分達でできる場所が欲しい。 • 予防が一番だと思うので、年金生活でも行かれる様な体操教室を作ってほしい。(だいたい3ヶ月で修了してしまうのもっと長いスパンでお願いしたい。) お金を出せばカルチャースクールなど色々ありますが、安い料金で行かれる所や教室を作ってほしい。 • 介護予防の為に体を動かすことを心がけていますが、区の施設で個人でも参加できる運動(スポーツ・体操)、筋トレ、有酸素運動の器具などの情報の発信をして頂けたら運動をする機会が増えると思う。 • 区民事務所等の小さい単位で介護予防などのセミナーや運動指導を行って頂けると参加しやすい。 • 介護予防のための通い場が近いところにあるとよいと思っています。 • 介護予防として、公園で簡単な運動ができる器具やしかけがあると人と話しながらできてよいと思う。 • 運動する場所があると良いです。天気・温度に左右されないで。 • 高齢者が参加できる教室をもっとたくさんつくってほしい。
生きがいづくり	• 介護をお願いする立場になったとしても、動ける範囲で何か他の方の役に立つことが出来ると良い。施設に入っても、手が動くなら洗濯物をたたむ、声が出るならお食事時間等のお知らせにまわる等、1人1人が出来ることをする様な施設があって欲しい。 • 年齢問わず元気な高齢者は無給でもよいがどんどん採用し、私は社会に貢献していると云う思いと元気に活動しているという心のときめき喜びをもっともっと一人一人外に出して欲しい。 • 区の仕事で手伝いが出来れば嬉しい。 • 「要介護＝サービスを受ける人」というイメージではな

観点	主な回答内容
	く、要介護でも普通の人と同じく暮らせる（仕事もできる、子供の世話もできる、自分らしい生き方ができる）ようになってほしいと思う。 • 毎日の生活が、やりがい（孫の世話）のある日々を送りたい。 • 独居高齢者が増えていますが、住居近くで人と話し出来る機会が必要かと思う。 • 元気に過ごせる為高齢者の役割を作ってほしい。 • もっと楽しめるコミュニティ（やりたい事と価値観が一致した少人数的な集まり）があっても良いと思う。 • 健康で医者にかからなかったらポイントを与えとか、介護が必要な人のお手伝いをしたらやはりポイントをあげ健康な方が生き甲斐をもって生活していけるような社会のしくみ作りがぜひ必要である。元気な人はより元気に暮らせるよう、お手伝いを必要とする人も、元気な人から力を与えてもらえるよう支援していくことが大事である。 • 通りいっぺんの介護のための施設や生きがい講座やスポーツではなく積極的に自分が今までやりたかったことにチャレンジしたり前の仕事や特技を生かして出きることを紹介して活躍の場を作ってほしい。 • 働ける間は、働くことが予防になると感じる。就労支援も大事ではないだろうか。 • 地域で高齢の人を集めて、食事会、セミナーなど行ない交流を深め一人でないと思える地域にしてほしい。 • 高齢者の就職の門戸を広げることも、健康寿命を延ばす1つの要因になるのではないか。 • 高齢者が日中、家にとじこもりがちになる。地域に誰でも集える場所があれば出掛ける目的も出来、又、誘い合って行ったりして、少しでも交流する時間も作れて良いのではないか。 • 閉店してしまった店を借りて、高齢者で働ける人が中心になり運営できるとよい。 • 地域町会単位の高齢者のいこいの場所が必要である。
生活支援	• 介護が必要になった時に、あらゆる事に書類提出が求められる。代りにやって下さる方がいて下さると助かる。 • ぜひ巡回バスがほしい。 • 料理をつくるのが、おっくうになって同じものを、食べつづけ、つまらない食事になっている。宅配をしてくれると、ありがたい。（もちろん有料で） • 身体が思う様に動かないのでなかなか家の整理等出来ない。掃除をしてくれる人をお願いしたい。 • 地域に高齢者に食事を提供してくれる場所があると助かる。 • タクシー券がほしい。もう少し多めに欲しい。 • 家族の負担が大変なので、介護保険で掃除等も利用できるとありがたい。

観点	主な回答内容
	- 定期的にみまわりがあると嬉しい。 - 認知症で常に動いてしまう場合家族は目を離せない状況になるが、介護に「見守り」というシステムがないと聞いた。
情報提供・相談	- 豊島区のHPで高齢者福祉のページをみると、項目が並んでいるだけで方針、重点施策がよくわからない。また利用者が上記のような教室を探そうとしたとき、どこを見ればよいかもわかりにくい。利用者のやりたいことで情報検索をやすくしていただきたい。 - 現役で仕事をしているが60になる頃から老後介護や年金のうけとり方や次の仕事（再就職）などのプランや講座等があった方がいい。実際会社から定年されてもどの位の給料で働いたらいいのか年金をもらう時期、再雇用などわからないことが多かった。 - 介護保険でどこまでの介護が受けることが出来るのかどの程度まで受けるとどの位のお金を支払うのか解りやすい表があったら教えて欲しい。 - 介護が必要になった時はどこへ相談に行ったら良いかとでも不安である。 - 高齢者総合相談センターがあることは、皆さん知っていると思うが、利用の仕方がわからない。皆がわかるようになったらいいと思う。 - 介護予防の体操などは、区報で知ることはあっても、なかなか、気楽に参加できない。もっと多くの人達が参加できるようにはならないか。 - 介護保険の実際について知識がないため、講座等で教えてほしい。 - 各種制度などをまとめた冊子とかパンフレットが欲しい。 - 心身の健康と生活の安定のための相談窓口がもっと身近なものになるといい。 - 高齢者総合相談センターの場所や曜日、時など知りたい。分りやすく字なども大きく、目立つ様に書いてほしい。 - 高齢者総合相談センターはどのような健康状態になったら利用してよいのかはっきりした事がわからない。詳しい場所を知っておきたいです。 - 運動不足や筋力低下の解消に気軽に参加できる場所や施設などの紹介など一覧できたら良いです。 - 介護保険に関するパンフレットを配布してほしい。 - 高齢者総合相談センターに関する資料を配布してほしい。 - 自宅からあまり離れていない距離で、介護保険を活用しながら入れるどのような施設があるのか、情報を知っておきたい。 - どういう事に介護保険が利用出来るのか、詳しいことが理解出来ていない。 - 個人差はありますが、70代前半までつまり前期高齢者は、高齢者の意識もあまりないと感じる。プログラムも分けて

観点	主な回答内容
	対策を講じた方が効果的だと思う。 • 高齢者総合相談センターについて、区報等に、場所やイベント情報を掲載して頂ければ参考になると思う。 • 高齢者相談センターが、遠すぎるので、サブ相談センターを設けて欲しい。 • 高齢者総合相談センターに関して、くわしい案内書を配布していただけたら有り難い。 • 必要な時期に、信頼して入居できる施設に関する情報源が無い。 • 介護保険の内容をわかり安く説明してもらえらるゼミの様な事を、介護認定を受けられる年齢に達したら受けられる制度を作って欲しい。 • 今のうちに介護施設の種類や、費用、入居方法を知っておきたいが、系統だった情報の入手ができない。その様な情報発信している所や、ホームページなどがあったら知っておきたい。多分、アプローチの仕方が分からなくて、困っている人が多いと思う。 • ふだんから介護予防のたすけになるような方法などを広報でわかりやすく教えてほしい。介護保険についてもわかりやすく教えてほしい。 • 介護保険料をどういう人やタイミングで個人として利用できるかについて、高齢者にとってわかり易い説明書を作成して、全員（65才以上）に配って、不公平のない様にしたい。
サービスの充実	• 必要なときに、すぐに入所出来る施設があると助かる。 • 特養ホームなどに入居するのに待ち時間が長い。 • もしもの時の特養施設を増設希望する。 • 近い将来介護が必要になった場合、公共の介護施設に入居したいが、適正料金の施設を区で作って欲しい。従来の公共的施設よりも、多少高額なものも需要があるのではないかな。 • 介護施設に入りたいと思うがなかなか入れないのがつらい。 • お金のかからない施設に入れたらと思う。区内に少しでも多くの施設が出来る事を願っている。 • 認知症の人がグループホームの形の施設ですごせる様になると良いと思うので、空き家を利用したらと考える。 • 介護施設になかなか入れてもらえないとよく聞く。すぐに入居出来る様にしてほしい。 • 区立の軽費老人ホームをふやしてほしい。
経済的負担	• 収入（年金）に対して、介護保険が高く、どんどん苦しくなる。 • 介護保険料が高額だと感じ、支払いへの不安で趣味や買い物を楽しめない。 • 介護保険の適用範囲がせますぎるが、個人負担が多い。 • 保険料が毎年上がるので困る。

観点	主な回答内容
	- 介護の有無にかかわらず、介護保険料が同じである。予防にかかる費用の補助が必要である。(予防費用は、自己負担が多い。) - ケアマネジャーにかかる費用が有料になるかもしれないとのニュースを聞いた。介護保険は、導入時に比べどんどん使いづらくなっているように思う。施設から地域へという導入時の理念を実現するためには、在宅ケアをもっと使い勝手良くし費用負担を少なくすべきと思う。 - 所得に応じて介護保険料を段階的に分けられ納付しているにもかかわらず介護利用料が同額でない事に疑問がある。 2035年以降、団塊世代が多数介護を受ける頃、介護保険が破綻しないよう、今から対策をして頂きたい。例えば、高額所得者の自己負担を3割以上にする。要支援の場合、介護保険を適応すべきか、検討する。(軽度の場合、自費サービスとする) - 生活保護受給者より、少ない年金の受給者には、これ以上、介護保険料を増額させないでほしい。
要介護認定申請	- 地方の一人暮らしと違い都心部では、歩く、作業する、話すなど基本的な行動パターンが違うことをご理解できた上で、一律の判定に意味があるのか、ご検討いただきたい。 - 申請中ですが、高齢者総合相談センターの対応が遅い(1ヶ月以上経過しているが未だ認定してもらえない)。 - 介護認定審査から介護サービスを受けるまでの期間が長すぎる。 - 介護認定者の査定は本人が考えているより軽く評価されている様に感じる。
介護従事者の処遇改善	- 介護士の給料を高くして、よろこんで出来る仕事にする必要がある。何しろ、仕事として、成り立っていないのが現実。 - 介護に携わってくださる方々が、働きやすい条件や環境を整えてくださると嬉しい。 - 高齢化が進む中で、ヘルパーさんの役割はますます大きくなっていくが、報道などでは報酬や待遇が十分でない為に離職がふえているとも聞く。厳しい仕事内容に、みあったものにすべきだと思う。 - 大変なお仕事の割にはお給料が安いと聞いている。国政が基本給を上げて欲しいと願っている。
その他	自宅での介護を希望する場合、地域全体でサポートする必要があるとよいと思う。

7. 各種リスクの状況について

(1) ロコモ※リスク

※ 以下の7項目のうち1項目以上該当するものがある場合、リスク「該当」と判定
問11. からだを動かすことについて、現在のあなたの状況をお答えください。(指定のない限り、それぞれひとつだけ○)

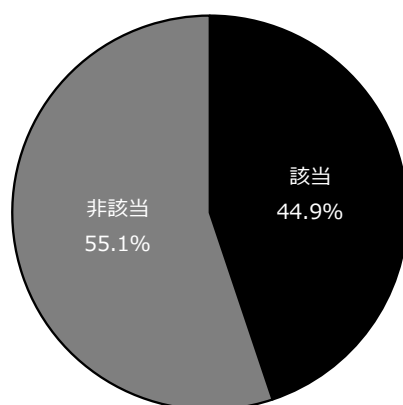
- ① 階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか。
- ③ 15分位続けて歩いていますか。

問12. あなたは、次の中であてはまるものはありますか。(あてはまるものすべてに○)

- ・片脚立ちで靴下がはけない
- ・家の中でつまずいたり、すべったりする
- ・やや負担の重い家事(掃除など)が困難である
- ・2kg程度(1ℓの牛乳パック2個程度)の買い物をして持ち帰るのが困難である
- ・横断歩道を青信号で渡りきれない

「該当」が44.9%。“要支援1”“要支援2”において「該当」が9割以上。

図表 2-146 ロコモリスク (n=2,914)



※ ロコモティブシンドローム(ロコモ): 運動器の障害により、要介護になるリスクの高い状態になること。

性別でみると、“男性”に比べ“女性”の方が、「該当」の割合が高くなっています。
 性・年齢別でみると、男女ともに、加齢に伴い「該当」の割合が高くなっています。
 要介護度別でみると、“要支援2”において、「該当」の割合が最も高くなっています。

図表 2-147性・年齢、要介護度別のロコモリスク

		回 答 者 数	該 当	非 該 当	(%)
全体		2,914	44.9	55.1	
男 性	男性計	1,196	43.9	56.1	
	65歳～69歳	343	28.0	72.0	
	70歳～74歳	323	39.6	60.4	
	75歳～79歳	248	44.4	55.6	
	80歳～84歳	155	58.1	41.9	
	85歳～89歳	94	79.8	20.2	
	90歳以上	29	82.8	17.2	
女 性	女性計	1,613	45.3	54.7	
	65歳～69歳	361	26.6	73.4	
	70歳～74歳	382	34.0	66.0	
	75歳～79歳	392	44.9	55.1	
	80歳～84歳	268	60.8	39.2	
	85歳～89歳	148	76.4	23.6	
	90歳以上	60	86.7	13.3	
要 介 護 度	一般高齢者	2,514	40.8	59.2	
	総合事業対象者	36	55.6	44.4	
	要支援1	107	90.7	9.3	
	要支援2	98	92.9	7.1	

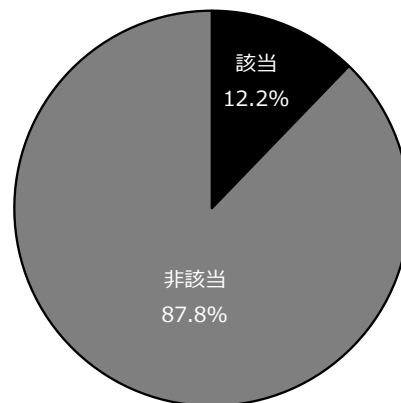
(2) 運動器機能低下リスク

※ 以下の5項目のうち3項目以上該当するものがある場合、リスク「該当」と判定
問11. からだを動かすことについて、現在のあなたの状況をお答えください。(指定のない限り、それぞれひとつだけ○)

- ① 階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか。
- ② 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか。
- ③ 15分位続けて歩いていますか。
- ④ 過去1年間に転んだ経験がありますか。
- ⑤ 転倒に対する不安は大きいですか。

「該当」が12.2%。“要支援1”“要支援2”において「該当」が5割以上。

図表 2-148 運動器機能低下リスク (n=2,914)



性別でみると、“男性”に比べ“女性”の方が、「該当」の割合が高くなっています。
 性・年齢別でみると、男女ともに、加齢に伴い「該当」の割合が高くなっています。特に、女性は85歳以上で、急激に「該当」の割合が高くなっています。
 要介護度別でみると、“要支援2”において、「該当」の割合が最も高くなっています。

図表 2-149 性・年齢、要介護度別の運動器機能低下リスク

		回答者数	該当	非該当	
全体		2,914	12.2	87.8	(%)
男性	男性計	1,196	8.9	91.1	
	65歳～69歳	343	3.8	96.2	
	70歳～74歳	323	6.5	93.5	
	75歳～79歳	248	8.1	91.9	
	80歳～84歳	155	8.4	91.6	
	85歳～89歳	94	30.9	69.1	
	90歳以上	29	34.5	65.5	
女性	女性計	1,613	14.5	85.5	
	65歳～69歳	361	4.2	95.8	
	70歳～74歳	382	5.5	94.5	
	75歳～79歳	392	12.5	87.5	
	80歳～84歳	268	23.9	76.1	
	85歳～89歳	148	35.8	64.2	
	90歳以上	60	53.3	46.7	
要介護度	一般高齢者	2,514	8.4	91.6	
	総合事業対象者	36	19.4	80.6	
	要支援1	107	54.2	45.8	
	要支援2	98	60.2	39.8	

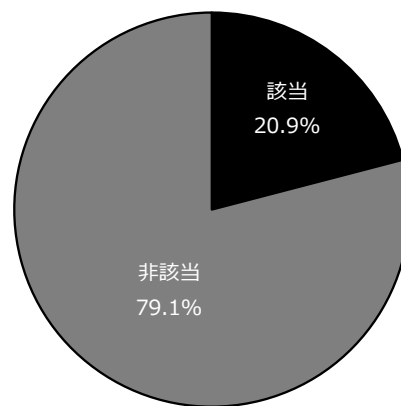
(3) 口腔機能低下リスク

※ 以下の3項目のうち2項目以上該当するものがある場合、リスク「該当」と判定
問13. 食べることにについて、現在のあなたの状況をお答えください。(それぞれ、ひとつだけ○)

- ① 半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか。
- ② お茶や汁物などむせることがありますか。
- ③ 口の渇きが気になりますか。

「該当」が20.9%。“要支援1”“要支援2”において「該当」が3割以上。

図表 2-150 口腔機能低下リスク (n=2, 914)



性別でみると、“女性”に比べ“男性”の方が、「該当」の割合が高くなっています。
 性・年齢別でみると、男女ともに、加齢に伴い「該当」の割合が高くなっています。
 要介護度別でみると、“要支援2”において、「該当」の割合が最も高くなっています。

図表 2-151 性・年齢、要介護度別の口腔機能低下リスク

		回 答 者 数	該 当	非 該 当	(%)
全体		2,914	20.9	79.1	
男 性	男性計	1,196	14.9	85.1	
	65歳～69歳	343	21.4	78.6	
	70歳～74歳	323	23.4	76.6	
	75歳～79歳	248	25.2	74.8	
	80歳～84歳	155	33.0	67.0	
	85歳～89歳	94	29.1	70.9	
	90歳以上	29	27.6	72.4	
女 性	女性計	1,613	20.5	79.5	
	65歳～69歳	361	13.6	86.4	
	70歳～74歳	382	16.2	83.8	
	75歳～79歳	392	21.2	78.8	
	80歳～84歳	268	28.4	71.6	
	85歳～89歳	148	26.4	73.6	
	90歳以上	60	35.0	65.0	
要 介 護 度	一般高齢者	2,514	19.0	81.0	
	総合事業対象者	36	16.7	83.3	
	要支援1	107	34.6	65.4	
	要支援2	98	51.0	49.0	

(4) 閉じこもりリスク

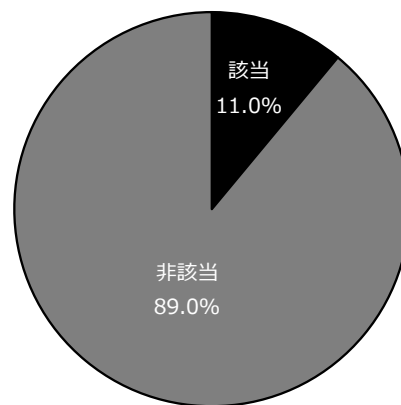
※ 以下の設問において「ほとんど外出しない」「週1回」に該当する場合、リスク「該当」と判定

問11. からだを動かすことについて、現在のあなたの状況をお答えください。(指定のない限り、それぞれひとつだけ○)

⑥ 週に1回以上は外出していますか。

「該当」が11.0%。“要支援1”“要支援2”において「該当」が3割以上。

図表 2-152 閉じこもりリスク (n=2,914)



性別でみると、“女性”に比べ“男性”の方が、「該当」の割合が高くなっています。
 性・年齢別でみると、男女ともに85歳以上で、急激に「該当」の割合が高くなっています。
 要介護度別でみると、“要支援2”において、「該当」の割合が最も高くなっています。

図表 2-153 性・年齢、要介護度別の閉じこもりリスク

		回答者数	該当	非該当	
全体		2,914	11.0	89.0	(%)
男性	男性計	1,196	11.4	88.6	
	65歳～69歳	343	8.7	91.3	
	70歳～74歳	323	10.2	89.8	
	75歳～79歳	248	11.3	88.7	
	80歳～84歳	155	9.0	91.0	
	85歳～89歳	94	22.3	77.7	
	90歳以上	29	34.5	65.5	
女性	女性計	1,613	10.6	89.4	
	65歳～69歳	361	4.4	95.6	
	70歳～74歳	382	7.3	92.7	
	75歳～79歳	392	8.2	91.8	
	80歳～84歳	268	11.2	88.8	
	85歳～89歳	148	23.6	76.4	
	90歳以上	60	48.3	51.7	
要介護度	一般高齢者	2,514	9.0	91.0	
	総合事業対象者	36	11.1	88.9	
	要支援1	107	35.5	64.5	
	要支援2	98	39.8	60.2	

(5) 転倒リスク

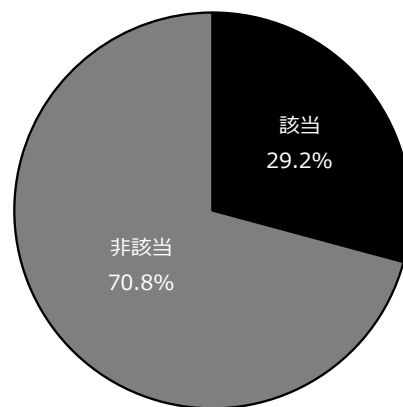
※ 以下の設問において「何度もある」「一度ある」に該当する場合、リスク「該当」と判定

問11. からだを動かすことについて、現在のあなたの状況をお答えください。(指定のない限り、それぞれひとつだけ○)

④ 過去1年間に転んだ経験がありますか。

「該当」が29.2%。“総合事業対象者”“要支援1”“要支援2”において「該当」が4割以上。

図表 2-154 転倒リスク (n=2,914)



性別でみると、“男性”に比べ“女性”の方が、「該当」の割合が高くなっています。
 性・年齢別でみると、男女ともに、加齢に伴い「該当」の割合が高くなっています。
 要介護度別でみると、“要支援2”において、「該当」の割合が最も高くなっています。

図表 2-155 性・年齢、要介護度別の転倒リスク

		回 答 者 数	該 当	非 該 当	(%)
全体		2,914	29.2	70.8	
男 性	男性計	1,196	28.3	71.7	
	65歳～69歳	343	21.0	79.0	
	70歳～74歳	323	26.6	73.4	
	75歳～79歳	248	29.8	70.2	
	80歳～84歳	155	32.9	67.1	
	85歳～89歳	94	43.6	56.4	
	90歳以上	29	48.3	51.7	
女 性	女性計	1,613	30.0	70.0	
	65歳～69歳	361	30.5	69.5	
	70歳～74歳	382	23.0	77.0	
	75歳～79歳	392	27.0	73.0	
	80歳～84歳	268	35.1	64.9	
	85歳～89歳	148	38.5	61.5	
	90歳以上	60	48.3	51.7	
要 介 護 度	一般高齢者	2,514	27.8	72.2	
	総合事業対象者	36	41.7	58.3	
	要支援1	107	46.7	53.3	
	要支援2	98	51.0	49.0	

(6) 低栄養リスク

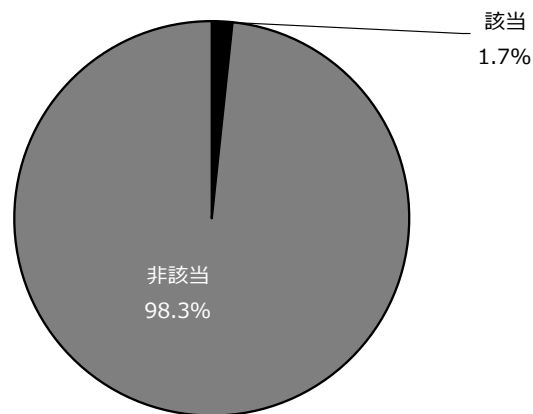
※ 以下の2項目において、「痩せ（BMI18.5未満）」、体重減少「あり」ともに該当する場合、リスク「該当」と判定

問13. 食べることにについて、現在のあなたの状況をお答えください。（それぞれ、ひとつだけ○）

- ① あなたの身長と体重を教えてください。
- ⑦ この6か月間で2～3kg以上の体重減少がありましたか。

「該当」が1.7%。“要支援2”において「該当」が約1割。

図表 2-156 低栄養リスク (n=2,914)



性別でみると、“男性”に比べ“女性”の方が、「該当」の割合が高くなっています。
 性・年齢別でみると、男性は85歳以上で急激に、女性は加齢に伴い、「該当」の割合が高くなっています。
 要介護度別でみると、“要支援2”において、「該当」の割合が最も高くなっています。

図表 2-157 性・年齢、要介護度別の低栄養リスク

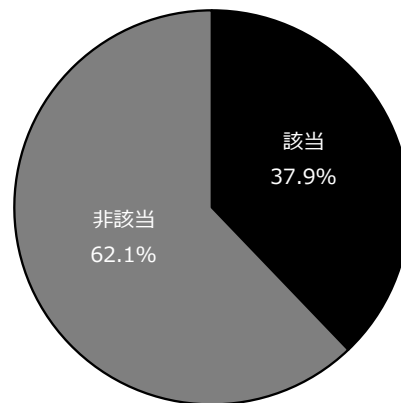
		回 答 者 数	該 当	非 該 当	
全体		2,914	1.7	98.3	(%)
男 性	男性計	1,196	0.9	99.1	
	65歳～69歳	343	0.9	99.1	
	70歳～74歳	323	0.6	99.4	
	75歳～79歳	248	0.4	99.6	
	80歳～84歳	155	0.6	99.4	
	85歳～89歳	94	2.1	97.9	
	90歳以上	29	6.9	93.1	
	女性計	1,613	2.2	97.8	
女 性	65歳～69歳	361	1.4	98.6	
	70歳～74歳	382	1.0	99.0	
	75歳～79歳	392	2.6	97.4	
	80歳～84歳	268	3.0	97.0	
	85歳～89歳	148	3.4	96.6	
	90歳以上	60	5.0	95.0	
	一般高齢者	2,514	1.4	98.6	
	総合事業対象者	36	0.0	100.0	
要 介 護 度	要支援1	107	3.7	96.3	
	要支援2	98	8.2	91.8	

(7) うつリスク

- ※ 以下の2項目のうち1項目以上該当するものがある場合、リスク「該当」と判定
- 問15. あなたは、この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか。(ひとつだけ○)
- 問16. あなたは、この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは、心から楽しめない感じがよくありましたか。(ひとつだけ○)

「該当」が37.9%。“総合事業対象者”“要支援1”“要支援2”において「該当」が約5割。

図表 2-158 うつリスク (n=2,914)



性別でみると、“男性”に比べ“女性”の方が、「該当」の割合が高くなっています。

性・年齢別でみると、男性は85歳以上で、急激に「該当」の割合が高くなっています。

女性は年齢に関わらず一定割合「該当」の割合が存在します。

要介護度別でみると、“総合事業対象者”においては、「該当」と「非該当」の割合が同じになっています。“要支援2”において、「該当」の割合が最も高くなっています。

図表 2-159 性・年齢、要介護度別のうつリスク

		回 答 者 数	該 当	非 該 当	
全体		2,914	37.9	62.1	(%)
男 性	男性計	1,196	37.3	62.7	
	65歳～69歳	343	37.0	63.0	
	70歳～74歳	323	35.6	64.4	
	75歳～79歳	248	35.9	64.1	
	80歳～84歳	155	36.1	63.9	
	85歳～89歳	94	45.7	54.3	
	90歳以上	29	48.3	51.7	
女 性	女性計	1,613	38.2	61.8	
	65歳～69歳	361	41.3	58.7	
	70歳～74歳	382	37.4	62.6	
	75歳～79歳	392	38.0	62.0	
	80歳～84歳	268	34.3	65.7	
	85歳～89歳	148	40.5	59.5	
	90歳以上	60	35.0	65.0	
要 介 護 度	一般高齢者	2,514	36.6	63.4	
	総合事業対象者	36	50.0	50.0	
	要支援1	107	49.5	50.5	
	要支援2	98	56.1	43.9	

8. 経年比較

本項においては、過年度（平成28年度）の調査結果と比較ができる設問のうち、特に経年変化を追うことが必要な項目について、比較結果を掲載しています。

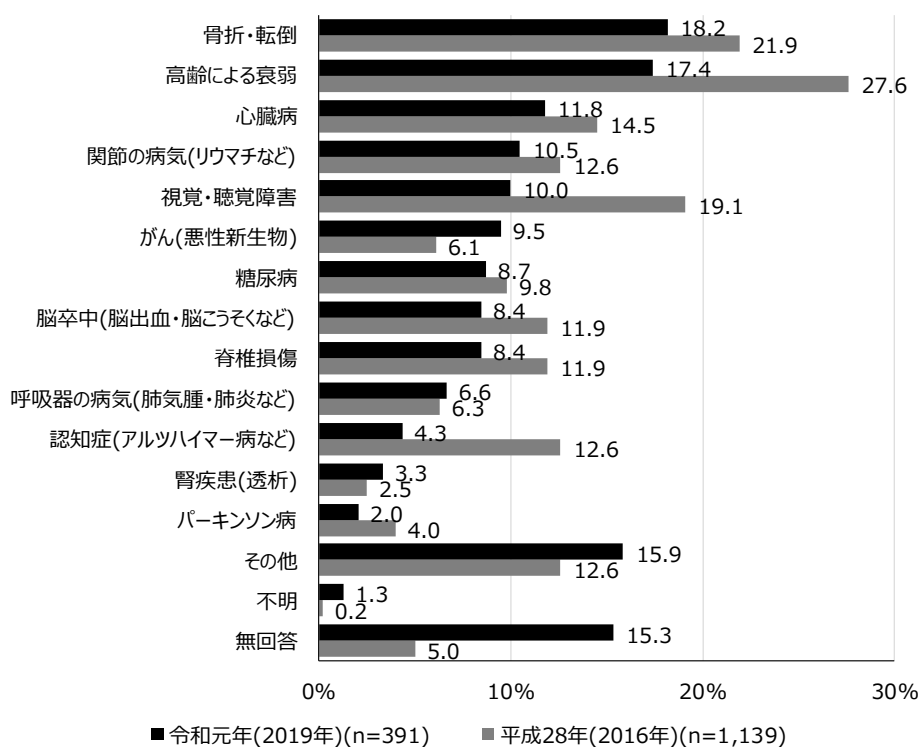
ただし、過年度調査の対象者は「一般高齢者」「総合事業対象者」「要支援1・2認定者」「要介護1・2認定者」であるのに対し、今回の調査の対象者は「一般高齢者」「総合事業対象者」「要支援1・2認定者」であり、「要介護1・2認定者」が含まれていないことに留意する必要があります。

（1）介護が必要になった原因

問9-1. 問9で「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」「現在、何らかの介護を受けている」に○をつけた方にうかがいます。あなたは、介護・介助が必要になった主な原因は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

過年度調査に比べ、今回調査においては、「高齢による衰弱」「視覚・聴覚障害」「認知症（アルツハイマー病など）」が10ポイント近く低い。

図表 2-160 介護・介助が必要になった原因

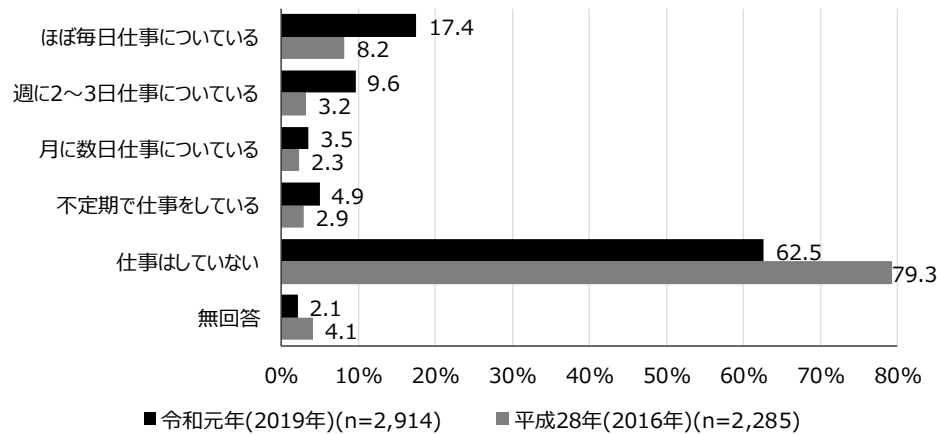


(2) 就労状況

問10. あなたは現在、収入を得る仕事をしていますか。(ひとつだけ○)

過年度調査に比べ、今回調査においては、「ほぼ毎日仕事についている」が9.2ポイント高く、「仕事はしていない」が16.8ポイント低い。

図表 2-161 就労状況



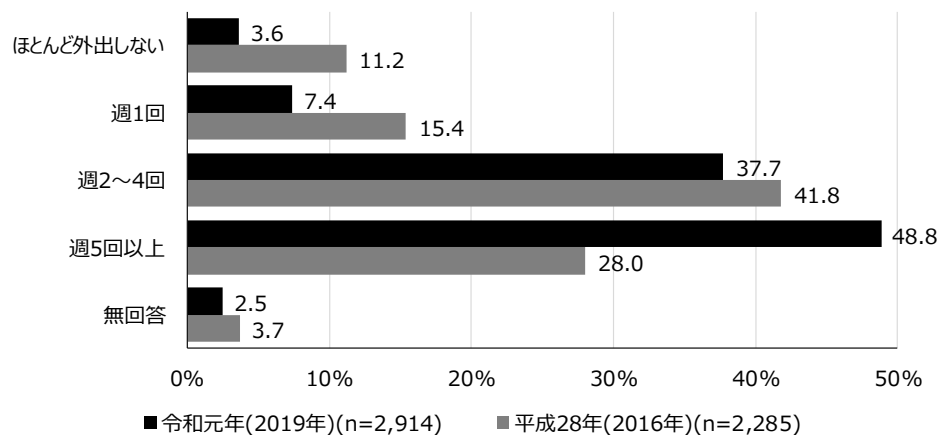
(3) 身体機能

問11. からだを動かすことについて、現在のあなたの状況をお答えください。(指定のない限り、それぞれひとつだけ○)

⑥週に1回以上は外出していますか。

過年度調査に比べ、今回調査においては、「週5回以上」が20.8ポイント高く、「ほとんど外出しない」が7.6ポイント低い。

図表 2-162 外出状況

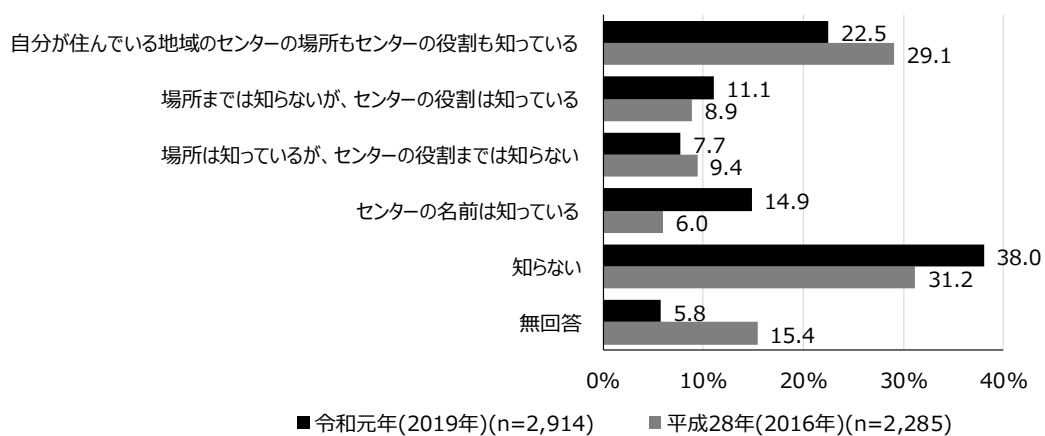


(4) 高齢者総合相談センターの認知度

問46. 豊島区では高齢者の心身の健康と生活の安定のための相談窓口として、区内に高齢者総合相談センター（地域包括支援センター）を設置しています。あなたは、高齢者総合相談センターを知っていますか。（ひとつだけ○）

過年度調査に比べ、今回調査においては、「知らない」が6.8ポイント高く、「自分が住んでいるセンターの場所も役割も知っている」が6.6ポイント低い。

図表 2-163 高齢者総合相談センターの認知度



第 3 章

要介護認定者調査

第3章 要介護認定者調査

<調査結果の概要>

(1) 要介護認定者の介護の実態

- 「要介護1」が31.2%と最多である(図表 3-13 要介護度(n=618))。介護が必要になった主な原因は、「認知症(アルツハイマー病など)」が32.4%と最多である(図表 3-15)。
- 利用している介護サービスは、「福祉用具の貸与」が64.0%と最多。次いで「通所介護」(38.8%)、「訪問介護」(29.6%)の順(図表 3-19)。
- 介護保険の在宅サービスの費用に対する考えは、「負担感はあるが、必要なサービス利用のためにはやむを得ない」が35.3%と最多となっている(図表 3-24)。
- 介護を受けたい場所としては、「自宅」が35.1%と最多。次いで「介護施設」が28.6%と続く。一方で「わからない」が14.2%(図表 3-26)。
- 施設などへの入所・入居の検討状況については、現在「入所・入居は検討していない」が68.9%と最多。一方で、「入所・入居を検討している」が19.7%となっており(図表 3-30)、入所申込み(検討)をした施設は、「特別養護老人ホーム」が53.5%と最多であり(図表 3-32)、施設の場所としては「豊島区内」が63.6%と最多となった(図表 3-34)。

(2) 家族介護者支援

- 主介護者は、「子」が39.5%と最多。(図表 3-57) 性別は、「男性」が33.1%、「女性」が57.5%(図表 3-58)。
- 主介護者は、介護の頻度として「ほぼ毎日ある」が66.5%と最多となっている(図表 3-61)。主介護者が不安を感じる介護は、「外出の付き添い、送迎など」が28.7%と最多(図表 3-63)。
- 主介護者は、「健康であり、要介護認定は受けていない」が43.7%と最多。次いで「何らかの病気や障害などはあるが、要介護認定は受けていない」が20.7%と続いている。なお、“80歳以上”では、「要支援1・2の認定を受けている」が最多(図表 3-65)。
- 主介護者は何らかの勤務形態(「フルタイムで働いている」(21.1%)、「パートタイムで働いている」(18.1%))で働いている割合は39.2%(図表 3-67)。
- 家族・親族における介護を理由とした離職の状況は、「介護のために仕事をやめた家族・親族はいない」が54.0%と最多(図表 3-73)となっており、主介護者の働き方の調整状況は、「介護のために、労働時間を調整をしながら働いている」が38.5%と最多であり(図表 3-69)、主介護者の就労意向としては、「問題はあるが何とか続けていける」が55.7%と最多となっている(図表 3-71)。

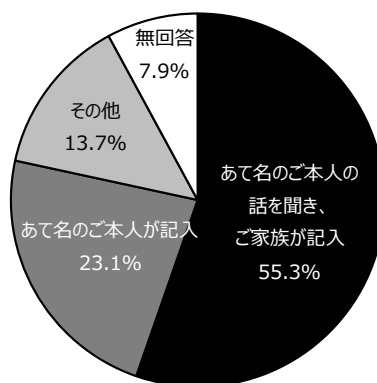
1. ご本人について

(1) 回答者

問1. この調査票にご回答いただいている方は、どなたですか。(ひとつだけ○)

「あて名のご本人の話を聞き、ご家族が記入」が55.3%と最多。

図表 3-1 回答者 (n=759)

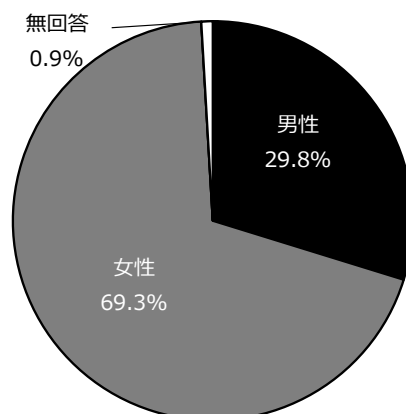


(2) 性別

問2. あなたの性別をお答えください。(ひとつだけ○)

「男性」が29.8%、「女性」が69.3%。

図表 3-2 性別 (n=759)

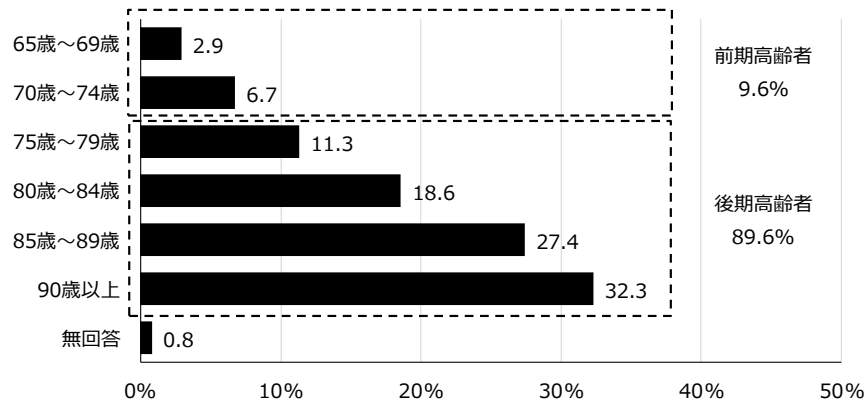


(3) 年齢

問3. あなたの令和元年11月1日現在の年齢をお答えください。(ひとつだけ○)

『前期高齢者』が9.6%、『後期高齢者』が89.6%。

図表 3-3 年齢(n=759)



図表 3-4 主介護者の年齢別の年齢

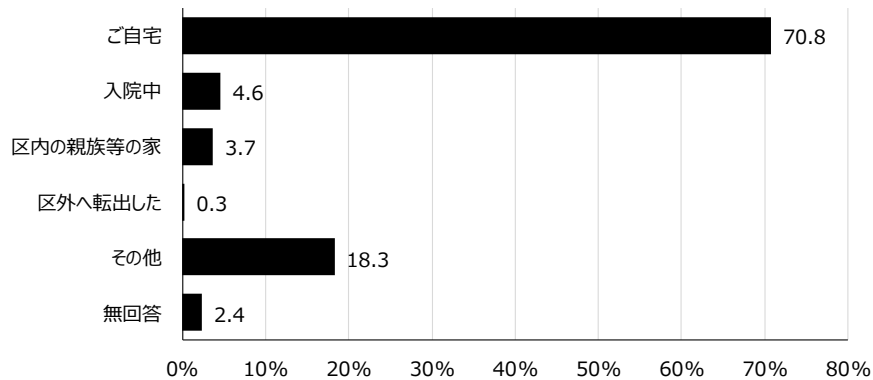
		回 調 査 数	6 5 歳 ～ 6 9 歳	7 0 歳 ～ 7 4 歳	7 5 歳 ～ 7 9 歳	8 0 歳 ～ 8 4 歳	8 5 歳 ～ 8 9 歳	9 0 歳 以 上	無 回 答	(%)
全体		759	2.9	6.7	11.3	18.6	27.4	32.3	0.8	
主 介 護 者 の 年 齢	20歳未満	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	20代	1	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	
	30代	3	33.3	33.3	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	
	40代	17	5.9	11.8	35.3	41.2	0.0	5.9	0.0	
	50代	111	0.0	1.8	8.1	29.7	39.6	20.7	0.0	
	60代	140	6.4	5.7	2.9	2.1	25.7	56.4	0.7	
	70代	134	4.5	14.9	29.9	18.7	8.2	23.9	0.0	
	80歳以上	110	0.0	3.6	10.0	32.7	39.1	14.5	0.0	

(4) 居住地

問4. あなたは現在、どちらにお住まいですか。(ひとつだけ○)

「ご自宅」が70.8 %と最多。

図表 3-5 現在の住まい(n=759)

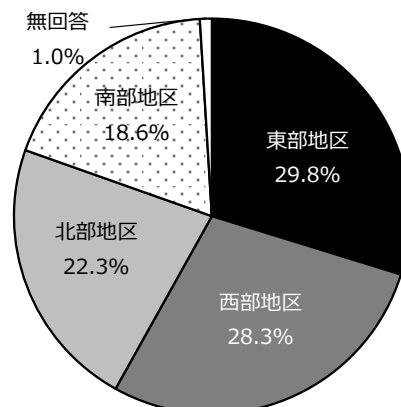


(5) 居住地区

問5. あなたがお住まいの地域をお答えください。(ひとつだけ○)

「東部地区」が29.8%と最多。次いで「西部地区」(28.3%)、「北部地区」(22.3%)の順。

図表 3-6 居住地(n=618)

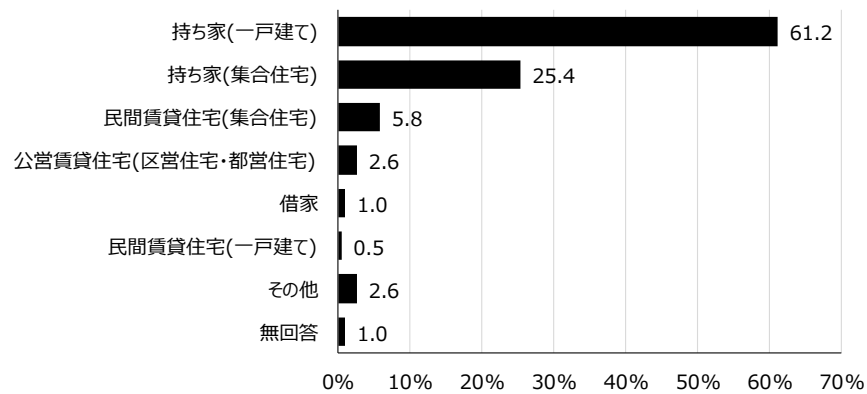


(6) 住宅の形態

問6. あなたの現在のお住まいは、一戸建てまたは集合住宅のどちらですか。(ひとつだけ○)

「持ち家(一戸建て)」が61.2%と最多。

図表 3-7 住宅の形態 (n=618)



図表 3-8 居住地、家族構成別の住宅の形態

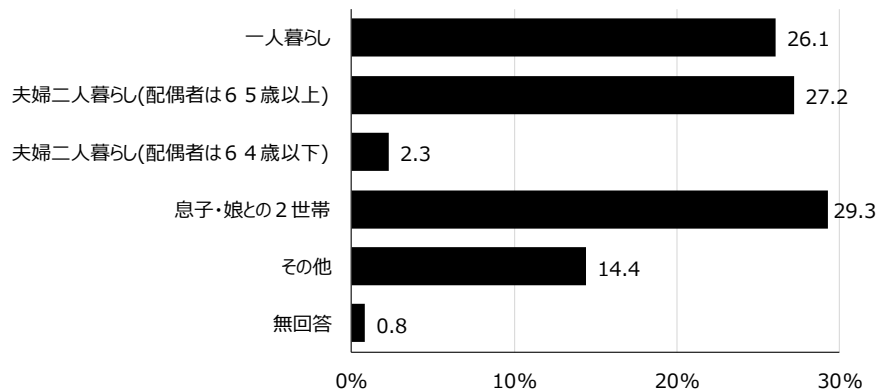
		回答者数	持ち家(一戸建て)	持ち家(集合住宅)	公営賃貸住宅(区営住宅・都営住宅)	民間賃貸住宅(一戸建て)	民間賃貸住宅(集合住宅)	借家	その他	無回答	
全体		618	61.2	25.4	2.6	0.5	5.8	1.0	2.6	1.0	(%)
居住地	東部地区	184	51.6	32.1	4.9	0.5	7.6	0.5	2.2	0.5	
	北部地区	138	62.3	25.4	0.7	0.0	8.0	0.7	2.9	0.0	
	南部地区	115	54.8	36.5	0.9	0.9	4.3	0.0	2.6	0.0	
	西部地区	175	76.6	12.0	2.9	0.6	2.9	1.7	2.9	0.6	
家族構成	一人暮らし	161	50.9	28.6	3.7	1.2	6.8	1.2	6.2	1.2	
	夫婦二人暮らし(配偶者65歳以上)	168	56.5	29.2	4.2	0.0	7.7	1.2	1.2	0.0	
	夫婦二人暮らし(配偶者64歳以下)	14	50.0	35.7	7.1	0.0	0.0	0.0	7.1	0.0	
	息子・娘との2世帯	181	73.5	21.5	0.6	0.6	3.3	0.0	0.6	0.0	
	その他	89	67.4	20.2	1.1	0.0	6.7	2.2	2.2	0.0	

(7) 家族構成

問7. あなたの現在の世帯の状況を、以下の中からお答えください。(ひとつだけ○)

「息子・娘との2世帯」が29.3%と最多。次いで「夫婦二人暮らし(配偶者は65歳以上)」(27.2%)、「一人暮らし」(26.1%)の順。

図表 3-9 家族構成 (n=618)



図表 3-10 性・年齢、居住地別の家族構成

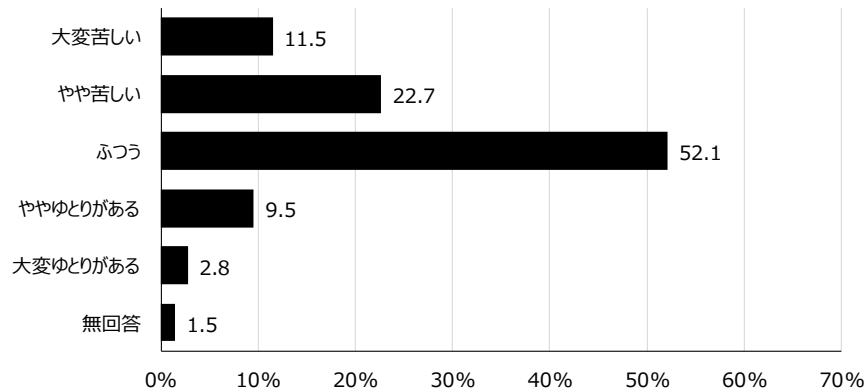
		回答者数	一人暮らし	夫婦二人暮らし(配偶者は65歳以上)	夫婦二人暮らし(配偶者は64歳以下)	息子・娘との2世帯	その他	無回答	
全体		618	26.1	27.2	2.3	29.3	14.4	0.8	(%)
男性	男性計	196	14.8	46.9	5.1	20.9	11.7	0.5	
	65歳～69歳	8	25.0	37.5	0.0	25.0	12.5	0.0	
	70歳～74歳	19	31.6	52.6	0.0	10.5	5.3	0.0	
	75歳～79歳	35	2.9	48.6	11.4	20.0	14.3	2.9	
	80歳～84歳	45	20.0	51.1	2.2	15.6	11.1	0.0	
	85歳～89歳	59	3.4	54.2	8.5	25.4	8.5	0.0	
	90歳以上	30	30.0	23.3	0.0	26.7	20.0	0.0	
女性	女性計	416	31.3	18.0	1.0	33.7	15.9	0.2	
	65歳～69歳	12	8.3	75.0	0.0	8.3	8.3	0.0	
	70歳～74歳	24	29.2	33.3	0.0	12.5	20.8	4.2	
	75歳～79歳	43	11.6	46.5	0.0	27.9	14.0	0.0	
	80歳～84歳	82	29.3	25.6	2.4	28.0	14.6	0.0	
	85歳～89歳	107	39.3	11.2	1.9	29.9	17.8	0.0	
	90歳以上	148	34.5	3.4	0.0	46.6	15.5	0.0	
居住地	東部地区	184	31.5	27.7	1.6	27.7	11.4	0.0	
	北部地区	138	21.7	26.1	2.9	29.7	19.6	0.0	
	南部地区	115	27.0	26.1	3.5	29.6	13.9	0.0	
	西部地区	175	23.4	29.1	1.7	31.4	13.7	0.6	

(8) 経済状況

問8. あなたは現在の暮らしの経済的な状況をどう感じていますか。(ひとつだけ○)

「ふつう」が52.1%と最多。

図表 3-11 経済状況 (n=618)



図表 3-12 居住地、家族構成別の経済状況

		回答者数	大変苦しい	やや苦しい	ふつう	ややゆとりがある	大変ゆとりがある	無回答	
全体		618	11.5	22.7	52.1	9.5	2.8	1.5	(%)
居住地	東部地区	184	13.6	23.4	48.9	9.8	3.8	0.5	
	北部地区	138	10.9	16.7	60.9	7.2	2.9	1.4	
	南部地区	115	9.6	22.6	52.2	13.0	1.7	0.9	
	西部地区	175	10.9	26.9	50.3	9.1	2.3	0.6	
家族構成	一人暮らし	161	10.6	22.4	51.6	9.3	3.7	2.5	
	夫婦二人暮らし(配偶者65歳以上)	168	14.9	27.4	48.2	7.7	1.8	0.0	
	夫婦二人暮らし(配偶者64歳以下)	14	14.3	21.4	57.1	0.0	0.0	7.1	
	息子・娘との2世帯	181	9.9	18.8	56.4	12.7	2.2	0.0	
	その他	89	10.1	23.6	52.8	9.0	4.5	0.0	

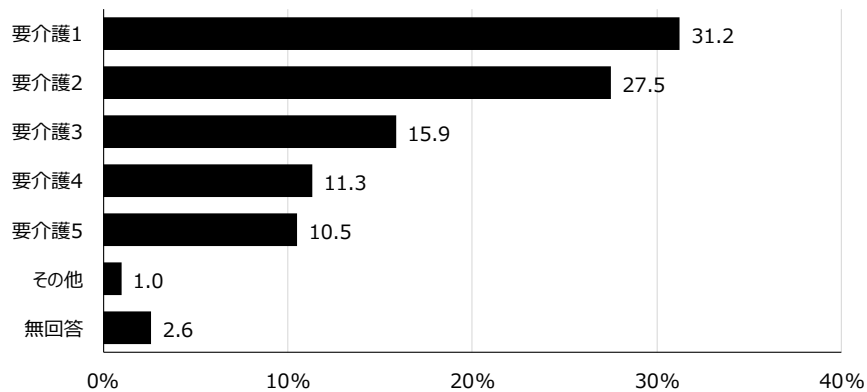
2. 介護について

(1) 要介護度

問9. あなたの現在の要介護度は次のどれにあたりますか。(ひとつだけ○)

「要介護1」が31.2%と最多。次いで「要介護2」(27.5%)、「要介護3」(15.9%)の順。

図表 3-13 要介護度(n=618)



図表 3-14 性・年齢別の要介護度

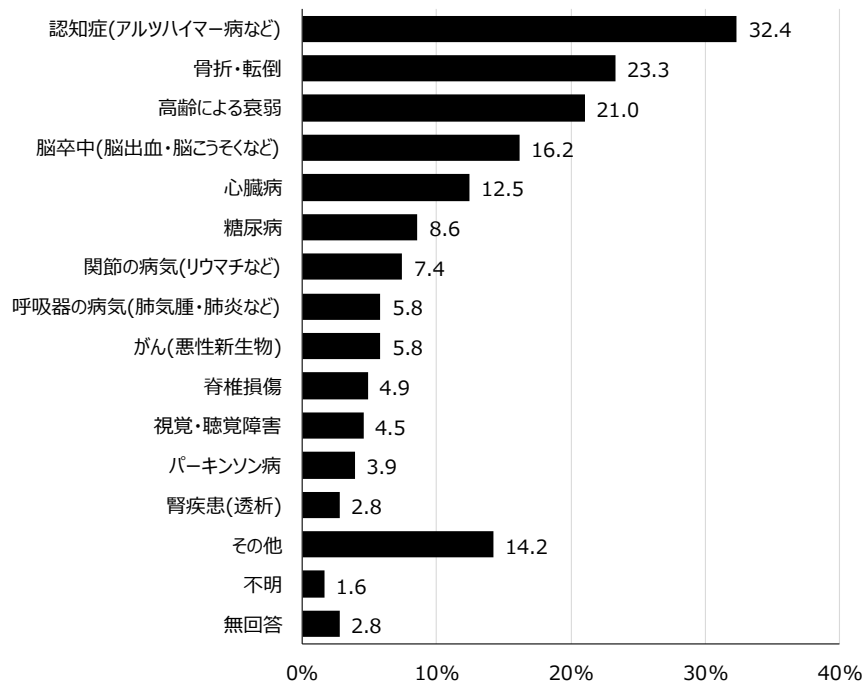
		回 答 者 数	要 介 護 1	要 介 護 2	要 介 護 3	要 介 護 4	要 介 護 5	そ の 他	無 回 答	
全体		618	31.2	27.5	15.9	11.3	10.5	1.0	2.6	(%)
男性	男性計	196	30.1	27.6	19.4	11.2	9.2	1.0	1.5	
	65歳～69歳	8	37.5	37.5	0.0	12.5	12.5	0.0	0.0	
	70歳～74歳	19	21.1	31.6	26.3	15.8	5.3	0.0	0.0	
	75歳～79歳	35	25.7	28.6	25.7	5.7	8.6	0.0	5.7	
	80歳～84歳	45	31.1	35.6	20.0	4.4	8.9	0.0	0.0	
	85歳～89歳	59	40.7	15.3	13.6	13.6	11.9	3.4	1.7	
	90歳以上	30	16.7	33.3	23.3	20.0	6.7	0.0	0.0	
女性	女性計	416	31.7	27.4	14.4	11.5	11.1	1.0	2.9	
	65歳～69歳	12	41.7	16.7	8.3	16.7	16.7	0.0	0.0	
	70歳～74歳	24	25.0	33.3	8.3	20.8	8.3	0.0	4.2	
	75歳～79歳	43	25.6	27.9	14.0	20.9	11.6	0.0	0.0	
	80歳～84歳	82	41.5	20.7	11.0	12.2	9.8	1.2	3.7	
	85歳～89歳	107	33.6	31.8	12.1	8.4	8.4	2.8	2.8	
	90歳以上	148	27.0	27.7	19.6	8.8	13.5	0.0	3.4	

(2) 介護が必要になった主な原因

問10. あなたが、介護が必要になった主な原因は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

「認知症(アルツハイマー病など)」が32.4%と最多。次いで「骨折・転倒」(23.3%)、「高齢による衰弱」(21.0%)の順。

図表 3-15 介護が必要になった主な原因 (n=618)



性別でみると、“男性”では、「認知症(アルツハイマー病など)」25.0%、「脳卒中(脳出血・脳こうそくなど)」23.5%、「高齢による衰弱」18.9%の順に高くなっており、“女性”では、「認知症(アルツハイマー病など)」36.3%、「骨折・転倒」27.6%、「高齢による衰弱」22.1%の順に高くなっています。男女ともに「認知症(アルツハイマー病など)」が最も高くなっていますが、性別で傾向が異なる部分も見られます。

図表 3-16 性・年齢、要介護度別の介護が必要になった主な原因

		回答者数	(脳卒中・脳こうそくなど)	心臓病	がん(悪性新生物)	(呼吸器の病気・肺炎など)	関節の病気(リウマチなど)	(認知症(アルツハイマー病など))	パーキンソン病	糖尿病	腎疾患(透析)	視覚・聴覚障害	骨折・転倒	脊椎損傷	高齢による衰弱	その他	不明	無回答
全体		618	16.2	12.5	5.8	5.8	7.4	32.4	3.9	8.6	2.8	4.5	23.3	4.9	21.0	14.2	1.6	2.8
男性	男性計	196	23.5	12.8	8.2	10.7	5.6	25.0	5.6	14.3	4.1	5.1	14.8	5.6	18.9	16.8	2.0	1.5
	65歳～69歳	8	25.0	12.5	12.5	0.0	0.0	0.0	0.0	12.5	12.5	0.0	12.5	0.0	0.0	62.5	0.0	0.0
	70歳～74歳	19	47.4	0.0	10.5	5.3	5.3	15.8	10.5	5.3	5.3	0.0	10.5	0.0	0.0	15.8	0.0	0.0
	75歳～79歳	35	22.9	2.9	8.6	8.6	8.6	28.6	5.7	14.3	0.0	2.9	8.6	5.7	8.6	20.0	0.0	8.6
	80歳～84歳	45	24.4	17.8	6.7	15.6	8.9	22.2	8.9	20.0	2.2	8.9	15.6	6.7	13.3	8.9	2.2	0.0
	85歳～89歳	59	20.3	11.9	8.5	15.3	5.1	33.9	5.1	15.3	1.7	3.4	16.9	6.8	25.4	20.3	1.7	0.0
	90歳以上	30	13.3	26.7	6.7	3.3	0.0	20.0	0.0	10.0	13.3	10.0	20.0	6.7	43.3	6.7	6.7	0.0
女性	女性計	416	13.0	12.5	4.8	3.6	8.2	36.3	3.1	5.8	2.2	4.3	27.6	4.1	22.1	13.2	1.2	2.9
	65歳～69歳	12	33.3	0.0	0.0	0.0	16.7	0.0	16.7	8.3	0.0	0.0	16.7	0.0	0.0	16.7	0.0	0.0
	70歳～74歳	24	25.0	4.2	12.5	0.0	16.7	20.8	4.2	0.0	4.2	0.0	4.2	4.2	0.0	29.2	4.2	4.2
	75歳～79歳	43	16.3	7.0	11.6	2.3	4.7	34.9	2.3	11.6	7.0	4.7	20.9	2.3	7.0	23.3	0.0	0.0
	80歳～84歳	82	11.0	7.3	4.9	7.3	9.8	43.9	4.9	6.1	1.2	2.4	26.8	7.3	14.6	13.4	1.2	3.7
	85歳～89歳	107	9.3	13.1	2.8	4.7	6.5	38.3	2.8	4.7	1.9	2.8	30.8	1.9	25.2	10.3	1.9	3.7
	90歳以上	148	12.2	18.9	3.4	2.0	7.4	36.5	1.4	5.4	1.4	7.4	32.4	4.7	33.8	9.5	0.7	2.7
要介護度	要介護1	193	8.8	12.4	2.6	2.6	9.3	38.9	2.6	8.8	2.6	4.7	18.1	3.1	24.4	13.5	2.1	1.6
	要介護2	170	14.7	15.3	9.4	7.6	10.0	22.9	2.9	8.8	4.1	5.3	29.4	7.6	21.8	14.7	1.2	1.2
	要介護3	98	16.3	10.2	6.1	5.1	4.1	35.7	3.1	11.2	0.0	4.1	26.5	7.1	17.3	10.2	3.1	0.0
	要介護4	70	27.1	15.7	7.1	10.0	5.7	38.6	4.3	7.1	5.7	2.9	22.9	2.9	17.1	15.7	1.4	0.0
	要介護5	65	33.8	9.2	3.1	7.7	3.1	33.8	12.3	7.7	1.5	6.2	26.2	1.5	21.5	20.0	0.0	0.0
	その他	6	0.0	0.0	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	16.7	16.7	0.0	50.0

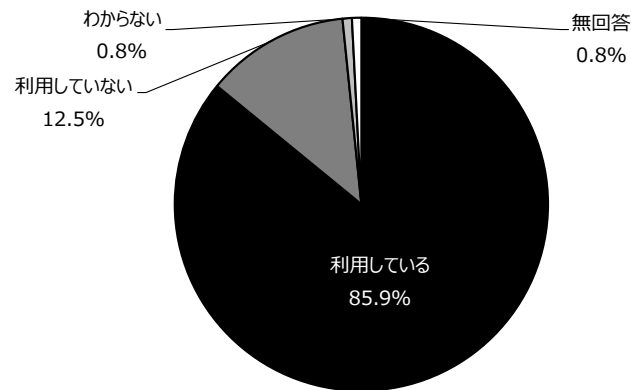
(%)

(3) 介護サービスの利用状況

問11. 現在、あなたは、介護保険サービスを利用していますか。(ひとつだけ○)

「利用している」が85.9%。

図表 3-17 介護保険サービスの利用状況 (n=618)



図表 3-18 居住地、家族構成、経済状況別の介護保険サービスの利用状況

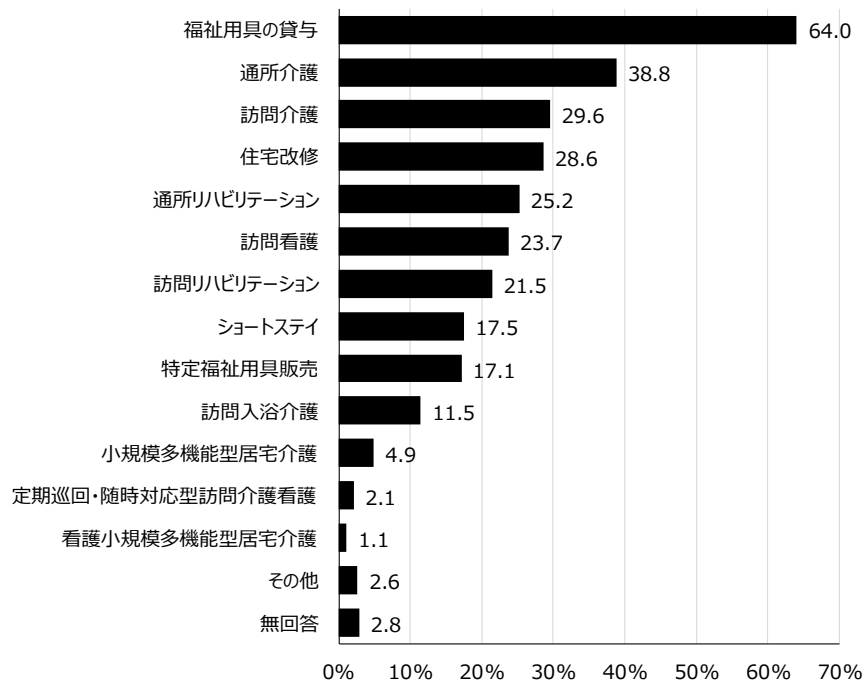
		回答者数	利用している	利用していない	わからない	無回答	
全体		618	85.9	12.5	0.8	0.8	(%)
居住地	東部地区	184	85.3	12.0	1.1	1.6	
	北部地区	138	88.4	10.9	0.7	0.0	
	南部地区	115	85.2	13.9	0.9	0.0	
	西部地区	175	85.7	13.1	0.6	0.6	
家族構成	一人暮らし	161	88.2	10.6	0.6	0.6	
	夫婦二人暮らし(配偶者65歳以上)	168	82.1	14.3	1.8	1.8	
	夫婦二人暮らし(配偶者64歳以下)	14	85.7	14.3	0.0	0.0	
	息子・娘との2世帯	181	87.8	12.2	0.0	0.0	
	その他	89	86.5	12.4	1.1	0.0	
経済状況	大変苦しい	71	81.7	18.3	0.0	0.0	
	やや苦しい	140	90.0	6.4	2.1	1.4	
	ふつう	322	85.1	13.7	0.6	0.6	
	ややゆとりがある	59	89.8	10.2	0.0	0.0	
	大変ゆとりがある	17	82.4	17.6	0.0	0.0	

(4) 利用している介護サービス

問11-1. 問11で「利用している」に○をつけた方にうかがいます。あなたが利用している介護保険サービスはどれですか。(あてはまるものすべてに○)

「福祉用具の貸与」が64.0%と最多。次いで「通所介護」(38.8%)、「訪問介護」(29.6%)の順。

図表 3-19 利用している介護保険サービス (n=531)



家族構成別でみると、“一人暮らし”では、「訪問介護」が最も高くなっています。“娘・息子との2世帯”においては、他の家族構成に比べ“通所介護”が高くなっています。

図表 3-20 家族構成、経済状況、要介護度別の利用している介護保険サービス

		回 答 者 数	訪 問 介 護	訪 問 入 浴 介 護	訪 問 看 護	訪 問 リ ハ ビ リ テ ー シ ョ ン	通 所 介 護	通 所 リ ハ ビ リ テ ー シ ョ ン	シ ョ ー ト ス テ イ	訪 問 定 期 巡 回 ・ 随 時 対 応 型 看 護	小 規 模 多 機 能 型 居 宅 介 護	看 護 小 規 模 多 機 能 型 居 宅 介 護	福 祉 用 具 の 貸 与	特 定 福 祉 用 具 販 売	住 宅 改 修	そ の 他	無 回 答
全体		531	29.6	11.5	23.7	21.5	38.8	25.2	17.5	2.1	4.9	1.1	64.0	17.1	28.6	2.6	2.8
家 族 構 成	一人暮らし	142	54.9	11.3	23.2	16.9	32.4	21.8	8.5	2.8	4.9	1.4	53.5	14.8	26.8	5.6	3.5
	夫婦二人暮らし(配偶者65歳以上)	138	25.4	13.8	26.1	28.3	25.4	24.6	11.6	3.6	7.2	1.4	65.2	18.8	27.5	3.6	2.9
	夫婦二人暮らし(配偶者64歳以下)	12	16.7	0.0	16.7	16.7	25.0	33.3	16.7	0.0	0.0	0.0	41.7	0.0	8.3	0.0	16.7
	息子・娘との2世帯	159	14.5	10.1	21.4	19.5	53.5	24.5	23.3	1.3	3.8	0.0	71.7	17.6	30.8	0.6	1.3
	その他	77	22.1	11.7	26.0	22.1	45.5	32.5	33.8	0.0	3.9	2.6	67.5	20.8	29.9	0.0	2.6
経 済 状 況	大変苦しい	58	36.2	12.1	19.0	20.7	29.3	24.1	6.9	3.4	3.4	0.0	62.1	17.2	29.3	3.4	0.0
	やや苦しい	126	31.7	11.1	27.8	21.4	33.3	23.0	15.1	4.0	5.6	3.2	63.5	15.1	24.6	4.0	4.0
	ふつう	274	27.7	11.3	23.7	22.3	44.2	24.5	17.2	1.1	5.5	0.4	63.5	17.2	28.5	1.8	2.6
	ややゆとりがある	53	24.5	11.3	20.8	18.9	35.8	34.0	37.7	1.9	0.0	1.9	71.7	17.0	35.8	1.9	1.9
	大変ゆとりがある	14	28.6	14.3	14.3	28.6	21.4	35.7	14.3	0.0	14.3	0.0	64.3	42.9	35.7	7.1	7.1
要 介 護 度	要介護1	156	20.5	5.1	12.2	13.5	30.1	38.5	7.7	1.9	2.6	1.9	46.2	12.2	25.6	3.2	3.2
	要介護2	157	29.3	8.3	12.7	18.5	31.8	29.3	12.7	1.3	6.4	0.6	59.9	15.9	26.1	1.9	4.5
	要介護3	92	32.6	8.7	33.7	26.1	55.4	10.9	20.7	2.2	4.3	1.1	72.8	22.8	33.7	3.3	0.0
	要介護4	62	32.3	25.8	43.5	33.9	40.3	14.5	24.2	3.2	4.8	0.0	85.5	19.4	27.4	3.2	0.0
	要介護5	54	44.4	24.1	50.0	31.5	55.6	13.0	48.1	3.7	9.3	1.9	90.7	20.4	37.0	1.9	3.7
	その他	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

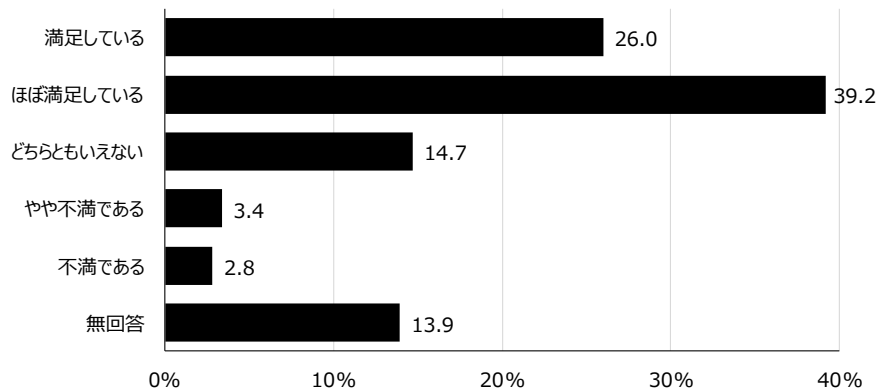
(%)

(5) ケアプランに対する満足度

問11-2. 問11で「利用している」に○をつけた方にうかがいます。あなたの現在のケアプランに対する満足度はいかがですか。(ひとつだけ○)

「ほぼ満足している」が39.2%と最多。次いで「満足している」(26.0%)、「どちらともいえない」(14.7%)の順。

図表 3-21 ケアプランに対する満足度 (n=531)

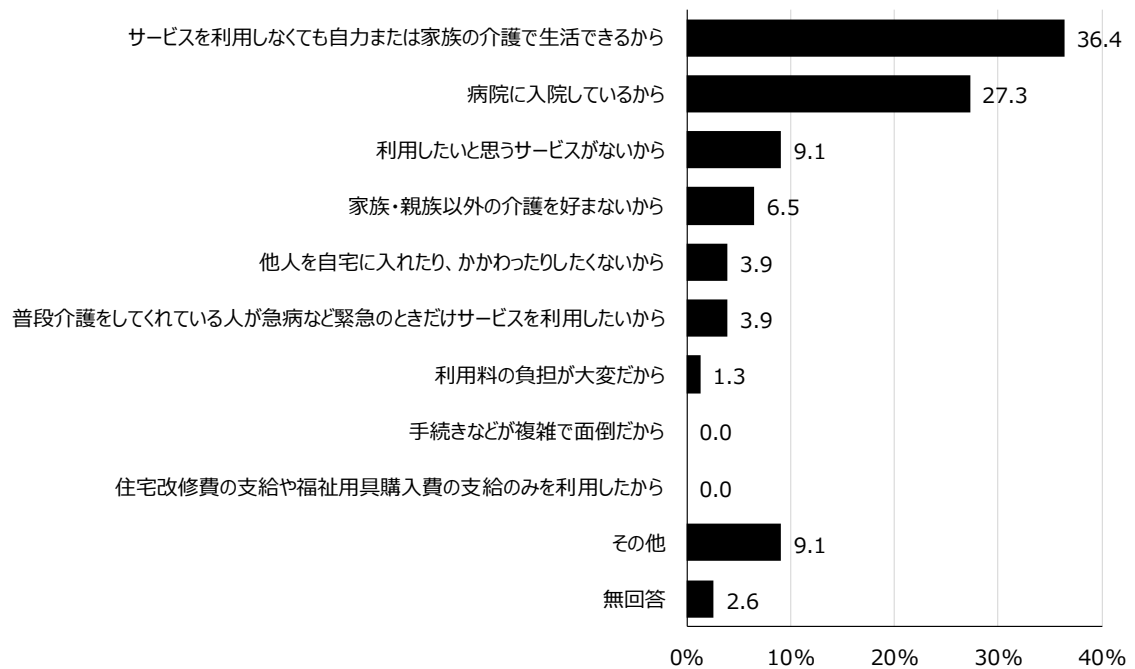


(6) 介護保険サービスを利用していない理由

問12. 問11で「利用していない」に○をつけた方にうかがいます。あなたが介護保険サービスを利用していない理由は何ですか。(ひとつだけ○)

「サービスを利用しなくても自力または家族の介護で生活できるから」が36.4%と最多。次いで「病院に入院しているから」が27.3%と続く。

図表 3-22 介護保険サービスを利用していない理由 (n=77)



要介護度別でみると、“要介護１” “要介護２”では、他の要介護度と比べ「サービスを利用しなくても自力または家族の介護で生活できるから」が高い傾向です。“要介護３” “要介護４” “要介護５”では、「病院に入院しているから」が最も高くなっています。

図表 3-23 家族構成、経済状況、要介護度別の
介護保険サービスを利用していない理由

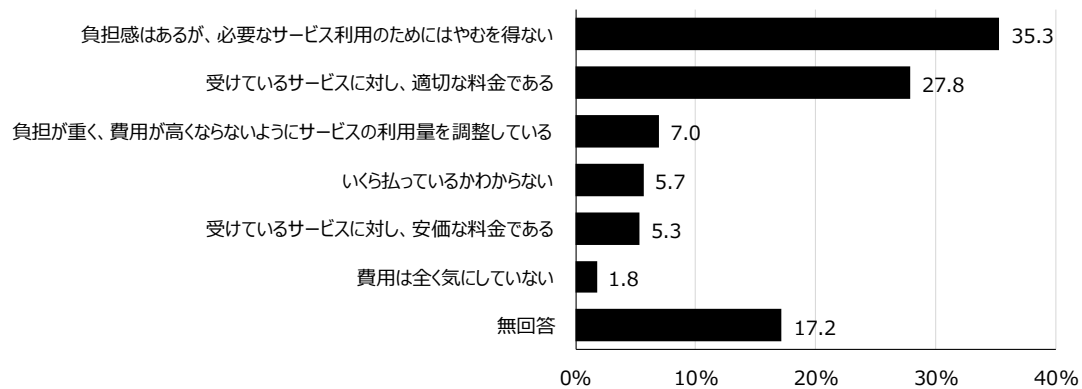
		回 答 者 数	病 院 に 入 院 し て い る か ら	自 力 ま た は 家 族 の 介 護 で 生 活 で き る か ら	緊 急 の と き だ け サ ー ビ ス を 利 用 し た い か ら	普 段 の 介 護 を し て く れ て い る 人 が 急 病 な ど か ら	支 給 の み を 利 用 し た か ら	住 宅 改 修 費 の 支 給 や 福 祉 用 具 購 入 費 の 支 給 が な い か ら	利 用 し た い と 思 う サ ー ビ ス が な い か ら	手 続 き な ど が 複 雑 で 面 倒 だ か ら	家 族 ・ 親 族 以 外 の 介 護 を 好 ま な い か ら	か か わ つ た り し た く な い か ら	他 人 を 自 宅 に 入 れ た り 、 利 用 料 の 負 担 が 大 変 だ か ら	そ の 他	無 回 答
全体		77	27.3	36.4	3.9	0.0	9.1	0.0	6.5	3.9	1.3	9.1	2.6	(%)	
家 族 構 成	一人暮らし	17	29.4	17.6	5.9	0.0	11.8	0.0	0.0	5.9	0.0	17.6	11.8		
	夫婦二人暮らし(配偶者65歳以上)	24	25.0	45.8	4.2	0.0	12.5	0.0	8.3	4.2	0.0	0.0	0.0		
	夫婦二人暮らし(配偶者64歳以下)	2	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	息子・娘との2世帯	22	36.4	22.7	0.0	0.0	9.1	0.0	13.6	4.5	4.5	9.1	0.0		
	その他	11	18.2	63.6	9.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	9.1	0.0		
経 済 状 況	大変苦しい	13	38.5	15.4	0.0	0.0	23.1	0.0	0.0	7.7	0.0	15.4	0.0		
	やや苦しい	9	33.3	11.1	11.1	0.0	0.0	0.0	11.1	22.2	11.1	0.0	0.0		
	ふつう	44	15.9	50.0	4.5	0.0	9.1	0.0	9.1	0.0	0.0	9.1	2.3		
	ややゆとりがある	6	83.3	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	大変ゆとりがある	3	0.0	66.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3		
要 介 護 度	要介護1	34	2.9	52.9	2.9	0.0	14.7	0.0	8.8	5.9	2.9	8.8	0.0		
	要介護2	13	23.1	23.1	15.4	0.0	7.7	0.0	15.4	7.7	0.0	7.7	0.0		
	要介護3	6	50.0	33.3	0.0	0.0	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	要介護4	8	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	要介護5	7	85.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	14.3	0.0		
	その他	5	0.0	40.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	40.0	20.0		

(7) 介護保険の在宅サービスの費用に対する考え

問13. あなたは、介護保険の在宅サービスの利用に要する費用についてどのように感じですか。(ひとつだけ○)

「負担感はあるが、必要なサービス利用のためにはやむを得ない」が35.3 %と最多。
次いで「受けているサービスに対し、適切な料金である」が27.8 %と続く。

図表 3-24 介護保険の在宅サービスの利用に要する費用に対する考え (n=618)



図表 3-25 経済状況別の介護保険の在宅サービスの利用に要する費用に対する考え

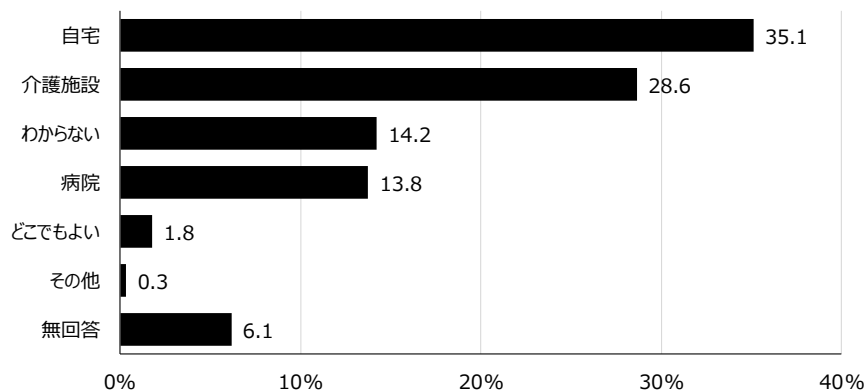
		回答者数	安価な料金であるサービスに対し、	受けているサービスに対し、適切な料金であるサービスに対し、	利用のためにはやむを得ないサービス	負担感が重く、費用が高ならないように	費用は全く気にしていない	いくら払っているかわからない	無回答
全体		618	5.3	27.8	35.3	7.0	1.8	5.7	17.2 (%)
経済状況	大変苦しい	71	1.4	14.1	39.4	21.1	0.0	8.5	15.5
	やや苦しい	140	3.6	19.3	44.3	12.1	0.0	4.3	16.4
	ふつう	322	5.9	30.7	36.3	3.4	1.2	6.2	16.1
	ややゆとりがある	59	6.8	49.2	13.6	0.0	6.8	3.4	20.3
	大変ゆとりがある	17	23.5	29.4	0.0	0.0	17.6	5.9	23.5

(8) 介護を受けたい場所

問14. あなたの介護度が現在より悪化した場合、どこで介護を受けたいですか。(ひとつだけ○)

「自宅」が35.1 %と最多。次いで「介護施設」が28.6%と続く。一方で「わからない」が14.2 %。

図表 3-26 介護を受けたい場所 (n=618)



経済状況別でみると、“大変苦しい”“やや苦しい”では、「介護施設」が最も高くなっています。上記以外では、「自宅」が最も高くなっています。

要介護度別でみると、“要介護3”では、「介護施設」が最も高くなっています。上記以外では、「自宅」が最も高くなっています。

図表 3-27 家族構成、経済状況、要介護度別の介護を受けたい場所

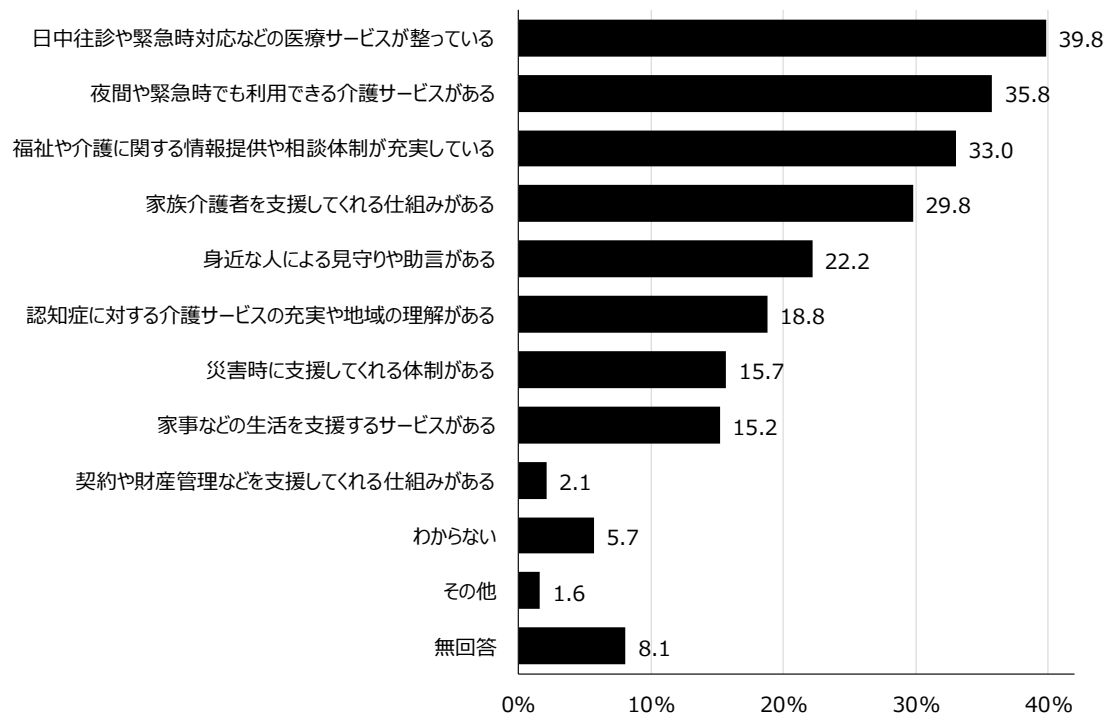
		回答者数	自宅	介護施設	病院	どこでもよい	その他	わからない	無回答	
全体		618	35.1	28.6	13.8	1.8	0.3	14.2	6.1	(%)
家族構成	一人暮らし	161	35.4	23.6	14.3	1.2	0.0	16.1	9.3	
	夫婦二人暮らし(配偶者65歳以上)	168	32.7	33.9	16.7	1.2	0.0	10.7	4.8	
	夫婦二人暮らし(配偶者64歳以下)	14	35.7	42.9	14.3	0.0	0.0	0.0	7.1	
	息子・娘との2世帯	181	35.9	27.6	10.5	3.3	0.0	18.8	3.9	
	その他	89	39.3	28.1	14.6	1.1	1.1	10.1	5.6	
経済状況	大変苦しい	71	29.6	35.2	14.1	2.8	0.0	12.7	5.6	
	やや苦しい	140	30.7	31.4	15.7	3.6	0.7	10.7	7.1	
	ふつう	322	37.9	27.6	13.0	0.9	0.0	16.5	4.0	
	ややゆとりがある	59	33.9	27.1	15.3	0.0	0.0	13.6	10.2	
	大変ゆとりがある	17	47.1	11.8	11.8	5.9	0.0	17.6	5.9	
要介護度	要介護1	193	32.1	26.4	14.0	2.1	0.5	18.7	6.2	
	要介護2	170	35.9	27.6	12.4	1.8	0.6	15.9	5.9	
	要介護3	98	32.7	40.8	13.3	1.0	0.0	11.2	1.0	
	要介護4	70	34.3	25.7	18.6	2.9	0.0	14.3	4.3	
	要介護5	65	44.6	27.7	12.3	1.5	0.0	4.6	9.2	
	その他	6	66.7	0.0	16.7	0.0	0.0	0.0	16.7	

(9) 住み慣れた地域で暮らし続けるために必要なこと

問15. あなたは、今後も介護を受けながら、安心して、住み慣れた地域で暮らし続けるにはどのようなことが必要だと考えますか。(あてはまるもの3つまで○)

「日中往診や緊急時対応などの医療サービスが整っている」が39.8 %と最多。次いで「夜間や緊急時でも利用できる介護サービスがある」(35.8 %)、「福祉や介護に関する情報提供や相談体制が充実している」(33.0 %)の順。

図表 3-28 今後も介護を受けながら、安心して、
住み慣れた地域で暮らし続けるために必要なこと (n=618)



家族構成別でみると、“夫婦二人暮らし(配偶者65歳以上)”では、「福祉や介護に関する情報提供や相談体制が充実している」が最も高くなっています。“娘・息子との2世帯”では他の家族構成と比べ「日中往診や緊急時対応などの医療サービスが整っている」「夜間や緊急時でも利用できる介護サービスがある」が、高くなっています。

要介護度別でみると、要介護度が高くなるほど、「日中往診や緊急時対応などの医療サービスが整っている」「夜間や緊急時でも利用できる介護サービスがある」が、高くなっています。

図表 3-29 家族構成、要介護度別の今後も介護を受けながら、安心して、
住み慣れた地域で暮らし続けるために必要なこと

		回答者数	福祉や介護に関する情報提供や相談体制が充実している	身近な人による見守りや助言がある	日中往診や緊急時対応などの医療サービスが整っている	夜間や緊急時でも利用できる介護サービスがある	認知症に対する介護サービスの充実や地域の理解がある	家事などの生活を支援するサービスがある	介護に適した住宅に改修、または住み替えができる	家族介護者や支援してくれる体制がある	契約や財産管理などがある	災害時に支援してくれる体制がある	その他	わからない	無回答
全体		618	33.0	22.2	39.8	35.8	18.8	15.2	6.0	29.8	2.1	15.7	1.6	5.7	8.1
家族構成	一人暮らし	161	26.7	24.2	31.1	32.9	9.9	25.5	4.3	14.9	5.0	10.6	2.5	9.3	13.7
	夫婦二人暮らし(配偶者65歳以上)	168	42.3	23.2	37.5	34.5	17.9	14.3	7.7	29.2	0.0	17.9	1.2	4.2	7.1
	夫婦二人暮らし(配偶者64歳以下)	14	21.4	35.7	14.3	14.3	21.4	7.1	7.1	28.6	0.0	7.1	0.0	7.1	7.1
	息子・娘との2世帯	181	30.9	21.0	50.8	40.9	27.6	10.5	6.1	34.8	0.6	17.7	0.6	5.5	3.3
	その他	89	31.5	16.9	42.7	38.2	18.0	10.1	4.5	48.3	4.5	19.1	3.4	2.2	7.9
要介護度	要介護1	193	32.1	28.0	32.6	30.6	24.4	15.0	5.7	26.9	1.0	11.9	2.6	8.8	5.2
	要介護2	170	34.1	22.4	40.0	38.2	14.1	21.8	5.3	30.0	2.9	13.5	0.6	4.7	8.2
	要介護3	98	33.7	17.3	49.0	37.8	24.5	12.2	5.1	33.7	1.0	18.4	2.0	3.1	4.1
	要介護4	70	38.6	20.0	44.3	40.0	15.7	11.4	12.9	31.4	5.7	18.6	1.4	2.9	5.7
	要介護5	65	35.4	12.3	52.3	44.6	13.8	3.1	4.6	36.9	1.5	23.1	1.5	1.5	15.4
	その他	6	16.7	33.3	0.0	16.7	0.0	50.0	0.0	16.7	0.0	33.3	0.0	0.0	33.3

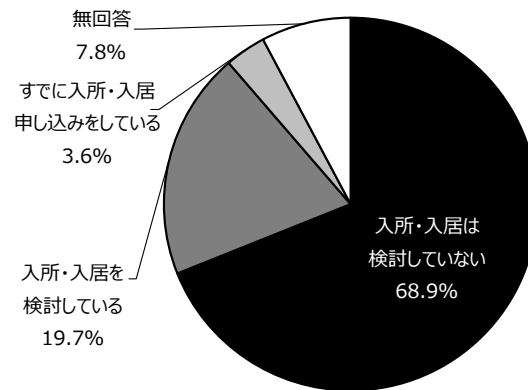
(%)

(10) 施設などへの入所・入居の検討状況

問16. あなたは、現在、施設などへの入所・入居を検討していますか。(ひとつだけ○)

「入所・入居は検討していない」が68.9%と最多。

図表 3-30 施設などへの入所・入居の検討状況 (n=618)



図表 3-31 家族構成、経済状況、要介護度、介護を受けたい場所別の施設などへの入所・入居の検討状況

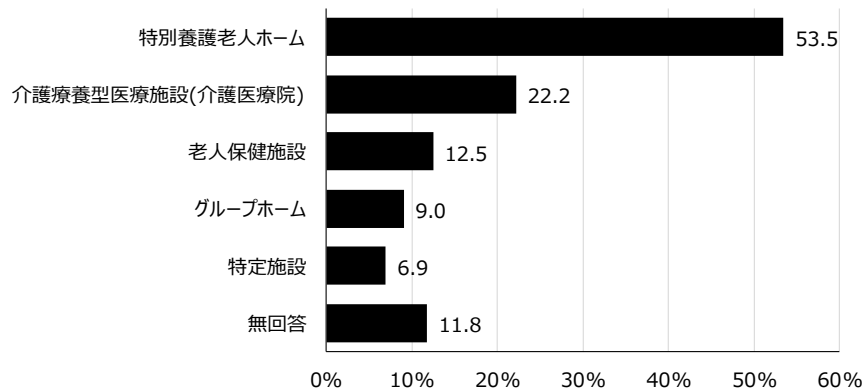
		回答者数	検討していない (%)	検討している (%)	すでに入所・入居を申し込みしている (%)	無回答 (%)
全体		618	68.9	19.7	3.6	7.8
家族構成	一人暮らし	161	68.9	19.7	3.6	7.8
	夫婦二人暮らし(配偶者65歳以上)	168	67.9	20.2	4.2	7.7
	夫婦二人暮らし(配偶者64歳以下)	14	42.9	28.6	7.1	21.4
	息子・娘との2世帯	181	77.3	14.4	1.7	6.6
	その他	89	69.7	20.2	6.7	3.4
経済状況	大変苦しい	71	59.2	28.2	2.8	9.9
	やや苦しい	140	65.7	24.3	2.1	7.9
	ふつう	322	73.0	17.1	3.4	6.5
	ややゆとりがある	59	72.9	11.9	6.8	8.5
	大変ゆとりがある	17	70.6	17.6	0.0	11.8
要介護度	要介護1	193	72.5	17.6	2.6	7.3
	要介護2	170	73.5	18.2	0.0	8.2
	要介護3	98	61.2	24.5	7.1	7.1
	要介護4	70	64.3	25.7	2.9	7.1
	要介護5	65	63.1	16.9	12.3	7.7
	その他	6	83.3	0.0	0.0	16.7
介護を受けたい場所	自宅	217	90.3	5.1	1.8	2.8
	介護施設	177	48.6	39.0	6.8	5.6
	病院	85	69.4	21.2	1.2	8.2
	どこでもよい	11	63.6	27.3	0.0	9.1
	その他	2	100.0	0.0	0.0	0.0
	わからない	88	75.0	14.8	2.3	8.0

(11) 入所申込み(検討)をした施設

問16-1. 問16で「入所・入居を検討している」「すでに入所・入居申し込みをしている」に○をつけた方にうかがいます。入所申込み(検討)をした施設はどれですか。(あてはまるものすべてに○)

「特別養護老人ホーム」が53.5 %と最多。

図表 3-32 入所申込み(検討)をした施設 (n=144)



図表 3-33 経済状況別の入所申込み(検討)をした施設

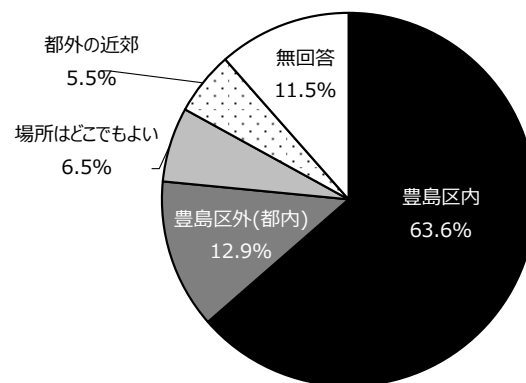
		回答者数	特別養護老人ホーム	老人保健施設	介護療養型医療施設(介護医療院)	特定施設	グループホーム	無回答	
全体		144	53.5	12.5	22.2	6.9	9.0	11.8	(%)
経済状況	大変苦しい	22	53.5	12.5	22.2	6.9	9.0	11.8	
	やや苦しい	37	62.2	18.9	27.0	0.0	8.1	5.4	
	ふつう	66	51.5	10.6	16.7	10.6	7.6	15.2	
	ややゆとりがある	11	36.4	9.1	27.3	9.1	36.4	9.1	
	大変ゆとりがある	3	66.7	0.0	33.3	66.7	0.0	0.0	

(12) 入所を検討する施設の場所

問17. あなたが施設に入るとしたら、施設の場所をどの範囲まで検討しますか。(ひとつだけ○)

「豊島区内」が63.6%と最多。

図表 3-34 入所を検討する施設の場所 (n=618)

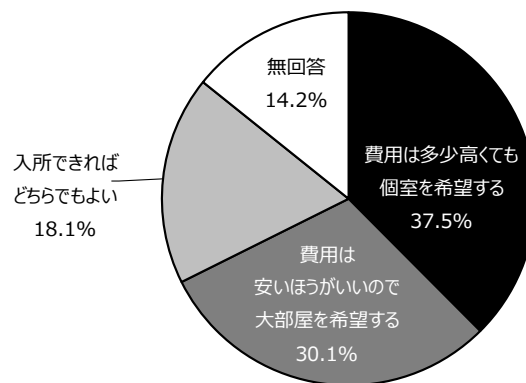


(13) 希望する施設の部屋の種類

問18. あなたが施設に入るとしたら、部屋の種類はどのようなものがよいと思いますか。(ひとつだけ○)

「費用は多少高くても個室を希望する」が37.5%と最多。次いで「費用は安いほうがいいので大部屋を希望する」(30.1%)、「入所できればどちらでもよい」(18.1%)の順。

図表 3-35 希望する施設の部屋の種類 (n=618)



経済状況別でみると、「費用は多少高くても個室を希望する」が最も高くなっています。ただし、経済状況によりその希望には差を見て取ることができます。

図表 3-36 経済状況別の希望する施設の部屋の種類

		回答者数	個室を希望する割合 (%)	大部屋を希望する割合 (%)	どちらでもよい割合 (%)	無回答 (%)
全体		618	37.5	30.1	18.1	14.2
経済状況	大変苦しい	71	15.5	56.3	14.1	14.1
	やや苦しい	140	17.9	46.4	22.1	13.6
	ふつう	322	45.7	22.4	18.3	13.7
	ややゆとりがある	59	61.0	8.5	18.6	11.9
	大変ゆとりがある	17	64.7	5.9	5.9	23.5

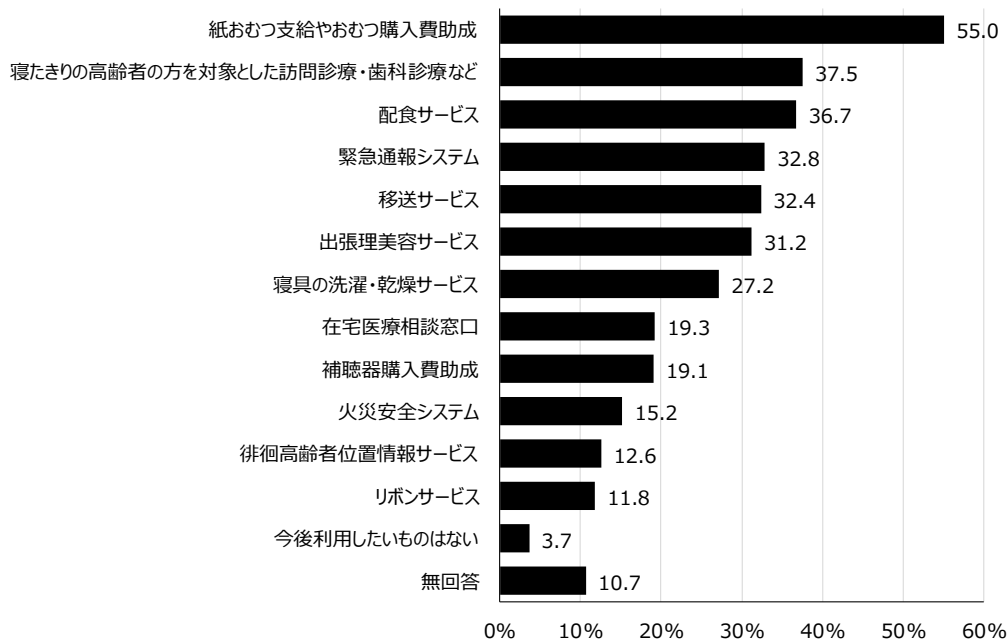
3. 生活支援について

(1) 今後利用したい保健・福祉サービス

問19. 豊島区では、高齢者の日常生活を支援するために、介護保険以外の保健・福祉サービスを実施しています。次のうち、あなたが「今後利用したいもの」はどれですか。継続して利用したいもの・新たに利用したいもののどちらも含めて回答してください。(あてはまるものすべてに○)

「紙おむつ支給やおむつ購入費助成」が55.0%と最多。次いで「寝たきりの高齢者の方を対象とした訪問診療・歯科診療など」(37.5%)、「配食サービス」(36.7%)の順。

図表 3-37 今後利用したい保健・福祉サービス (n=618)



家族構成別でみると、“一人暮らし”“夫婦二人暮らし（配偶者65歳以上）”においては、全般的な選択割合が高くなっています。“一人暮らし”では、「配食サービス」が最も高くなっています。

要介護度別でみると、要介護度が高くなるにつれて、「紙おむつ支給やおむつ購入費助成」「寝たきりの高齢者の方を対象とした訪問診療・歯科診療など」が高くなっています。

図表 3-38 家族構成、要介護度別の今後利用したい保健・福祉サービス

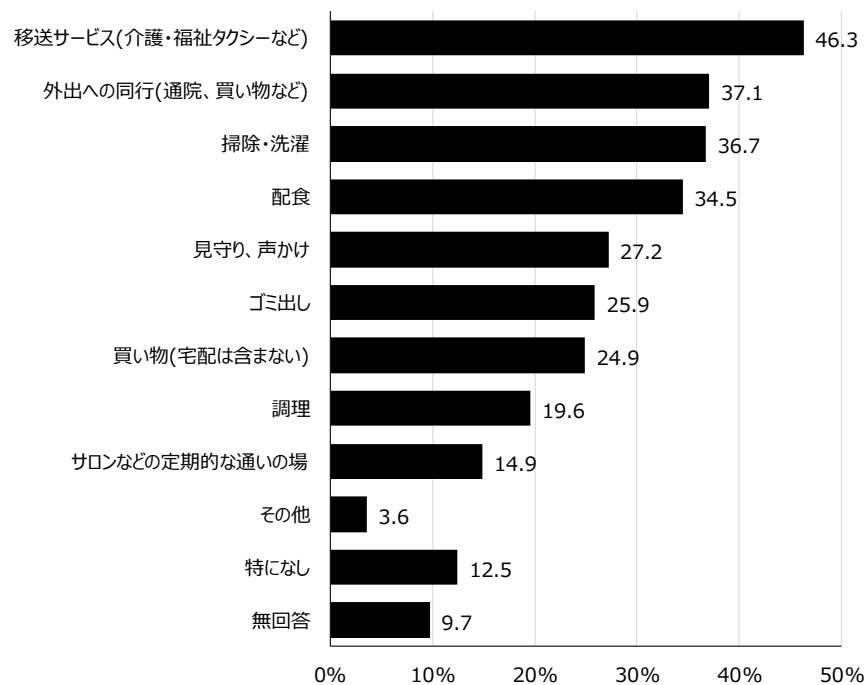
		回答者数	配食サービス	補聴器購入費助成	緊急通報システム	火災安全システム	紙おむつ支給やおむつ購入費助成	出張理美容サービス	寝具の洗濯・乾燥サービス	訪問診療・歯科診療など	寝たきりの高齢者の方を対象とした	徘徊高齢者位置情報サービス	リボンサービス	移送サービス	在宅医療相談窓口	今後利用したいものはない	無回答
全体		618	36.7	19.1	32.8	15.2	55.0	31.2	27.2	37.5	12.6	11.8	32.4	19.3	3.7	10.7	(%)
家族構成	一人暮らし	161	44.1	18.0	35.4	15.5	42.9	31.1	31.1	28.6	11.2	14.9	21.7	19.3	5.0	17.4	
	夫婦二人暮らし(配偶者65歳以上)	168	36.3	19.0	34.5	17.9	51.2	32.7	33.3	33.9	11.3	13.1	33.9	22.0	3.6	8.9	
	夫婦二人暮らし(配偶者64歳以下)	14	42.9	21.4	21.4	7.1	57.1	7.1	14.3	14.3	7.1	0.0	28.6	14.3	7.1	14.3	
	息子・娘との2世帯	181	31.5	21.0	32.6	11.6	61.9	31.5	18.2	45.9	16.0	7.2	34.3	16.6	3.9	6.1	
	その他	89	33.7	16.9	29.2	18.0	69.7	31.5	28.1	49.4	12.4	15.7	46.1	20.2	1.1	9.0	
要介護度	要介護1	193	37.8	20.7	26.9	17.1	44.0	29.5	28.5	28.5	13.5	14.0	21.8	19.2	5.2	15.5	
	要介護2	170	41.2	20.6	41.2	14.1	55.9	30.0	25.3	35.3	12.4	11.8	34.1	17.6	4.7	7.1	
	要介護3	98	35.7	16.3	33.7	12.2	57.1	36.7	25.5	40.8	15.3	10.2	31.6	18.4	2.0	7.1	
	要介護4	70	35.7	22.9	34.3	21.4	71.4	28.6	32.9	55.7	12.9	8.6	50.0	21.4	2.9	2.9	
	要介護5	65	21.5	12.3	27.7	9.2	70.8	38.5	24.6	55.4	10.8	7.7	46.2	18.5	0.0	13.8	
	その他	6	66.7	16.7	66.7	50.0	33.3	33.3	33.3	16.7	0.0	33.3	16.7	66.7	0.0	16.7	

(2) 在宅生活の継続に必要な支援

問20. あなたが、今後の在宅生活の継続に必要であると感じる支援は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

「移送サービス(介護・福祉タクシーなど)」が46.3 %と最多。次いで「外出への同行(通院、買い物など)」(37.1%)、「掃除・洗濯」(36.7%)の順。

図表 3-39 在宅生活の継続に必要な支援 (n=618)



家族構成別でみると、“一人暮らし”では、「掃除・洗濯」が最も高くなっています。上記以外では、「移送サービス(介護・福祉タクシーなど)」が最も高くなっています。

要介護度別でみると、“要介護2”では、「移送サービス(介護・福祉タクシーなど)」「外出への同行(通院、買い物など)」も最も高くなっています。上記以外では、「移送サービス(介護・福祉タクシーなど)」が最も高くなっています。

図表 3-40 家族構成、要介護度別の在宅生活の継続に必要な支援

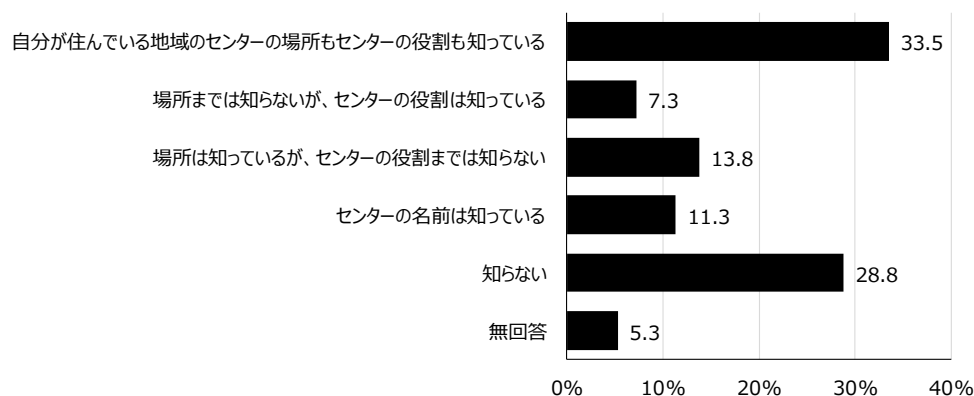
		回答者数	配食	調理	掃除・洗濯	買い物(宅配は含まない)	ゴミ出し	外出への同行(通院、買い物など)	移送サービス(介護・福祉タクシーなど)	見守り、声かけ	定期的な通いの場	サロンの場	その他	特になし	無回答
全体		618	34.5	19.6	36.7	24.9	25.9	37.1	46.3	27.2	14.9	3.6	12.5	9.7	(%)
家族構成	一人暮らし	161	40.4	26.7	53.4	42.9	46.0	45.3	37.3	38.5	15.5	3.7	4.3	11.8	
	夫婦二人暮らし(配偶者65歳以上)	168	35.1	21.4	38.1	18.5	22.0	34.5	47.6	18.5	8.3	3.6	16.7	13.7	
	夫婦二人暮らし(配偶者64歳以下)	14	28.6	28.6	28.6	14.3	21.4	28.6	42.9	14.3	7.1	0.0	28.6	7.1	
	息子・娘との2世帯	181	29.3	13.3	26.5	18.2	12.7	34.8	53.0	26.5	19.9	3.3	14.4	2.8	
	その他	89	32.6	13.5	25.8	19.1	23.6	31.5	47.2	25.8	18.0	4.5	13.5	11.2	
要介護度	要介護1	193	34.2	15.0	33.2	21.8	23.3	34.2	38.3	28.0	14.5	2.6	15.0	12.4	
	要介護2	170	34.7	22.4	41.2	28.2	32.4	44.7	44.7	28.2	13.5	4.1	11.8	6.5	
	要介護3	98	39.8	22.4	42.9	29.6	23.5	38.8	62.2	26.5	18.4	3.1	10.2	4.1	
	要介護4	70	30.0	24.3	34.3	24.3	21.4	30.0	52.9	30.0	15.7	4.3	12.9	7.1	
	要介護5	65	29.2	12.3	24.6	16.9	20.0	27.7	49.2	23.1	13.8	6.2	10.8	15.4	
	その他	6	50.0	83.3	66.7	66.7	50.0	66.7	50.0	16.7	16.7	0.0	0.0	16.7	

(3) 高齢者総合相談センターの認知度

問21. 豊島区では、高齢者の心身の健康と生活の安定のための相談窓口として、区内に高齢者総合相談センター（地域包括支援センター）を設置しています。あなたは、高齢者総合相談センターを知っていますか。（ひとつだけ○）

「自分が住んでいる地域のセンターの場所もセンターの役割も知っている」が33.5 %と最多。一方で、「知らない」が28.8%。

図表 3-41 高齢者総合相談センターの認知度 (n=618)



図表 3-42 居住地、家族構成、要介護度別の高齢者総合相談センターの認知度

	回答者数	自分が住んでいる地域のセンターの場所も知っている	場所までは知らないが、センターの役割は知っている	場所は知っているが、センターの役割までは知らない	センターの名前は知っている	知らない	無回答
全体	618	33.5	7.3	13.8	11.3	28.8	5.3
居住地							
東部地区	184	35.9	6.5	13.0	13.0	25.0	6.5
北部地区	138	26.1	13.0	8.7	12.3	34.1	5.8
南部地区	115	36.5	6.1	17.4	9.6	24.3	6.1
西部地区	175	34.9	4.6	16.6	10.3	31.4	2.3
家族構成							
一人暮らし	161	27.3	7.5	16.8	12.4	28.0	8.1
夫婦二人暮らし(配偶者65歳以上)	168	36.3	7.1	12.5	10.1	28.0	6.0
夫婦二人暮らし(配偶者64歳以下)	14	28.6	21.4	7.1	0.0	28.6	14.3
息子・娘との2世帯	181	37.6	5.0	12.2	12.2	30.9	2.2
その他	89	32.6	10.1	15.7	12.4	27.0	2.2
要介護度							
要介護1	193	30.6	8.3	11.9	11.9	31.6	5.7
要介護2	170	33.5	7.1	12.9	11.8	28.8	5.9
要介護3	98	39.8	10.2	17.3	10.2	20.4	2.0
要介護4	70	37.1	2.9	17.1	11.4	31.4	0.0
要介護5	65	33.8	3.1	9.2	10.8	33.8	9.2
その他	6	0.0	33.3	0.0	0.0	16.7	50.0

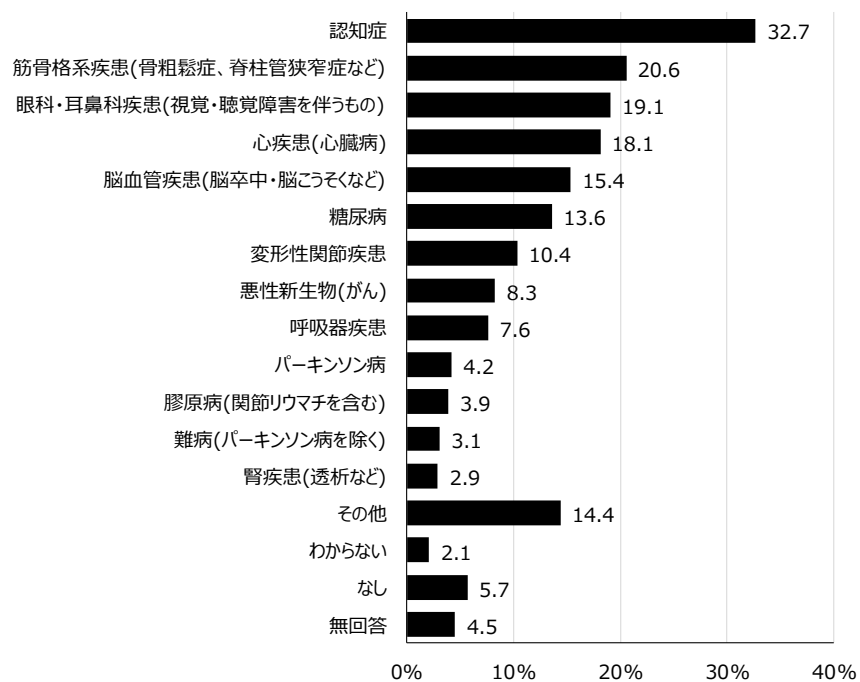
4. 医療について

(1) 現在治療中、または後遺症のある病気

問22. あなたが、現在治療中、または後遺症のある病気はありますか。(あてはまるものすべてに○)

「認知症」が32.7%と最多。次いで「筋骨格系疾患(骨粗鬆症、脊柱管狭窄症など)」「眼科・耳鼻科疾患(視覚・聴覚障害を伴うもの)」「(19.1%)の順。

図表 3-43 現在治療中、または後遺症のある病気(n=618)



性別でみると、“男性”では「認知症」26.0%、「糖尿病」21.4%、「脳血管疾患（脳卒中・脳こうそくなど）」20.4%の順で高くなっており、“女性”では、「認知症」36.3%、「筋骨格系疾患（骨粗鬆症、脊柱管狭窄症など）」25.0%、「眼科・耳鼻科疾患（視覚・聴覚障害を伴うもの）」20.0%の順に高くなっています。男女ともに「認知症」が最も高くなっていますが、性別で傾向が異なる部分も見られます。

図表 3-44 性・年齢、要介護度別の現在治療中、または後遺症のある病気

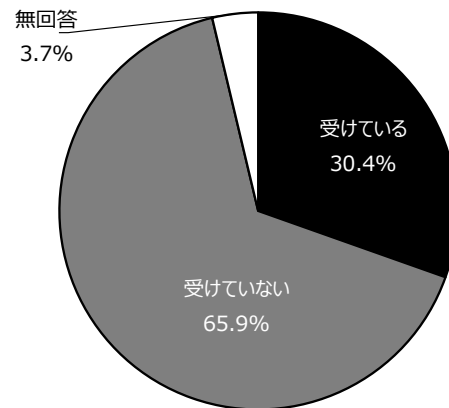
		回答者数	脳血管疾患 (脳卒中・脳こうそくなど)	心疾患（心臓病）	悪性新生物（がん）	呼吸器疾患	腎疾患（透析など）	筋骨格系疾患 (骨粗鬆症、脊柱管狭窄症など)	膠原病（関節リウマチを含む）	変形性関節疾患	認知症	パーキンソン病	難病 (パーキンソン病を除く)	糖尿病	眼科・耳鼻科疾患 (視覚・聴覚障害を伴うもの)	その他	なし	わからない	無回答	
全体		618	15.4	18.1	8.3	7.6	2.9	20.6	3.9	10.4	32.7	4.2	3.1	13.6	19.1	14.4	5.7	2.1	4.5	(%)
男性	男性計	196	20.4	17.3	11.7	9.7	3.6	11.2	1.5	6.1	26.0	6.1	4.6	21.4	17.3	12.8	4.1	2.6	4.1	
	65歳～69歳	8	25.0	12.5	12.5	0.0	12.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	37.5	25.0	12.5	12.5	0.0	0.0	0.0	
	70歳～74歳	19	42.1	0.0	5.3	5.3	5.3	5.3	0.0	5.3	15.8	10.5	0.0	21.1	5.3	21.1	0.0	0.0	0.0	
	75歳～79歳	35	20.0	2.9	14.3	8.6	0.0	8.6	2.9	8.6	37.1	5.7	8.6	20.0	8.6	11.4	8.6	0.0	2.9	
	80歳～84歳	45	24.4	24.4	8.9	11.1	2.2	11.1	4.4	6.7	24.4	11.1	2.2	24.4	17.8	15.6	0.0	2.2	2.2	
	85歳～89歳	59	18.6	16.9	13.6	15.3	1.7	13.6	0.0	5.1	32.2	5.1	3.4	20.3	23.7	10.2	3.4	5.1	6.8	
	90歳以上	30	3.3	36.7	13.3	3.3	10.0	16.7	0.0	6.7	16.7	0.0	0.0	20.0	23.3	10.0	10.0	3.3	6.7	
女性	女性計	416	13.2	18.8	6.7	6.5	2.6	25.0	5.0	12.5	36.3	3.4	2.2	9.9	20.0	15.1	6.3	1.9	4.3	
	65歳～69歳	12	33.3	0.0	16.7	0.0	0.0	8.3	8.3	16.7	8.3	16.7	8.3	8.3	16.7	16.7	0.0	0.0	8.3	
	70歳～74歳	24	29.2	8.3	12.5	0.0	4.2	20.8	12.5	12.5	12.5	4.2	4.2	0.0	8.3	29.2	8.3	0.0	0.0	
	75歳～79歳	43	14.0	16.3	11.6	9.3	4.7	27.9	11.6	11.6	37.2	0.0	4.7	16.3	11.6	14.0	0.0	0.0	4.7	
	80歳～84歳	82	15.9	12.2	8.5	9.8	1.2	17.1	11.0	8.5	42.7	6.1	2.4	12.2	17.1	19.5	3.7	0.0	7.3	
	85歳～89歳	107	8.4	25.2	4.7	6.5	2.8	30.8	0.9	15.9	39.3	3.7	2.8	9.3	25.2	12.1	8.4	2.8	0.9	
	90歳以上	148	10.8	21.6	4.1	5.4	2.7	26.4	1.4	12.2	36.5	1.4	0.0	8.8	22.3	12.8	8.1	3.4	5.4	
要介護度	要介護1	193	8.3	19.7	4.7	4.7	2.6	16.6	2.6	14.5	38.9	3.1	0.5	11.9	20.2	14.5	4.7	2.1	6.2	
	要介護2	170	15.9	21.8	10.6	10.6	5.3	30.6	6.5	11.2	24.1	2.9	4.1	14.1	27.1	14.1	6.5	1.8	1.8	
	要介護3	98	15.3	16.3	10.2	7.1	1.0	22.4	2.0	10.2	39.8	3.1	1.0	19.4	11.2	10.2	4.1	2.0	5.1	
	要介護4	70	20.0	17.1	10.0	11.4	2.9	17.1	5.7	5.7	34.3	4.3	8.6	15.7	14.3	11.4	7.1	2.9	2.9	
	要介護5	65	33.8	13.8	9.2	6.2	1.5	12.3	1.5	3.1	33.8	13.8	6.2	10.8	13.8	20.0	1.5	1.5	4.6	
	その他	6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	16.7	16.7	33.3	0.0	33.3	

(2) 在宅医療の利用状況

問23. あなたは、現在、在宅医療を受けていますか。(ひとつだけ○)

「受けている」が30.4%、「受けていない」が65.9%。

図表 3-45 在宅医療の利用状況 (n=618)



要介護度別でみると、要介護度が高くなるにつれて、「受けている」が高くなっています。

図表 3-46 要介護度別の在宅医療の利用状況

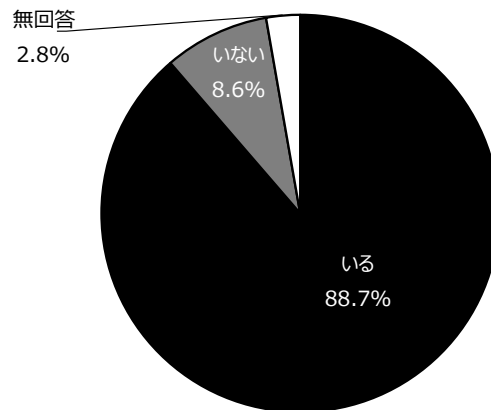
		回答者数	受けている	受けていない	無回答	
全体		618	30.4	65.9	3.7	(%)
要介護度	要介護1	193	13.5	81.3	5.2	
	要介護2	170	24.7	72.9	2.4	
	要介護3	98	39.8	60.2	0.0	
	要介護4	70	45.7	52.9	1.4	
	要介護5	65	66.2	27.7	6.2	
	その他	6	0.0	66.7	33.3	

(3) かかりつけ医の有無

問24. あなたは、かかりつけ医はいますか。(ひとつだけ○)

「いる」が88.7%、「いない」が8.6%。

図表 3-47 かかりつけ医の有無 (n=618)



性・年齢別でみると、男女ともに、“65歳～69歳”で、「いない」が高くなっています。

図表 3-48 性・年齢、居住地、要介護度別のかかりつけ医の有無

		回 答 者 数	い る	い な い	無 回 答	(%)
全体		618	88.7	8.6	2.8	
男 性	男性計	196	87.8	9.2	3.1	
	65歳～69歳	8	62.5	37.5	0.0	
	70歳～74歳	19	100.0	0.0	0.0	
	75歳～79歳	35	88.6	8.6	2.9	
	80歳～84歳	45	88.9	8.9	2.2	
	85歳～89歳	59	83.1	11.9	5.1	
	90歳以上	30	93.3	3.3	3.3	
女 性	女性計	416	89.4	8.2	2.4	
	65歳～69歳	12	58.3	33.3	8.3	
	70歳～74歳	24	79.2	20.8	0.0	
	75歳～79歳	43	88.4	11.6	0.0	
	80歳～84歳	82	89.0	9.8	1.2	
	85歳～89歳	107	86.9	7.5	5.6	
	90歳以上	148	95.9	2.7	1.4	
居 住 地	東部地区	184	87.0	9.2	3.8	
	北部地区	138	89.1	10.1	0.7	
	南部地区	115	87.8	9.6	2.6	
	西部地区	175	91.4	6.3	2.3	
要 介 護 度	要介護1	193	90.2	8.3	1.6	
	要介護2	170	90.0	7.6	2.4	
	要介護3	98	89.8	8.2	2.0	
	要介護4	70	90.0	8.6	1.4	
	要介護5	65	87.7	6.2	6.2	
	その他	6	50.0	16.7	33.3	

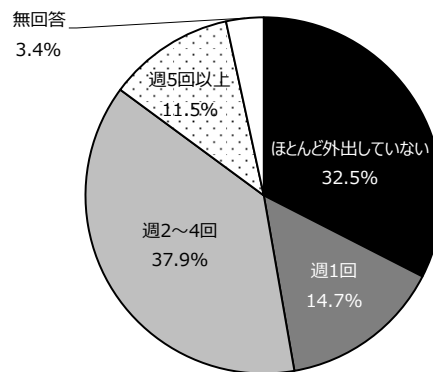
5. 地域とのつながりについて

(1) 外出状況

問25. あなたは週に1回以上は外出していますか。(ひとつだけ○)

「週2～4回」が37.9%と最多。次いで「ほとんど外出していない」(32.5%)、「週1回」(14.7%)の順。

図表 3-49 外出状況 (n=618)



家族構成別でみると、“夫婦二人暮らし(配偶者65歳以上)”では、「ほとんど外出していない」が最も高くなっています。上記以外では、「週2～4回」が最も高くなっています。

要介護度別でみると、“要介護3”“要介護4”“要介護5”において、「ほとんど外出していない」が最も高くなっています。

図表 3-50 家族構成、要介護度別の外出状況

		回答者数	ほとんど外出しない	週1回	週2～4回	週5回以上	無回答	
全体		618	32.5	14.7	37.9	11.5	3.4	(%)
家族構成	一人暮らし	161	32.9	14.3	36.0	11.8	5.0	
	夫婦二人暮らし(配偶者65歳以上)	168	35.1	15.5	32.7	11.9	4.8	
	夫婦二人暮らし(配偶者64歳以下)	14	14.3	14.3	57.1	14.3	0.0	
	息子・娘との2世帯	181	29.8	16.0	41.4	11.0	1.7	
	その他	89	36.0	12.4	40.4	11.2	0.0	
要介護度	要介護1	193	24.9	17.6	39.9	15.5	2.1	
	要介護2	170	28.8	15.9	41.8	8.8	4.7	
	要介護3	98	39.8	15.3	30.6	12.2	2.0	
	要介護4	70	48.6	7.1	34.3	10.0	0.0	
	要介護5	65	40.0	7.7	38.5	6.2	7.7	
	その他	6	16.7	0.0	66.7	16.7	0.0	

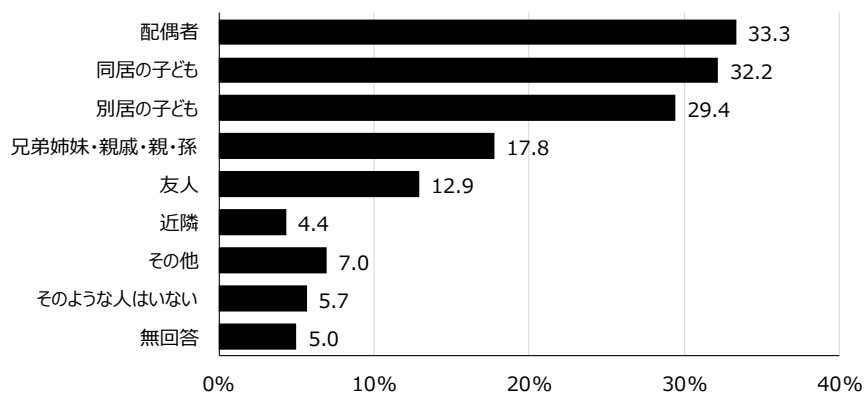
(2) たすけあいの状況

問26. あなたとまわりの人の「たすけあい」についてお伺いします。

- ① あなたの、心配事や愚痴（ぐち）を聞いてくれる人はどなたですか。（あてはまるものすべてに○）

「配偶者」が33.3 %と最多。次いで「同居の子ども」(32.2%)、「別居の子ども」(29.4%)の順。

図表 3-51 心配事や愚痴を聞いてくれる人 (n=618)



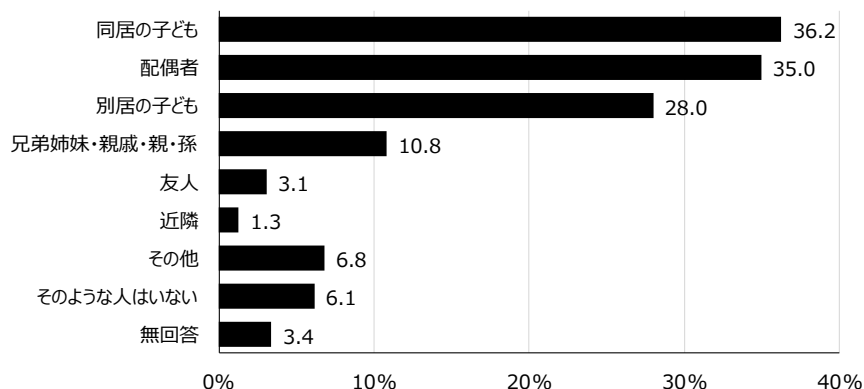
図表 3-52 家族構成、要介護度別の心配事や愚痴を聞いてくれる人

	回答者数	配偶者	同居の子ども	別居の子ども	親・兄弟姉妹・親戚・孫	近隣	友人	その他	いない	そのような人は	無回答
全体	618	33.3	32.2	29.4	17.8	4.4	12.9	7.0	5.7	5.0	(%)
家族構成	一人暮らし	161	0.6	5.0	41.0	24.2	9.3	21.7	11.2	11.8	7.5
	夫婦二人暮らし(配偶者65歳以上)	168	81.0	4.2	30.4	13.7	2.4	5.4	3.0	4.2	5.4
	夫婦二人暮らし(配偶者64歳以下)	14	100.0	7.1	21.4	7.1	0.0	7.1	7.1	0.0	0.0
	息子・娘との2世帯	181	19.9	76.2	18.8	11.0	3.3	12.7	6.6	3.3	3.3
	その他	89	19.1	49.4	28.1	30.3	2.2	13.5	7.9	3.4	2.2
要介護度	要介護1	193	36.3	29.0	32.1	21.8	6.7	15.0	3.1	7.3	3.6
	要介護2	170	30.0	30.6	30.0	16.5	5.3	15.9	7.1	7.1	7.1
	要介護3	98	32.7	29.6	28.6	17.3	3.1	6.1	10.2	7.1	1.0
	要介護4	70	42.9	44.3	30.0	18.6	1.4	12.9	7.1	0.0	1.4
	要介護5	65	27.7	46.2	20.0	9.2	1.5	7.7	13.8	1.5	9.2
	その他	6	33.3	0.0	50.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	16.7

- ② あなたが病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人はどなたですか。(あてはまるものすべてに○)

「同居の子ども」が36.2 %と最多。次いで「配偶者」(35.0%)、「別居の子ども」(28.0%)の順。

図表 3-53 病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人(n=618)



図表 3-54 家族構成、要介護度別の病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人

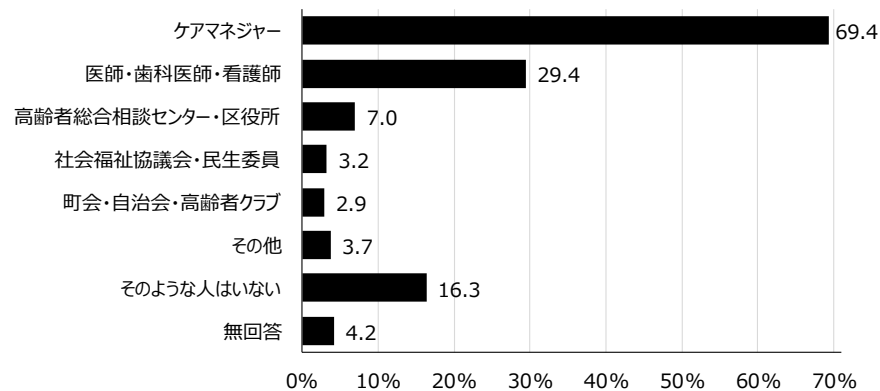
		回答者数	配偶者	同居の子ども	別居の子ども	兄弟姉妹・親戚・親・孫	近隣	友人	その他	そのような人はいない	無回答	
全体		618	35.0	36.2	28.0	10.8	1.3	3.1	6.8	6.1	3.4	(%)
家族構成	一人暮らし	161	0.0	4.3	44.7	16.8	2.5	6.8	14.3	18.0	6.2	
	夫婦二人暮らし(配偶者65歳以上)	168	86.9	7.1	26.2	4.2	0.6	1.8	2.4	3.6	3.0	
	夫婦二人暮らし(配偶者64歳以下)	14	92.9	7.1	7.1	7.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	息子・娘との2世帯	181	21.5	84.5	17.7	6.1	1.1	1.1	4.4	0.6	2.2	
	その他	89	18.0	56.2	24.7	23.6	1.1	3.4	7.9	2.2	0.0	
要介護度	要介護1	193	39.4	35.2	31.6	9.3	1.0	4.1	4.1	7.8	3.1	
	要介護2	170	29.4	31.8	30.0	12.4	1.2	4.1	8.8	7.1	4.7	
	要介護3	98	36.7	37.8	24.5	9.2	1.0	0.0	6.1	5.1	0.0	
	要介護4	70	42.9	42.9	25.7	12.9	1.4	1.4	7.1	2.9	0.0	
	要介護5	65	29.2	49.2	18.5	9.2	1.5	0.0	10.8	1.5	6.2	
	その他	6	33.3	0.0	50.0	16.7	0.0	0.0	0.0	16.7	0.0	

(3) 家族や友人・知人以外の何かあった時の相談先

問27. 家族や友人・知人以外で、何かあったときの相談先を教えてください。(あてはまるものすべてに○)

「ケアマネジャー」が69.4 %と最多。次いで「医師・歯科医師・看護師」が29.4%と続く。

図表 3-55 家族や友人・知人以外の何かあった時の相談先 (n=618)



要介護度別でみると、要介護度が高くなるほど、「ケアマネジャー」「医師・歯科医師・看護師」が高い傾向になっています。

図表 3-56 要介護度別の家族や友人・知人以外の何かあった時の相談先

	回答者数	高齢者・自治会・クラブ	民生委員・福祉協議会	ケアマネジャー	看護師・歯科医師	高齢者総合相談センター・区役所	その他	そのような人はいない	無回答	
全体	618	2.9	3.2	69.4	29.4	7.0	3.7	16.3	4.2	(%)
要介護度	要介護1	193	2.6	4.7	60.6	24.9	11.4	5.7	20.7	6.2
	要介護2	170	2.9	2.9	70.0	28.8	5.9	4.1	17.1	2.9
	要介護3	98	1.0	1.0	78.6	27.6	8.2	3.1	14.3	0.0
	要介護4	70	7.1	1.4	82.9	30.0	4.3	2.9	12.9	0.0
	要介護5	65	1.5	1.5	81.5	47.7	0.0	0.0	6.2	6.2
	その他	6	0.0	33.3	16.7	33.3	0.0	0.0	16.7	16.7

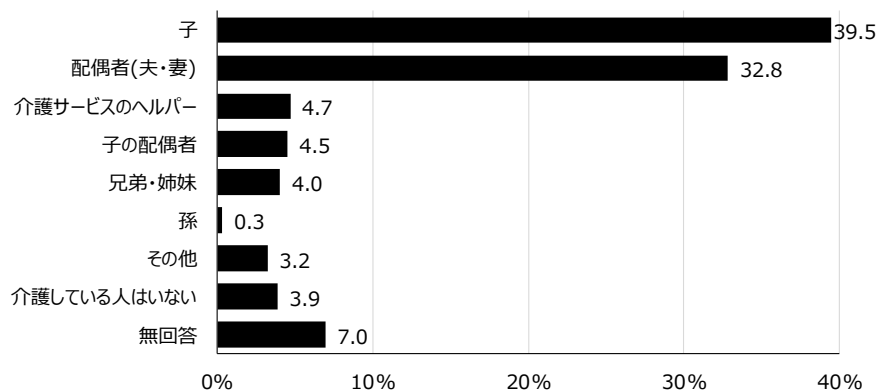
6. 主に介護をしている方について

(1) 本人からみた主介護者の関係性

問28. あて名のご本人様を主に介護をしている方は、あて名のご本人から見てどのような関係にありますか。(ひとつだけ○)

「子」が39.5 %と最多。次いで「配偶者(夫・妻)」が32.8%と続く。

図表 3-57 本人からみた主介護者の関係性 (n=618)

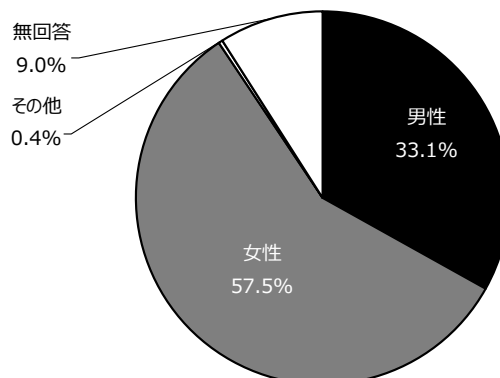


(2) 主介護者の性別

問29. 主に介護をしている方の性別をお答えください。(ひとつだけ○)

「男性」が33.1%、「女性」が57.5%。

図表 3-58 主介護者の性別 (n=565)

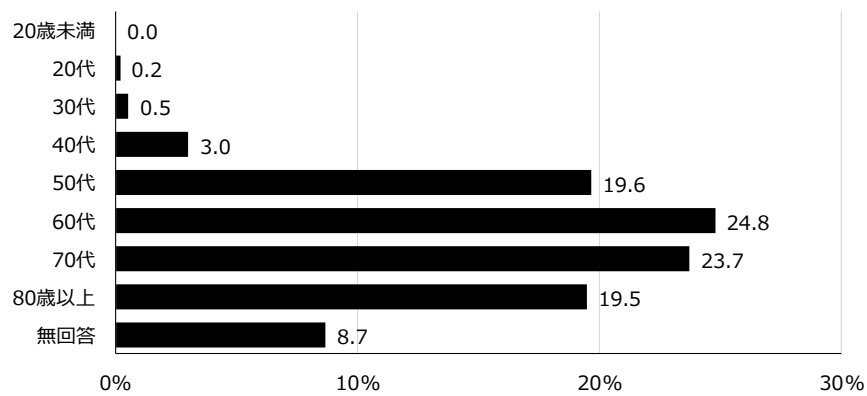


(3) 主介護者の年齢

問30. 主に介護をしている方の年齢はいくつですか。(ひとつだけ○)

「60代」が24.8%と最多。「男性」の主介護者は「80歳以上」が最多。「女性」の主介護者は「60代」最多。

図表 3-59 主介護者の年齢 (n=565)



図表 3-60 主介護者の性別、年齢

		回答者数	20歳未満	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80歳以上	無回答
全体		565	0.0	0.2	0.5	3.0	19.6	24.8	23.7	19.5	8.7
性別の主介護	男性	187	0.0	0.0	0.5	2.7	16.6	27.3	25.1	27.8	0.0
	女性	325	0.0	0.3	0.6	3.7	24.6	26.8	26.2	17.8	0.0
	その他	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0

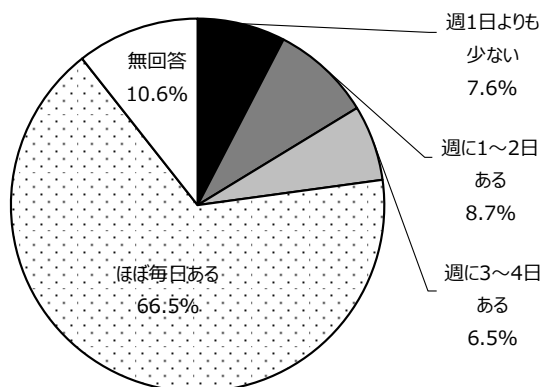
(%)

(4) 主介護者の介護の頻度

問31. あて名のご本人様に対する介護は、週にどのくらいありますか。(ひとつだけ○)

「ほぼ毎日ある」が66.5%と最多。

図表 3-61 主介護者の介護の頻度 (n=565)



要介護度別でみると、要介護度が高くなるにつれて、「ほぼ毎日ある」が高くなっています。

図表 3-62 要介護度別の主介護者の介護の頻度

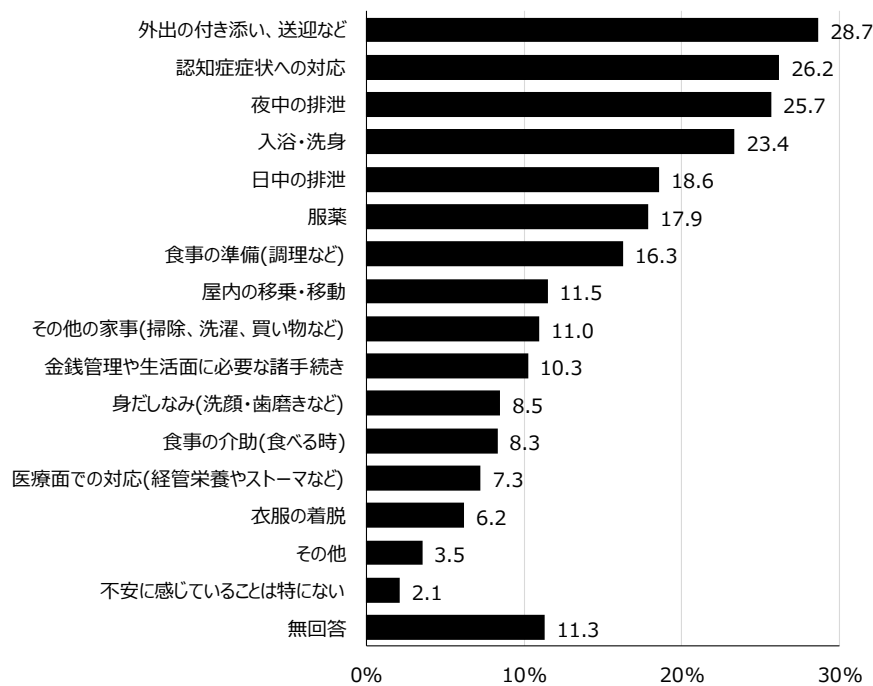
		回答者数	少ない1日よりも	週に1～2日	週に3～4日	ほぼ毎日ある	無回答	
全体		565	7.6	8.7	6.5	66.5	10.6	(%)
要介護度	要介護1	173	9.8	12.7	7.5	54.3	15.6	
	要介護2	153	9.8	11.1	7.2	63.4	8.5	
	要介護3	90	3.3	5.6	6.7	81.1	3.3	
	要介護4	67	6.0	4.5	6.0	80.6	3.0	
	要介護5	64	1.6	3.1	3.1	84.4	7.8	
	その他	6	16.7	0.0	16.7	16.7	50.0	

(5) 主介護者が不安を感じる介護

問32. 現在の生活を継続していくにあたって、主に介護をしている方が、不安を感じる介護などについてご回答ください。現在行っているか否かは問いません。(主なもの3つまで○)

「外出の付き添い、送迎など」が28.7 %と最多。次いで「認知症症状への対応」が(26.2%)、「夜中の排泄」(25.7%)の順。

図表 3-63 主介護者が不安を感じる介護 (n=565)



要介護度別でみると、“要介護１”“要介護２”では、他の要介護度に比べ「外出の付き添い、送迎など」が高くなっているのに対し、“要介護３”“要介護４”“要介護５”においては、他の要介護度に比べ「日中の排泄」「夜中の排泄」が高くなっています。

就労継続意向別でみると、“やや難しい”“かなり難しい”では、他の就労継続意向に比べ「日中の排泄」「夜中の排泄」が最も高くなっています。

図表 3-64 要介護度、就労継続意向別の主介護者が不安を感じる介護

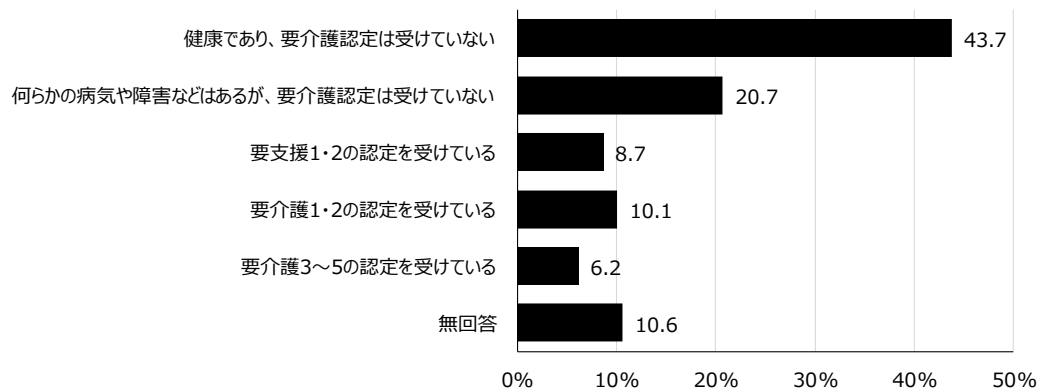
		回答者数	日中の排泄	夜中の排泄	食事の介助（食べる時）	入浴・洗身	身だしなみ（洗顔・歯磨きなど）	衣服の着脱	屋内の移乗・移動	外出の付き添い、送迎など	服薬	認知症状への対応	医療面での対応（経管栄養やストーマなど）	食事の準備（調理など）	その他の家事（掃除、洗濯、買い物など）	諸手続	金銭管理や生活面に必要な	その他	特に不安を感じていることは	無回答
全体		565	18.6	25.7	8.3	23.4	8.5	6.2	11.5	28.7	17.9	26.2	7.3	16.3	11.0	10.3	3.5	2.1	11.3	(%)
要介護度	要介護1	173	10.4	17.9	1.2	23.7	7.5	4.6	6.4	31.2	27.7	34.1	3.5	13.9	15.0	15.0	1.7	1.2	16.8	
	要介護2	153	14.4	22.9	2.0	25.5	9.8	7.2	10.5	34.6	22.9	26.1	8.5	23.5	13.1	6.5	2.6	2.6	8.5	
	要介護3	90	27.8	44.4	14.4	27.8	6.7	7.8	17.8	27.8	11.1	28.9	4.4	11.1	3.3	10.0	3.3	0.0	5.6	
	要介護4	67	31.3	34.3	14.9	19.4	13.4	7.5	16.4	26.9	6.0	20.9	7.5	13.4	6.0	9.0	9.0	4.5	3.0	
	要介護5	64	28.1	23.4	28.1	20.3	4.7	6.3	14.1	18.8	4.7	12.5	17.2	12.5	9.4	9.4	4.7	1.6	14.1	
	その他	6	0.0	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	16.7	16.7	16.7	33.3	50.0	0.0	0.0	16.7	33.3	
就労継続意向	問題なく続けていける	33	21.2	27.3	3.0	18.2	3.0	3.0	12.1	27.3	21.2	18.2	3.0	18.2	15.2	6.1	6.1	12.1	6.1	
	問題はあるが何とか続けていける	123	18.7	26.0	11.4	28.5	10.6	4.1	11.4	35.0	17.1	30.1	10.6	22.8	12.2	9.8	4.1	1.6	1.6	
	やや難しい	19	42.1	47.4	15.8	26.3	10.5	5.3	10.5	15.8	26.3	42.1	0.0	10.5	10.5	15.8	0.0	5.3	0.0	
	かなり難しい	16	43.8	37.5	0.0	31.3	6.3	6.3	12.5	6.3	12.5	18.8	18.8	18.8	6.3	12.5	6.3	0.0	12.5	

(6) 主介護者の要介護度

問33. 主に介護をしている方は、要介護認定を受けていますか。(ひとつだけ○)

「健康であり、要介護認定は受けていない」が43.7%と最多。次いで「何らかの病気や障害などはあるが、要介護認定は受けていない」が20.7%と続く。“80歳以上”では、「要支援1・2の認定を受けている」が最多。

図表 3-65 主介護者の要介護度 (n=565)



主介護者の年齢別でみると、主介護者の年齢が高くなるにつれて、主介護者の要介護度が高い傾向になっています。

図表 3-66 主介護者の年齢別の主介護者の要介護度

		回答者数	健康であり、要介護認定は受けていない	何らかの病気や障害などはあるが、要介護認定は受けていない	要支援1・2の認定を受けている	要介護1・2の認定を受けている	要介護3～5の認定を受けている	無回答
全体		565	43.7	20.7	8.7	10.1	6.2	10.6
主介護者の年齢	20歳未満	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	20代	1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	30代	3	66.7	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3
	40代	17	64.7	0.0	0.0	29.4	5.9	0.0
	50代	111	64.0	11.7	1.8	15.3	6.3	0.9
	60代	140	61.4	22.9	0.7	5.7	5.0	4.3
	70代	134	37.3	32.8	10.4	9.0	6.7	3.7
	80歳以上	110	21.8	25.5	26.4	10.9	10.0	5.5

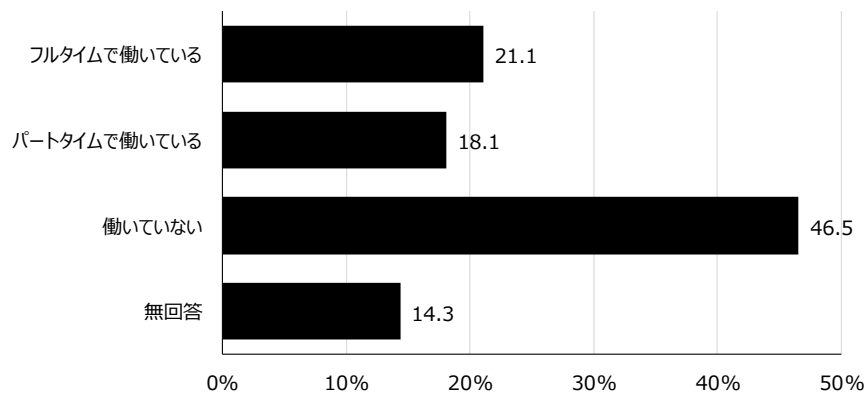
(%)

(7) 主介護者の勤務形態

問34. 主に介護をしている方の、現在の勤務形態についてご回答ください。(ひとつだけ○)

何らかの勤務形態で働いている(「フルタイムで働いている」(21.1%)、「パートタイムで働いている」(18.1%))割合は、39.2%。

図表 3-67 主介護者の勤務形態 (n=565)



図表 3-68 主介護者の性・年齢別の主介護者の勤務形態

		回 答 者 数	働 い て い る フ ル タ イ ム で	働 い て い る パ ー ト タ イ ム で	働 い て い な い	無 回 答	
全体		565	21.1	18.1	46.5	14.3	(%)
主 介 護 者 ・ 男 性	男性計	187	29.4	15.0	49.2	6.4	
	20歳未満	0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	20代	0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	30代	1	0.0	100.0	0.0	0.0	
	40代	5	100.0	0.0	0.0	0.0	
	50代	31	51.6	16.1	29.0	3.2	
	60代	51	41.2	11.8	45.1	2.0	
	70代	47	17.0	21.3	61.7	0.0	
	80歳以上	52	9.6	11.5	59.6	19.2	
主 介 護 者 ・ 女 性	女性計	325	19.1	22.5	51.1	7.4	
	20歳未満	0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	20代	1	100.0	0.0	0.0	0.0	
	30代	2	0.0	50.0	50.0	0.0	
	40代	12	58.3	25.0	16.7	0.0	
	50代	80	30.0	37.5	26.3	6.3	
	60代	87	17.2	27.6	49.4	5.7	
	70代	85	10.6	15.3	68.2	5.9	
	80歳以上	58	10.3	3.4	70.7	15.5	

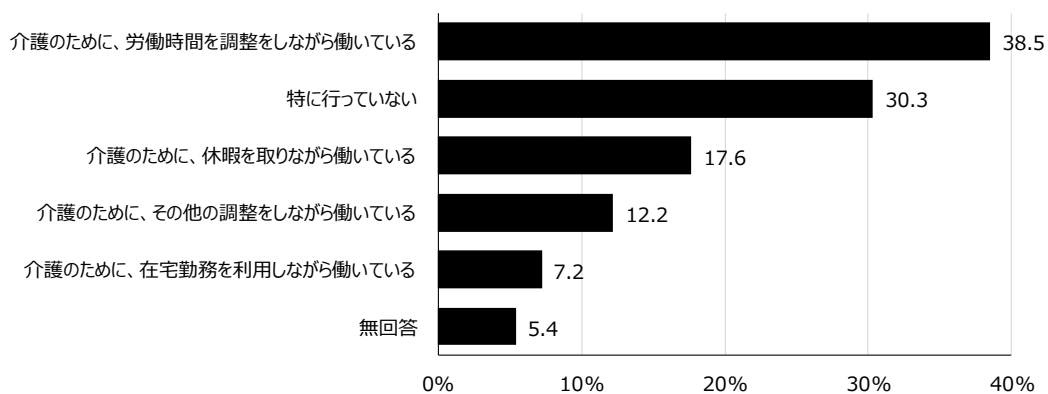
※主介護者の性別“その他”は回答者数が少ないため省略

(8) 主介護者の働き方の調整状況

問34-1. 問34で「フルタイムで働いている」「パートタイムで働いている」に○をつけた方にうかがいます。介護をするにあたって、働き方についての調整などをしていきますか。(あてはまるものすべてに○)

「介護のために、労働時間を調整をしながら働いている」が38.5%と最多。次いで「特に行っていない」(30.3%)、「介護のために、休暇を取りながら働いている」(17.6%)の順。

図表 3-69 主介護者の働き方の調整状況 (n=221)



主介護者の勤務形態別でみると、“フルタイム”“パートタイム”のいずれも「介護のために、労働時間を調整をしながら働いている」が最も高くなっています。

図表 3-70 主介護者の勤務形態別の働き方の調整状況

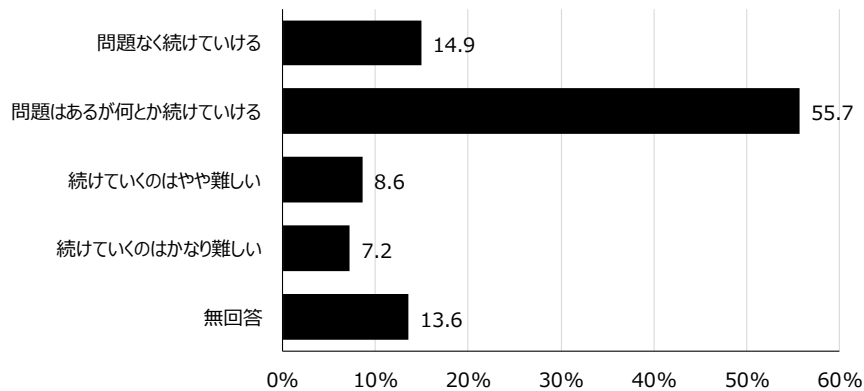
		回答者数	特に行っていない	介護のために調整をしながら働いている	介護のために、休暇を取りながら働いている	在宅勤務を利用しながら働いている	その他の調整をしながら働いている	無回答	
全体		221	30.3	38.5	17.6	7.2	12.2	5.4	(%)
勤務形態別	フルタイム	119	11.8	56.3	11.8	5.9	14.3	0.0	
	パートタイム	102	18.6	54.9	4.9	8.8	12.7	0.0	

(9) 主介護者の就労意向

問34-2. 問34で「フルタイムで働いている」「パートタイムで働いている」に○をつけた方にうかがいます。今後も働きながら介護を続けていけそうですか。(ひとつだけ○)

「問題はあるが何とか続けていける」が55.7%と最多。

図表 3-71 主介護者の就労意向 (n=221)



主介護者の勤務形態別でみると、「フルタイム」「パートタイム」のいずれも「問題はあるが何とか続けていける」が最も高くなっています。

図表 3-72 要介護度、主介護者の勤務形態別の主介護者の就労意向

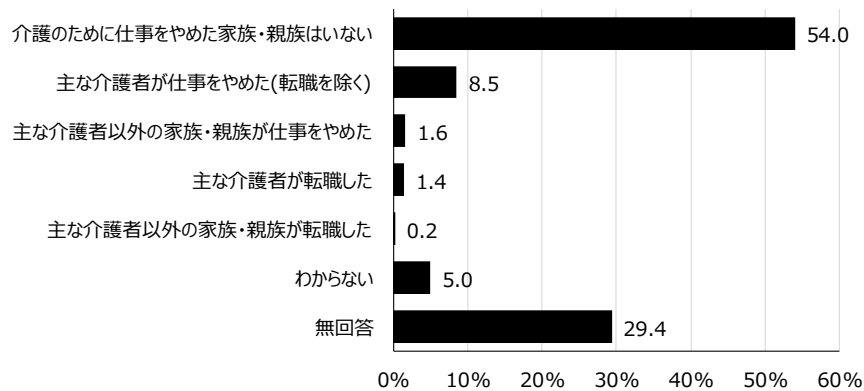
		回答者数	問題なく続けていける	問題はあるが何とか続けていける	やや難しい	かなり難しい	無回答
全体		221	14.9	55.7	8.6	7.2	13.6
要介護度	要介護1	60	13.3	63.3	8.3	3.3	11.7
	要介護2	68	14.7	47.1	10.3	7.4	20.6
	要介護3	29	17.2	51.7	10.3	6.9	13.8
	要介護4	37	10.8	59.5	8.1	13.5	8.1
	要介護5	23	21.7	56.5	4.3	8.7	8.7
	その他	1	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
勤務形態	フルタイム	119	11.8	56.3	11.8	5.9	14.3
	パートタイム	102	18.6	54.9	4.9	8.8	12.7

(10) 家族・親族における介護を理由とした離職の状況

問35. 主に介護をしている方を含むご家族やご親族の中で、あて名のご本人の介護を主な理由として、過去1年間に仕事をやめた方はいますか。現在働いているかどうかや、現在の勤務形態は問いません。(ひとつだけ○)

「介護のために仕事をやめた家族・親族はいない」が54.0%と最多。

図表 3-73 家族・親族における介護を理由とした離職の状況 (n=565)



図表 3-74 主介護者の年齢別の家族・親族における介護を理由とした離職の状況

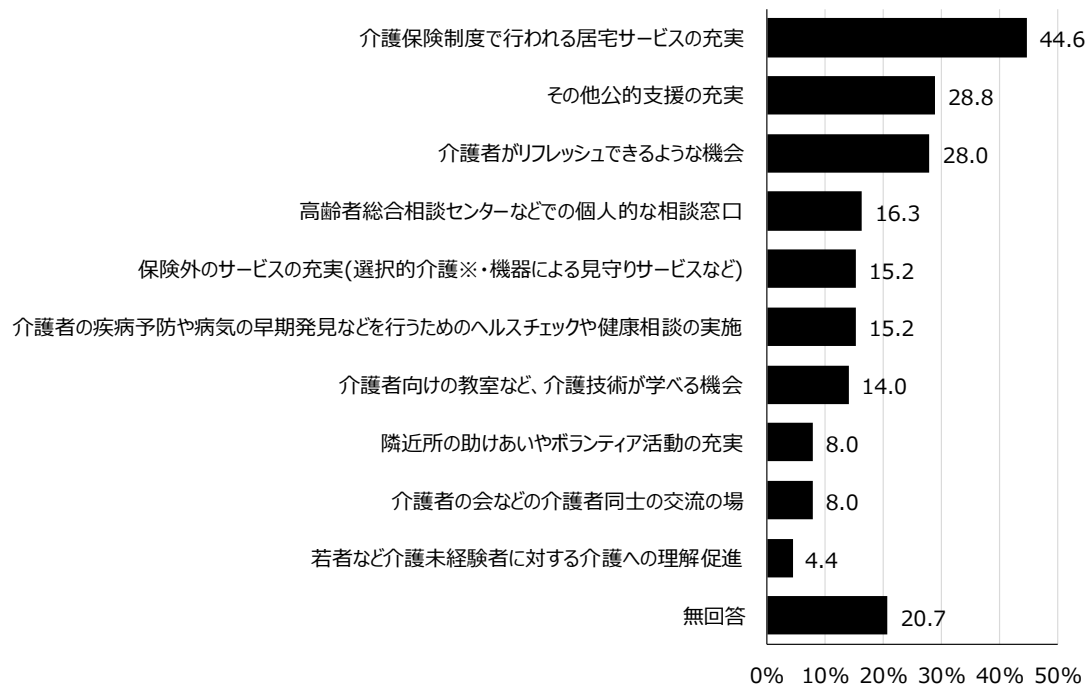
		回答者数	主な介護者が仕事をやめた(転職を除く)	親族が介護者以外に仕事をやめた	主な介護者が転職した	親族が介護者以外に仕事をやめた	介護のために仕事をやめた家族・親族はいない	わからない	無回答
全体		565	8.5	1.6	1.4	0.2	54.0	5.0	29.4
主介護者の年齢	20歳未満	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	20代	1	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	30代	3	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
	40代	17	11.8	11.8	0.0	0.0	47.1	11.8	17.6
	50代	111	7.2	0.0	3.6	0.0	64.9	8.1	16.2
	60代	140	13.6	2.1	0.7	0.7	65.0	4.3	13.6
	70代	134	10.4	0.7	1.5	0.0	62.7	4.5	20.1
	80歳以上	110	4.5	2.7	0.0	0.0	40.0	3.6	49.1

(11) 主介護者が介護者支援として充実を望むこと

問36. 在宅介護を継続するにあたって、主に介護をしている方が、介護者支援として充実を望むことは何ですか。(主なもの3つまで○)

「介護保険制度で行われる居宅サービスの充実」が44.6 %と最多。次いで「その他の公的支援の充実」(28.8%)、「介護者がリフレッシュできるような機会」(28.0%)の順。

図表 3-75 主介護者が介護者支援として充実を望むこと (n=565)



※ 選択的介護とは介護保険サービスと保険外サービスを柔軟に組み合わせることで要介護者やご家族をサポートするサービスのことをいいます。

図表 3-76就労継続意向別の主介護者が介護者支援として充実を望むこと

		回答者数	介護者がリフレッシュできるような機会	介護者の会などの介護者同士の交流の場	高齢者総合相談センターなどでの個人的な相談窓口	介護技術が学べる機会	介護者のためのヘルスチェックや健康相談の実施	理解促進	隣近所の助けあいやボランティア活動の充実	介護保険制度で行われる居宅サービスの充実	その他の公的支援の充実	保険外のサービスの充実 (選択的介護・機器による見守りサービスなど)	無回答
全体		565	28.0	8.0	16.3	14.0	15.2	4.4	8.0	44.6	28.8	15.2	20.7
意 継 就	続けていける	132	14.4	3.0	5.3	6.8	6.1	3.8	4.5	25.0	19.7	6.1	5.3
向 続 労	続けていくのは難しい	39	12.8	0.0	5.1	10.3	10.3	5.1	2.6	28.2	12.8	12.8	0.0

(%)

★ 最後に、在宅介護や介護保険に関するご意見やご要望がございましたら、ご自由にお書きください。

150人の方から意見・要望等が寄せられました。内容を集約したうえで下表の11の観点に整理すると、「介護負担」や「生活支援」、「情報提供」に関する意見が比較的多くみられました。

観点	主な回答内容
介護負担	- 介護する側は仕事も出来ず苦しい。本人の為に点数いっぱい利用しているが、デイなどは時間が短いので仕事にもなかなかつけない。介護する側も高齢になり先の事を考えると不安。 - 本人がサービスを受けたがらず困っている。 - 在宅介護を少し休みたいが、ショートステイをする所がなく、自分の体調が心配である。 - 吸引機や胃ろうの人を受け入れてくれるデイサービスや公的施設が非常に少ない在宅での人が多くなっている事を知って欲しい。介護者がリフレッシュや入院などが出来ない状態になるのは、在宅を安心して行なう事を考えさせてしまう事にもなる。 - フルタイムで働きながらの介護は大変である。デイサービスのお迎えも4時～5時なので早めに帰宅しなければならない。保育園のような、延長などあれば仕事が続けられる。訪問介護があるが、高くて利用できない。 - 介護者が病気等になった場合の支援体制が不安である。 - 家族が看る場合、その分何らかの経済的負担が軽減されるドイツのような制度を希望する。 - 在宅介護をしていますが、夜間に起き出して転倒したり、トイレが自分でできないため、都度家族が、対応している。介護者が夜間眠れるようなサービスを充実させて頂けると嬉しい。 - 本人は、身体的には健康なので、できれば地域での生活を長く続けてほしいと感じる反面、認知症状ゆえ、近所への迷惑が心配で、目が離せない。
生活支援	- 介助付のお風呂屋さんのような所があるといい。デイサービスもあるが、日にちを特定しないで、気が向いた時に行ける所があるといい。デイサービスとショートステイの乗り入れ、日中のデイサービスからそのまま、ショートステイに移行できるような制度があると助かる。 - 多彩なサービスをもっと幅広く受けられる様出来ると良いと思う。 - 家族がいると、現在では訪問介護の「生活援助」が受けられない。要介護度4以上で親（被介護者）、子（介護者）が共に高齢（例えば介護者が65歳以上）の場合は「生活援助」も利用できる様にする方が、実情に合う施策であると思う。

観点	主な回答内容
	• 何かある時はこちらから相談するというスタンスではなく、90才以上であるのだから週に1回は見回りにくるとか電話するとか、区からのアプローチが必要であると感じます。 • 近くに家族が住んでいないため、見守り、家事支援などもお願いしたい。 • 介護保険でやれることを、もっと多くしてもらいたい。ヘルパーさんにやれないと言われることが多くて、不便。 • 介護保険料負担割合の高い人にはオムツが支給されませんが、有料でも良いので配達して欲しい。毎回の買い出しがけっこう負担になる。 • 緊急用の連絡ボタンで自宅ベッドから救急へつながるシステムがあつたらいいな。(電話ではないもの。本当に緊急の時は電話もできないため。) • おむつやりハビリパンツの購入費補助の範囲を広げて欲しい。 • 老々介護です。家事援助がないことに困っている。
情報提供	• 自宅から出たがらない人には、月1回位で話し相手になりながら、デイケアや新情報を直接本人に伝えて頂けると助かる。 • 情報の不足は、不安なので、気安く知る方法がほしい。 • 今の所はないが、突然介護者が家をあけなければならない時が起きた場合に、何か別の方法があるか知りたい。 • 本人がデイサービス、ヘルパー、ケアマネなど言葉の意味も理解できず、何もかも否定する。もっと高齢者が受け入れやすいようなわかりやすいサービスの説明、内容を希望する。 • サービスをもっとわかりやすく知らせてほしい。 • 介護の仕方を聞ける(相談できる)部署があると良い。
サービスの充実	• ショートステイが出来る日数が多くなれば良いと思う。 • 認知症対応のショートステイがあればとても助かる。 • グループホームが少なく、入所困難。ショートステイなども気軽に申込みると有難い。 • 24時間利用できるサービスを提供する施設を増やしてほしい。 • 住宅改修費の上限をふやしてほしい。(トイレ改修だけで使いきってしまう) • 介護する側の緊急時に入れるショートステイ先がない又あっても送り迎えがない等不便。 • 認知症に特化したショートステイがないので利用しづらい。
家族介護者支援	• 介護離職をしないで在宅介護ができる様にしてほしい。 • 働きながらの介護は心苦しいので、もっと助けてほしい。 • 老々介護の為に体を休めたい。 • 急な病気に介護者がなった時の援助の充実がほしい。

観点	主な回答内容
	- 介護者が仕事をしながら在宅介護が続けられる環境がほしい - 介護している家族の不安やストレス、又医療面での助言・情報・サポートなどをしてもらえるような場があったら、とても心強く感じられるようになると思う。現状、いろいろな所でいろいろな人に少しずつ情報をもらい、自分で考えて次の手を打って行く、というかなり不安定で心細い感じなので。
経済的負担	- 保険料が高い。 - 介護サービスは1割負担でとても助かっているが、デイサービスやショートステイの食事代が高いので何か工夫をして欲しいです。 - 収入がないので、在宅介護や施設入所が満足に受けられない。 - 少ない年金での介護は、とても負担がある。 - 特養などの料金を安くして欲しい。 - 費用が高いので余り利用出来ない。 - 介護度も5になり経済的負担が大きすぎる。もし特養に入れたとしてもいくらかかるのか不安。 - 本人が働いていないのに介護保険料が高い。 - 在宅介護が維持できず、介護している家族が離職しなければならない現状。生きる為に必要なサービスであるから、低価格で提供していただきたいが、上がる一方。
制度の緩和	- 保険点数を増やしてほしい。月の日数が多い等で訪問看護や、デイサービスを諦めなければいけない。これでは、この先介護度が上がった場合でも不安でしかたない。フルタイムで働かなければ生活できない家庭もある。 - 現在、介護施設への入居が極めてむずかしく、ショートステイサービスに頼っているが、年間利用日数に制限があり、介護者の負担となっている。要介護3以上の者に対しては、年間利用日数の制限をなくしてもらうか、緩和してもらいたい。 - 介護保険制度など制度がしょっちゅう変わり、現場で働く人のとまどいが、利用者にも影響があり、ドタバタする。 - 国・区などからの指示で、現場の人が、「これは、決まりで出来ません」と言われ、融通の効かないやり方に、家族は、疲れる。
移動支援	- タクシー券を希望する。 - 通院等の移動が楽に出来るようなサービスがほしい。
介護従事者の処遇改善	- ヘルパーさんが頼りだから、お給料をきちんと上げてほしい。 - ケアマネジャーやお仕事をしている人が『働いていて良かった』と思える給料になる事を望む。現場は本当に大変だと思う。この仕事を続けたいと思う状態が大切だとも思っている。

観点	主な回答内容
要介護認定	• 早目に介護認定が下されるようにしてほしい。 • 要支援→要介護の申請に時間がかかる。サービスの使用できない期間が発生し、本人にとって無リハビリ状態が続き、問題がある。つなぎのサービスも病院での手あてには限界や本人の負担も大きく、手続きがすぐに終わるようになってほしい。
その他	• リハビリをしっかりとする場所がほしい。近くにないので、ぜひ近くて通いやすい所にあってほしい。1週間に2～3回は通えて身体を動かすことが出来る様にしたい。 • 包括センターが住所で区切られているが、自宅や職場から行きやすい所で相談ができると良い。 • 体調が悪くなった時に急な発熱等往診してくださるお医者様がいたりとい。 • 夜間などに1人暮らしの高齢者の具合が悪くなった時、救急車を呼ぶ程ではないが泣き出したりパニックになってしまう時があり、夜間はかけつけられないので困っている。そんな時に連絡できる場所があると助かる。 • 他人であっても、高齢者に対して、気軽に声をかけたり、手を貸したり、気にかけてたりできる、やさしく・あたたかい地域社会づくりや、人への思いやりのできる人づくりは、制度を維持する以上に、大切なことだと思う。

7. 経年比較

本項においては、過年度（平成28年度）の調査結果と比較ができる設問のうち、特に経年変化を追うことが必要な項目について、比較結果を掲載しています。

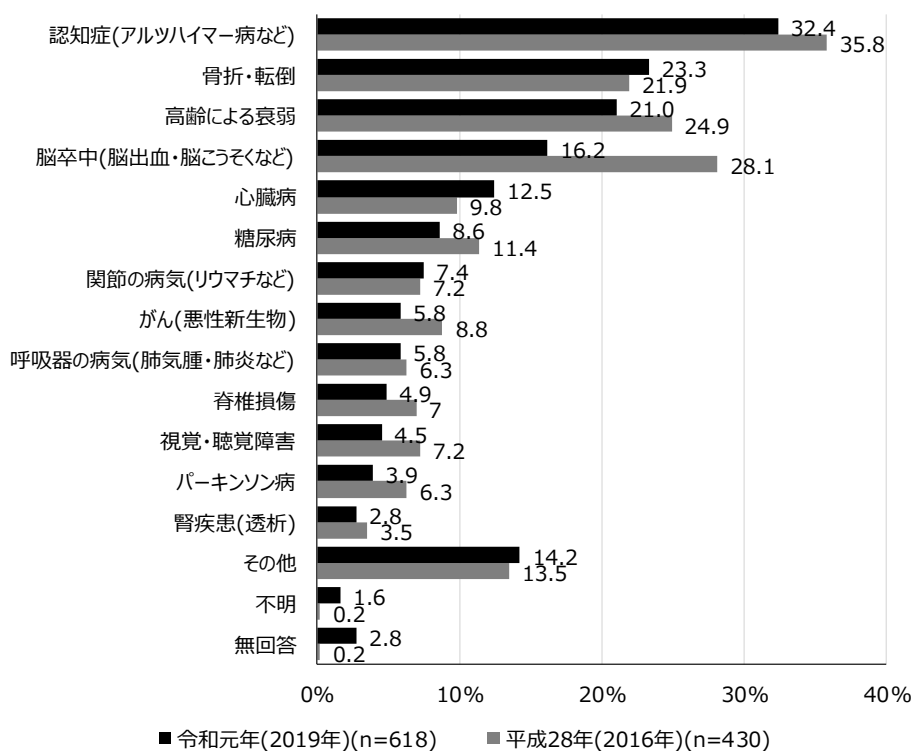
ただし、過年度調査の対象者は「要介護3～5認定者」であるのに対し、今回の調査の対象者は「要介護1～5」であり、「要介護1・2認定者」が含まれていることに留意する必要があります。

（1）介護が必要になった主な原因

問10. あなたが、介護が必要になった主な原因は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

今回調査においては、過年度調査に比べ、「骨折・転倒」が高くなっている。

図表 3-77 介護が必要になった主な原因

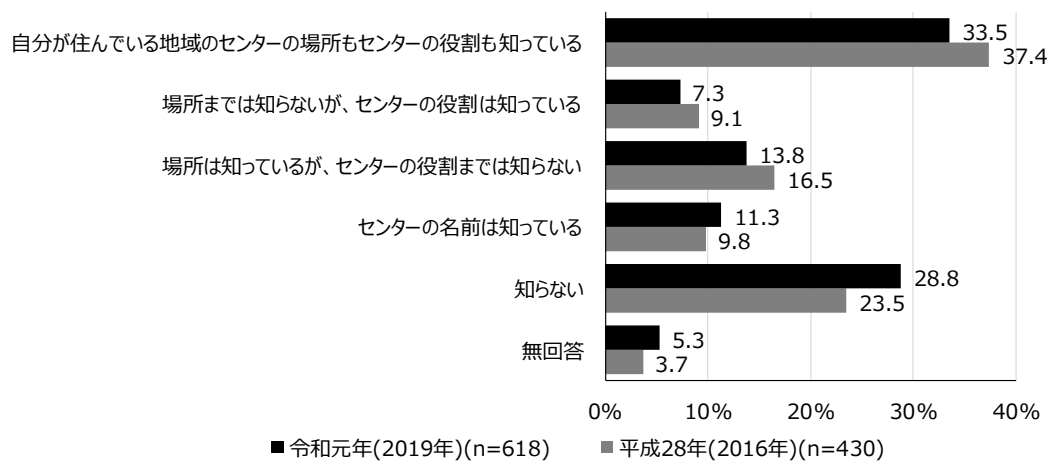


(2) 高齢者総合相談センターの認知度

問21. 豊島区では、高齢者の心身の健康と生活の安定のための相談窓口として、区内に高齢者総合相談センター（地域包括支援センター）を設置しています。あなたは、高齢者総合相談センターを知っていますか。（ひとつだけ○）

過年度調査に比べ、今回調査においては、「知らない」が5.3ポイント高く、「自分が住んでいるセンターの場所も役割も知っている」が3.9ポイント低い。

図表 3-78 高齢者総合相談センターの認知度

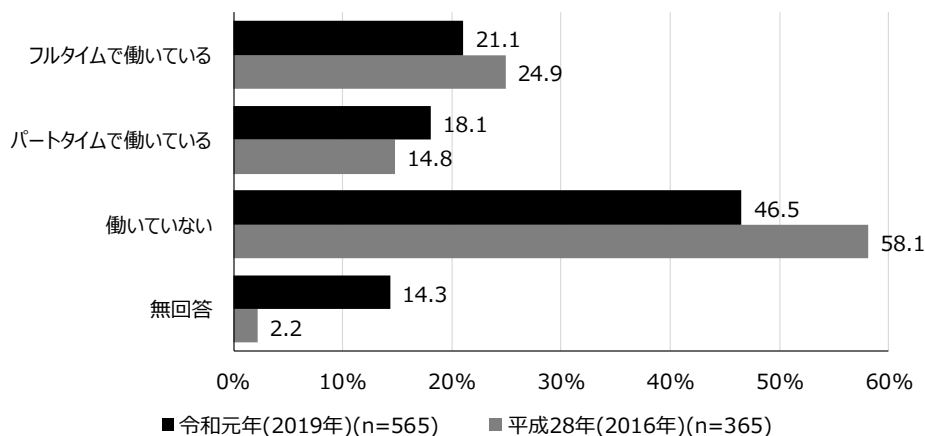


(3) 主介護者の勤務形態

問34. 主に介護をしている方の、現在の勤務形態についてご回答ください。（ひとつだけ○）

過年度調査に比べ、今回調査においては、「パートタイムで働いている」が3.3ポイント高く、「働いていない」が11.6ポイント低い。

図表 3-79 主介護者の勤務形態



第4章

ケアマネジャー調査

第4章 ケアマネジャー調査

＜調査結果の概要＞

（１）在宅生活の継続が困難である方の実態

- 現在のサービス利用では在宅生活の維持が難しくなっている利用者が「いる」と57.3%が回答している（図表 4-21）。
- 本人としてはその理由として、「生活不安が大きいから」が35.7%と最多（図表 4-22）。本人の状態は、「認知症の症状の悪化」が61.2%と最多（図表 4-24）。一方、家族介護者としては、「介護者の介護に係る不安・負担量の増大」が58.2%と最多だった（図表 4-23）。
- 生活の維持が困難な要因は以下のとおり。
 - 身体的介護の観点：「移乗・移動」75.0%（図表 4-25）。
 - 認知症の症状の観点：「金銭管理が困難」51.7%（図表 4-26）。
 - 医療的ケア・医療処置の観点：「褥瘡の処置」「カテーテル」「喀痰吸引」38.9%（図表 4-27）。

（２）高齢者総合相談センターとの連携状況

- 高齢者総合相談センターとの連携状況について聞くと、「十分連携がとれている」が63.2%と最多であった（図表 4-37）。連携がとれない理由について聞くと、「包括ごとに職員のレベルや対応に違いがある」が54.1%と最多であった（図表 4-39）。
- 高齢者総合相談センターに期待する役割としては、「支援困難事例への個別指導・相談の役割」が52.0%と最多であった（図表 4-40）。

（３）医療機関との連携状況

- 高齢者総合相談センターとの連携状況について聞くと、「連携のとれる内容をとれない内容がある」が53.8%と最多であった（図表 4-42）。連携がとれない理由について聞くと、「医療従事者が忙しい」が52.5%と最多であった（図表 4-44）。
- 医療機関等からの情報収集の方法としては、「電話」が81.9%と最多。次いで「直接の面談」（56.1%）、「FAX」（54.4%）の順となった（図表 4-46）。

（４）質の確保に向けた取り組み

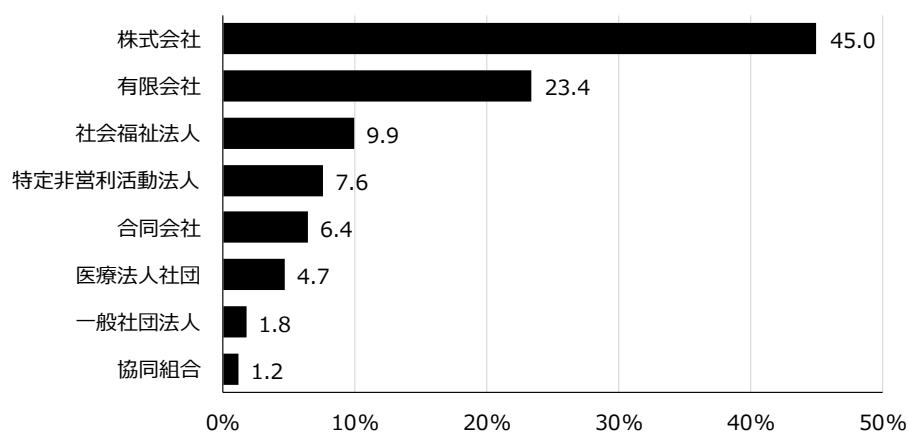
- 介護保険制度改正の学習方法としては、「区の事業者連絡会や集団指導に参加」が78.9%と最多という結果であった（図表 4-61）。
- 業務に役立った研修内容は「介護保険等の制度に関する情報」が61.4%と最多であり（図表 4-68）、事業所や同一法人での研修の参加頻度は「月に1回程度」が46.8%と最多（図表 4-62）。
- ケアマネジャーの質の向上に必要なこととしては、「事例を使った検討会」が46.2%と最多であり（図表 4-70）、ケアマネジャーの質の向上における課題としては、「レベルや経験年数に応じた研修がない」が29.8%と最多。（図表 4-72）。

1. 事業所の概要について

(1) 法人種別

「株式会社」が45.0%と最多。

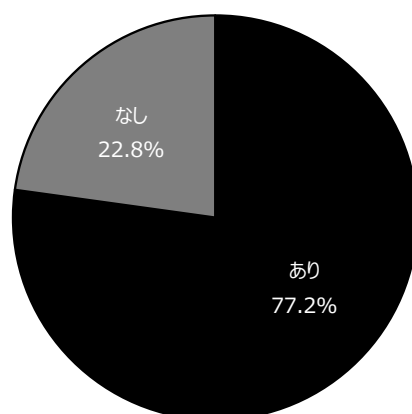
図表 4-1 法人種別 (n=171)



(2) 介護サービス事業所の併設の有無

「あり」が77.2%。

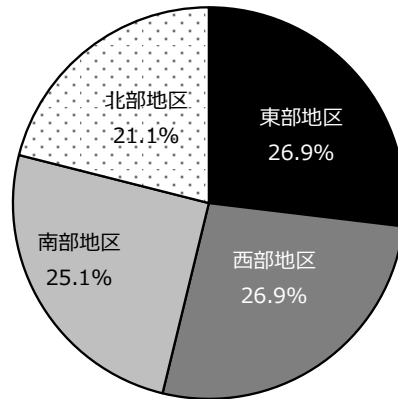
図表 4-2 介護サービス事業所の併設の有無 (n=171)



(3) 事業所の所在地

「東部地区」「西部地区」が26.9%と最多。次いで「南部地区」(25.1%)、「北部地区」(21.1%)の順。

図表 4-3 事業所の所在地 (n=171)



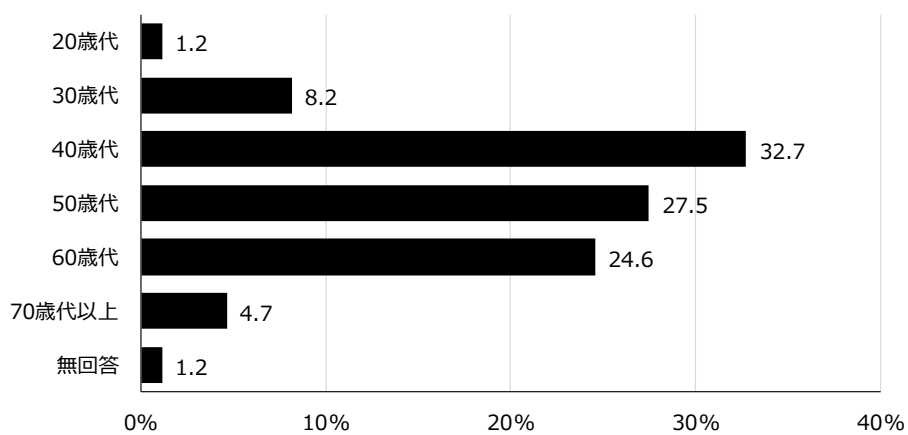
2. ご本人について

(1) 年齢

問1. あなたの令和元年11月1日現在の年齢をお答えください。(ひとつだけ○)

「40歳代」が32.7%と最多。次いで「50歳代」(27.5%)、「60歳代」(24.6%)の順。

図表 4-4 年齢 (n=171)

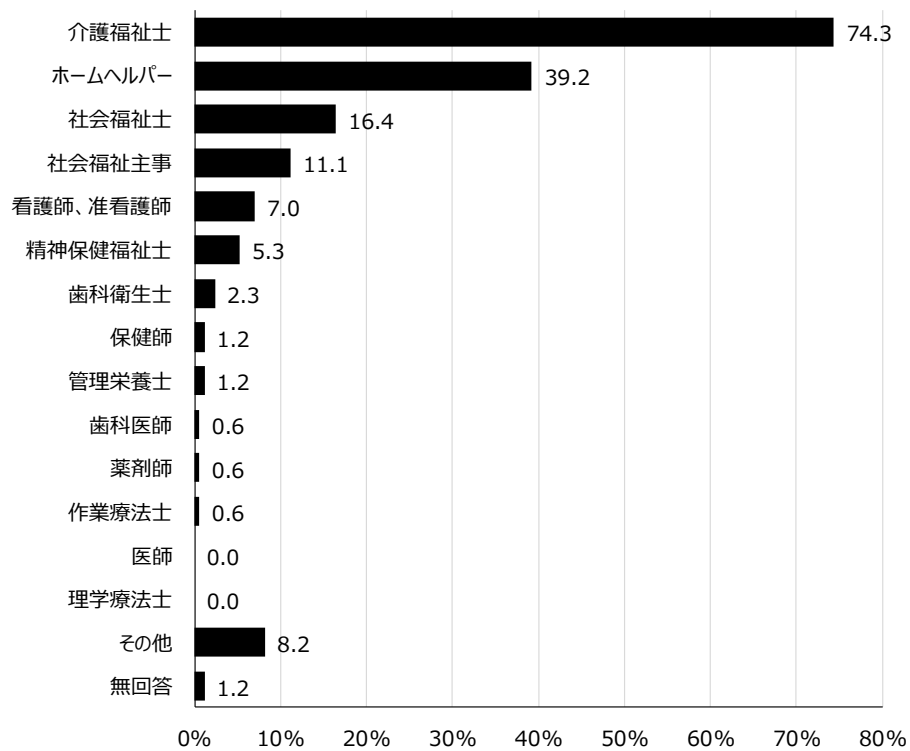


(2) 保有する資格

問2. あなたはケアマネジャー以外にどのような保健医療福祉関係の資格をお持ちですか。(あてはまるものすべてに○)

「介護福祉士」が74.3%と最多。次いで「ホームヘルパー」(39.2%)、「社会福祉士」(16.4%)の順。

図表 4-5 保有する資格 (n=171)

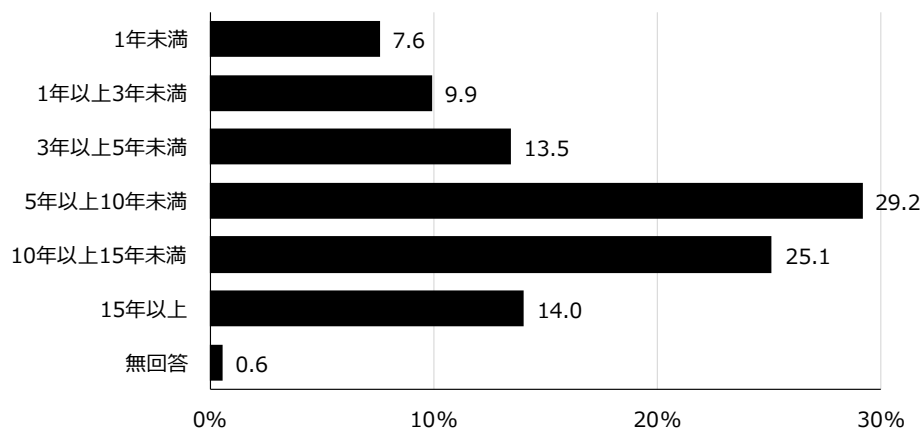


(3) 従事年数

問3. あなたは、令和元年11月1日現在、ケアマネジャー業務に従事してどれくらいの経験がありますか。転職などを行っている場合は、前職なども含めた合計期間でお答えください（ひとつだけ○）。

「5年以上10年未満」が29.2%と最多。次いで「10年以上15年未満」(25.1%)、「15年以上」(14.0%)の順。

図表 4-6 従事年数(n=171)



年齢別でみると、“20歳代”では、「1年以上3年未満」が最も高くなっています。“30歳代”“40歳代”では、「5年以上10年未満」が最も高くなっています。“50歳代”“70歳代以上”では、「10年以上15年未満」が最も高くなっています。“60歳代”では、「10年以上15年未満」「15年以上」が最も高くなっています。

図表 4-7 年齢別の従事年数

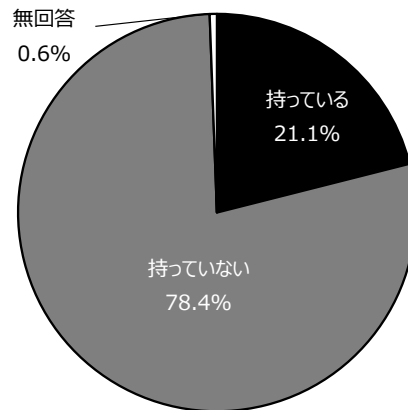
		回答者数	1年未満	3年未満	5年未満	10年未満	15年未満	15年以上	無回答	
全体		171	7.6	9.9	13.5	29.2	25.1	14.0	0.6	(%)
年齢	20歳代	2	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	30歳代	14	14.3	7.1	21.4	57.1	0.0	0.0	0.0	
	40歳代	56	10.7	17.9	17.9	28.6	21.4	3.6	0.0	
	50歳代	47	10.6	8.5	12.8	23.4	31.9	12.8	0.0	
	60歳代	42	0.0	0.0	9.5	28.6	31.0	31.0	0.0	
	70歳代以上	8	0.0	0.0	0.0	25.0	37.5	25.0	12.5	

(4) 主任ケアマネジャーの資格

問4. あなたは、現在、主任ケアマネジャーの資格を持っていますか。(ひとつだけ○)

「持っている」が21.1%、「持っていない」が78.4%。

図表 4-8 主任ケアマネジャーの資格 (n=171)



図表 4-9 年齢別の主任ケアマネジャーの資格

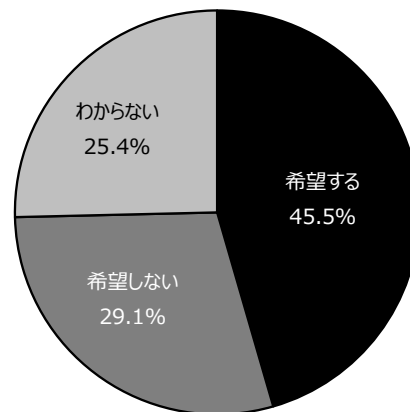
		回答者数	持っている	持っていない	無回答	
全体		171	21.1	78.4	0.6	(%)
年齢	20歳代	2	0.0	100.0	0.0	
	30歳代	14	14.3	85.7	0.0	
	40歳代	56	19.6	80.4	0.0	
	50歳代	47	25.5	74.5	0.0	
	60歳代	42	21.4	78.6	0.0	
	70歳代以上	8	12.5	75.0	12.5	

(5) 主任ケアマネジャーの資格取得希望

問4-1. 問4で「持っていない」に○をつけた方にうかがいます。今後、主任ケアマネジャーの資格取得を希望しますか。(ひとつだけ○

「希望する」が45.5%と最多。次いで「希望しない」が29.1%。一方、「わからない」が25.4%。

図表 4-10 主任ケアマネジャー資格取得希望 (n=134)



図表 4-11 年齢、従事年数別の主任ケアマネジャー資格取得希望

		回答者数	希望する	希望しない	わからない	無回答	
全体		134	45.5	29.1	25.4	0.0	(%)
年齢	20歳代	2	100.0	0.0	0.0	0.0	
	30歳代	12	41.7	16.7	41.7	0.0	
	40歳代	45	42.2	31.1	26.7	0.0	
	50歳代	35	48.6	17.1	34.3	0.0	
	60歳代	33	51.5	39.4	9.1	0.0	
	70歳代以上	6	0.0	66.7	33.3	0.0	
従事年数	1年未満	13	23.1	30.8	46.2	0.0	
	1年以上3年未満	17	41.2	23.5	35.3	0.0	
	3年以上5年未満	22	45.5	27.3	27.3	0.0	
	5年以上10年未満	42	54.8	28.6	16.7	0.0	
	10年以上15年未満	26	46.2	26.9	26.9	0.0	
	15年以上	14	42.9	42.9	14.3	0.0	

3. サービス基盤について

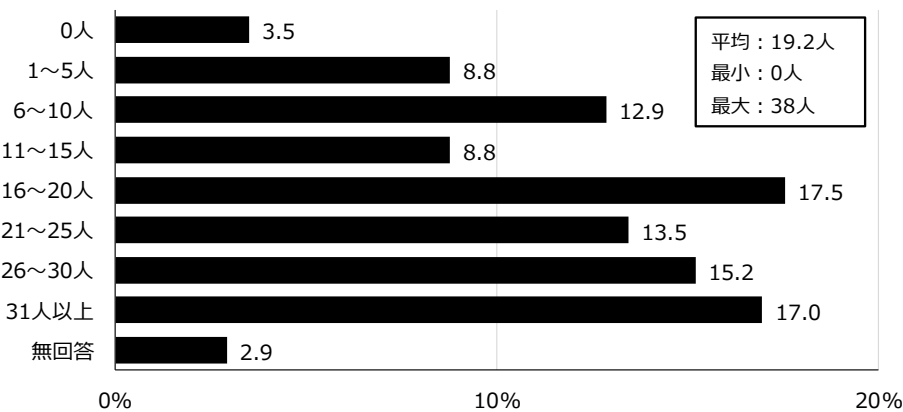
(1) ケアプラン作成人数（介護プラン）

問5. あなたが現在豊島区でケアプラン作成を担当している人数をご記入ください。
(数値を記入)

① 介護プラン

平均は19.2人。「16～20人」が17.5%と最多。次いで「31人以上」(17.0%)、
「26～30人」(15.2%)の順。

図表 4-12 ケアプラン作成人数（介護プラン）(n=171)



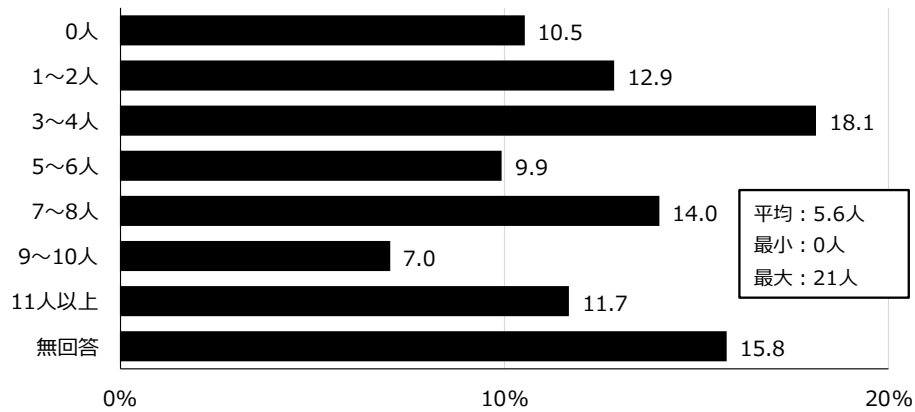
図表 4-13 従事年数別のケアプラン作成人数（介護プラン）

	合計	0人	1人	6人	11人	16人	21人	26人	31人以上	無回答	平均(人)
全体	171	3.5	8.8	12.9	8.8	17.5	13.5	15.2	17.0	2.9	19.2
従事年数											
1年未満	13	23.1	15.4	7.7	30.8	15.4	0.0	0.0	0.0	7.7	8.8
1年以上3年未満	17	5.9	17.6	11.8	11.8	23.5	17.6	5.9	5.9	0.0	14.8
3年以上5年未満	23	0.0	0.0	21.7	13.0	17.4	13.0	13.0	17.4	4.3	19.9
5年以上10年未満	50	0.0	8.0	18.0	4.0	20.0	14.0	18.0	16.0	2.0	20.1
10年以上15年未満	43	2.3	4.7	4.7	9.3	18.6	18.6	11.6	30.2	0.0	22.8
15年以上	24	4.2	16.7	12.5	0.0	8.3	8.3	33.3	12.5	4.2	18.8

② 介護予防プラン

平均は5.6人。「3～4人」が18.1%と最多。次いで「7～8人」(14.0%)、「1～2人」(12.9%)の順。

図表 4-14 ケアプラン作成人数（介護予防プラン）（n=171）



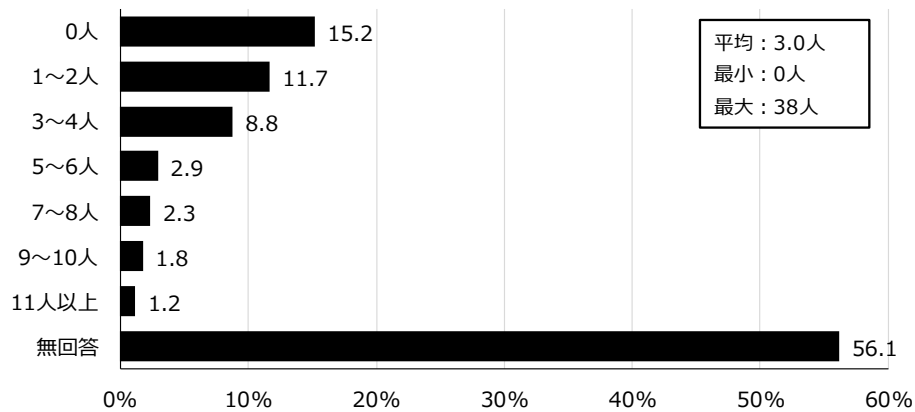
図表 4-15 従事年数別のケアプラン作成人数（介護予防プラン）

	合計	0人	1人	3人	5人	7人	9人	11人以上	無回答	平均(人)	(%)
全体	171	10.5	12.9	18.1	9.9	14.0	7.0	11.7	15.8	5.6	
従事年数	13	46.2	7.7	15.4	7.7	7.7	0.0	0.0	15.4	1.8	
1年未満	17	17.6	23.5	17.6	5.9	11.8	11.8	5.9	5.9	4.3	
1年以上3年未満	23	4.3	21.7	26.1	8.7	13.0	4.3	17.4	4.3	6.0	
3年以上5年未満	50	6.0	14.0	14.0	6.0	20.0	14.0	12.0	14.0	6.5	
5年以上10年未満	43	9.3	7.0	18.6	14.0	16.3	4.7	14.0	16.3	5.9	
10年以上15年未満	24	4.2	8.3	20.8	16.7	4.2	0.0	12.5	33.3	5.7	
15年以上											

③ 介護予防ケアマネジメント

平均は3.0人。「0人」が15.2%と最多。次いで「1～2人」(11.7%)、「3～4人」(8.8%)の順。

図表 4-16 ケアプラン作成人数（介護予防ケアマネジメント）(n=171)



図表 4-17 従事年数別のケアプラン作成人数（介護予防ケアマネジメント）

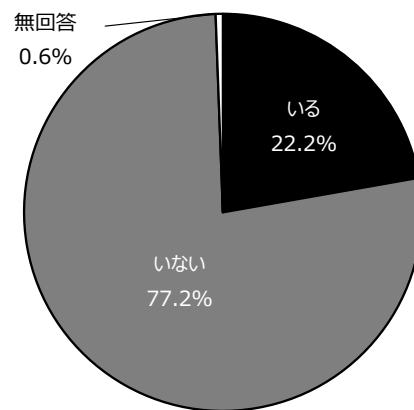
		合計	0人	1人	3人	5人	7人	9人	11人以上	無回答	平均(人)	
			人	人	人	人	人	人	人			(%)
全体		171	15.2	11.7	8.8	2.9	2.3	1.8	1.2	56.1	3.0	
従事年数	1年未満	13	38.5	15.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	46.2	0.3	
	1年以上3年未満	17	23.5	17.6	11.8	0.0	0.0	0.0	0.0	47.1	1.1	
	3年以上5年未満	23	13.0	8.7	8.7	4.3	0.0	0.0	4.3	60.9	3.7	
	5年以上10年未満	50	10.0	6.0	14.0	0.0	2.0	6.0	2.0	60.0	5.2	
	10年以上15年未満	43	18.6	16.3	4.7	9.3	7.0	0.0	0.0	44.2	2.6	
	15年以上	24	4.2	12.5	8.3	0.0	0.0	0.0	0.0	75.0	1.8	

(2) 宿泊付きデイサービスの利用者

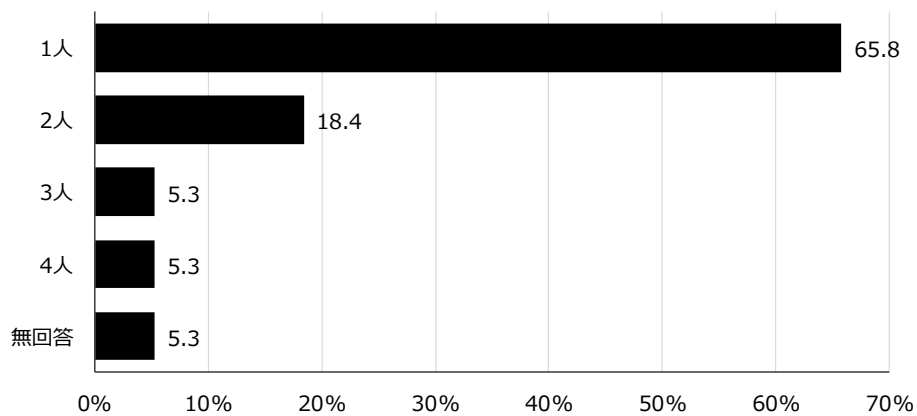
問6. あなたが担当している利用者のうち、いわゆる宿泊付きデイサービスを利用している方はいますか。(ひとつだけ○)

「いる」が22.2%と最多。

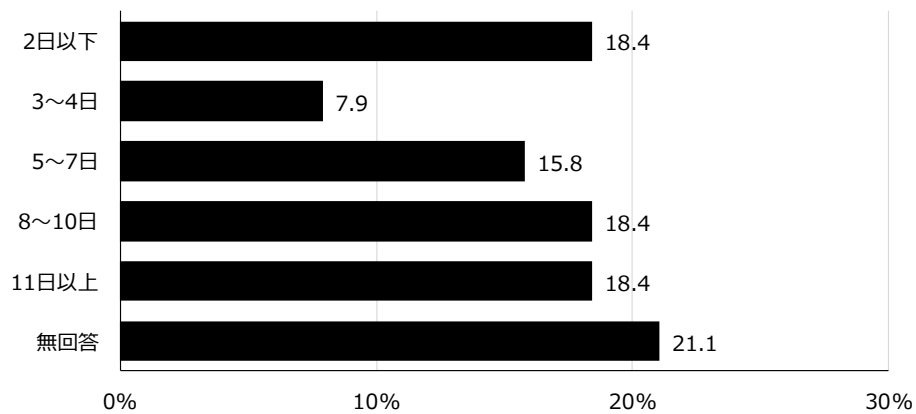
図表 4-18 宿泊付きデイサービスの利用者 (n=171)



図表 4-19 宿泊付きデイサービスの利用人数 (n=38)



図表 4-20 宿泊付きデイサービスの延べ利用日数 (n=38)

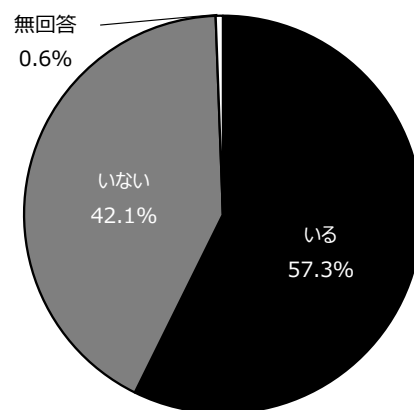


(3) 在宅生活の維持が困難な利用者

問7. あなたが担当している利用者の中で、ご自宅にお住まいの方のうち、現在のサービス利用では、在宅生活の維持が難しくなっている方はいますか。(ひとつだけ○)

「いる」が57.3%。

図表 4-21 在宅生活の維持が困難な利用者 (n=171)



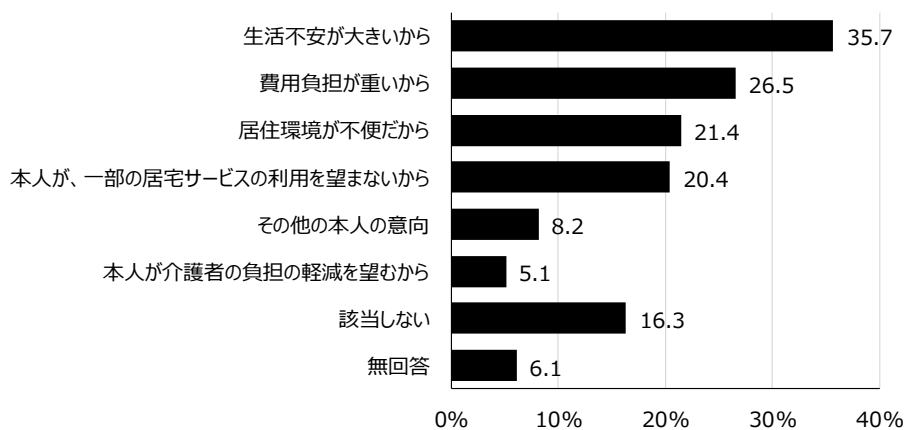
（４）在宅生活の維持が難しくなっている理由

問7-1. 問7で「いる」に○をつけた方にうかがいます。現在のサービス利用では、在宅生活の維持が難しくなっている理由は何ですか。※複数のケースがある場合、あなたが特に困難であると考えている１つのケースについてお答えください。（あてはまるものすべてに○）

① 本人の意向等に関する理由

「生活不安が大きいから」が35.7%と最多。

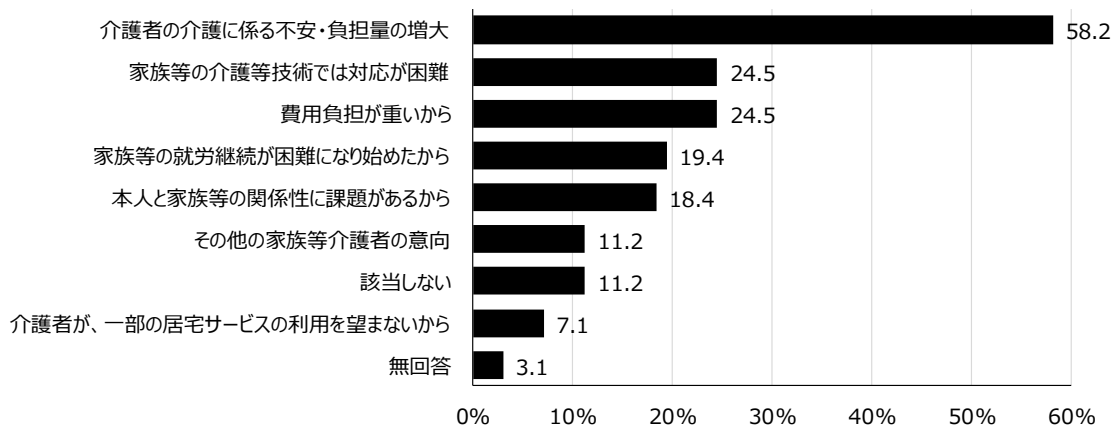
図表 4-22 在宅生活の維持が困難な理由（本人の意向等に関する理由）（n=98）



② 家族等介護者の意向・負担等に関する理由

「介護者の介護に係る不安・負担量の増大」が58.2%と最多。

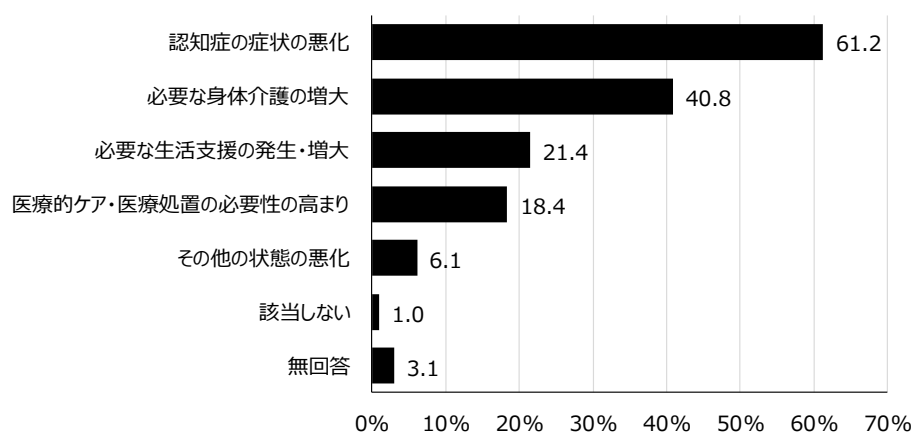
図表 4-23 在宅生活の維持が困難な理由
（家族等介護者の意向・負担等に関する理由）（n=98）



③ 本人の状態等に関する理由

「認知症の症状の悪化」が61.2%と最多。

図表 4-24 在宅生活の維持が困難な理由（本人の状態等に関する理由）（n=98）

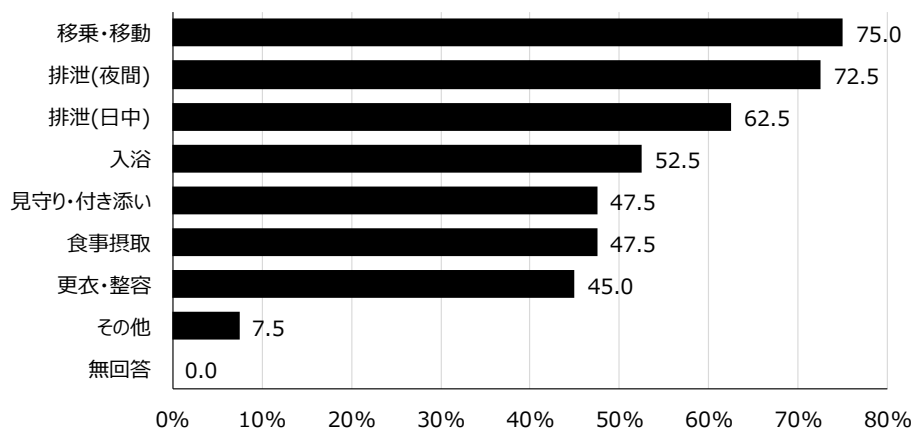


（５）生活の維持が難しくなっている要因（身体的介護）

問7-2. 問7-1の③で「必要な身体介護の増大」に○をつけた方にうかがいます。生活の維持が難しくなっている要因となっている具体的な身体介護は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

「移乗・移動」が75.0%と最多。次いで「排泄（夜間）」(72.5%)、「排泄（日中）」(62.5%)の順。

図表 4-25 生活の維持が難しくなっている要因（身体的介護）（n=40）

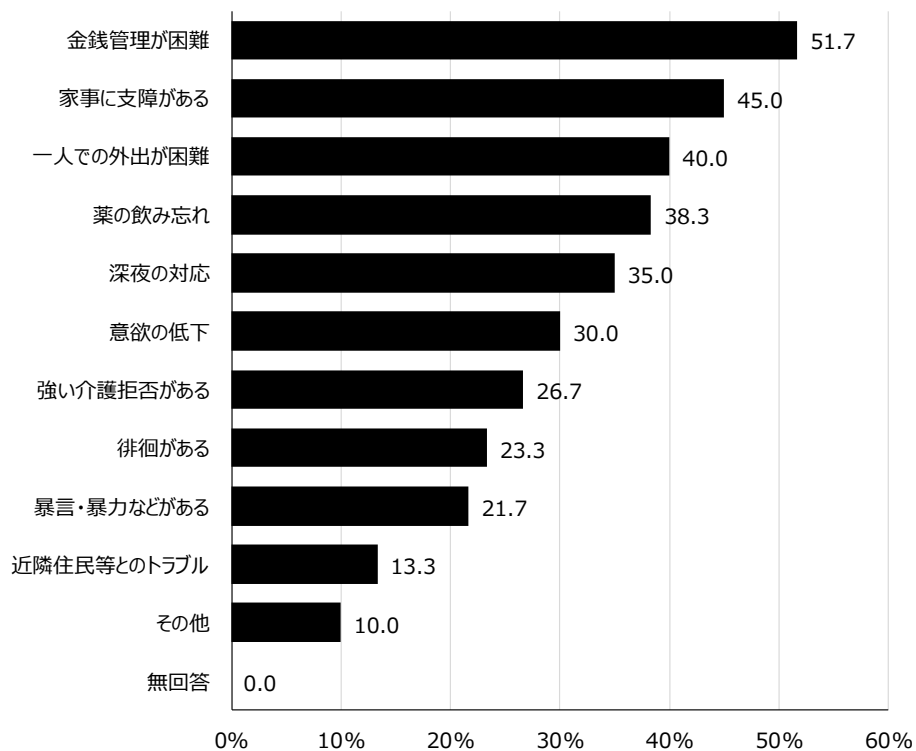


(6) 生活の維持が難しくなっている要因（認知症の症状）

問7-3. 問7-1の③で「認知症の症状の悪化」に○をつけた方にうかがいます。生活の維持が難しくなっている要因となっている具体的な認知症の症状は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

「**金銭管理が困難**」が51.7%と最多。次いで「**家事に支障がある**」(45.0%)、「**一人での外出が困難**」(40.0%)の順。

図表 4-26 生活の維持が難しくなっている要因（認知症の症状）（n=60）

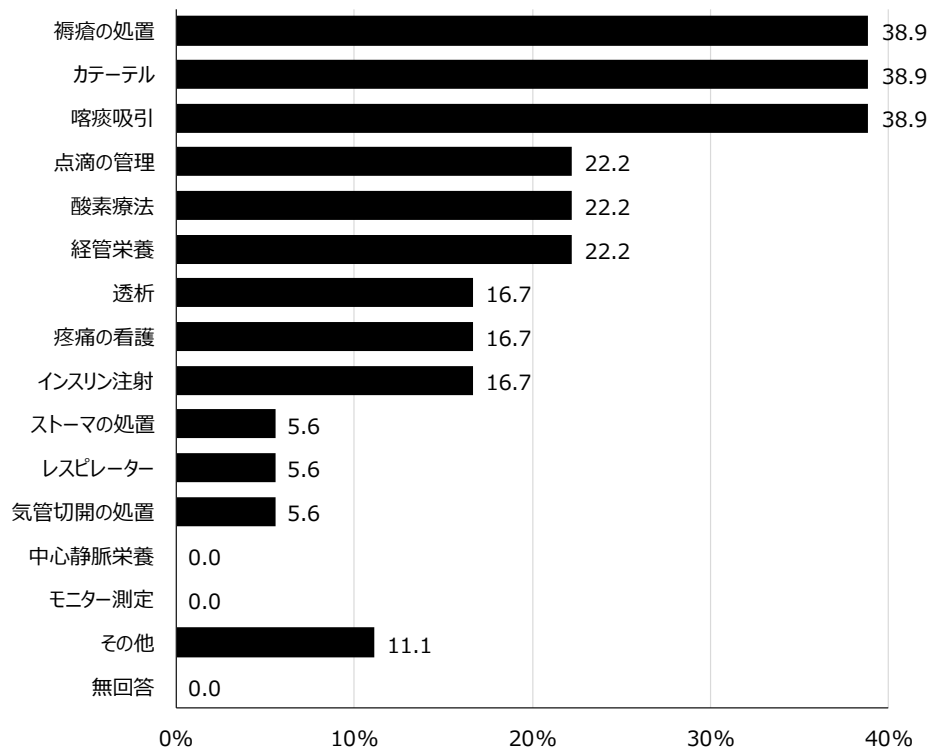


(7) 生活の維持が難しくなっている要因（医療的ケア・医療処置）

問7-4. 問7-1の③で「医療的ケア・医療処置の必要性の高まり」に○をつけた方にうかがいます。生活の維持が難しくなっている要因となっている具体的な医療的ケア・医療処置は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

「褥瘡の処置」「カテーテル」「喀痰吸引」が38.9%と最多。次いで「点滴の管理」「酸素療法」「経管栄養」(22.2%)、「透析」「疼痛の看護」「インスリン注射」(16.7%)の順。

図表 4-27 生活の維持が難しくなっている要因（医療的ケア・医療処置）（n=18）

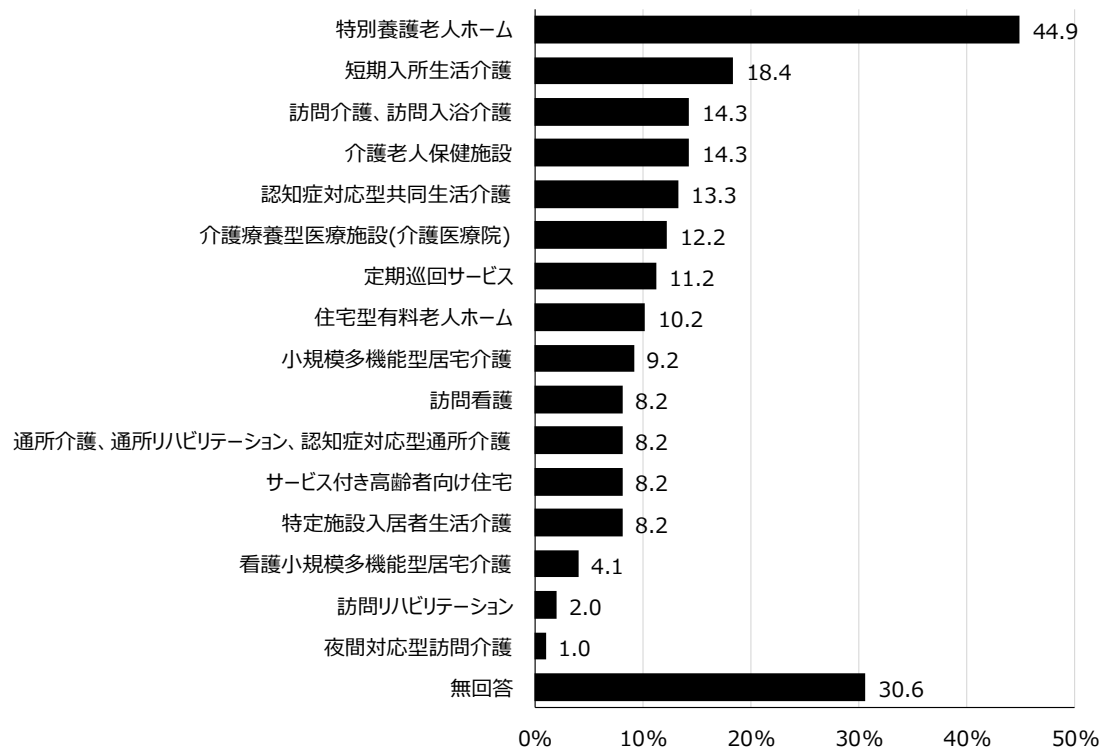


(8) 在宅生活の維持のために利用すべきサービス

問7-5. 問7で「いる」に○をつけた方にうかがいます。現在のサービス利用では生活の維持が難しくなっている状況に対して、どのようなサービスに変更することで改善できると思いますか。(あてはまるものすべてに○)

「特別養護老人ホーム」が44.9%と最多。次いで「短期入所生活介護」(18.4%)、「訪問介護、訪問入浴介護」「介護老人保健施設」(14.3%)の順。

図表 4-28 在宅生活の維持のために利用すべきサービス (n=98)

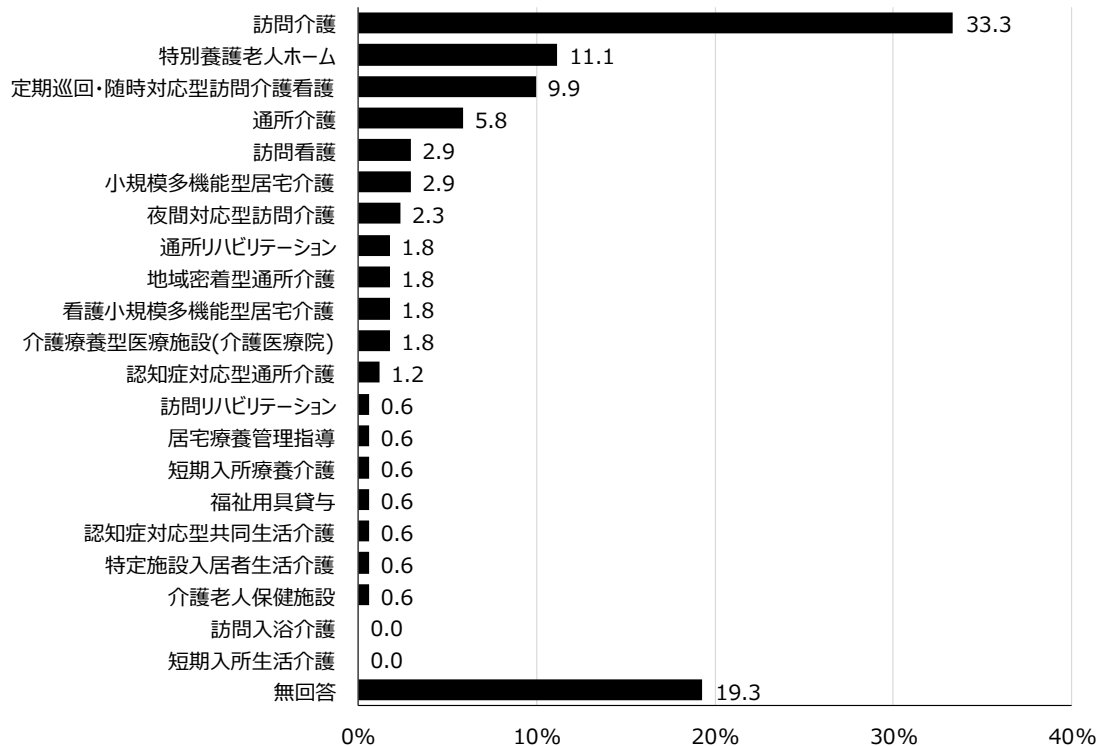


(9) 充実が必要なサービス

問8. あなたは、ケアマネジャーの立場から、高齢者が安心して生活するために、どのようなサービスをより充実させることが重要だと思いますか。(ひとつだけ○)

「訪問介護」が33.3%と最多。

図表 4-29 充実が必要なサービス (n=171)



図表 4-30 従事年数別の充実が必要なサービス

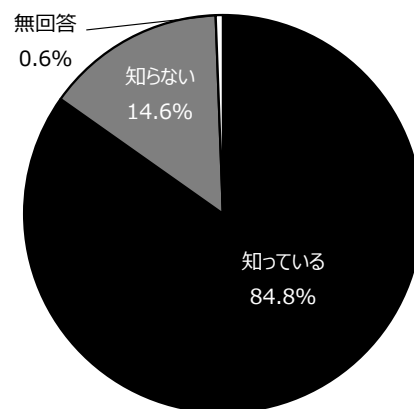
		回答者数	訪問介護	訪問入浴介護	訪問看護	訪問リハビリテーション	居宅療養管理指導	通所介護	通所リハビリテーション	短期入所生活介護	短期入所療養介護	福祉用具貸与	夜間対応型訪問介護	認知症対応型通所介護	地域密着型通所介護	小規模多機能型居宅介護	看護小規模多機能型居宅介護	定期巡回・随時対応型訪問介護看護	共同生活介護	認知症対応型特定施設入居者生活介護	特別養護老人ホーム	介護老人保健施設	(介護医療院)	介護療養型医療施設	無回答
全体		171	33.3	0.0	2.9	0.6	0.6	5.8	1.8	0.0	0.6	0.6	2.3	1.2	1.8	2.9	1.8	9.9	0.6	0.6	11.1	0.6	1.8	19.3	(%)
従事年数	1年未満	13	38.5	0.0	7.7	7.7	7.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	7.7	0.0	0.0	0.0	7.7	0.0	0.0	0.0	0.0	7.7	15.4	
	1年以上3年未満	17	47.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	5.9	0.0	5.9	11.8	0.0	17.6	0.0	0.0	5.9	0.0	0.0	5.9	
	3年以上5年未満	23	21.7	0.0	0.0	0.0	0.0	4.3	4.3	0.0	0.0	0.0	0.0	4.3	0.0	4.3	4.3	8.7	0.0	0.0	13.0	0.0	8.7	26.1	
	5年以上10年未満	50	36.0	0.0	6.0	0.0	0.0	10.0	2.0	0.0	2.0	0.0	4.0	0.0	2.0	0.0	2.0	8.0	0.0	0.0	8.0	2.0	0.0	18.0	
	10年以上15年未満	43	32.6	0.0	0.0	0.0	0.0	7.0	0.0	0.0	0.0	2.3	2.3	0.0	0.0	0.0	2.3	14.0	0.0	0.0	16.3	0.0	0.0	23.3	
15年以上		24	29.2	0.0	4.2	0.0	0.0	4.2	4.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.2	8.3	0.0	4.2	4.2	4.2	16.7	0.0	0.0	16.7	

(10) 介護保険サービスと保険外サービスを組み合わせに関する通知の認知度

問9. あなたは2018年度に厚生労働省より「介護保険サービスと保険外サービスを組み合わせて提供する場合の取扱いについて」の通知（介護保険最新情報Vol. 678）があったことを知っていますか。（ひとつだけ○）

「知っている」が84.8%。

図表 4-31 介護保険サービスと保険外サービスを組み合わせに関する通知の認知度 (n=171)

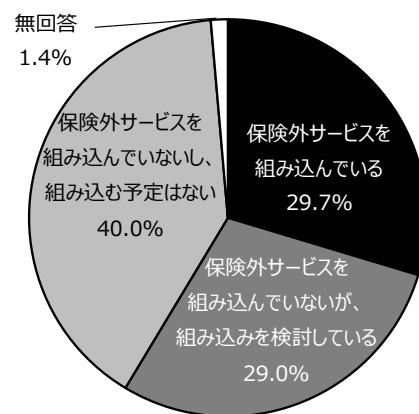


(11) 介護保険サービスと保険外サービスを組み合わせに関する通知のケアプランへの影響

問9-1. 問9で「知っている」に○をつけた方にうかがいます。あなたは厚生労働省の通知を受け、ケアプランの作成にどのような影響がありましたか。(ひとつだけ○)

「保険外サービスを組み込んでいないし、組み込む予定はない」が40.0%と最多。

図表 4-32 介護保険サービスと保険外サービスを組み合わせに関する通知のケアプランへの影響 (n=145)

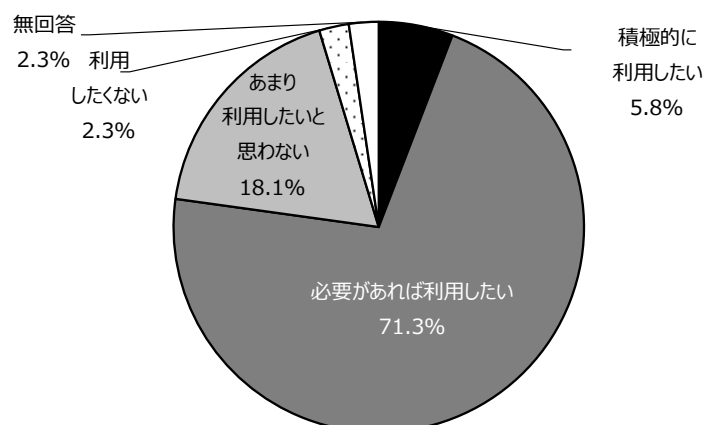


(12) 保険外サービスのケアプランへの組み込みへの意向

問10. あなたは、保険外サービスのケアプランへの組み込みについてどのように考えていますか。(ひとつだけ○)

「必要があれば利用したい」が71.3%と最多。

図表 4-33 保険外サービスのケアプランへの組み込みへの意向 (n=171)

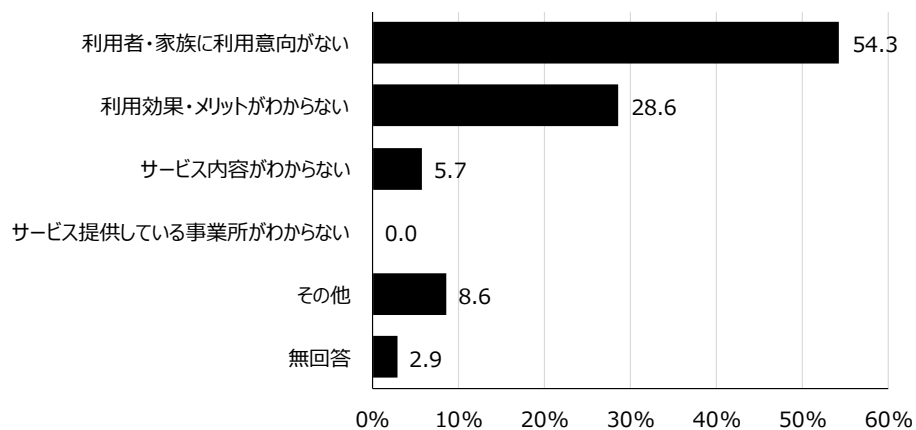


(13) 保険外サービスを利用したくない理由

問10-1. 問10で「あまり利用したいと思わない」「利用したくない」に○をつけた方にかかっています。あなたが保険外サービスを利用したいと思わない理由は何ですか。(ひとつだけ○)

「利用者・家族に利用意向がない」が54.3%と最多。次いで「利用効果・メリットがわからない」が28.6%と続く。

図表 4-34 保険外サービスを利用したくない理由 (n=35)



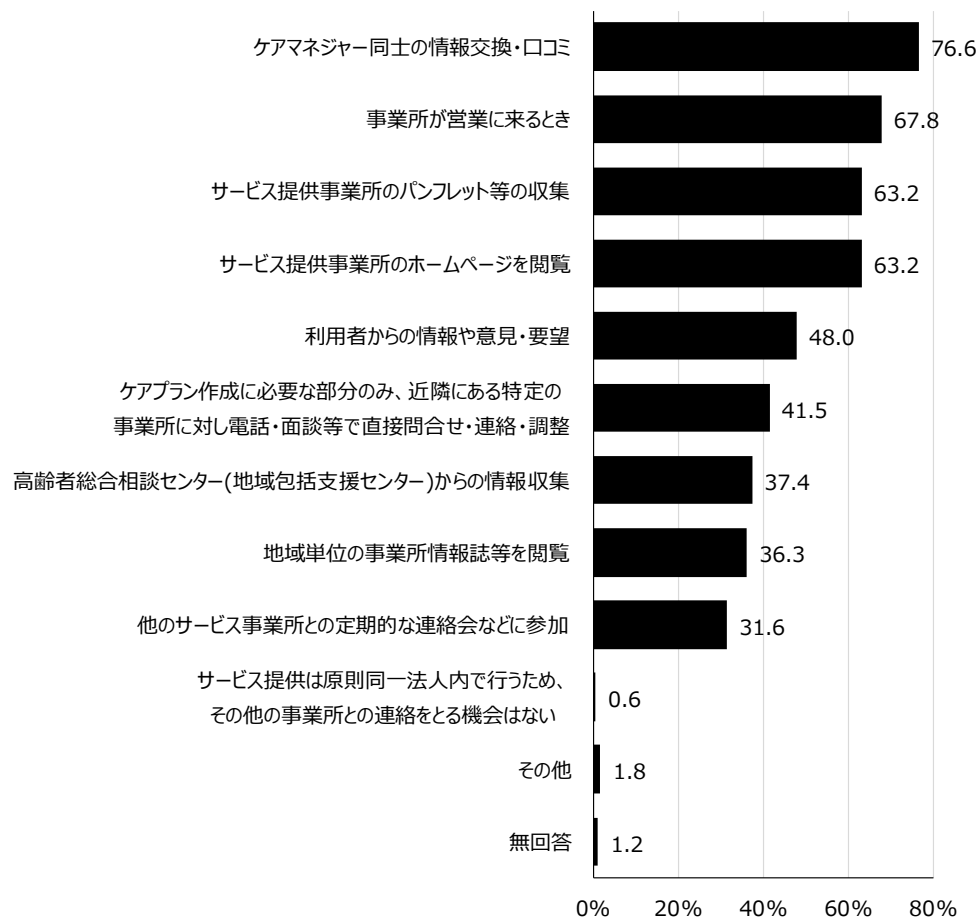
4. 各種連絡・調整について

(1) サービス提供事業所に関する情報収集や連絡・調整の方法

問11. あなたは、サービス提供事業所に関する情報収集や連絡・調整はどのようにしていますか（あてはまるものすべてに○）

「ケアマネジャー同士の情報交換・口コミ」が76.6%と最多。次いで「事業所が営業に来るとき」(67.8%)、「サービス提供事業所のパンフレット等の収集」「サービス提供事業所のホームページを閲覧」(63.2%)の順。

図表 4-35 サービス提供事業所に関する情報収集や連絡・調整の方法 (n=171)



従事年数別でみると、“1年未満”“1年以上3年未満”では、「サービス提供事業所のホームページを閲覧」が最も高くなっています。“15年以上”では、「事業所が営業に来るとき」が最も高くなっています。上記以外では、「ケアマネジャー同士の情報交換・口コミ」が最も高くなっています。

図表 4-36 従事年数別のサービス提供事業所に関する情報収集や連絡・調整の方法

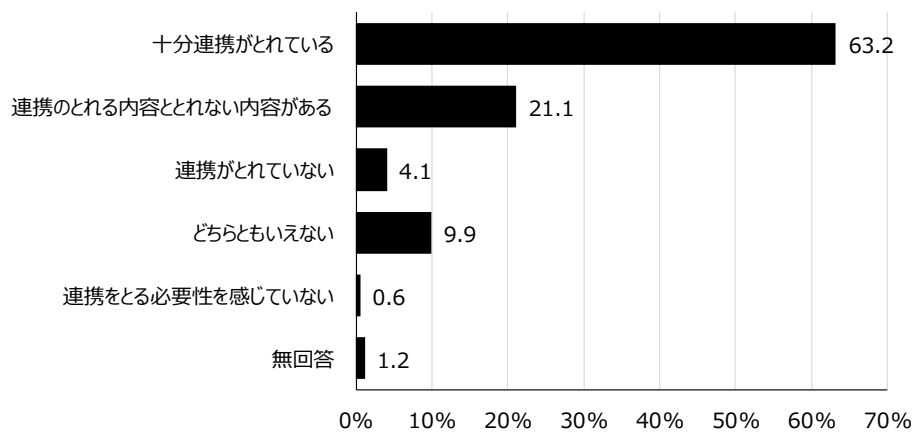
		回答者数	サービス提供事業所のパンフレット等の収集	サービス提供事業所のホームページを閲覧	地域単位の事業所情報誌等を閲覧	高齢者総合相談センターからの情報収集	他のサービス事業所との定期的な連絡会などに参加	事業所に対し電話・面談等で直接問合わせ・連絡・調整の	ケアプラン作成に必要な部分のみ、近隣にある特定の	その他の事業所との連絡をとる機会はない	サービス提供は原則同一法人内で行うため、	ケアマネジャー同士の情報交換・口コミ	事業所が営業に来るとき	利用者からの情報や意見・要望	その他	無回答
全体		171	63.2	63.2	36.3	37.4	31.6	41.5	0.6	76.6	67.8	48.0	1.8	1.2	(%)	
従事年数	1年未満	13	46.2	69.2	30.8	23.1	23.1	23.1	7.7	61.5	46.2	53.8	7.7	7.7		
	1年以上3年未満	17	64.7	82.4	29.4	35.3	35.3	23.5	0.0	52.9	70.6	47.1	0.0	0.0		
	3年以上5年未満	23	69.6	60.9	39.1	34.8	26.1	43.5	0.0	82.6	78.3	30.4	0.0	0.0		
	5年以上10年未満	50	62.0	64.0	36.0	38.0	36.0	42.0	0.0	84.0	66.0	52.0	4.0	0.0		
	10年以上15年未満	43	67.4	62.8	48.8	48.8	34.9	46.5	0.0	86.0	67.4	55.8	0.0	0.0		
	15年以上	24	62.5	50.0	20.8	29.2	25.0	54.2	0.0	66.7	75.0	41.7	0.0	0.0		

(2) 高齢者総合相談センターとの連携状況

問12. あなたは、現在、高齢者総合相談センター（地域包括支援センター）との連携はとれていますか（ひとつだけ○）

「十分連携がとれている」が63.2%と最多。

図表 4-37 高齢者総合相談センターとの連携状況 (n=171)



従事年数別でみると、“1年未満”では、「十分連携がとれている」「どちらともいえない」が最も高くなっています。上記以外では、「十分連携がとれている」が最も高くなっています。

図表 4-38 従事年数別の高齢者総合相談センターとの連携状況

		回答者数	十分連携がとれている	と連携のとれる内容がある	連携がとれていない	どちらともいえない	感じていない必要性を	無回答
全体		171	63.2	21.1	4.1	9.9	0.6	1.2
従事年数	1年未満	13	38.5	0.0	23.1	38.5	0.0	0.0
	1年以上3年未満	17	76.5	17.6	0.0	5.9	0.0	0.0
	3年以上5年未満	23	60.9	26.1	0.0	13.0	0.0	0.0
	5年以上10年未満	50	62.0	28.0	2.0	6.0	0.0	2.0
	10年以上15年未満	43	69.8	18.6	2.3	9.3	0.0	0.0
	15年以上	24	62.5	20.8	8.3	4.2	4.2	0.0

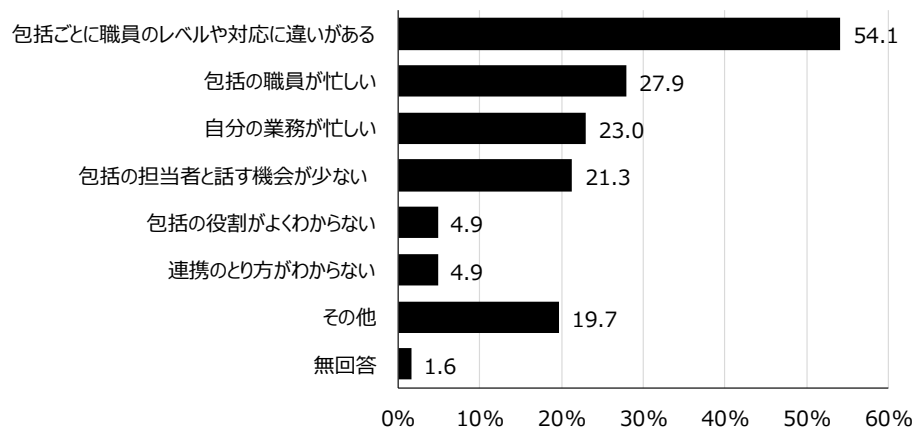
(%)

(3) 高齢者総合相談センターと連携がとれない理由

問12-1. 問12で「連携のとれる内容ととれない内容がある」「連携がとれていない」「どちらともいえない」「連携をとる必要性を感じていない」に○をつけた方にうかがいます。現在、高齢者総合相談センター（地域包括支援センター）と連携がとれない理由は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

「包括ごとに職員のレベルや対応に違いがある」が54.1%と最多。

図表 4-39 高齢者総合相談センターと連携がとれない理由 (n=61)

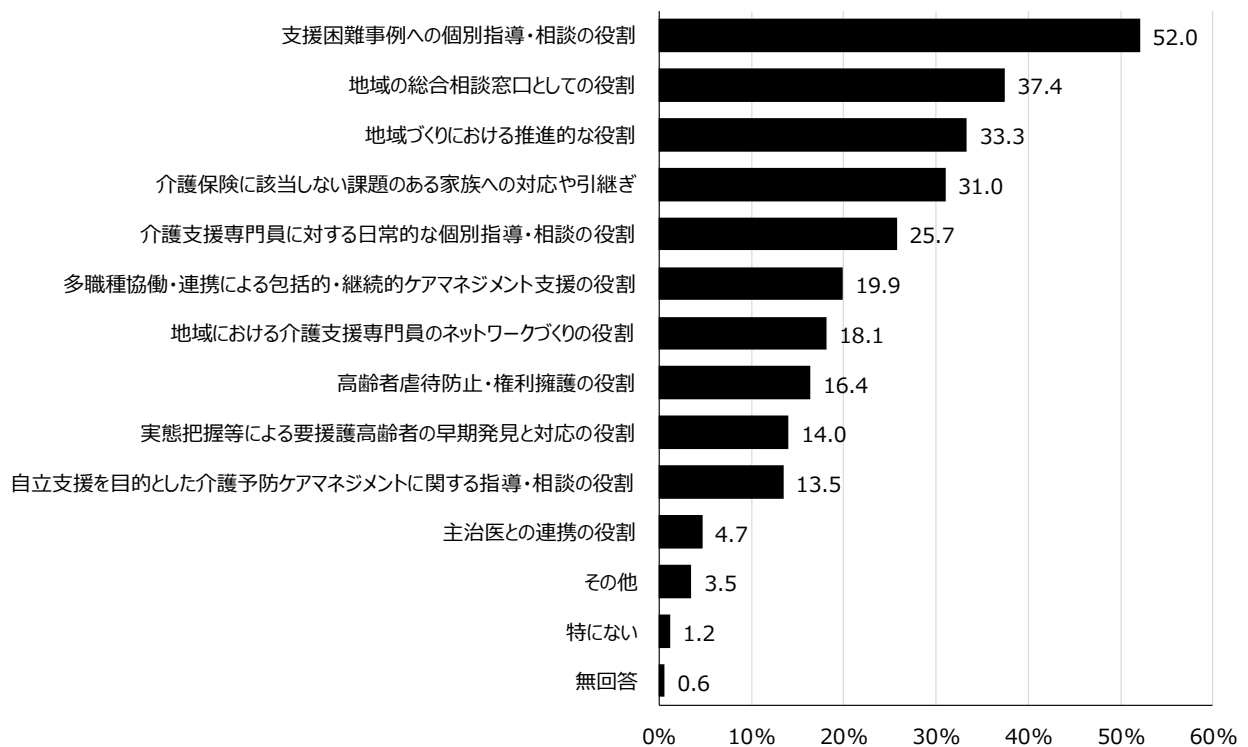


(4) 高齢者総合相談センターに期待する役割

問13. あなたは、高齢者総合相談センター（地域包括支援センター）に、今後、特に期待する役割は何ですか。（3つまで○）

「支援困難事例への個別指導・相談の役割」が52.0%と最多。次いで「地域の総合相談窓口としての役割」(37.4%)、「地域づくりにおける推進的な役割」(33.3%)の順。

図表 4-40 高齢者総合相談センターに期待する役割 (n=171)



高齢者総合相談センターとの連携状況別に期待する役割の内容をみると、“連携のとれる内容のとれない内容がある”“連携がとれていない”では、他の連携状況に比べ、「介護保険に該当しない課題のある家族への対応や引継ぎ」が高くなっています。“連携がとれていない”では、他の連携状況に比べ、「高齢者の虐待防止・権利擁護の役割」が高くなっています。

図表 4-41 従事年数、高齢者総合相談センターとの連携状況別の
高齢者総合相談センターに期待する役割

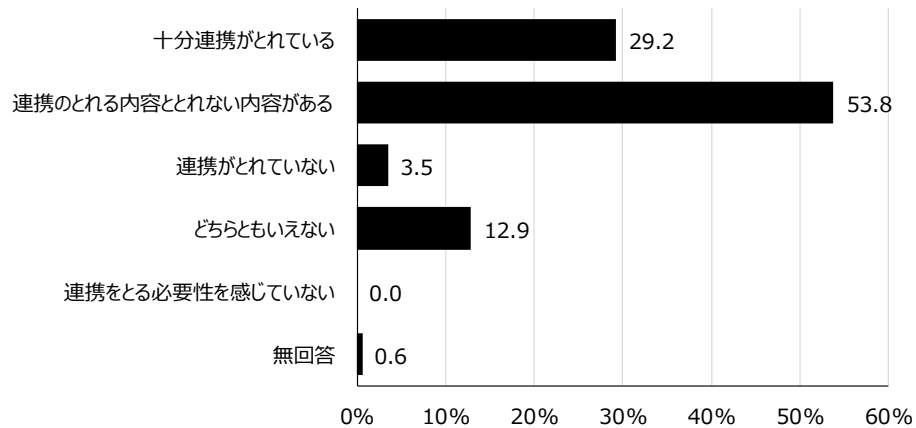
		回答者数	自立支援を目的とした介護予防ケア役割 マネジメントに関する指導・相談の役割	地域づくりにおける推進的な役割	主治医との連携の役割	介護支援専門員に対する 日常的な個別指導・相談の役割	支援困難事例への個別指導・相談の役割	地域における介護支援専門員の ネットワークづくりの役割	多職種協働・連携による包括的・継続的 ケアマネジメント支援の役割	地域の総合相談窓口としての役割	実態把握等による要援護高齢者の 早期発見と対応の役割	高齢者虐待防止・権利擁護の役割	介護保険に該当しない課題のある家族への 対応や引継ぎ	その他	特にな	無回答	
全体		171	13.5	33.3	4.7	25.7	52.0	18.1	19.9	37.4	14.0	16.4	31.0	3.5	1.2	0.6	(%)
従事年数	1年未満	13	0.0	30.8	0.0	23.1	69.2	23.1	15.4	46.2	7.7	30.8	23.1	0.0	7.7	0.0	
	1年以上3年未満	17	23.5	41.2	5.9	23.5	47.1	29.4	5.9	35.3	17.6	17.6	23.5	0.0	0.0	0.0	
	3年以上5年未満	23	30.4	39.1	4.3	30.4	56.5	17.4	21.7	21.7	17.4	4.3	26.1	4.3	0.0	0.0	
	5年以上10年未満	50	14.0	30.0	4.0	28.0	48.0	18.0	28.0	42.0	10.0	12.0	40.0	2.0	0.0	0.0	
	10年以上15年未満	43	7.0	32.6	4.7	30.2	53.5	14.0	23.3	34.9	14.0	25.6	32.6	7.0	0.0	0.0	
	15年以上	24	8.3	33.3	8.3	12.5	50.0	16.7	8.3	45.8	20.8	12.5	25.0	4.2	4.2	0.0	
相談センターとの連携	十分連携がとれている	108	17.6	38.9	6.5	22.2	50.9	20.4	24.1	38.0	15.7	12.0	29.6	0.9	0.9	0.0	
	連携のとれる内容ととれない内容がある	36	2.8	22.2	2.8	36.1	55.6	8.3	16.7	33.3	11.1	27.8	38.9	11.1	0.0	0.0	
	連携がとれていない	7	0.0	14.3	0.0	14.3	42.9	28.6	0.0	42.9	0.0	42.9	42.9	0.0	14.3	0.0	
	どちらともいえない	17	11.8	35.3	0.0	35.3	58.8	23.5	11.8	41.2	11.8	11.8	17.6	5.9	0.0	0.0	
	連携をとる必要性を感じていない	1	100.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	

(5) 医療機関との連携

問14. あなたは、現在、医療機関との連携はとれていますか（ひとつだけ○）

「連携のとれる内容ととれない内容がある」が53.8%と最多。

図表 4-42 医療機関との連携 (n=171)



図表 4-43 従事年数別の医療機関との連携

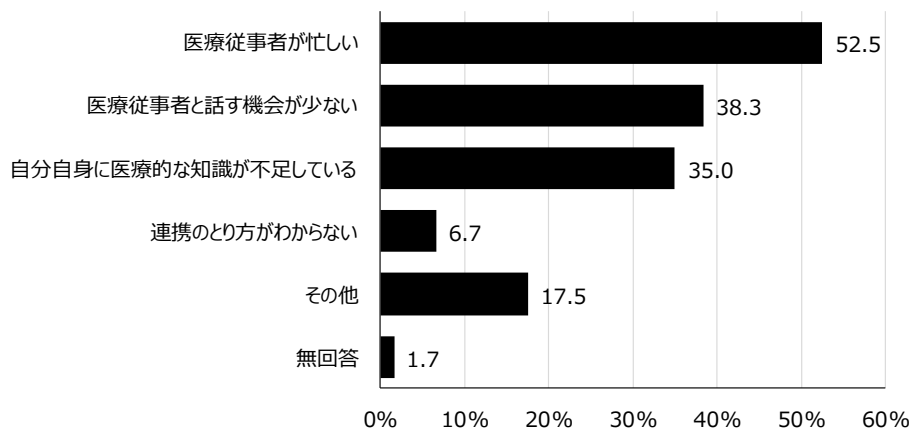
		回答者数	十分連携がとれている	連携のとれる内容がある	連携がとれていない	どちらともいえない	感じていない必要性を	無回答
全体		171	29.2	53.8	3.5	12.9	0.0	0.6 (%)
従事年数	1年未満	13	15.4	38.5	7.7	38.5	0.0	0.0
	1年以上3年未満	17	17.6	70.6	0.0	11.8	0.0	0.0
	3年以上5年未満	23	17.4	52.2	0.0	30.4	0.0	0.0
	5年以上10年未満	50	38.0	52.0	2.0	8.0	0.0	0.0
	10年以上15年未満	43	27.9	60.5	4.7	7.0	0.0	0.0
	15年以上	24	41.7	45.8	8.3	4.2	0.0	0.0

(6) 医療機関と連携がとれない理由

問14-1. 問14で「連携のとれる内容ととれない内容がある」「連携がとれていない」「どちらともいえない」「連携をとる必要性を感じていない」に○をつけた方にうかがいます。現在、医療機関と連携がとれない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

「医療従事者が忙しい」が52.5%と最多。次いで「医療従事者と話す機会が少ない」(38.3%)、「自分自身に医療的な知識が不足している」(35.0%)の順。

図表 4-44 医療機関と連携がとれない理由 (n=120)



図表 4-45 医療機関との連携状況別の医療機関と連携がとれない理由

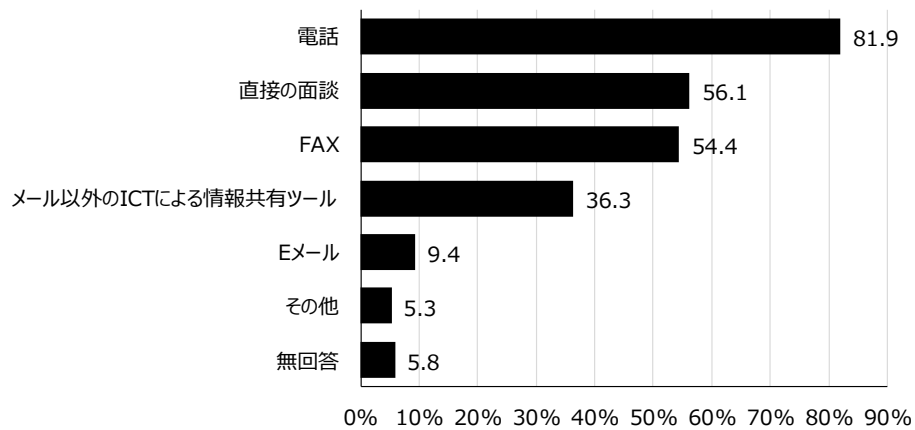
		回答者数	自分自身に医療的な知識が不足している	医療従事者と話す機会が少ない	連携のとり方がわからない	医療従事者が忙しい	その他	無回答	(%)
全体		120	35.0	38.3	6.7	52.5	17.5	1.7	
と医療機関の連携	連携のとれる内容ととれない内容がある	92	32.6	39.1	5.4	53.3	16.3	1.1	
	連携がとれていない	6	16.7	16.7	0.0	50.0	33.3	16.7	
	どちらともいえない	22	50.0	40.9	13.6	50.0	18.2	0.0	
	連携をとる必要性を感じていない	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	

(7) 医療機関等からの情報収集の方法

問15. あなたは、日ごろどのような方法で、医療機関等から情報収集を行っていますか。
(あてはまるものすべてに○)

「電話」が81.9%と最多。次いで「直接の面談」(56.1%)、「FAX」(54.4%)の順。

図表 4-46 医療機関等からの情報収集の方法 (n=171)



図表 4-47 医療機関との連携状況別の医療機関等からの情報収集の方法

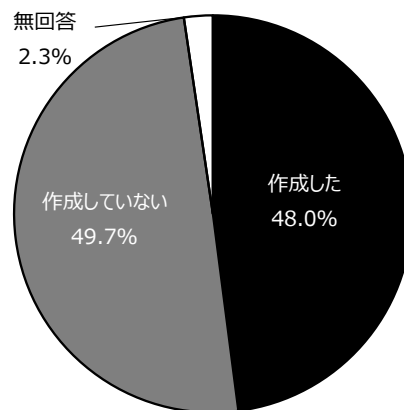
		回答者数	電話	FAX	Eメール	直接の面談	メール以外のICTによる情報共有ツール	その他	無回答
全体		171	81.9	54.4	9.4	56.1	36.3	5.3	5.8 (%)
と医療機関の連携	十分連携がとれている	50	76.0	48.0	10.0	58.0	36.0	8.0	16.0
	連携のとれる内容ととれない内容がある	92	91.3	59.8	10.9	60.9	39.1	2.2	0.0
	連携がとれていない	6	50.0	33.3	0.0	33.3	16.7	16.7	16.7
	どちらともいえない	22	68.2	54.5	4.5	40.9	31.8	9.1	0.0
	連携をとる必要性を感じていない	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

(8) ターミナルケアに係るケアプランの作成

問16. あなたは、この1年間に、ターミナルケアに係る居宅サービス計画（ケアプラン）を作成しましたか。（1つだけ○）

「作成した」が48.0%。ケアプランを作成している利用者は、「1人」が48.8%と最多。次いで「2人」(28.0%)、「3人」(7.3%)の順。

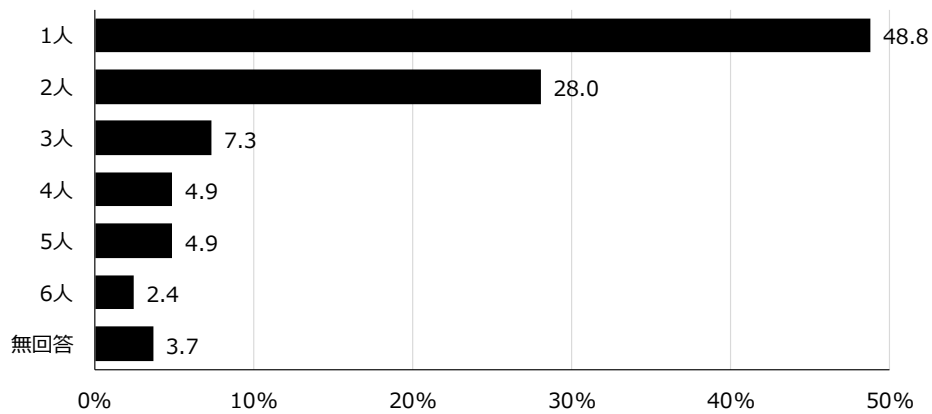
図表 4-48 ターミナルケアに係るケアプランの作成 (n=171)



図表 4-49 従事年数、医療機関との連携状況別のターミナルケアに係るケアプランの作成

		回答者数	作成した	作成していない	無回答
全体		171	48.0	49.7	2.3 (%)
従事年数	1年未満	13	23.1	76.9	0.0
	1年以上3年未満	17	41.2	52.9	5.9
	3年以上5年未満	23	56.5	43.5	0.0
	5年以上10年未満	50	48.0	48.0	4.0
	10年以上15年未満	43	53.5	46.5	0.0
	15年以上	24	50.0	50.0	0.0
と医療機関の連携	十分連携がとれている	50	46.0	50.0	4.0
	連携のとれる内容のとれない内容がある	92	52.2	46.7	1.1
	連携がとれていない	6	33.3	66.7	0.0
	どちらともいえない	22	40.9	59.1	0.0
	連携をとる必要性を感じていない	0	0.0	0.0	0.0

図表 4-50 ターミナルケアに係るケアプランの作成人数 (n=82)



図表 4-51 従事年数、医療機関との連携状況別の
ターミナルケアに係るケアプランの作成人数

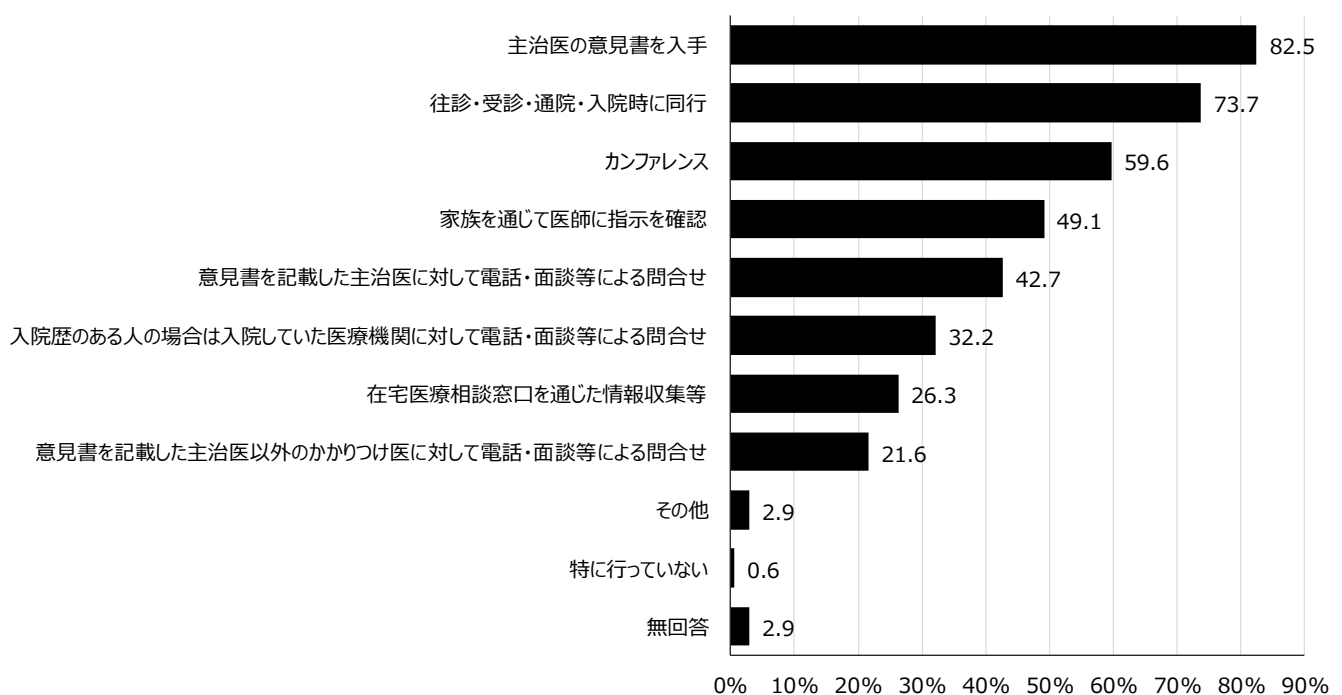
		合計	1人	2人	3人	4人	5人	6人	無回答	平均(人)	
全体		82	48.8	28.0	7.3	4.9	4.9	2.4	3.7	1.9	(%)
従事年数	1年未満	3	66.7	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.3	
	1年以上3年未満	7	57.1	28.6	0.0	0.0	0.0	0.0	14.3	1.3	
	3年以上5年未満	13	53.8	23.1	7.7	7.7	7.7	0.0	0.0	1.9	
	5年以上10年未満	24	37.5	33.3	0.0	12.5	0.0	8.3	8.3	2.2	
	10年以上15年未満	23	65.2	21.7	4.3	0.0	8.7	0.0	0.0	1.7	
	15年以上	12	25.0	33.3	33.3	0.0	8.3	0.0	0.0	2.3	
と医療機関の連携	十分連携がとれている	23	52.2	26.1	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	1.9	
	連携のとれる内容のとれない内容がある	48	43.8	29.2	10.4	6.3	6.3	2.1	2.1	2.1	
	連携がとれていない	2	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.5	
	どちらともいえない	9	66.7	22.2	0.0	0.0	0.0	0.0	11.1	1.3	
	連携をとる必要性を感じていない	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	-	

(9) ケアプランの作成に係る医療機関等からの情報収集方法

問17. あなたは、特にケアプランの作成にあたって、どのように医療機関等からの情報収集などを行っていますか。(あてはまるものすべてに○)

「主治医の意見書を入手」が82.5%と最多。次いで「往診・受診・通院・入院時に同行」(73.7%)、「カンファレンス」(59.6%)の順。

図表 4-52 ケアプランの作成に係る医療機関等からの情報収集方法 (n=171)



(10) 在宅医療連携に対する自由意見

問18. 在宅医療連携について、課題があればご記入ください。

18名のケアマネジャーの方から意見・要望等が寄せられました。内容を集約したうえで下表の4つの観点に整理すると、「困難事例への対応」や「連携・調整に係る会議等の負担」に関する意見が比較的多くみられました。

観点	主な回答内容
困難事例への対応	- 同居外家族への対応。 - 相手の利用者との関係、信頼性が上手く築けないケース。 - 独居の人が体調をくずした時の対応。 - 訪問に拒否傾向がある方の訪問。 - 周辺住民とのトラブル時の対応。
連携・調整に係る会議等の負担	- 勉強会や研修、多職種連携の会、包括の集まり等、同じ様なメンバーでの集まりが多すぎる。統合して欲しい。 - 区や地域などの研修の多さ。 - 担当学会議などがかなり負担。
書類作成に係る負担	- 有料施設に関する情報提供書類や記録事項が多すぎる。 - 記録や書類作成に係る負担。
その他	- 要介護認定や認定調査に係る負担。 - 救急対応や受診の付添い。 - 制度が細かい。

5. 業務の課題について

(1) ケアマネジャー業務を行う上での課題

問19. あなたは、ケアマネジャー業務を行う上で、どのようなことが課題となっていますか。(あてはまるものすべてに○)

「記録など書類の量が多く負担となっている」が81.9%と最多。

図表 4-53 ケアマネジャー業務を行う上での課題(n=171)



従事年数別でみると、いずれの従事年数においても、「記録など書類の量が多く負担となっている」が最も高くなっています。

図表 4-54 従事年数別のケアマネジャー業務を行う上での課題

		回答者数	区の介護保険サービスの種類が少ない	区の介護保険外サービスの種類が少ない	サービス事業者に関する情報が少ない	利用者及び家族がサービスの必要性を理解していない	忙しくて利用者の意見・要望を聞き調整する時間が充分とれない	支援困難事例のケアマネジメントの方法がわからない	認知症ケアの方法がわからない	医療機関との連携がうまくとれない	高齢者総合相談センターとの連携がうまくいかない	区との連携がうまくいかない	相談する人が身近にいない	所属法人の関連事業者のサービス提供に偏る	記録など書類の量が多く負担となっている	利用者に制度が十分理解されていない、理解いただくのが負担	等だけのケアプラン調整が、介護報酬で評価されない	介護保険サービスを組み込まないインフォーマルサービス	介護保険に該当しない課題のある家族への対応先がわからない	その他	無回答
全体		171	11.7	19.9	10.5	21.1	12.3	11.7	4.1	13.5	5.8	7.0	5.3	1.2	81.9	19.9	30.4	14.6	14.0	2.9	
従事年数	1年未満	13	7.7	15.4	7.7	38.5	15.4	46.2	0.0	7.7	7.7	0.0	7.7	0.0	69.2	7.7	23.1	23.1	23.1	0.0	
	1年以上3年未満	17	11.8	5.9	5.9	23.5	11.8	17.6	5.9	29.4	5.9	11.8	17.6	5.9	76.5	17.6	5.9	11.8	5.9	5.9	
	3年以上5年未満	23	13.0	34.8	13.0	26.1	17.4	17.4	8.7	13.0	0.0	8.7	4.3	0.0	78.3	39.1	26.1	13.0	8.7	0.0	
	5年以上10年未満	50	8.0	16.0	18.0	18.0	14.0	12.0	6.0	8.0	8.0	4.0	4.0	2.0	80.0	20.0	32.0	20.0	12.0	4.0	
	10年以上15年未満	43	18.6	25.6	4.7	16.3	14.0	0.0	2.3	16.3	4.7	11.6	2.3	0.0	97.7	23.3	51.2	11.6	16.3	0.0	
	15年以上	24	8.3	16.7	8.3	20.8	0.0	4.2	0.0	12.5	8.3	4.2	4.2	0.0	75.0	4.2	16.7	8.3	20.8	4.2	

(%)

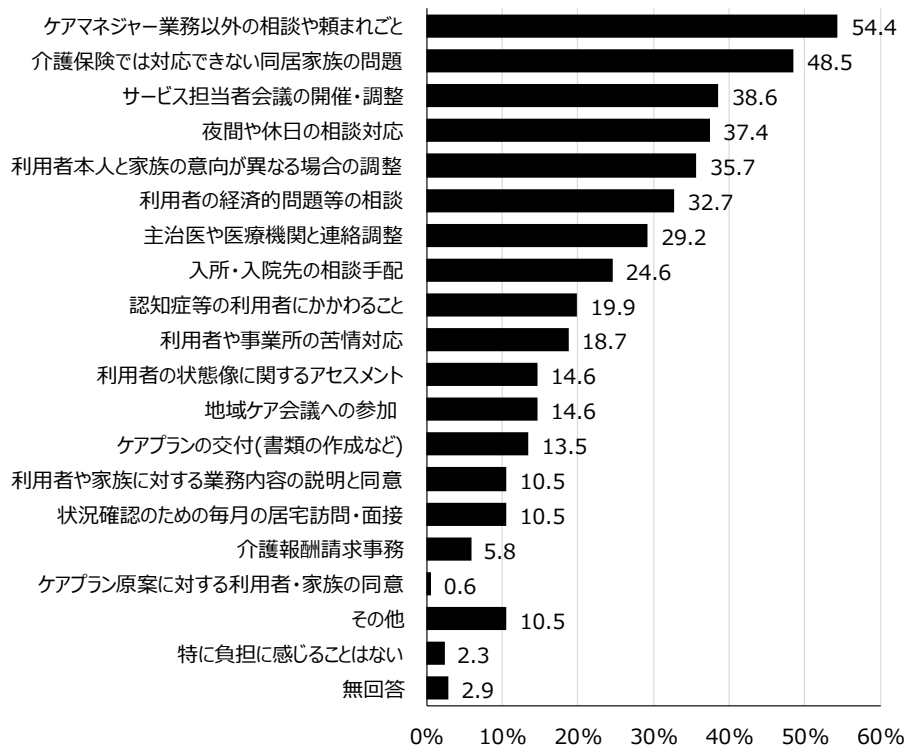
(%)

(2) ケアマネジャー業務における負担感

問20. ケアマネジャー業務の中で、どのようなことに負担感を感じますか。(あてはまるものすべてに○)

「ケアマネジャー業務以外の相談や頼まれごと」が54.4%と最多。次いで「介護保険では対応できない同居家族の問題」(48.5%)、「サービス担当者会議の開催・調整」(38.6%)の順。

図表 4-55 ケアマネジャー業務における負担感(n=171)



図表 4-56 従事年数別のケアマネジャー業務における負担感

		回答者数	業務内容や家族に対する説明と同意	利用者の状態像に関するアセスメント	サービス担当者会議の開催・調整	ケアプランの作成などに対する家族の同意	ケアプランの作成など（書類の作成など）	状況確認のための毎月の居宅訪問・面接	主治医や医療機関と連絡調整	利用者や事業所の苦情対応	地域ケア会議への参加	介護報酬請求事務	夜間や休日の相談対応	ケアマネジャー業務以外の相談や頼まれごと	異なる場合の調整等の意向が	利用者の経済的問題等の相談	認知症等の利用者にかかわること	入所・入院先の相談手配	介護保険では対応できない同居家族の問題	その他	特に負担に感じることはない	無回答
全体		171	10.5	14.6	38.6	0.6	13.5	10.5	29.2	18.7	14.6	5.8	37.4	54.4	35.7	32.7	19.9	24.6	48.5	10.5	2.3	2.9
従事年数	1年未満	13	7.7	30.8	30.8	0.0	15.4	0.0	30.8	0.0	0.0	0.0	15.4	7.7	38.5	0.0	7.7	15.4	30.8	23.1	0.0	7.7
	1年以上3年未満	17	5.9	5.9	29.4	0.0	11.8	5.9	29.4	23.5	5.9	5.9	29.4	58.8	23.5	35.3	17.6	11.8	47.1	17.6	0.0	0.0
	3年以上5年未満	23	21.7	17.4	39.1	0.0	17.4	21.7	30.4	26.1	17.4	4.3	47.8	52.2	56.5	43.5	34.8	39.1	56.5	4.3	4.3	0.0
	5年以上10年未満	50	16.0	10.0	40.0	2.0	14.0	8.0	28.0	16.0	14.0	8.0	36.0	54.0	32.0	40.0	12.0	26.0	56.0	8.0	2.0	4.0
	10年以上15年未満	43	7.0	16.3	41.9	0.0	14.0	14.0	32.6	23.3	25.6	9.3	41.9	74.4	41.9	32.6	30.2	23.3	53.5	7.0	4.7	0.0
	15年以上	24	0.0	16.7	41.7	0.0	8.3	8.3	25.0	16.7	8.3	0.0	41.7	45.8	20.8	25.0	12.5	25.0	29.2	16.7	0.0	4.2

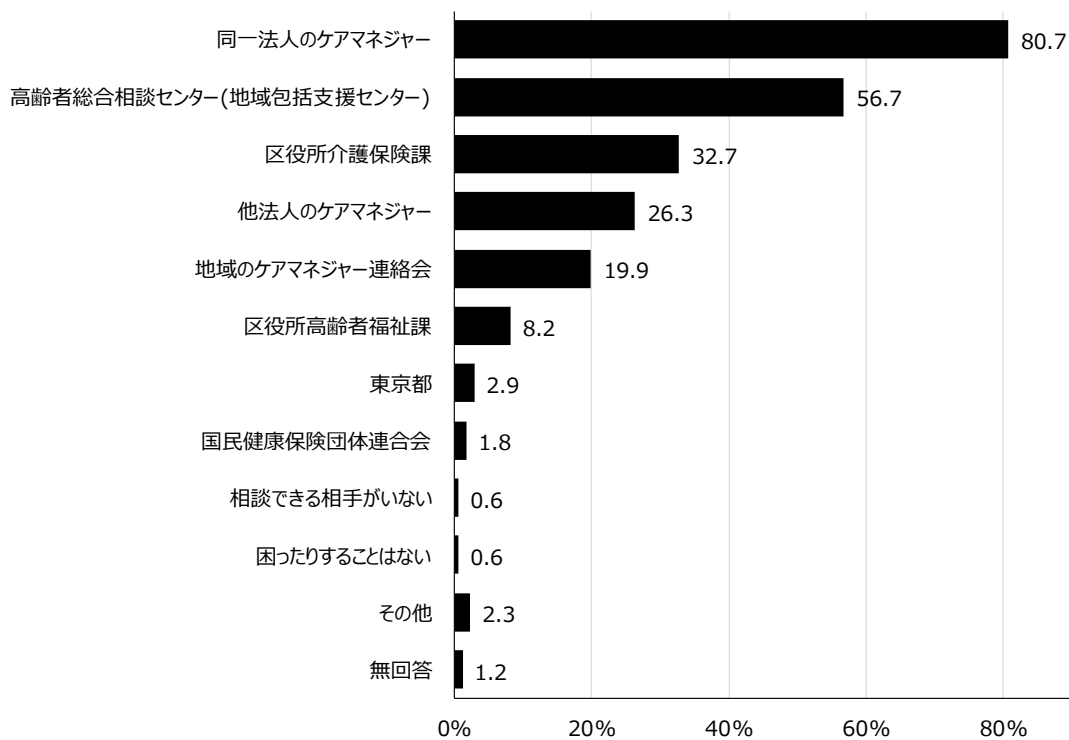
(%)

(3) ケアプランを作成するうえでのわからないことや困ったことの相談相手

問21. あなたは、ケアプランを作成するうえでわからないことや困ったことがあった時、誰に相談していますか。(あてはまるものすべてに○)

「同一法人のケアマネジャー」が80.7%と最多。次いで「高齢者総合相談センター(地域包括支援センター)」「区役所介護保険課」(32.7%)の順。

図表 4-57 ケアプランを作成するうえでのわからないことや困ったことの相談相手 (n=171)



従事年数別でみると、従事年数が上がるほど、「高齢者総合相談センター」が高い傾向になっています。

図表 4-58 従事年数別のケアプランを作成するうえでの
わからないことや困ったことの相談相手

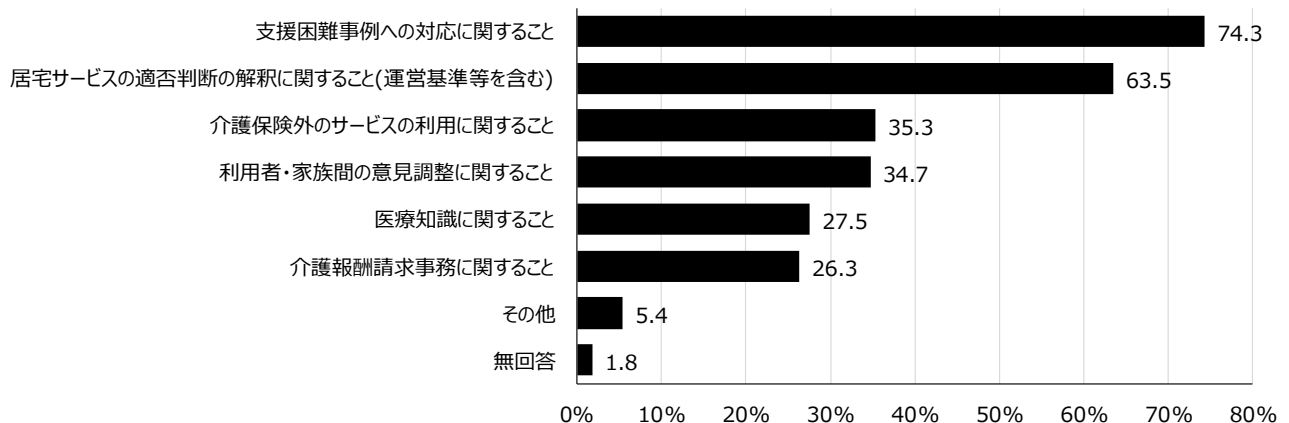
		回 答 者 数	同 一 法 人 の ケ ア マ ネ ジャ ー	他 法 人 の ケ ア マ ネ ジャ ー	地 域 の ケ ア マ ネ ジャ ー 連 絡 会	高 齢 者 総 合 相 談 セ ン タ ー	区 役 所 介 護 保 険 課	区 役 所 高 齢 者 福 祉 課	東 京 都	国 民 健 康 保 険 団 体 連 合 会	そ の 他	困 っ た り す る こ と は な い	相 談 で き る 相 手 が い な い	無 回 答	
全体		171	80.7	26.3	19.9	56.7	32.7	8.2	2.9	1.8	2.3	0.6	0.6	1.2	(%)
従 事 年 数	1年未満	13	92.3	15.4	7.7	23.1	15.4	7.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	1年以上3年未満	17	94.1	23.5	17.6	29.4	35.3	0.0	0.0	0.0	11.8	0.0	0.0	0.0	
	3年以上5年未満	23	95.7	21.7	17.4	56.5	26.1	13.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	5年以上10年未満	50	76.0	32.0	28.0	64.0	36.0	4.0	2.0	2.0	0.0	0.0	2.0	2.0	
	10年以上15年未満	43	76.7	32.6	18.6	67.4	34.9	11.6	7.0	2.3	2.3	0.0	0.0	0.0	
	15年以上	24	70.8	16.7	16.7	62.5	37.5	12.5	4.2	4.2	4.2	4.2	0.0	0.0	

(4) 相談内容

問21-1. 問21で「同一法人のケアマネジャー」「他法人のケアマネジャー」「地域のケアマネジャー連絡会」「高齢者総合相談センター（地域包括支援センター）」「区役所介護保険課」「区役所高齢者福祉課」「東京都」「国民健康保険団体連合会」「その他」に○をつけた方にうかがいます。どのようなことを相談していますか。（あてはまるものすべてに○）

「支援困難事例への対応に関すること」が74.3%と最多。次いで「居宅サービスの適否判断の解釈に関すること（運営基準等を含む）」(63.5%)、「介護保険外のサービスの利用に関すること」(35.3%)の順。

図表 4-59 相談内容 (n=167)



図表 4-60 従事年数別の相談内容

	回答者数	支援困難事例への対応に関すること	利用者・家族間の意見調整に関すること	居宅サービスの適否判断の解釈に関すること(運営基準等を含む)	介護保険外のサービスの利用に関すること	医療知識に関すること	介護報酬請求事務に関すること	その他	無回答	
全体	167	74.3	34.7	63.5	35.3	27.5	26.3	5.4	1.8	(%)
従事年数										
1年未満	13	61.5	61.5	53.8	38.5	23.1	23.1	15.4	0.0	
1年以上3年未満	17	76.5	35.3	64.7	17.6	29.4	41.2	0.0	5.9	
3年以上5年未満	23	87.0	43.5	65.2	34.8	30.4	21.7	4.3	0.0	
5年以上10年未満	48	77.1	35.4	66.7	41.7	29.2	27.1	2.1	2.1	
10年以上15年未満	43	72.1	25.6	67.4	41.9	30.2	23.3	7.0	0.0	
15年以上	23	65.2	26.1	52.2	21.7	17.4	26.1	8.7	4.3	

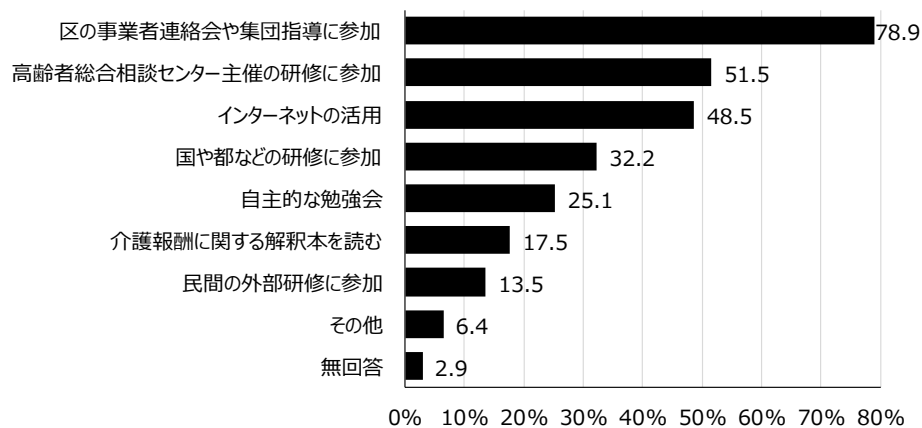
6. 質の確保について

(1) 介護保険制度改正の学習方法

問22. 介護保険制度は3年ごとに大きな改正がありますが、改正内容をどのように学んでいますか。(あてはまるものすべてに○)

「区の事業者連絡会や集団指導に参加」が78.9%と最多。次いで「高齢者総合相談センター主催の研修に参加」(51.5%)、「インターネットの活用」(48.5%)の順。

図表 4-61 介護保険制度改正の学習方法 (n=171)



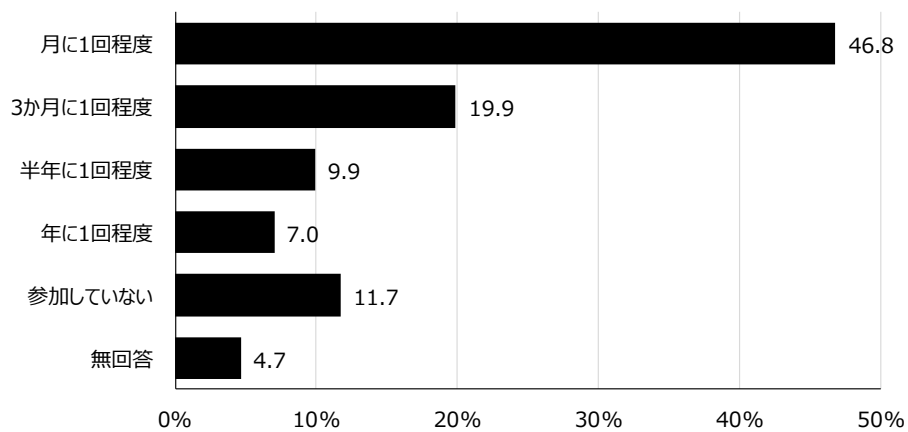
(2) 研修の参加頻度（事業所や同一法人）

問23. あなたはどれくらいの頻度で研修に参加していますか。（それぞれひとつだけ○）

① 事業所や同一法人の研修

「月に1回程度」が46.8%と最多。

図表 4-62 研修の参加頻度（事業所や同一法人の研修）（n=171）



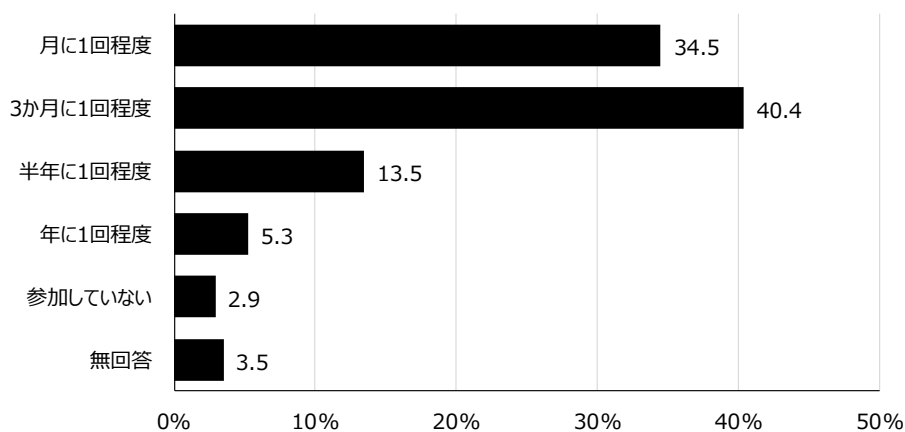
図表 4-63 従事年数別の研修の参加頻度（事業所や同一法人の研修）

		回答者数	月に1回程度	3か月に1回程度	半年に1回程度	年に1回程度	参加していない	無回答	
全体		171	46.8	19.9	9.9	7.0	11.7	4.7	(%)
従事年数	1年未満	13	61.5	15.4	15.4	0.0	7.7	0.0	
	1年以上3年未満	17	29.4	17.6	23.5	11.8	0.0	17.6	
	3年以上5年未満	23	52.2	13.0	13.0	4.3	13.0	4.3	
	5年以上10年未満	50	40.0	22.0	8.0	12.0	16.0	2.0	
	10年以上15年未満	43	55.8	25.6	4.7	4.7	9.3	0.0	
	15年以上	24	45.8	16.7	8.3	4.2	16.7	8.3	

② 地域の職能団体・区の研修

「3か月に1回程度」が40.4%と最多。次いで「月に1回程度」が34.5%と続く。

図表 4-64 研修の参加頻度（地域の職能団体・区の研修）（n=171）



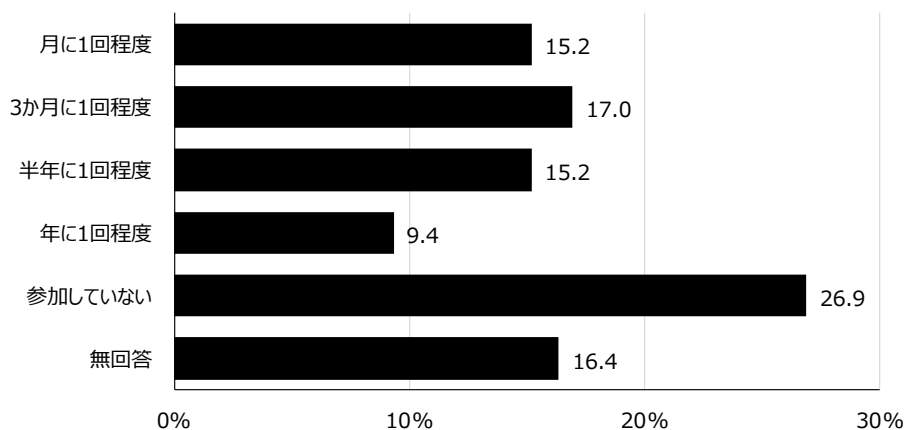
図表 4-65 従事年数別の研修の参加頻度（地域の職能団体・区の研修）

		回 答 者 数	月 に 1 回 程 度	3 か 月 に 1 回 程 度	半 年 に 1 回 程 度	年 に 1 回 程 度	参 加 し て い な い	無 回 答	
全体		171	34.5	40.4	13.5	5.3	2.9	3.5	(%)
従 事 年 数	1年未満	13	30.8	53.8	7.7	0.0	7.7	0.0	
	1年以上3年未満	17	23.5	41.2	23.5	0.0	0.0	11.8	
	3年以上5年未満	23	30.4	56.5	13.0	0.0	0.0	0.0	
	5年以上10年未満	50	38.0	34.0	14.0	8.0	6.0	0.0	
	10年以上15年未満	43	41.9	39.5	11.6	2.3	0.0	4.7	
	15年以上	24	29.2	33.3	12.5	16.7	4.2	4.2	

③ その他の団体による研修

「参加していない」が26.9%と最多。次いで「3か月に1回程度」(17.0%)、「月に1回程度」「半年に1回程度」(15.2%)の順。

図表 4-66 研修の参加頻度（その他の団体による研修）(n=171)



図表 4-67 従事年数別の研修の参加頻度（その他の団体による研修）

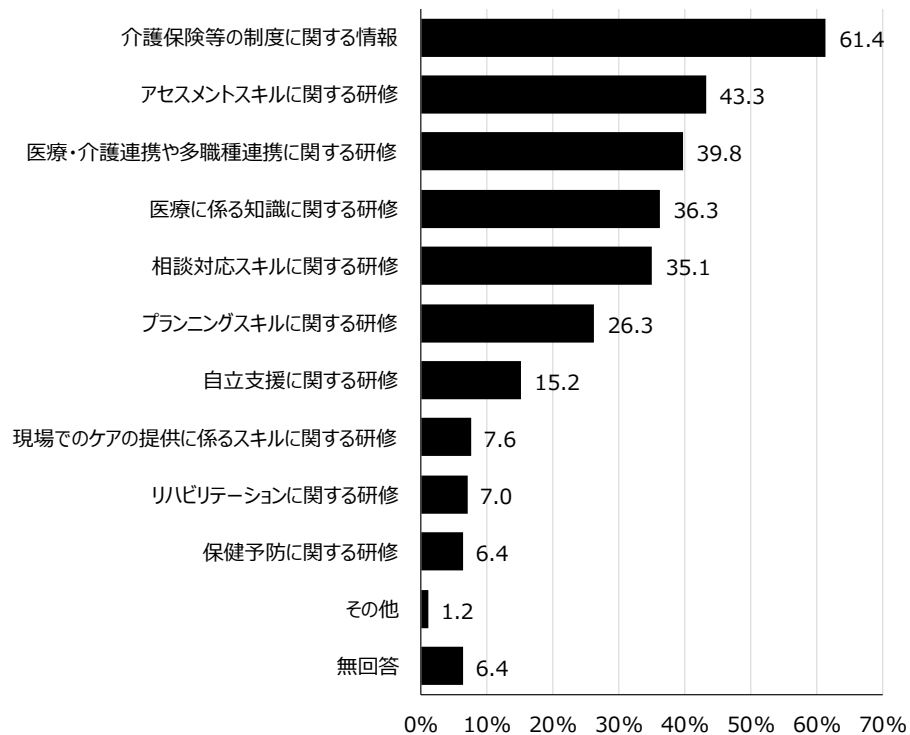
		回答者数	月に1回程度	3か月に1回程度	半年に1回程度	年に1回程度	参加していない	無回答	
全体		171	15.2	17.0	15.2	9.4	26.9	16.4	(%)
従事年数	1年未満	13	30.8	7.7	0.0	7.7	38.5	15.4	
	1年以上3年未満	17	11.8	0.0	11.8	5.9	41.2	29.4	
	3年以上5年未満	23	13.0	21.7	13.0	0.0	30.4	21.7	
	5年以上10年未満	50	12.0	20.0	14.0	12.0	28.0	14.0	
	10年以上15年未満	43	20.9	11.6	23.3	11.6	18.6	14.0	
	15年以上	24	8.3	33.3	16.7	12.5	20.8	8.3	

(3) 業務に役立った研修内容

問24. あなたがこれまで受けた研修の中で、特に業務に役立った内容は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

「介護保険等の制度に関する情報」が61.4%と最多。

図表 4-68 業務に役立った研修内容 (n=171)



従事年数別でみると、従事年数が高い方が、「介護保険等の制度に関する情報」が比較的高くなっています。

図表 4-69 年齢、従事年数別の業務に役立った研修内容

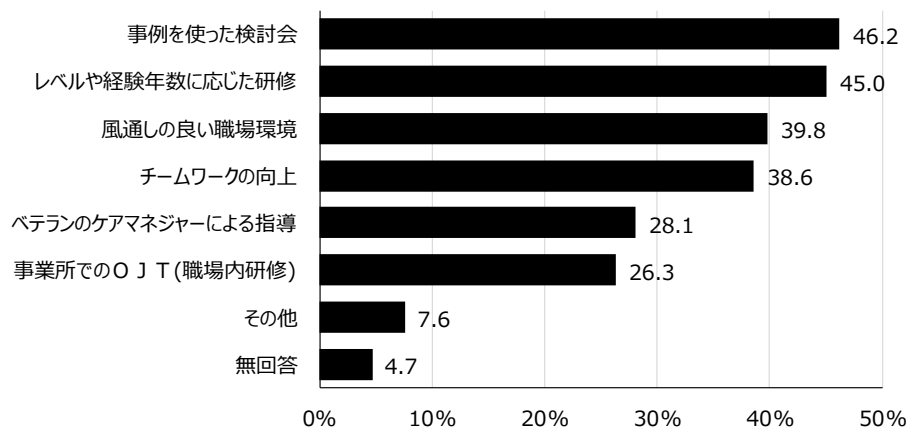
		回 答 者 数	介 護 保 険 等 の 制 度 に 関 する 情 報	相 談 対 応 ス キ ル に 関 する 研 修	ア セ ス メ ン ト ス キ ル に 関 する 研 修	プ ラ ン ニ ン グ ス キ ル に 関 する 研 修	医 療 に 係 る 知 識 に 関 する 研 修	現 場 で の ケ ア の 提 供 に 係 る ス キ ル に 関 する 研 修	保 健 予 防 に 関 する 研 修	リ ハ ビ リ テ ー シ ョ ン に 関 する 研 修	多 職 種 連 携 に 関 する 研 修	医 療 ・ 介 護 連 携 に 関 する 研 修	自 立 支 援 に 関 する 研 修	そ の 他	無 回 答
全体		171	61.4	35.1	43.3	26.3	36.3	7.6	6.4	7.0	39.8	15.2	1.2	6.4	(%)
年 齢	20歳代	2	50.0	50.0	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	
	30歳代	14	57.1	50.0	57.1	7.1	14.3	7.1	0.0	0.0	21.4	28.6	0.0	7.1	
	40歳代	56	55.4	37.5	32.1	30.4	35.7	8.9	8.9	7.1	35.7	7.1	3.6	7.1	
	50歳代	47	68.1	36.2	48.9	21.3	40.4	4.3	4.3	8.5	36.2	17.0	0.0	4.3	
	60歳代	42	64.3	26.2	47.6	28.6	38.1	4.8	4.8	2.4	54.8	21.4	0.0	4.8	
	70歳代以上	8	75.0	37.5	62.5	50.0	37.5	37.5	25.0	25.0	50.0	12.5	0.0	12.5	
従 事 年 数	1年未満	13	38.5	38.5	46.2	30.8	15.4	7.7	0.0	0.0	38.5	15.4	0.0	0.0	
	1年以上3年未満	17	58.8	23.5	35.3	29.4	35.3	0.0	5.9	0.0	23.5	0.0	0.0	11.8	
	3年以上5年未満	23	65.2	52.2	39.1	21.7	39.1	0.0	0.0	4.3	30.4	13.0	0.0	0.0	
	5年以上10年未満	50	52.0	34.0	38.0	28.0	32.0	12.0	6.0	4.0	50.0	18.0	2.0	14.0	
	10年以上15年未満	43	81.4	37.2	55.8	18.6	44.2	11.6	11.6	14.0	46.5	14.0	0.0	0.0	
	15年以上	24	58.3	25.0	41.7	37.5	41.7	4.2	8.3	12.5	29.2	25.0	4.2	4.2	

(4) ケアマネジャーの質の向上に必要なこと

問25. あなたが、ケアマネジャーの質の向上を図るために必要だと思うことは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

「事例を使った検討会」が46.2%と最多。次いで「レベルや経験年数に応じた研修」(45.0%)、「風通しの良い職場環境」(39.8%)の順。

図表 4-70 ケアマネジャーの質の向上に必要なこと (n=171)



図表 4-71 従事年数別のケアマネジャーの質の向上に必要なこと

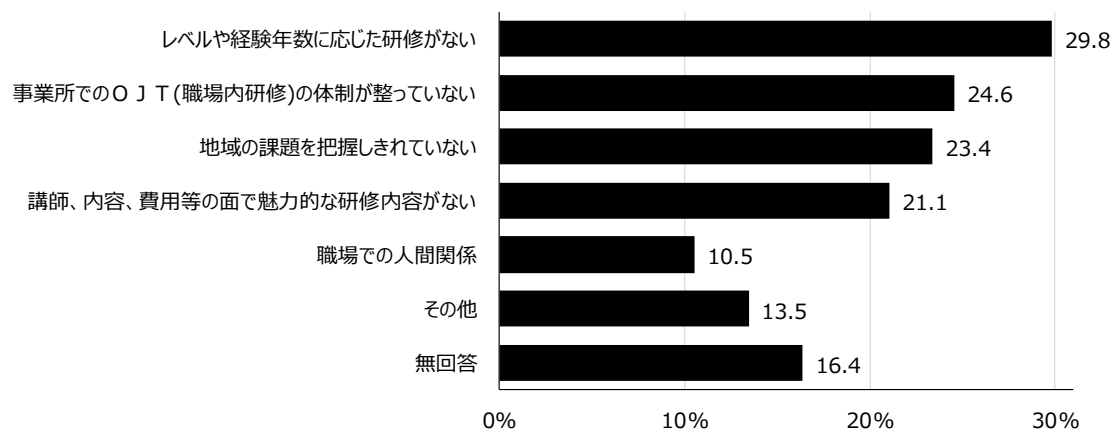
	回答者数	レベルや経験年数に応じた研修	事業所でのOJT(職場内研修)	ベテランのケアマネジャーによる指導	事例を使った検討会	チームワークの向上	風通しの良い職場環境	その他	無回答	
全体	171	45.0	26.3	28.1	46.2	38.6	39.8	7.6	4.7	(%)
従事年数	1年未満	13	69.2	23.1	38.5	69.2	30.8	61.5	7.7	0.0
	1年以上3年未満	17	82.4	11.8	41.2	23.5	29.4	41.2	5.9	11.8
	3年以上5年未満	23	39.1	43.5	39.1	52.2	34.8	60.9	0.0	0.0
	5年以上10年未満	50	38.0	22.0	20.0	42.0	52.0	30.0	8.0	8.0
	10年以上15年未満	43	37.2	27.9	34.9	53.5	30.2	37.2	7.0	0.0
	15年以上	24	41.7	29.2	8.3	41.7	33.3	16.7	4.2	

(5) ケアマネジャーの質の向上における課題

問26. あなたの所属する事業所におけるケアマネジャーの質の向上における課題は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

「レベルや経験年数に応じた研修がない」が29.8%と最多。次いで「事業所でのOJT(職場内研修)の体制が整っていない」(24.6%)、「地域の課題を把握しきれていない」(23.4%)の順。

図表 4-72 ケアマネジャーの質の向上における課題 (n=171)



図表 4-73 従事年数別のケアマネジャーの質の向上における課題

		回答者数	レベルや経験年数に応じた研修がない	事業所でのOJT(職場内研修)の体制が整っていない	魅力的な研修内容、費用等の面で講師、内容、費用等がない	地域の課題を把握しきれていない	職場での人間関係	その他	無回答
全体		171	29.8	24.6	21.1	23.4	10.5	13.5	16.4 (%)
従事年数	1年未満	13	38.5	15.4	15.4	30.8	7.7	0.0	30.8
	1年以上3年未満	17	47.1	23.5	23.5	17.6	11.8	17.6	11.8
	3年以上5年未満	23	34.8	34.8	13.0	13.0	21.7	4.3	21.7
	5年以上10年未満	50	22.0	18.0	16.0	26.0	6.0	14.0	18.0
	10年以上15年未満	43	25.6	23.3	27.9	27.9	14.0	23.3	9.3
	15年以上	24	33.3	37.5	29.2	20.8	4.2	8.3	12.5

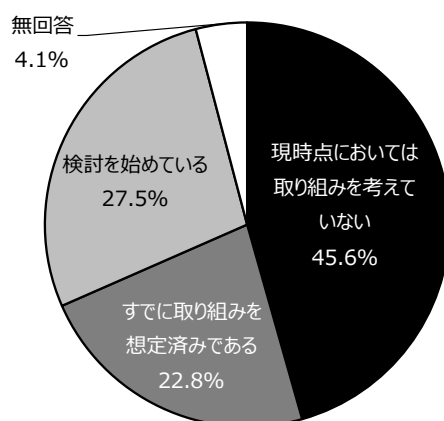
7. 災害時の対応について

(1) 大規模災害が発生した場合の対応

問27. 大規模災害が発生した場合のご利用者の対応等について、何か取り組みを考えていますか。(ひとつだけ○)

「現時点においては取り組みを考えていない」が45.6%と最多。

図表 4-74 大規模災害が発生した場合の対応 (n=171)

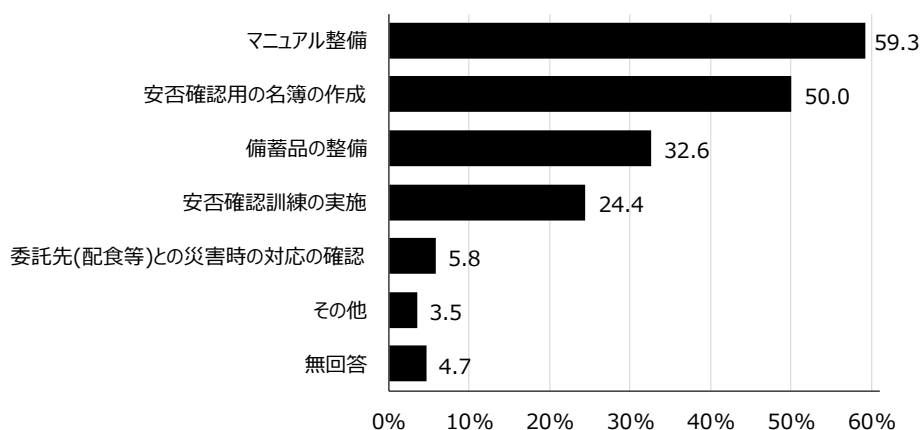


(2) 大規模災害が発生した場合に向けた取組内容

問27-1. 問27で「すでに取り組みを想定済みである」「検討を始めている」に○をつけた方にうかがいます。現在、検討している・想定している取り組みは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

「マニュアル整備」が59.3%と最多。次いで「安否確認用の名簿の作成」が50.0%と続く。

図表 4-75 大規模災害が発生した場合に向けた取組内容 (n=86)



(3) 大規模災害発災時の課題等に対する自由意見

問28. 大規模災害が発生した場合の取り組みを実施するにあたり、課題等があればご自由にお書きください。

34名のケアマネジャーの方から意見・要望等が寄せられました。内容を集約したうえで下表の8つの観点に整理すると、「対応方針の検討」や、「安否確認手段」「避難手段」に関する意見が比較的多くみられました。

観点	主な回答内容
対応方針の検討	- 法人としての考えと支店でできる事とマニュアルの整備が不十分。利用者への説明も不十分。 - 地震しか想定できていない。災害時の時期別（発災前、発災直後、発災48H以内）などで行動するためのアルゴリズムとその集知が必要。 - 災害時の取り組みについて、検討した事がない。まず事務所内で検討を始めてほしい。 - 地震直後の72時間以降の動きも考えていく必要があるのではないかと思う。 - 利用者により、対応が手厚い、家族まかせ等、かわり方に不平等が生じた事により、不満や苦情が出るのではないかと思う。
安否確認手段	- セキュリティの厳しいマンションは、災害発生し、停電になった場合、中に入れず安否確認がむずかしい。 - インフラが止まった時、どう対応すべきか。具体的な事を考える時に必要な事が何か不明。 - 地域ぐるみでの安否確認訓練などを、高齢者総合相談センターを中心としておこなうことがいいのではないか。 - 独居の人の夜間の連絡方法をどのようにすればよいか。 - 連絡ツールが統一してないため確認がとりづらい。
避難手段	1次避難所、2次避難所の確認も行わなくてはならないと思う。 - 独居で認知症のある利用者をどう避難させるか。 - 台風19号の時に避難の放送があったが、一人で動けない人は、そもそも避難が出来ない。 - 独居で認知症の利用者の安否確認・老老介護の利用者の誘導や指示をどうするか。 - 避難場所やどのように移動させるか明確になっていない。 - 独居高齢者を避難所等へ誘導する体制が明確ではない。 - 多くの利用者が災害レベル3で避難指示が出ても、動けず、避難場所まで行けないので家にいるしかなかったと言っている。高齢者でも分かりやすいマニュアルや救助法を検討すべき。高齢者はスマホや携帯を持っていないので（あるいは使えない）そのあたりもご考慮いただきたい。
業務時間外の対応	災害が休日と重なった際、区役所・包括が対応できなかった。今後は対応方法を考えていく必要がある。

観点	主な回答内容
	• 電車通勤のスタッフが多く交通網がどうなるか。休日が平日かで事業所内スタッフに大きく違いが出るため、マニュアルで標準的なところの想定が難しく作成しづらい • 会社にいる時ならば何とかなるが、自宅にいる時に発生した場合が問題。通勤が困難になるし、電話もつながらなければお客様の安否確認ができない
ケアマネジャーの役割	• 大規模災害が発生した場合、ケアマネジャーがどこまでかわかる事ができるか、難しい問題である。 • 地域や行政が中心になって取り組むことが重要で、在宅のケアマネジャー個々で取り組みをするのは、難しい。ケアマネジャーにも家族があり、利用者を優先して対応するよう促すのは、行政としておかしいと思う。出来る範囲のことはするが、大規模災害で個人や事業所として、利用者に対して、どこまで取り組めるかは難しい。施設であれば利用者を優先した取り組みは重要であるが、負担が大きく、本来の業務からかけ離れている。 • 災害が発生した場合、ケアマネジャーとして何をどこまで支援することが出来るかが不安。全員を訪問して確認することは難しいと考えている。私自身が職場に来ることが出来るかも不明な状況も考えられる。
人員の確保	• 居住地から職場へ行くことが困難になると思う。 • ケアマネが2人ということと、事業所の近隣に住んでいるわけではない為災害が発生した場合の安否確認を実際に行えるかどうか、他の方法についても検討が必要と感じている。 • 前回の災害時でも強く感じましたが、ケアマネよりヘルパーの方が大変だったと思う。デイは休止しても、独居や老々介護だと行かざるを得ない状況で、電車も止まり、タクシーもつかまらなかった。豊島区外からの勤務が多く、ホテルを前日取るなどして対応してくれている。ケアマネとしては有難いが、在宅の重度の要介護者の対応が課題だと思う。
避難所の環境	• 避難所に手すりやベッドがない場合に移動や寝起きが出来ないだろうから、どうしたら良いのだろう、と複数のご利用者から、質問いただいているが、返事ができていない。 • 先日の大型台風で、緊急避難速報が出て、小学校など受け入れ施設まで載せていたのに、あるヘルパーさんが高齢者を早々に連れて行ったら、「まだ家で待機していて下さい」と返されたとのこと。対応の準備が整ってから、発表しないと、逆に危険だと思う。 • 先日、台風19号が豊島区に接近した際、豊島区にレベル3の情報の発信があり、区の避難所の受け入れ状況を確認のため行きましたところ、対応されていたのは、防災課職員の方2名だけでしたので利用者を避難所へ連れていった方が良いのか相談したかったができずに困った。結局その

観点	主な回答内容
	方には、自宅に留まっていたが、自宅の窓ガラスの補強、懐中電灯の準備、食料の買い出しなど大変だった。改めて、介護が必要な高齢者を安全な場所へ避難させることがいかに難しいか実感した。
その他	• 地域でどの程度要援護者の情報が把握されているかが鍵だと思います。個人情報保護もあり、情報提供は難しい面もあると思います。我々ケアマネの問題以前に行政としてどう対処するかの方が問題ではないかと考えます。 • 自分自身豊島区のことを良くわかっていない為、色々な事を確認していく必要があると思う。事業所では訓練も行っているが参加出来ていない。 • 高齢者の家に備蓄の管理や家具の固定をしてくれるサービスがあると良い。

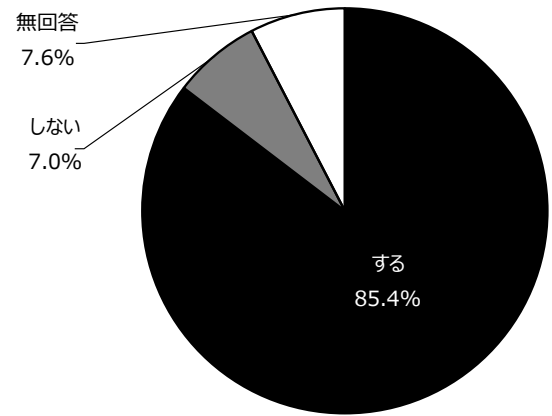
8. 今後の意向について

(1) ケアマネジャーの資格更新への意向

問29. あなたは、次回のケアマネジャーの資格更新をしますか。(ひとつだけ○)

「する」が85.4%。

図表 4-76 ケアマネジャーの資格更新への意向 (n=171)



図表 4-77 年齢別のケアマネジャーの資格更新への意向

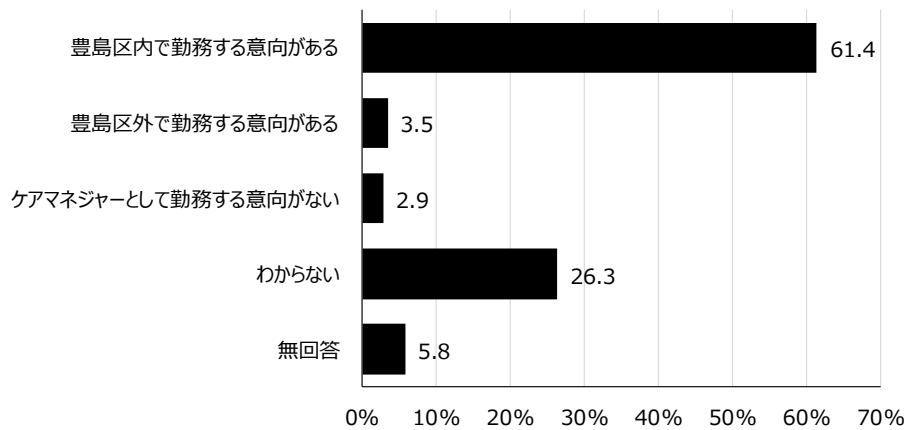
		回答者数	する	しない	無回答	
全体		171	85.4	7.0	7.6	(%)
年齢	20歳代	2	100.0	0.0	0.0	
	30歳代	14	92.9	0.0	7.1	
	40歳代	56	91.1	1.8	7.1	
	50歳代	47	87.2	2.1	10.6	
	60歳代	42	73.8	21.4	4.8	
	70歳代以上	8	75.0	12.5	12.5	

(2) ケアマネジャーとしての就労意向

問30. あなたは、今後も豊島区内でケアマネジャーとして働き続ける意向がありますか。(ひとつだけ○)

「豊島区内で勤務する意向がある」が61.4%と最多。

図表 4-78 ケアマネジャーとしての就労意向 (n=171)



図表 4-79 年齢別のケアマネジャーとしての就労意向

		回答者数	豊島区内で勤務する意向がある	豊島区外で勤務する意向がある	ケアマネジャーとして勤務する意向がない	わからない	無回答	
全体		171	61.4	3.5	2.9	26.3	5.8	(%)
年齢	20歳代	2	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	30歳代	14	57.1	7.1	0.0	28.6	7.1	
	40歳代	56	51.8	3.6	1.8	41.1	1.8	
	50歳代	47	63.8	4.3	2.1	21.3	8.5	
	60歳代	42	71.4	2.4	4.8	16.7	4.8	
	70歳代以上	8	50.0	0.0	12.5	12.5	25.0	

(3) 介護サービス基盤や地域包括ケアシステムの構築についての自由意見

★ 最後に、今後の介護サービス基盤や地域包括ケアシステムの構築についてご意見やご要望がございましたら、ご自由にお書きください。

27名のケアマネジャーの方から意見・要望等が寄せられました。内容を集約したうえで下表の7つの観点に整理すると、「業務負担」や、「区分変更時の対応」「各種制度への対応」に関する意見が比較的多くみられました。

観点	主な回答内容
業務負担	- 介護度の判定も厳しくなり、予防に該当される方が多い中、予防プランの手間、負担も大きく、受け入れ事業所も限られ、報酬も少なく、ケアマネジャーの負担ばかり増大していると思います。今後、ケアマネジャーを継続していく事に困難を感じます。 - ケアマネジャーに全てをまかせるのではなくて役割分担をしてもらいたい。虐待案件など、区の担当も適宜かわってもらいたい。ケアマネジャーが時間をさくのには少々無理がある。介護保険外のサービスこそ区や包括の力を必要としていると思う。 - 予防プランはなかなか介護度も変わらず、経営に響いているが、包括に返すのも申し訳ないので困っている。書類の手間など、要介護の方と変わらない。 - 地域貢献。報酬はなくて当たり前だが、何かの形で保険者から評価はしてほしい。
区分変更時の対応	- 状態悪化時に区分変更を検討した場合に、自費が発生するリスクを考えると、安心して介護サービスの基盤作りができない。 - 区分変更時、自費になってしまうリスクがある説明をすると納得をなかなかしてもらえない。リスクがあるので区分変更したくないという方もいる。 - 選択的・いきいき・すこやか区分変更却下時実費発生など介護職利用者からも豊島は面倒だとの声がある。特に介護職の豊島離れや定職者の低下は残念。自分もやる気が出ない。他の区の方が良いと思う。 - 要支援の方の場合、区分変更をしてまた要支援と認定されるとその間のサービス料は自費となるのが本当に困る。区分変更が必要と判断した方も区分変更するのを躊躇する。
各種制度への対応	- 制度が複雑になり、利用者には理解が困難になってきていると感じる。 - 今の生活スタイルに制度をあわせるのが難しい時代に入ったと感じる。 - 豊島区はいろいろと制限やしばりが多いので、もっと柔軟にサービス利用が出来るようになってほしいと思います。
サービスの充実	区境近くに居住する利用者等、場所によって不利益の生じない介護サービス基盤の整備。(小規模多機能等は、利用で

観点	主な回答内容
	きない地域が多い。) ・ ショートステイサービスの充実。予防支援の訪問介護の受け入れが少ない為、サービス調整が困難な時がある。
予防プランの期間設定	・ 予防プランの期間設定の見直しを望む。初回3ヶ月、その他6ヶ月と期間が短すぎる。 ・ 豊島区の予防に関して、初回3ヶ月後の担当者会議、その後6ヶ月ごとの見直しについて、書類作成にばかり時間がかかり、必要性をまったく感じる事ができず、むだだと思っている。他の区は1年後だったり、委託をうけやすいが、豊島区は手間が多い。
地域づくり	・ 地域住民の方達がどこまで理解してくれているのか。専門職だけでなく、地域住民をまきこんで考えてほしい。 ・ 豊島区の場合、地域で支えるということが難しいと考えている。包括職員の意欲も感じられない。基本は地域作りである。
その他	・ 独居の認知症高齢者に対する支援をきちんと考えていきたい。 ・ 区内の包括支援センターとの連携がないとむずかしいので、今後も連携しながら進めていきたいと思っている。 ・ 介護保険でのヘルパーによる家事援助（買物、掃除、調理など）を全て無くすとよいのではないかと。民間のサービスで十分まかなえる。身体介護のみとして、ヘルパー対応していかないと、人手不足で本当に必要な人に介護が回らない。今でもヘルパー確保が難しいのに、今後更にひどくなるのは確実である。 ・ デイサービスや、ショートステイ中の事故に対し、もっと対策を徹底して欲しい。何となく隠されている部分が多いと感じている。 ・ 総合事業における通所の利用が限られていて探すことが大変。区の銭場が少なくなっている中、通所の方で入浴を断ることが増えている。 ・ セルフプランを増やしていくとよいのではないかと。利用者や家族で判断能力が問題ない場合、わざわざケアマネジャーを利用しなくても、誰でも作れるようなセルフプランにして、活用を促進する。プランの中には、専門性の必要のないプランも多い。初めに、地域包括などで、本人・家族とケアマネジャーが必要かどうか話して決めていく。何でもかんでもケアマネジャーがかかわっても、財政を圧迫するだけである。

第5章

介護サービス事業所調査

第5章 介護サービス事業所調査

<調査結果の概要>

(1) 介護人材の採用・離職の状況

- 過去1年間の介護職員の採用者数は、正社員全体では「0人（無回答含む）」が5割以上、非正社員全体では「0人（無回答含む）」が6割以上となっている（図表 5-12、図表 5-13）。離職者数についても同様に、正社員全体では「0人（無回答含む）」が5割以上。非正社員全体では「0人（無回答含む）」が6割以上である（図表 5-14、図表 5-15）。
- 離職者数に対する採用者数の比率についてみると、全体では100以上となっており、採用者数の方が上回っている（図表 5-16）。

(2) 介護人材の確保・定着

- 人材確保に向けた取り組みは、「ハローワークとの連携を図っている」が54.1%と最多であり（図表 5-21）、人材の定着・育成に向けた取り組みは、「非正規職員から正規職員への登用機会を設けている」が53.2%と最多であった（図表 5-23）。
- 職員の定着に向けて必要な支援としては、「新規就業者を対象とした介護技術等に関する合同研修」(49.8%)、「中堅職員を対象としたキャリアプランに関する合同研修」(42.5%)、「中堅職員を対象とした介護技術等に関する合同研修」(35.6%)の順となっている（図表 5-25）。

(3) 外国人労働者の活用の状況・意向

- 全体では「受け入れた経験がなく、受け入れを検討していない」が54.9%と最多であり、その中で、“施設サービス”では「現在受け入れているまたは過去に受け入れたことがあり、今後も受け入れを検討している」が54.5%と最多となっている（図表 5-26）。
- 外国人労働者の出身国は、「中国」が51.9%と最多となっており（図表 5-29）、雇用制度については、「身分に基づく在留者(定住者(主に日系人)、永住者、日本人の配偶者等)」が53.7%と最多である（図表 5-28）。
- 外国人労働者の受け入れ時の課題は、「求める人材像等とのマッチング」が50.6%と最多となっている（図表 5-30）。

(4) 生産性向上に向けた取り組み

- 業務改善による生産性向上を目的に導入している・導入を検討しているものについてみると、「ICT ツール」が46.4%と最多となっており（図表 5-34）、その内容は「請求管理ツール」が84.3%と最多となっている（図表 5-37）。
- なお、導入している・導入を検討している介護ロボットについて聞くと、「見守り支援機器」が68.0%と最多だった（図表 5-36）。

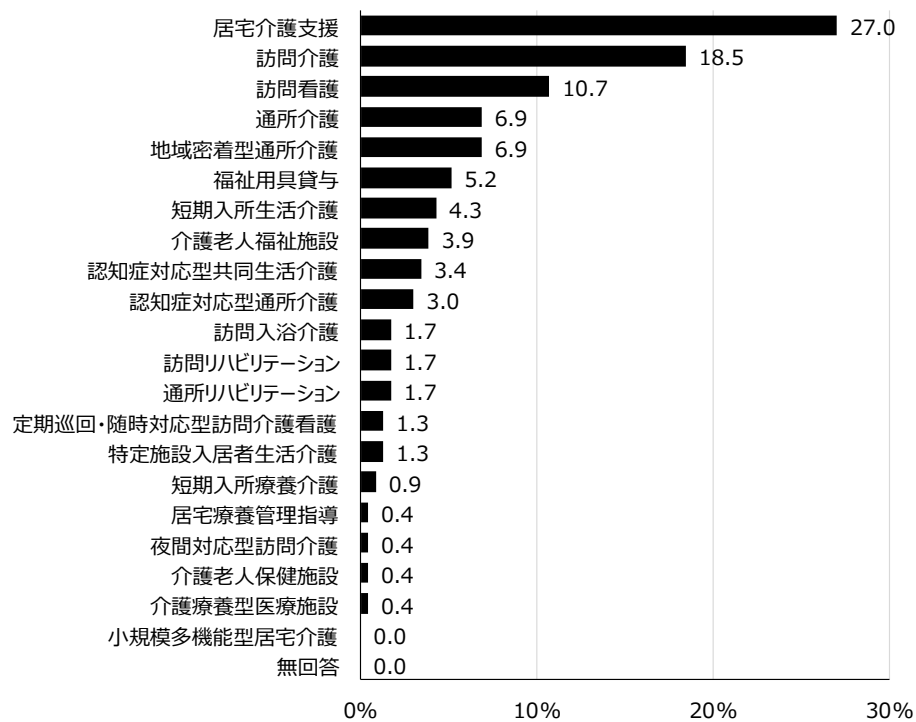
1. 事業所の概要について

(1) サービス種別

問1. 貴事業所で取り扱っているサービスの種類を選択してください。(調査票はサービス種別ごとに記入するため、ひとつだけ○)

「居宅介護支援」が27.0%で最多。次いで「訪問介護」が18.5%と続く。

図表 5-1 サービス種別 (n=233)



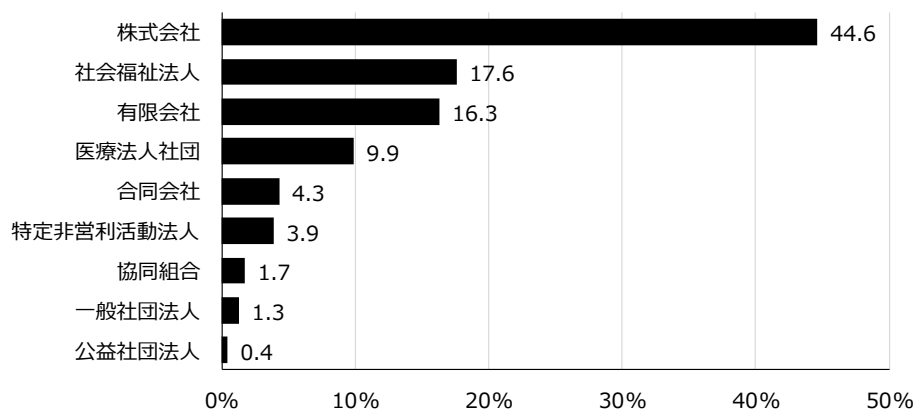
(2) 法人種別と所在地

問2. 貴事業所の事業所番号とサービス種別番号を記入してください。(本調査の結果は、事業所の内容を点検するものではなく、所在地と日常生活圏域ごとに集計するために使用します。)

① 法人種別

「株式会社」が44.6%で最多。

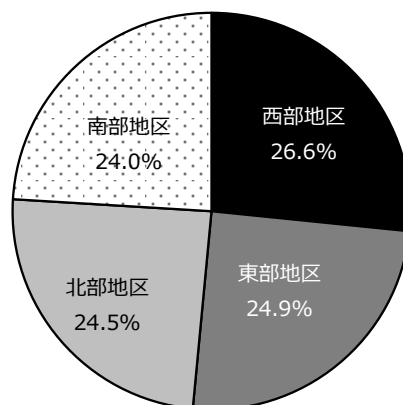
図表 5-2 法人種別 (n=233)



② 事業所の所在地

「西部地区」が26.6%と最多。次いで「東部地区」が24.9%と続く。

図表 5-3 事業所の所在地 (n=233)



(3) 利用申込者の受け入れ状況

問3. 貴事業所の、利用申込者の受け入れ状況についてお答えください。(ひとつだけ○)

サービス種別・サービス類型毎に若干の違いはあるものの、「曜日や時間帯により対応できないことがある」が38.2%と最多。次いで「余裕がある」が36.9%と続く。

サービス種別でみると、“訪問介護”“訪問入浴介護”“訪問看護”“訪問リハビリテーション”“居宅療養管理指導”“通所介護”“通所リハビリテーション”“地域密着型通所介護”では、「曜日や時間帯により対応できないことがある」が最も高くなっています。“定期巡回・随時対応型訪問介護看護”は「余裕がある」「あまり余裕はない」が最も高くなっています。上記以外では、「余裕がある」が最も高くなっています。

サービス類型別でみると、“短期入所サービス”“居住系サービス”“施設サービス”“その他の居宅サービス”は、「余裕がある」が最も高くなっています。“訪問系サービス”“通所系サービス”では、「曜日や時間帯により対応できないことがある」が最も高くなっています。

図表 5-4 サービス種別、サービス類型別の利用申込者の受け入れ状況

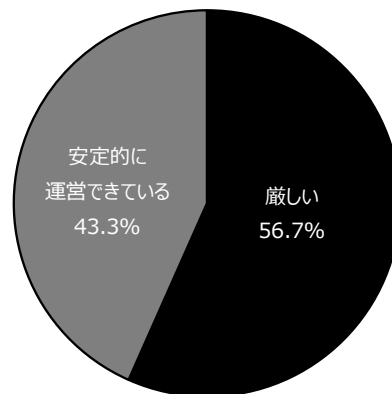
		回答者数	余裕がある	曜日や時間帯により対応できないことがある	あまり余裕はない	余裕がない (利用を断っている)	現在は事業を休止している	無回答	
全体		233	36.9	38.2	18.0	5.6	0.4	0.9	(%)
サービス種別	訪問介護	43	18.6	65.1	9.3	7.0	0.0	0.0	
	訪問入浴介護	4	25.0	50.0	0.0	25.0	0.0	0.0	
	訪問看護	25	40.0	56.0	0.0	4.0	0.0	0.0	
	訪問リハビリテーション	4	0.0	75.0	25.0	0.0	0.0	0.0	
	居宅療養管理指導	1	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	通所介護	16	18.8	68.8	12.5	0.0	0.0	0.0	
	通所リハビリテーション	4	25.0	75.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	短期入所生活介護	10	60.0	20.0	10.0	10.0	0.0	0.0	
	短期入所療養介護	2	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	福祉用具貸与	12	58.3	16.7	16.7	0.0	8.3	0.0	
	夜間対応型訪問介護	1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	認知症対応型通所介護	7	57.1	28.6	14.3	0.0	0.0	0.0	
	地域密着型通所介護	16	18.8	68.8	12.5	0.0	0.0	0.0	
	小規模多機能型居宅介護	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	定期巡回・随時対応型訪問介護看護	3	33.3	0.0	33.3	0.0	0.0	33.3	
	認知症対応型共同生活介護	8	62.5	0.0	25.0	12.5	0.0	0.0	
	特定施設入居者生活介護	3	66.7	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	
	介護老人福祉施設	9	44.4	33.3	22.2	0.0	0.0	0.0	
	介護老人保健施設	1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	介護療養型医療施設	1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	居宅介護支援	63	41.3	11.1	36.5	9.5	0.0	1.6	
サービス類型	訪問系サービス	92	30.4	53.3	8.7	5.4	1.1	1.1	
	通所系サービス	43	25.6	62.8	11.6	0.0	0.0	0.0	
	短期入所サービス	12	66.7	16.7	8.3	8.3	0.0	0.0	
	居住系サービス	11	63.6	0.0	27.3	9.1	0.0	0.0	
	施設サービス	11	54.5	27.3	18.2	0.0	0.0	0.0	
	その他の居宅サービス	64	40.6	12.5	35.9	9.4	0.0	1.6	

(4) 経営状況

問4. 貴事業所の、経営状況についてお答えください。(ひとつだけ○)

全体では「厳しい」が56.7%で最多。その中で、“居住系サービス”は「安定的に運営できている」が72.7%で最多。

図表 5-5 経営状況 (n=233)



サービス種別でみると、“訪問介護”“居宅療養管理指導”“通所介護”“短期入所生活介護”“認知症対応型通所介護”“地域密着型通所介護”“介護老人福祉施設”“介護療養型医療施設”“居宅介護支援”では、「厳しい」が最も高くなっています。“訪問入浴介護”“訪問看護”“福祉用具貸与”“夜間対応型訪問介護”“定期巡回・随時対応型訪問介護看護”“認知症対応型共同生活介護”“特定施設入居者生活介護”“介護老人保健施設”は「安定的に運営できている」が高くなっています。“訪問リハビリテーション”“通所リハビリテーション”“短期入所療養介護”は、「安定的に運営できている」と「厳しい」が同じ割合です。

サービス類型別でみると、“訪問系サービス”は、「厳しい」と「安定的に運営できている」が同じ割合です。“通所系サービス”“短期入所サービス”“施設サービス”“その他の居宅サービス”では、「厳しい」が最も高くなっています。“居住系サービス”は、「安定的に運営できている」が最も高くなっています。

図表 5-6 サービス種別、サービス類型別の経営状況

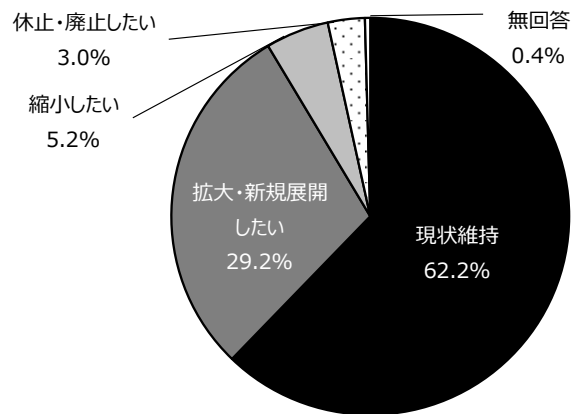
		回答者数	安定的に運営できている	厳しい	無回答
全体		233	43.3	56.7	0.0 (%)
サービス種別	訪問介護	43	34.9	65.1	0.0
	訪問入浴介護	4	75.0	25.0	0.0
	訪問看護	25	60.0	40.0	0.0
	訪問リハビリテーション	4	50.0	50.0	0.0
	居宅療養管理指導	1	0.0	100.0	0.0
	通所介護	16	43.8	56.3	0.0
	通所リハビリテーション	4	50.0	50.0	0.0
	短期入所生活介護	10	20.0	80.0	0.0
	短期入所療養介護	2	50.0	50.0	0.0
	福祉用具貸与	12	58.3	41.7	0.0
	夜間対応型訪問介護	1	100.0	0.0	0.0
	認知症対応型通所介護	7	42.9	57.1	0.0
	地域密着型通所介護	16	43.8	56.3	0.0
	小規模多機能型居宅介護	0	0.0	0.0	0.0
	定期巡回・随時対応型訪問介護看護	3	100.0	0.0	0.0
	認知症対応型共同生活介護	8	62.5	37.5	0.0
	特定施設入居者生活介護	3	100.0	0.0	0.0
	介護老人福祉施設	9	11.1	88.9	0.0
	介護老人保健施設	1	100.0	0.0	0.0
	介護療養型医療施設	1	0.0	100.0	0.0
	居宅介護支援	63	36.5	63.5	0.0
サービス類型	訪問系サービス	92	50.0	50.0	0.0
	通所系サービス	43	44.2	55.8	0.0
	短期入所サービス	12	25.0	75.0	0.0
	居住系サービス	11	72.7	27.3	0.0
	施設サービス	11	18.2	81.8	0.0
	その他の居宅サービス	64	35.9	64.1	0.0

(5) 事業展開の意向

問5. 貴事業所の、今後4年間における事業展開の意向についてお答えください。(ひとつだけ○)

全体では「現状維持」が62.2%と最多。その中で、“訪問入浴介護”“訪問看護”“福祉用具貸与”は、「拡大・新規展開したい」が最多。

図表 5-7 事業展開の意向 (n=233)



サービス種別でみると、「訪問入浴介護」「訪問看護」「福祉用具貸与」は、「拡大・新規展開したい」が最も高くなっています。

サービス類型別でみると、「訪問系サービス」は、「拡大・新規展開したい」が最も高くなっています。

図表 5-8 サービス種別、サービス類型別の事業展開の意向

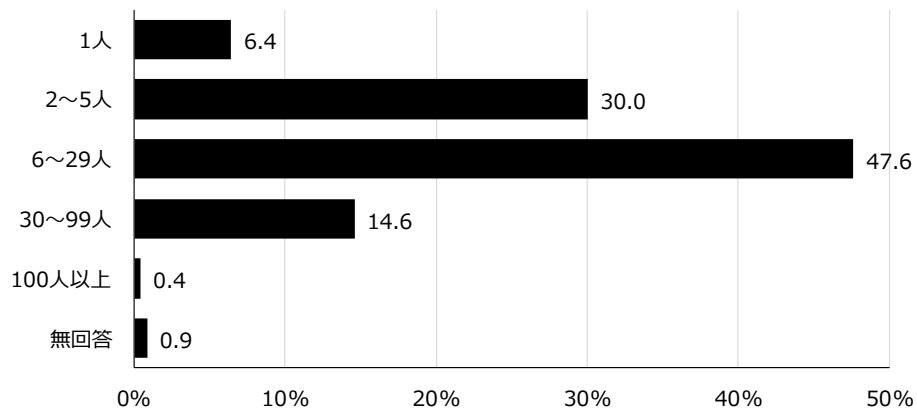
		回答者数	現状維持	拡大・新規展開したい	縮小したい	休止・廃止したい	無回答
全体		233	62.2	29.2	5.2	3.0	0.4 (%)
サービス種別	訪問介護	43	53.5	34.9	9.3	2.3	0.0
	訪問入浴介護	4	0.0	75.0	0.0	25.0	0.0
	訪問看護	25	32.0	64.0	4.0	0.0	0.0
	訪問リハビリテーション	4	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0
	居宅療養管理指導	1	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
	通所介護	16	81.3	6.3	12.5	0.0	0.0
	通所リハビリテーション	4	75.0	0.0	0.0	0.0	25.0
	短期入所生活介護	10	90.0	10.0	0.0	0.0	0.0
	短期入所療養介護	2	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	福祉用具貸与	12	33.3	58.3	0.0	8.3	0.0
	夜間対応型訪問介護	1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	認知症対応型通所介護	7	85.7	0.0	14.3	0.0	0.0
	地域密着型通所介護	16	62.5	37.5	0.0	0.0	0.0
	小規模多機能型居宅介護	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	定期巡回・随時対応型訪問介護看護	3	66.7	33.3	0.0	0.0	0.0
	認知症対応型共同生活介護	8	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	特定施設入居者生活介護	3	66.7	33.3	0.0	0.0	0.0
	介護老人福祉施設	9	77.8	11.1	11.1	0.0	0.0
	介護老人保健施設	1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	介護療養型医療施設	1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	居宅介護支援	63	68.3	22.2	3.2	6.3	0.0
サービス類型	訪問系サービス	92	43.5	47.8	5.4	3.3	0.0
	通所系サービス	43	74.4	16.3	7.0	0.0	2.3
	短期入所サービス	12	91.7	8.3	0.0	0.0	0.0
	居住系サービス	11	90.9	9.1	0.0	0.0	0.0
	施設サービス	11	81.8	9.1	9.1	0.0	0.0
	その他の居宅サービス	64	67.2	21.9	4.7	6.3	0.0

(6) 従業員数

問6. 令和元年11月1日現在の貴事業所における、従業員数（管理者や事務員も含む）についてお答えください。（ひとつだけ○）

「6～29人」が47.6%と最多。

図表 5-9 従業員数 (n=233)



2. 人材の確保・定着・育成について

(1) 年齢構成別従業員数

問7. 貴事業所における正社員・非正社員の、職種および年齢構成別の人数をご記入ください。なお、無回答の場合には「0」として集計されます。(人数を記入)

① 年齢構成別従業員数（正社員）

正社員全体では30歳以上が8割以上。

サービス種別でみると、“訪問介護”“通所介護”“認知症対応型通所介護”“地域密着型通所介護”“居宅介護支援”は、「40歳代」が最も高くなっています。“訪問入浴介護”は、「20歳代」が最も高くなっています。“訪問看護”“訪問リハビリテーション”“福祉用具貸与”“定期巡回・随時対応型訪問介護看護”“介護老人福祉施設”は、「30歳代」が最も高くなっています。“通所リハビリテーション”“短期入所療養介護”“夜間対応型訪問介護”“認知症対応型共同生活介護”“特定施設入居者生活介護”“介護老人保健施設”“介護療養型医療施設”は、「50歳代」が最も高くなっています。“短期入所生活介護”は、「30歳代」「40歳代」が最も高くなっています。

サービス類型別でみると、“訪問系サービス”は「30歳代」が最も高くなっています。“居住系サービス”は、「50歳代」が最も高くなっています。

職種別でみると、“訪問介護員”は、「30歳代」「50歳代」が最も高くなっています。“介護職員”は、「30歳代」「40歳代」が最も高くなっています。“看護師・准看護師”は、「50歳代」が最も高くなっています。“機能訓練指導員”“福祉用具専門相談員”は、「30歳代」が最も高くなっています。“介護支援専門員”“その他職員”は、「40歳代」が最も高くなっています。

図表 5-10 年齢構成別従業員数（正社員）

		回 答 者 数	職 員 数 計 （人）	平 均 職 員 （人）	正 社 員 計 （人）	正社員						
						2 0 歳 未 満	2 0 歳 代	3 0 歳 代	4 0 歳 代	5 0 歳 代	6 0 歳 代	7 0 歳 以 上
全体		233	3,348	14.4	1,747	0.1	15.1	26.6	28.3	20.6	7.7	1.7
サ ー ビ ス 種 別	訪問介護	43	603	14.0	137	0.0	8.8	18.2	22.6	20.4	18.2	11.7
	訪問入浴介護	4	32	8.0	16	0.0	50.0	43.8	6.3	0.0	0.0	0.0
	訪問看護	25	238	9.5	157	0.0	20.4	41.4	25.5	9.6	3.2	0.0
	訪問リハビリテーション	4	34	8.5	31	0.0	19.4	48.4	29.0	3.2	0.0	0.0
	居宅療養管理指導	1	1	1.0	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
	通所介護	16	277	17.3	99	0.0	19.2	18.2	33.3	24.2	5.1	0.0
	通所リハビリテーション	4	92	23.0	61	0.0	18.0	19.7	24.6	36.1	1.6	0.0
	短期入所生活介護	10	496	49.6	296	0.0	20.9	32.1	32.1	12.5	2.4	0.0
	短期入所療養介護	2	136	68.0	87	0.0	8.0	17.2	24.1	39.1	11.5	0.0
	福祉用具貸与	12	55	4.6	46	0.0	13.0	34.8	26.1	10.9	8.7	6.5
	夜間対応型訪問介護	1	29	29.0	5	0.0	0.0	40.0	0.0	60.0	0.0	0.0
	認知症対応型通所介護	7	103	14.7	44	0.0	0.0	20.5	34.1	27.3	11.4	6.8
	地域密着型通所介護	16	181	11.3	75	1.3	16.0	21.3	29.3	17.3	12.0	2.7
	小規模多機能型居宅介護	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	定期巡回・随時対応型訪問介護看護	3	64	21.3	23	0.0	26.1	30.4	21.7	21.7	0.0	0.0
	認知症対応型共同生活介護	8	104	13.0	54	0.0	3.7	20.4	20.4	38.9	16.7	0.0
	特定施設入居者生活介護	3	73	24.3	50	0.0	18.0	24.0	18.0	30.0	10.0	0.0
	介護老人福祉施設	9	515	57.2	340	0.0	18.5	31.8	31.5	14.7	3.2	0.3
	介護老人保健施設	1	74	74.0	52	0.0	13.5	15.4	25.0	42.3	3.8	0.0
	介護療養型医療施設	1	65	65.0	37	0.0	0.0	18.9	24.3	35.1	21.6	0.0
	居宅介護支援	63	176	2.8	136	0.0	0.7	12.5	34.6	29.4	19.9	2.9
サ ー ビ ス 類 型	訪問系サービス	92	1,055	11.5	415	0.0	16.9	33.0	23.6	13.7	8.2	4.6
	通所系サービス	43	653	15.2	279	0.4	15.1	19.7	30.5	25.4	7.2	1.8
	短期入所サービス	12	632	52.7	383	0.0	18.0	28.7	30.3	18.5	4.4	0.0
	居住系サービス	11	177	16.1	104	0.0	10.6	22.1	19.2	34.6	13.5	0.0
	施設サービス	11	654	59.5	429	0.0	16.3	28.7	30.1	19.8	4.9	0.2
	その他の居宅サービス	64	177	2.8	137	0.0	0.7	12.4	34.3	29.2	20.4	2.9
職 種	訪問介護員	233	667	2.9	148	0.0	11.5	22.3	21.6	22.3	15.5	6.8
	介護職員	233	1,357	5.8	833	0.1	21.5	27.3	27.3	18.7	4.9	0.2
	看護師・准看護師	233	456	2.0	254	0.0	9.4	27.2	27.2	27.6	8.7	0.0
	機能訓練指導員	233	183	0.8	121	0.0	19.8	41.3	29.8	5.8	2.5	0.8
	介護支援専門員	233	192	0.8	160	0.0	0.6	18.1	31.9	29.4	17.5	2.5
	福祉用具専門相談員	233	50	0.2	43	0.0	14.0	32.6	27.9	9.3	9.3	7.0
	その他職員	233	443	1.9	188	0.0	6.4	22.9	36.2	22.9	6.9	4.8

② 年齢構成別従業員数（非正社員）

非正社員全体では50歳以上が6割以上。

サービス種別でみると、“訪問入浴介護”“介護療養型医療施設”は、「30歳代」が最も高くなっています。“訪問看護”“居宅介護支援”は、「40歳代」が最も高くなっています。“地域密着型通所介護”“特定施設入居者生活介護”は、「50歳代」「60歳代」が最も高くなっています。“訪問リハビリテーション”は、「70歳以上」が最も高くなっています。

サービス類型別でみると、“その他の居宅サービス”は、「40歳代」が最も高くなっています。

職種別でみると、“看護師・准看護師”“機能訓練指導員”は、「30歳代」が最も高くなっています。“介護支援専門員”は、「40歳代」が最も高くなっています。“その他職員”は、「70歳以上」が最も高くなっています。

図表 5-11 年齢構成別従業員数（非正社員）

		回 答 者 数	職 員 数 計 （人）	平 均 職 員 （人）	非 正 社 員 （人）	非正社員						
						2 0 歳 未 満	2 0 歳 代	3 0 歳 代	4 0 歳 代	5 0 歳 代	6 0 歳 代	7 0 歳 以 上
全体		233	3,348	14.4	1,601	0.5	4.8	12.0	18.6	18.4	29.0	16.7
サ ー ビ ス 種 別	訪問介護	43	603	14.0	466	0.0	1.7	7.3	15.7	20.8	28.5	26.0
	訪問入浴介護	4	32	8.0	16	0.0	6.3	62.5	18.8	0.0	6.3	6.3
	訪問看護	25	238	9.5	81	0.0	17.3	28.4	34.6	14.8	4.9	0.0
	訪問リハビリテーション	4	34	8.5	3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	66.7
	居宅療養管理指導	1	1	1.0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	通所介護	16	277	17.3	178	0.0	4.5	8.4	19.7	18.5	31.5	17.4
	通所リハビリテーション	4	92	23.0	31	0.0	0.0	0.0	12.9	12.9	71.0	3.2
	短期入所生活介護	10	496	49.6	200	2.0	5.5	13.0	21.5	15.0	28.0	15.0
	短期入所療養介護	2	136	68.0	49	0.0	6.1	26.5	14.3	8.2	40.8	4.1
	福祉用具貸与	12	55	4.6	9	0.0	0.0	0.0	11.1	22.2	66.7	0.0
	夜間対応型訪問介護	1	29	29.0	24	0.0	0.0	8.3	20.8	25.0	37.5	8.3
	認知症対応型通所介護	7	103	14.7	59	0.0	6.8	1.7	15.3	15.3	35.6	25.4
	地域密着型通所介護	16	181	11.3	106	0.0	8.5	11.3	14.2	28.3	28.3	9.4
	小規模多機能型居宅介護	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	定期巡回・随時対応型訪問介護看護	3	64	21.3	41	0.0	4.9	17.1	22.0	22.0	29.3	4.9
	認知症対応型共同生活介護	8	104	13.0	50	0.0	0.0	8.0	12.0	22.0	34.0	24.0
	特定施設入居者生活介護	3	73	24.3	23	0.0	8.7	21.7	17.4	26.1	26.1	0.0
	介護老人福祉施設	9	515	57.2	175	2.3	6.3	14.3	20.6	16.0	25.1	15.4
	介護老人保健施設	1	74	74.0	22	0.0	0.0	0.0	13.6	9.1	72.7	4.5
	介護療養型医療施設	1	65	65.0	28	0.0	10.7	46.4	17.9	7.1	14.3	3.6
	居宅介護支援	63	176	2.8	40	0.0	2.5	5.0	30.0	22.5	15.0	25.0
サ ー ビ ス 類 型	訪問系サービス	92	1,055	11.5	640	0.0	3.9	11.9	18.6	19.7	25.9	20.0
	通所系サービス	43	653	15.2	374	0.0	5.6	7.5	16.8	20.3	34.5	15.2
	短期入所サービス	12	632	52.7	249	1.6	5.6	15.7	20.1	13.7	30.5	12.9
	居住系サービス	11	177	16.1	73	0.0	2.7	12.3	13.7	23.3	31.5	16.4
	施設サービス	11	654	59.5	225	1.8	6.2	16.9	19.6	14.2	28.4	12.9
	その他の居宅サービス	64	177	2.8	40	0.0	2.5	5.0	30.0	22.5	15.0	25.0
職 種	訪問介護員	233	667	2.9	519	0.0	1.9	8.3	16.6	21.0	29.7	22.5
	介護職員	233	1,357	5.8	524	1.1	6.7	12.2	23.7	20.6	28.6	7.1
	看護師・准看護師	233	456	2.0	202	0.0	6.9	28.2	20.3	9.4	26.2	8.9
	機能訓練指導員	233	183	0.8	62	0.0	16.1	32.3	29.0	11.3	9.7	1.6
	介護支援専門員	233	192	0.8	32	0.0	0.0	9.4	37.5	25.0	18.8	9.4
	福祉用具専門相談員	233	50	0.2	7	0.0	0.0	0.0	14.3	14.3	71.4	0.0
	その他職員	233	443	1.9	255	0.8	3.1	2.0	6.3	16.5	35.3	36.1

(2) 採用・離職の状況

問8. 貴事業所における、過去1年間（平成30年10月1日から令和元年10月1日）の介護職員の採用者数と離職者数をお答えください。なお、無回答の場合には「0」として集計されます。（人数を記入）

① 採用者数（正社員）

正社員全体では「0人（無回答含む）」が5割以上。

サービス種別でみると、“訪問入浴介護”では、「0人」「1人」が最も高くなっています。“短期入所生活介護”では、「3人」が最も高くなっています。“短期入所療養介護”では、「5人」「10人以上」が最も高くなっています。“福祉用具貸与” 認知症対応型通所介護”では、「1人」が最も高くなっています。“定期巡回・随時対応型訪問介護看護”では、「0人」「1人」「2人」が最も高くなっています。“特定施設入居者生活介護”では、「1人」「6人～9人」「10人以上」が最も高くなっています。“介護老人福祉施設”では、「3人」「10人以上」が最も高くなっています。介護老人保健施設”では、「6人～9人」が最も高くなっています。“介護療養型医療施設”では、「10人以上」が最も高くなっています。上記以外では、「0人」が最も多くなっています。

サービス類型別でみると、“短期入所サービス”では、「3人」が最も高くなっています。“施設サービス”では、「10人以上」が最も高くなっています。上記以外では、「0人」が最も多くなっています。

図表 5-12 採用者数（正社員）

		回答者数	正社員									
			採用者数（人）	0人（無回答含む）	1人	2人	3人	4人	5人	6人～9人	10人以上	採用あり（％）
全体		233	337	55.4	22.3	6.4	6.0	1.3	1.3	3.4	3.9	44.6
サービス種別	訪問介護	43	16	72.1	18.6	9.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	27.9
	訪問入浴介護	4	2	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0
	訪問看護	25	60	32.0	16.0	8.0	16.0	12.0	4.0	8.0	4.0	68.0
	訪問リハビリテーション	4	3	75.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0
	居宅療養管理指導	1	0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	通所介護	16	11	56.3	25.0	12.5	6.3	0.0	0.0	0.0	0.0	43.8
	通所リハビリテーション	4	5	75.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0	25.0
	短期入所生活介護	10	64	20.0	0.0	0.0	40.0	0.0	0.0	20.0	20.0	80.0
	短期入所療養介護	2	16	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	50.0	100.0
	福祉用具貸与	12	10	33.3	50.0	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	66.7
	夜間対応型訪問介護	1	0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	認知症対応型通所介護	7	4	42.9	57.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	57.1
	地域密着型通所介護	16	8	56.3	37.5	6.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	43.8
	小規模多機能型居宅介護	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	定期巡回・随時対応型訪問介護看護	3	3	33.3	33.3	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	66.7
	認知症対応型共同生活介護	8	7	50.0	25.0	12.5	12.5	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0
	特定施設入居者生活介護	3	24	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	33.3	100.0
	介護老人福祉施設	9	69	11.1	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	22.2	33.3	88.9
	介護老人保健施設	1	6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	100.0
	介護療養型医療施設	1	11	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	100.0
	居宅介護支援	63	18	74.6	22.2	3.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.4
サービス類型	訪問系サービス	92	94	54.3	22.8	9.8	5.4	3.3	1.1	2.2	1.1	45.7
	通所系サービス	43	28	55.8	32.6	7.0	2.3	0.0	2.3	0.0	0.0	44.2
	短期入所サービス	12	80	16.7	0.0	0.0	33.3	0.0	8.3	16.7	25.0	83.3
	居住系サービス	11	31	36.4	27.3	9.1	9.1	0.0	0.0	9.1	9.1	63.6
	施設サービス	11	86	9.1	0.0	0.0	27.3	0.0	0.0	27.3	36.4	90.9
	その他の居宅サービス	64	18	75.0	21.9	3.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0
職種	訪問介護員	233	18	94.4	3.4	2.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	5.6
	介護職員	233	148	82.8	6.0	3.0	2.1	1.7	1.7	1.3	1.3	17.2
	看護師・准看護師	233	90	86.3	6.4	1.7	1.3	1.7	0.9	1.3	0.4	13.7
	機能訓練指導員	233	19	94.4	3.9	0.9	0.9	0.0	0.0	0.0	0.0	5.6
	介護支援専門員	233	20	92.3	6.9	0.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	7.7
	福祉用具専門相談員	233	10	96.6	2.6	0.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.4
	その他職員	233	32	92.3	5.2	1.7	0.0	0.0	0.0	0.9	0.0	7.7

② 採用者数（非正社員）

非正社員全体では「0人（無回答含む）」が6割以上。

サービス種別でみると、“通所介護”“介護老人保健施設”では、「3人」が最も高くなっています。“短期入所生活介護”“介護老人福祉施設”では、「6人～9人」が最も高くなっています。“短期入所療養介護”では、「3人」「5人」が最も高くなっています。“夜間対応型訪問介護”では、「4人」が最も高くなっています。“認知症対応型通所介護”では、「2人」が最も高くなっています。“地域密着型通所介護”では、「1人」「3人」が最も高くなっています。“定期巡回・随時対応型訪問介護看護”では、「2人」「4人」「5人」が最も高くなっています。“特定施設入居者生活介護”では、「0人」「1人」「6人～9人」が最も高くなっています。“介護療養型医療施設”では、「5人」が最も高くなっています。上記以外では、「0人」が最も多くなっています。

サービス類型別でみると、“通所系サービス”では、「0人」「1人」「3人」が最も高くなっています。“短期入所サービス”“施設サービス”では、「6人～9人」が最も高くなっています。上記以外では、「0人」が最も多くなっています。

図表 5-13 採用者数（非正社員）

		回答者数	非正社員									採用あり（％）
			採用者数（人）	0人（無回答含む）	1人	2人	3人	4人	5人	6人～9人	10人以上	
全体		233	309	60.1	10.7	7.3	7.7	5.6	2.1	5.6	0.9	39.9
サービス種別	訪問介護	43	50	65.1	9.3	11.6	2.3	2.3	0.0	9.3	0.0	34.9
	訪問入浴介護	4	4	75.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	25.0
	訪問看護	25	26	64.0	16.0	4.0	4.0	0.0	4.0	8.0	0.0	36.0
	訪問リハビリテーション	4	1	75.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0
	居宅療養管理指導	1	0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	通所介護	16	30	25.0	18.8	12.5	31.3	12.5	0.0	0.0	0.0	75.0
	通所リハビリテーション	4	4	50.0	25.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0
	短期入所生活介護	10	51	20.0	0.0	0.0	10.0	20.0	10.0	30.0	10.0	80.0
	短期入所療養介護	2	8	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0	100.0
	福祉用具貸与	12	1	91.7	8.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	8.3
	夜間対応型訪問介護	1	4	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	認知症対応型通所介護	7	8	28.6	28.6	42.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	71.4
	地域密着型通所介護	16	28	18.8	31.3	12.5	31.3	6.3	0.0	0.0	0.0	81.3
	小規模多機能型居宅介護	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	定期巡回・随時対応型訪問介護看護	3	11	0.0	0.0	33.3	0.0	33.3	33.3	0.0	0.0	100.0
	認知症対応型共同生活介護	8	13	50.0	0.0	12.5	12.5	25.0	0.0	0.0	0.0	50.0
	特定施設入居者生活介護	3	9	33.3	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	66.7
	介護老人福祉施設	9	46	22.2	0.0	0.0	11.1	22.2	0.0	33.3	11.1	77.8
	介護老人保健施設	1	3	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	介護療養型医療施設	1	5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	100.0
	居宅介護支援	63	7	92.1	4.8	3.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	7.9
サービス類型	訪問系サービス	92	97	66.3	10.9	7.6	2.2	4.3	2.2	6.5	0.0	33.7
	通所系サービス	43	70	25.6	25.6	16.3	25.6	7.0	0.0	0.0	0.0	74.4
	短期入所サービス	12	59	16.7	0.0	0.0	16.7	16.7	16.7	25.0	8.3	83.3
	居住系サービス	11	22	45.5	9.1	9.1	9.1	18.2	0.0	9.1	0.0	54.5
	施設サービス	11	54	18.2	0.0	0.0	18.2	18.2	9.1	27.3	9.1	81.8
	その他の居宅サービス	64	7	92.2	4.7	3.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	7.8
職種	訪問介護員	233	61	92.3	1.3	2.6	0.4	1.7	0.4	1.3	0.0	7.7
	介護職員	233	146	78.5	5.6	4.7	6.4	2.6	0.0	2.1	0.0	21.5
	看護師・准看護師	233	39	91.4	4.7	2.1	0.0	1.3	0.0	0.4	0.0	8.6
	機能訓練指導員	233	13	97.9	0.0	1.3	0.4	0.4	0.0	0.0	0.0	2.1
	介護支援専門員	233	7	97.9	1.3	0.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.1
	福祉用具専門相談員	233	1	99.6	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.4
	その他職員	233	42	90.6	6.4	0.0	1.3	0.9	0.9	0.0	0.0	9.4

③ 離職者数（正社員）

正社員全体では「0人（無回答含む）」が5割以上。

サービス種別でみると、“通所リハビリテーション”“定期巡回・随時対応型訪問介護看護”“特定施設入居者生活介護”では、「1人」が最も高くなっています。“短期入所生活介護”“介護療養型医療施設”では、「10人以上」が最も高くなっています。“短期入所療養介護”では、「6人～9人」「10人以上」が最も高くなっています。“地域密着型通所介護”では、「0人」「1人」が最も高くなっています。“介護老人福祉施設”では、「3人」「10人以上」が最も高くなっています。“介護老人保健施設”では、「6人～9人」が最も高くなっています。上記以外では、「0人」が最も多くなっています。

サービス類型別でみると、“短期入所サービス”“施設サービス”では、「10人以上」が最も高くなっています。“居住系サービス”では、「1人」が最も高くなっています。上記以外では、「0人」が最も多くなっています。

図表 5-14 離職者数（正社員）

		回 答 者 数	正社員										
			離職者数（人）	む 0 人（無回答含）	1 人	2 人	3 人	4 人	5 人	6 人 〜 9 人	1 0 人 以上	離職あり（％）	
全体		233	349	57.9	23.2	6.4	4.7	1.3	0.9	1.7	3.9	42.1	(%)
サービス種別	訪問介護	43	20	69.8	18.6	7.0	4.7	0.0	0.0	0.0	0.0	30.2	
	訪問入浴介護	4	1	75.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	
	訪問看護	25	17	64.0	16.0	12.0	4.0	4.0	0.0	0.0	0.0	36.0	
	訪問リハビリテーション	4	0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	居宅療養管理指導	1	0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	通所介護	16	10	56.3	31.3	6.3	6.3	0.0	0.0	0.0	0.0	43.8	
	通所リハビリテーション	4	12	0.0	50.0	25.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	100.0	
	短期入所生活介護	10	119	20.0	0.0	0.0	20.0	10.0	10.0	0.0	40.0	80.0	
	短期入所療養介護	2	21	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	50.0	100.0	
	福祉用具貸与	12	4	75.0	16.7	8.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	
	夜間対応型訪問介護	1	0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	認知症対応型通所介護	7	7	42.9	28.6	14.3	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0	57.1	
	地域密着型通所介護	16	8	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	
	小規模多機能型居宅介護	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	定期巡回・随時対応型訪問介護看護	3	2	33.3	66.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	66.7	
	認知症対応型共同生活介護	8	9	37.5	25.0	25.0	12.5	0.0	0.0	0.0	0.0	62.5	
	特定施設入居者生活介護	3	4	0.0	66.7	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	
	介護老人福祉施設	9	73	0.0	0.0	0.0	33.3	11.1	11.1	11.1	33.3	100.0	
	介護老人保健施設	1	9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	100.0	
	介護療養型医療施設	1	13	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	100.0	
	居宅介護支援	63	20	71.4	25.4	3.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	28.6	
サービス類型	訪問系サービス	92	44	69.6	18.5	7.6	3.3	1.1	0.0	0.0	0.0	30.4	
	通所系サービス	43	37	46.5	39.5	7.0	4.7	0.0	0.0	2.3	0.0	53.5	
	短期入所サービス	12	140	16.7	0.0	0.0	16.7	8.3	8.3	8.3	41.7	83.3	
	居住系サービス	11	13	27.3	36.4	27.3	9.1	0.0	0.0	0.0	0.0	72.7	
	施設サービス	11	95	0.0	0.0	0.0	27.3	9.1	9.1	18.2	36.4	100.0	
	その他の居宅サービス	64	20	71.9	25.0	3.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	28.1	
職種	訪問介護員	233	20	94.4	3.4	1.3	0.9	0.0	0.0	0.0	0.0	5.6	
	介護職員	233	196	79.8	9.0	4.3	1.3	0.0	2.6	1.7	1.3	20.2	
	看護師・准看護師	233	59	89.7	4.3	3.4	1.3	0.4	0.0	0.0	0.9	10.3	
	機能訓練指導員	233	5	98.3	1.3	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.7	
	介護支援専門員	233	22	91.4	7.7	0.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	8.6	
	福祉用具専門相談員	233	4	98.7	0.9	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.3	
	その他職員	233	43	91.8	3.4	1.7	2.1	0.0	0.0	0.9	0.0	8.2	

④ 離職者数（非正社員）

非正社員全体では「0人（無回答含む）」が6割以上。

サービス種別でみると、“通所介護”“通所リハビリテーション”“特定施設入居者生活介護”では、「1人」が最も高くなっています。“短期入所生活介護”“介護老人福祉施設”では、「6人～9人」が最も高くなっています。“短期入所療養介護”では、「3人」「5人」が最も高くなっています。“夜間対応型訪問介護”では、「2人」が最も高くなっています。“地域密着型通所介護”では、「0人」「1人」「2人」が最も高くなっています。“定期巡回・随時対応型訪問介護看護”では、「0人」「2人」「5人」が最も高くなっています。“認知症対応型共同生活介護”では、「0人」「2人」が最も高くなっています。“介護老人保健施設”では、「3人」が最も高くなっています。“介護療養型医療施設”では、「5人」が最も高くなっています。上記以外では、「0人」が最も多くなっています。

サービス類型別でみると、“通所系サービス”では、「1人」が最も高くなっています。“短期入所サービス”“施設サービス”では、「3人」「6人～9人」が最も高くなっています。“居住系サービス”では、「1人」「2人」が最も高くなっています。上記以外では、「0人」が最も多くなっています。

図表 5-15 離職者数（非正社員）

		回 答 者 数	非正社員										
			離職者数 (人)	む 0 人 (無回答含)	1 人	2 人	3 人	4 人	5 人	6 人 〜 9 人	1 0 人 以上	離職あり (%)	
全体		233	255	60.9	12.9	9.4	5.2	4.7	2.1	4.3	0.4	39.1	(%)
サ ー ビ ス 種 別	訪問介護	43	44	62.8	11.6	11.6	4.7	4.7	2.3	0.0	2.3	37.2	
	訪問入浴介護	4	0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	訪問看護	25	13	64.0	20.0	16.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	36.0	
	訪問リハビリテーション	4	0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	居宅療養管理指導	1	0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	通所介護	16	30	31.3	37.5	0.0	0.0	18.8	0.0	12.5	0.0	68.8	
	通所リハビリテーション	4	5	25.0	50.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	75.0	
	短期入所生活介護	10	37	20.0	0.0	10.0	20.0	20.0	0.0	30.0	0.0	80.0	
	短期入所療養介護	2	8	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0	100.0	
	福祉用具貸与	12	0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	夜間対応型訪問介護	1	2	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	
	認知症対応型通所介護	7	12	42.9	28.6	0.0	0.0	14.3	0.0	14.3	0.0	57.1	
	地域密着型通所介護	16	27	25.0	25.0	25.0	12.5	6.3	6.3	0.0	0.0	75.0	
	小規模多機能型居宅介護	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	定期巡回・随時対応型訪問介護看護	3	7	33.3	0.0	33.3	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	66.7	
	認知症対応型共同生活介護	8	18	25.0	12.5	25.0	12.5	12.5	0.0	12.5	0.0	75.0	
	特定施設入居者生活介護	3	4	0.0	66.7	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	
	介護老人福祉施設	9	33	22.2	0.0	11.1	22.2	11.1	0.0	33.3	0.0	77.8	
	介護老人保健施設	1	3	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	
	介護療養型医療施設	1	5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	100.0	
居宅介護支援	63	7	92.1	4.8	3.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	7.9		
サ ー ビ ス 類 型	訪問系サービス	92	66	69.6	10.9	12.0	2.2	2.2	2.2	0.0	1.1	30.4	
	通所系サービス	43	74	30.2	32.6	9.3	7.0	11.6	2.3	7.0	0.0	69.8	
	短期入所サービス	12	45	16.7	0.0	8.3	25.0	16.7	8.3	25.0	0.0	83.3	
	居住系サービス	11	22	18.2	27.3	27.3	9.1	9.1	0.0	9.1	0.0	81.8	
	施設サービス	11	41	18.2	0.0	9.1	27.3	9.1	9.1	27.3	0.0	81.8	
	その他の居宅サービス	64	7	92.2	4.7	3.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	7.8	
職 種	訪問介護員	233	52	92.3	1.7	3.0	0.9	0.9	0.9	0.0	0.4	7.7	
	介護職員	233	96	80.3	7.7	6.4	3.0	1.7	0.4	0.4	0.0	19.7	
	看護師・准看護師	233	45	88.8	8.2	1.3	0.0	0.0	1.7	0.0	0.0	11.2	
	機能訓練指導員	233	11	96.6	2.6	0.4	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	3.4	
	介護支援専門員	233	8	97.4	1.7	0.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.6	
	福祉用具専門相談員	233	0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	その他職員	233	43	90.1	6.4	1.7	0.0	0.0	1.7	0.0	0.0	9.9	

⑤ 離職者数に対する採用者数の比率（合計）

離職者数に対する採用者数の比率についてみると、全体では100以上。

サービス種別でみると、“通所リハビリテーション”“短期入所生活介護”“短期入所療養介護”“認知症対応型通所介護”“認知症対応型共同生活介護”“介護老人保健施設”“介護療養型医療施設”“居宅介護支援”は、採用者数が離職者数を下回っています。

サービス類型別でみると、“通所系サービス”“短期入所サービス”“その他の居宅サービス”は、採用者数が離職者数を下回っています。

法人種別でみると、“社会福祉法人”“医療法人社団”“協同組合”は、採用者数が離職者数を下回っています。

職種別でみると、“介護支援専門員”“その他職員”は、採用者数が離職者数を下回っています。

図表 5-16 離職者数に対する採用者数の比率（合計）

		回 答 者 数	合計						
			職 員 数 （人）	採 用 者 数 （人）	離 職 者 数 （人）	採 用 と 離 職 の 差 分	採 用 率 （％）	離 職 率 （％）	採 用 者 数 の 比 率 （％） （離職者数に 対する）
全体		233	3348	646	604	42	19.3	18.0	107.0
サ ー ビ ス 種 別	訪問介護	43	603	66	64	2	10.9	10.6	103.1
	訪問入浴介護	4	32	6	1	5	18.8	3.1	600.0
	訪問看護	25	238	86	30	56	36.1	12.6	286.7
	訪問リハビリテーション	4	34	4	0	4	11.8	0.0	0.0
	居宅療養管理指導	1	1	0	0	0	0.0	0.0	0.0
	通所介護	16	277	41	40	1	14.8	14.4	102.5
	通所リハビリテーション	4	92	9	17	-8	9.8	18.5	52.9
	短期入所生活介護	10	496	115	156	-41	23.2	31.5	73.7
	短期入所療養介護	2	136	24	29	-5	17.6	21.3	82.8
	福祉用具貸与	12	55	11	4	7	20.0	7.3	275.0
	夜間対応型訪問介護	1	29	4	2	2	13.8	6.9	200.0
	認知症対応型通所介護	7	103	12	19	-7	11.7	18.4	63.2
	地域密着型通所介護	16	181	36	35	1	19.9	19.3	102.9
	小規模多機能型居宅介護	0	-	-	-	-	-	-	-
	定期巡回・随時対応型訪問介護看護	3	64	14	9	5	21.9	14.1	155.6
	認知症対応型共同生活介護	8	104	20	27	-7	19.2	26.0	74.1
	特定施設入居者生活介護	3	73	33	8	25	45.2	11.0	412.5
	介護老人福祉施設	9	515	115	106	9	22.3	20.6	108.5
	介護老人保健施設	1	74	9	12	-3	12.2	16.2	75.0
	介護療養型医療施設	1	65	16	18	-2	24.6	27.7	88.9
	居宅介護支援	63	176	25	27	-2	14.2	15.3	92.6
サ ー ビ ス 類 型	訪問系サービス	92	1055	191	110	81	18.1	10.4	173.6
	通所系サービス	43	653	98	111	-13	15.0	17.0	88.3
	短期入所サービス	12	632	139	185	-46	22.0	29.3	75.1
	居住系サービス	11	177	53	35	18	29.9	19.8	151.4
	施設サービス	11	654	140	136	4	21.4	20.8	102.9
	その他の居宅サービス	64	177	25	27	-2	14.1	15.3	92.6
法 人 種 別	株式会社	104	1119	245	150	95	21.9	13.4	163.3
	有限会社	38	303	43	38	5	14.2	12.5	113.2
	社会福祉法人	41	1288	260	311	-51	20.2	24.1	83.6
	特定非営利活動法人	9	92	7	7	0	7.6	7.6	100.0
	合同会社	10	39	5	5	0	12.8	12.8	100.0
	医療法人社団	23	450	69	88	-19	15.3	19.6	78.4
	一般社団法人	3	18	16	0	16	88.9	0.0	0.0
	協同組合	4	33	0	4	-4	0.0	12.1	0.0
	公益社団法人	1	6	1	1	0	16.7	16.7	100.0
職 種	訪問介護員	233	667	79	72	7	11.8	10.8	109.7
	介護職員	233	1357	294	292	2	21.7	21.5	100.7
	看護師・准看護師	233	456	129	104	25	28.3	22.8	124.0
	機能訓練指導員	233	183	32	16	16	17.5	8.7	200.0
	介護支援専門員	233	192	27	30	-3	14.1	15.6	90.0
	福祉用具専門相談員	233	50	11	4	7	22.0	8.0	275.0
	その他職員	233	443	74	86	-12	16.7	19.4	86.0

⑥ 離職者数に対する採用者数の比率（正社員）

サービス種別でみると、“訪問介護”“通所リハビリテーション”“短期入所生活介護”“短期入所療養介護”“認知症対応型通所介護”“認知症対応型共同生活介護”“介護老人福祉施設”“介護老人保健施設”“介護療養型医療施設”“居宅介護支援”は、採用者数が離職者数を下回っています。

サービス類型別でみると、“通所系サービス”“短期入所サービス”“施設サービス”“その他の居宅サービス”は、採用者数が離職者数を下回っています。

法人種別でみると、“有限会社”“社会福祉法人”“医療法人社団”“協同組合”は、採用者数が離職者数を下回っています。

職種別でみると、“訪問介護員”“介護職員”“介護支援専門員”“その他職員”は、採用者数が離職者数を下回っています。

図表 5-17 離職者数に対する採用者数の比率（正社員）

		回 答 者 数	正社員						
			職 員 数 （人）	採 用 者 数 （人）	離 職 者 数 （人）	採 用 と 離 職 の 差 分	採 用 率 （ ％ ）	離 職 率 （ ％ ）	採 用 者 数 の 比 率 （ ％ ）
全体		233	1747	337	349	-12	19.3	20.0	96.6
サ ー ビ ス 種 別	訪問介護	43	137	16	20	-4	11.7	14.6	80.0
	訪問入浴介護	4	16	2	1	1	12.5	6.3	200.0
	訪問看護	25	157	60	17	43	38.2	10.8	352.9
	訪問リハビリテーション	4	31	3	0	3	9.7	0.0	0.0
	居宅療養管理指導	1	1	0	0	0	0.0	0.0	0.0
	通所介護	16	99	11	10	1	11.1	10.1	110.0
	通所リハビリテーション	4	61	5	12	-7	8.2	19.7	41.7
	短期入所生活介護	10	296	64	119	-55	21.6	40.2	53.8
	短期入所療養介護	2	87	16	21	-5	18.4	24.1	76.2
	福祉用具貸与	12	46	10	4	6	21.7	8.7	250.0
	夜間対応型訪問介護	1	5	0	0	0	0.0	0.0	0.0
	認知症対応型通所介護	7	44	4	7	-3	9.1	15.9	57.1
	地域密着型通所介護	16	75	8	8	0	10.7	10.7	100.0
	小規模多機能型居宅介護	0	-	-	-	-	-	-	-
	定期巡回・随時対応型訪問介護看護	3	23	3	2	1	13.0	8.7	150.0
	認知症対応型共同生活介護	8	54	7	9	-2	13.0	16.7	77.8
	特定施設入居者生活介護	3	50	24	4	20	48.0	8.0	600.0
	介護老人福祉施設	9	340	69	73	-4	20.3	21.5	94.5
	介護老人保健施設	1	52	6	9	-3	11.5	17.3	66.7
	介護療養型医療施設	1	37	11	13	-2	29.7	35.1	84.6
	居宅介護支援	63	136	18	20	-2	13.2	14.7	90.0
サ ー ビ ス 類 型	訪問系サービス	92	415	94	44	50	22.7	10.6	213.6
	通所系サービス	43	279	28	37	-9	10.0	13.3	75.7
	短期入所サービス	12	383	80	140	-60	20.9	36.6	57.1
	居住系サービス	11	104	31	13	18	29.8	12.5	238.5
	施設サービス	11	429	86	95	-9	20.0	22.1	90.5
	その他の居宅サービス	64	137	18	20	-2	13.1	14.6	90.0
法 人 種 別	株式会社	104	476	113	60	53	23.7	12.6	188.3
	有限会社	38	128	17	18	-1	13.3	14.1	94.4
	社会福祉法人	41	759	143	208	-65	18.8	27.4	68.8
	特定非営利活動法人	9	30	0	0	0	0.0	0.0	0.0
	合同会社	10	19	4	4	0	21.1	21.1	100.0
	医療法人社団	23	301	44	58	-14	14.6	19.3	75.9
	一般社団法人	3	17	15	0	15	88.2	0.0	0.0
	協同組合	4	12	0	1	-1	0.0	8.3	0.0
	公益社団法人	1	5	1	0	1	20.0	0.0	0.0
職 種	訪問介護員	233	148	18	20	-2	12.2	13.5	90.0
	介護職員	233	833	148	196	-48	17.8	23.5	75.5
	看護師・准看護師	233	254	90	59	31	35.4	23.2	152.5
	機能訓練指導員	233	121	19	5	14	15.7	4.1	380.0
	介護支援専門員	233	160	20	22	-2	12.5	13.8	90.9
	福祉用具専門相談員	233	43	10	4	6	23.3	9.3	250.0
	その他職員	233	188	32	43	-11	17.0	22.9	74.4

⑦ 採用者数に対する離職者数の比率（非正社員）

サービス種別でみると、“通所リハビリテーション”“認知症対応型通所介護”“認知症対応型共同生活介護”は、採用者数が離職者数を下回っています。

サービス類型別でみると、“通所系サービス”は、採用者数が離職者数を下回っています。

法人種別でみると、“医療法人社団”“協同組合”“公益社団法人”は、採用者数が離職者数を下回っています。

職種別でみると、“看護師・准看護師”“介護支援専門員”“その他職員”は、採用者数が離職者数を下回っています。

図表 5-18 採用者数に対する離職者数の比率（非正社員）

		回 答 者 数	非正社員						
			職 員 数 （人）	採 用 者 数 （人）	離 職 者 数 （人）	採 用 と 離 職 の 差 分	採 用 率 （％）	離 職 率 （％）	採 用 者 数 に 対 する 離 職 者 数 の 比 率 （％）
全体		233	1601	309	255	54	19.3	15.9	121.2
サ ー ビ ス 種 別	訪問介護	43	466	50	44	6	10.7	9.4	113.6
	訪問入浴介護	4	16	4	0	4	25.0	0.0	0.0
	訪問看護	25	81	26	13	13	32.1	16.0	200.0
	訪問リハビリテーション	4	3	1	0	1	33.3	0.0	0.0
	居宅療養管理指導	1	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0
	通所介護	16	178	30	30	0	16.9	16.9	100.0
	通所リハビリテーション	4	31	4	5	-1	12.9	16.1	80.0
	短期入所生活介護	10	200	51	37	14	25.5	18.5	137.8
	短期入所療養介護	2	49	8	8	0	16.3	16.3	100.0
	福祉用具貸与	12	9	1	0	1	11.1	0.0	0.0
	夜間対応型訪問介護	1	24	4	2	2	16.7	8.3	200.0
	認知症対応型通所介護	7	59	8	12	-4	13.6	20.3	66.7
	地域密着型通所介護	16	106	28	27	1	26.4	25.5	103.7
	小規模多機能型居宅介護	0	-	-	-	-	-	-	-
	定期巡回・随時対応型訪問介護看護	3	41	11	7	4	26.8	17.1	157.1
	認知症対応型共同生活介護	8	50	13	18	-5	26.0	36.0	72.2
	特定施設入居者生活介護	3	23	9	4	5	39.1	17.4	225.0
	介護老人福祉施設	9	175	46	33	13	26.3	18.9	139.4
	介護老人保健施設	1	22	3	3	0	13.6	13.6	100.0
	介護療養型医療施設	1	28	5	5	0	17.9	17.9	100.0
	居宅介護支援	63	40	7	7	0	17.5	17.5	100.0
サ ー ビ ス 類 型	訪問系サービス	92	640	97	66	31	15.2	10.3	147.0
	通所系サービス	43	374	70	74	-4	18.7	19.8	94.6
	短期入所サービス	12	249	59	45	14	23.7	18.1	131.1
	居住系サービス	11	73	22	22	0	30.1	30.1	100.0
	施設サービス	11	225	54	41	13	24.0	18.2	131.7
	その他の居宅サービス	64	40	7	7	0	17.5	17.5	100.0
法 人 種 別	株式会社	104	643	132	90	42	20.5	14.0	146.7
	有限会社	38	175	26	20	6	14.9	11.4	130.0
	社会福祉法人	41	529	117	103	14	22.1	19.5	113.6
	特定非営利活動法人	9	62	7	7	0	11.3	11.3	100.0
	合同会社	10	20	1	1	0	5.0	5.0	100.0
	医療法人社団	23	149	25	30	-5	16.8	20.1	83.3
	一般社団法人	3	1	1	0	1	100.0	0.0	0.0
	協同組合	4	21	0	3	-3	0.0	14.3	0.0
	公益社団法人	1	1	0	1	-1	0.0	100.0	0.0
職 種	訪問介護員	233	519	61	52	9	11.8	10.0	117.3
	介護職員	233	524	146	96	50	27.9	18.3	152.1
	看護師・准看護師	233	202	39	45	-6	19.3	22.3	86.7
	機能訓練指導員	233	62	13	11	2	21.0	17.7	118.2
	介護支援専門員	233	32	7	8	-1	21.9	25.0	87.5
	福祉用具専門相談員	233	7	1	0	1	14.3	0.0	0.0
	その他職員	233	255	42	43	-1	16.5	16.9	97.7

(3) 募集人数

問9. 貴事業所で実施する介護サービスに従事する職員について、職種・雇用形態ごとの現在募集している人数をお答えください。なお、無回答の場合には「0」として集計されます。(人数を記入)

全体では正社員・非正社員ともに「0人(無回答含む)」が6割以上。

① 募集人数(正社員)

サービス種別でみると、“短期入所療養介護”“夜間対応型訪問介護”“介護老人保健施設”では、「3人」が最も高くなっています。“定期巡回・随時対応型訪問介護看護”では、「1人」「3人」「10人以上」が最も高くなっています。“特定施設入居者生活介護”では、「0人」「2人」「3人」が最も高くなっています。“介護療養型医療施設”では、「6人～9人」が最も高くなっています。上記以外では、「0人」が最も多くなっています。

図表 5-19 募集人数（正社員）

		回 答 者 数	正社員										
			募 集 人 （人）	0人 （無回答含む）	1人	2人	3人	4人	5人	6人 ～ 9人	10人 以上	募集あり （％）	
全体		233	229	64.8	13.7	8.2	5.6	2.6	2.1	1.7	1.3	35.2	(%)
サービス 種別	訪問介護	43	34	58.1	20.9	11.6	4.7	2.3	2.3	0.0	0.0	41.9	
	訪問入浴介護	4	9	50.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	50.0	
	訪問看護	25	46	44.0	12.0	20.0	4.0	8.0	4.0	4.0	4.0	56.0	
	訪問リハビリテーション	4	21	50.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	50.0	
	居宅療養管理指導	1	0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	通所介護	16	8	75.0	12.5	6.3	0.0	6.3	0.0	0.0	0.0	25.0	
	通所リハビリテーション	4	4	50.0	25.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	
	短期入所生活介護	10	10	70.0	0.0	10.0	10.0	0.0	10.0	0.0	0.0	30.0	
	短期入所療養介護	2	11	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	50.0	0.0	100.0	
	福祉用具貸与	12	8	75.0	0.0	16.7	0.0	8.3	0.0	0.0	0.0	25.0	
	夜間対応型訪問介護	1	3	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	
	認知症対応型通所介護	7	0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	地域密着型通所介護	16	4	75.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	
	小規模多機能型居宅介護	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	定期巡回・随時対応型訪問介護看護	3	15	0.0	33.3	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	33.3	100.0	
	認知症対応型共同生活介護	8	3	62.5	37.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	37.5	
	特定施設入居者生活介護	3	5	33.3	0.0	33.3	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	66.7	
	介護老人福祉施設	9	11	55.6	11.1	11.1	11.1	0.0	11.1	0.0	0.0	44.4	
	介護老人保健施設	1	3	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	
	介護療養型医療施設	1	8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	100.0	
	居宅介護支援	63	26	79.4	11.1	3.2	3.2	1.6	1.6	0.0	0.0	20.6	
サービス 類型	訪問系サービス	92	136	53.3	15.2	14.1	5.4	4.3	2.2	2.2	3.3	46.7	
	通所系サービス	43	16	76.7	16.3	2.3	2.3	2.3	0.0	0.0	0.0	23.3	
	短期入所サービス	12	21	58.3	0.0	8.3	16.7	0.0	8.3	8.3	0.0	41.7	
	居住系サービス	11	8	54.5	27.3	9.1	9.1	0.0	0.0	0.0	0.0	45.5	
	施設サービス	11	22	45.5	9.1	9.1	18.2	0.0	9.1	9.1	0.0	54.5	
	その他の居宅サービス	64	26	79.7	10.9	3.1	3.1	1.6	1.6	0.0	0.0	20.3	
職種	訪問介護員	233	51	90.6	4.3	2.1	2.1	0.0	0.4	0.0	0.4	9.4	
	介護職員	233	51	88.8	6.0	2.6	0.4	1.7	0.0	0.4	0.0	11.2	
	看護師・准看護師	233	59	88.8	5.2	3.0	0.4	2.1	0.0	0.0	0.4	11.2	
	機能訓練指導員	233	28	97.0	1.3	1.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.4	3.0	
	介護支援専門員	233	26	94.4	3.0	0.9	0.9	0.4	0.4	0.0	0.0	5.6	
	福祉用具専門相談員	233	7	98.7	0.4	0.4	0.0	0.4	0.0	0.0	0.0	1.3	
	その他職員	233	7	97.0	3.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.0	

② 募集人数（非正社員）

サービス種別でみると、“訪問介護” 認知症対応型共同生活介護”では、「2人」が最も高くなっています。“夜間対応型訪問介護”では、「10人以上」が最も高くなっています。

“地域密着型通所介護”では、「1人」が最も高くなっています。“定期巡回・随時対応型訪問介護看護”では、「1人」「4人」「10人以上」が最も高くなっています。上記以外では、「0人」が最も多くなっています。

サービス類型別でみると、“居住系サービス”では、「2人」が最も高くなっています。上記以外では、「0人」が最も多くなっています。

図表 5-20 募集人数（非正社員）

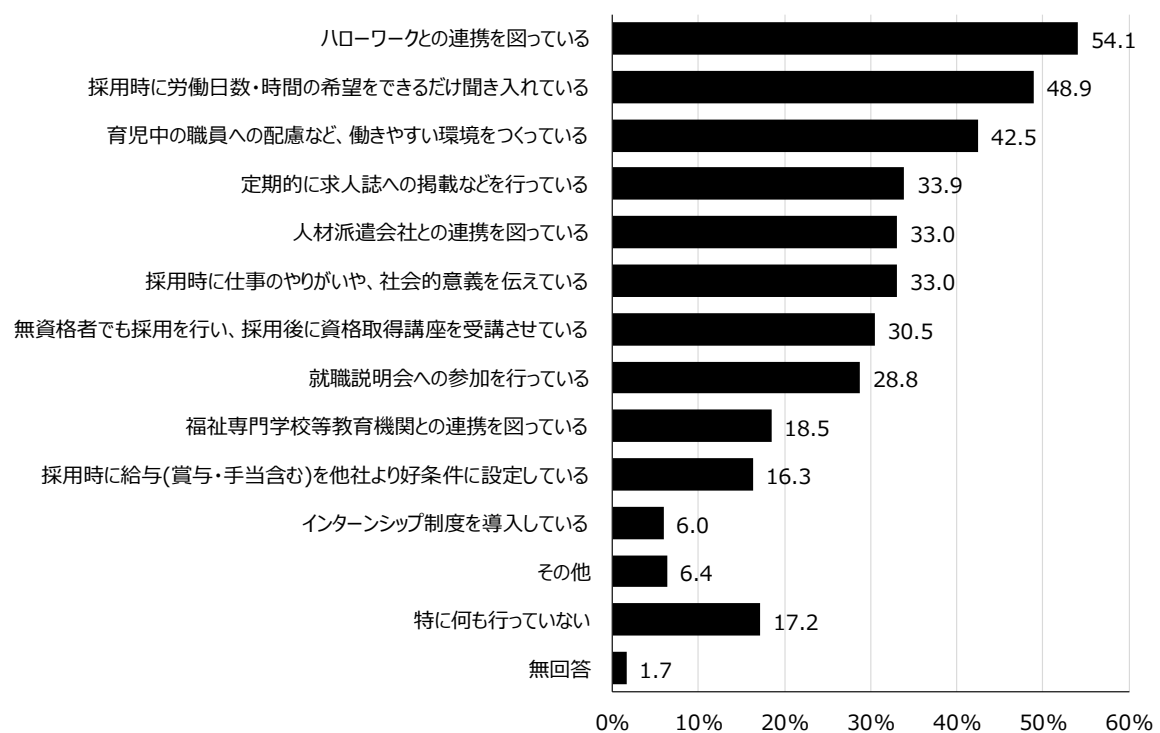
		回 答 者 数	非正社員										募 集 あ り （ ％ ）
			募 集 人 （ 人 ）	0 人 （ 無 回 答 含 む ）	1 人	2 人	3 人	4 人	5 人	6 人 ～ 9 人	1 0 人 以 上		
全体		233	276	62.2	11.2	12.9	5.2	1.3	3.4	0.9	3.0	37.8	(%)
サ ー ビ ス 種 別	訪問介護	43	157	23.3	2.3	32.6	9.3	0.0	16.3	4.7	11.6	76.7	
	訪問入浴介護	4	2	75.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	
	訪問看護	25	19	64.0	20.0	4.0	4.0	4.0	4.0	0.0	0.0	36.0	
	訪問リハビリテーション	4	2	75.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	
	居宅療養管理指導	1	0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	通所介護	16	21	43.8	12.5	18.8	18.8	6.3	0.0	0.0	0.0	56.3	
	通所リハビリテーション	4	2	75.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	
	短期入所生活介護	10	6	70.0	10.0	10.0	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0	30.0	
	短期入所療養介護	2	0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	福祉用具貸与	12	0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	夜間対応型訪問介護	1	10	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	100.0	
	認知症対応型通所介護	7	3	71.4	14.3	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	28.6	
	地域密着型通所介護	16	12	37.5	50.0	12.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	62.5	
	小規模多機能型居宅介護	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	定期巡回・随時対応型訪問介護看護	3	15	0.0	33.3	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	33.3	100.0	
	認知症対応型共同生活介護	8	12	12.5	37.5	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	87.5	
	特定施設入居者生活介護	3	3	66.7	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	
	介護老人福祉施設	9	8	66.7	0.0	11.1	22.2	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	
	介護老人保健施設	1	0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	介護療養型医療施設	1	0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	居宅介護支援	63	4	93.7	6.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	6.3	
サ ー ビ ス 類 型	訪問系サービス	92	205	47.8	7.6	18.5	5.4	2.2	8.7	2.2	7.6	52.2	
	通所系サービス	43	38	48.8	25.6	16.3	7.0	2.3	0.0	0.0	0.0	51.2	
	短期入所サービス	12	6	75.0	8.3	8.3	8.3	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	
	居住系サービス	11	15	27.3	27.3	36.4	9.1	0.0	0.0	0.0	0.0	72.7	
	施設サービス	11	8	72.7	0.0	9.1	18.2	0.0	0.0	0.0	0.0	27.3	
	その他の居宅サービス	64	4	93.8	6.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	6.3	
職 種	訪問介護員	233	180	84.1	0.9	6.0	2.1	0.4	2.6	0.9	3.0	15.9	
	介護職員	233	46	87.1	8.2	3.0	1.7	0.0	0.0	0.0	0.0	12.9	
	看護師・准看護師	233	21	93.1	5.6	0.4	0.9	0.0	0.0	0.0	0.0	6.9	
	機能訓練指導員	233	8	97.9	0.9	1.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.2	
	介護支援専門員	233	4	98.3	1.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.7	
	福祉用具専門相談員	233	0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	その他職員	233	17	94.8	3.0	2.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	5.2	

(4) 人材の確保に向けた取り組み

問10. 貴事業所では、人材の確保に向けて、どのような取り組みを行っていますか。(あてはまるものすべてに○)

人材確保に向けた取り組みは、上位より「ハローワークとの連携を図っている」(54.1%)、「採用時に労働日数・時間の希望をできるだけ聞き入れている」(48.9%)、「育児中の職員への配慮など、働きやすい環境をつくっている」(42.5%)の順。

図表 5-21 人材の確保に向けた取り組み (n=233)



法人種別でみると、“有限会社”は「採用時に労働日数・時間の希望をできるだけ聞き入れている」が最も高くなっています。“合同会社”は、「採用時に労働日数・時間の希望をできるだけ聞き入れている」「特に何も行っていない」が最も高くなっています。“一般社団法人”は、「採用時に労働日数・時間の希望をできるだけ聞き入れている」「採用時に仕事のやりがいや、社会的意義を伝えている」が最も高くなっています。“協同組合”は、「就職説明会への参加を行っている」「ハローワークとの連携を図っている」「採用時に労働日数・時間の希望をできるだけ聞き入れている」が最も高くなっています。“公益社団法人”は、「定期的に求人誌への掲載などを行っている」「就職説明会への参加を行っている」「ハローワークとの連携を図っている」「採用時に給与(賞与・手当含む)を他社より好条件に設定している」「育児中の職員への配慮など、働きやすい環境をつくっている」「採用時に仕事のやりがいや、社会的意義を伝えている」が最も高くなっています。

図表 5-22 法人種別の人材の確保に向けた取り組み

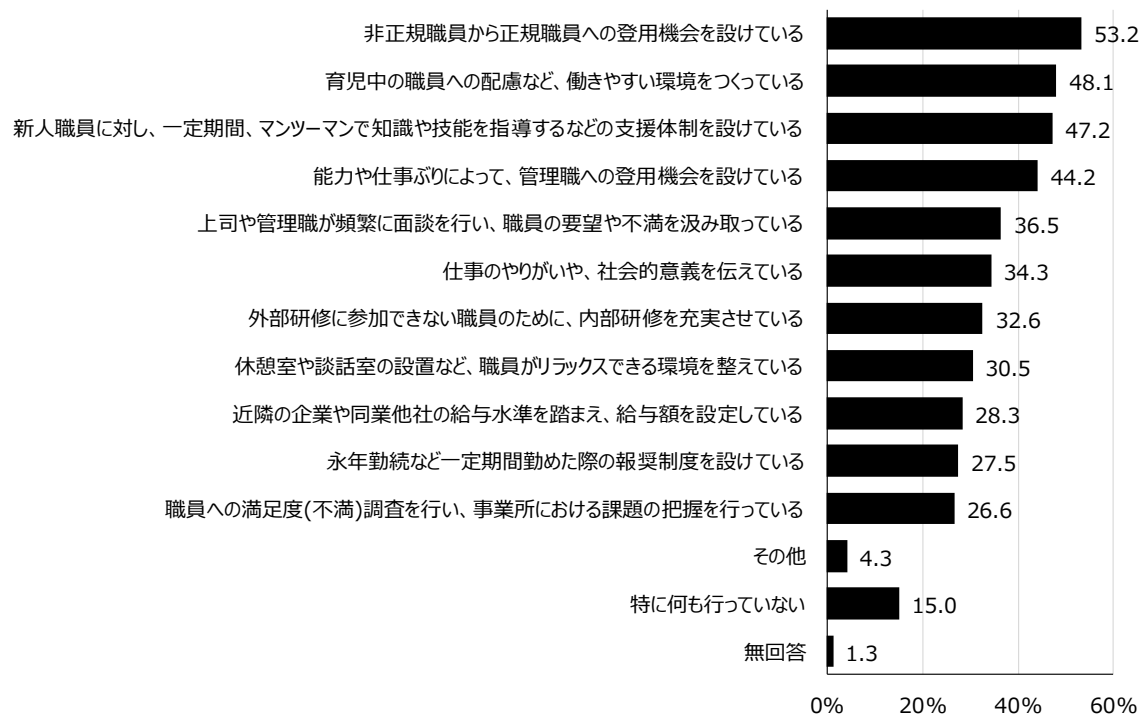
		回答者数	定期的に求人誌への掲載などを行っている	就職説明会への参加を行っている	福祉専門学校等教育機関との連携を図っている	ハローワークとの連携を図っている	人材派遣会社との連携を図っている	無資格者でも採用を行い、採用後に資格取得講座を受講させている	他社より好条件に給与(賞与・手当含む)を設定している	採用時に労働日数・時間の希望をできるだけ聞き入れている	育児中の職員への配慮など、働きやすい環境をつくっている	社会的意義を伝えている	採用時に仕事のやりがいや、社会的意義を伝えている	インターンシップ制度を導入している	その他	特に何も行っていない	無回答
全体		233	33.9	28.8	18.5	54.1	33.0	30.5	16.3	48.9	42.5	33.0	6.0	6.4	17.2	1.7	(%)
法人種別	株式会社	104	45.2	26.9	10.6	55.8	37.5	31.7	16.3	44.2	43.3	35.6	1.9	5.8	13.5	1.9	
	有限会社	38	23.7	10.5	21.1	44.7	15.8	26.3	18.4	47.4	31.6	34.2	13.2	7.9	28.9	0.0	
	社会福祉法人	41	22.0	68.3	41.5	70.7	46.3	51.2	22.0	68.3	53.7	31.7	14.6	9.8	4.9	0.0	
	特定非営利活動法人	9	11.1	0.0	0.0	55.6	11.1	22.2	0.0	44.4	33.3	22.2	0.0	0.0	33.3	11.1	
	合同会社	10	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	20.0	40.0	10.0	30.0	0.0	10.0	40.0	10.0	
	医療法人社団	23	39.1	17.4	30.4	60.9	43.5	8.7	4.3	43.5	56.5	21.7	0.0	4.3	17.4	0.0	
	一般社団法人	3	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	33.3	66.7	33.3	66.7	33.3	0.0	33.3	0.0	
	協同組合	4	25.0	50.0	0.0	50.0	25.0	25.0	0.0	50.0	25.0	25.0	0.0	0.0	25.0	0.0	
	公益社団法人	1	100.0	100.0	0.0	100.0	0.0	0.0	100.0	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	

(5) 人材の定着・育成に向けた取り組み

問11. 貴事業所では、人材の定着・育成（離職の防止）について、どのような取り組みを行っていますか。（あてはまるものすべてに○）

人材の定着・育成に向けた取り組みは、「非正規職員から正規職員への登用機会を設けている」(53.2%)、「育児中の職員への配慮など、働きやすい環境をつくっている」(48.1%)、「新人職員に対し、一定期間、マンツーマンで知識や技能を指導するなどの支援体制を設けている」(47.2%)の順。

図表 5-23 人材の定着・育成に向けた取り組み (n=233)



法人種別でみると、“特定非営利活動法人”は、「新人職員に対し、一定期間、マンツーマンで知識や技能を指導するなどの支援体制を設けている」が最も高くなっています。“合同会社”は、「新人職員に対し、一定期間、マンツーマンで知識や技能を指導するなどの支援体制を設けている」「休憩室や談話室の設置など、職員がリラックスできる環境を整えている」「仕事のやりがいや、社会的意義を伝えている」「特に何も行っていない」が最も高くなっています。“医療法人社団”“協同組合”は、「育児中の職員への配慮など、働きやすい環境をつくっている」が最も高くなっています。“一般社団法人”は、「近隣の企業や同業他社の給与水準を踏まえ、給与額を設定している」「新人職員に対し、一定期間、マンツーマンで知識や技能を指導するなどの支援体制を設けている」が最も高くなっています。

図表 5-24 法人種別の人材の定着・育成に向けた取り組み

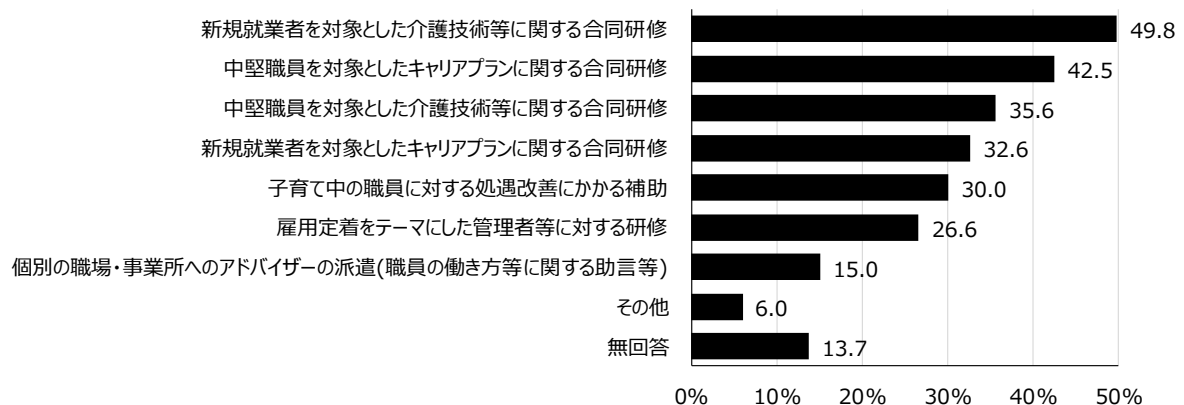
		回答者数	近隣の企業や同業他社の給与水準を踏まえ、給与額を設定している	永年勤続など一定期間勤めた際の報奨制度を設けている	能力や仕事のやりがいによって、管理職への登用機会を設けている	非正規職員から正規職員への登用機会を設けている	内部研修に参加できない職員のために、外部研修を実施させている	新人職員に対し、一定期間、マンツーマンで知識や技能を指導するなどの支援体制を設けている	育児中の職員への配慮など、働きやすい環境をつくっている	職員がリラックスできる環境を整えている	休憩室や談話室の設置など、職員がリラックスできる環境を整えている	上司や管理職が頻繁に面談を行っている	仕事のやりがいや、社会的意義を伝えている	事業所への満足度（不満）調査を行っている	その他	特に何も行っていない	無回答
全体		233	28.3	27.5	44.2	53.2	32.6	47.2	48.1	30.5	36.5	34.3	26.6	4.3	15.0	1.3	(%)
法人種別	株式会社	104	28.8	32.7	48.1	53.8	35.6	49.0	49.0	23.1	41.3	31.7	29.8	2.9	13.5	1.0	
	有限会社	38	36.8	10.5	34.2	50.0	31.6	26.3	36.8	34.2	36.8	36.8	18.4	10.5	21.1	0.0	
	社会福祉法人	41	26.8	56.1	63.4	80.5	43.9	65.9	63.4	51.2	41.5	36.6	24.4	4.9	2.4	0.0	
	特定非営利活動法人	9	0.0	11.1	11.1	22.2	11.1	44.4	33.3	11.1	0.0	33.3	0.0	0.0	33.3	11.1	
	合同会社	10	30.0	0.0	30.0	20.0	20.0	40.0	10.0	40.0	30.0	40.0	20.0	0.0	40.0	10.0	
	医療法人社団	23	17.4	4.3	34.8	43.5	17.4	43.5	56.5	26.1	26.1	34.8	47.8	4.3	13.0	0.0	
	一般社団法人	3	66.7	0.0	33.3	0.0	0.0	66.7	33.3	33.3	33.3	33.3	33.3	0.0	33.3	0.0	
	協同組合	4	25.0	25.0	0.0	25.0	25.0	25.0	50.0	25.0	0.0	25.0	0.0	0.0	25.0	0.0	
	公益社団法人	1	100.0	0.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	

(6) 職員の定着に向けて必要な支援

問12. 職員の定着に向けて、事業者としてどのような支援が必要だと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

職員の定着に向けて必要な支援は、「新規就業者を対象とした介護技術等に関する合同研修」(49.8%)、「中堅職員を対象としたキャリアプランに関する合同研修」(42.5%)、「中堅職員を対象とした介護技術等に関する合同研修」(35.6%)の順。

図表 5-25 職員の定着に向けて必要な支援 (n=233)

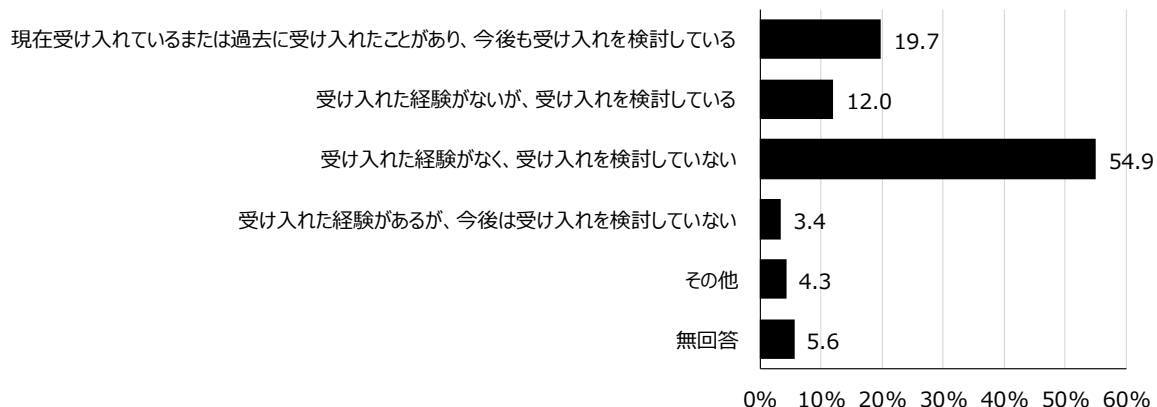


(7) 外国人労働者の受け入れ状況

問13. 貴事業所における、介護職員としての外国人労働者の受け入れ状況について教えてください。(ひとつだけ○)

全体では「受け入れた経験がなく、受け入れを検討していない」が54.9%と最多。その中で、“施設サービス”では「現在受け入れているまたは過去に受け入れたことがあり、今後も受け入れを検討している」が54.5%と最多。

図表 5-26 外国人労働者の受け入れ状況 (n=233)



法人種別でみると、“特定非営利活動法人”では、「現在受け入れているまたは過去に受け入れたことがあります、今後も受け入れを検討している」「受け入れた経験がなく、受け入れを検討していない」が最も高くなっています。上記以外では、「受け入れた経験がなく、受け入れを検討していない」が最も高くなっています。

サービス類型別でみると、“短期入所サービス”“居住系サービス”“施設サービス”は、「現在受け入れているまたは過去に受け入れたことがあります、今後も受け入れを検討している」が最も高くなっています。

図表 5-27 法人種別、サービス類型別の外国人労働者の受け入れ状況

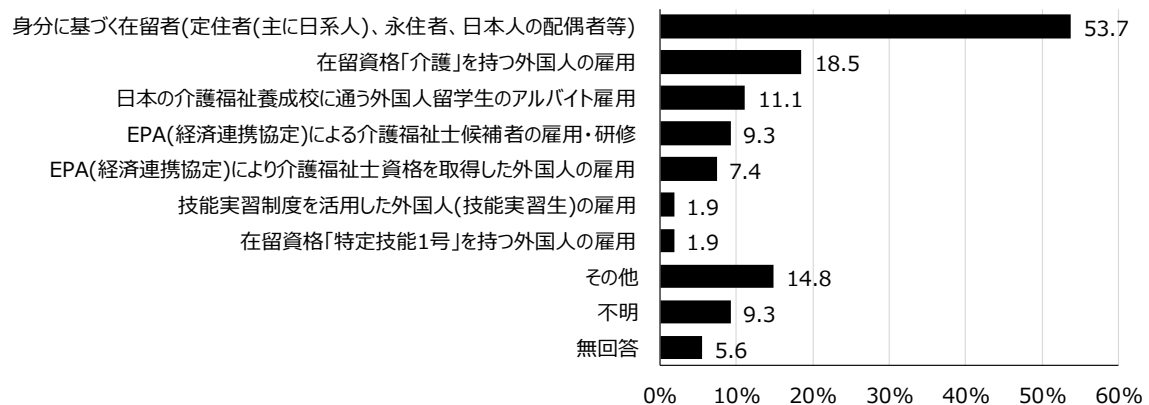
		回答者数	あり、現在受け入れているまたは過去に受け入れたことがある	受け入れた経験がないが、受け入れを検討している	受け入れた経験がなく、受け入れを検討していない	受け入れた経験があるが、今後はいずれも検討していない	その他	無回答
全体		233	19.7	12.0	54.9	3.4	4.3	5.6 (%)
法人種別	株式会社	104	20.2	14.4	48.1	4.8	5.8	6.7
	有限会社	38	7.9	10.5	68.4	5.3	5.3	2.6
	社会福祉法人	41	36.6	9.8	51.2	2.4	0.0	0.0
	特定非営利活動法人	9	33.3	11.1	33.3	0.0	0.0	22.2
	合同会社	10	10.0	0.0	70.0	0.0	0.0	20.0
	医療法人社団	23	13.0	17.4	60.9	0.0	8.7	0.0
	一般社団法人	3	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	協同組合	4	0.0	0.0	75.0	0.0	0.0	25.0
	公益社団法人	1	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
サービス類型	訪問系サービス	92	15.2	14.1	56.5	2.2	5.4	6.5
	通所系サービス	43	27.9	16.3	39.5	11.6	4.7	0.0
	短期入所サービス	12	50.0	16.7	33.3	0.0	0.0	0.0
	居住系サービス	11	36.4	27.3	9.1	9.1	0.0	18.2
	施設サービス	11	54.5	18.2	27.3	0.0	0.0	0.0
	その他の居宅サービス	64	6.3	1.6	79.7	0.0	4.7	7.8

(8) 外国人労働者の雇用制度

問13-1. 問13で「現在受け入れているまたは過去に受け入れたことがあり、今後も受け入れを検討している」「受け入れた経験があるが、今後は受け入れを検討していない」に○をつけた方にうかがいます。貴事業所で就業歴のある外国人はどのような制度で雇用された方ですか。雇用時点で利用していた制度についてお答えください。(あてはまるものすべてに○)

全体では「身分に基づく在留者(定住者(主に日系人)、永住者、日本人の配偶者等)」が53.7%と最多。

図表 5-28 外国人労働者の雇用制度 (n=54)

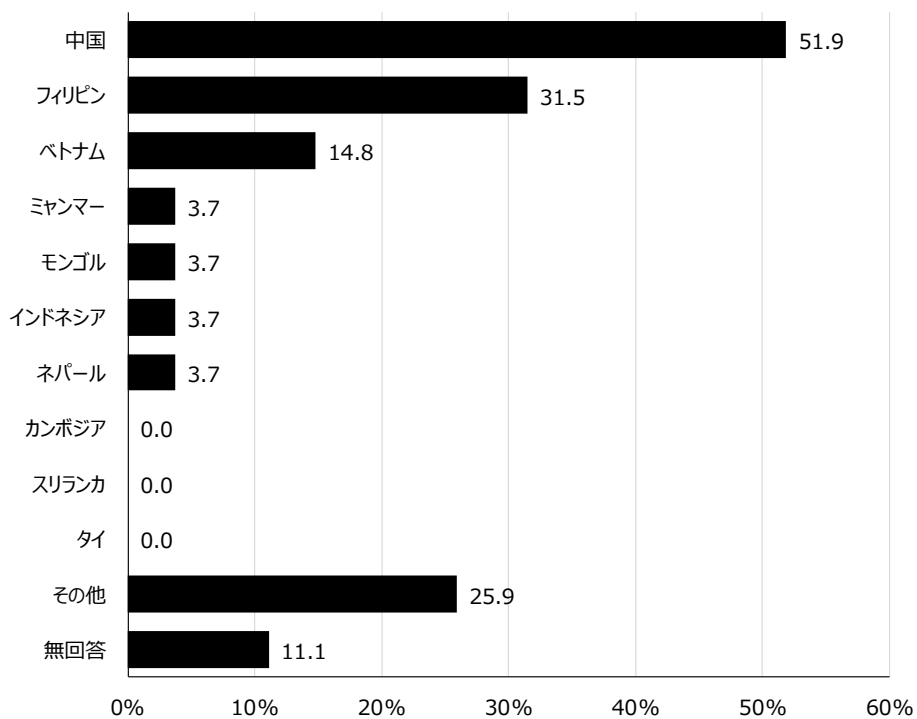


(9) 外国人労働者の出身国

問13-2. 問13で「現在受け入れているまたは過去に受け入れたことがあり、今後も受け入れを検討している」「受け入れた経験があるが、今後は受け入れを検討していない」に○をつけた方にうかがいます。貴事業所で就業歴のある外国人の出身国はどちらですか。(あてはまるものすべてに○)

「中国」が51.9%と最多。次いで「フィリピン」が31.5%と続く。

図表 5-29 外国人労働者の出身国 (n=54)



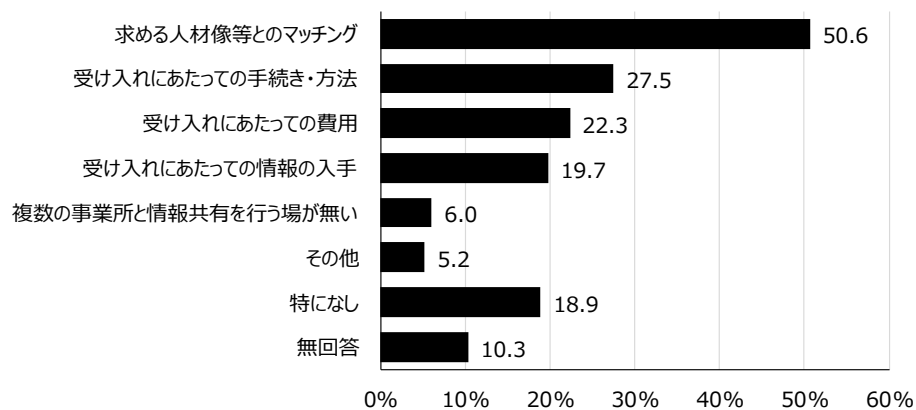
(10) 外国人労働者の受け入れにあたっての課題（受け入れ時）

問14. 貴事業所において外国人の受け入れにあたって課題となっていることを具体的に教えてください。（あてはまるものすべてに○）

① 外国人労働者の受け入れ時に関する課題

「求める人材像等とのマッチング」が50.6%と最多。

図表 5-30 外国人労働者の受け入れにあたっての課題（受け入れ時）（n=233）



外国人労働者の受け入れ状況別でみると、“受け入れた経験がないが、受け入れを検討している”では、「受け入れにあたっての手続き・方法」が最も高くなっています。上記以外では、「求める人材像等とのマッチング」が最も高くなっています。

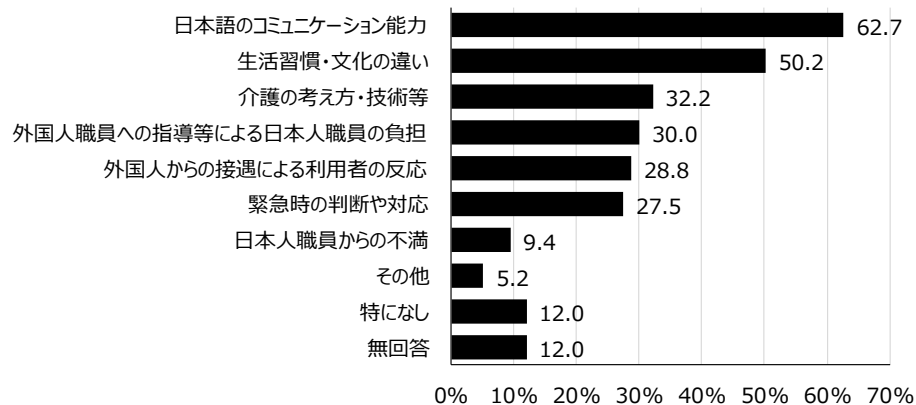
図表 5-31 外国人労働者の受け入れ状況別の受け入れにあたっての課題（受け入れ時）

	回答者数	受け入れにあたっての手続き・方法	受け入れにあたっての費用	受け入れにあたっての情報の入手	複数の事業所と情報共有を行う場が無い	求める人材像等とのマッチング	その他	特になし	無回答
全体	233	27.5	22.3	19.7	6.0	50.6	5.2	18.9	10.3 (%)
受外 国 人 入 れ 状 況 の 分 類									
現在受け入れているまたは過去に受け入れたことがあり、今後も受け入れを検討している	46	19.6	17.4	10.9	6.5	56.5	6.5	17.4	10.9
受け入れた経験がないが、受け入れを検討している	28	71.4	39.3	28.6	0.0	46.4	0.0	0.0	0.0
受け入れた経験がなく、受け入れを検討していない	128	23.4	23.4	22.7	7.8	53.9	7.0	25.0	2.3
受け入れた経験があるが、今後は受け入れを検討していない	8	25.0	12.5	12.5	0.0	50.0	0.0	12.5	25.0
その他	10	0.0	0.0	0.0	0.0	10.0	0.0	10.0	80.0

② 外国人労働者の受け入れ後に関する課題

「日本語のコミュニケーション能力」が62.7%と最多。次いで「生活習慣・文化の違い」が50.2%と続く。

図表 5-32 外国人労働者の受け入れにあたっての課題（受け入れ後）（n=233）



外国人労働者の受け入れ状況別でみると、“受け入れた経験があるが、今後は受け入れを検討していない”では、「生活習慣・文化の違い」「介護の考え方・技術等」が最も高くなっています。上記以外では、「日本語のコミュニケーション能力」が最も高くなっています。

図表 5-33 外国人労働者の受け入れ状況別の受け入れにあたっての課題（受け入れ後）

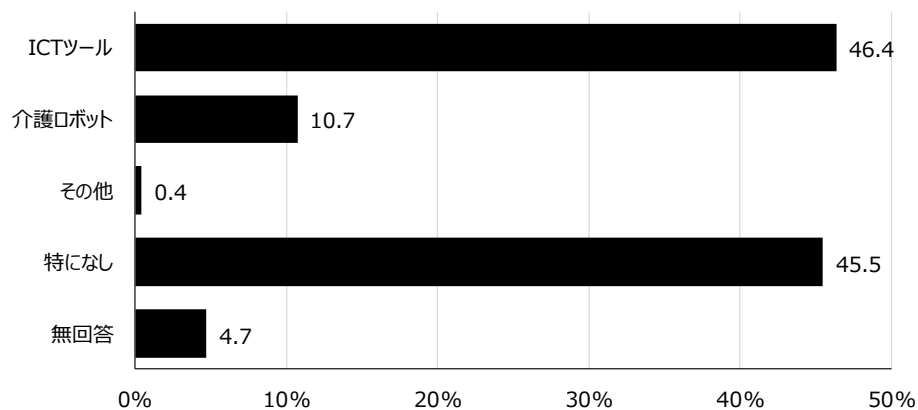
		回答者数	日本語のコミュニケーション能力	生活習慣・文化の違い	介護の考え方・技術等	緊急時の判断や対応	外国人職員への指導等による日本人職員の負担	外国人からの接遇による利用者の反応	日本人職員からの不満	その他	特になし	無回答
全体		233	62.7	50.2	32.2	27.5	30.0	28.8	9.4	5.2	12.0	12.0
受け入れ状況の別	現在受け入れているまたは過去に受け入れたことがあり、今後も受け入れを検討している	46	67.4	45.7	23.9	26.1	28.3	26.1	6.5	8.7	6.5	10.9
	受け入れた経験がないが、受け入れを検討している	28	85.7	71.4	46.4	50.0	46.4	46.4	25.0	3.6	0.0	0.0
	受け入れた経験がなく、受け入れを検討していない	128	63.3	50.8	32.8	27.3	28.1	30.5	8.6	5.5	18.8	5.5
	受け入れた経験があるが、今後は受け入れを検討していない	8	50.0	75.0	75.0	12.5	62.5	12.5	12.5	0.0	0.0	12.5
	その他	10	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	10.0	80.0

(11) 生産性向上を目的に導入している・導入を検討しているもの

問15. 厚生労働省では、業務改善に取り組む介護事業者を支援するため、「介護サービス事業所における生産性向上に取り組むためのガイドライン」を公表しています。ガイドラインの中では、介護ロボットやICTツールの活用などがあげられていますが、以下のうち、貴事業所において、既に導入しているものや、今後導入を考えているものがありますか。

「ICTツール」が46.4%と最多。

図表 5-34 生産性向上を目的に導入している・導入を検討しているもの(n=233)



サービス類型別でみると、いずれのサービス類型においても「ICTツール」を回答している割合は一定数みられます。特に“短期入所サービス”“施設サービス”では、他のサービス類型と比べ、「ICTツール」のみならず「介護ロボット」も高くなっています。

図表 5-35 法人種別、サービス類型別の
生産性向上を目的に導入している・導入を検討しているもの

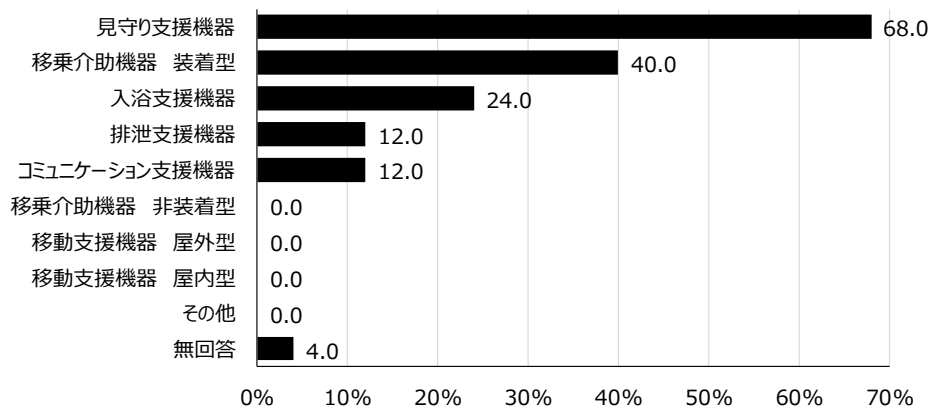
		回 答 者 数	介 護 ロ ボ ット	I C T ツ ール	そ の 他	特 に な し	無 回 答	
全体		233	10.7	46.4	0.4	45.5	4.7	(%)
法 人 種 別	株式会社	104	6.7	40.4	0.0	51.0	4.8	
	有限会社	38	0.0	42.1	0.0	55.3	2.6	
	社会福祉法人	41	36.6	70.7	0.0	22.0	0.0	
	特定非営利活動法人	9	0.0	11.1	0.0	55.6	33.3	
	合同会社	10	0.0	50.0	10.0	30.0	10.0	
	医療法人社団	23	13.0	43.5	0.0	56.5	0.0	
	一般社団法人	3	0.0	66.7	0.0	33.3	0.0	
	協同組合	4	0.0	50.0	0.0	25.0	25.0	
	公益社団法人	1	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	
サ ー ビ ス 類 型	訪問系サービス	92	7.6	41.3	0.0	50.0	4.3	
	通所系サービス	43	9.3	58.1	0.0	39.5	2.3	
	短期入所サービス	12	58.3	75.0	0.0	8.3	0.0	
	居住系サービス	11	9.1	36.4	0.0	54.5	9.1	
	施設サービス	11	54.5	90.9	0.0	0.0	0.0	
	その他の居宅サービス	64	0.0	34.4	1.6	56.3	7.8	

(12) 導入している・導入を検討している介護ロボット

問15-1. 問15で「介護ロボット」に○をつけた方にうかがいます。貴事業所で導入している・導入を検討している介護ロボットはどのようなものですか。(あてはまるものすべてに○)

「見守り支援機器」が68.0%と最多。

図表 5-36 導入している・導入を検討している介護ロボット (n=25)

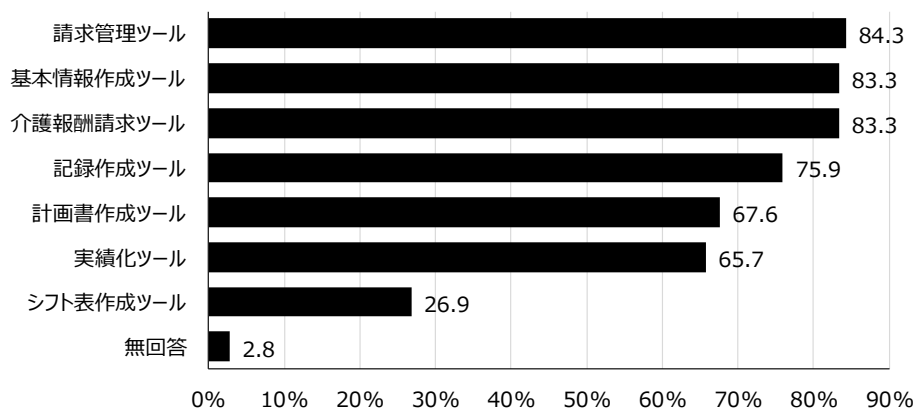


(13) 導入している・導入を検討しているICTツール

問15-2. 問15で「ICTツール」に○をつけた方にうかがいます。貴事業所で導入している・導入を検討しているICTツールはどのようなものですか。(あてはまるものすべてに○)

「請求管理ツール」が84.3%と最多。次いで「基本情報作成ツール」「介護報酬請求ツール」が83.3%、「記録作成ツール」が75.9%と続く。

図表 5-37 導入している・導入を検討しているICTツール(n=108)



サービス類型別でみると、いずれのサービス類型においても“基本情報作成ツール”“計画書作成ツール”“記録作成ツール”“請求管理ツール”が高く、中でも“請求管理ツール”が高くなっています。一方で、“シフト表作成ツール”はいずれのサービス類型においても低くなっています。

図表 5-38 サービス類型別の導入している・導入を検討しているICTツール

		回答者数	基本情報作成ツール	シフト表作成ツール	計画書作成ツール	記録作成ツール	実績化ツール	請求管理ツール	介護報酬請求ツール	無回答
全体		108	83.3	26.9	67.6	75.9	65.7	84.3	83.3	2.8 (%)
サービス類型	訪問系サービス	38	76.3	47.4	57.9	63.2	73.7	84.2	84.2	0.0
	通所系サービス	25	96.0	16.0	60.0	92.0	52.0	92.0	84.0	0.0
	短期入所サービス	9	77.8	11.1	66.7	77.8	55.6	77.8	66.7	11.1
	居住系サービス	4	75.0	0.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	0.0
	施設サービス	10	80.0	10.0	70.0	80.0	60.0	80.0	70.0	10.0
	その他の居宅サービス	22	86.4	22.7	86.4	72.7	68.2	77.3	90.9	4.5

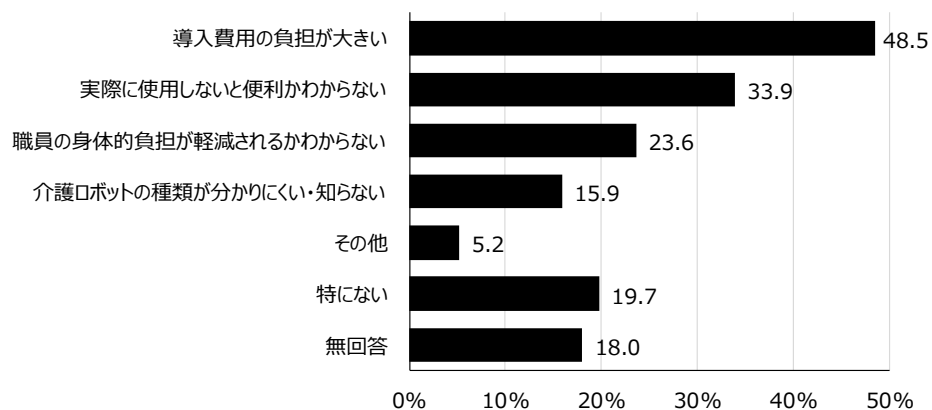
(14) 介護ロボット導入にあたっての課題

問16. 貴事業所において介護ロボットの導入にあたって課題となっていることを具体的に教えてください。(あてはまるものすべてに○)

① 介護ロボット導入時に関する課題

「導入費用の負担が大きい」が48.5%と最多。次いで「実際に使用しないと便利かわからない」が33.9%と続く。

図表 5-39 介護ロボットの導入にあたっての課題（導入時）（n=233）



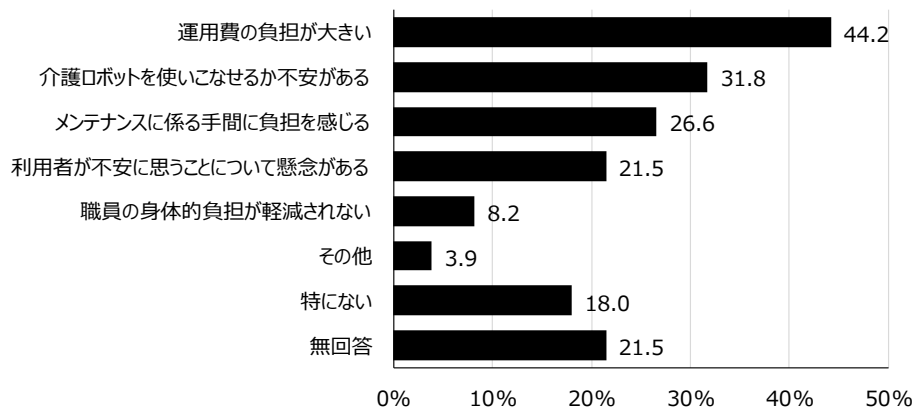
図表 5-40 介護ロボットの導入状況別の課題（導入時）

	回答者数	介護ロボットの種類が分かりにくい	導入費用の負担が大きい	実際に使用しないと便利かわからない	職員の身体的負担が軽減されるかわからない	その他	特にない	無回答
全体	233	15.9	48.5	33.9	23.6	5.2	19.7	18.0 (%)
ロボットの導入	導入している・今後導入を考えている	25	40.0	60.0	28.0	32.0	0.0	0.0
	導入していない・今後導入を考えていない	215	14.4	49.8	33.5	24.2	5.6	21.4

② 介護ロボット導入後の運用に関する課題

「運用費の負担が大きい」が44.2%と最多。

図表 5-41 介護ロボットの導入にあたっての課題（導入後）（n=233）



図表 5-42 介護ロボットの導入状況別の課題（導入後）

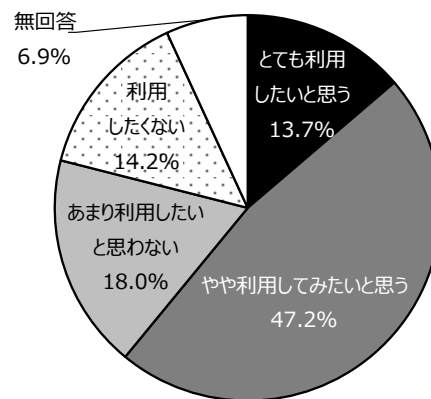
		回答者数	介護ロボットを使いこなせるか不安がある	利用者が不安に思うことについて懸念がある	運用費の負担が大きい	職員の身体的負担が軽減されない	メンテナンスに係る手間に負担を感じる	その他	特になし	無回答
全体		233	31.8	21.5	44.2	8.2	26.6	3.9	18.0	21.5 (%)
ロボットの導入状況	導入している・今後導入を考えている	25	44.0	12.0	44.0	16.0	40.0	8.0	0.0	28.0
	導入していない・今後導入を考えていない	215	31.6	21.4	45.1	8.4	26.0	4.2	19.5	19.5

(15) 元気高齢者を活用する仕組みの利用意向

問17. 介護人材の不足への対応や、元気高齢者の活躍の場を設けるための取り組みとして、事業所における清掃や事務作業等に対応できる元気高齢者を紹介する仕組みがあれば、利用したいと思いますか。(ひとつだけ○)

「やや利用してみたいと思う」が47.2%と最多。

図表 5-43 元気高齢者を活用する仕組みの利用意向 (n=233)



サービス類型別でみると、“通所系サービス”“居住系サービス”においては、他のサービス類型に比べ「とても利用したいと思う」が高くなっています。“通所系サービス”“短期入所サービス”“施設サービス”においては、他のサービス類型に比べ「やや利用してみたいと思う」が高くなっています。

図表 5-44 法人種別、サービス類型別の元気高齢者を活用する仕組みの利用意向

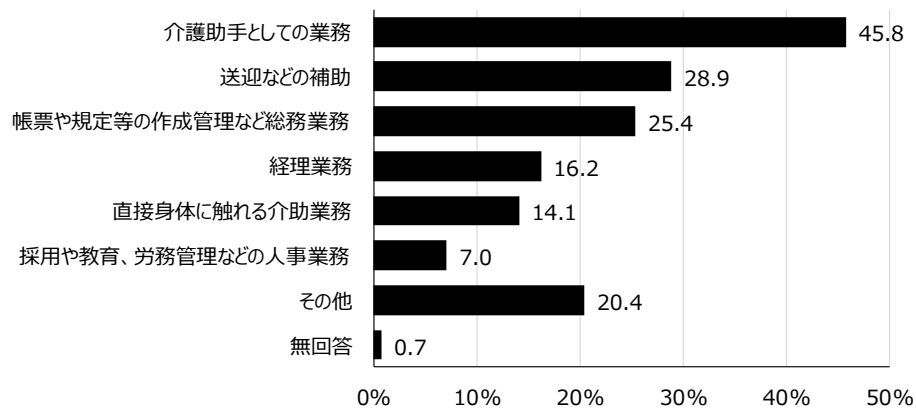
		回答者数	とても利用したいと思う	やや利用してみたいと思う	あまり利用したいと思わない	利用したくない	無回答
全体		233	13.7	47.2	18.0	14.2	6.9 (%)
法人種別	株式会社	104	16.3	38.5	22.1	19.2	3.8
	有限会社	38	5.3	47.4	23.7	15.8	7.9
	社会福祉法人	41	19.5	70.7	7.3	2.4	0.0
	特定非営利活動法人	9	0.0	44.4	11.1	0.0	44.4
	合同会社	10	0.0	30.0	30.0	10.0	30.0
	医療法人社団	23	17.4	47.8	13.0	17.4	4.3
	一般社団法人	3	33.3	33.3	0.0	33.3	0.0
	協同組合	4	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	公益社団法人	1	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
サービス類型	訪問系サービス	92	10.9	40.2	26.1	17.4	5.4
	通所系サービス	43	30.2	60.5	9.3	0.0	0.0
	短期入所サービス	12	16.7	75.0	8.3	0.0	0.0
	居住系サービス	11	36.4	54.5	9.1	0.0	0.0
	施設サービス	11	9.1	81.8	9.1	0.0	0.0
	その他の居宅サービス	64	3.1	35.9	17.2	26.6	17.2

(16) 元気高齢者の活用内容

問17-1. 問17で「とても利用したいと思う」「やや利用してみたいと思う」に○をつけた方にうかがいます。どのような業務での活用を考えていますか。(あてはまるものすべてに○)

「介護助手としての業務」が45.8%と最多。

図表 5-45 元気高齢者の活用内容 (n=142)



法人種別でみると、“株式会社”“社会福祉法人”“医療法人社団”では、「介護助手としての業務」が最も高くなっています。“有限会社”では、「帳票や規定等の作成管理など総務業務」が最も高くなっています。“特定非営利活動法人”では、「帳票や規定等の作成管理など総務業務」「介護助手としての業務」が最も高くなっています。“合同会社”では、「経理業務」「直接身体に触れる介助業務」が最も高くなっています。“一般社団法人”では、「経理業務」が最も高くなっています。“協同組合”では、「経理業務」「帳票や規定等の作成管理など総務業務」が最も高くなっています。

サービス類型別でみると、“通所系サービス”“短期入所サービス”“居住系サービス”“施設サービス”では、「介護助手としての業務」が最も高くなっています。“訪問系サービス”“その他の居宅サービス”では、「帳票や規定等の作成管理など総務業務」が最も高くなっています。また、“通所系サービス”“短期入所サービス”“施設サービス”では、他のサービス類型に比べ「送迎などの補助」が高くなっています。

図表 5-46 法人種別、サービス類型別の元気高齢者の活用内容

		回答者数	経理業務	人事採用や教育、労務管理などの業務	総帳票や規定等の作成管理などの業務	直接身体に触れる介助業務	介護助手としての業務	送迎などの補助	その他	無回答
全体		142	16.2	7.0	25.4	14.1	45.8	28.9	20.4	0.7
法人種別	株式会社	57	17.5	10.5	24.6	17.5	33.3	28.1	28.1	1.8
	有限会社	20	15.0	5.0	35.0	25.0	30.0	10.0	5.0	0.0
	社会福祉法人	37	2.7	2.7	16.2	8.1	75.7	51.4	16.2	0.0
	特定非営利活動法人	4	0.0	0.0	25.0	0.0	25.0	0.0	50.0	0.0
	合同会社	3	33.3	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	33.3	0.0
	医療法人社団	15	20.0	0.0	26.7	6.7	66.7	26.7	20.0	0.0
	一般社団法人	2	100.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	協同組合	4	75.0	25.0	75.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0
	公益社団法人	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
サービス類型	訪問系サービス	47	29.8	12.8	38.3	27.7	23.4	12.8	14.9	2.1
	通所系サービス	39	7.7	2.6	20.5	7.7	59.0	51.3	20.5	0.0
	短期入所サービス	11	0.0	0.0	9.1	0.0	81.8	54.5	18.2	0.0
	居住系サービス	10	0.0	0.0	0.0	30.0	90.0	0.0	10.0	0.0
	施設サービス	10	0.0	0.0	10.0	0.0	90.0	50.0	20.0	0.0
	その他の居宅サービス	25	24.0	12.0	32.0	4.0	16.0	16.0	36.0	0.0

(17) 元気高齢者を活用したくない理由

問17-2. 問17で「あまり利用したいと思わない」「利用したくない」に○をつけた方にうかがいます。利用したくないと考える理由をお聞かせください。

64事業所から意見・要望等が寄せられました。内容を集約したうえで下表の6つの観点に整理すると、「必要性を感じない」や、「指導・教育に係る負担」「専門性・資格へのニーズ」に関する意見が比較的多くみられました。

観点	主な回答内容
必要性を感じない	• 仕事が特にならない。 • 小さな事業所なので他者に任せられるものがないと思う。 • 清掃、事務作業はまかなえている。 • 現状の人員で人材の不足を感じていないが、将来的には総務業務の活用を考えたい。 • 利用したくないわけではないが、規模が小さいので必要がない。 • 事業所としての必要性を感じないが、他の施設等では取り組みとして実現した方が良いと思う。 • 専門の清掃業者が入っており、事務員もいる。
指導・教育に係る負担	• 業務に対する能力についての不安がある。 • 元気といえ、指導に時間がかかりそう。 • かえって仕事が増えるのではないか。 • 事務作業を説明することが大変。 • 事務作業については専門的な知識が必要なため、教育が難しいと思う。 • 教える時間がない。事務処理だけで大変。理解するまで時間がかかりそう • 元気な高齢者でもなかなか理解することができないのではないか。介護の施設では、ご利用者様・ご家族様のクレームの対応が大変なので利用したいとは思わない。 • その方たちの育成にかけられる時間がない。
専門性・資格へのニーズ	• ヘルパーとして働いてもらっている方が、元気高齢者である。どちらかと言えばサービスをしてほしい。 • 有資格者であれば検討する。 • 専門的な能力、知識が必要なため。 • 不足しているのは介護職員だから。 • 事務については専門性が必要であり元気高齢者では出来ないと思われる。 • 専門性に特化した人材は少ないと思うので。
採用コスト・人件費の発生	• 清掃等も、今はロボット清掃機等もあり、そこに採用コストや人件費をかけるメリットがない。事務作業が必要なら、プログラミングが出来る人材を確保して、人の手を使わない方法を考える。採用コスト（保険の手続き含む）、管理コストに見合う能力のある人材であれば可。 • 費用もかかるので当社の社員で充分である。

観点	主な回答内容
	• 清掃の人員にお金をかけることができない。 • 謝礼を支払うことができない。
労働条件の制約	• 元気高齢者が年をとっていく時にやめ時に困りそう。 • 長期労働が望めない。健康上の問題に懸念がある。
その他	• 個人情報を守れないのではないか。 • コンピュータ機器への不慣れが心配である。 • 紹介する仕組みがない。 • 現状、すでに行っているため、改めて利用する必要がない。

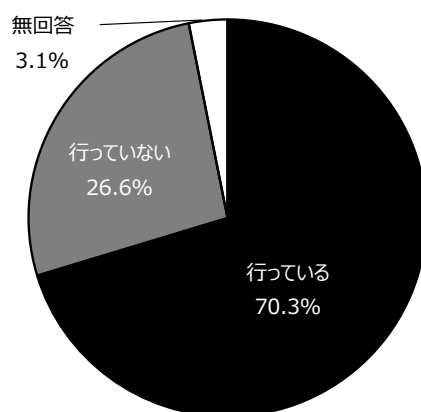
3. 処遇改善の状況について

(1) 介護職員等特定処遇改善加算の申請状況

問18. 貴事業所では、介護職員等特定処遇改善加算を申請していますか。(ひとつだけ○)(訪問看護、訪問リハ、福祉用具貸与・販売、居宅療養管理指導、居宅支援は対象外なので、問19へ進んでください。)

「行っている」が70.3%。

図表 5-47 介護職員等特定処遇改善加算の申請状況 (n=128)



図表 5-48 サービス類型別の介護職員等特定処遇改善加算の申請状況

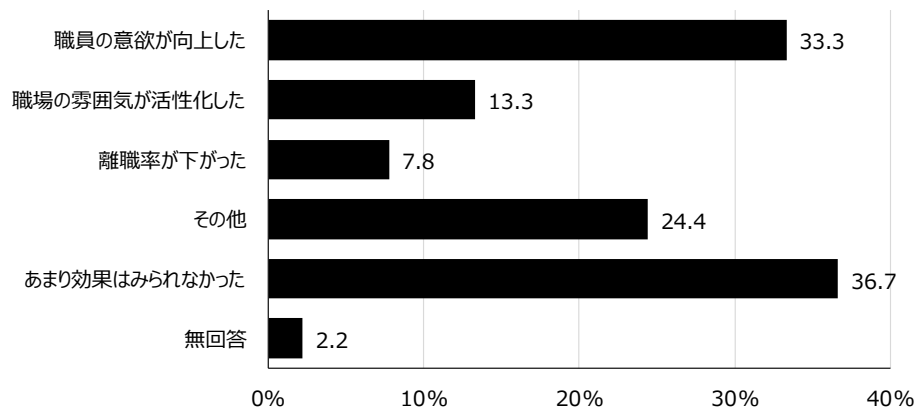
		回答者数	行っている	行っていない	無回答
全体		128	70.3	26.6	3.1 (%)
サービス類型	訪問系サービス	51	68.6	27.5	3.9
	通所系サービス	43	60.5	37.2	2.3
	短期入所サービス	12	83.3	8.3	8.3
	居住系サービス	11	81.8	18.2	0.0
	施設サービス	11	90.9	9.1	0.0
	その他の居宅サービス	0	0.0	0.0	0.0

(2) 介護職員等特定処遇改善加算利用の効果

問18-1. 問18で「行っている」に○をつけた方にうかがいます。介護職員等特定処遇改善加算を利用した職場環境の整備や賃上げなど処遇の改善を図ったことで、貴事業所の従業員にどのような効果があったと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

「あまり効果はみられなかった」が36.7%と最多。

図表 5-49 介護職員等特定処遇改善加算利用の効果 (n=90)

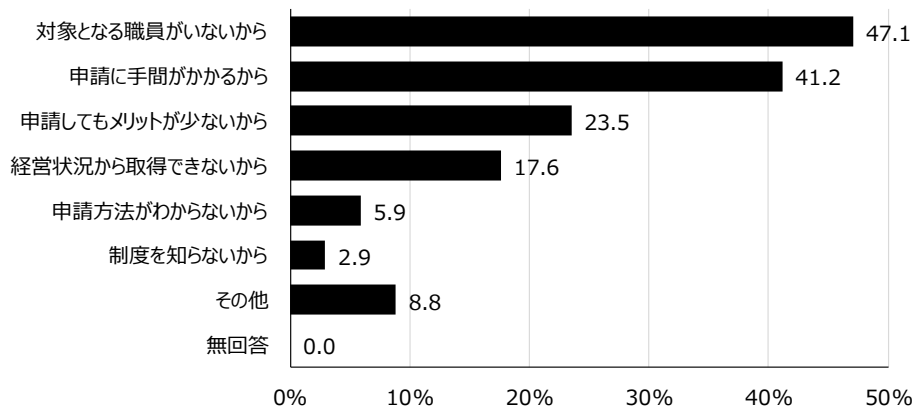


(3) 介護職員等特定処遇改善加算を申請していない理由

問18-2. 問18で「行っていない」に○をつけた方にうかがいます。現在介護職員等特定処遇改善加算の申請を行っていない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

「対象となる職員がいないから」が47.1%と最多。次いで「申請に手間がかかるから」が41.2%と続く。

図表 5-50 介護職員等特定処遇改善加算を申請していない理由 (n=34)



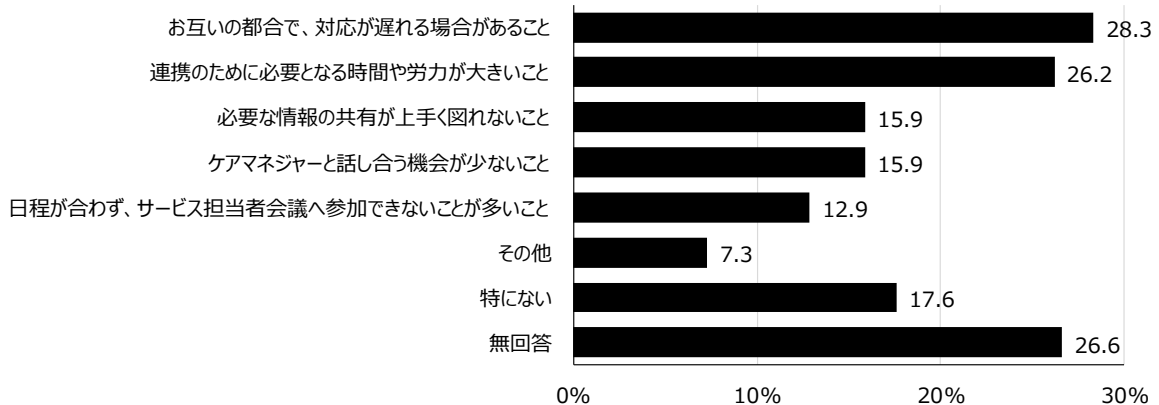
4. 各種連携の状況について

(1) ケアマネジャーとの連携における課題

問19. 高齢者への適切なケアの提供にあたっては、ケアマネジャーと十分な連携がとれていることが重要ですが、貴事業所にとって、ケアマネジャーとの連携における課題は何だと思われますか。居宅介護支援事業所以外が教えてください。(あてはまるものすべてに○)

「お互いの都合で、対応が遅れる場合があること」が28.3%と最多。次いで「連携のために必要となる時間や労力が大きいこと」(26.2%)、「必要な情報の共有が上手く図れないこと」「ケアマネジャーと話し合う機会が少ないこと」(15.9%)の順。

図表 5-51 ケアマネジャーとの連携における課題 (n=233)



サービス類型別でみると、“訪問系サービス”“施設サービス”では、「お互いの都合で、対応が遅れる場合があること」が最も高くなっています。“通所系サービス”では、「連携のために必要となる時間や労力が大きいこと」「お互いの都合で、対応が遅れる場合があること」が最も高くなっています。“短期入所サービス”では、「お互いの都合で、対応が遅れる場合があること」「特にない」が最も高くなっています。“居住系サービス”では、「必要な情報の共有が上手く図れないこと」「連携のために必要となる時間や労力が大きいこと」「特にない」が最も高くなっています。

図表 5-52 サービス類型別のケアマネジャーとの連携における課題

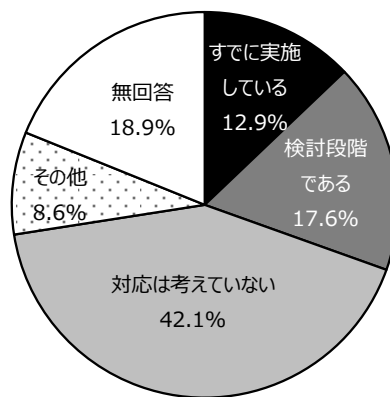
		回答者数	参加日程が合わないことが多 いこと	必要 な 情 報 の 共 有 が 上 手 く 図 れ な い こ と	連 携 の た め に 必 要 と な る 時 間 や 労 力 が 大 き い こ と	お 互 い の 都 合 で 、 対 応 が 遅 れ る 場 合 が あ る こ と	少 な い こ と	ケ ア マ ネ ジャ ー と 話 し 合 う 機 会 が	そ の 他	特 に な い	無 回 答
全体		233	12.9	15.9	26.2	28.3	15.9	7.3	17.6	26.6	(%)
サ ー ビ ス 類 型	訪問系サービス	92	20.7	21.7	34.8	35.9	26.1	10.9	20.7	4.3	
	通所系サービス	43	9.3	14.0	37.2	37.2	18.6	14.0	16.3	7.0	
	短期入所サービス	12	16.7	16.7	25.0	33.3	8.3	0.0	33.3	8.3	
	居住系サービス	11	18.2	36.4	36.4	18.2	9.1	0.0	36.4	9.1	
	施設サービス	11	9.1	18.2	36.4	45.5	9.1	9.1	27.3	0.0	
	その他の居宅サービス	64	3.1	4.7	3.1	9.4	3.1	0.0	6.3	82.8	

(2) 医療的ケアへの対応状況

問20. 貴事業所では、介護職員によるたんの吸引及び経管栄養、ストマ交換等の医療的ケアへの対応はどのようにお考えですか（ひとつだけ○）

「対応は考えていない」が42.1%と最多。

図表 5-53 医療的ケアへの対応状況 (n=233)



サービス類型別でみると、“短期入所サービス”“施設サービス”では、「すでに実施している」が最も高くなっています。上記以外では、「対応は考えていない」が最も高くなっています。

図表 5-54 サービス類型別の医療的ケアへの対応状況

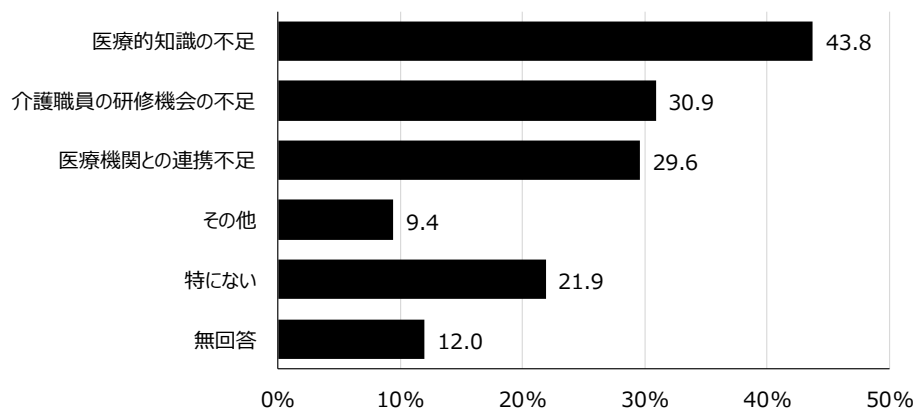
		回答者数	すでに実施している	検討段階である	対応は考えていない	その他	無回答
全体		233	12.9	17.6	42.1	8.6	18.9 (%)
サービス類型	訪問系サービス	92	13.0	26.1	44.6	8.7	7.6
	通所系サービス	43	14.0	20.9	53.5	7.0	4.7
	短期入所サービス	12	41.7	8.3	33.3	8.3	8.3
	居住系サービス	11	0.0	27.3	54.5	9.1	9.1
	施設サービス	11	45.5	9.1	36.4	9.1	0.0
	その他の居宅サービス	64	3.1	4.7	31.3	9.4	51.6

(3) ターミナルケアへの対応における課題

問21. 貴事業所では、ターミナルケアに取り組むにあたり、どのようなことが課題であるとお考えですか。(あてはまるものすべてに○)

「医療的知識の不足」が43.8%と最多。次いで「介護職員の研修機会の不足」が(30.9%)、「医療機関との連携不足」(29.6%)の順。

図表 5-55 ターミナルケアへの対応における課題(n=233)



サービス類型別でみると、“訪問系サービス”“居住系サービス”“その他の居宅サービス”では、「医療的知識の不足」が最も高くなっています。“短期入所サービス”“施設サービス”では、「特にない」が最も高くなっています。

図表 5-56 サービス類型別のターミナルケアへの対応における課題

		回答者数	医療的知識の不足	医療機関との連携不足	介護職員の研修機会の不足	その他	特にない	無回答
全体		233	43.8	29.6	30.9	9.4	21.9	12.0 (%)
サービス類型	訪問系サービス	92	43.5	31.5	32.6	6.5	26.1	4.3
	通所系サービス	43	46.5	44.2	51.2	16.3	14.0	7.0
	短期入所サービス	12	16.7	8.3	33.3	16.7	41.7	8.3
	居住系サービス	11	63.6	18.2	54.5	9.1	18.2	9.1
	施設サービス	11	18.2	9.1	27.3	18.2	54.5	0.0
	その他の居宅サービス	64	48.4	26.6	10.9	6.3	12.5	29.7

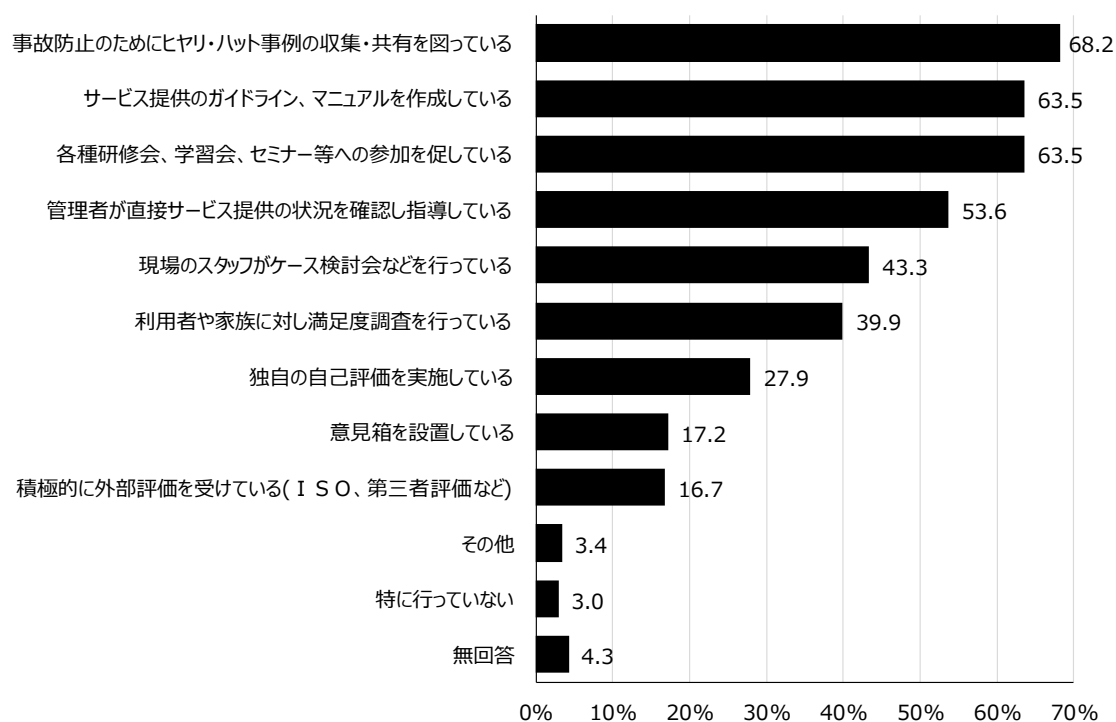
5. サービスの質の向上について

(1) サービスの質の向上に向けた取り組み

問22. 貴事業所では、サービスの質の向上のために、どのような取り組みを行っていますか。(あてはまるものすべてに○)

「事故防止のためにヒヤリ・ハット事例の収集・共有を図っている」が68.2%と最多。次いで「サービス提供のガイドライン、マニュアルを作成している」「各種研修会、学習会、セミナー等への参加を促している」(63.5%)、「管理者が直接サービス提供の状況を確認し指導している」(53.6%)の順。

図表 5-57 サービスの質の向上に向けた取り組み (n=233)



法人種別でみると、いずれのサービス類型においても、「利用者や家族に対し満足度調査を行っている」「積極的に外部評価を受けている（ISO、第三者評価など）」「現場のスタッフがケース検討会などを行っている」「意見箱を設置している」等の安全管理以外の選択割合が低くなっています。

サービス類型別でみると、“訪問系サービス”“通所系サービス”では、他のサービス類型に比べ「指導者が直接サービス提供の状況を確認し指導している」が高くなっています。“居住系サービス”では、他のサービス類型に比べ「利用者や家族に対し満足度調査を行っている」「積極的に外部評価を受けている（ISO、第三者評価など）」が高くなっています。“施設サービス”は、他のサービス類型に比べ「意見箱を設置している」が高くなっています。

図表 5-58 法人種別、サービス類型別のサービスの質の向上に向けた取り組み

		回答者数	サービス提供のガイドライン、マニュアルを作成している	事故防止のためにヒヤリ・ハット事例の収集・共有を図っている	利用者や家族に対し満足度調査を行っている	積極的に外部評価を受けている（ISO、第三者評価など）	独自の自己評価を実施している	指導者が直接サービス提供の状況を確認している	現場のスタッフがケース検討会などを行っている	意見箱を設置している	各種研修会、学習会、セミナー等への参加を促している	その他	特に行っていない	無回答
全体		233	63.5	68.2	39.9	16.7	27.9	53.6	43.3	17.2	63.5	3.4	3.0	4.3 (%)
法人種別	株式会社	104	66.3	73.1	51.0	11.5	25.0	61.5	48.1	11.5	56.7	0.0	1.0	2.9
	有限会社	38	60.5	63.2	39.5	7.9	31.6	44.7	36.8	5.3	52.6	10.5	7.9	7.9
	社会福祉法人	41	90.2	75.6	17.1	43.9	24.4	41.5	46.3	43.9	82.9	4.9	0.0	4.9
	特定非営利活動法人	9	33.3	55.6	22.2	22.2	11.1	55.6	22.2	11.1	55.6	0.0	11.1	11.1
	合同会社	10	40.0	40.0	20.0	0.0	20.0	50.0	40.0	0.0	60.0	20.0	20.0	10.0
	医療法人社団	23	39.1	52.2	43.5	4.3	52.2	60.9	43.5	21.7	82.6	0.0	0.0	0.0
	一般社団法人	3	33.3	100.0	0.0	0.0	66.7	66.7	33.3	0.0	66.7	0.0	0.0	0.0
	協同組合	4	25.0	75.0	100.0	75.0	0.0	0.0	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0
	公益社団法人	1	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	100.0	100.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
サービス類型	訪問系サービス	92	63.0	70.7	47.8	7.6	26.1	63.0	50.0	6.5	65.2	4.3	2.2	1.1
	通所系サービス	43	72.1	74.4	34.9	18.6	27.9	72.1	53.5	11.6	53.5	0.0	0.0	4.7
	短期入所サービス	12	83.3	83.3	25.0	33.3	41.7	25.0	41.7	75.0	83.3	0.0	0.0	8.3
	居住系サービス	11	72.7	90.9	63.6	63.6	9.1	45.5	27.3	36.4	36.4	0.0	0.0	9.1
	施設サービス	11	90.9	100.0	36.4	54.5	45.5	27.3	54.5	90.9	100.0	0.0	0.0	0.0
	その他の居宅サービス	64	48.4	48.4	31.3	10.9	28.1	39.1	28.1	9.4	62.5	6.3	7.8	7.8

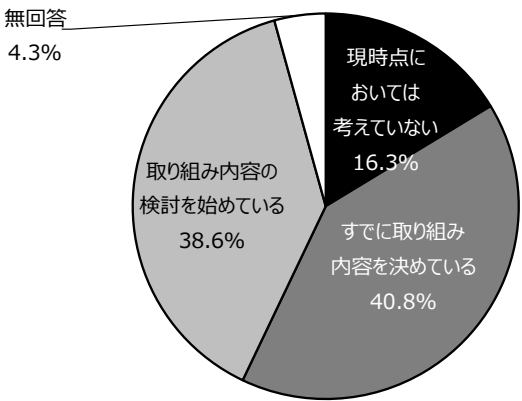
6. 災害時の対応について

(1) 大規模災害が発生した場合の対応

問23. 大規模災害が発生した場合のご利用者への対応等について、貴事業所では何か取り組みを考えていますか（ひとつだけ○）

「すでに取り組み内容を決めている」が40.8%と最多。

図表 5-59 大規模災害が発生した場合の対応 (n=233)



図表 5-60 サービス類型別の大規模災害が発生した場合の対応

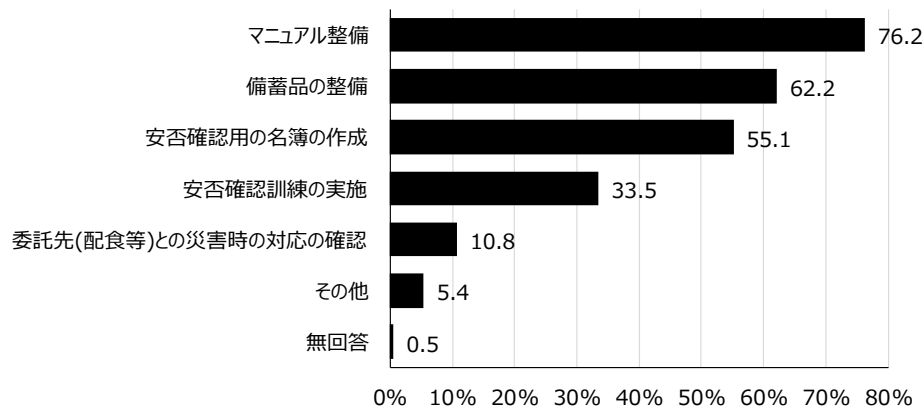
		回答者数	現時点においては考えていない	すでに取り組み内容を決めている	取り組み内容の検討を始めている	無回答
全体		233	16.3	40.8	38.6	4.3 (%)
サービス類型	訪問系サービス	92	18.5	38.0	42.4	1.1
	通所系サービス	43	9.3	41.9	41.9	7.0
	短期入所サービス	12	0.0	66.7	25.0	8.3
	居住系サービス	11	0.0	63.6	36.4	0.0
	施設サービス	11	0.0	72.7	18.2	9.1
	その他の居宅サービス	64	26.6	29.7	37.5	6.3

(2) 大規模災害が発生した場合に向けた取組内容

問23-1. 問23で「すでに取り組み内容を決めている」「取り組み内容の検討を始めている」に○をつけた方にうかがいます。現在、検討している・想定している取り組みは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

「マニュアル整備」が76.2%と最多。次いで「備蓄品の整備」(62.2%)、「安否確認用の名簿の作成」(55.1%)の順。

図表 5-61 大規模災害が発生した場合に向けた取組内容 (n=185)



図表 5-62 サービス類型別の大規模災害が発生した場合に向けた取組内容

		回答者数	安否確認用の名簿の作成	安否確認訓練の実施	マニュアル整備	備蓄品の整備	災害委託先(配食等)との対応の確認	その他	無回答	
全体		185	55.1	33.5	76.2	62.2	10.8	5.4	0.5	(%)
サービス類型	訪問系サービス	74	59.5	28.4	74.3	52.7	4.1	6.8	0.0	
	通所系サービス	36	47.2	36.1	75.0	83.3	11.1	5.6	0.0	
	短期入所サービス	11	54.5	63.6	100.0	90.9	45.5	9.1	0.0	
	居住系サービス	11	27.3	36.4	63.6	81.8	0.0	0.0	0.0	
	施設サービス	10	60.0	70.0	90.0	90.0	50.0	10.0	0.0	
	その他の居宅サービス	43	60.5	23.3	74.4	41.9	7.0	2.3	2.3	

(3) 大規模災害が発生した場合の課題等に対する自由意見

問24. 大規模災害が発生した場合の取り組みを実施するにあたり、課題等があればご自由にお書きください。

48事業所から意見・要望等が寄せられました。内容を集約したうえで下表の8つの観点に整理すると、「安否確認手段」や、「避難手段」「人員の確保」に関する意見が比較的多くみられました。

観点	主な回答内容
安否確認手段	- 通信がストップするだろうから、利用者一件、一件回って確認する必要があると思う。 - 電話等連絡手段が断たれた際、関係機関と連絡が取れなくなる。 - 利用者の件数も少ないため、利用者本人及びご家族と常に連絡を密にとり、緊急の時もスムーズに連絡を取れる様にしておく必要がある。 - 人員不足で全員の安否確認に時間がかかる。 - 夜間発生した時マニュアルはあるが家族と連絡がつかない場合の対応、スタッフの判断が必要となる。通信が止まった時通報システムが機能しないため訪問有無の対応も課題である。 - 社内で大規模災害に遭遇した時は、災害グッズ、備蓄品が整備されているが、社外の時はご利用者への対応までできない恐れがある。日頃からご利用者の関係者と連絡が取り合える関係性を築くことが大切である。 - 利用者へ連絡や訪問を行う際に電話回線や道路などのインフラの使用が困難な場合の対応が課題。 - 各方面との通信（非常回線）手段が統一されていない。
避難手段	- 避難所が開設されない所がある。遠方のところまで、高齢者や障害者がどうやって行くのか。 - 避難場所が遠い。道路が狭く、災害にたえられない可能性大。 - 施設入居者の安否確認に時間がかかってしまう。施設が狭いので、ご利用者様を譲まって頂くところが少ない。 - 中～重度化が進行した場合、現行の従業員数では、利用者個々への対応に時間を必要とされる為、一時対応から、避難行動が十分とはならない点が推定される。 - 独居高齢者を避難所等へ誰が誘導するのが不明確。 - 坂道が多く、一人で動けない利用者はどうするのか。 - 現避難時に職員の確保が必要。
人員の確保	- 訪問対応が必要なご利用者が多数いる場の対応する相談員の人数不足が課題。 - 職員の出勤の有無。24h支えている状況の中マニュアルがあってもどう対応すべきかと心の問題が課題となっている。職員の間でも万一の事考えたら仕事を増やしたくない

観点	主な回答内容
	と発言がある。 - 訪問介護員も家族がいて生活があるため、心の負担がある。 - 人手不足、スタッフが事務所に来れるかも危うい。 - 遠方から通勤している職員が出勤できるのかどうか。 - 大規模災害というレベルであれば、小さな事業所では対応しきれない - 従業員に区内在住者がおらず通勤が必要。電車が運休し、自転車通勤も難しいときには出社ができない。もしくは自宅に帰れず帰宅困難者となる。その為前回災害時については管理者が泊まりこんでいる。もともと365日24h営業の訪問介護もあるので連携しやすい。但し前回避難勧告が出て利用者から不安の電話があったとき、避難場所へ重度の利用者をどう支援するか包括に相談の電話入れたところ包括は「休み」と聞き民間居宅では出社しているのに、と大変残念だった。 - スタッフが、基本的に電車での通勤。どこまで対応できるか。 - 職員も被災者となるため対応が出来ないかもしれない。
対応方針の検討	- マニュアル作成と訓練が必要。 - 災害に対する意識（知識も）の向上が必要。 - 事業所としては、ヘルパーと、利用者が一緒にいる場合には双方の安全確認、確保の誘導ができると思うが、どこまでを対象にすべきか。（独居の利用者のヘルパー訪問日時ではない人は、対象外にして良いのか）明確に決める事自体が課題。そこが明確になれば、利用者に事前にアナウンス、アドバイスできる事が見えてくると思う。また、災害後についての協力、支援体勢についても、優先順位を明確にしていく事が必要である。 - 在宅の方の優先順位の検討やデイサービスに行かれている帰宅の情報共有を行う必要がある。 - 各事業所ではなく保険者にてガイドラインや連携（本系図）を作成していただきたい
業務時間外の対応	- 業務中であれば対応も考えられるが自宅から距離があるためどのように対応したら良いか検討しなければならない。 - どの位動けるスタッフがいるか。皆自宅から離れているので集まること自体難しいのではないと思う。 - 夜間帯に発生した場合の職員不足。
備蓄品の確保	- 備蓄品を利用者様だけでなくご近所の高齢者様分も用意したいが、保管場所があまりない。 - 備蓄品は足りていない・発電器がない
地域との連携	- スタッフは日中2名～3名、夜間1名体制なので周辺住人等との協力体制を築いていきたいが、むずかしい。 - 地域のネットワークを調べる必要がある。

観点	主な回答内容
	- 消防・警察等の初期対応をおそらく望めない状況が発生した場合、近隣住民との協力体制が不透明となる。 - 災害時、個々への対応は困難と考え、日々の訪問で、医療器械、薬などの確認、又は避難先の周知など聞き取るようにしている。豊島区の防災体策に準じ、STどうより、地域での取り組みを重視している。
その他	- 実際に訓練などはしたことがなく又、時間もたりないため大規模災害にうまく対応ができるか不安。時間があって一時でもボランティアなどで参加してみることができると有効なのではと思っている。 - 通所介護サービスの場合、利用日でない方が、災害に被った場合の対応が難しい。先日の19号の時は、豊島区防災放送が流された時に避難指示の放送を聞いたので学校まで行ったが、開いてなかった、と独居の女性が当センターに助けを求めに来た。豊島区の防災センターと、地域の介護施設との間で、取り決めや、情報の迅速で的確な共有方法確立して行くことで、介護施設が、プレ避難所としての役割も担えるようになると良いのではないかな。

★ 最後に、今後の介護サービス基盤や地域包括ケアシステムの構築についてご意見やご要望がございましたら、ご自由にお書きください。

27事業所から意見・要望等が寄せられました。内容を集約したうえで下表の7つの観点到に整理すると、「多職種連携」や、「人材不足」「業務負荷」に関する意見が比較的多くみられました。

観点	主な回答内容
多職種連携	- 地域のケアマネや事業所間の「顔がみえる関係」が構築されることが重要だし、支援する方としても心強い。 - 事業所だけの力では、足りないの、各包括の協力が大きい。今後も各包括と連携を図り、進めていきたい。 - 研修や交流の場があれば参加したい。 - 包括職員は異動もあり、地域に根差している民間の事業所の方が地域社会との長年の関わりが深かったり貢献が見られることが多いことを、もっと行政に理解して欲しい。 - 居宅の地域団体の力を理解し、都合良く使うのではなくパートナーシップをもっと進めて欲しい（事業所としてはご理解頂き良くして頂いているので十分です。） - ケアマネジャーと現場スタッフ間で、距離ができていてと感じている現場スタッフは多いと思う。現場スタッフからは、営業的心理も働き、中々声を上げられない。ケアマネジャーについては、全員でないが、「権力保持者」の考えになってしまう方もいるので、そんな時の為にも包括の方が中心となり、「利用者にとって良い事、すべき事」の体制を調和する役割を作ってもらいたいという思いがある。
人材不足	- 介護職員のスキルが少ない人材が多く、採用にもなかなか一人前になるまで時間がかかる。良い人材を求めているが入ってこない。 - ここ数年、近くの同業他者の閉鎖が相次いでいる。理由は収益の悪化や人不足。総合事業でも近隣他区よりも、1利用者当たりの月単位数が、少なく、経営面で厳しい。これから要援助者が増える中で、事業所の減少→収益の減少、仕事量の増加により、労働環境の悪化。利用者のサービスの選択肢が限られてくると考えられる。 - ケアマネがどうしてもバーンアウトして人材不足。
業務負荷	- 制度改正のたびに、記録の量、書類の量が増えている。どうにか減らして業務負担を軽くしたい。書類整備の時間を減らしたい。予防の書式が、プランにより変わる為、作成が大変である。予防給付のプランは包括で完結できると良いと思う。 - 地域に密着した支援を行っていく上で、地域の人々からは「何か困ったことがあったら、ケアマネジャーに相談したら」と思われているようで、例えば区から手紙が届いているが良くわからないとか、台風で雨もりがするので業者は

観点	主な回答内容
	紹介してほしいといった本来のケアマネジャーの業務とは、あまり関わりのないことの依頼が増えてきている。金銭管理や資産管理については成年後見制度がありますが、いわゆる身上監護を専門に行なうサービスが今後必要だと思う。
地域包括ケアシステムの理解	• 地域包括ケアシステムについて、理解できていない方も多く、連携が取れていないのではないかと。 • 地域包括ケアシステムは、その地域毎に住民のニーズや関わり方が変わっていくものだと思う。特に都会型の地域ケアシステムは、全国のいわゆるノーマルなシステムでは対応しきれない様々な問題をはらんでいると思います。個人のプライバシーや生活の多様性を見すえて、都会独自の個人を大切にしつつ、共助することのできるシステムを作ることが、重要な課題だと思う。
ICT化による業務効率化	• ICT推進が弱いので、補助を出して、他の自治体より先がける必要がある。介護業界全体の報酬が低いことが、生き残りや新規採用につながらない。介護保険制度の抜本的改革、再検討の時期にきているのではないかと。 • 行政への申請を含め、書類作業が多く、管理に手間と場所をとるため、ICTルーツなどを活用し、書類の削減を早急に進めていただきたい。
多職種連携ツールの活用	• 各方面がアクセス可能な情報共有ネットワーク（システム）については、運用上のリスク（個人情報の管理）（運用実施者の策定）等の対策処理方の共通認識をとる必要がある。 • 個人情報の取扱いが難しいかもしれませんが、MCSのフル活用が出来るように願っている。
その他	• 地域での活動を広めていく事業所になりたいが、きっかけがわからない。 • よくわからないことが多いのもっと、情報を提供していただきたい。 • お客様の振り分けの均等性をぜひともお願いしたい。 • 夜間コール機の活用方法を、もっと広めていきたい。活用方法の見直しを検討したい。 • アンケートをWEBで行うとよいのではないかと。

7. 経年比較

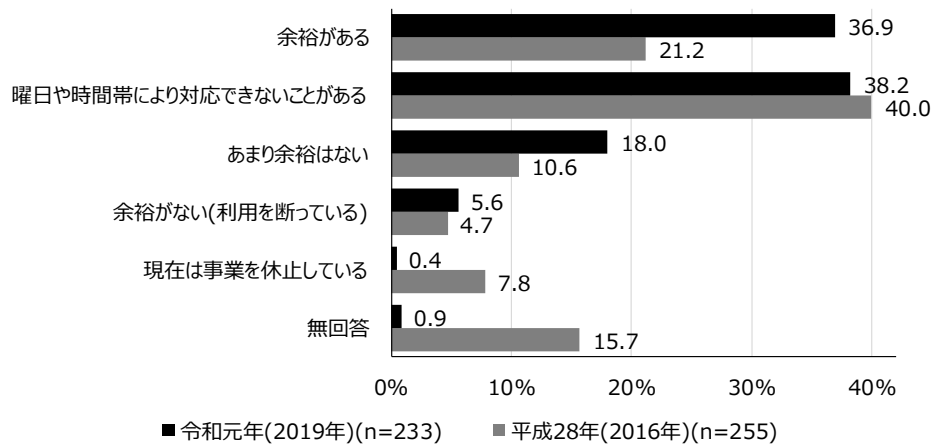
本項においては、過年度（平成28年度）の調査結果と比較ができる設問のうち、特に経年変化を追うことが必要な項目について、比較結果を掲載しています。

（1）利用申込者の受け入れ状況

問3. 貴事業所の、利用申込者の受け入れ状況についてお答えください。（ひとつだけ○）

過年度調査に比べ、今回調査においては、「余裕がある」「あまり余裕はない」「余裕がない（利用を断っている）」が高く、回答結果が両極化している。

図表 5-63 利用申込者の受け入れ状況

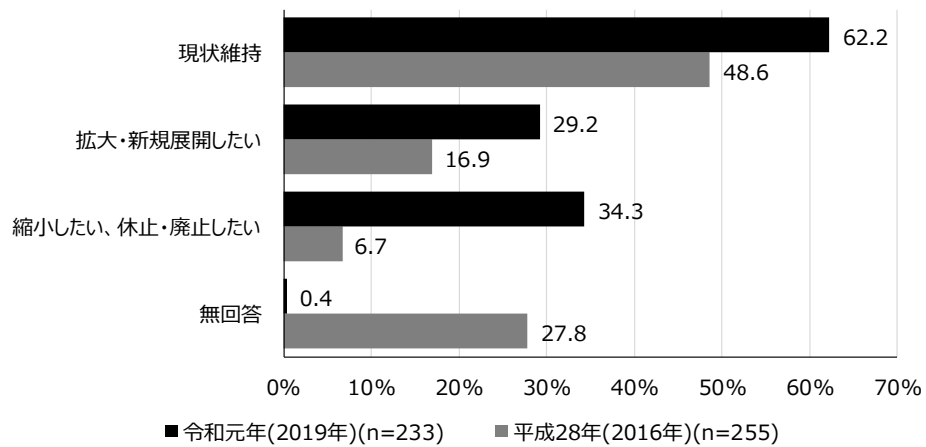


(2) 事業展開の意向

問5. 貴事業所の、今後4年間における事業展開の意向についてお答えください。(ひとつだけ○)

過年度調査に比べ、今回調査においては、「縮小したい、休止・廃止したい」が27.6ポイント高い。

図表 5-64 事業展開の意向



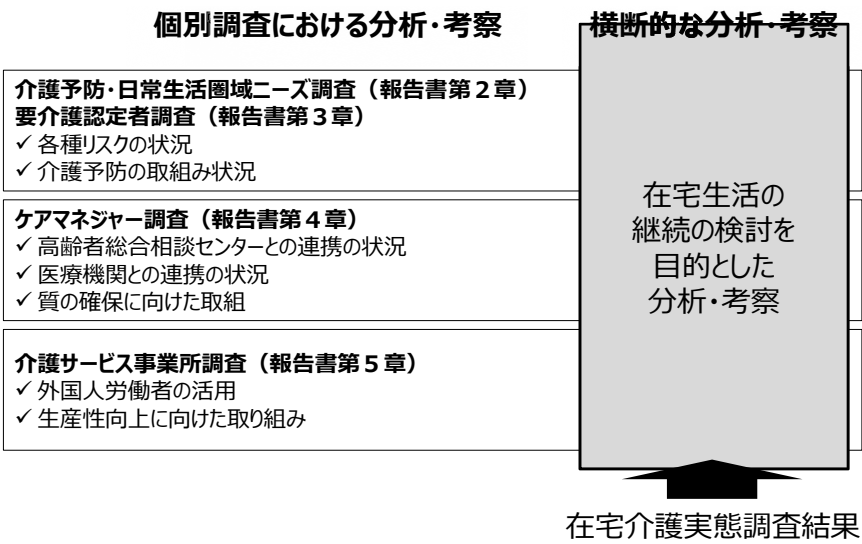
第 6 章

分析・考察

第6章 分析・考察

各実態調査の詳細な結果については第2章～第5章に取りまとめており、第6章においては、個別調査における主要テーマに関する調査結果及び分析・考察内容を掲載しています。また、在宅生活の継続の検討に係る主な調査結果及び横断的な分析・考察内容について掲載しています。

図表 6-1 分析・考察の全体像



1. 個別調査における分析・考察

(1) 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査、要介護認定者調査

今後、高齢者数が増加することが見込まれる中、高齢者が要介護状態となることを予防し、健康な状態でいられる期間をできる限り延伸させることが重要です。本項においては、一般高齢者、総合事業対象者、要支援1・2認定者を含む介護予防・日常生活圏域ニーズ調査の対象者（以下、要介護未認定者という）と、要介護1～5の認定を受けている要介護認定者調査の対象者（以下、要介護認定者という）の状態像の違いを把握した上、要介護未認定者が介護予防を行うことの必要性和、優先して取り組むべき内容について整理しています。

① 各種リスクの状況

【基本的な傾向】

要介護認定者のみならず、要介護未認定者においても心身機能の低下している方が一定数存在していることが想定されるため、要介護未認定者における、「ロコモリスク※1」「運動器機能低下リスク」「口腔機能低下リスク」「閉じこもりリスク」「転倒リスク」「低栄養リスク」「うつリスク」の有無を、項目間の重複を除いた上で分析したところ、72.0%が、何らかのリスクがあるという結果となりました。要介護認定を受けていない高齢者においても、心身機能が低下しており、いわゆるプレフレイル※2状態にある方が相当数いることがうかがえます。

また、要介護認定者における、介護・介助が必要になった原因をみると、急激な心身機能の悪化が想定される「脳卒中」「心臓病」等の疾患以上に、「骨折・転倒」が23.3%、「高齢による衰弱」が21.0%と、フレイル※3状態に関連すると思われる項目を回答している方の割合が高くなっています。

今後、より一層高齢化が進むことが見込まれる中、各種リスクを有するプレフレイル状態にある方がフレイル状態となることを防ぐことが必要です。心身機能の維持・向上に向けた取り組みを推進するにあたっては、各種リスクを早期に発見し適切に対応する体制を作っていくことが求められます。また、いずれのリスクにも該当しない元気高齢者に対しても、プレフレイル状態となることを防ぐため、住民主体の通いの場や生きがいづくりを一層充実させていくことが求められます。

※1 ロコモティブシンドローム（ロコモ）：運動器の障害により、要介護になるリスクの高い状態になること。

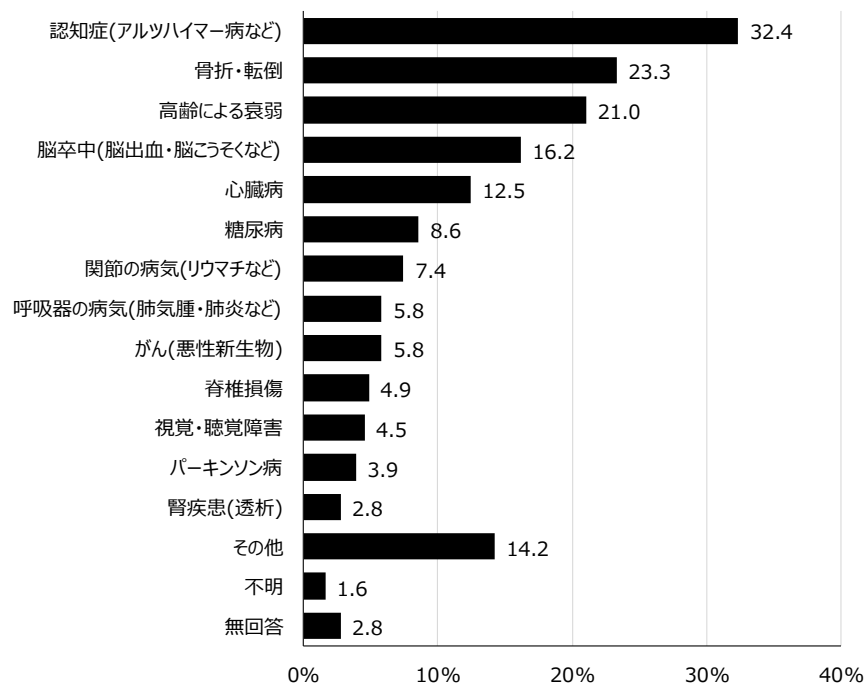
※2 プレフレイル：フレイル※3の前段階。

※3 フレイル：要介護状態に至る前段階。加齢に伴い筋力や認知機能などの心身の活力が低下している状態のこと。身体的フレイル、精神心理的フレイル、社会的フレイルの多面的側面がある。

図表 6-2 各種リスクの状況

	該当	非該当	(%)
□□モリスク	44.9	55.1	
運動器機能低下リスク	12.2	87.8	
口腔機能低下リスク	20.9	79.1	
閉じこもりリスク	11.0	89.0	
転倒リスク	29.2	70.8	
低栄養リスク	1.7	98.3	
うつリスク	37.9	62.1	
上記いずれかのリスク	72.0	28.0	

図表 6-3 介護が必要になった主な原因 (n=618) (要介護認定者調査 問10)



【優先的に対応すべきリスク】

各種リスクの保有割合を個々に見ていくと、身体機能に関わる「ロコモリスク」の他、心の状態に関連する「うつリスク」を持つ人の割合が相対的に高くなっています。保有割合の高いこれらのリスクにターゲットを絞り、優先的に対策を講じていくことも効果的な手法の一つであると考えられます。

運動器機能低下リスクは、「階段を手すりや壁をつたわずに昇ることができるか」「椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がれるか」「15分位続けて歩くことができるか」「過去1年間に転んだ経験があるか」「転倒に対する不安は大きいのか」という身体的な機能を評価する項目を中心に該当の判定が行われています。一方で、ロコモリスクは、「階段を手すりや壁をつたわずに昇っているか」「15分位続けて歩いているか」という身体的な機能を測る項目に加え、「片脚立ちで靴下がはけない、家の中でつまずいたり、すべったりする、やや負担の重い家事が困難である、2kg程度の買い物をして持ち帰るのが困難である、横断歩道を青信号で渡りきれない」といった項目において1つ以上当てはまるものがあるかという、日常生活上の困難の有無も判定基準に含まれます。運動器機能低下リスクの該当者が12.2%である一方、ロコモリスクの該当者は44.9%存在することから、身体機能が維持されていても日常生活においては困難が生じている人の割合が約3割いることが分かります。高齢者が自立して日常生活を送ることができる状態を維持するにあたっては、個人のフレイルの状態に応じ適切な介入を行うことが必要です。

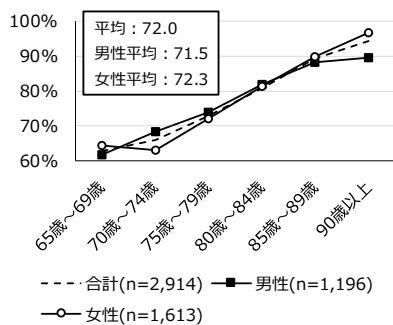
【性・年齢別の優先的に対応すべきリスク】

介護予防のアプローチが必要な層は、リスクの種類ごとに異なることが想定されるため、性・年齢別に各リスクの保有割合をみたところ、ほとんどのリスクにおいて、後期高齢者は前期高齢者に比べリスクに該当する割合が大きく高まる傾向があります。そのため、前期高齢者の段階から、介護予防に係る取り組みを講じていくことにより、リスクの低減を図ることが考えられます。

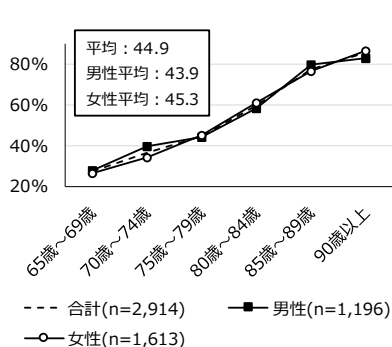
また、いずれかのリスクがある人の割合は、85歳以上において、女性の方が男性よりも高い結果となっています。令和元年時点の豊島区での65歳以上高齢人口（住民基本台帳に基づく）においては、男性より女性の人口が多いことから、基本的に女性の方が長寿であると考えられるものの、加齢によって各種リスクが生じる確率は女性の方が男性よりも高いと推察されます。

なお、個別のリスクを見ていくと、「運動器機能低下リスク」「低栄養リスク」「うつリスク」において、男女で傾向が大きく異なることが見て取れます。「運動器機能低下リスク」は、女性においては緩やかに上昇していく一方、男性においては85歳以上で急激に上昇していることが分かります。「低栄養リスク」も同様に、男性は85歳以上で上昇しており、身体機能の低下が何かしらの影響を与えていることが想定されます。例えば男性においては84歳以下の年齢層に焦点を当て運動機能の維持を目的とした取り組みを行う等、性別の傾向を踏まえアプローチ方法を変えることも有効であると考えられます。なお、「うつリスク」においては、男性は85歳以上で急激に上昇している一方で女性は年齢に関わらず一定した保有割合になっています。

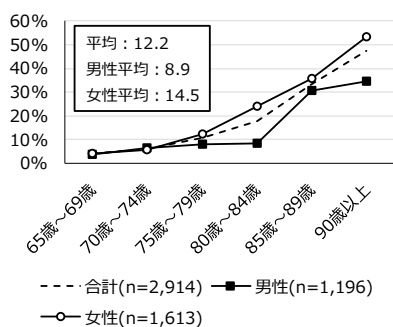
図表 6-4 いずれかのリスクの保有状況



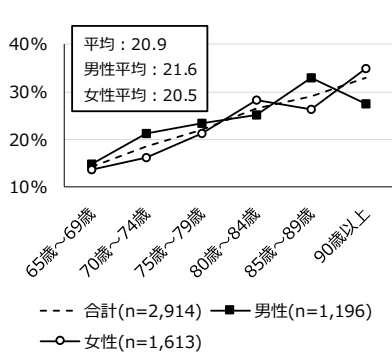
図表 6-5 ロコモリスクの保有状況



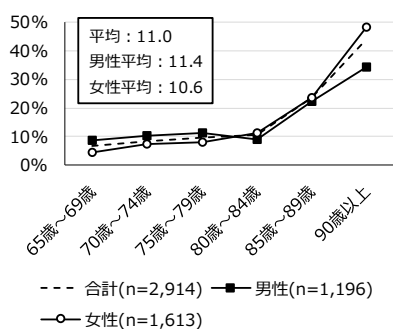
図表 6-6 運動器機能低下リスクの保有状況



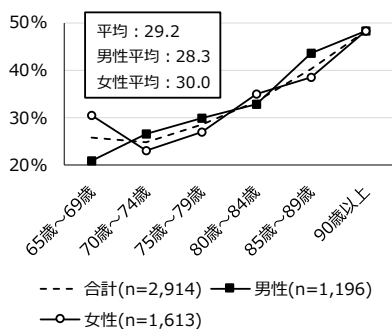
図表 6-7 口腔機能低下リスクの保有状況



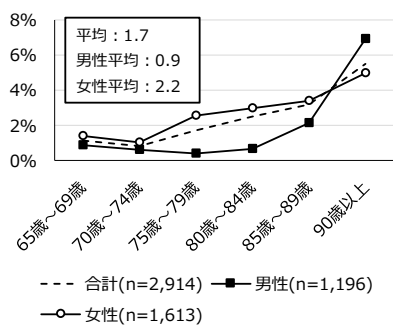
図表 6-8 閉じこもりリスクの保有状況



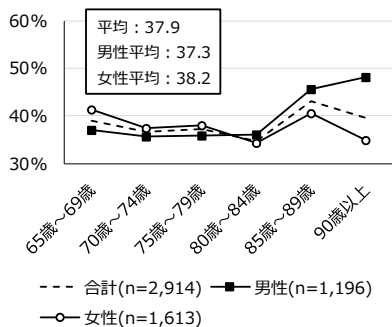
図表 6-9 転倒リスクの保有状況



図表 6-10 低栄養リスクの保有状況



図表 6-11 うつリスクの保有状況



【フレイルの認知度と各種リスクの関係】

フレイルの認知度別に各リスクの保有割合をみたところ、いずれのリスクにおいても“言葉は聞いたことがあるが内容は知らない”“知らない”に比べ“どのような状態か知っている”の方が、各種リスクの保有割合が低くなっています。また、“言葉は聞いたことがあるが内容は知らない”と“知らない”の間にもリスクの保有割合に差が見られます。

フレイルという言葉を認識している方は、日ごろから健康や介護予防に対する情報収集を行っていたり、実際に予防の取り組みを進めていたり、自身の身体機能の維持に対する意識が高い方であることが想定されます。現在フレイル状態を“知らない”と回答している方については“どのような状態か知っている”という方に比べると、介護予防等に係る情報量が不足していたり、取り組みの実施等に至っていないことが想定されることから、まずはフレイル状態や、その予防ための取り組み内容を周知することが必要であると考えられます。

図表 6-12 フレイルの認知度別の各種リスクの保有割合

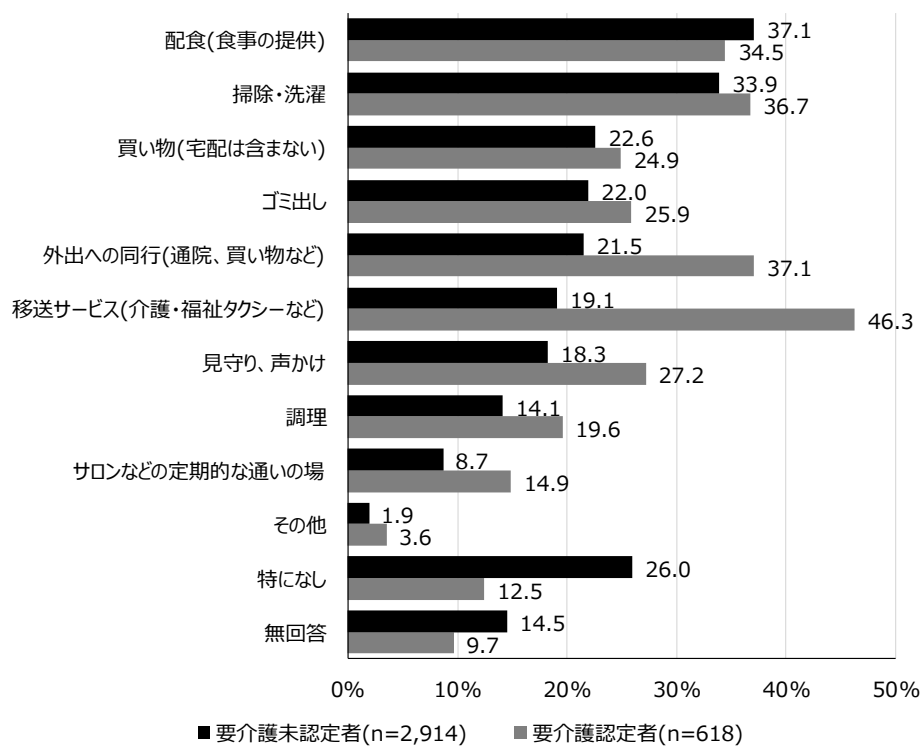
		回答者数	ロコモリスク	運動器機能低下	口腔機能低下リスク	閉じこもりリスク	転倒リスク	低栄養リスク	うつリスク	いずれかのリスク
全体		2,914	44.9	12.2	20.9	11.0	29.2	1.7	37.9	72.0
フレイルの認知度	どのような状態か知っている	510	32.2	6.7	12.5	6.7	23.7	0.4	33.7	60.8
	言葉は聞いたことがあるが内容は知らない	478	44.4	9.8	21.1	8.4	26.2	2.7	37.2	72.4
	知らない	1,592	48.9	14.6	23.9	12.9	31.6	1.8	39.9	75.3

(%)

② 在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス

要介護認定者においては、ほとんどの項目において要介護未認定者に比べ回答割合が高くなっていますが、中でも、「外出への同行(通院、買い物など)」「移送サービス(介護・福祉タクシー)」等、外出や移動に係る支援・サービスへのニーズが高くなっています。要介護認定者は、身体機能の低下により、特に移動に困難を感じていることが推察されます。一方、要介護未認定者においては、「配食」「掃除・洗濯」へのニーズが高くなっています。前項の各種リスクの状況も踏まえると、要介護未認定者においても身体機能が低下し、身の回りの家事に対して困難を感じている方が一定数存在し、生活支援のニーズが高くなっていることが推察されます。

図表 6-13 要介護未認定者と要介護認定者が
在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス
(介護予防・日常生活圏域ニーズ調査 問44、要介護認定者調査 問20)



③ 介護予防の取り組み状況

【介護予防の取り組み状況等と各種リスクの関係】

介護予防の取り組みと各種リスクの関連を明らかにすることを目的に、要介護未認定者における各種リスクの有無と、介護予防のための活動状況との関係を見ると、いずれのリスクもない者は、いずれかのリスクがある者よりも、介護予防のための活動を行っている割合が高い傾向にあります。

特に「規則的な生活を心がけている」「ウォーキングや体操などの運動に取り組んでいる」、「休養や睡眠を十分にとっている」、「友人や家族とよく会話している」といった取り組みを実施している割合はいずれかのリスクがない方はある方に比べ10ポイント以上高く、顕著に高くなっていると言えます。

図表 6-14 いずれかのリスクの有無別の介護予防のための活動状況

	回答者数	食事・栄養をバランスよく摂っている	口の中を清潔にしている	規則的な生活を心がけている	ウォーキングや体操などの運動に取り組んでいる	定期的な健康診断を受けている	休養や睡眠を十分にとっている	友人や家族とよく会話している	外出頻度を増やしている	その他	特になし	無回答	活動あり
全体	2,914	44.6	66.7	48.1	38.9	59.4	48.7	42.0	35.9	3.2	4.7	9.1	86.2
いずれかのリスクあり	2,098	41.8	65.0	44.9	34.3	58.9	45.7	39.1	34.0	2.9	5.1	9.5	85.4
いずれかのリスクなし	816	51.7	71.2	56.3	50.7	60.5	56.4	49.6	40.8	4.0	3.8	8.1	88.1

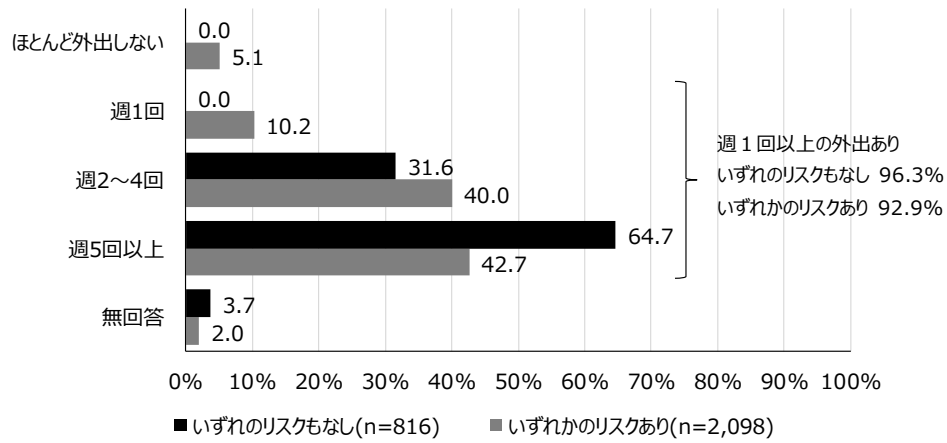
※『活動あり』は100%から「特になし」「無回答」を引いた値

【外出や各種活動への参加状況と各種リスクの関係】

同様に、いずれのリスクもない者は、週に1回以上外出している割合や、ボランティアのグループやスポーツ関係のグループやクラブ、趣味関係のグループ、学習・教養サークル、町会・自治会、収入のある仕事に参加している割合が高い傾向にありました。

このことから、自宅の外に出て他者や社会とのかかわりを持ち、積極的に活動すること自体が、心身機能の維持に大きく貢献していることが推察されます。介護予防・日常生活支援総合事業や生活支援体制整備事業といった介護保険の事業はもちろんのこと、それ以外の関連領域における取り組みと連携を深め、高齢者が社会と関わりを持つ機会を増やしていくこと、その基盤となる地域コミュニティを盛り上げていくことが重要です。

図表 6-15 いずれかのリスクの有無別の外出状況



図表 6-16 いずれかのリスクの有無別の各種活動の参加状況

		回答者数	週4回以上	週2～3回	週1回	月1～3回	年に数回	参加していない	無回答	参加あり	(%)
全体		2,914	0.7	1.3	1.6	3.5	1.9	51.0	39.9	9.1	
ボランティア	リスクあり	2,098	0.5	1.2	1.2	3.4	1.9	50.3	41.6	8.2	
	リスクなし	816	1.1	1.7	2.7	3.9	2.0	52.8	35.8	11.4	
スポーツ関係	リスクあり	2,098	3.0	7.4	5.4	4.3	1.6	41.6	36.7	21.8	
	リスクなし	816	4.4	10.4	8.7	6.5	3.3	39.6	27.1	33.3	
趣味関係	リスクあり	2,098	1.2	4.2	6.9	11.5	5.3	38.3	32.5	29.2	
	リスクなし	816	1.5	4.2	9.6	14.2	6.4	36.9	27.3	35.8	
学習・教養	リスクあり	2,098	0.4	1.0	2.0	3.9	2.2	47.2	43.3	9.5	
	リスクなし	816	0.6	2.0	3.1	5.5	3.7	48.3	36.9	14.8	
介護予防の通いの場	リスクあり	2,098	0.8	2.4	1.6	2.6	1.3	50.6	40.7	8.7	
	リスクなし	816	0.6	1.3	1.1	2.8	2.5	54.8	36.9	8.3	
高齢者クラブ	リスクあり	2,098	0.3	0.2	0.4	1.4	1.9	52.6	43.2	4.1	
	リスクなし	816	0.1	0.1	0.4	1.7	1.1	58.1	38.5	3.4	
町会・自治会	リスクあり	2,098	0.1	0.3	0.4	3.9	7.4	47.4	40.4	12.2	
	リスクなし	816	0.7	0.5	1.2	6.1	7.0	49.8	34.7	15.6	
収入のある仕事	リスクあり	2,098	8.5	6.3	1.7	1.8	1.5	40.5	39.7	19.8	
	リスクなし	816	14.8	8.9	1.1	2.3	1.1	38.7	33.0	28.3	

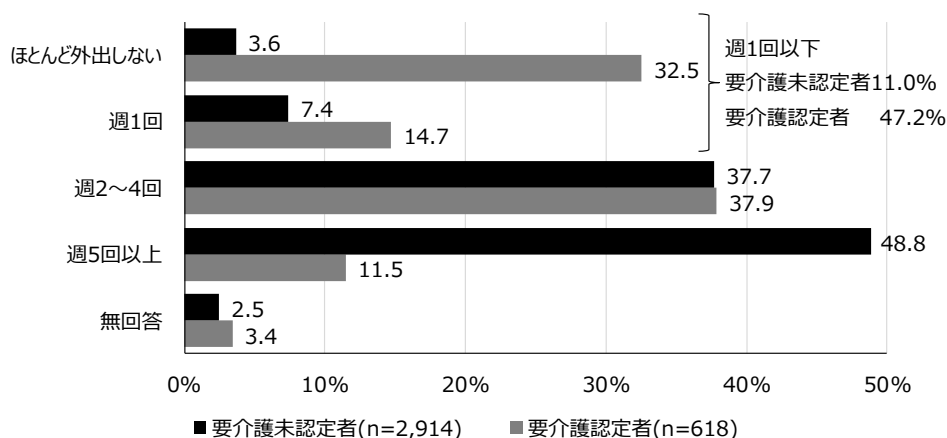
※『活動あり』は「週4回以上」「週2～3回」「週1回」「月1～3回」「年に数回」の合計

【介護予防の取り組み向上に向けた方向性】

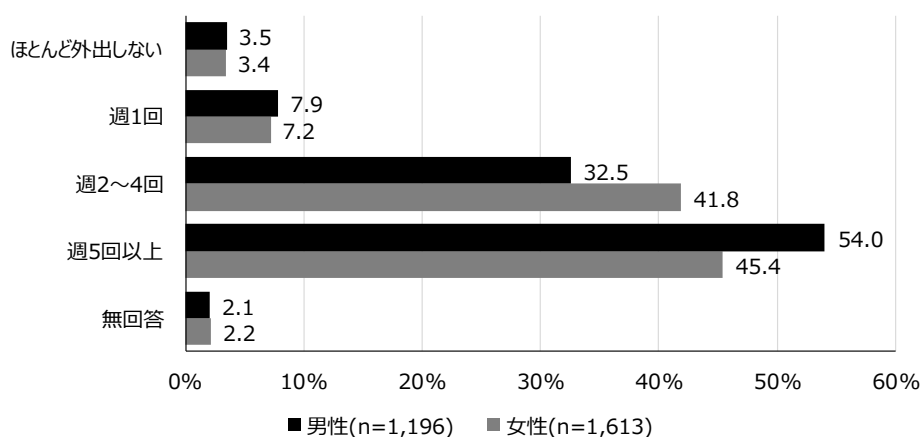
要介護未認定者においても心身機能が低下している方が一定数いることから、特に介護予防が必要な層を明らかにし、介護予防を進めて行くことが必要であると考えられます。

要介護未認定者と要介護認定者における外出状況を比較すると、要介護未認定者においては「週5回以上」が最も高く、要介護認定者においては「週2～4回」が最も高くなっていますが、要介護未認定者においても外出頻度が週1回以下の割合が11.0%存在します。要介護未認定者は、要介護認定者に比べると比較的身体機能が維持されている状態にありますが、外出ができていない割合は一定程度存在していることが分かります。また、男女別に傾向を見ると、外出頻度については、男女では週1回以上の外出の割合に顕著な差は見られていません。

図表 6-17 要介護未認定者と要介護認定者における外出状況
(介護予防・日常生活圏域ニーズ調査 問11、要介護認定者調査 問25)



図表 6-18 性別の外出状況



【男女別の取り組み向上に向けた方向性】

各種活動への参加状況として、女性は「ボランティアのグループ」「スポーツ関係のグループやクラブ」「趣味関係のグループ」「学習・教養サークル」「介護予防のための通いの場」「高齢者クラブ」に参加している割合が高く、男性は「町会・自治会」「収入のある仕事」の割合が高くなっています。これらの結果からは、女性は比較的身近な人間関係を通じて、男性は社会的な役割を担うことを通じて他者や社会とつながる傾向にあることが推察されます。高齢者が社会と関わりを持つ機会を増やすにあたっては、こうした仮説を念頭に、男女それぞれにアプローチしていくことも有効と考えられます。

図表 6-19 性別の各種活動への参加状況

		回 答 者 数	週 4 回 以 上	週 2 ～ 3 回	週 1 回	月 1 ～ 3 回	年 に 数 回	参 加 し て い な い	無 回 答	参 加 あ り	
全体		2,914	0.7	1.3	1.6	3.5	1.9	51.0	39.9	9.1	(%)
ボランティア	男性	1,196	0.6	1.5	1.3	2.7	1.5	57.8	34.6	7.6	
	女性	1,613	0.7	1.2	1.8	4.2	2.0	46.7	43.3	10.0	
スポーツ関係	男性	1,196	2.8	4.3	4.9	5.9	3.8	48.3	29.8	21.8	
	女性	1,613	3.8	11.5	7.6	4.3	0.9	36.0	35.8	28.1	
趣味関係	男性	1,196	0.9	2.4	5.2	9.9	7.7	45.9	27.9	26.2	
	女性	1,613	1.7	5.6	9.5	13.8	4.2	32.6	32.5	34.8	
学習・教養	男性	1,196	0.2	0.9	0.9	2.8	2.7	55.3	37.2	7.5	
	女性	1,613	0.7	1.5	3.1	5.2	2.5	42.7	44.3	13.0	
介護予防の 通いの場	男性	1,196	0.2	1.2	0.7	1.3	1.3	59.4	36.0	4.6	
	女性	1,613	1.2	2.9	2.0	3.6	2.0	46.8	41.5	11.7	
高齢者 クラブ	男性	1,196	0.3	0.1	0.2	1.2	1.8	59.9	36.5	3.5	
	女性	1,613	0.2	0.2	0.6	1.7	1.6	50.7	44.9	4.4	
町会・ 自治会	男性	1,196	0.4	0.4	0.8	5.1	8.6	51.8	32.9	15.4	
	女性	1,613	0.2	0.4	0.5	4.2	6.4	45.9	42.3	11.8	
収入のある 仕事	男性	1,196	13.7	8.1	1.3	2.3	2.0	41.6	31.0	27.4	
	女性	1,613	7.9	6.4	1.5	1.6	1.0	39.4	42.0	18.5	

※『活動あり』は「週4回以上」「週2～3回」「週1回」「月1～3回」「年に数回」の合計

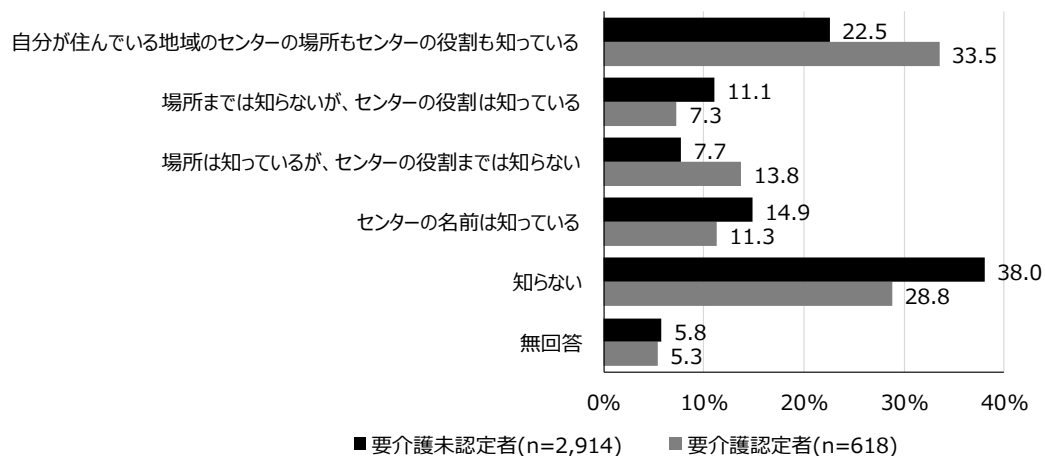
④ 高齢者総合相談センターの認知度

要介護未認定者においては「知らない」が最も高く、要介護認定者においては「自分が住んでいる地域のセンターの場所もセンターの役割も知っている」が最も高くなっています。

「自分が住んでいる地域のセンターの場所もセンターの役割も知っている」の割合は、要介護未認定者は要介護認定者に比べ11.0ポイント低く、「知らない」の割合は9.2ポイント高くなっています。

高齢者総合相談センターは、高齢者に対する介護保険サービスや介護保険制度外の保健福祉サービスの利用に係る相談、日常生活支援などの相談窓口を担っていますが、要介護認定を受けてない高齢者における認知度は低くなっています。高齢者が住み慣れた地域で安心して生活できる地域づくりを進めるにあたっては、高齢者に対する認知度を高める必要があります。

図表 6-20 要介護未認定者と要介護認定者における高齢者総合相談センターの認知度
(介護予防・日常生活圏域ニーズ調査 問46、要介護認定者調査 問21)



(2) ケアマネジャー調査

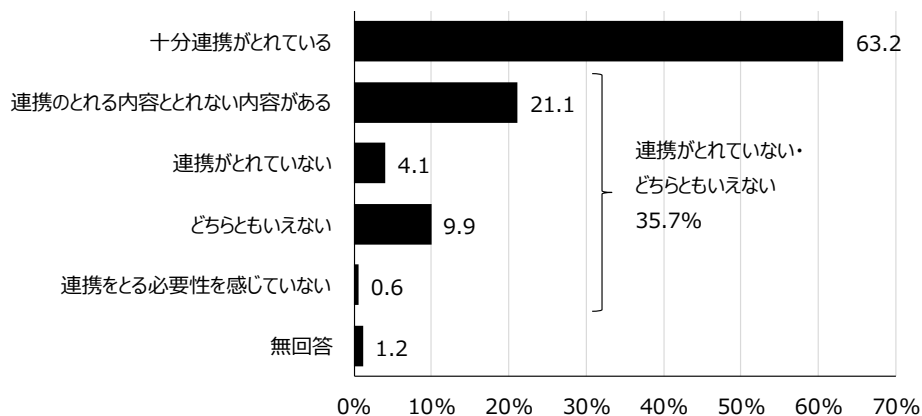
ケアマネジャーは、高齢者ご本人及びその家族、介護・医療等の専門職との橋渡しの役割を担っており、地域包括ケアの中心的な役割が期待されている中、各種関係機関との連携や質の向上に課題を抱えていることが想定されます。本項では、そのような実態を取りまとめるとともに、今後重点的に取り組むべき内容について整理しています。

① 高齢者総合相談センターとの連携状況

【高齢者総合相談センターとの連携状況・課題】

高齢者に対する支援の充実や困難事例への対応にあたっては、居宅介護支援事業所のケアマネジャーと高齢者総合相談センターとの連携が重要になりますが、高齢者総合相談センターとの連携状況について、「十分連携がとれている」が63.2%と最も多く、次いで「連携のとれる内容ととれない内容がある」が21.1%、「どちらともいえない」が9.9%となっており、『連携がとれていない・どちらともいえない』と回答している方は35.7%存在します。

図表 6-21 高齢者総合相談センターとの連携状況 (n=171)



【高齢者総合相談センターとの連携における課題】

より詳細な実態を把握することを目的に、従事職員数別に高齢者総合相談センターとの連携状況と、連携がとれない理由をみると、従業員数が少ないほど『連携がとれていない・どちらともいえない』と回答している割合が高くなっています。また、連携がとれない理由として、23.0%の方が「自分の業務が忙しい」と回答していることから、従業員数が少ない事業所においては、一人のケアマネジャーに業務量が集中し、高齢者総合相談センターと連携をとる余裕がなくなっていることが推察されます。

また、包括圏域別の状況を見ると、包括圏域ごとに、『連携が取れていない・どちらともいえない』と回答している割合にばらつきがある状況となっており、連携がとれない理由として、約半数の方が「包括ごとに職員のレベルや対応に違いがある」と回答していることの裏付けとなっています。

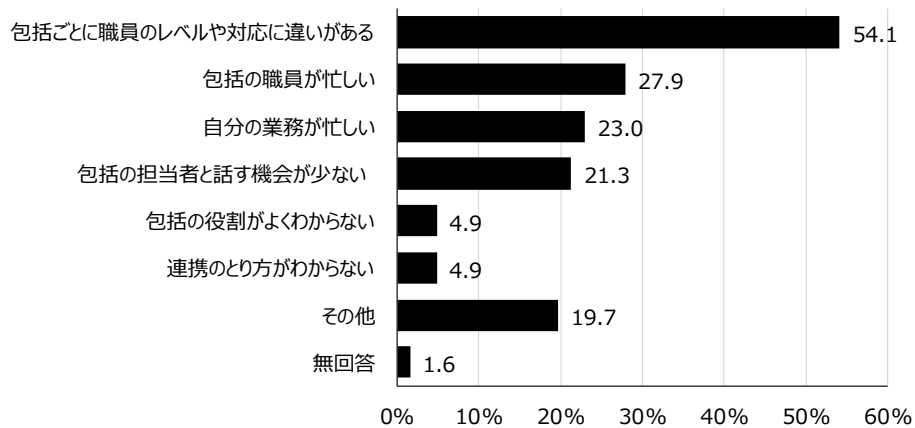
このことから、居宅介護支援事業所の人員の確保や業務の効率化を図ることが重要であるほか、高齢者総合相談センター側の対応の平準化を進めるとともにその充実を図ることが必要であると考えられます。

図表 6-22 従事職員数別・包括圏域別の高齢者総合相談センターとの連携状況

		回答者数 (n)	十分連携がとれている	と連携の内容及内容と	連携がとれていない	どちらともいえない	連携をとる必要性を感じていない	無回答	ど連携が取れていない・
全体		171	63.2	21.1	4.1	9.9	0.6	1.2	35.7
従事職員数	1人	19	47.4	31.6	10.5	10.5	0.0	0.0	52.6
	2人	25	64.0	20.0	4.0	8.0	4.0	0.0	36.0
	3人	50	66.0	20.0	4.0	8.0	0.0	2.0	32.0
	4人	30	56.7	23.3	3.3	13.3	0.0	3.3	40.0
	5人	19	68.4	21.1	0.0	10.5	0.0	0.0	31.6
	6人以上	28	71.4	14.3	3.6	10.7	0.0	0.0	28.6
包括圏域	菊かおる園高齢者総合相談センター	14	57.1	21.4	0.0	21.4	0.0	0.0	42.9
	東部高齢者総合相談センター	32	65.6	18.8	0.0	15.6	0.0	0.0	34.4
	中央高齢者総合相談センター	12	50.0	33.3	0.0	16.7	0.0	0.0	50.0
	いけよんの郷高齢者総合相談センター	24	50.0	29.2	4.2	8.3	0.0	8.3	41.7
	ふくろうの杜高齢者総合相談センター	19	94.7	5.3	0.0	0.0	0.0	0.0	5.3
	豊島区医師会高齢者総合相談センター	24	58.3	20.8	8.3	12.5	0.0	0.0	41.7
	西部高齢者総合相談センター	16	68.8	12.5	6.3	6.3	6.3	0.0	31.3
	アトリエ村高齢者総合相談センター	30	60.0	26.7	10.0	3.3	0.0	0.0	40.0

※ 『連携が取れていない・どちらともいえない』は「連携のとれる内容」と「連携がとれない内容がある」「連携がとれていない」「どちらともいえない」「連携をとる必要性を感じていない」の合計

図表 6-23 高齢者総合相談センターと連携がとれない理由 (n=61)

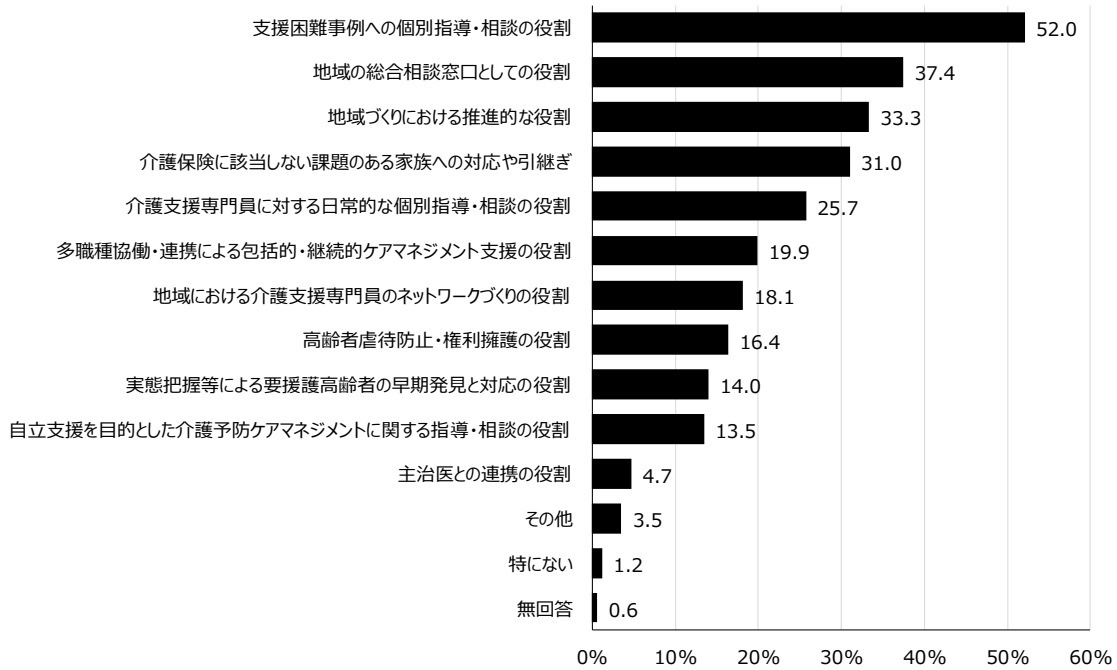


【連携促進に向けた方向性】

ケアマネジャーが高齢者総合相談センターに期待する役割の内容をみると、「支援困難事例への個別指導・相談の役割」が最も高くなっているほか、「地域の総合相談窓口としての役割」や「地域づくりにおける推進的な役割」への期待も高く、個別の相談対応のみならず、地域づくりにおける中心的役割を期待されていることが分かります。

また、高齢者総合相談センターとの連携状況別に期待する役割の内容をみると、連携状況によって求められている役割は異なることが分かります。“連携のとれる内容をとれない内容がある”と回答している方においては、「介護保険に該当しない課題のある家族への対応や引継ぎ」の回答割合が38.9%と高くなっていたり、“連携がとれていない”と回答している方においては、「高齢者の虐待防止・権利擁護の役割」の回答割合が42.9%と高くなっているように、“連携のとれる内容をとれない内容がある”“連携がとれていない”と回答している方は、単に連携がとれていないということではなく、ケアマネジャーが対応の難しい課題を抱えており、高齢者総合相談センターとの連携へのニーズが高いということが分かります。一方で、“十分連携が取れている”と回答している方においては、他の連携状況に比べ、「地域づくりにおける推進的な役割」を回答している割合が38.9%と高く、介護保険サービスに関わる内容や個別の支援困難事例等への相談対応に加え、高齢者が安心して住み続けられる地域・社会づくりへの役割の期待があることが推察されます。

図表 6-24 高齢者総合相談センターに期待する役割 (n=171)



図表 6-25 高齢者総合相談センターとの連携状況別の
高齢者総合相談センターに期待する役割

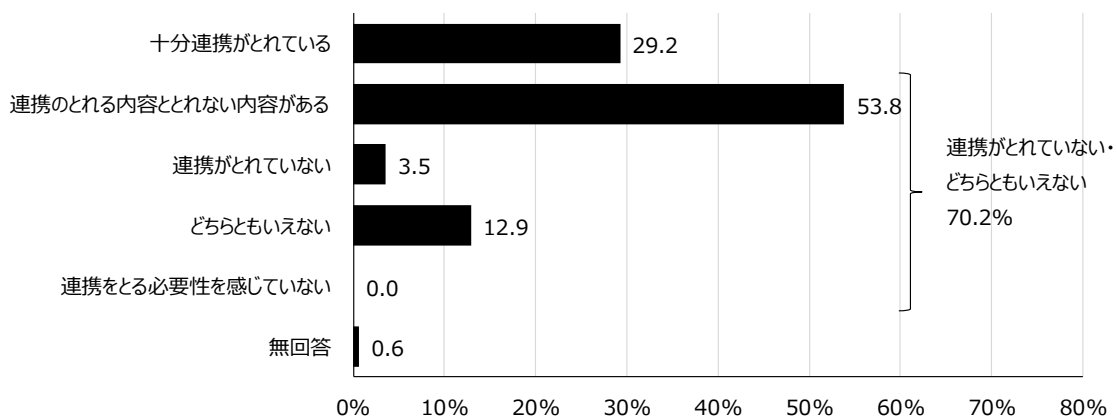
	回答者数	自立支援を目的とした介護予防ケアマネジメントに関する指導・相談の役割	地域づくりにおける推進的な役割	主治医との連携の役割	日常的な個別指導・相談の役割	介護支援専門員に対する個別指導・相談の役割	支援困難事例への個別指導・相談の役割	地域における介護支援専門員のネットワークづくりの役割	多職種協働・連携による包括的・継続的ケアマネジメント支援の役割	地域の総合相談窓口としての役割	早期発見と対応による要援護高齢者の役割	高齢者虐待防止・権利擁護の役割	家族への対応や引き継ぎ課題のある介護保険に該当しない課題のある	その他	特になし	無回答
全体	171	13.5	33.3	4.7	25.7	52.0	18.1	19.9	37.4	14.0	16.4	31.0	3.5	1.2	0.6	(%)
高齢者総合相談センターとの連携	108	17.6	38.9	6.5	22.2	50.9	20.4	24.1	38.0	15.7	12.0	29.6	0.9	0.9	0.0	
十分連携がとれている	36	2.8	22.2	2.8	36.1	55.6	8.3	16.7	33.3	11.1	27.8	38.9	11.1	0.0	0.0	
連携のとれる内容ととれない内容がある	7	0.0	14.3	0.0	14.3	42.9	28.6	0.0	42.9	0.0	42.9	42.9	0.0	14.3	0.0	
連携がとれていない	17	11.8	35.3	0.0	35.3	58.8	23.5	11.8	41.2	11.8	11.8	17.6	5.9	0.0	0.0	
どちらともいえない	1	100.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
連携をとる必要性を感じていない																

② 医療機関との連携状況

【医療機関との連携状況】

医療と介護の円滑な連携の推進にあたっては、介護分野の中心的役割を担うケアマネジャーと医療機関との連携の促進が求められますが、居宅介護支援事業所のケアマネジャーと医療機関との連携状況をみると、「連携のとれる内容ととれない内容がある」が53.8%と最も多く、次いで「十分連携がとれている」が29.2%、「どちらともいえない」が12.9%となっています。『連携がとれていない・どちらともいえない』と回答している方は70.2%存在し、高齢者総合相談センターとの連携以上に、連携を推進していくことが求められます。

図表 6-26 医療機関との連携 (n=171)



【医療機関との連携における課題】

より詳細な実態を把握することを目的に、従事年数別の連携状況をみると、“5年未満”と“5年以上”で『連携がとれていない・どちらともいえない』割合に大きな差があることが見て取れます。医療関係者との関係性の構築には一定期間を要していることが想定され、従事年数が医療関係者と会話する機会に影響を与えていることが推察されます。

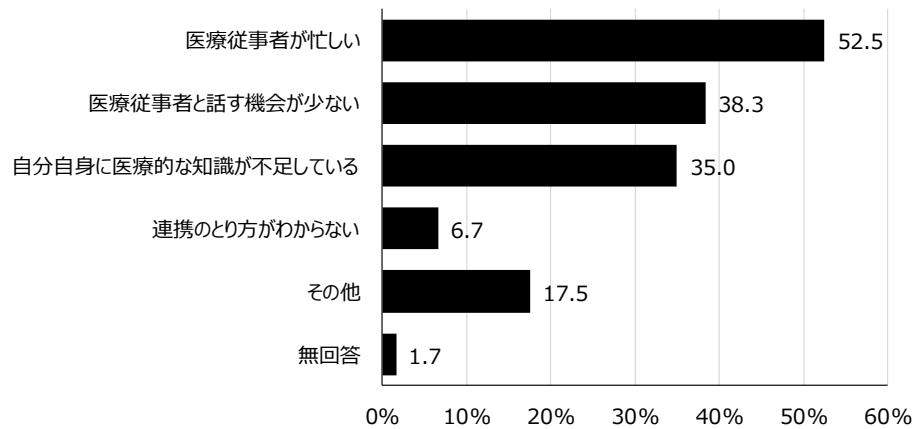
保有している資格別でみると、医療系の資格があるほうが十分連携がとれている割合が高くなっています。医療機関との連携がとれない理由として、35.0%の方が「自分自身に医療的な知識が不足している」と回答していることから、医療系の資格や知見を有していることが、医療機関との連携に効果的に働いていることが推察されます。

図表 6-27 従事年数別の医療機関との連携

		回 答 者 数	十 分 連 携 が と れ て い る	と 連 携 の と れ る 内 容 が あ る	連 携 が と れ て い ない	ど ち ら と も い え ない	感 連 携 を と る 必 要 性 を	無 回 答	ど 連 携 が 取 も れ て い ない ・
全体		171	29.2	53.8	3.5	12.9	0.0	0.6	70.2
従事年数	1年未満	13	15.4	38.5	7.7	38.5	0.0	0.0	84.6
	1年以上3年未満	17	17.6	70.6	0.0	11.8	0.0	0.0	82.4
	3年以上5年未満	23	17.4	52.2	0.0	30.4	0.0	0.0	82.6
	5年以上10年未満	50	38.0	52.0	2.0	8.0	0.0	0.0	62.0
	10年以上15年未満	43	27.9	60.5	4.7	7.0	0.0	0.0	72.1
	15年以上	24	41.7	45.8	8.3	4.2	0.0	0.0	58.3
保有資格	医療系資格あり	15	53.3	46.7	0.0	0.0	0.0	0.0	46.7
	医療系資格なし	154	27.3	54.5	3.9	14.3	0.0	0.0	72.7

※医療系資格は、医師・歯科医師・薬剤師・保健師・看護師、准看護師・理学療法士・作業療法士を含む
 ※『連携が取れていない・どちらともいえない』は「連携のとれる内容ととれない内容がある」「連携がとれていない」「どちらともいえない」「連携をとる必要性を感じていない」の合計

図表 6-28 医療機関と連携がとれない理由 (n=120)



【連携促進に向けた方向性】

医療系資格の有無別の医療機関と連携がとれない理由をみると、医療系の資格を有していない方は「自分自身に医療的な知識が不足している」と回答している方の割合が高くなっており、医療的な知識が不足していることで、医療機関との連携へのハードルが高くなっていることが想定されます。

また、医療従事者と話す機会が少ないといった意見の他、連携の取り方がわからないという方も一定数いることが分かります。関係者間の協議会や連絡会、勉強会等を通し、個人の経験年数等によらず、関係者が円滑に連携をとることができる体制を構築することが必要です。

図表 6-29 保有資格別の医療機関と連携がとれない理由

		回答者数	不足している医療的な知識が	自分自身に医療的な知識が	少ない医療従事者と話す機会が	連携のとり方がわからない	医療従事者が忙しい	その他	無回答
全体		120	35.0	38.3	6.7	52.5	17.5	1.7	(%)
保有資格	医療系資格あり	7	0.0	42.9	14.3	71.4	14.3	0.0	
	医療系資格なし	112	37.5	38.4	6.3	50.9	17.9	1.8	

※医療系資格は、医師・歯科医師・薬剤師・保健師・看護師、准看護師・理学療法士・作業療法士を含む

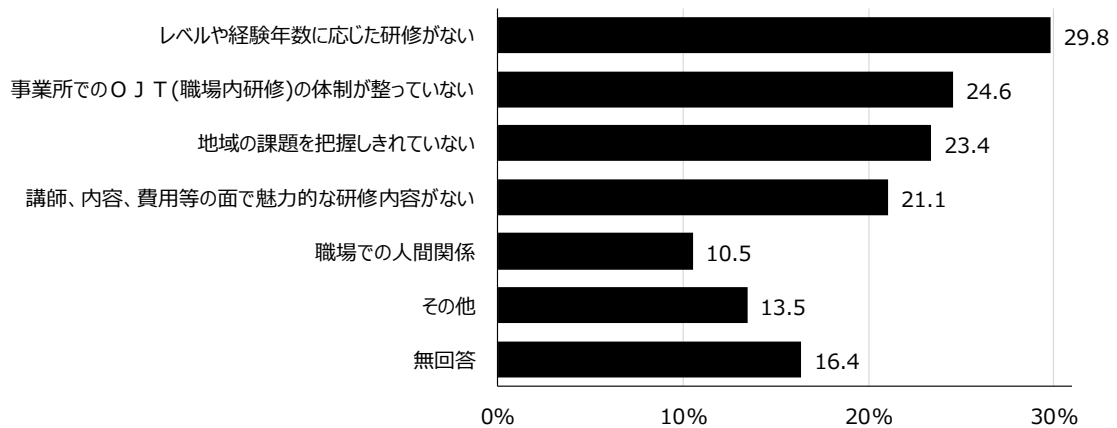
③ 質の確保に向けた取り組み

【質の向上における課題】

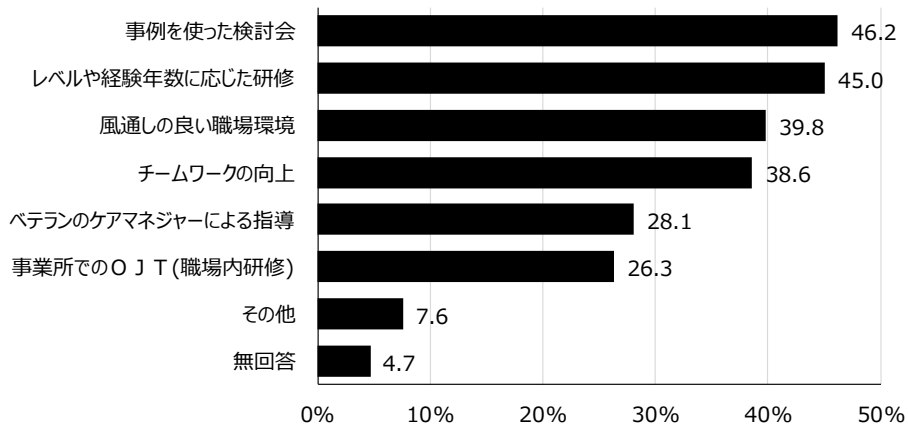
外部との連携状況のほか、ケアマネジャー自身の質の向上に関する実態を把握することを目的に、ケアマネジャーの質の向上における課題についてみると、「レベルや経験年数に応じた研修がない」が29.8%と最も多く、次いで「事業所でのOJT(職場内研修)の体制が整っていない」が24.6%、「地域の課題を把握しきれていない」が23.4%となっています。また、ケアマネジャーの質の向上に必要なことをみると、「事例を使った検討会」が46.2%と最も多く、次いで「レベルや経験年数に応じた研修」が45.0%、「風通しの良い職場環境」が39.8%となっています。

以上の状況を踏まえると、幅広い年齢や経験年数に対応した教育の仕組みが求められていることが推察され、手段の一つとして、「事例を使った検討会」や「レベルや経験年数に応じた研修」を受けられる機会の確保が求められています。

図表 6-30 ケアマネジャーの質の向上における課題 (n=171)



図表 6-31 ケアマネジャーの質の向上に必要なこと (n=171)



【特に支援が必要な層】

ケアマネジャーの教育に対するニーズを把握することを目的に、従事年数別のケアマネジャーの質の向上に必要なだと考えられていることをみると、特に3年未満で「レベルや経験年数に応じた研修」へのニーズが高くなっています。3年未満の経験年数のケアマネジャーに対し、重点的に研修を行っていくことも有効な取り組みの一つであると考えられます。

図表 6-32 従事年数別のケアマネジャーの質の向上に必要なこと

		回答者数	応じた研修レベルや経験年数に	事業場でのOJT（職場内研修）	ベテランのケアマネジャーによる指導	事例を使った検討会	チームワークの向上	風通しの良い職場環境	その他	無回答
全体		171	45.0	26.3	28.1	46.2	38.6	39.8	7.6	4.7
従事年数	1年未満	13	69.2	23.1	38.5	69.2	30.8	61.5	7.7	0.0
	1年以上3年未満	17	82.4	11.8	41.2	23.5	29.4	41.2	5.9	11.8
	3年以上5年未満	23	39.1	43.5	39.1	52.2	34.8	60.9	0.0	0.0
	5年以上10年未満	50	38.0	22.0	20.0	42.0	52.0	30.0	8.0	8.0
	10年以上15年未満	43	37.2	27.9	34.9	53.5	30.2	37.2	7.0	0.0
	15年以上	24	41.7	29.2	8.3	41.7	41.7	33.3	16.7	4.2

(%)

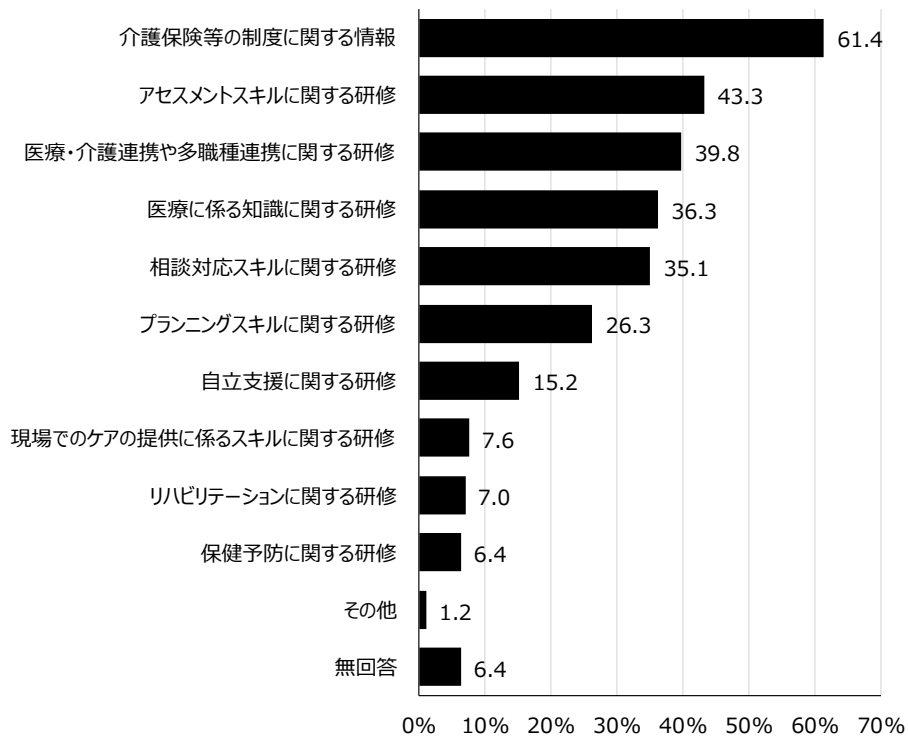
【質の向上に有効な研修内容】

具体的な研修内容として求められていることを明らかにするために、業務に役立った研修内容の状況をみると、「介護保険等の制度に関する情報」が61.4%と最も多く、次いで「アセスメントスキルに関する研修」が43.3%、「医療・介護連携や多職種連携に関する研修」が39.8%となっています。

従事年数では顕著な差は見取れませんが、年齢別でみると、若年層であるほど、相談対応スキルに関する研修が高くなっています。ケアマネジャーとしての従事年数に関わらず、専門職としての経験年数に応じて、課題の内容が異なることが推察されます。年齢が若いほど、「相談対応スキルに関する研修」へのニーズが高いことから、利用者との対応に課題を感じている可能性が考えられます。一方で、年齢が高い層においては、「介護保険等の制度に関する情報」が高いことから、所属する事業所のケアマネジャーに対し、制度を周知する立場としてニーズを感じていることが考えられます。

このような状況を踏まえ、従来のケアマネジャー研修参加者からの意向等も取り入れ、レベルや経験年数に応じた体系的な研修内容を充実していくことが求められています。

図表 6-33 業務に役立った研修内容 (n=171)



図表 6-34 年齢別・従事年数別の業務に役立った研修内容

		回答者数	介護保険等の制度に関する情報	相談対応スキルに関する研修	アセスメントスキルに関する研修	プランニングスキルに関する研修	医療に係る知識に関する研修	現場でのケアの提供に係る研修	保健予防に関する研修	リハビリテーションに関する研修	医療・介護連携や多職種連携に関する研修	自立支援に関する研修	その他	無回答
全体		171	61.4	35.1	43.3	26.3	36.3	7.6	6.4	7.0	39.8	15.2	1.2	6.4
年齢	20歳代	2	50.0	50.0	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0
	30歳代	14	57.1	50.0	57.1	7.1	14.3	7.1	0.0	0.0	21.4	28.6	0.0	7.1
	40歳代	56	55.4	37.5	32.1	30.4	35.7	8.9	8.9	7.1	35.7	7.1	3.6	7.1
	50歳代	47	68.1	36.2	48.9	21.3	40.4	4.3	4.3	8.5	36.2	17.0	0.0	4.3
	60歳代	42	64.3	26.2	47.6	28.6	38.1	4.8	4.8	2.4	54.8	21.4	0.0	4.8
	70歳代以上	8	75.0	37.5	62.5	50.0	37.5	37.5	25.0	25.0	50.0	12.5	0.0	12.5
従事年数	1年未満	13	38.5	38.5	46.2	30.8	15.4	7.7	0.0	0.0	38.5	15.4	0.0	0.0
	1年以上3年未満	17	58.8	23.5	35.3	29.4	35.3	0.0	5.9	0.0	23.5	0.0	0.0	11.8
	3年以上5年未満	23	65.2	52.2	39.1	21.7	39.1	0.0	0.0	4.3	30.4	13.0	0.0	0.0
	5年以上10年未満	50	52.0	34.0	38.0	28.0	32.0	12.0	6.0	4.0	50.0	18.0	2.0	14.0
	10年以上15年未満	43	81.4	37.2	55.8	18.6	44.2	11.6	11.6	14.0	46.5	14.0	0.0	0.0
	15年以上	24	58.3	25.0	41.7	37.5	41.7	4.2	8.3	12.5	29.2	25.0	4.2	4.2

(3) 介護サービス事業所調査

各種介護保険サービスを提供する事業所においては、今後もより一層増加する介護保険サービスへの需要に対応することが求められており、その解決策の一つとして、外国人労働者の雇用や介護ロボットの活用、ICTツールの活用への関心が高まっています。本項では、そのような実態を取りまとめるとともに、今後重点的に取り組むべき内容について整理しています。

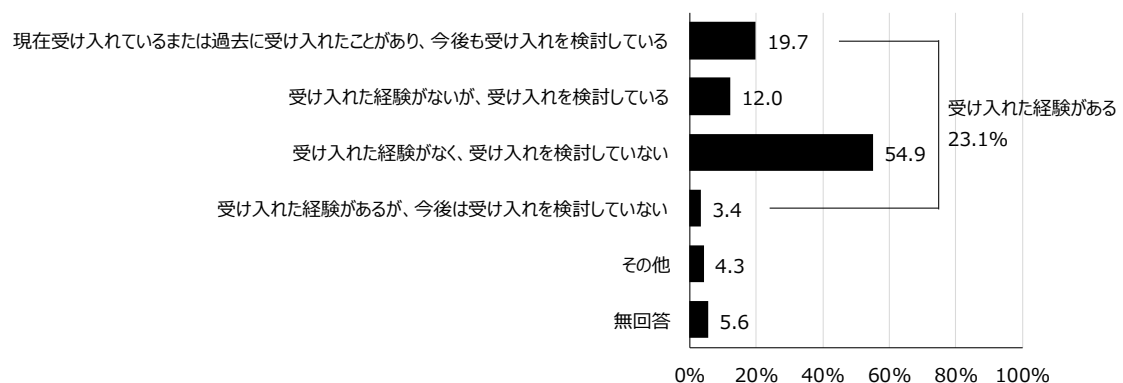
① 外国人労働者の活用の状況・意向

【外国人労働者の採用の状況・今後の意向】

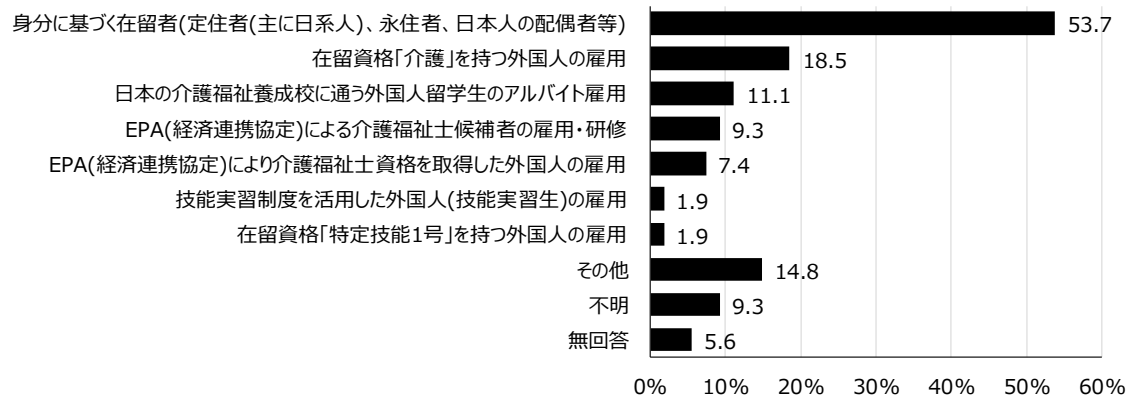
今後高まる介護ニーズに対する人材確保策の一つとして、外国人労働者の活用が考えられますが、介護職員として外国人労働者を受け入れた経験がある事業所は回答事業所の23.1%にとどまり、また、そのうちの53.7%が「身分に基づく在留者」を雇用しています。このことから、各種制度を用いた介護事業所への外国人材の採用については、現時点では一部の意欲的な事業所にとどまり、多くの事業所ではまだ対応していないということがうかがえます。

ただし、受け入れ経験がある事業所も含め、31.7%の事業所では今後の受け入れを検討しています。人材確保策の一つとして、外国人材の採用が認識されつつあり、関心も高まっているものと考えられます。

図表 6-35 外国人労働者の受け入れ状況 (n=233)



図表 6-36 外国人労働者の雇用制度 (n=54)



【サービス種別の外国人労働者の採用の状況・今後の意向】

受け入れ状況の詳細な実態を把握することを目的に、サービス類型別の受け入れ状況を見ると、受け入れ経験がある、もしくは今後受け入れを検討している事業所の多くは通所系サービス、短期入所サービス、居住系サービス、施設サービスであり、訪問系サービスの割合は低い状況です。業務上のハードルから、少なくとも現時点では訪問系サービスでの受け入れは容易ではないことがうかがえます。

図表 6-37 法人種別、サービス類型別の外国人労働者の受け入れ状況

		回答者数	現在あり、今後受ける可能性を検討している	受け入れを検討しているが、経験がない	受け入れを検討しているが、経験がない	受け入れを検討しているが、経験がない	今後受け入れた経験があるが、検討していない	その他	無回答
全体		233	19.7	12.0	54.9	3.4	4.3	5.6	(%)
サービス 類型	訪問系サービス	92	15.2	14.1	56.5	2.2	5.4	6.5	
	通所系サービス	43	27.9	16.3	39.5	11.6	4.7	0.0	
	短期入所サービス	12	50.0	16.7	33.3	0.0	0.0	0.0	
	居住系サービス	11	36.4	27.3	9.1	9.1	0.0	18.2	
	施設サービス	11	54.5	18.2	27.3	0.0	0.0	0.0	
	その他の居宅サービス	64	6.3	1.6	79.7	0.0	4.7	7.8	

【外国人労働者の受け入れに際しての課題と今後の方向性】

外国労働者の雇用に際しての課題を把握することを目的に、受け入れ状況別の課題の内容をみると、受け入れに際しての課題としては、受け入れ経験の有無に関わらず「求める人材像等とのマッチング」が上位に含まれており、いかに適切にマッチングできるかが重要となっています。さらに、受け入れた経験がないが受け入れを検討している事業所では、「受け入れにあたっての手続き・方法」がマッチングに次いで選択されています。外国人材の採用に対する関心が高まりつつあるものの、現状はまだ受け入れのための具体的な手続き・方法について十分に知られていないと考えられます。このことから、まずはそれらについて広く周知等を図っていくこと、その上で、適切なマッチングをするための考え方等の普及が求められます。

図表 6-38 外国人労働者の受け入れ状況別の
受け入れにあたっての課題（受け入れ時）

		回答者数	受け入れに あたっての 手続き・方法	受け入れに あたっての 費用	受け入れに あたっての 情報入手	複数の事業所と 情報共有を 行う場がない	求める人材像等との マッチング	その他	特になし	無回答
全体		233	27.5	22.3	19.7	6.0	50.6	5.2	18.9	10.3 (%)
外国人労働者の 受け入れ 状況	現在受け入れているまたは過去に受け入れたことがあり、 今後も受け入れを検討している	46	19.6	17.4	10.9	6.5	56.5	6.5	17.4	10.9
	受け入れた経験がないが、受け入れを検討している	28	71.4	39.3	28.6	0.0	46.4	0.0	0.0	0.0
	受け入れた経験がなく、受け入れを検討していない	128	23.4	23.4	22.7	7.8	53.9	7.0	25.0	2.3
	受け入れた経験があるが、今後は受け入れを検討していない	8	25.0	12.5	12.5	0.0	50.0	0.0	12.5	25.0
	その他	10	0.0	0.0	0.0	0.0	10.0	0.0	10.0	80.0

【外国人労働者を受け入れた経験別の課題と今後の方向性】

受け入れ経験がある事業所では、受け入れの際の課題よりも、受け入れ後の課題に係る各項目の選択率が高くなっています。具体的には、「日本語のコミュニケーション能力」「生活習慣・文化の違い」「外国人職員への指導等による日本人職員の負担」等が課題としてあげられています。

以上を踏まえると、最初の受け入れもさることながら、実際に受け入れた後にも、外国人材が円滑・持続的に就業するためのフォロー等が必要であると考えられます。外国人材の中長期的な普及に向けては、個々の事業所だけで対応できる範囲にも限界があることから、地域全体でフォローすることも有効と考えられます。例えば、今後新たに外国人材の受け入れを検討している事業所においてはその手続・方法について、受け入れ経験がある事業所においては受け入れ後の円滑・持続的な就業のための取り組みについて、それぞれ情報を共有する機会を設けることなどが想定されます。

図表 6-39 外国人労働者の受け入れ状況別の
受け入れにあたっての課題（受け入れ後）

		回答者数	日本語のコミュニケーション能力	生活習慣・文化の違い	介護の考え方・技術等	緊急時の判断や対応	外国人職員への負担	外国人材からの接遇による利用者の反応	日本人職員からの不満	その他	特になし	無回答
全体		233	62.7	50.2	32.2	27.5	30.0	28.8	9.4	5.2	12.0	12.0 (%)
外国人労働者の受け入れ状況	現在受け入れているまたは過去に受け入れたことがあり、今後も受け入れを検討している	46	67.4	45.7	23.9	26.1	28.3	26.1	6.5	8.7	6.5	10.9
	受け入れた経験がないが、受け入れを検討している	28	85.7	71.4	46.4	50.0	46.4	46.4	25.0	3.6	0.0	0.0
	受け入れた経験がなく、受け入れを検討していない	128	63.3	50.8	32.8	27.3	28.1	30.5	8.6	5.5	18.8	5.5
	受け入れた経験があるが、今後は受け入れを検討していない	8	50.0	75.0	75.0	12.5	62.5	12.5	12.5	0.0	0.0	12.5
	その他	10	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	10.0	80.0

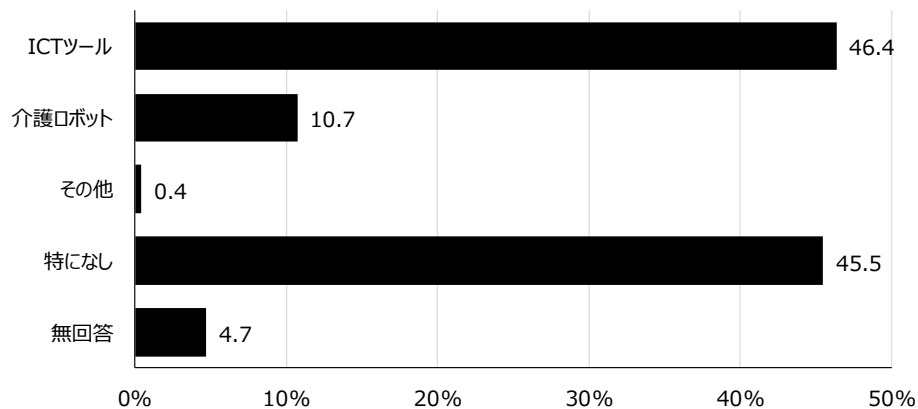
② 生産性向上に向けた取り組み

【ICTツールや介護ロボットの導入状況・意向】

生産性の向上に向け、各種ツールを活用した取り組みが重要になりますが、ICTツールを導入している・導入を検討している事業所は全体の約半数と、多くの事業所で導入の意向が高くなっていることが分かります。

一方で、何らかの介護ロボットを導入している・導入を検討している事業所は全体の約10.7%と外国人材の受け入れ意向がある事業所以上に少なく、現状はまだ大半の事業所で導入意向がないという状況です。一定数は関心があるものの、ICTツールの導入や外国人材の受け入れと比べると、普及が進んでいないものと思われます。

図表 6-40 生産性向上を目的に導入している・導入を検討しているもの(n=233)



【サービス種別のICTツールや介護ロボットの導入状況・意向】

サービス類型別に、介護ロボットやICTツールの導入状況をみると、ICTツールは、“通所系サービス”、“短期入所系サービス”、“施設系サービス”において、半数以上の事業所で導入しているもしくは導入を検討している状況となっています。請求管理や情報管理等の事務作業の効率化へのニーズが高まり、導入意向が高くなっているものと考えられます。

一方で、介護ロボットを導入している・導入を検討している事業所の大半は“短期入所サービス”と“施設サービス”となっています。ロボットの大きさや、事業所の規模を踏まえた費用対効果等を考えると、少なくとも現時点では“訪問系サービス”や“通所系サービス”、“居住系サービス”での導入は難しく、それら以外のサービス類型での導入が前提になるものと考えられます。

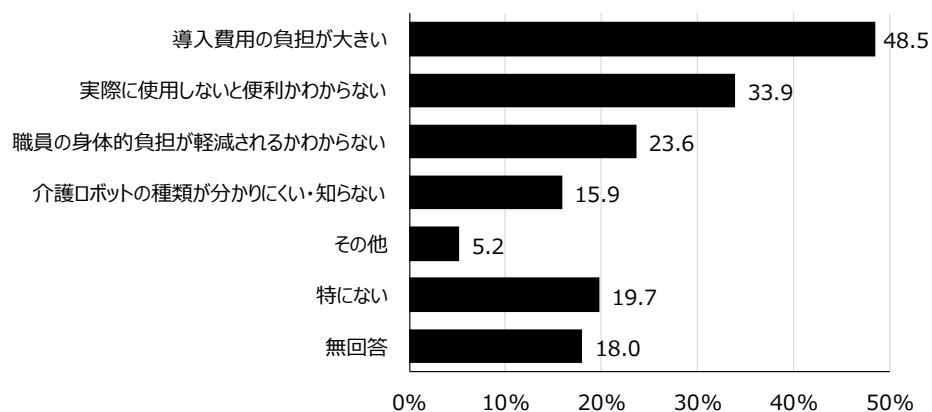
図表 6-41 サービス類型別の生産性向上を目的に
導入している・導入を検討しているもの

		回答者数	介護ロボット	ICTツール	その他	特になし	無回答	
全体		233	10.7	46.4	0.4	45.5	4.7	(%)
サービス類型	訪問系サービス	92	7.6	41.3	0.0	50.0	4.3	
	通所系サービス	43	9.3	58.1	0.0	39.5	2.3	
	短期入所サービス	12	58.3	75.0	0.0	8.3	0.0	
	居住系サービス	11	9.1	36.4	0.0	54.5	9.1	
	施設サービス	11	54.5	90.9	0.0	0.0	0.0	
	その他の居宅サービス	64	0.0	34.4	1.6	56.3	7.8	

【介護ロボットの導入に際しての課題と今後の方向性】

特に介護ロボットについては、介護従事者の介護負担の軽減という面で大きな期待が寄せられます。介護ロボットの導入に際しての課題を把握することを目的に、介護ロボットの導入にあたっての課題をみると、導入時の課題としては、「導入費用の負担が大きい」が最も多く、これに次いで、「実際に使用しないと便利かわからない」「職員の身体的負担が軽減されるかわからない」が多い状況です。ただし、“導入している・今後導入を考えている”事業所に限ってみると「導入費用の負担が大きい」が最も多く、半数以上の事業所で選択されています。

図表 6-42 介護ロボットの導入にあたっての課題（導入時）（n=233）



図表 6-43 介護ロボットの導入状況別の課題（導入時）

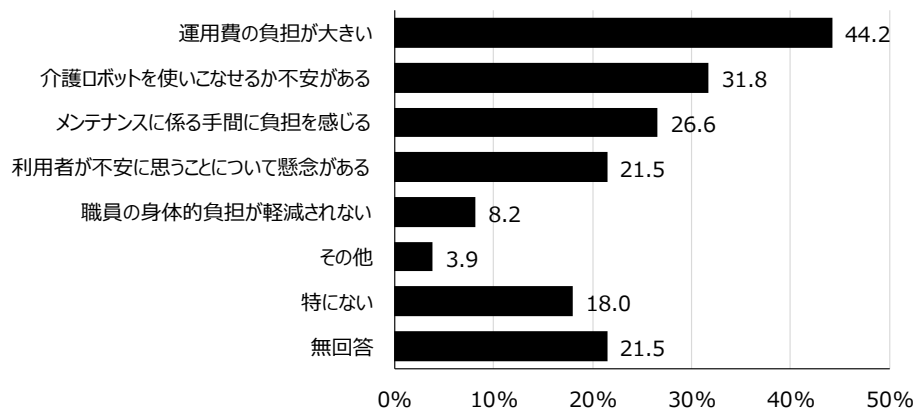
	回答者数	分か り に く い ・ 知 ら な い	介 護 ロ ボ ッ ト の 種 類 が い	導 入 費 用 の 負 担 が 大 き い	便 利 か わ か ら な い と	実 際 に 使 用 し な い と	軽 減 さ れ る 身 体 的 負 担 が な い	職 員 の 身 体 的 負 担 が な い	そ の 他	特 に な い	無 回 答
全体	233	15.9	48.5	33.9	23.6	5.2	19.7	18.0	(%)		
介護ロボットの導入	25	40.0	60.0	28.0	32.0	0.0	0.0	32.0			
導入している・今後導入を考えている	215	14.4	49.8	33.5	24.2	5.6	21.4	15.8			
導入していない・今後導入を考えていない											

【介護ロボットの導入後の運用に係る課題と今後の方向性】

導入後の運用に関する課題としては、「運用費の負担が大きい」「介護ロボットを使いこなせるか不安がある」が多く、これに次いで「利用者が不安に思うことについて懸念がある」が多い状況です。ただし、これも同様に“導入している・今後導入を考えている”事業所に限ってみると「運用費の負担が大きい」が最も多く、半数近くの事業所で選択されています。

これらを踏まえると、介護ロボットに関しては導入・運用ともに費用面が最も大きな課題になっているものと考えられます。介護ロボットの普及に向けては、費用対効果等を踏まえつつ、費用面の負担軽減をどのように図ることが可能かを検討していくことが重要と考えられます。

図表 6-44 介護ロボットの導入にあたっての課題（導入後）（n=233）



図表 6-45 介護ロボットの導入状況別の課題（導入後）

	回答者数	介護ロボットを使いこなせるか不安がある	利用者が不安に思うことについて懸念がある	運用費の負担が大きい	職員の身体的負担が軽減されない	メンテナンスに係る手間に負担を感じる	その他	特になし	無回答
全体	233	31.8	21.5	44.2	8.2	26.6	3.9	18.0	21.5 (%)
介護ロボットの導入									
導入している・今後導入を考えている	25	44.0	12.0	44.0	16.0	40.0	8.0	0.0	28.0
導入していない・今後導入を考えていない	215	31.6	21.4	45.1	8.4	26.0	4.2	19.5	19.5

2. 在宅生活の継続の検討に係る横断的な分析・考察

前項までは、各種実態調査のテーマごとに、分析・考察を行ってきました。本項では、今後増加することが見込まれている要介護認定者の在宅生活の継続へのニーズに応えるために必要な取り組みや、在宅生活の継続に伴い増加する家族介護者の負担や、介護と就労の両立に向けた支援について、3つの実態調査及び、参考情報として在宅介護実態調査の結果を使用し検討を行っています。

図表 6-46 横断的な分析・考察の全体像

横断的な分析・考察の対象範囲				
目指すべき姿		現状・課題 把握	対策	明らかにしたいこと
要介護認定者本人とその家族介護者が安心して在宅生活を継続できる	要介護認定者が不安なく在宅生活を継続することができる	① 介護を受ける場所として在宅へのニーズはどの程度あるのか。 ② 特に重点的な対応が求められる重度者の分布はどのようになっているのか。 ③ 在宅生活の維持が難しくなっている人の割合・その理由はどのようになっているのか。	④ 在宅生活の維持が難しくなっている方がどのような支援を求めているか。	1 要介護認定者の観点 要介護認定者が在宅生活を維持するために必要な支援
	家族介護者が安心して就労を継続することができる	① 就労している家族介護者の割合・今後も介護と就労を両立できると考えている家族介護者の割合どの程度いるのか。	② 家族介護者が就労を継続するために必要な支援は何か。	2 家族介護者の観点 家族介護者が就労を継続するために必要な支援
	在宅生活の維持に必要な介護資源が整っている	① 在宅生活の継続のために必要なサービスは何か。 ② 介護人材の採用と離職の状況の実態はどのようになっているか。	③ 介護人材の確保・定着に向け必要な支援は何か。	3 介護資源の観点 介護資源の充実に向け重点的に取り組む内容

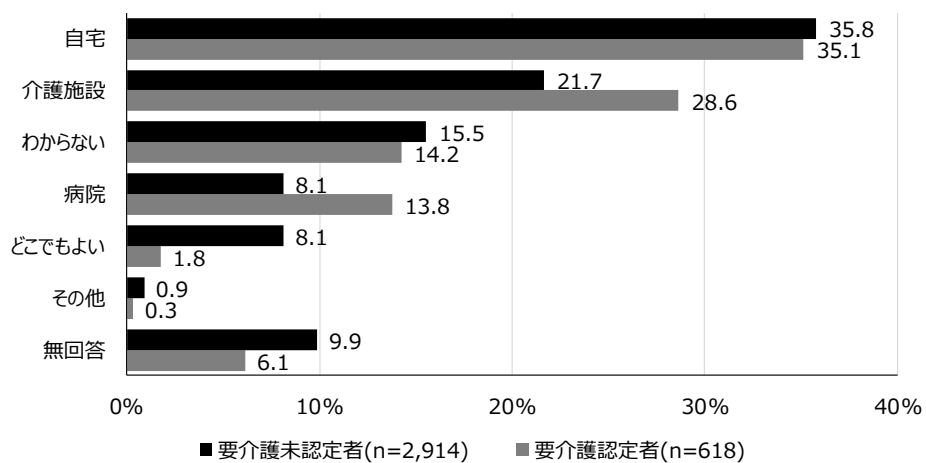
（１）要介護認定者の介護の実態

① 在宅生活へのニーズ

高齢者の在宅生活に対するニーズの現状を把握することを目的に、要介護未認定者と要介護認定者に対し、将来介護を受けたい場所について伺ったところ、いずれにおいても「自宅」が最も高い結果となりました。

要介護認定者においては、「介護保険施設」も高く、要介護未認定者と比べ6.9ポイント高くなっていることから、要介護認定者においては、自身の心身機能の低下を自覚し、将来の生活の場について現実的な選択肢を考え始めていることが推察されます。しかし、全体としてみると自宅を選ぶ方が多く、在宅生活へのニーズが高いことが分かります。

図表 6-47 要介護未認定者と要介護認定者における介護を受けたい場所
（介護予防・日常生活圏域ニーズ調査 問43、要介護認定者調査 問14）



② 地域別の高齢者の実態

【要介護度・認知症自立度・身体機能自立度の地域差】

要介護認定者の在宅生活へのニーズに応えるにあたっては、状態像にあった支援を行うことが求められます。地域における高齢者の実態を把握するため、地区別の要介護度の分布をみたところ、「要介護3～5」は“西部地区”で最も高くなっている一方で、認知症自立度と身体機能自立度の状況をみると、認知機能自立度の「中・重度者」は“北部地区”で、身体機能自立度の「中・重度者」は“東部地区”で、最も高くなっています。

要介護度重度者の分布と、認知機能自立度及び身体機能自立度の中・重度者の分布は必ずしも一致していなく、高齢者の心身機能の状態に、地区によって差があることが推察されます。要介護認定者に対する支援やサービスの充実にあたっては、地域によって状態像に差があることも勘案することが必要です。

図表 6-48 居住地別の要介護度の状況（在宅介護実態調査）

		回 答 者 数	要 支 援 1 ～ 2	要 介 護 1 ～ 2	要 介 護 3 ～ 5	
全体		425	37.9	35.1	27.1	(%)
居住地	西部地区	130	31.5	39.2	29.2	
	東部地区	131	45.0	28.2	26.7	
	南部地区	80	38.8	38.8	22.5	
	北部地区	84	35.7	35.7	28.6	

※認知機能に係る情報がない者は除外して集計

図表 6-49 居住地別の認知機能の状況（在宅介護実態調査）

		回 答 者 数	自 立	軽 度	中 ・ 重 度	
全体		419	27.9	53.7	18.4	(%)
居住地	西部地区	130	26.9	57.7	15.4	
	東部地区	127	30.7	48.0	21.3	
	南部地区	79	27.8	54.4	17.7	
	北部地区	83	25.3	55.4	19.3	

※身体機能に係る情報がない者は除外して集計

図表 6-50 居住地別の身体機能の状況（在宅介護実態調査）

		回 答 者 数	自 立	軽 度	中 ・ 重 度	
全体		419	52.7	32.9	14.3	(%)
居住地	西部地区	130	46.2	40.0	13.8	
	東部地区	127	59.8	27.6	12.6	
	南部地区	79	57.0	30.4	12.7	
	北部地区	83	48.2	32.5	19.3	

※認知機能に係る情報がない者は除外して集計

図表 6-51 認知症自立度（参考）

用語	ランク	判断基準
自立	I	何らかの認知症を有するが、日常生活は家庭内及び社会的にほぼ自立している。
軽度	II	日常生活に支障を来すような症状・行動や意思疎通の困難さが多少見られても、誰かが注意していれば自立できる。
	II a	家庭外で上記 II の状態が見られる。
	II b	家庭内でも上記 II の状態が見られる。
中・重度	III	日常生活に支障を来すような症状・行動や意思疎通の困難さが見られ、介護を必要とする。
	III a	日中を中心として上記 III の状態が見られる。
	III b	夜間を中心として上記 III の状態が見られる。
	IV	日常生活に支障を来すような症状・行動や意思疎通の困難さが頻繁に見られ、常に介護を必要とする。
	M	著しい精神症状や問題行動あるいは重篤な身体疾患が見られ、専門医療を必要とする。

図表 6-52 身体機能自立度（参考）

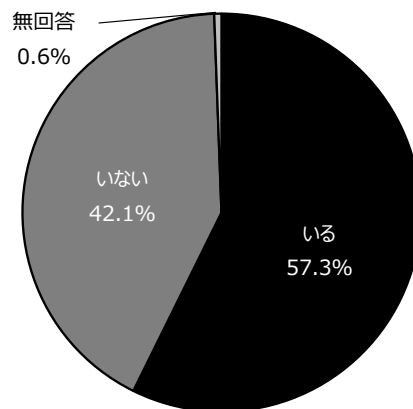
用語	ランク	判断基準
自立	ランク J	何らかの障害等を有するが、日常生活はほぼ自立しており独力で外出する。 1. 交通機関等を利用して外出する。 2. 隣近所へなら外出する。
軽度	ランク A	屋内での生活は概ね自立しているが、介助なしには外出しない。 1. 介助により外出し、日中はほとんどベッドから離れて生活する。 2. 外出の頻度が少なく、日中も寝たり起きたりの生活をしている。
中・重度	ランク B	屋内での生活は何らかの介助を要し、日中もベッド上での生活が主体であるが、座位を保つ。 1. 車いすに移乗し、食事、排泄はベッドから離れて行う。 2. 介助により車いすに移乗する。
	ランク C	1. 日中ベッド上で過ごし、排泄、食事、着替えにおいて介助を要する。 2. 自力で寝返りをうつ。 3. 自力では寝返りもうてない。

③ 在宅生活の継続が困難である方の実態

【在宅生活の維持が難しくなっているケース】

在宅生活に対するニーズが大きい一方で、在宅生活の継続が困難となっている方は一定数存在することが想定されます。その現状を把握することを目的に、豊島区でケアマネジャーとして従事されている方に対し、担当する利用者のうち在宅で生活している方の中で、現在のサービス利用では在宅生活の維持が難しくなっている方の有無を伺ったところ、半数以上のケアマネジャーが、在宅生活の継続が困難な状態になっているケースを抱えているということが分かりました。

図表 6-53 在宅生活の維持が困難なケースの有無 (n=171)
(ケアマネジャー調査 問7)



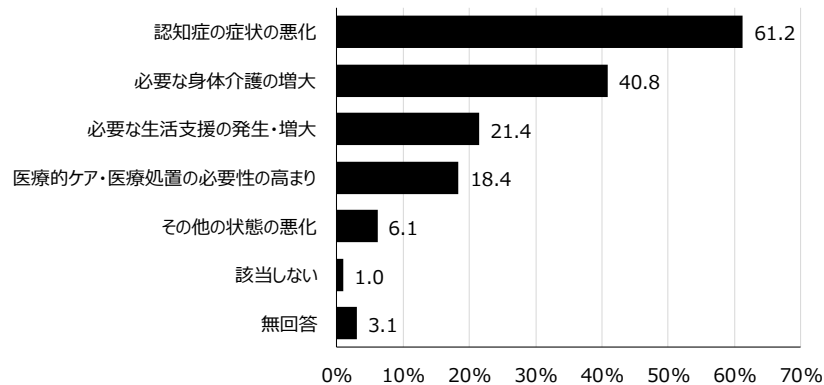
【在宅生活の維持が難しくなっている理由】

在宅生活の維持が困難となっている理由をみると、本人の状態等に関する理由では、「認知症の症状の悪化」が61.2%と最も多く、次いで「必要な身体介護の増大」が40.8%、「必要な生活支援の発生・増大」が21.4%となっています。本人の意向等に関する理由では、「生活不安が大きいから」が、家族等介護者の意向・負担等に関する理由では、「介護者の介護に係る不安・負担量の増大」「家族等の介護等技術では対応が困難」等が高くなっています。

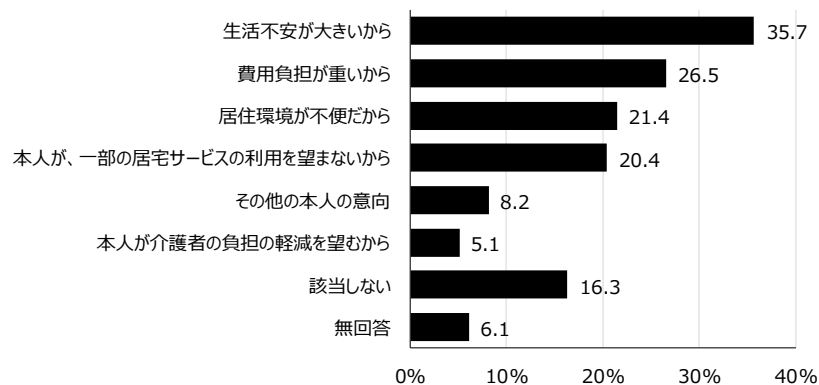
このことから、心身機能の悪化に伴い、介護や生活支援に係る負担が増大し、在宅生活の維持が困難であるという判断になっていることが分かります。また、介護や生活支援に係る負担の増大から、本人の在宅生活に対する不安が高まっていたり、家族介護者の不安や負担が増大したりと、これまでの介護の方法では在宅生活の維持ができない状況になっていることが推察されます。

また、家族等介護者の意向・負担等に関する理由では、「家族等の就労継続が困難になり始めたから」も24.5%存在し、介護と就労を両立できず、今後、介護離職につながる可能性が推察されます。

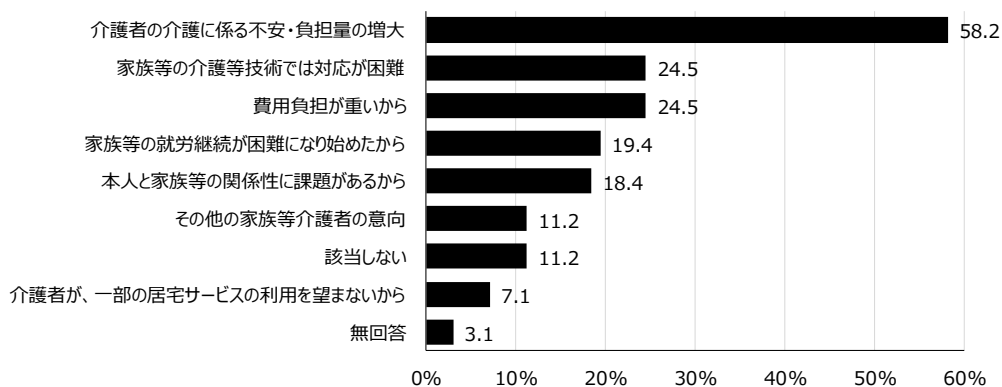
図表 6-54 在宅生活の維持が困難な理由（本人の状態等に関する理由）（n=98）
（ケアマネジャー調査 問7-1）



図表 6-55 在宅生活の維持が困難な理由（本人の意向等に関する理由）（n=98）
（ケアマネジャー調査 問7-1）



図表 6-56 在宅生活の維持が困難な理由（家族等介護者の意向・負担等に関する理由）
（n=98）（ケアマネジャー調査 問7-1）



④ 在宅生活の継続が困難である方が求めている支援

【在宅生活の継続が困難である方の家族介護者が不安を感じている介護】

在宅生活の継続が困難となっている要因の一つとして、家族介護者が不安を感じている介護の内容を明らかにするため、施設への入所を“検討していない”方と“検討中・申請中”の方における、家族介護者が不安を感じている介護の差をみると、施設への入所を“検討中・申請中”の方においては、「認知症状への対応」が顕著に高くなっています。要介護認定者本人の認知機能の低下が進行することで、終日の見守りや問題行動等への対応が生じ、家族介護者の不安や負担が大きくなり、在宅生活への継続が困難となっていることが推察されます。

図表 6-57 要介護度重度者における施設入所検討状況別の
家族介護者が不安を感じている介護（在宅介護実態調査）

		回答者数 (n)	日中の排泄	夜間の排泄	食事の介助	入浴・洗身	身だしなみ	衣服の着脱	屋内の移乗・移動	送迎等	外出の付き添い、 服薬	認知症状への対応	医療面での対応	食事の準備	その他の家事	必要な諸手続き 金銭管理や生活面に その他	わからない
全体		115	57.4	42.6	40.9	30.4	53.9	60.9	47.0	48.7	64.3	44.3	7.0	73.0	73.9	73.0	3.5
施設入所 検討状況	検討していない(a)	74	59.5	43.2	41.9	32.4	54.1	63.5	43.2	47.3	64.9	35.1	4.1	74.3	77.0	73.0	2.7
	検討中・申請済(b)	38	57.9	42.1	39.5	28.9	55.3	57.9	52.6	50.0	65.8	60.5	10.5	71.1	68.4	73.7	5.3
	差分(b-a)	-	-1.6	-1.1	-2.4	-3.5	1.2	-5.6	9.4	2.7	0.9	25.4	6.5	-3.3	-8.6	0.7	2.6

(%)

【家族介護者が不安を抱えている介護に対し利用している介護保険サービス】

家族介護者が不安を抱える介護に対し、どのような方法でサービスを利用し対応しているかを明らかにするため、介護保険サービスの利用方法について、“訪問系のみ”利用者と“訪問系を含む組み合わせ”での利用者における、家族介護者が不安を抱える介護の内容の差分をみると、「屋内の移乗・移動」「外出の付き添い、送迎等」等の身体的な介護に対する不安や、「服薬」「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」等の認知面での介護に対する不安において顕著な差が見られます。要介護認定者本人の心身機能の重症度が上がるにつれ、訪問系サービスに通所系・短期系等サービスを組み合わせた利用方法となっていることが分かります。

さらに、“訪問系を含む組み合わせ”での利用者と“通所系・短期系のみ”利用者における、家族介護者が不安を抱えている介護の差分をみると、「外出の付き添い、送迎等」「認知症状への対応」において顕著な差が見られます。要介護認定者本人の心身機能がより一層悪化したときには、訪問系サービスは使用せず、通所系・短期系のみを使用し、自宅における介護に伴う、家族介護者の不安感を大幅に減らす対応をとっていることが推察されます。

図表 6-58 要介護度重度者におけるサービス利用の組み合わせ別の
家族介護者が不安を感じている介護（在宅介護実態調査）

		回 答 者 数 （ n ）	日 中 の 排 泄	夜 間 の 排 泄	食 事 の 介 助	入 浴 ・ 洗 身	身 だ し な み	衣 服 の 着 脱	屋 内 の 移 乗 ・ 移 動	外 出 の 付 き 添 い 、 送 迎 等	服 薬	認 知 症 状 へ の 対 応	医 療 面 で の 対 応	食 事 の 準 備	そ の 他 の 家 事	必 要 な 諸 手 続 き	金 銭 管 理 や 生 活 面 に	そ の 他	わ か ら な い	
全体		115	57.4	42.6	40.9	30.4	53.9	60.9	47.0	48.7	64.3	44.3	7.0	73.0	73.9	73.0	3.5	0.0	(%)	
サービス 利用の 組み合わせ	未利用	24	45.8	37.5	25.0	33.3	50.0	54.2	37.5	45.8	41.7	20.8	8.3	70.8	70.8	66.7	0.0	0.0		
	訪問系のみ(a)	28	57.1	39.3	42.9	32.1	46.4	53.6	32.1	21.4	53.6	32.1	3.6	64.3	64.3	57.1	0.0	0.0		
	訪問系を含む組み合わせ(b)	31	61.3	41.9	51.6	22.6	54.8	64.5	58.1	48.4	74.2	48.4	3.2	71.0	77.4	80.6	6.5	0.0		
	通所系・短期系のみ(c)	32	62.5	50.0	40.6	34.4	62.5	68.8	56.3	75.0	81.3	68.8	12.5	84.4	81.3	84.4	6.3	0.0		
	差分1(b-a)	-	4.1	2.6	8.8	-9.6	8.4	10.9	25.9	27.0	20.6	16.2	-0.3	6.7	13.1	23.5	6.5	0.0		
	差分2(c-b)	-	1.2	8.1	-11.0	11.8	7.7	4.2	-1.8	26.6	7.1	20.4	9.3	13.4	3.8	3.7	-0.2	0.0		

図表 6-59 サービス利用の用語の定義（参考）

用語	サービス利用の用語の定義
訪問系	訪問介護、訪問入浴介護、訪問看護、訪問リハビリテーション、居宅療養管理指導、夜間対応型訪問介護
通所系	通所介護、通所リハビリテーション、認知症対応型通所介護
短期系	短期入所生活介護、短期入所療養介護
小規模多機能	小規模多機能型居宅介護
看護小規模	看護小規模多機能型居宅介護
定期巡回	定期巡回・随時対応型訪問介護看護

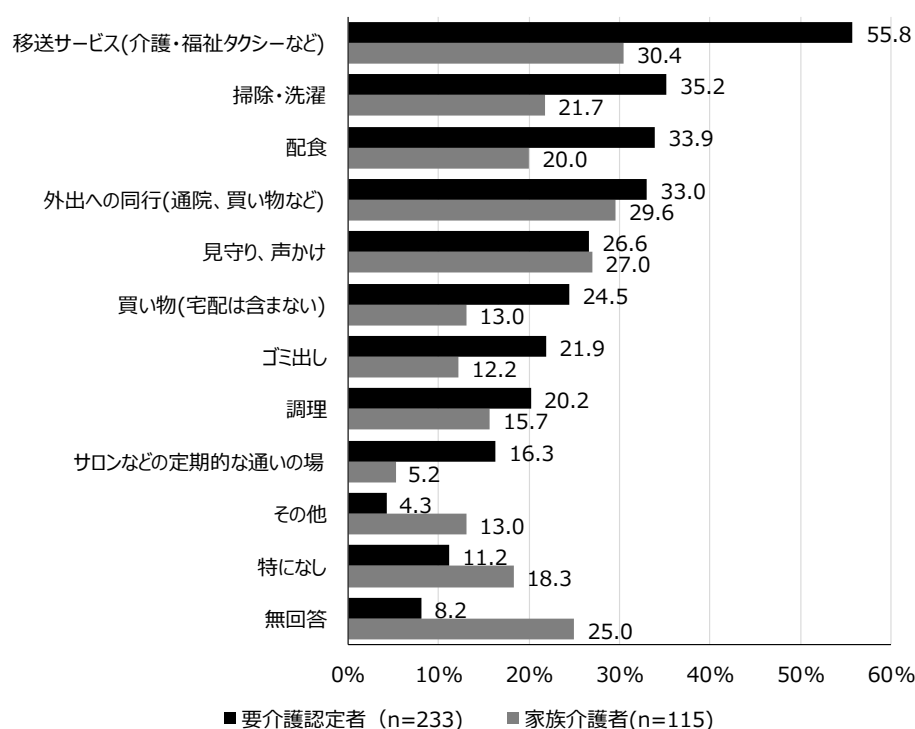
図表 6-60 サービス利用の組み合わせの用語の定義（参考）

用語	サービス利用の組み合わせの用語の定義
訪問系のみ	上表の「訪問系」もしくは「定期巡回」のみの利用
訪問系を含む組み合わせ	上表の「訪問系（もしくは定期巡回）」＋「通所系」、「訪問系（もしくは定期巡回）」＋「短期系」、「訪問系（もしくは定期巡回）」＋「通所系」＋「短期系」、「小規模多機能」、「看護多機能」の利用
通所系・短期系のみ	上表の「通所系」、「短期系」、「通所系」＋「短期系」の利用

【要介護認定者が考える在宅生活の継続に必要な保険外の支援・サービス】

生活支援のニーズを満たすにあたっては、介護保険制度におけるサービスのみでなく、民間のインフォーマルサービス等、保険外サービスの活用も有効な手段の一つであると考えられます。要介護認定者本人と、家族介護者における保険外の支援・サービスに対するニーズをみると、要介護認定者においては、「移送サービス」へのニーズが最も高くなっています。家族介護者においても「移送サービス」のニーズが最も高くなっていますが、要介護認定者本人に比べ、「外出への同行」「見守り、声掛け」が上位となっていることが分かります。要介護認定者の心身機能の悪化により発生する、終日の見守りや付き添いに係る負担を、保険外の支援・サービスにより補いたいというニーズがあることが推察されます。

図表 6-61 要介護度重度者における在宅生活の継続に必要な支援
(要介護認定者調査 問20、在宅介護実態調査)



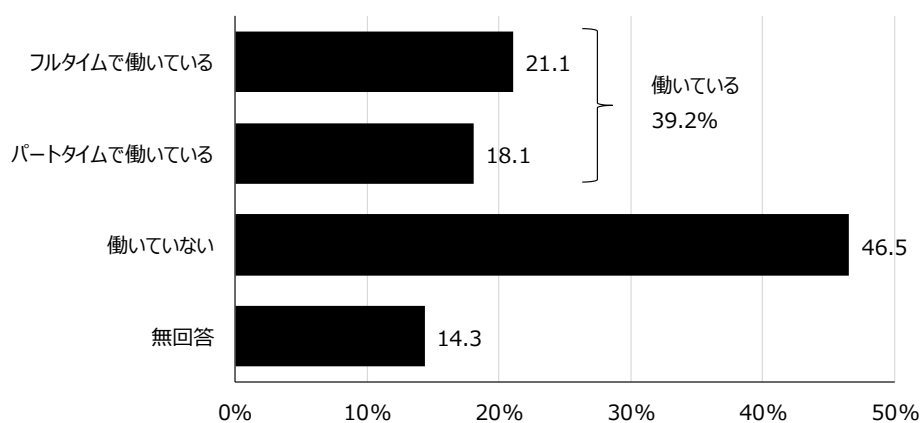
（２）家族介護者支援へのニーズ

① 家族介護者の就労の実態

【家族介護者の就労の状況】

介護と就労の両立について、支援が必要な方の現状を把握することを目的に、家族介護者の就労の状況をみると、39.2%の方が、フルタイムまたはパートタイムでの就労を行っています。

図表 6-62 主介護者の勤務形態(n=565)（要介護認定者 問34）

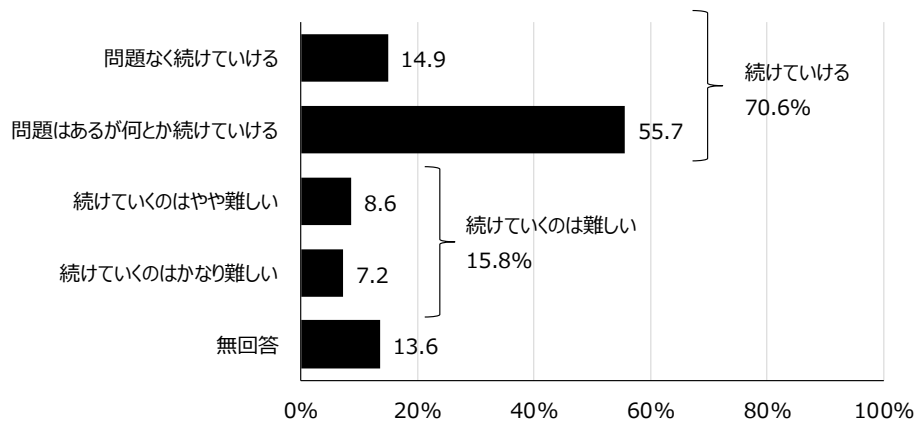


【家族介護者の就労継続意向】

就労している家族介護者のうち、今後就労を継続することが難しいと考えている方の現状を把握することを目的に、家族介護者の就労意向をみると、「問題はあるが何とか続けていける」が55.7%と最も多く、次いで「問題なく続けていける」が14.9%、「続けていくのはやや難しい」が8.6%となっています。

今後生産年齢人口が継続的に減少していくことが見込まれる中、中心介護者においても、介護離職を防ぐことが求められますが、現在就労している家族介護者のうち、15.8%の方が就労を継続することが難しいという状況になっています。一方で、70.6%の方は何らかの問題を抱えていながらも就労を継続できると考えており、このような家族介護者の利用している支援・サービスの実態を踏まえながら、介護と就労を両立するための支援・施策を講じることが求められています。

図表 6-63 主介護者の就労意向(n=221) (要介護認定者 問34-2)



② 家族介護者が就労を継続するために必要な支援

【就労の継続が困難であると考えている介護者が不安を感じている介護】

就労の継続が困難であると考えている家族介護者が抱えている課題を明らかにすることを目的に、今後の就労の継続について“続けていける”と考えている方と“続けていくのは難しい”と考えている方における家族介護者が不安を感じている介護の差分をみると、「屋内の移乗・移動」「外出の付き添い、送迎等」等の身体的介護に対する不安が高いことに加え、「認知症状への対応」においては40.2ポイントの差があり、群を抜いて高くなっていることが分かります。認知機能の低下が進むこととで、終日の見守りや問題行動への対応等が発生し、就労と介護を両立させることが困難となっていることが分かります。

図表 6-64 要介護度重度者の家族介護者における
就労継続意向別の家族介護者が不安を感じている介護 (在宅介護実態調査)

		回 答 者 数 （ n ）	日 中 の 排 泄	夜 間 の 排 泄	食 事 の 介 助	入 浴 ・ 洗 身	身 だ し な み	衣 服 の 着 脱	屋 内 の 移 乗 ・ 移 動	外 出 の 付 き 添 い 、 送 迎 等	服 薬	認 知 症 状 へ の 対 応	医 療 面 で の 対 応	食 事 の 準 備	そ の 他 の 家 事	金 銭 管 理 や 生 活 面 に 必 要 な 諸 手 続 き	そ の 他	わ か ら な い
全体		40	55.0	50.0	50.0	42.5	57.5	67.5	47.5	65.0	70.0	47.5	5.0	85.0	85.0	92.5	5.0	0.0
就労継続 意向	続けていける(a)	23	47.8	43.5	43.5	39.1	52.2	60.9	39.1	56.5	60.9	30.4	4.3	82.6	82.6	91.3	4.3	0.0
	続けていくのは難しい(b)	17	64.7	58.8	58.8	47.1	64.7	76.5	58.8	76.5	82.4	70.6	5.9	88.2	88.2	94.1	5.9	0.0
	差分(b-a)	-	16.9	15.3	15.3	7.9	12.5	15.6	19.7	19.9	21.5	40.2	1.5	5.6	5.6	2.8	1.5	0.0

【就労の継続が可能と考えている介護者が利用している介護保険サービス】

家族介護者の介護と就労の両立に向け、家族介護者の介護負担を軽減するための解決策の一つとして、介護保険サービスの有効な活用が考えられます。就労の継続が可能であると考えている家族介護者における介護保険サービスの利用方法を明らかにすることを目的に、今後の就労の継続について“続けていける”と考えている方と“続けていくのは難しい”と考えている方における、介護保険サービスの利用方法の差分を見ると、“続けていくのは難しい”と考えている方は、“続けていける”と考えている方に比べ、「通所系・短期系のみ」の利用が約30ポイント高くなっています。就労を継続させるにあたり、通所系・短期系サービスを活用し、自宅での介護における負担を大きく減らすよう取り組んでいることが考えられますが、それでもなお、介護負担が重く、就労の継続が困難になっているということが推察されます。

今後、高齢者数の増加に伴い、認知症者数も増加することが見込まれますが、就労の継続が困難であると考えている介護者の多くが認知症状への対応について不安を感じていることも踏まえ、在宅での認知症対応における不安を軽減できるサービスを充実させていくことが重要です。

図表 6-65 要介護度重度者の家族介護者における
就労継続意向別の介護保険サービスの利用方法（在宅介護実態調査）

	回答者数 (n)	未利用	訪問系のみ	訪問系を含む組み合わせ	通所系・短期系のみ
全体	115	20.9	24.3	27.0	27.8
就労継続意向					
続けていける	23	34.8	21.7	26.1	17.4
続けていくのは難しい	17	11.8	11.8	29.4	47.1

(%)

【就労の継続が可能と考えている介護者が利用している介護保険外の支援・サービス】

今後の就労の継続について“続けていける”と考えている方と“続けていくのは難しい”と考えている方における家族介護者が不安を感じている介護の差分をみると、今後も就労を“続けていける”と考えている方は、“続けていくのは難しい”と考えている方に比べ「配食」「掃除・洗濯」を利用している割合が10ポイント以上高くなっています。就労と介護の両立とで時間が限られている中、保険外の支援・サービスを使うことで、要介護者の身の回りの世話を補っていることが推察されます。保険外サービスを活用することで、介護保険サービスでは賄いきれない日常の家事や世話における負担を軽減させることも有効な手段の一つです。

図表 6-66 要介護度重度者の家族介護者における
就労の継続意向別の保険外の支援・サービスの利用状況（在宅介護実態調査）

		回 答 者 数 (n)	配 食	調 理	掃 除 ・ 洗 濯	買 い 物	ゴミ 出 し	外 出 同 行	移 送 サ ー ビ ス	見 守 り 、 声 か け	定 期 的 な 通 い の 場	サ ロ ン な ど の 場	そ の 他	利 用 し て い ない	
全体		115	17.4	3.5	7.0	2.6	3.5	1.7	5.2	2.6	1.7	3.5	55.7	(%)	
就労継続 意向	続けていける(a)	23	30.4	8.7	13.0	0.0	0.0	0.0	13.0	4.3	0.0	4.3	47.8		
	続けていくのは難しい(b)	17	17.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	5.9	0.0	0.0	0.0	64.7		
	差分(b-a)	-	-12.8	-8.7	-13.0	0.0	0.0	0.0	-7.2	-4.3	0.0	-4.3	16.9		

【就労の継続が困難であると考えている介護者が求める介護者支援】

就労の継続が困難であると考えている人が求めている支援についてみると、就労を“続けていける”と回答した方と“続けていくのは難しい”と回答した方とでは回答内容について顕著な差は見られていませんが、“続けていくのは難しい”と考えている人においては、「介護保険制度で行われる居宅サービスの充実」へのニーズが最も高くなっているほか、「その他公的支援の充実」「保険外のサービスの充実」等の回答割合がやや高くなっており、在宅での介護を継続するために支援・サービスの充実を求めていることが推察されます。

図表 6-67 就労継続意向別の家族介護者が求める支援（要介護認定者調査 問36）

	回 答 者 数	介護 者 が リ フ レ ッ シュ で き る よ う な 機 会	介護 者 の 会 な ど の 介護 者 同 士 の 交 流 の 場	高 齢 者 的 な 総 合 相 談 窓 口 ・ セ ン タ ー な ど の 場	介護 技 術 が 学 べ る 機 会	介護 者 の 疾 病 予 防 や 病 気 の 早 期 発 見 な ど を 施 す	理 解 者 な ど の 介 護 未 経 験 者 に 対 す る 介 護 へ の 支 援	隣 近 の 助 け あ い や ボ ラ ン テ ィ ア 活 動 の 充 実	介護 保 険 制 度 で 行 わ れ る 居 宅 サ ー ビ ス の 充 実	そ の 他 公 的 支 援 の 充 実	（選 択 的 な サ ー ビ ス の 充 実 ・ 機 器 に よ る 見 守 り サ ー ビ ス な ど ）	無 回 答	
全体	565	28.0	8.0	16.3	14.0	15.2	4.4	8.0	44.6	28.8	15.2	20.7	(%)
就労継続 意向	続けていける	132	14.4	3.0	5.3	6.8	6.1	3.8	4.5	25.0	19.7	6.1	5.3
	続けていくのは難しい	39	12.8	0.0	5.1	10.3	5.1	2.6	28.2	12.8	12.8	0.0	

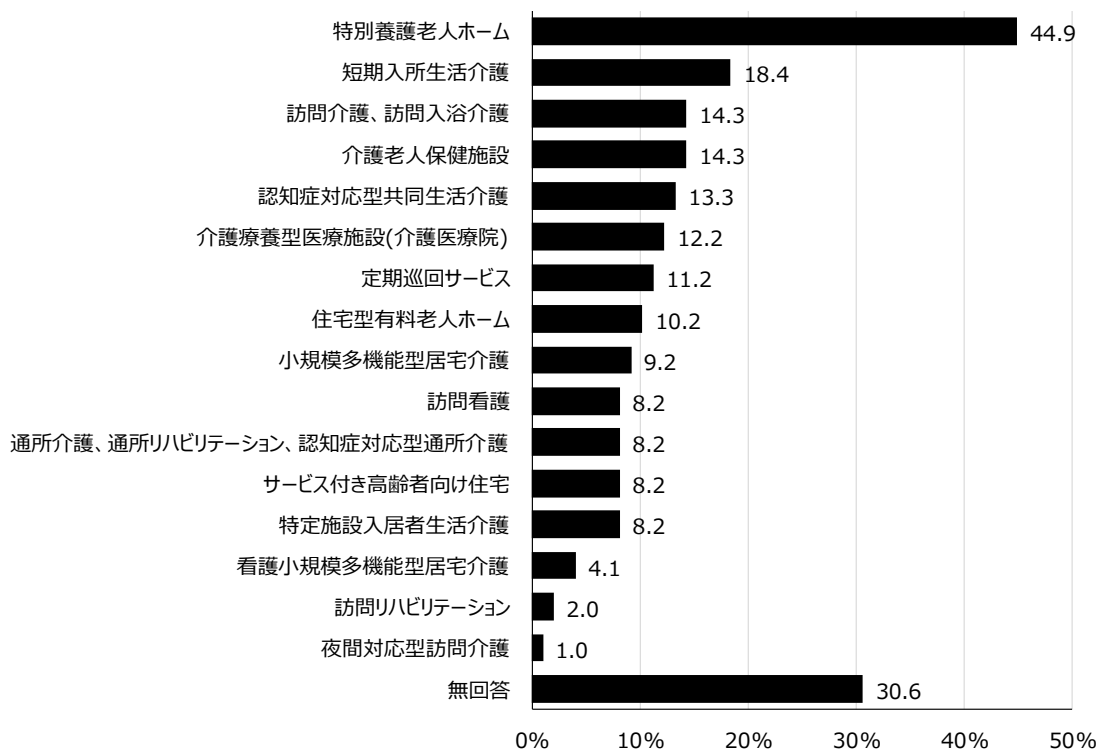
(3) 介護資源の状況

① 在宅生活の継続に必要な介護保険サービス

【ケアマネジャーが考える在宅生活の維持に必要な介護保険サービス】

ケアマネジャーの立場より、高齢者が安心して生活するために、充実させることが重要だと考えるサービスについて伺ったところ、「特別養護老人ホーム」が44.9%と最も多く、次いで「短期入所生活介護」が18.4%、「訪問介護、訪問入浴介護」「介護老人保健施設」が14.3%となっています。要介護度が特に重度であり、家族等による介護を受けられない場合には施設入所の検討に至ることもあると考えられますが、在宅生活を基本とする場合には短期入所系サービスや、訪問系サービスを充実させることが必要であると考えられていることが推察されます。

図表 6-68 在宅生活の維持のために利用すべきサービス (n=98)
(ケアマネジャー調査 問7-5)



② 介護人材の採用・離職の状況

介護職員の採用と離職の状況をみると、“通所系サービス”、“短期入所サービス”、“その他の居宅サービス”においては離職者数が採用者数を上回っており、人材不足の程度が進んでいると考えられます。

現在の職員数に対する離職者数の割合は、“短期入所サービス”を除いて、サービス類型別で極端な差異は見られていませんでした。一方で、“その他の居宅サービス”以外のサービス類型においては、半数以上の事業所が新規採用者を募集しており、慢性的に人材が不足している状況であることが推察されます。

ケアマネジャーの多くは、“訪問系サービス”や、“短期入所系サービス”、“施設系サービス”の充実が必要であると考えているのに対し、当該サービスにおいては人材が充足しておらず、状況の改善が課題と言えます。

図表 6-69 採用者数に対する離職者数の比率（合計）
（介護サービス事業所調査 問8）

	回答者数	合計						
		職員数 （人）	採用者数 （人）	離職者数 （人）	採用と離職の 差分	採用率 （％）	離職率 （％）	採用者数に 対する 離職者数の 比率 （％）
全体	233	3348	646	604	42	19.3	18.0	107.0
サービス 種別	訪問介護	43	603	66	64	2	10.9	103.1
	訪問入浴介護	4	32	6	1	5	18.8	600.0
	訪問看護	25	238	86	30	56	36.1	286.7
	訪問リハビリテーション	4	34	4	0	4	11.8	0.0
	居宅療養管理指導	1	1	0	0	0	0.0	0.0
	通所介護	16	277	41	40	1	14.8	102.5
	通所リハビリテーション	4	92	9	17	-8	9.8	52.9
	短期入所生活介護	10	496	115	156	-41	23.2	73.7
	短期入所療養介護	2	136	24	29	-5	17.6	82.8
	福祉用具貸与	12	55	11	4	7	20.0	275.0
	夜間対応型訪問介護	1	29	4	2	2	13.8	200.0
	認知症対応型通所介護	7	103	12	19	-7	11.7	63.2
	地域密着型通所介護	16	181	36	35	1	19.9	102.9
	小規模多機能型居宅介護	0	-	-	-	-	-	-
	定期巡回・随時対応型訪問介護看護	3	64	14	9	5	21.9	155.6
	認知症対応型共同生活介護	8	104	20	27	-7	19.2	74.1
	特定施設入居者生活介護	3	73	33	8	25	45.2	412.5
	介護老人福祉施設	9	515	115	106	9	22.3	108.5
	介護老人保健施設	1	74	9	12	-3	12.2	75.0
	介護療養型医療施設	1	65	16	18	-2	24.6	88.9
	居宅介護支援	63	176	25	27	-2	14.2	92.6
サービス 類型	訪問系サービス	92	1055	191	110	81	18.1	173.6
	通所系サービス	43	653	98	111	-13	15.0	88.3
	短期入所サービス	12	632	139	185	-46	22.0	75.1
	居住系サービス	11	177	53	35	18	29.9	151.4
	施設サービス	11	654	140	136	4	21.4	102.9
	その他の居宅サービス	64	177	25	27	-2	14.1	92.6
法人 種別	株式会社	104	1119	245	150	95	21.9	163.3
	有限会社	38	303	43	38	5	14.2	113.2
	社会福祉法人	41	1288	260	311	-51	20.2	83.6
	特定非営利活動法人	9	92	7	7	0	7.6	100.0
	合同会社	10	39	5	5	0	12.8	100.0
	医療法人社団	23	450	69	88	-19	15.3	78.4
	一般社団法人	3	18	16	0	16	88.9	0.0
	協同組合	4	33	0	4	-4	0.0	0.0
職種	公益社団法人	1	6	1	1	0	16.7	100.0
	訪問介護員	233	667	79	72	7	11.8	109.7
	介護職員	233	1357	294	292	2	21.7	100.7
	看護師・准看護師	233	456	129	104	25	28.3	124.0
	機能訓練指導員	233	183	32	16	16	17.5	200.0
	介護支援専門員	233	192	27	30	-3	14.1	90.0
	福祉用具専門相談員	233	50	11	4	7	22.0	275.0
	その他職員	233	443	74	86	-12	16.7	86.0

図表 6-70 募集人数（合計）（介護サービス事業所調査 問9）

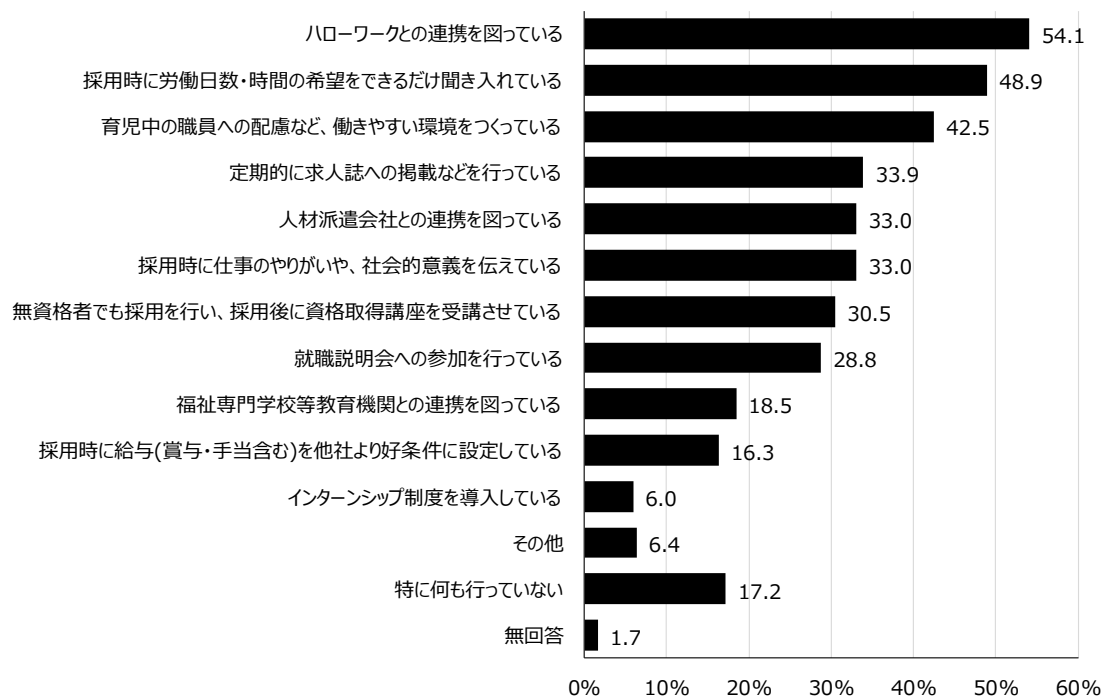
		回 答 者 数	合計									
			募 集 人 数 （ 人 ）	0 人 （ 無 回 答 含 む ）	1 人	2 人	3 人	4 人	5 人	6 人 ～ 9 人	1 0 人 以 上	募 集 あ り （ ％ ）
全体		233	505	46.4	11.6	14.6	9.0	4.7	2.6	6.0	5.2	53.6
サ ー ビ ス 種 別	訪問介護	43	191	20.9	2.3	20.9	14.0	7.0	7.0	14.0	14.0	79.1
	訪問入浴介護	4	11	50.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0	25.0	0.0	50.0
	訪問看護	25	65	40.0	4.0	24.0	8.0	4.0	4.0	8.0	8.0	60.0
	訪問リハビリテーション	4	23	50.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0	25.0	50.0
	居宅療養管理指導	1	0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	通所介護	16	29	31.3	25.0	12.5	18.8	6.3	0.0	6.3	0.0	68.8
	通所リハビリテーション	4	6	25.0	25.0	25.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	75.0
	短期入所生活介護	10	16	60.0	10.0	0.0	10.0	10.0	0.0	10.0	0.0	40.0
	短期入所療養介護	2	11	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	50.0	0.0	100.0
	福祉用具貸与	12	8	75.0	0.0	16.7	0.0	8.3	0.0	0.0	0.0	25.0
	夜間対応型訪問介護	1	13	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	100.0
	認知症対応型通所介護	7	3	71.4	14.3	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	28.6
	地域密着型通所介護	16	16	25.0	50.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	75.0
	小規模多機能型居宅介護	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	定期巡回・随時対応型訪問介護看護	3	30	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	66.7	100.0
	認知症対応型共同生活介護	8	15	12.5	12.5	62.5	12.5	0.0	0.0	0.0	0.0	87.5
	特定施設入居者生活介護	3	8	33.3	0.0	0.0	33.3	0.0	33.3	0.0	0.0	66.7
	介護老人福祉施設	9	19	55.6	0.0	0.0	11.1	22.2	0.0	11.1	0.0	44.4
	介護老人保健施設	1	3	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	介護療養型医療施設	1	8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	100.0
サ ー ビ ス 類 型	居宅介護支援	63	30	74.6	14.3	4.8	3.2	1.6	1.6	0.0	0.0	25.4
	訪問系サービス	92	341	34.8	2.2	19.6	9.8	6.5	4.3	9.8	13.0	65.2
	通所系サービス	43	54	34.9	32.6	18.6	9.3	2.3	0.0	2.3	0.0	65.1
	短期入所サービス	12	27	50.0	8.3	0.0	16.7	8.3	0.0	16.7	0.0	50.0
	居住系サービス	11	23	18.2	9.1	45.5	18.2	0.0	9.1	0.0	0.0	81.8
	施設サービス	11	30	45.5	0.0	0.0	18.2	18.2	0.0	18.2	0.0	54.5
	その他の居宅サービス	64	30	75.0	14.1	4.7	3.1	1.6	1.6	0.0	0.0	25.0
職 種	訪問介護員	233	231	74.7	5.2	7.3	5.2	0.4	3.0	0.9	3.4	25.3
	介護職員	233	97	76.0	14.2	5.2	2.6	1.7	0.0	0.4	0.0	24.0
	看護師・准看護師	233	80	82.0	10.7	3.4	1.3	2.1	0.0	0.0	0.4	18.0
	機能訓練指導員	233	36	94.8	2.1	2.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.4	5.2
	介護支援専門員	233	30	92.7	4.7	0.9	0.9	0.4	0.4	0.0	0.0	7.3
	福祉用具専門相談員	233	7	98.7	0.4	0.4	0.0	0.4	0.0	0.0	0.0	1.3
	その他職員	233	24	91.8	6.0	2.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	8.2

③ 介護人材の確保・定着

【人材確保に向けた対応の方向性】

人材確保に向けた取り組みとして、「ハローワークとの連携を図っている」が54.1%と最も高く、それに次いで「採用時に労働日数・時間の希望をできるだけ聞き入れている」が48.9%、「育児中の職員への配慮など、働きやすい環境をつくっている」が42.5%となっており、人材の確保に向け求人を行う一方で、多様な働き方に対応するための工夫を行っていることがうかがえます。

図表 6-71 人材の確保に向けた取り組み(n=233) (介護サービス事業所調査 問10)

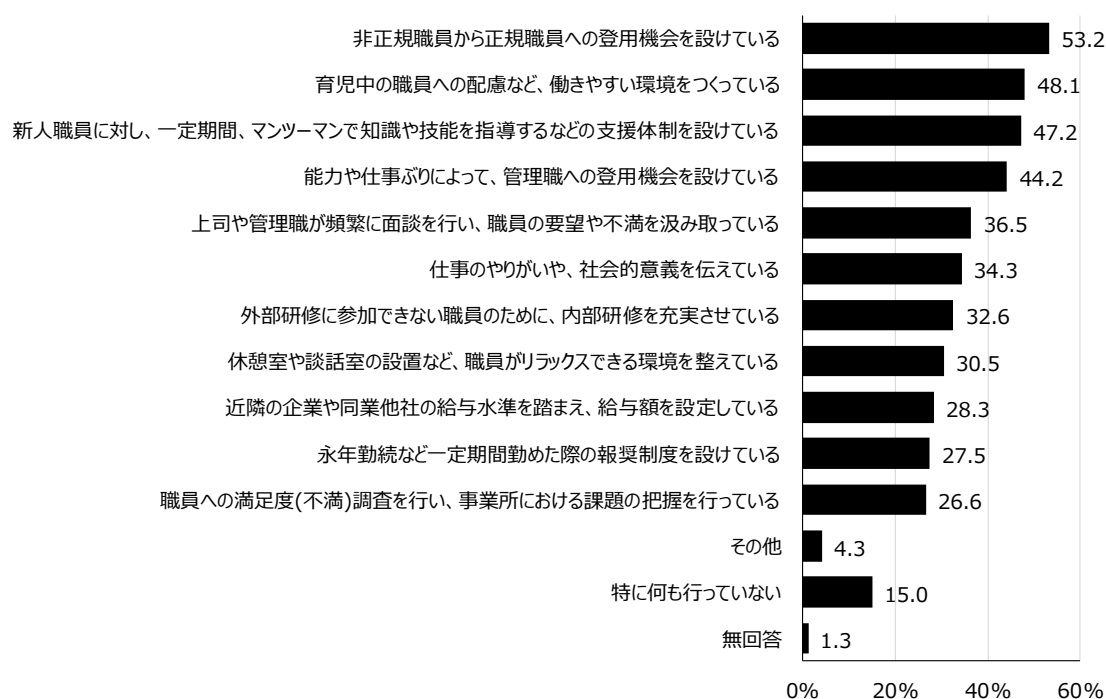


【人材確保に向けた対応の方向性】

人材の定着・育成に向けた取り組みとして、「非正規職員から正規職員への登用機会を設けている」が53.2%と最も高く、それに次いで「育児中の職員への配慮など、働きやすい環境をつくっている」が48.1%、「新人職員に対し、一定期間、マンツーマンで知識や技能を指導するなどの支援体制を設けている」が47.2%となっており、長期的に就労を継続してもらうための体制づくりや、新人のギャップを軽減するための取り組みを行っていることがうかがえます。

なお、一定の規模のある事業所では、職員のキャリア支援をしやすい環境にあると思われますが、小規模事業所においてはそのような職員のニーズに対応する体制を作りづらいことが想定され、地域全体のニーズも勘案しつつ、例えば事業所間での連携を強化し、職員のキャリア支援を進めるなどの対応を検討することが求められます。

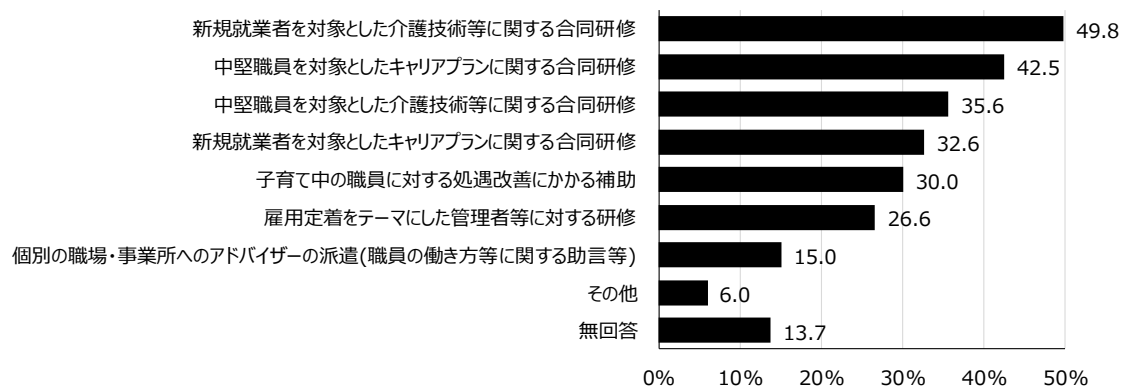
図表 6-72 人材の定着・育成に向けた取り組み (n=233)
(介護サービス事業所調査 問11)



【職員の定着に向けて必要な支援】

職員の定着に向けて事業者が必要としている支援は「新規就業者を対象とした介護技術等に関する合同研修」が49.8%、「中堅職員を対象としたキャリアプランに関する合同研修」が42.5%となっています。新規就業者に対しては介護技術の向上のニーズが高く、一定年数就業した中堅職員においてはキャリアプランに関する支援のニーズが高くなっており、大きく傾向が分かれています。地域全体の介護従事者の確保・定着に向けて、これらのニーズに適切に対応することが重要です。

図表 6-73 職員の定着に向けて必要な支援 (n=233)
(介護サービス事業所調査 問12)



参考資料

豊島区 介護予防・日常生活圏ニーズ調査のお願い ご協力をお願い

日頃より、豊島区政にご理解、ご協力をいただきありがとうございます。

豊島区では、「高齢者福祉計画・介護保険事業計画」の策定にあたり、高齢者の皆様の生活状況やご意見をおうかがいする調査を実施いたします。

この調査は、令和元年 11 月 15 日時点で、区内在住の 65 歳以上の方（要介護認定を受けている方を除く）の中から無作為に抽出しました 4,500 名の方に送付しています。

質問数が多く、大変お手数をおかけしますが、調査の趣旨をご理解いただき、ご回答いただきますようお願い申し上げます。

令和元年 11 月 豊島区保健福祉部

個人情報の取り扱いについて

この調査は統計的に処理するため、個人が特定されることは一切ございません。個人情報の保護および活用目的は以下のとおりですので、ご確認ください。

なお、本調査票のご返送をもちまして下記にご同意いただけたものとみなさせていただきます。

【個人情報の保護および活用目的について】

- この調査は、効果的な介護予防政策の立案と効果評価のために行うものです。本調査で得られた情報につきましては、区の高齢者福祉計画・介護保険事業計画策定と効果測定の目的以外には利用いたしません。また、当該情報については、区で適切に管理いたします。
- ただし、高齢者福祉計画・介護保険事業計画策定時に本調査で得られたデータを活用するにあたり、厚生労働省が管理するデータベース内に情報を登録し、必要に応じて集計・分析することがあります。

記入上の注意

- 濃い鉛筆または黒のボールペンで記入してください。
- 印は、番号を囲むように濃くつけてください。（例： 1・②・3 ）
- 「その他」を選択された場合は（ ）内に具体的内容を記入してください。
- 調査票や封筒に **お名前やご住所などを書かないでください**。無記名の調査です。
- ご記入いただきました調査票は、同封の返信用封筒（切手は不要です）に封入し、**令和元年 12 月 9 日（月）まで**にご返送（投函）ください。
- この調査に関するお問い合わせは、以下の担当までお願いいたします。

【調査についての問合せ先】
豊島区 保健福祉部 高齢者福祉課
介護予防・認知症対策グループ（平日 8：30～17：00）
電話：03-4566-2434（直通）

1

問5. あなたの現在のお住まいは、一戸建てまたは集合住宅のどちらですか。
（ひとつだけ○）

- | | |
|----------------------|-----------------|
| 1. 持ち家(一戸建て) | 2. 持ち家(集合住宅) |
| 3. 公営賃貸住宅(区営住宅・都営住宅) | 4. 民間賃貸住宅(一戸建て) |
| 5. 民間賃貸住宅(集合住宅) | 6. 借家 |
| 7. その他（ | ） |

問6. あなたの現在の暮らし状況を経済的にみてどう感じていますか。(ひとつだけ○)

- | | | |
|-------------|-------------|--------|
| 1. 大変苦しい | 2. やや苦しい | 3. ふつう |
| 4. ややゆとりがある | 5. 大変ゆとりがある | |

問7. あなたの現在の家族構成をお教えてください。(ひとつだけ○)

- | | |
|-----------------------|-----------------------|
| 1. 一人暮らし | |
| 2. 夫婦二人暮らし（配偶者は65歳以上） | 3. 夫婦二人暮らし（配偶者は64歳以下） |
| 4. 息子・娘との2世帯 | 5. その他（ |

⇒ 問 7-1 ⇐

問 7-1. 問 7 で 2 ～ 5 に ○ をつけた方にうかがいます。
あなたは、日中、一人になることがありますか。(ひとつだけ○)

- | | | |
|---------|----------|-------|
| 1. よくある | 2. たまにある | 3. ない |
|---------|----------|-------|

問8. あなたの状態（令和元年 1 月 1 5 現在）をお教えてください。(ひとつだけ○)

- | |
|------------------------------|
| 1. 要支援者を除く介護予防・日常生活支援総合事業対象者 |
| 2. 要支援 1 |
| 3. 要支援 2 |
| 4. 1 ～ 3 以外の介護認定を受けていない一般高齢者 |

⇒ 問 8-1 ⇐

※ 介護予防・日常生活支援総合事業対象者：「介護保険被保険者証」の要介護状態区分等に『事業対象者』と記載されている方

問 8-1. 問 8 で 2 または 3 に ○ をつけた方にうかがいます。

あなたは、現在介護保険のサービスを利用していますか。(ひとつだけ○)

- | | |
|---------------|-----------------|
| 1. 現在、利用している | 2. 過去に利用したことはある |
| 3. 一度も利用していない | |

3

はじめに

問1. この調査票にご回答いただいている方は、どなたですか。(ひとつだけ○)

- | |
|------------------------|
| 1. あて名のご本人が記入 |
| 2. あて名のご本人の話を聞き、ご家族が記入 |
| 3. その他（ |

※ これ以降、**あて名のご本人様（あなた）**についてうかがいます。

※ あて名の方以外の方が記入される場合にも、特に指定のない限り、あて名のご本人様についてご回答ください。

1. あて名のご本人様ご自身およびご家族について

問2. あなたの性別をお答えください。(ひとつだけ○)

- | | |
|-------|-------|
| 1. 男性 | 2. 女性 |
|-------|-------|

問3. あなたの令和元年 1 月 1 5 現在の年齢をお答えください。(ひとつだけ○)

- | | | |
|------------|------------|------------|
| 1. 65歳～69歳 | 2. 70歳～74歳 | 3. 75歳～79歳 |
| 4. 80歳～84歳 | 5. 85歳～89歳 | 6. 90歳～94歳 |
| 7. 95歳～99歳 | 8. 100歳以上 | |

問4. あなたがお住まいの地域をお答えください。(ひとつだけ○)

- | | | |
|-------------------|------------------|-------------------|
| 1. 駒込 1 ～ 7 丁目 | 2. 巣鴨 1 ・ 2 丁目 | 3. 巣鴨 3 ～ 5 丁目 |
| 4. 西巣鴨 1 ～ 4 丁目 | 5. 南大塚 1 ～ 3 丁目 | 6. 北大塚 1 ・ 2 丁目 |
| 7. 北大塚 3 丁目 | 8. 上池袋 1 ～ 4 丁目 | 9. 東池袋 1 ～ 5 丁目 |
| 10. 南池袋 1 ～ 4 丁目 | 11. 西池袋 1 ～ 5 丁目 | 12. 池袋 1 ・ 2 丁目 |
| 13. 池袋 3 丁目 | 14. 池袋 4 丁目 | 15. 池袋本町 1 ～ 4 丁目 |
| 16. 雑司が谷 1 ～ 3 丁目 | 17. 高田 1 ～ 3 丁目 | 18. 目白 1 ・ 2 丁目 |
| 19. 目白 3 ～ 5 丁目 | 20. 南長崎 1 ～ 6 丁目 | 21. 長崎 1 丁目 |
| 22. 長崎 2 ～ 6 丁目 | 23. 千早 1 ～ 4 丁目 | 24. 要町 1 ～ 3 丁目 |
| 25. 高松 1 ～ 3 丁目 | 26. 千川 1 ・ 2 丁目 | |

2

問9. あなたは、普段の生活でどなたかの介護・介助が必要ですか。(ひとつだけ○)

- | |
|--|
| 1. 介護・介助は必要ない |
| 2. 何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない |
| 3. 現在、何らかの介護を受けている |
| （要介護認定を受けずに、家族などの介護を受けている場合も含む） |
| ⇒ 問 9-1 ⇐ （※ 選択肢 3 を選択した方は 問 9-2 もご回答ください） |

問 9-1. 問 9 で 2 または 3 に ○ をつけた方にうかがいます。

あなたは、介護・介助が必要になった主な原因は何ですか。
（あてはまるものすべてに○）

- | | |
|-------------------|---------------------|
| 1. 脳卒中（脳出血・脳梗塞など） | 2. 心臓病 |
| 3. がん（悪性新生物） | 4. 呼吸器の病気（肺炎腫・肺炎など） |
| 5. 関節の病気（リウマチなど） | 6. 認知症（アルツハイマー病など） |
| 7. パーキンソン病 | 8. 糖尿病 |
| 9. 腎疾患（透析） | 10. 視覚・聴覚障害 |
| 11. 骨折・転倒 | 12. 脊椎損傷 |
| 13. 高齢による衰弱 | 14. その他（ |
| 15. 不明 | ） |

問 9-2. 問 9 で 3 に ○ をつけた方にうかがいます。

あなたは、主にどなたの介護・介助を受けていますか。
（あてはまるものすべてに○）

- | | | |
|----------------|---------|----------|
| 1. 配偶者（夫・妻） | 2. 息子 | 3. 娘 |
| 4. 子の配偶者 | 5. 孫 | 6. 兄弟・姉妹 |
| 7. 介護サービスのヘルパー | 8. その他（ | ） |

4

2. 仕事について

問10. あなたは現在、**収入を得る仕事**をしていますか。(ひとつだけ○)

- | | |
|-----------------|-------------------|
| 1. ほぼ毎日仕事についている | 2. 週に2～3日仕事についている |
| 3. 月に数日仕事についている | 4. 不定期で仕事をしている |
| 5. 仕事はしていない | |

⇒ 問 10-1 〜

問 10-1. 問 10 で 1～4 に○をつけた方にうかがいます。

あなたは、**どのような働き方をされていますか。**(ひとつだけ○)

- | | |
|-------------------|--------------|
| 1. 正社員・正規職員 | 2. 自営業・自由業 |
| 3. 契約社員・派遣社員・嘱託社員 | 4. パート・アルバイト |

問 10-2. 問 10 で 1～4 に○をつけた方にうかがいます。

あなたが、**働くうえで重視していること**は何ですか。

(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|-------------------------|------------------------|
| 1. 体力的に無理なく続けられる仕事であること | 2. 自分のペースで進められる仕事であること |
| 3. 自分の能力を発揮できること | 4. 勤務日や勤務時間を選ぶこと |
| 5. 経験したことのある職種であること | 6. 気心の知れた仲間がいる職場であること |
| 7. 以前と同じ勤務先であること | 8. 経験したことのある業界であること |
| 9. 勤務先の事業目的・経営ビジョン | 10. 給料が良いこと |
| 11. 自宅が近いこと | 12. 通勤が楽なこと |
| 13. その他 () | 14. 特にない |

5

3. 毎日の生活について

問11. からだを動かすことについて、現在のあなたの状況をお答えください。

(指定のない限り、それぞれひとつだけ○)

① 階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか。	1. できるし、している	2. できるけどしてない	3. できない				
② 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか。	1. できるし、している	2. できるけどしてない	3. できない				
③ 15分位続けて歩いていますか。	1. できるし、している	2. できるけどしてない	3. できない				
④ 過去1年間に転んだ経験がありますか。	1. 何度もある	2. 一度ある	3. ない				
⑤ 転倒に対する不安は大きいですか。	1. とても不安である	2. やや不安である	3. あまり不安でない				
⑥ 週に1回以上は外出していますか。	1. ほとんど外出しない	2. 週1回	3. 週2～4回				
⑦ 昨年と比べて外出の回数が減っていますか。	1. とても減っている	2. 減っている	3. あまり減っていない				
⑧ 外出を控えていますか。	1. はい	理由をお答えください	2. いいえ				
⑨ 外出を控えている理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)							
1. 病気				2. 障害(脳卒中の後遺症など)	3. 足腰などの痛み		
4. トイレの心配(失禁など)				5. 耳の障害(聞こえの問題など)	6. 目の障害		
7. 外での楽しみがない				8. 経済的に出られない	9. 交通手段がない		
10. その他 ()							
⑩ 外出する際の交通手段は何ですか。(あてはまるものすべてに○)							
1. 徒歩						2. 自転車	3. バイク
4. 自動車(自分で運転)						5. 自動車(人に乗せてもらう)	6. 電車
7. 路線バス						8. 病院や施設のバス	9. 車いす
10. 電動いす(カート)						11. 歩行器・シルバーカー	12. タクシー
13. その他 ()							

6

問12. あなたは、**次の中であてはまるものは**ありますか。(あてはまるものすべてに○)

- | |
|--|
| 1. 片脚立ちで靴下はがけ |
| 2. 家の中でつまずいたり、すべったりする |
| 3. やや負担の重い家事(掃除など)が困難である |
| 4. 2kg程度(1ℓの牛乳パック2個程度)の重い物をして持ち帰るのが困難である |
| 5. 横断歩道を青信号で渡りきれない |
| 6. 上記1～5のような状況はない |

問13. 食べることにについて、現在のあなたの状況をお答えください。

(それぞれ、ひとつだけ○)

① あなたの身長と体重を教えてください。 それぞれ右つづめで数字を記入してください。(例: 体重60kgの場合 060)		
身長 cm 体重 kg		
② 半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか。		
1. はい	2. いいえ	
③ お茶や汁物などむせることがありますか。		
1. はい	2. いいえ	
④ 口の渇きが気になりますか。		
1. はい	2. いいえ	
⑤ 歯磨きを毎日していますか。(人にやってもらう場合も含みます。)		
1. はい	2. いいえ	
⑥ 歯の数と入れ歯の利用状況をお教えてください。 (成人の歯の総本数は、親知らずを含めて32本です。)		
1. 自分の歯は20本以上、かつ入れ歯を利用		
2. 自分の歯は20本以上、かつ入れ歯の利用なし		
3. 自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用		
4. 自分の歯は19本以下、かつ入れ歯の利用なし		
⑦ この6か月間で2～3kg以上の体重減少がありましたか。		
1. はい	2. いいえ	
⑧ どなたかと食事をとる機会がありますか。		
1. 毎日ある	2. 週に何度かある	3. 月に何度かある
4. 年に何度かある	5. ほとんどない	

7

問14. 毎日の生活について、現在のあなたの状況をお答えください。

(それぞれ、ひとつだけ○)

① 物忘れが多いと感じますか。	1. はい	2. いいえ	
② 今日が何月何日かわからないときがありますか。	1. はい	2. いいえ	
③ バスや電車を使って一人で外出していますか。(自家用車でも可)	1. できるし、している	2. できるけどしてない	3. できない
④ 自分で食品・日用品の買い物をしていますか。	1. できるし、している	2. できるけどしてない	3. できない
⑤ 自分で食事の用意をしていますか。	1. できるし、している	2. できるけどしてない	3. できない
⑥ 自分で請求書の支払いをしていますか。	1. できるし、している	2. できるけどしてない	3. できない
⑦ 自分で預貯金の出し入れをしていますか。	1. できるし、している	2. できるけどしてない	3. できない
⑧ 趣味はありますか。	1. 趣味あり(内容:)	2. 思いつかない	

問15. あなたは、この1か月間、**気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることが**ありましたか。(ひとつだけ○)

- | | |
|-------|--------|
| 1. はい | 2. いいえ |
|-------|--------|

問16. あなたは、この1か月間、**どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは、心から楽しめない感じ**がよくありましたか。(ひとつだけ○)

- | | |
|-------|--------|
| 1. はい | 2. いいえ |
|-------|--------|

問17. あなたは、現在、**どの程度幸せですか。**「とても不幸」を0点、「とても幸せ」を10点として、点数にひとつだけ○をつけてください。

とても不幸	←	→	とても幸せ							
0点	1点	2点	3点	4点	5点	6点	7点	8点	9点	10点

8

4. 健康について

問18. 現在の、あなたの**健康状態**はいかがですか。(ひとつだけ○)

1. とてもよい	2. まあよい	3. あまりよくない	4. よくない
----------	---------	------------	---------

問19. あなたが、**現在治療中、または後遺症のある病気**はありますか。
(あてはまるものすべてに○)

1. ない	2. 高血圧
3. 脳卒中 (のうそんちゆう) (脳出血・脳梗塞など)	4. 心臓病
5. 糖 尿 病	6. 高脂血症 (こうしけつしやう) (脂質異常)
7. 呼吸器の病気 (肺炎や気管支炎など)	8. 胃腸・肝臓・胆のうの病気
9. 腎臓・前立腺の病気	10. 筋骨格の病気 (こつこせき) (骨粗しょう症、関節症など)
11. 外傷 (がいしやう) (転倒・骨折など)	12. がん (悪性新生物)
13. 血液・免疫の病気	14. うつ病
15. 認知症 (アルツハイマー病など)	16. パーキンソン病
17. 目の病気	18. 耳の病気
19. その他 ()	

問20. あなたは、**かかりつけ医や、かかりつけ歯科医**はいますか。また、**かかりつけ薬局**はありますか。(ひとつだけ○)

①かかりつけ医

1. いる	2. いない
-------	--------

※ かかりつけ医：日頃から自分の健康状態をよく知っていて、日常的な健康管理をまかせられる医師のことをいいます。

②かかりつけ歯科医

1. いる	2. いない
-------	--------

※ かかりつけ歯科医：日ごろから歯や口腔のことについて相談でき、継続的に歯科医療や口腔機能管理を提供する歯科医師のことをいいます。

③かかりつけ薬局

1. ある	2. ない
-------	-------

※ かかりつけ薬局：日ごろから薬の服薬内容を管理し、薬や健康の困りごとについて対応する薬局のことをいいます。

9

5. 地域とのつながりについて

問27. あなたとまわりの人の「たすけあい」についてお伺いします。

① あなたの、**心配事や愚痴(ぐち)を聞いてくれる人**はどなたですか。
(あてはまるものすべてに○)

1. 配偶者	2. 同居の子ども	3. 別居の子ども
4. 兄弟姉妹・親戚・親・孫	5. 近隣	6. 友人
7. その他 ()	8. そのような人はいない	

② 反対に、あなたが、**心配事や愚痴(ぐち)を聞いてあげる人**はどなたですか。
(あてはまるものすべてに○)

1. 配偶者	2. 同居の子ども	3. 別居の子ども
4. 兄弟姉妹・親戚・親・孫	5. 近隣	6. 友人
7. その他 ()	8. そのような人はいない	

③ あなたが病気で数日間寝込んだときに、**看病や世話をしてくれる人**はどなたですか。
(あてはまるものすべてに○)

1. 配偶者	2. 同居の子ども	3. 別居の子ども
4. 兄弟姉妹・親戚・親・孫	5. 近隣	6. 友人
7. その他 ()	8. そのような人はいない	

④ 反対に、**看病や世話をしてあげる人**はどなたですか。
(あてはまるものすべてに○)

1. 配偶者	2. 同居の子ども	3. 別居の子ども
4. 兄弟姉妹・親戚・親・孫	5. 近隣	6. 友人
7. その他 ()	8. そのような人はいない	

問28. あなたの、**家族や友人・知人以外で、何かあった時の相談先**を教えてください。
(あてはまるものすべてに○)

1. 自治会・町会	2. 高齢者クラブ
3. 社会福祉協議会・民生委員	4. ケアマネジャー
5. 医師・歯科医師・看護師	6. 高齢者総合相談センター・区役所
7. その他 ()	8. そのような人はいない

問29. あなたが、**友人・知人と会う頻度**はどれくらいですか。(ひとつだけ○)

1. 毎日ある	2. 週に何度かある	3. 月に何度かある
4. 年に何度かある	5. ほとんどない	

11

問21. あなたは、**今までに、自分の判断で治療の途中で通院をやめたこと**がありますか。(ひとつだけ○)

1. ある	2. ない
-------	-------

問22. あなたは、**タバコを吸っていますか**。(ひとつだけ○)

1. ほぼ毎日吸っている	2. 時々吸っている
3. 吸っていたがやめた	4. もともと吸っていない

問23. ヒートショックとは急激な温度の変化により身体がダメージを受けることをいいます。あなたは、**冬場の入浴の際などに、ヒートショックにより意識を失い、時には死亡につながるような重篤な事故が増えること**を知っていますか。(ひとつだけ○)

1. 知っている	2. 知らない
----------	---------

問24. あなたは、**入浴時の事故を防ぐために何か対策をしていますか**。
(あてはまるものすべてに○)

1. 脱衣所、浴室を暖房機で温めている
2. のぼせないようにぬるめのお湯に入り、長湯を避けている
3. 浴室に手すりを付けている
4. 風呂場の床にすのこやマットを敷いている
5. シャワーでお湯を溜めたりふたを開けておくなどで、浴室全体を暖めている
6. 同居の方に声をかけてから入浴している
7. 特に何もしていない

問25. あなた自身に認知症の症状がある、または家族に認知症の症状がある人がいますか。(ひとつだけ○)

1. はい	2. いいえ
-------	--------

問26. あなたは、認知症に関する相談窓口を知っていますか。(ひとつだけ○)

1. はい	2. いいえ
-------	--------

10

問30. よく会う友人・知人は**どんな関係の人ですか**。(あてはまるものすべてに○)

1. 近所・同じ地域の人	2. 幼なじみ
3. 学生時代の友人	4. 仕事での同僚・元同僚
5. 趣味や関心が同じ友人	6. ボランティアなどの活動での友人
7. その他 ()	8. いない

問31. ご近所に手助けを必要とする方がいる場合に、**あなたはどんな手助けができますか**。(あてはまるものすべてに○)

1. 安否確認の声かけ	2. ちょっとした買い物やゴミ出し
3. 食事作りや掃除・洗濯の手伝い	4. 食事の提供 (会食・配食など)
5. 通院や外出の手助け	6. 電球交換や簡単な大工仕事
7. 話し相手や相談相手	8. 通いの場の運営の手伝い
9. その他 ()	10. 心身の状況などでできない

問32. あなたは、お住いの地域の人から**何らかの役割を期待されたり、頼りにされたりしていると思いますか**。自分なりにできること、会・グループでの役割、隣近所のちょっとしたこと、お手伝いやお願ひ事などを含みます。(ひとつだけ○)

1. 思う	2. やや思う
3. あまり思わない	4. まったく思わない

問33. あなたは、以下のような会・グループなどに**どのくらいの頻度で参加していますか**。(それぞれ、ひとつだけ○)

	週4回以上	週2~3回	週1回	月1~3回	年に数回	参加していない
①ボランティアのグループ	1	2	3	4	5	6
②スポーツ関係のグループやクラブ	1	2	3	4	5	6
③趣味関係のグループ	1	2	3	4	5	6
④学習・教養サークル	1	2	3	4	5	6
⑤介護予防のための通いの場 (としまる体操グループ・介護予防サロン・区民ひろばなど)	1	2	3	4	5	6
⑥高齢者クラブ	1	2	3	4	5	6
⑦町会・自治会	1	2	3	4	5	6
⑧収入のある仕事	1	2	3	4	5	6

12

問34. 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味などのグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に、**参加者として参加してみたいと思いますか。**（ひとつだけ○）

- | | |
|------------|-------------|
| 1. ぜひ参加したい | 2. 参加してもよい |
| 3. 参加したくない | 4. 既に参加している |

問35. 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味などのグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に、**企画・運営（お世話役）として参加してみたいと思いますか。**（ひとつだけ○）

- | | |
|------------|-------------|
| 1. ぜひ参加したい | 2. 参加してもよい |
| 3. 参加したくない | 4. 既に参加している |

問36. あなたは災害時（台風や地震など）や火災などの緊急時に、**一人で避難することができますか。**（ひとつだけ○）

- | | | | |
|--------|---------|----------|------------|
| 1. できる | 2. できない | 3. わからない | ⇒ 問 36-1 へ |
|--------|---------|----------|------------|

問 36-1. 問 36 で 2 または 3 に○をつけた方にうかがいます。
避難の際に手助けを求められる人はいますか。（ひとつだけ○）

- | | |
|-------|--------|
| 1. いる | 2. いない |
|-------|--------|

13

問41. あなたは、**週に1回程度通うとしたら、どのような内容のサロン（またはデイサービス）がよいですか。**（あてはまるものすべてに○）

- | | |
|-------------|-----------------|
| 1. 会食 | 2. 入浴 |
| 3. レクリエーション | 4. 運動不足や筋力低下の解消 |
| 5. 認知症予防 | 6. ボランティア活動 |
| 7. その他（ | ） |

問42. あなたは、**フレイルという状態についてご存知ですか。**（ひとつだけ○）

- | | |
|------------------|------------------------|
| 1. どのような状態か知っている | 2. 言葉は聞いたことがあるが内容は知らない |
| 3. 知らない | |

問43. あなたは、介護が必要になった時、また今よりも重くなった時、**どこで介護を受けたいですか。**（ひとつだけ○）

- | | |
|---------|------------|
| 1. 自宅 | 2. 介護施設 |
| 3. 病院 | 4. どこでもよい |
| 5. その他（ | ） 6. わからない |

問44. あなたが、**在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス**は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

- | | |
|------------------------|---------------------|
| 1. 配食（食事の提供） | 2. 調理 |
| 3. 掃除・洗濯 | 4. 買い物（宅配は含まない） |
| 5. ゴミ出し | 6. 外出への同行（通院、買い物など） |
| 7. 移送サービス（介護・福祉タクシーなど） | 8. 見守り、声かけ |
| 9. サロンなどの定期的な通いの場 | 10. その他（ |
| 11. 特になし | ） |

問 45. あなたは、**人生の最期を迎える場所**としてどこを希望しますか。（ひとつだけ○）

- | | |
|---------|------------|
| 1. 自宅 | 2. 介護施設 |
| 3. 病院 | 4. どこでもよい |
| 5. その他（ | ） 6. わからない |

15

6. 介護予防・介護について

問37. あなたは、**日ごろ運動をしていますか。**（ひとつだけ○）

- | | |
|----------------|------------------|
| 1. 毎日している | 2. 週 2～3 回程度している |
| 3. 週 1 回程度している | 4. 月 2～3 回程度している |
| 5. ほとんどしていない | 6. していない |

問38. あなたは、**普段、どれくらいの範囲まで歩いて出かけますか。**（ひとつだけ○）

- | | | |
|-------------|-------------|-------------|
| 1. 歩いて5分以内 | 2. 歩いて15分以内 | 3. 歩いて30分以内 |
| 4. 歩いて45分以内 | 5. 歩いて1時間以内 | 6. 1時間以上 |

問39. あなたは、**健康や介護予防、認知症予防のために、普段から活動していることはありますか。**（あてはまるものすべてに○）

- | |
|--|
| 1. 栄養バランスやかむ回数に気をつけて食事をしている |
| 2. 口の中を清潔にしている（歯みがき、うがいなど） |
| 3. 規則的な生活を心がけている（夜更かしをしないなど） |
| 4. ウォーキングや体操などの運動に取り組んでいる |
| 5. 定期的に健康診断を受けたりかかりつけの医師（主治医）に診てもらっている |
| 6. 休養や睡眠を十分にとっている |
| 7. 友人や家族とよく会話をしている |
| 8. 閉じこもらないように外に出る頻度を増やしている |
| 9. その他（ |
| 10. 特にない |

問40. あなたが、**趣味や私的活動・交流として実施していることはありますか。**（あてはまるものすべてに○）

- | |
|-----------------------------------|
| 1. 図書館・公園・プールなどの身近な施設へ出かけること |
| 2. 近所に買い物に出かけること |
| 3. 国内旅行や海外旅行に行くこと |
| 4. 自分の好きな俳優や劇団などのショーやコンサートに出かけること |
| 5. 野球や相撲などスポーツを観戦すること |
| 6. ジムやフィットネスクラブなどで、身体を動かすこと |
| 7. 囲碁や書道、音楽、絵画、語学など趣味を楽しむこと |
| 8. みんなと一緒に食事をしたり、食事を作ったりして楽しむこと |
| 9. 子どもや孫など家族と一緒に触れあうこと |
| 10. その他（ |

14

問 46. 豊島区では高齢者の心身の健康と生活の安定のための相談窓口として、区内に**高齢者総合相談センター（地域包括支援センター）**を設置しています。あなたは、**高齢者総合相談センターを知っていますか。**（ひとつだけ○）

- | |
|-------------------------------------|
| 1. 自分が住んでいる地域のセンターの場所もセンターの役割も知っている |
| 2. 場所までは知らないが、センターの役割は知っている |
| 3. 場所は知っているが、センターの役割までは知らない |
| 4. センターの名前は知っている |
| 5. 知らない |

★ 最後に、**介護予防や介護保険に関するご意見やご要望**がございましたら、ご自由にお書きください。

質問は以上でおわりです。ご協力ありがとうございました。

調査票を同封の返信用封筒に入れて、**12月9日（月）まで**に返送（投函）してください。切手を貼る必要はありません。

16

豊島区 要介護認定者調査のお願い

ご協力をお願い

日頃より、豊島区の介護保険事業にご理解、ご協力をいただきありがとうございます。

豊島区では、「高齢者福祉計画・介護保険事業計画」の策定にあたり、自立支援・重度化防止に効果的な施策の実施に向けた検討を行うため、高齢者の皆様の生活状況やご意見をおうかがいする調査を実施いたします。

この調査は、令和元年 11 月 8 日現在、豊島区にお住まいの要介護認定を受けている 65 歳以上の皆様から、無作為に抽出しました 1,500 人の方に送付しています。

この調査結果は、統計的に処理するため、個人が特定されることは一切ございません。

質問数が多く、大変お手数をおかけしますが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

令和元年 11 月 豊島区保健福祉部

記入上の注意

- 濃い鉛筆または黒のボールペンで記入してください。
- 印は、番号を囲むように濃くつけてください。(例：①・②・③)
- 「その他」を選択された場合は()内に具体的内容を記入してください。
- 調査票や封筒にあなたのお名前やご住所などを書かないでください。無記名の調査です。
- ご記入いただきました調査票は、同封の返信用封筒(切手は不要です)に封入し、**令和元年 12 月 2 日(月)まで**にご返送ください。
- この調査に関するお問い合わせは、以下の担当までお願いいたします。
【調査についての問合せ先】
豊島区 保健福祉部 介護保険課 電話：03-3981-1942 (直通)

1

問5. あなたがお住まいの地域をお答えください。(ひとつだけ○)

- | | | |
|-----------------|----------------|-----------------|
| 1. 駒込 1～7 丁目 | 2. 巣鴨 1・2 丁目 | 3. 巣鴨 3～5 丁目 |
| 4. 西巣鴨 1～4 丁目 | 5. 南大塚 1～3 丁目 | 6. 北大塚 1・2 丁目 |
| 7. 北大塚 3 丁目 | 8. 上池袋 1～4 丁目 | 9. 東池袋 1～5 丁目 |
| 10. 南池袋 1～4 丁目 | 11. 西池袋 1～5 丁目 | 12. 池袋 1・2 丁目 |
| 13. 池袋 3 丁目 | 14. 池袋 4 丁目 | 15. 池袋本町 1～4 丁目 |
| 16. 雑司が谷 1～3 丁目 | 17. 高田 1～3 丁目 | 18. 目白 1・2 丁目 |
| 19. 目白 3～5 丁目 | 20. 南長崎 1～6 丁目 | 21. 長崎 1 丁目 |
| 22. 長崎 2～6 丁目 | 23. 千早 1～4 丁目 | 24. 要町 1～3 丁目 |
| 25. 高松 1～3 丁目 | 26. 千川 1・2 丁目 | |

問6. あなたの現在のお住まいは、一戸建てまたは集合住宅のどちらですか。(ひとつだけ○)

- | | |
|----------------------|-----------------|
| 1. 持ち家(一戸建て) | 2. 持ち家(集合住宅) |
| 3. 公営賃貸住宅(区営住宅・都営住宅) | 4. 民間賃貸住宅(一戸建て) |
| 5. 民間賃貸住宅(集合住宅) | 6. 借家 |
| 7. その他() | |

問7. あなたの現在の世帯の状況を、以下の中からお答えください。(ひとつだけ○)

- | | |
|-------------------------|-------------------------|
| 1. 一人暮らし | 2. 夫婦二人暮らし(配偶者は 65 歳以上) |
| 3. 夫婦二人暮らし(配偶者は 64 歳以下) | 4. 息子・娘との 2 世帯 |
| 5. その他() | |

問8. あなたは現在の暮らしの経済的な状況をどう感じていますか。(ひとつだけ○)

- | | | |
|-------------|-------------|--------|
| 1. 大変苦しい | 2. やや苦しい | 3. ふつう |
| 4. ややゆとりがある | 5. 大変ゆとりがある | |

3

はじめに

問1. この調査票にご回答いただいている方は、どなたですか。(ひとつだけ○)

- | |
|------------------------|
| 1. あて名のご本人が記入 |
| 2. あて名のご本人の話を聞き、ご家族が記入 |
| 3. その他() |

※ これ以降、**あて名のご本人様(あなた)**についてうかがいます。

※ あて名の方以外の方が記入される場合にも、特に指定のない限り、あて名のご本人様についてご回答ください。

1. あて名のご本人様ご自身およびご家族について

問2. あなたの性別をお答えください。(ひとつだけ○)

- | | |
|--------|-------|
| 1. 男性 | 2. 女性 |
| 3. その他 | |

問3. あなたの令和元年 11 月 1 日現在の年齢をお答えください。(ひとつだけ○)

- | | | |
|--------------|--------------|--------------|
| 1. 65 歳～69 歳 | 2. 70 歳～74 歳 | 3. 75 歳～79 歳 |
| 4. 80 歳～84 歳 | 5. 85 歳～89 歳 | 6. 90 歳以上 |

問4. あなたは現在、どちらにお住まいですか。(ひとつだけ○)

- | | |
|------------------------|---|
| 1. ご自宅(ショートステイ利用者含む) | 調査はおわりです。
ご協力ありがとうございました。
⇒ 返信用の封筒に入れ 12 月 2 日までに投函してください。 |
| 2. 区内の親族等の家 | |
| 3. 入院中 | |
| 4. その他(介護施設へ入所している等含む) | |
| 5. 区外へ転出した | |

2

2. 介護について

問9. あなたの現在の要介護度は次のどれにあたりますか。(ひとつだけ○)

- | | | |
|----------|----------|----------|
| 1. 要介護 1 | 2. 要介護 2 | 3. 要介護 3 |
| 4. 要介護 4 | 5. 要介護 5 | 6. その他 |

問10. あなたが、介護が必要になった主な原因は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|---------------------|---------------------|
| 1. 脳卒中(脳出血・脳こうそくなど) | 2. 心臓病 |
| 3. がん(悪性新生物) | 4. 呼吸器の病気(肺炎腫・肺炎など) |
| 5. 関節の病気(リウマチなど) | 6. 認知症(アルツハイマー病など) |
| 7. パーキンソン病 | 8. 糖尿病 |
| 9. 腎疾患(透析) | 10. 視覚・聴覚障害 |
| 11. 骨折・転倒 | 12. 脊椎損傷 |
| 13. 高齢による衰弱 | 14. その他() |
| 15. 不明 | |

問11. 現在、あなたは、介護保険サービスを利用していますか。(ひとつだけ○)

- | | |
|----------------------|---------------------|
| 1. 利用している ⇒ 問 11-1 へ | 2. 利用していない ⇒ 問 12 へ |
| 3. わからない ⇒ 問 13 へ | |

4

問 11-1. 問 11 で 1 に○をつけた方にうかがいます。

あなたが利用している介護保険サービスはどれですか。
(あてはまるものすべてに○)

【訪問サービス】
1. 訪問介護（ご自宅で、掃除、食事や排せつの介助などを受けるもの）
2. 訪問入浴介護（ご自宅で、移動式浴槽などを用いて入浴の介助を受けるもの）
3. 訪問看護（ご自宅で、医療処置、医療機器の管理、床ずれ予防などを受けるもの）
4. 訪問リハビリテーション（ご自宅で、リハビリテーションの支援などを受けるもの）
【通所サービス】
5. 通所介護（ご自宅から施設に通い、食事や入浴、排せつの介助を受けるもの）
6. 通所リハビリテーション（ご自宅から施設に通い、主にリハビリテーションを受けるもの）
【短期入所サービス】
7. ショートステイ（短期間施設に入所し、食事、入浴、排せつの介助を受けるもの）
【地域密着型サービス】
8. 定期巡回・随時対応型訪問介護看護（1日複数回と緊急時の訪問にて介護・看護を受けるもの）
9. 小規模多機能型居宅介護（1事業所から訪問・通所・短期入所のサービスを受けるもの）
10. 看護小規模多機能型居宅介護（1事業所から通所・宿泊・訪問介護・看護のサービスを受けるもの）
【その他のサービス】
11. 福祉用具の貸与（ご自宅で使用する車椅子やベッドなどの用具をレンタルするもの）
12. 特定福祉用具販売（ご自宅で使用する腰掛便座、入浴補助具などの用具を購入するもの）
13. 住宅改修（ご自宅に手すりの取り付け、段差解消などの小規模な改修を実施するもの）
14. その他（ ）

問 11-2. 問 11 で 1 に○をつけた方にうかがいます。あなたの現在のケアプラン※に対する満足度はいかがですか。（ひとつだけ○）

1. 満足している	2. ほぼ満足している	3. どちらともいえない
4. やや不満である	5. 不満である	

※ ケアプラン：高齢者一人ひとりの状態に合った介護サービスと、サービスの利用予定が記載された計画のことをいいます。

問12. 問 11 で 2 に○をつけた方にうかがいます。

あなたが介護保険サービスを利用していない理由は何ですか。
(ひとつだけ○)

1. 病院に入院しているから
2. サービスを利用しなくても自力または家族の介護で生活できるから
3. 普段介護をしてくれている人が急病など緊急のときだけサービスを利用したいから
4. 住宅改修費の支給や福祉用具購入費の支給のみを利用したから
5. 利用したいと思うサービスがないから
6. 手続きなどが複雑で面倒だから
7. 家族・親族以外の介護を好まないから
8. 他人を自宅に入れたり、かかわったりしたくないから
9. 利用料の負担が大変だから
10. その他（ ）

問13. あなたは、介護保険の在宅サービスの利用に要する費用についてどのようにお感じですか。（ひとつだけ○）

1. 受けているサービスに対し、安価な料金である
2. 受けているサービスに対し、適切な料金である
3. 負担感はあるが、必要なサービス利用のためにはやむを得ない
4. 負担が重く、費用が高くないようにサービスの利用量を調整している
5. 費用は全く気にしていない
6. いくら払っているかわからない

問14. あなたの介護度が現在より悪化した場合、どこで介護を受けたいですか。
(ひとつだけ○)

1. 自宅	2. 介護施設
3. 病院	4. どこでもよい
5. その他（ ）	6. わからない

問15. あなたは、今後介護を受けながら、安心して、住み慣れた地域で暮らし続けるにはどのようなことが必要だと考えますか。（あてはまるもの3つまで○）

1. 福祉や介護に関する情報提供や相談体制が充実している
2. 身近な人による見守りや助言がある
3. 日中往診や緊急時対応などの医療サービスが整っている
4. 夜間や緊急時でも利用できる介護サービスがある
5. 認知症に対する介護サービスの充実や地域の理解がある
6. 家事などの生活を支援するサービスがある
7. 介護に適した住宅に改修、または住み替えができる
8. 家族介護者を支援してくれる仕組みがある
9. 契約や財産管理などを支援してくれる仕組みがある
10. 災害時に支援してくれる体制がある
11. その他（ ）
12. わからない

問16. あなたは、現在、施設※などへの入所・入居を検討していますか。（ひとつだけ○）

1. 入所・入居は検討していない	⇒ 問 17 へ
2. 入所・入居を検討している	⇒ 問 16-1 へ
3. すでに入所・入居申し込みをしている	

※施設には主に以下のような種類があります。

- ① 特別養護老人ホーム：常に介護が必要で、自宅で介護を受けることが困難な方の施設
- ② 老人保健施設：リハビリなどを提供し、在宅復帰を目指す施設
- ③ 介護療養型医療施設（介護医療院）：医療の必要な高齢者が、長期的に療養を受ける施設
- ④ 特定施設：
 - 民間施設：有料老人ホーム、サービス付き高齢者向け住宅などの民間施設
 - 公的施設：ケアハウス、養護老人ホームなどの公的施設
- ⑤ グループホーム：認知症の方を対象、小規模の介護施設で共同生活を行う施設

問 16-1. 問 16 で 2 または 3 に○をつけた方にうかがいます。

入所申込み(検討)をした施設はどれですか。（あてはまるものすべてに○）

1. 特別養護老人ホーム	2. 老人保健施設
3. 介護療養型医療施設（介護医療院）	4. 特定施設
5. グループホーム	

問17. あなたが施設に入るとしたら、施設の場所をどの範囲まで検討しますか。（ひとつだけ○）

1. 豊島区内	2. 豊島区外（都内）
3. 都外の近郊	4. 場所はどこでもよい

問18. あなたが施設に入るとしたら、部屋の種類はどのようなものがよいと思いますか。（ひとつだけ○）

1. 費用は多少高くても個室を希望する
2. 費用は安いほうがいいので大部屋（例：4人部屋）を希望する
3. 入所でできればどちらでもよい

3. 生活支援について

問19. 豊島区では、高齢者の日常生活を支援するために、介護保険以外の保健・福祉サービスを実施しています。次のうち、あなたが「**今後利用したいもの**」はどれですか。**継続して利用したいもの・新たに利用したいもののどちらも含めて**回答してください。（あてはまるものすべてに○）

- | |
|--|
| 1. 配食サービス（食事の準備が困難な方に食事を配達） |
| 2. 補聴器購入費助成（補聴器購入費の一部を助成） |
| 3. 緊急通報システム（緊急時に警備員や救急車の出動を要請等できる機器の貸出し） |
| 4. 火災安全システム（火災報知器などの住宅防災機器の設置給付） |
| 5. 紙おむつ支給（在宅の場合）やおむつ購入費助成（医療機関へ入院の場合） |
| 6. 出張理美容サービス（外出できない寝たきりの高齢者の方に、自宅へ出張しての散髪） |
| 7. 寝具の洗濯・乾燥サービス（使用中の寝具を月1回乾燥または洗濯する） |
| 8. 寝たきりの高齢者の方を対象とした訪問診療・歯科診療など |
| 9. 徘徊高齢者位置情報サービス（位置情報サービスの利用料金助成） |
| 10. リボンサービス（社会福祉協議会で行う登録制の有償ヘルパー派遣） |
| 11. 移送サービス（車椅子のまま乗り降りできるリフト付き自動車の運行） |
| 12. 在宅医療相談窓口（豊島区医師会館で行う在宅医療を希望する方の相談） |
| 13. 今後利用したいものはない |

問20. あなたが、**今後の在宅生活の継続に必要であると感じる支援は何ですか。**
（あてはまるものすべてに○）

- | | |
|------------------------|---------------------|
| 1. 配食 | 2. 調理 |
| 3. 掃除・洗濯 | 4. 買い物（宅配は含まない） |
| 5. ゴミ出し | 6. 外出への同行（通院、買い物など） |
| 7. 移送サービス（介護・福祉タクシーなど） | 8. 見守り、声かけ |
| 9. サロンなどの定期的な通いの場 | 10. その他（ ） |
| 11. 特になし | |

9

4. 医療について

問22. あなたが、**現在治療中、または後遺症のある病気**はありますか。
（あてはまるものすべてに○）

- | | |
|----------------------------|-------------|
| 1. 脳血管疾患（脳卒中・脳こうそくなど） | 2. 心疾患（心臓病） |
| 3. 悪性新生物（がん） | 4. 呼吸器疾患 |
| 5. 腎疾患（透析など） | |
| 6. 筋骨格系疾患（骨粗鬆症、脊柱管狭窄症など） | |
| 7. 膠原病（関節リウマチを含む） | 8. 変形性関節疾患 |
| 9. 認知症 | 10. パーキンソン病 |
| 11. 難病（パーキンソン病を除く） | 12. 糖尿病 |
| 13. 眼科・耳鼻科疾患（視覚・聴覚障害を伴うもの） | |
| 14. その他（ ） | 15. なし |
| 16. わからない | |

問23. あなたは、**現在、在宅医療を受けていますか。**（ひとつだけ○）

- | | |
|----------|-----------|
| 1. 受けている | 2. 受けていない |
|----------|-----------|

※ 在宅医療：医師・訪問看護師が定期的に自宅へ訪問し、診療・処置を行うことをいいます。

問24. あなたは、**かかりつけ医はいますか。**（ひとつだけ○）

- | | |
|-------|--------|
| 1. いる | 2. いない |
|-------|--------|

※ かかりつけ医：日頃から自分の健康状態をよく知っていて、日常的な健康管理をまかせられる医師のことをいいます。

問21. 豊島区では、高齢者の心身の健康と生活の安定のための相談窓口として、区内に高齢者総合相談センター（地域包括支援センター）を設置しています。あなたは、**高齢者総合相談センターを知っていますか。**（ひとつだけ○）

- | |
|-------------------------------------|
| 1. 自分が住んでいる地域のセンターの場所もセンターの役割も知っている |
| 2. 場所までは知らないが、センターの役割は知っている |
| 3. 場所は知っているが、センターの役割までは知らない |
| 4. センターの名前は知っている |
| 5. 知らない |

10

5. 地域とのつながりについて

問25. あなたは**週に1回以上は外出していますか。**（ひとつだけ○）

- | | |
|----------------|----------|
| 1. ほとんど外出していない | 2. 週1回 |
| 3. 週2～4回 | 4. 週5回以上 |

問26. あなたとまわりの人の「たすけあい」についてお伺いします。

① あなたの、**心配事や愚痴（ぐち）を聞いてくれる人**はどなたですか。
（あてはまるものすべてに○）

- | | | |
|----------------|---------------|-----------|
| 1. 配偶者 | 2. 同居の子ども | 3. 別居の子ども |
| 4. 兄弟姉妹・親戚・親・孫 | 5. 近隣 | 6. 友人 |
| 7. その他（ ） | 8. そのような人はいない | |

② あなたが病気で数日間寝込んだときに、**看病や世話をしてくれる人**はどなたですか。（あてはまるものすべてに○）

- | | | |
|----------------|---------------|-----------|
| 1. 配偶者 | 2. 同居の子ども | 3. 別居の子ども |
| 4. 兄弟姉妹・親戚・親・孫 | 5. 近隣 | 6. 友人 |
| 7. その他（ ） | 8. そのような人はいない | |

問27. 家族や友人・知人以外で、何かあったときの相談先を教えてください。
（あてはまるものすべてに○）

- | | |
|--------------------|-----------------|
| 1. 町会・自治会・高齢者クラブ | 2. 社会福祉協議会・民生委員 |
| 3. ケアマネジャー | 4. 医師・歯科医師・看護師 |
| 5. 高齢者総合相談センター・区役所 | 6. その他（ ） |
| 7. そのような人はいない | |

6. 主に介護をしている方について

問28. **あて名のご本人様を主に介護をしている方は**、あて名のご本人から見てどのようなご関係にありますか。(ひとつだけ○)

1. 配偶者（夫・妻）	⇒ 引き続き問 29 以降をご回答ください。
2. 子	
3. 子の配偶者	
4. 孫	
5. 兄弟・姉妹	調査はおわりです。 ご協力ありがとうございました。 ⇒ 返信用の封筒に入れ12月2日までに投函してください。
6. その他（ ）	
7. 介護サービスのヘルパー	
8. 介護している人はいない	

ここから先は、あて名のご本人様を
主に介護をしているご家族の方 がご回答ください。

問29. 主に介護をしている方の**性別**をお答えください。(ひとつだけ○)

1. 男性	2. 女性
3. その他	

問30. 主に介護をしている方の**年齢**はいくつですか。(ひとつだけ○)

1. 20歳未満	2. 20代	3. 30代
4. 40代	5. 50代	6. 60代
7. 70代	8. 80歳以上	

問31. あて名のご本人様に対する介護は、**週にどのくらいありますか。**(ひとつだけ○)

1. 週1日より少ない	2. 週に1～2日ある
3. 週に3～4日ある	4. ほぼ毎日ある

13

問 34-1. 問 34 で 1 または 2 に○をつけた方にうかがいます。

介護をするにあたって、働き方についての調整などをしていきますか。
(あてはまるものすべてに○)

1. 特に行っていない
2. 介護のために、労働時間を調整（残業免除、時短勤務、遅出、早帰、中抜けなど）をしながら働いている
3. 介護のために、休暇（年休や介護休暇など）を取りながら働いている
4. 介護のために、在宅勤務を利用しながら働いている
5. 介護のために、2～4以外の調整をしながら働いている

問 34-2. 問 34 で 1 または 2 に○をつけた方にうかがいます。

今後も働きながら介護を続けていけそうですか。(ひとつだけ○)

1. 問題なく続けていける	2. 問題はあるが何とか続けていける
3. 続けていくのはやや難しい	4. 続けていくのはかなり難しい

問35. 主に介護をしている方を含むご家族やご親族の中で、**あて名のご本人の介護を主な理由として、過去1年間に仕事をやめた方はいいますか。**現在働いているかどうかや、現在の勤務形態は問いません。(ひとつだけ○)

1. 主な介護者が仕事をやめた（転職を除く）
2. 主な介護者以外の家族・親族が仕事をやめた
3. 主な介護者が転職した
4. 主な介護者以外の家族・親族が転職した
5. 介護のために仕事をやめた家族・親族はいない
6. わからない

※ 自営業や農林水産業のお仕事をやめた方を含みます。

問32. 現在の生活を継続していくにあたって、主に介護をしている方が、**不安に感じる介護などについてご回答ください。**現在行っているか否かは問いません。
(主なもの3つまで○)

【身体介護について】	
1. 日中の排泄	2. 夜中の排泄
3. 食事の介助（食べる時）	4. 入浴・洗身
5. 身だしなみ（洗顔・歯磨きなど）	6. 衣服の着脱
7. 屋内の移乗 [※] ・移動	8. 外出の付き添い、送迎など
9. 服薬	10. 認知症症状への対応
11. 医療面での対応（経管栄養やストーマなど）	
【生活援助について】	
12. 食事の準備（調理など）	13. その他の家事（掃除、洗濯、買い物など）
14. 金銭管理や生活面に必要な諸手続き	
【その他】	
15. その他（ ）	16. 不安に感じていることは特にない

※ 移乗：ベッドから車いす、車いすからトイレなどの「乗り移り動作」のことをいいます。

問33. 主に介護をしている方は、**要介護認定を受けていますか。**(ひとつだけ○)

1. 健康であり、要介護認定は受けていない
2. 何らかの病気や障害などはあるが、要介護認定は受けていない
3. 要支援1・2の認定を受けている
4. 要介護1・2の認定を受けている
5. 要介護3～5の認定を受けている

問34. 主に介護をしている方の、**現在の勤務形態**についてご回答ください。(ひとつだけ○)

1. フルタイムで働いている	2. パートタイムで働いている	⇒ 問 34-1 へ
3. 働いていない	⇒ 問 35 へ	

※ パートタイムは1週間の所定労働時間が、同一の事業所に雇用される通常の労働者に比べて短い方が該当します。アルバイト、嘱託、契約社員の方を含みます。

※ 自営業・フリーランスなどの場合も、就労時間・日数等からフルタイム・パートタイムのいずれかを選択してください。

14

問36. 在宅介護を継続するにあたって、主に介護をしている方が、**介護者支援として充実を望むことは何ですか。**(主なもの3つまで○)

1. 介護者がリフレッシュできるような機会
2. 介護者の会などの介護者同士の交流の場
3. 高齢者総合相談センターなどでの個人的な相談窓口
4. 介護者向けの教室など、介護技術が学べる機会
5. 介護者の疾病予防や病気の早期発見などを行うためのヘルスチェックや健康相談の実施
6. 若者など介護未経験者に対する介護への理解促進
7. 隣近所の助けあいやボランティア活動の充実
8. 介護保険制度で行われる居宅サービスの充実
9. その他公的支援の充実
10. 保険外のサービスの充実（選択的介護 [※] ・機器による見守りサービスなど）

※ 選択的介護：介護保険サービスと保険外サービスを柔軟に組み合わせることで要介護者やご家族をサポートするサービスのことをいいます。

★ 最後に、**在宅介護や介護保険に関するご意見やご要望**がございましたら、ご自由にお書きください。

質問は以上でおわりです。ご協力ありがとうございました。

調査票を同封の返信用封筒に入れて、**12月2日（月）まで**に

投函してください。切手を貼る必要はありません。

豊島区 ケアマネジャー調査のお願い

ご協力をお願い

日頃より、豊島区の介護保険事業にご理解、ご協力をいただきありがとうございます。
豊島区では、第8期介護保険事業計画（令和3～5年度）を策定するにあたり、区内居宅介護支援事業所のケアマネジャーの方に業務の現状やご意見等をおうかがいするアンケート調査を実施いたします。

この調査票は、豊島区内の居宅介護支援事業所のケアマネジャー全員の方に送付しています。

この調査結果は、高齢者保健福祉施策を検討する際の重要な基礎資料とさせていただきますので、お手数をおかけしますが、ご回答にご協力いただけますようお願い申し上げます。

令和元年 11 月 豊島区保健福祉部

記入上の注意

- この調査は、令和元年 11 月 1 日現在の状況でお答えください。
- 濃い鉛筆または黒のボールペンで記入してください。
- 印は、番号を囲むように濃くつけてください。（例：①・②・③）
- 「その他」を選択された場合は（ ）内に具体的内容を記入してください。
- 調査票や封筒にあなたのお名前やご住所などを書かないでください。無記名の調査です。
- ご記入いただきました調査票は、同封の返信用封筒（切手は不要です）に封入し、**令和元年 12 月 2 日（月）**までにご返送ください。
- この調査に関するお問い合わせは、以下の担当までお願いいたします。

【調査についての問合せ先】

豊島区 保健福祉部 介護保険課 電話：03-3981-1942（直通）

1

2. サービス基盤について

問5. あなたが現在豊島区でケアプラン作成を担当している人数をご記入ください。（数値を記入）

種類	人数
①介護プラン	(人)
②介護予防プラン	(人)
③介護予防ケアマネジメント	(人)

問6. あなたが担当している利用者のうち、いわゆる宿泊付きデイサービスを利用している方はいますか。（ひとつだけ○）

1. いる（ ）人・延べ日数（ ）日	2. いない
--------------------	--------

問7. あなたが担当している利用者の中で、ご自宅にお住まいの方のうち、現在のサービス利用では、在宅生活の維持が難しくなっている方はいますか。（ひとつだけ○）

1. いる ⇒問 7-1 をご回答ください	2. いない
-----------------------	--------

問 7-1. 問 7 で 1 に ○ をつけた方にうかがいます。現在のサービス利用では、在宅生活の維持が難しくなっている理由はどれですか。※複数のケースがある場合、あなたが特に困難であると考えている 1 つのケースについてお答えください。（あてはまるものすべてに○）

①本人の意向等に関する理由

- 本人が、一部の居宅サービスの利用を望まないから
- 生活不安が大きいから
- 居住環境が不便だから
- 本人が介護者の負担の軽減を望むから
- 費用負担が重いから
- その他の本人の意向（内容： ）
- 該当しない

②家族等介護者の意向・負担等に関する理由

- 介護者の介護に係る不安・負担量の増大
- 介護者が、一部の居宅サービスの利用を望まないから
- 家族等の介護等技術では対応が困難
- 費用負担が重いから
- 家族等の就労継続が困難になり始めたから
- 本人と家族等の関係性に課題があるから
- その他の家族等介護者の意向（内容： ）
- 該当しない

3

1. ご本人様について

問1. あなたの令和元年 11 月 1 日現在の年齢をお答えください。（ひとつだけ○）

1. 20歳代	2. 30歳代	3. 40歳代
4. 50歳代	5. 60歳代	6. 70歳代以上

問2. あなたはケアマネジャー以外にどのような保健医療福祉関係の資格をお持ちですか。（あてはまるものすべてに○）

1. 医師	2. 歯科医師	3. 薬剤師
4. 保健師	5. 看護師、准看護師	6. 理学療法士
7. 作業療法士	8. 歯科衛生士	9. 管理栄養士
10. 社会福祉士	11. 介護福祉士	12. 精神保健福祉士
13. 社会福祉主事	14. ホームヘルパー	15. その他（ ）

問3. あなたは、令和元年 11 月 1 日現在、ケアマネジャー業務に従事してどれくらいの経験がありますか。転職などをしている場合は、前職なども含めた合計期間でお答えください（ひとつだけ○）。

1. 1年未満	2. 1年以上3年未満	3. 3年以上5年未満
4. 5年以上10年未満	5. 10年以上15年未満	6. 15年以上

問4. あなたは、現在、主任ケアマネジャーの資格を持っていますか。（ひとつだけ○）

1. 持っている	2. 持っていない ⇒問 4-1 をご回答ください
----------	---------------------------

問 4-1. 問 4 で 2 に ○ をつけた方にうかがいます。

今後、主任ケアマネジャーの資格取得を希望しますか。（ひとつだけ○）

1. 希望する	2. 希望しない	3. わからない
---------	----------	----------

2

③本人の状態等に関する理由

1. 必要な生活支援の発生・増大	
2. 必要な身体介護の増大	⇒問 7-2 をご回答ください
3. 認知症の症状の悪化	⇒問 7-3 をご回答ください
4. 医療的ケア・医療処置の必要性の高まり	⇒問 7-4 をご回答ください
5. その他の状態の悪化（内容： ）	
6. 該当しない	

問 7-2. 問 7-1 の③で 2 に ○ をつけた方にうかがいます。生活の維持が難しくなっている要因となっている具体的な身体介護は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

1. 見守り・付き添い	2. 移乗・移動	3. 食事摂取
4. 排泄（日中）	5. 排泄（夜間）	6. 入浴
7. 更衣・整容	8. その他（ ）	

問 7-3. 問 7-1 の③で 3 に ○ をつけた方にうかがいます。生活の維持が難しくなっている要因となっている具体的な認知症の症状は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

1. 家事に支障がある	2. 一人での外出が困難
3. 薬の飲み忘れ	4. 金銭管理が困難
5. 意欲の低下	6. 徘徊がある
7. 暴言・暴力などがある	8. 強い介護拒否がある
9. 深夜の対応	10. 近隣住民等とのトラブル
11. その他（ ）	

問 7-4. 問 7-1 の③で 4 に ○ をつけた方にうかがいます。生活の維持が難しくなっている要因となっている具体的な医療的ケア・医療処置は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

1. 点滴の管理	2. 中心静脈栄養
3. 透析	4. ストーマの処置
5. 酸素療法	6. レスビレーター
7. 気管切開の処置	8. 疼痛の看護
9. 経管栄養	10. モニター測定
11. 褥瘡の処置	12. カテーテル
13. 喀痰吸引	14. インスリン注射
15. その他（ ）	

4

問 7-5. 問 7 で 1 に○をつけた方にうかがいます。現在のサービス利用では生活の維持が難しくなっている状況に対して、どのようなサービスに変更することで改善できると思いますか。（あてはまるものすべてに○）

【在宅サービス】	
1. 短期入所生活介護	2. 訪問介護、訪問入浴介護
3. 夜間対応型訪問介護	4. 訪問看護
5. 訪問リハビリテーション	6. 通所介護、通所リハビリテーション、 認知症対応型通所介護
7. 定期巡回サービス	
8. 看護小規模多機能型居宅介護	9. 小規模多機能型居宅介護
【住まい・施設等】	
10. 住宅型有料老人ホーム	11. サービス付き高齢者向け住宅
12. 認知症対応型共同生活介護	13. 特定施設入居者生活介護
14. 介護老人保健施設	15. 介護療養型医療施設（介護医療院）
16. 特別養護老人ホーム	

問8. あなたは、ケアマネジャーの立場から、高齢者が安心して生活するために、どのようなサービスをより充実させることが重要だと考えますか。（ひとつだけ○）

【訪問系】	
1. 訪問介護	2. 訪問入浴介護
3. 訪問看護	4. 訪問リハビリテーション
5. 居宅療養管理指導	
【通所系】	
6. 通所介護	7. 通所リハビリテーション
【短期入所系】	
8. 短期入所生活介護	9. 短期入所療養介護
【貸与】	
10. 福祉用具貸与	
【地域密着型】	
11. 夜間対応型訪問介護	12. 認知症対応型通所介護
13. 地域密着型通所介護	14. 小規模多機能型居宅介護
15. 看護小規模多機能型居宅介護	16. 定期巡回・随時対応型訪問介護看護
17. 認知症対応型共同生活介護	
【施設等】	
18. 特定施設入居者生活介護	19. 特別養護老人ホーム
20. 介護老人保健施設	21. 介護療養型医療施設（介護医療院）

5

問9. あなたは 2018 年度に厚生労働省より「介護保険サービスと保険外サービスを組み合わせて提供する場合の取扱いについて」の通知（介護保険最新情報 Vol. 678）があったことを知っていますか。（ひとつだけ○）

1. 知っている	2. 知らない
----------	---------

問 9-1. 問 9 で 1 に○をつけた方にうかがいます。あなたは厚生労働省の通知を受け、ケアプランの作成にどのような影響がありましたか。（ひとつだけ○）

1. 現在、保険外サービスをケアプランに組み込んでいる
2. 現在は保険外サービスのケアプランへ組み込んでいないが、組み込みを検討している
3. 現在、保険外サービスのケアプランへ組み込んでいないし、組み込む予定はない

問10. あなたは、保険外サービスのケアプランへの組み込みについてどのように考えていますか。（ひとつだけ○）

1. 積極的に利用したい	2. 必要があれば利用したい
3. あまり利用したいと思わない	4. 利用したくない

⇒問 10-1 をご回答ください

問 10-1. 問 10 で 3 または 4 に○をつけた方にうかがいます。あなたが保険外サービスを利用したいと思わない理由は何ですか。（ひとつだけ○）

1. サービス内容がわからない	2. サービス提供している事業所がわからない
3. 利用者・家族に利用意向がない	4. 利用効果・メリットがわからない
5. その他（	）

6

3. 各種連携・調整について

問11. あなたは、サービス提供事業所に関する情報収集や連絡・調整はどのようにしていますか（あてはまるものすべてに○）

1. サービス提供事業所のパンフレット等の収集	
2. サービス提供事業所のホームページを閲覧	
3. 地域単位の事業所情報誌等を閲覧	
4. 高齢者総合相談センター（地域包括支援センター）からの情報収集	
5. 他のサービス事業所との定期的な連絡会などに参加	
6. ケアプラン作成に必要な部分のみ、近隣にある特定の事業所に対し電話・面談等で直接問合せ・連絡・調整	
7. サービス提供は原則同一法人内で行うため、その他の事業所との連絡をとる機会はない	
8. ケアマネジャー同士の情報交換・ロコモ	
9. 事業所が営業に来るとき	
10. 利用者からの情報や意見・要望	
11. その他（	）

問12. あなたは、現在、高齢者総合相談センター（地域包括支援センター）との連携はとれていますか（ひとつだけ○）

1. 十分連携がとれている	
2. 連携のとれる内容ととれない内容がある	3. 連携がとれていない
4. どちらともいえない	5. 連携をとる必要性を感じていない

⇒問 12-1 をご回答ください

問 12-1. 問 12 で 2 ～ 5 に○をつけた方にうかがいます。現在、高齢者総合相談センター（地域包括支援センター）と連携がとれない理由は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

1. 包括の役割がよくわからない	
2. 包括の担当者や話す機会が少ない	
3. 連携のとり方がわからない	
4. 自分の業務が忙しい	
5. 包括の職員が忙しい	
6. 包括ごとに職員のレベルや対応に違いがある	
7. その他（	）

7

問13. あなたは、高齢者総合相談センター（地域包括支援センター）に、今後、特に期待する役割は何ですか。（3 つまで○）

1. 自立支援を目的とした介護予防ケアマネジメントに関する指導・相談の役割	
2. 地域づくりにおける推進的な役割	
3. 主治医との連携の役割	
4. 介護支援専門員に対する日常的な個別指導・相談の役割	
5. 支援困難事例への個別指導・相談の役割	
6. 地域における介護支援専門員のネットワークづくりの役割	
7. 多職種協働・連携による包括的・継続的ケアマネジメント支援の役割	
8. 地域の総合相談窓口としての役割	
9. 実態把握等による要援護高齢者の早期発見と対応の役割	
10. 高齢者虐待防止・権利擁護の役割	
11. 介護保険に該当しない課題のある家族への対応や引継ぎ	
12. その他（	）
13. 特になし	

問14. あなたは、現在、医療機関との連携はとれていますか（ひとつだけ○）

1. 十分連携がとれている	
2. 連携のとれる内容ととれない内容がある	3. 連携がとれていない
4. どちらともいえない	5. 連携をとる必要性を感じていない

⇒問 14-1 をご回答ください

問 14-1. 問 14 で 2 ～ 5 に○をつけた方にうかがいます。現在、医療機関と連携がとれない理由は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

1. 自分自身に医療的な知識が不足している	2. 医療従事者と話す機会が少ない
3. 連携のとり方がわからない	4. 医療従事者が忙しい
5. その他（	）

問15. あなたは、日ごろどのような方法で、医療機関等から情報収集を行っていますか。（あてはまるものすべてに○）

1. 電話	2. FAX	
3. Eメール	4. 直接の面談	
5. メール以外の ICT による情報共有ツール	6. その他（	）

8

問16. あなたは、この1年間に、ターミナルケアに係る居宅サービス計画（ケアプラン）を作成しましたか。（1つだけ○）

- | | |
|------------|------------|
| 1. 作成した（人） | 2. 作成していない |
|------------|------------|

問17. あなたは、特にケアプランの作成にあたって、どのように医療機関等からの情報収集などを行っていますか。（あてはまるものすべてに○）

- | | |
|---|---|
| 1. 主治医の意見書入手 | |
| 2. 意見書を記載した主治医に対して電話・面談等による問合せ | |
| 3. 意見書を記載した主治医以外のかかりつけ医に対して電話・面談等による問合せ | |
| 4. 入院歴のある人の場合には入院していた医療機関に対して電話・面談等による問合せ | |
| 5. 往診・受診・通院・入院時に同行 | |
| 6. 在宅医療相談窓口を通じた情報収集等 | |
| 7. 家族を通じて医師に指示を確認 | |
| 8. カンファレンス | |
| 9. その他（ | ） |
| 10. 特に行っていない | |

問18. 在宅医療連携について、課題があればご記入ください。

9

問21. あなたは、ケアプランを作成するうえでわからないことや困ったことがあった時、誰に相談していますか。（あてはまるものすべてに○）

- | | |
|------------------|----------------------------|
| 1. 同一法人のケアマネジャー | 2. 他法人のケアマネジャー |
| 3. 地域のケアマネジャー連絡会 | 4. 高齢者総合相談センター（地域包括支援センター） |
| 5. 区役所介護保険課 | 6. 区役所高齢者福祉課 |
| 7. 東京都 | 8. 国民健康保険団体連合会 |
| 9. その他（ | ） |
| 10. 困ったりすることはない | 11. 相談できる相手がいない |
- ⇒問21-1をご回答ください

問21-1. 問21で1～9に○をつけた方にうかがいます。どのようなことを相談していますか。（あてはまるものすべてに○）

- | | |
|-----------------------------------|---|
| 1. 支援困難事例への対応に関すること | |
| 2. 利用者・家族間の意見調整に関すること | |
| 3. 居宅サービスの適否判断の解釈に関すること（運営基準等を含む） | |
| 4. 介護保険外のサービスの利用に関すること | |
| 5. 医療知識に関すること | |
| 6. 介護報酬請求事務に関すること | |
| 7. その他（ | ） |

4. 業務の課題について

問19. あなたは、ケアマネジャー業務を行う上で、どのようなことが課題となっていますか。（あてはまるものすべてに○）

- | | |
|--|---|
| 1. 区の介護保険サービスの種類が少ない | |
| 2. 区の介護保険外サービスの種類が少ない | |
| 3. サービス事業者に関する情報が少ない | |
| 4. 利用者及び家族がサービスの必要性を理解していない | |
| 5. 忙しくて利用者の意見・要望を聞き調整する時間が充分とれない | |
| 6. 支援困難事例のケアマネジメントの方法がわからない | |
| 7. 認知症ケアの方法がわからない | |
| 8. 医療機関との連携がうまくとれない | |
| 9. 高齢者総合相談センター（地域包括支援センター）との連携がうまくいかない | |
| 10. 区との連携がうまくいかない | |
| 11. 相談する人が身近にいない | |
| 12. 所属法人の関連事業者のサービス提供に偏る | |
| 13. 記録など書類の量が多く負担となっている | |
| 14. 利用者に制度が十分理解されていない、理解いただくのが負担 | |
| 15. 介護保険サービスを組み込まないインフォーマルサービス等だけのケアプラン調整が、介護報酬で評価されない | |
| 16. 介護保険に該当しない課題のある家族への対応先がわからない | |
| 17. その他（ | ） |

問20. ケアマネジャー業務の中で、どのようなことに負担感を感じますか。（あてはまるものすべてに○）

- | | |
|--------------------------|--------------------------|
| 1. 利用者や家族に対する業務内容の説明と同意 | 2. 利用者の状態像に関するアセスメント |
| 3. サービス担当者会議の開催・調整 | 4. ケアプラン原案に対する利用者・家族の同意 |
| 5. ケアプランの交付（書類の作成など） | 6. 状況確認のための毎月の居宅訪問・面接 |
| 7. 主治医や医療機関と連絡調整 | 8. 利用者や事業所の苦情対応 |
| 9. 地域ケア会議への参加 | 10. 介護報酬請求事務 |
| 11. 夜間や休日の相談対応 | 12. ケアマネジャー業務以外の相談や頼まれごと |
| 13. 利用者本人と家族の意向が異なる場合の調整 | 14. 利用者の経済的問題等の相談 |
| 15. 認知症等の利用者にかかわること | 16. 入所・入院先の相談手配 |
| 17. 介護保険では対応できない同居家族の問題 | 18. その他（ |
| 19. 特に負担に感じることはない | ） |

10

5. 質の確保について

問22. 介護保険制度は3年ごとに大きな改正がありますが、改正内容をどのように学んでいますか。（あてはまるものすべてに○）

- | | |
|------------------------|---------------|
| 1. 国や都などの研修に参加 | 2. 自主的な勉強会 |
| 3. 区の事業者連絡会や集団指導に参加 | 4. 民間の外部研修に参加 |
| 5. 高齢者総合相談センター主催の研修に参加 | 6. インターネットの活用 |
| 7. 介護報酬に関する解釈本を読む | 8. その他（ |
| | ） |

問23. あなたはどれくらいの頻度で研修に参加していますか。（それぞれひとつだけ○）

事業所や同一法人	1. 月に1回程度	2. 3か月に1回程度
	3. 半年に1回程度	4. 年に1回程度
	5. 参加していない	
地域の職能団体・区の研修	1. 月に1回程度	2. 3か月に1回程度
	3. 半年に1回程度	4. 年に1回程度
	5. 参加していない	
その他の団体による研修 (団体：)	1. 月に1回程度	2. 3か月に1回程度
	3. 半年に1回程度	4. 年に1回程度
	5. 参加していない	

問24. あなたがこれまで受けた研修の中で、特に業務に役立った内容は何か。（あてはまるものすべてに○）

- | | |
|------------------------|--------------------------|
| 1. 介護保険等の制度に関する情報 | 2. 相談対応スキルに関する研修 |
| 3. アセスメントスキルに関する研修 | 4. プランニングスキルに関する研修 |
| 5. 医療に係る知識に関する研修 | 6. 現場でのケアの提供に係るスキルに関する研修 |
| 7. 保健予防に関する研修 | 8. リハビリテーションに関する研修 |
| 9. 医療・介護連携や多職種連携に関する研修 | 10. 自立支援に関する研修 |
| 11. その他（ | ） |

問25. あなたが、ケアマネジャーの質の向上を図るために必要だと思うことは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

1. レベルや経験年数に応じた研修	2. 事業所でのOJT(職場内研修)
3. ベテランのケアマネジャーによる指導	4. 事例を使った検討会
5. チームワークの向上	6. 風通しの良い職場環境
7. その他 ()	

問26. あなたの所属する事業所におけるケアマネジャーの質の向上における課題は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

1. レベルや経験年数に応じた研修がない
2. 事業所でのOJT(職場内研修)の体制が整っていない
3. 講師、内容、費用等の面で魅力的な研修内容がない
4. 地域の課題を把握しきれていない
5. 職場での人間関係
6. その他 ()

7. 今後の意向について

問29. あなたは、次回のケアマネジャーの資格更新をしますか。(ひとつだけ○)

1. する	2. しない
-------	--------

問30. あなたは、今後も豊島区内でケアマネジャーとして働き続ける意向がありますか。(ひとつだけ○)

1. 豊島区内で勤務する意向がある	2. 豊島区外で勤務する意向がある
3. ケアマネジャーとして勤務する意向がない	4. わからない

★ 最後に、今後の介護サービス基盤や地域包括ケアシステムの構築についてご意見やご要望がございましたら、ご自由にお書きください。

質問は以上でおわりです。ご協力ありがとうございました。

調査票を同封の返信用封筒に入れて、**12月2日(月)**までに

返送(投函)してください。切手を貼る必要はありません。

6. 災害時の対応について

問27. 大規模災害が発生した場合のご利用者の対応等について、何か取り組みを考えていますか。(ひとつだけ○)

1. 現時点においては取り組みを考えていない	3. 検討を始めている
2. すでに取り組みを想定済みである	

⇒問27-1をご回答ください

問27-1. 問27で2または3に○をつけた方にうかがいます

現在、検討している・想定している取り組みは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 安否確認用の名簿の作成	2. 安否確認訓練の実施
3. マニュアル整備	4. 備蓄品の整備
5. 委託先(配食等)との災害時の対応の確認	6. その他 ()

問28. 大規模災害が発生した場合の取り組みを実施するにあたり、課題等があればご自由にお書きください。

豊島区 介護サービス事業所調査のお願い

ご協力のお願い

平素から、豊島区の介護保険事業にご理解、ご協力をいただきありがとうございます。

豊島区では、第8期介護保険事業計画（令和3～5年度）を策定するにあたり、区内の介護サービス事業所の皆様に今後の事業運営の見込みやご意見等をおうかがいするアンケート調査を実施することといたしました。

この調査結果は、介護サービス事業所の抱える課題への対応策を検討する際の重要な基礎資料とさせていただきます。お手数をおかけしますが、ご回答にご協力いただけますようお願い申し上げます。

令和元年 11 月 豊島区休

記入上の注意

1. この調査は、令和元年 11 月 1 日現在の状況でお答えください。
2. この調査票は、封筒宛名のサービス種別ごとに送付しています。複数調査票が届いた事業所につきましては、**サービス種別ごとに調査票の記入をお願いいたします。**
3. 事業所単独では回答が難しい設問に関しては、貴事業所の運営主体である法人と調整のうえ、お答えください。
4. 濃い鉛筆または黒のボールペンで記入してください。
5. O印は、番号を囲むように濃くつけてください。（例：①・2・3）
6. 「その他」を選択された場合は（ ）内に具体的内容を記入してください。
7. ご記入いただきました調査票は、同封の返信用封筒（切手は不要です）に封入し、**令和元年12月2日（月）**までにご返送ください。
8. この調査に関するお問い合わせは、以下の担当までお願いいたします。

【調査についての問合せ先】

豊島区 保健福祉部 介護保険課 電話：03-3981-1942（直通）

1

1. 貴事業所の概要について

問1. 貴事業所で取り扱っているサービスの種類を選択してください。(調査票はサービス種別ごとに記入するため、ひとつだけ○)

【訪問系】

1. 訪問介護
2. 訪問入浴介護
3. 訪問看護
4. 訪問リハビリテーション

【通所系】

6. 通所介護

【短期入所】

8. 短期入所生活介護 9. 短期入所療養介護

【貸与】

10. 福祉用具貸与

【地域密着型】

- | | |
|----------------------|------------------|
| 11. 夜間対応型訪問介護 | 12. 認知症対応型通所介護 |
| 13. 地域密着型通所介護 | 14. 小規模多機能型居宅介護 |
| 15. 定期巡回・随時対応型訪問介護看護 | 16. 認知症対応型共同生活介護 |

【施設等】

17. 特定施設入居者生活介護
18. 介護老人福祉施設
19. 介護老人保健施設
20. 介護療養型医療施設

【介護サービス計画】

21. 居宅介護支援

問2. 貴事業所の事業所番号とサービス種別番号を記入してください。(本調査の結果は、事業所の内容を点検するものではなく、所在地と日常生活圏域ごとに集計するために使用します。)

[illegible]

問3. 貴事業所の、利用申込者の受け入れ状況についてお答えください。(ひとつだけ○)

1. 余裕がある
2. 曜日や時間帯により対応できないことがある
3. あまり余裕はない
4. 余裕がない（利用を断っている）
5. 現在は事業を休止している

2

2. 人材の確保・定着・育成について

問7. 貴事業所における正社員・非正社員の、職種および年齢構成別の人数をご記入ください。

なお、無回答の場合には「0」として集計されます。(人数を記入)

【正社員】（管理者・事務員含む）		年齢構成						
職種	20歳未満	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上	
1 訪問介護員（ヘルパー）	人	人	人	人	人	人	人	
2 介護職員	人	人	人	人	人	人	人	
3 看護師・准看護師	人	人	人	人	人	人	人	
4 機能訓練指導員（理学療法士・作業療法士・言語聴覚士）	人	人	人	人	人	人	人	
5 介護支援専門員	人	人	人	人	人	人	人	
6 福祉用具専門相談員	人	人	人	人	人	人	人	
7 その他職員	人	人	人	人	人	人	人	

※ 正社員：雇用している労働者で雇用期間の定めのない者

【非正社員】(管理者・事務員含む)	年齢構成						
	20歳未満	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
1 訪問介護員（ヘルパー）	人	人	人	人	人	人	人
2 介護職員	人	人	人	人	人	人	人
3 看護師・准看護師	人	人	人	人	人	人	人
4 機能訓練指導員（理学療法士・作業療法士・言語聴覚士）	人	人	人	人	人	人	人
5 介護支援専門員	人	人	人	人	人	人	人
6 福祉用具専門相談員	人	人	人	人	人	人	人
7 その他職員	人	人	人	人	人	人	人

※ 非正社員：正社員以外の労働者（契約社員、嘱託社員、臨時的雇用者、パートタイム労働者）

3

4

問8. 貴事業所における、過去1年間（平成30年10月1日から令和元年10月1日）の介護職員の採用者数と離職者数をお答えください。なお、無回答の場合には「0」として集計されます。（人数を記入）

【正社員】（管理者・事務員含む）		
職種	採用者数	離職者数
1 訪問介護員（ヘルパー）	人	人
2 介護職員	人	人
3 看護師・准看護師	人	人
4 機能訓練指導員（理学療法士・作業療法士・言語聴覚士）	人	人
5 介護支援専門員	人	人
6 福祉用具専門相談員	人	人
7 その他職員	人	人

※ 正社員：雇用している労働者で雇用期間の定めのない者

【非正社員】（管理者・事務員含む）		
職種	採用者数	離職者数
1 訪問介護員（ヘルパー）	人	人
2 介護職員	人	人
3 看護師・准看護師	人	人
4 機能訓練指導員（理学療法士・作業療法士・言語聴覚士）	人	人
5 介護支援専門員	人	人
6 福祉用具専門相談員	人	人
7 その他職員	人	人

※ 非正社員：正社員以外の労働者（契約社員、嘱託社員、臨時的雇用者、パートタイム労働者）

問9. 貴事業所で実施する介護サービスに従事する職員について、職種・雇用形態ごとの現在募集している人数をお答えください。なお、無回答の場合には「0」として集計されます。（人数を記入）

職種	雇用形態	
	正社員	非正社員
1 訪問介護員（ヘルパー）	人	人
2 介護職員	人	人
3 看護師・准看護師	人	人
4 機能訓練指導員（理学療法士・作業療法士・言語聴覚士）	人	人
5 介護支援専門員	人	人
6 福祉用具専門相談員	人	人
7 その他職員	人	人

※ 正社員：雇用している労働者で雇用期間の定めのない者 非正社員：正社員以外の労働者

5

問12. 職員の定着に向けて、事業者としてどのような支援が必要だと思いますか。

（あてはまるものすべてに○）

1. 新規就業者を対象とした介護技術等に関する合同研修

2. 新規就業者を対象としたキャリアプランに関する合同研修

3. 中堅職員を対象とした介護技術等に関する合同研修

4. 中堅職員を対象としたキャリアプランに関する合同研修

5. 雇用定着をテーマにした管理者等に対する研修

6. 個別の職場・事業所へのアドバイザーの派遣（職員の働き方等に関する助言等）

7. 子育て中の職員に対する処遇改善にかかる補助

8. その他（ ）

問13. 貴事業所における、介護職員としての外国人労働の受け入れ状況について教えてください。（ひとつだけ○）

1. 現在受け入れているまたは過去に受け入れたことがあり、今後も受け入れを検討している

2. 受け入れた経験がないが、受け入れを検討している

3. 受け入れた経験がなく、受け入れを検討していない

4. 受け入れた経験があるが、今後は受け入れを検討していない

5. その他（ ）

⇒ 問13-1へ

⇒ 問14へ

⇒ 問13-1へ

問13-1. 問13で1または4に○をつけた方にうかがいます。貴事業所で就業歴のある外国人はどのような制度で雇用された方ですか。雇用時点で利用していた制度についてお答えください。（あてはまるものすべてに○）

1. EPA（経済連携協定）による介護福祉士候補者の雇用・研修

2. EPA（経済連携協定）により介護福祉士資格を取得した外国人の雇用

3. 日本の介護福祉養成校に通う外国人留学生のアルバイト雇用

4. 在留資格「介護」を持つ外国人の雇用

5. 技能実習制度を活用した外国人（技能実習生）の雇用

6. 在留資格「特定技能1号」を持つ外国人の雇用

7. 身分に基づく在留者（定住者（主に日系人）、永住者、日本人の配偶者等）

8. その他（ ）

9. 不明

7

問10. 貴事業所では、人材の確保に向けて、どのような取り組みを行っていますか。

（あてはまるものすべてに○）

1. 定期的に求人誌への掲載などを行っている

2. 就職説明会への参加を行っている

3. 福祉専門学校等教育機関との連携を図っている

4. ハローワークとの連携を図っている

5. 人材派遣会社との連携を図っている

6. 無資格者でも採用を行い、採用後に資格取得講座を受講させている

7. 採用時に給与（賞与・手当含む）を他社より好条件に設定している

8. 採用時に労働日数・時間の希望をできるだけ聞き入れている

9. 育児中の職員への配慮など、働きやすい環境をつくっている

10. 採用時に仕事のやりがいや、社会的意義を伝えている

11. インターンシップ制度を導入している

12. その他（ ）

13. 特に何も行ってない

問11. 貴事業所では、人材の定着・育成（離職の防止）について、どのような取り組みを行っていますか。（あてはまるものすべてに○）

1. 近隣の企業や同業他社の給与水準を踏まえ、給与額を設定している

2. 永年勤続など一定期間働いた際の報奨制度を設けている

3. 能力や仕事ぶりによって、管理職への登用機会を設けている

4. 非正規職員から正規職員への登用機会を設けている

5. 外部研修に参加できない職員のために、内部研修を充実させている

6. 新人職員に対し、一定期間、マンツーマンで知識や技能を指導するなどの支援体制を設けている

7. 育児中の職員への配慮など、働きやすい環境をつくっている

8. 休憩室や談話室の設置など、職員がリラックスできる環境を整えている

9. 上司や管理職が頻繁に面談を行い、職員の要望や不満を汲み取っている

10. 仕事のやりがいや、社会的意義を伝えている

11. 職員への満足度（不満）調査を行い、事業所における課題の把握を行っている

12. その他（ ）

13. 特に何も行ってない

6

問13-2. 問13で1または4に○をつけた方にうかがいます。貴事業所で就業歴のある外国人の出身国はどちらですか。（あてはまるものすべてに○）

1. 中国

2. フィリピン

3. ベトナム

4. ミャンマー

5. モンゴル

6. インドネシア

7. カンボジア

8. スリランカ

9. タイ

10. ネパール

11. その他（ ）

問14. 貴事業所において外国人の受け入れにあたって課題となっていることを具体的に教えてください。（あてはまるものすべてに○）

① 受け入れ時に関する課題

1. 受け入れにあたっての手続き・方法

2. 受け入れにあたっての費用

3. 受け入れにあたっての情報の入手

4. 複数の事業所と情報共有を行う場が無い

5. 求める人材像等とのマッチング

6. その他（ ）

7. 特になし

② 受け入れ後に関する課題

1. 日本語のコミュニケーション能力

2. 生活習慣・文化の違い

3. 介護の考え方・技術等

4. 緊急時の判断や対応

5. 外国人職員への指導等による日本人職員の負担

6. 外国人からの接遇による利用者の反応

7. 日本人職員からの不満

8. その他（ ）

9. 特になし

問15. 厚生労働省では、業務改善に取り組む介護事業者を支援するため、「介護サービス事業所における生産性向上に取り組むためのガイドライン」を公表しています。ガイドラインの中では、介護ロボットやICTツールの活用などがあげられていますが、以下のうち、貴事業所において、既に導入しているものや、今後導入を考えているものはありますか。

1. 介護ロボット

2. ICTツール

3. その他（ ）

4. 特になし

⇒ 問15-1へ

⇒ 問15-2へ

⇒ 問16へ

※ 介護ロボット：歩行・食事等の介護される側の動作の自立を助けたり、入浴や車いすへの移乗等の介護する側の仕事を支援する機器

※ ICTツール：各種介護業務における業務効率化やペーパーレス化を図るための機器

8

問 15-1. 問 15 で 1 に○をつけた方にうかがいます。貴事業所で導入している・導入を検討している介護ロボットはどのようなものですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 移乗介助機器 装着型 (介助者が装着し移乗時のパワーアシストを行い、腰の負担を軽減する機器。)
2. 移乗介助機器 非装着型 (ベッドからの抱え上げ動作のパワーアシストを行う機器。ベッドに敷いたシーツごと抱き上げる機器や、ベッドと車いすが一体になっているもの。※据付工事を伴うものや、つり下げ式移動用リフトは含まない。)
3. 移動支援機器 屋外型 (モーター等で移動をアシストし、使用者が一人で用いる手押し車型の機器。)
4. 移動支援機器 屋内型 (屋内の移動や立ち座り、トイレ内での姿勢保持等を支援する歩行支援機器。)
5. 排泄支援機器 (設置位置の調整可能な特徴を持つ水洗トイレ。)
6. 見守り支援機器 (ベッドサイドセンサやドア開閉センサ等により高齢者の状態を検知し介助者に通知する機器。)
7. 入浴支援機器 (浴室から浴槽への出入り動作、浴槽をまたぎ湯船につかるまでの一連の動作を支援する機器。)
8. コミュニケーション支援機器 (利用者の状態や室温等周囲の環境に応じた声かけや、介助者の代わりにレクリエーションを行う機器。)
9. その他 ()

問 15-2. 問 15 で 2 に○をつけた方にうかがいます。貴事業所で導入している・導入を検討している ICT ツールはどのようなものですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 基本情報作成ツール (利用者情報の登録・参照・更新・削除を行う)
2. シフト表作成ツール (ヘルパーのシフト表を自動作成する)
3. 計画書作成ツール (サービス計画やサービス提供票の登録・参照・更新・削除等を行う)
4. 記録作成ツール (介護記録や業務日誌、連絡帳の登録・参照・更新・削除等を行う)
5. 実績化ツール (各種記録と報酬請求情報の突合を行う)
6. 請求管理ツール (事業所加減算の管理、算定処理、集計処理、利用者負担の請求などを行う)
7. 介護報酬請求ツール (国保連合会への報酬請求の際の確認を行う)

3. 処遇改善の状況について

問 18. 貴事業所では、介護職員等特定処遇改善加算を申請していますか。(ひとつだけ○)
(訪問看護、訪問リハ、福祉用具貸与・販売、居宅療養管理指導、居宅支援は対象外なので、問 19 へ進んでください。)

1. 行っている	⇒ 問 18-1 へ	2. 行っていない	⇒ 問 18-2 へ
----------	------------	-----------	------------

問 18-1. 問 18 で 1 に○をつけた方にうかがいます。介護職員等特定処遇改善加算を利用した職場環境の整備や賃上げなど処遇の改善を図ったことで、貴事業所の従業員にどのような効果があったと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 離職率が下がった	2. 職場の雰囲気が活性化した
3. 職員の意欲が向上した	4. その他 ()
5. あまり効果はみられなかった	

問 18-2. 問 18 で 2 に○をつけた方にうかがいます。現在介護職員等特定処遇改善加算の申請を行っていない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 制度を知らないから	2. 申請方法がわからないから
3. 申請に手間がかかるから	4. 申請してもメリットが少ないから
5. 対象となる職員がいないから	6. 経営状況から取得できないから
7. その他 ()	

問 16. 貴事業所において介護ロボットの導入にあたって課題となっていることを具体的に教えてください。(あてはまるものすべてに○)

① 導入時に関する課題

1. 介護ロボットの種類が分かりにくい・知らない	2. 導入費用の負担が大きい
3. 実際に使用しないと便利かわからない	4. 職員の身体的負担が軽減されるかわからない
5. その他 ()	6. 特にない

② 導入後の運用に関する課題

1. 介護ロボットを使いこなせるか不安がある	2. 利用者が不安に思うことについて懸念がある
3. 運用費の負担が大きい	4. 職員の身体的負担が軽減されない
5. メンテナンスに係る手間に負担を感じる	6. その他 ()
7. 特にない	

問 17. 介護人材の不足への対応や、元気高齢者の活躍の場を設けるための取り組みとして、事業所における清掃や事務作業等に対応できる元気高齢者を紹介する仕組みがあれば、利用したいと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

1. とても利用したいと思う	2. やや利用してみたいと思う	⇒ 問 17-1 へ
3. あまり利用したいと思わない	4. 利用したくない	⇒ 問 17-2 へ

問 17-1. 問 17 で 1 または 2 に○をつけた方にうかがいます。どのような業務での活用を考えていますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 経理業務	2. 採用や教育、労務管理などの人事業務
3. 帳票や規定等の作成管理など総務業務	4. 直接身体に触れる介助業務
5. 介護助手としての業務	6. 送迎などの補助
7. その他 ()	

問 17-2. 問 17 で 3 または 4 に○をつけた方にうかがいます。利用したくないと考える理由をお聞かせください。

4. 各種連携の状況について

問 19. 高齢者への適切なケアの提供にあたっては、ケアマネジャーと十分な連携がとれていることが重要ですが、貴事業所にとって、ケアマネジャーとの連携における課題は何だと思いますか。居宅介護支援事業所以外がお答えください。(あてはまるものすべてに○)

1. 日程が合わず、サービス担当者会議へ参加できないことが多いこと
2. 必要な情報の共有が上手く図れないこと
3. 連携のために必要となる時間や労力が大きいこと
4. お互いの都合で、対応が遅れる場合があること
5. ケアマネジャーと話し合う機会が少ないこと
6. その他 ()
7. 特にない

問 20. 貴事業所では、介護職員によるたんの吸引及び経管栄養、ストマ交換等の医療的ケアへの対応はどのようにお考えですか (ひとつだけ○)

1. すでに実施している	2. 検討段階である
3. 対応は考えていない	4. その他 ()

問 21. 貴事業所では、ターミナルケアに取り組むにあたり、どのようなことが課題であるとお考えですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 医療的知識の不足	2. 医療機関との連携不足
3. 介護職員の研修機会の不足	4. その他 ()
5. 特にない	

5. サービスの質の向上について

問22. 貴事業所では、サービスの質の向上のために、どのような取り組みを行っていますか。(あてはまるものすべてに○)

1. サービス提供のガイドライン、マニュアルを作成している
2. 事故防止のためにヒヤリ・ハット事例の収集・共有を図っている
3. 利用者や家族に対し満足度調査を行っている
4. 積極的に外部評価を受けている（ISO、第三者評価など）
5. 独自の自己評価を実施している
6. 管理者が直接サービス提供の状況を確認し指導している
7. 現場のスタッフがケース検討会などを行っている
8. 意見箱を設置している
9. 各種研修会、学習会、セミナー等への参加を促している
10. その他（ ）
11. 特に行っていない

6. 災害時の対応等について

問23. 大規模災害が発生した場合のご利用者への対応等について、貴事業所では何か取り組みを考えていますか（ひとつだけ○）

1. 現時点においては考えていない
-
2. すでに取り組み内容を決めている
3. 取り組み内容の検討を始めている

⇒ 問 23-1 へ

問 23-1. 問 23 で 2 または 3 に ○ をつけた方にうかがいます。

現在、検討している・想定している取り組みは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|------------------------|--------------|
| 1. 安否確認用の名簿の作成 | 2. 安否確認訓練の実施 |
| 3. マニュアル整備 | 4. 備蓄品の整備 |
| 5. 委託先（配食等）との災害時の対応の確認 | 6. その他（ |

問24. 大規模災害が発生した場合の取り組みを実施するにあたり、課題等があればご自由にお書きください。

13

14

★ 最後に、今後の介護サービス基盤や地域包括ケアシステムの構築についてご意見やご要望がございましたら、ご自由にお書きください。

[illegible]

質問は以上でおわりです。ご協力ありがとうございました。

調査票を同封の返信用封筒に入れて、12月2日(月)までに

返送（投函）してください。切手を貼る必要はありません。